

外国資料を中心とする

沖縄語の音声・音韻に関する歴史的研究

多和田 眞一郎

外国資料を中心とする 沖縄語の音声・音韻に関する歴史的研究

目 次

序言	沖縄語の歴史的研究の現状	2
第一章	沖縄語ハングル資料の研究	8
第一節	『海東諸国紀』「語音翻訳」の沖縄語	9
第二節	『漂海録』「言語」の沖縄語	57
第二章	沖縄語漢字資料の研究	105
第一節	「琉球館訳語」の沖縄語	106
第二節	その他の漢字資料の沖縄語	201
第三章	沖縄語アルファベット資料の研究	211
	「クリフォード琉球語彙」の沖縄語	212
第四章	沖縄語仮名資料の研究	245
第一節	碑文記にみる沖縄語	246
第二節	「田名文書」にみる沖縄語	300
第三節	「琉球官話集」にみる沖縄語	315
第四節	仮名資料にみる沖縄語	337
第五章	沖縄語の通時的考察	346
第一節	音声・音韻史	347
第二節	音声・音韻史と文法史の交渉 (十九世紀沖縄語の動詞の成り立ち)	430
第三節	三母音化、ハ行子音、有声子音の前の鼻音	451
主要参考文献		465
付録	資料	(1)
一、	「語音翻訳」索引	(2)
二、	「琉球館訳語」用字一覧	(18)
三、	朝鮮・中国資料対照琉球語彙	(25)
四、	「クリフォード琉球語彙」琉英配列語彙	(100)
五、	『漂海録』「言語」「琉球」語索引	(145)

序言 沖縄語の歴史的研究の現状

沖縄語（ひいては琉球方言）の歴史的研究は、伊波普猷のそれ以後足踏み状態である。伊波がなくなってから三十年余りが経過しているが、共時的研究が大股で前進しているのに比べると、足踏みどころかほとんど静止状態である。1971年に『沖縄の言語史』（外間守善著、法政大学出版局）が出て、前進が始まるかに見えたが、後続らしいものが無く、その「あとがき」に述べられている「沖縄の言語史研究の水準は、金石文やおもろさうしの語構成を明らかにすることすらまだ不十分であり、ましてや、その他の文献資料については暗闇の中にある、といっても過言ではない」（p297）状態が続いている。沖縄語に関する文献資料は、最古のものが15世紀初止まりであるうえに、その数も極めて少ない。にもかかわらずそれらの資料としての整理はほとんど行なわれていない。（以下、ここでは、18世紀までの資料について紹介する。）

その中であって、中国資料は比較的整えられていると言える。中国資料としては、

「琉球館訳語」（『華夷訳語』所収、15世紀初）

『使琉球録』（陳侃、1534年）

『使琉球録』（郭汝霖、1561年）

『音韻字海』（周鐘 他、1572年頃）

『篇海類編』（屠赤水 他、1572年頃）

『海篇正宗』（余象斗 他、1572年頃）

『使琉球録』（蕭崇業、1579年）

『中山伝信録』（徐葆光、1721年）

『琉球入学見聞録』（潘相、1764年）

等がある。（前記『沖縄の言語史』による。）

『南島方言資料』（東条操編、1923年、1969年に復刻）の付録に「中山伝信録音韻字海華夷訳語琉語対照」「音韻字海篇海類編海篇正宗琉語校異」として載せられたのを初めとして、『纂集日本訳語』（京都大学文学部国語学

国文学研究室編、1968年）においては「琉球館訳語」『使琉球録』『音韻字海』『中山伝信録』『琉球入学見聞録』（および『海東諸国紀』）に関して各資料の解題をはじめ研究的価値についても詳しく述べられている。

これらを受けた『「琉球館訳語」・「使琉球録」・「音韻字海」・「琉球入学見聞録」・「中山伝信録」寄語対照手冊』（坂井健一編、1975年）が出たことで研究の基礎固めができたと言えよう。最近になって『琉球館訳語本文と索引』（大友信一・木村晟編、1979年）が出た。

以上の中国資料のうち「琉球館訳語」・『使琉球録』・『音韻字海』・『中山伝信録』に関し、その相互関係、成立順序、「日本館訳語」との関係、各々の本質についての、服部四郎博士の考察（重要な点の略説）が『月刊 言語』に連載の「日本祖語について」の一環として、その79年2月号・3月号に述べられている。

「日本語」に関する朝鮮資料には、『伊呂波』（1492年）を初めとしていくつもの重要なものが存在するが、「沖縄語」に関しては、ただひとつ『海東諸国紀』（申叔舟著、1471年）の巻末に後年付載された「語音翻訳」（成希顔筆録、1501年）のみである。これは、前記『南島方言資料』に「海東諸国紀付録語音翻訳」として写真版が載っており、また、1975年に国書刊行会から『海東諸国紀』が復刻されているので、入手しやすい。

この「語音翻訳」についての研究は、伊波普猷の「語音翻訳積義—海東諸国記付載の古琉球語の研究—」（『金沢博士還暦記念 東洋語学乃研究』収載。1932年）（『伊波普猷全集 第四巻』所収）だけであったが、78年に服部博士により前記「日本祖語について」の一環として「語音翻訳」の分析がなされた（78年9月号）。これを受けて伊波論文の修正を試みた拙論「十五・六世紀首里語の音韻—『語音翻訳』にみる—（上）」（『沖縄文化』51号、1979年3月）、「同（下）」（同52号、同6月）がある。

次に、（漢字混じり）平仮名資料について見てみる。周知のように、『おもろさうし』については既に校本・索引・辞典があり、研究も、主として文学方面から、盛んに行なわれている。ところが、『おもろさうし』と同じくらいに重要な資料と言われる『田名家辞令文書』（第1号=1523年～第16号

=1660年)については、仲原善忠の「田名文書試解」(『沖縄文化』14号、16号、1964年1月・12月)(『仲原善忠全集 第二巻 文学篇』所収)があるだけである。これとても、訳し、歴史的背景を究明しようとしたもので、言語学的分析を試みたものではない。それより何より、本文全部を見ることが容易ではない。たやすく入手できない。写真版さえ無いのである。

平仮名資料としては、他に、少なくない数の金石碑文を初めとして、

『東姓津波古家辞令文書』(1523年)

『琉球神道記』(釈袋中、1605年)

『仲里旧記』(1703年頃)

『女官御双紙』(1709年頃)

『琉球国由来記』(1713年)

等がある。(1800年以降は、省略。)

以上、大まかに述べたように、沖縄語の歴史的研究に関しては、『沖縄語史資料集』の作成が急務といったところであろう。

上の記述は、1979年の暮れのものであるが、大筋においては、現在も似た状況にあると言えよう。だからといって何の歩みも無かったと言うのではない。

『おもろさうし』に関しては、高橋俊三『おもろさうしの動詞の研究』『おもろさうしの国語学的研究』(1991年、武蔵野書院)が出たことで、「おもろさうしの語構成を明らかにすることすらまだ不十分であり」という状態は脱し大幅な前進をみた。

名嘉真三成『琉球方言の古層』(1992年、第一書房)が、服部四郎博士の日本祖語論を踏まえた立場から琉球方言の古層に迫ろうとした試みをし、沖縄語の歴史的研究に新視点を提供した。

この間、私は、『沖縄語史資料集』の材料を整えるべく語彙集・索引等の作成をしつつ、ハングル資料・漢字資料・アルファベット資料を中心とする外国資料を分析・研究することで、前述の「その他の文献資料については暗闇の中にある」という状態を幾許かの光明のさす方向へと導いた。また、

『「琉球・呂宋漂海録」の研究－二百年前の琉球・呂宋の民俗・言語－』
(1994年、武蔵野書院)を出版、新たなハンダ資料を紹介・分析・研究して
歴史的の研究の発展に寄与したと自負する。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

歴史的の研究においては、個々の文献資料の綿密な分析・研究が前提となる
が、その際、常に全体の流れを念頭に置く必要がある。そのために「始点」
と「終点」とも言うべき強力な二本の柱を設定し、それを結ぶ軌道を想定す
る。そして、個々の資料の検討を行いつつ軌道を修正していく。この手法
が、手堅く有効なもののように思われる。この二本の柱のうち一本は現代語
が担うべく、他の一本は、時代的にできるだけ古く、資料的に信頼のおける
文献が担うべきであろう。それには、沖縄語の場合、「語音翻訳」が最も適
当であろうと思う。(ここで「沖縄語」というのは、主に、沖縄島中・南部
地域の言葉をさして言っている。)

ところで、沖縄語(あるいは琉球方言)の歴史に関して、時代区分のよう
なものを明確に提示したのは中本正智であろう。『琉球語彙史の研究』(p25
-27)及び「琉球方言」『沖縄大百科事典 下』(p921)によりその要点を記
す。

琉球方言の歴史を、文化・社会的に見ると、次のように時期区分できる。

①史前琉球語の時代(紀元前 300年ごろまで)

現在の方言につながらない言語が話されていたと想定される。

②原琉球語の時代(500年ごろまで)

原日本語から分岐した原琉球語が列島全域に広がる。

③集落語の時代(1187年まで、王政以前)

④地方語の時代(1477年まで、中央集権制以前)

⑤首里王朝語の時代(1609年まで、薩摩侵入以前)

首里方言が琉球共通語として完成する。

⑥九州語受容の時代（1879年まで、廃藩置県以前）

薩摩侵入により九州語の影響を強く受ける。

⑦共通語受容の時代（現代まで）

社会・文化的変化に付きすぎたきらいはないではないが、これからの記述の目安としては十分であろう。

服部四郎「日本祖語について」には、たびたび、「A時代 B時代 C時代」という言い方が出てくるが、その絶対年代は明示されないままである。ただ「A時代（恐らく一四〇〇年ごろまで）」（「同・21」）の注がある。

前述の「常に全体の流れを念頭に置く」ための道しるべのようなものとして次の引用をしておく。高橋俊三「琉球方言の歴史」（『沖縄大百科事典下』p930）からの（音声だけについての）要約である。

（首里方言を中心に大まかに述べると）

[15.6世紀ごろ]

▽ 母音 o は u に変化している。

▽ e は、i に変化しているという説と、まだ変化せず、中間の I あるいは ĩ のような音であるという説がある（エ段とイ段の音は区別されているとする点では一致）。

▽ 連母音は今日のように融合同化せず、一方の母音が脱落する傾向が強い。

▽ 子音の口蓋化現象、とくに子音の前の i の影響による口蓋化の傾向が盛んにおきている。キャ・キュ・キョもチャ・チュ・チョに口蓋化する傾向がある。

▽ 語頭のハ行音は p である。

▽ ツ・チの子音は、ts, tʃ に変化している。

▽ チとジ、ツとズはそれぞれ同一の音になっている。

[18世紀ごろ]

- ▽ セとシ、メとミ、ベとビなどが混同しはじめており、母音 I は i に変化したらしい。
- ▽ キ・ギがチ・ジになるきざしがみえる。
- ▽ ツはツイ[tsi] となりチと混同しがちである。
- ▽ 語頭のハ行音はΦに変化している。
- ▽ リは子音 r が脱落して i になっている。
- ▽ [kur] [gur] がそれぞれ [kkw] [ɟgw] に、また [bur] [mur] [zur] が [nd] に変化する傾向がある。

[19世紀ごろ]

- ▽ 連母音 a i, a e が e : に、a u, a o が o : に融合化している。
- ▽ 19世紀末には、ツとチ、ツとジ、ニとネが同音になった。

✂

✂

✂

✂

✂

考察の前提として、多和田 (1979) で見たように、沖縄島中・南部地域の言葉は、15世紀前半ごろまで、(単)母音が / i // e // a // u // o / の5つであったと考える。これを、以下の記述では、それぞれ * / イ /, * / エ /, * / ア /, * / ウ /, * / オ / と表示する。また、同様の理由で * / キ /, * / ケ /, …… * / ス /, …… * / チ /, …… * / ツ / …… などの表示も使用する (15世紀以前の「キ」「ケ」……という意味で)。

第一章 沖縄語ハンダ資料の研究

第一節 『海東諸国紀』 「語音翻訳」の沖縄語

申叔舟著『海東諸国紀』（1471年）に後年（1501年）付載されたハングル資料「語音翻訳」を分析・研究することにより十五・六世紀の沖縄語の姿を考える。

1. 「語音翻訳」の成立、筆録者

「語音翻訳」の成立についてみる前に、その「本誌」とも言うべき『海東諸国紀』についてあらまし述べておく。ここに、簡潔にまとめられたものがあるので、それを引用する。

日本の地勢、国情、交聘往来の沿革、使臣館待礼接の細目を記録した本。1471年（成宗2年）に申叔舟が著わした。海東諸国とは、日本本国・九州・壱岐島・対馬島および琉球国の総称であり、この本著述当時の内容は、総図および日本本国図・西海道九州図・壱岐島図・対馬島図・琉球国図の6枚の地図、および日本国紀・琉球国紀・朝聘応接紀よりなっていた。その後二・三の追録がなされた。（中略）

現在、燕山君¹⁾ (ヨンサンゲン) 末中宗²⁾ (チュンジョン) 初の刊行本とされる、朝鮮史編輯会所蔵本・東京大学所蔵本・日本内閣文庫所蔵本があり、仁祖³⁾ (インジョ) 初の刊行本と推測される東京文求堂所蔵本が残っているが、1933年朝鮮史編輯会から朝鮮史料総刊の第二集として刊行された影印本が広く行われている。（李弘植編 大栄出版社 1976年 5月15日発行 『完璧 国史大事典』の「海東諸国紀」の項による）

① 1) 燕山君（李朝十代目の王。在位1494～1506）

2) 中宗（李朝十一代目の王。在位1506～1544）

3) 仁祖（李朝十六代目の王。在位1623～1649）

（主に「語音翻訳」に関して）知られているものとしては、次のようなも

のがある。

- ① 『南島方言資料』の巻末の付録
- ② 国書刊行会の昭和50年10月に復刻したもの
- ③ 東京大学史料編纂所「養安院本」版本
- ④ 『南島方言資料』の校異によってその内容の知られる文求堂本
- ⑤ 望月誼三氏校本

服部四郎「日本祖語について・7」（『月刊 言語』78年 9月号）では、これらを順にA本・B本・C本・D本・E本と命名し、詳しい「校異」を示す。（ただし、これが「校異」と言えるかどうかは疑問である。「写本」ならわかるが、同じ「板」（版）の「写り具合」の差は「校異」になじむかどうか。また、次の⑦に拠れば、①には「修正」があるという。④も同様の恐れがある。）

- ⑥ 『纂輯 日本譯語』所収のもの（②と同一版種）
- ⑦ 岩波文庫『海東諸国紀—朝鮮人の見た中世の日本と琉球—』
申叔舟著、田中健夫訳注（1991年12月）（③を底本とする）

⑦の次の記述は重要だと思われる。

「語音翻訳」は一九三三年朝鮮総督府による『海東諸国紀』の影印本（「朝鮮史料叢刊第二」）と一九七五年の国書刊行会によるその影印（いずれも旧宗家蔵本、現韓国国史編纂委員会蔵本）のほかに東条操編『南島方言資料』刀江書院、一九三〇（内閣文庫蔵本の写真に修正をほどこしたもの）でも紹介されたが（これら三者は同じ板である）、『南島方言資料』にはさらに内閣文庫本と南波松太郎氏蔵本（旧文求堂蔵本。一六二九年、崇禎二年、仁祖七年再刊本）との異同が記されている。両者には各々誤りと思われる個所がある。（p437-438）

「語音翻訳」の末尾には、「弘治十四年四月二十二日 啓下承文院」とある。弘治十四年は、西紀1501年にあたる。『海東諸国紀』の著者申叔舟は、

1475年に58歳でなくなっているから、この一事からしても「語音翻訳」は申叔舟とは関係なく成立したということがわかる。(ちなみに、「啓下」とは王の裁可を受けること。「承文院」は朝鮮王朝時代の外交文書を掌る所。)

その成立の経緯については、『朝鮮王朝実録』「燕山君日記」巻第四十の中に述べられている。

七年李昪^治五月朔庚戌○辛未命宴琉球国使臣梁広等於慕華館○兵曹判書李季全啓琉球国使臣 世祖朝来聘今年重来其国之風土人物世代未之詳知請令宣慰使成希顔從容請問書于海東諸国記之末以備後考伝日可○

琉球使節が来朝した折りに、宣慰使の成希顔に命じてその「風土人物世代」について聞き書きをさせたという記事である。これにより「語音翻訳」の筆録者は、成希顔(1461-1513)であるとされる。しかし、後述するように、1501年当時の成希顔はかなりの高位にあるから実際に彼が筆を取ったとは考えにくい。琉球使節とのやりとりをしたのは成希顔であろうが、実際に書記をしたのは下役のものである可能性が高い。後で取捨選択をし、『海東諸国紀』の末尾に付載したのであろう。その過程で成希顔が目を通し、何らかの指示・示唆を与えたのではあるまいか。

成希顔(ソン・ヒアン)(1461=世祖7~1513=中宗8)

李朝中宗時の功臣。字は愚翁、号は仁齋。諡は忠定。本貫は昌寧⁴⁾。

敦寧府⁵⁾の判官⁶⁾讚の子。母は王族の徳泉君(トクチョンゴン)厚の娘。生員⁷⁾

(センウォン)を経て1485年(成宗16年)「文科⁸⁾(ムンクワ)」に及第。「弘文正字⁹⁾(ホンムンチョンジヤ)」・「副修撰¹⁰⁾(プスチャン)」などの官職を経験し、成宗の顧問となった。その後「吏曹¹¹⁾(イジョ)参判¹²⁾(チャムバン)」兼「五衛都総府¹³⁾(オウイドチョンフ)」副総官になった。燕山君の治世に入り暴政が日増しに甚しくなってい

くので、楊花渡行楽の時に王を諷刺する詩を献上して左遷されたが、国家動乱に直面するや朴元宗（パク・ウォンジョン）、柳順汀（ユ・スンジョン）と謀議、1506年燕山君を廃し、中宗を擁立して乱政を改革し、功臣の称号を受けた。「刑曹¹⁴⁾（ヒョンジョ）判書¹⁵⁾（パンソ）」に特進し、「昌山君」となり、しばらくしてからさらに「府院君¹⁶⁾」として封爵された。「明」国へ渡り、王の認准を得ることに成功した。帰朝して「右議政¹⁷⁾」となり、遂には「領議政¹⁸⁾」となった。人となりは寛容で、思い切りがよく、朝政に入って三十余年、多くの政治上の功績を残した。**文献** 人物考、海東名臣録（前掲『完璧 国史大事典』）

- ④ 4)昌寧（現 慶尚南道に昌寧という地名がある。）
- 5)敦寧府（李朝時代王室近親の親睦をはかるために設けられた官庁）
- 6)判官（李朝時代の官職の従五位の位）
- 7)生員（普通官吏登用試験に及第した人）
- 8)文科（国家で行なう文官任用試験）
- 9)弘文正字（弘文館の一職）
- 10)副修撰（弘文館の正六位の官職名）
- 11)吏曹（高麗及び朝鮮時の六曹の一。文官の選任と功勳封爵及び官吏達の成績考査に関する仕事を掌った。）
- 12)参判（吏曹の次職。吏曹の長は「吏曹参議（正三位）」）
- 13)五衛都総府（五衛の軍務を掌る官衛。李朝世祖（七代目）の時に設け、世祖後は単に名のみ存し、李太王（高宗）十九年(1882)に廃止した。）
- 14)刑曹（六曹の一。法律・訴訟・刑法等に関する仕事を掌った。）
- 15)判書（六曹の長。正二位）
- 16)府院君（正一位の功臣の称号）
- 17)右議政（右大臣にあたる。）
- 18)領議政（国務総理にあたる。）

2、「語音翻訳」研究史

「語音翻訳」に関する研究（あるいは解説）としては次のようなものがある。

A、1931年

伊波普猷「海東諸国記附載の古琉球語について」『国語と国文学』第八卷第三号

B、1932年

伊波普猷「語音翻訳積義—海東諸国記附載の古琉球語の研究—」『金沢博士還暦記念 東洋語乃研究』（後「海東諸国記附載の古琉球語の研究—語音翻訳積義—」として『南島方言史攷』に収載）（『伊波普猷全集 第四卷』（1974年）に収録）

C、1978年9月

服部四郎「日本祖語について・7」『月刊 言語』'78.9（「日本祖語について」のほぼ全般にわたって「語音翻訳」に言及されている。）

D、1979年3月

服部四郎「「語音翻訳」を通して見た15世紀の朝鮮語の発音」『言語の科学』第7号

E、1979年3月・6月

多和田眞一郎「十五・六世紀首里語の音韻—『語音翻訳』にみる—（上）（下）」『沖縄文化』第51号、第52号

F、1980年3月

多和田眞一郎「尚真王時代の沖縄語について」『日本文学研究』第19号

G、1982年8月

多和田眞一郎「沖縄方言と朝鮮語資料」『国文学 解釈と鑑賞』第47巻9号

H、1984年6月

多和田眞一郎「沖縄語史的研究序説—『語音翻訳』再論—」『現代方言学の課題 第3巻史的研究篇』

I、1990年

大塚秀明「『海東諸国記』の「語音翻訳」について」『言語文化論集』第32号

J、1991年12月

菅野裕臣「言語資料としての『海東諸国紀』」『海東諸国紀—朝鮮人の見た中世の日本と琉球—』

3、「語音翻訳」の構成

前掲文献⑦に次のようにある。

はじめの会話の部分が当時朝鮮で用いられていた中国語教科書『老乞大』と内容が似ていること、各項目が中国語ではじまるのは後に刊行される各種言語の辞典の形式と似ていることも興味深い。(p437)

これはひとつの知識として持っておいて、「語音翻訳」の構成そのものを見てみよう。

「琉球国」の風俗・習慣などに関し、「一」何々、「一」何々と箇条書きふう記し、最後に「一語音翻譯」とある。「你是那裏的人 우라스마피츄」の体裁で始まる、169項目の語彙集といったところである。ただし、その項目は、文あり、句あり、語ありで、一律ではない。

この語彙集で、まず目に付くのが、見出し語が中国語（漢語）であるということである。暗示的でさえある。「通事」を介さず、漢語・漢文を使っての筆談の上に成立した語彙集であると想像することも可能性なしとしない性質のものである。もっとも、「漢文」至上主義の「朝鮮王朝」においては、

漢語見出しは当然の帰結であったとも考えられる。その中にあって、「外国語」を表記するのに、中国の方法である音訳漢字を当てることなく、当時は「諺文」と蔑称されていたハングルを使ったことを評価すべきであろうか。

また、「語音翻訳」は、部立て分類からも自由である。部立て分類とは、後述するように、中国資料がそこから抜け出ることのできなかつた方法で、「天文門」「地理門」などと語彙を分類、記述するやり方のことである。

「語音翻訳」の記述は、流れるように進む。流れすぎてめりはりがはっきりしないきらいがないでもないが、よく見ると、内容的に大きく七つぐらいに分けることができよう。項目に通し番号を付し、それによって表示してみると、次のようである。

- I、 (1) 你是那裏的人～～ (12) 你初到江口人是好麼……「紹介」
- II、 (13) 一路上喫食如何～ (30) 這箇人心腸歹……………「酒席」
- III、 (31) 天～～～～～～ (69) 小路……………「時候・自然」
- IV、 (70) 酒～～～～～～ (106) 辣……………「飲食物」
- V、 (107) 硯～～～～～～ (140) 柱……………「調度」
- VI、 (141) 身子～～～～～～ (153) 牙齒……………「身体」
- VII、 (154) 花～～～～～～ (169) 虎……………「動・植物」

内容について少々紹介する。「I、紹介」と題した部分は、「(1) 汝、いづこ人」「(2) 我、大和人」というやりとりに始まり、名は何と言うか、父はあるか、兄はあるか、姉は？妹は？何時国を離れたかなどと、いざさか格式ばった、尋問調の響きがある。しかし、考えてみれば、我々が初対面で「お国は？ お名前は？ 御両親は御健在ですか。御兄弟は？」などと聞いているようなものであって、このように考えると「語音翻訳」が実に身近なものに感じられてくるのである。そうは言っても、堅苦しい雰囲気は漂っているのは否めない。当事者もそれを和らげようとして、「飲みながら食べながら」を進めた（勧めた）のではあるまいか。「II、酒席」である。この中に興味を引く記述がある。それは「(16) 無甚麼好下飯 さかなもありはべらねども」「(17) 請一鍾酒、さけひとつあげら」であって、二つの記述で

一文をなすと考えられる。先に「流れるように」と述べたのは、このようなことも含めてのことであった。

聞き書きの順に沿ってまとめたのではないかと思われ（『老乞大』のような中国語教科書などを「調査票」のように使いながら）、実際に即した記述であると言える。想像するに、前述したように、成希顔が琉球国使臣達（梁広 等）と応対および応待しているのを、下役が、風俗・習慣等の事項といっしょに、筆記したのではあるまいか。

ところで、「語音翻訳」の価値を十分に認めながら、さらに注文をつけるとすれば、「(16)(17)」（さかなもありはべらねども さけひとつあげら）のような記述で全体が貫かれていればどんなによかったかと思う。つまり、接続詞や接続助詞などを伴った、文単位の記述である。さらに言えば、やりとりの一部始終を記録したものである。無いものねだりであることは重々承知しているのであるが、草稿の一部でも存在すれば、発見されればと願うものである。

4、「語音翻訳」の沖縄語

以下のハングル表記に関しては、それを転写（ローマナイズ）したものを
用いることにするので、「語音翻訳」に現われたハングルとその転写字との
対応表を示しておく（いくつもあるハングルのうち「語音翻訳」にはこれだ
けしか使われていないということである）。

母音字

ㅣ	ㅏ	ㅑ	ㅓ	ㅕ	ㅗ	ㅛ	ㅜ	ㅠ	ㅡ	ㅟ	ㅢ	ㅤ	ㅥ	ㅦ	ㅧ	ㅨ	ㅩ
i	joi	jo	wi	ai	Λ	ai	a	u	o	ui	ja	ju	jo	oai	oa	ui	oi

子音字

ㄱ	ㅋ	ㅇ	ㄷ	ㅌ	ㄴ	ㅍ	ㅑ	ㅓ	ㅕ	ㅗ	ㅛ	ㅜ	ㅠ	ㅡ	ㅟ	ㅢ	ㅤ	ㅥ	ㅦ	ㅧ	ㅨ	ㅩ	
k	kh	ŋ	t	th	n	p	ph	m	s	c	ch	,	r	z	st	w							

「語音翻訳」に現われたハングルに関して伊波普猷に次のような記述がある。

音訳には諺文が用いてあるが、諺文の制定（『海東諸国記』の著者申叔舟も委員の一人）より半世紀しかたゝないから、最古の字体が使ってなければならぬはずなのに、中に千七百八十一年に改正した字母が見出されるのは、後世翻刻した際印刷の都合上、新体に代へたと見ていゝ。」（『伊波普猷全集 第四巻』p49）

「改正した字母」というからには、『訓民正音』で示されたハングル以外に新しいハングルが作り出されたか、そうでなくても、例えば旧漢字から新漢字が作り出されたような、何らかの改変が行なわれたことを意味する。時代が下るにしたがって使われなくなったハングルはあるが、「改正」が行なわれたことはない。

服部四郎「日本祖語について・7」においても、この問題を取り上げて詳しく述べている。その結論は、「一七八一年にハングル字母の『改正』のような大きな動きがあったという報告は今の所みあたらない。」(p101)というものである。

「千七百八十一年に改正した字母」としたのは間違いであろう。そうであれば、その原因は何かなどを追究する必要があるかもしれない。しかし、それは別のテーマであって、ここで扱う必要はない。

後世使用されなくなったハングル（例、z）が使われていること、『朝鮮王朝実録』「燕山君日記」の記述による成立事情、及び収録されたその単語・語法などから、「語音翻訳」は、筆録後ずっと後になって翻刻されたものではなく、15世紀後半から16世紀前半にかけての沖縄語の姿を忠実に伝えるものであると見てさしつかえないと考えられる。

伊波論文の誤謬に触れたついでに、同論文の問題点について二・三述べておくのも、以下の論の展開上有益だと思われる。

㉑ ローマナイズは、音声表記なのか、音素表記なのか、あるいは、ハングルの転写（または翻字）なのか。はっきりしないところがある。

㉒ 「朝鮮語には殆ど濁音がないために、L (n) ・Ŏ (ŋ) ・ロ (m) の何れかを付けて、次の文字を濁った」（『伊波普猷全集 第四巻』p55）と言うが、どうか。

この他にも細かいことがいくつかあるが、ここでは、この二つについて簡単に述べておく。（詳しくは、多和田(1979)参照）

㉑に関連して、次のような記述がある。

当時oはuに遷る途中にあった為に、時としてはoに聞こえ、時としてはuにも聞こえ、又eもiに移る途中にあった為に、時としてはeに聞こえ、時としてはiにも聞こえたので、まちまちな記号が使われたと思われる。（だから釈義のところで諺文の音訳をローマナイズする時には、便宜上oとuとの間の音にはUを用ゐ、eとiとの間の音にはIを用ゐることとする。）（同全集 p52）

多分「音韻論」の洗礼を受けなかったであろう伊波としては、こうするしかなかったのであろう。同じハングル「'jo」を(yU)とも(yo)とも(yu)ともした次の例を示せば十分であろう。

清酒 'jo·ka·sa·kwi ('yUka sakI)

做下飯 sa·ka·na·'jo·ra·ri (sakana yorari)

晩夕 'jo·sam·pwi (yusabI)

㉒に関しては、「有声子音の前の鼻音」で詳しく扱う。結論だけ言えば、伊波の記述は誤りであり、実際に鼻音が存在したということである。

さて、本題にもどる。

本文は、国書刊行会復刻版『海東諸国紀』中の「語音翻訳」によるが、翻刻上の誤りと思われるものや朝鮮語の影響によって誤ったと考えられるものなど、ハングル表記に疑問のあるものに関しては、その都度、正しいと推定されるハングル転写を< >に入れて付記する。

なお、語例の頭の数字は、便宜のために各項目に付した通し番号である。用例は、必要最小限に留め、「見出し語通し番号、中国語、ハングル（転写）」の順に示し、その後に（ ）で「日本語（訳）」を付す。

{ハングルの音節と音節との間に「·」を入れた。}

ここでは「共時」を考える。第二節及び第二章～第四章についても同じである。

「通時」的考察は、纏めの意味を込めて、第五章で行なう。



『海東諸国紀』「語音翻訳」

(国書刊行会 1975年 復刻版による)

下飯	오사기라나	飯甚麼好下飯	하사기하
지민지아기	로란도	多酒	오부사
라모도장기	一路	喫食如何	우라민
타지관제	徐初	到江口是好麼	우라민
三日	纔到這裏	我們今年正月初	우라민
우라민	조고아성기	我幾時到這裏	우라민
관구	조소용과	조탄	우라민
有麼	오라리카리	徐幾時離了本國	우라민
아리	徐姐姐有麼	우라리카리	우라민

當不統於彼云	然後發行	國之東南水路	七八日程	有小琉球國
無君長人	皆長大	無衣裳之刺	人死則	親族會而割食
其肉漆其頭	筋以金爲	飲食之器	語音翻譯	你是那裏的人
우라나와이	기우기	徐的姓甚麼	우라나와이	우라나와이
우라아사아리	徐哥哥有麼	우라아사아리	우라아사아리	우라아사아리

나 부아라 노란루 모請 一鍾酒 사귀루	대노아라 湯酒 사귀루	撒酒風 사귀루	酒酒來
饋他喫아 리로 마스라 小饋他喫	나구르미세 酒盡了 사귀루	나한디請	裏頭要子 우지바라 왜치개 合 平坐
마송고유 왜인 面紅 노라루아개 사	白노라루시루시 這箇叫甚麼子 구리	아루옥가 這箇人心腸好 고노피조개	오르요다사 這箇人心腸歹 고노피죄

기오르요할기 天陰了 雨停了	天晴了 雨停了	了아의파린대 下雪 유가 雨住了	유가피린대 日頭停了 雨住了
양관대 日頭落了 雨停了	관직 天亮了 雨停了	午절이 晚夕요심익 黑夜이 雨루 白日	피루 駿和 天熱라 涼快스다시
向火 파루구기 春파루 夏날 不秋이	冬루유 수다코요 昨日 明日		

사 後日 이안디 這 拜年 소용과조노	영과조 開年 마우년 拜年 소용과조노	과지 地 地平正 지 山頂 사노조	지 山底 사노지 사 大 終 오부디 지 小 路
구미지 酒 사의 白 酒 有 사의 아리 酒	요가사 飲 酒 有 사의 아리 酒	無了 사의 내 酒 醉了 사의 이우디 飯	바리 喫飯 飲 酒 醉了 사의 이우디 飯
반리 做飯 飯 小 未飯 가라트오	米飯 做飯 飯 小 未飯 가라트오		

시랑구미 肉 사기 魚 肉 魚 肉 魚 肉	시시 猪肉 魚 肉 魚 肉 魚 肉	油 末 단리 薑 蔥 胡椒 蒜 川 椒 산시	오 生 薑 蔥 胡椒 蒜 川 椒 산시
소내 燒茶 사의 개시 甜 아미사 苦리	사 酸 의시 淡이 바가 酸이 바가 나사	카니사 硯 소조리 墨 소타 筆 箭이	우리 箭이 箭이 箭이 箭이 箭이 箭이
아누스 弓 弦 이우미는 箭이 箭이			

門 門 掛帳 키사 帳 門 子 오사루	피상기 紙 카미 匙 筋 子 오사루	子 아가리 砂 點 是 木 點 是 木 點	子 카이 刀 子 카다나 鍋 兒 나비 蒜 兒
火盆 피판지 衣服 袴 兒 袴 兒	裙兒 카마오 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦	라기대 炭 사이 柱 파니 身子 도위 卓子	라 眼 鼻 파나 口 크지 耳 頭 頭 頭
手 足 피사 舌 頭 사자 手 指 頭 頭 頭	髮 카시라 牙齒 파 花 파 라 綠 아오사 黑		

弘治十四年四月二十二日
啓下承文院

구루사 齊 齊 齊 齊 齊 齊 齊 齊	鷄 狗 羊 牛 馬 猪 狗 羊	牙 齒 舌 頭 手 指 頭 頭 頭
---------------------	-----------------	-------------------

4-1 母音

4-1-1 * /イ/

* /イ/相当部分は、ほとんど、ハングルの「i」で表記されている。一例だけ「j o」がある。用例は次のようである。

- (3) 甚麼 ' i · k j a · ' i · ' u · k a (いかいふか)
- (10) 幾時 ' i t · c ʌ (いつ、何時)
- (162) 狗 ' i · n o (いぬ、犬)
- (29) 心腸 ' k i · m o (きも、肝) (心)
- (133) 衣服 k i · r u < n u > (きぬ、衣)
- (36) 雪 ' j u · k i (ゆき)
- (54) 秋 ' a · k i (あき)
- (88) 兎 ' u · s a ʔ · k i (うさぎ)
- (3) 本国 s i · m a (しま、島) (故郷)
- (27) 白 s i · r u · s a (しろさ、白さ)
- (158) 牛 ' u · s i (うし)
- (66) 頂 c ʌ n · c i (つじ、頂)
- (64) 地 c i (ち)
- (68) 路 m i · c i (みち、道)
- (145) 口 k h u · c i (くち)
- (71) 白酒 r i ʔ < n i ʔ > · k ʌ · n a < r i > · s a · k w i
(にごりさけ、濁り酒)
- (102) 苦 r i < n i > · k a · s a (にがさ、苦さ)
- (163) 羊 p i · c ʌ · c j a (ひつじ)
- (1) 人 p h i · c h j u (ひと)
- (47) 向日 p h i · r u (ひる、昼)
- (68) 路 m i · c i (みち、道)
- (91) 醬 m i · s j o (みそ、味噌)

- (121) 紙 k h a · m i (かみ)
 (139) 炭 s ʌ · m i (すみ)
 (4) 有 ' a · r i (あり、有り)
 (107) 硯 s u · c ʌ · r i (すずり)
 (161) 鶏 t h u · r i (とり、鶏、鳥)
 (40) 落了 ' j a · s ʌ · m j ɔ · ' i s · c j ɔ i (やすみいりて)

ハングル「i」の音価そのままに [i] であったとして大過なからう。

「落了 ' j a · s ʌ · m j ɔ · ' i s · c j ɔ i」の「m j ɔ」は、多分にパロール的なものであろう。

4-1-2 * /エ/

* /エ/ 相当の部分に、ハングルの「i」「j ɔ i」「j ɔ」「w i」「ʌ i」が現われ、複雑な様相を呈している。

同じ「テ」に対応すると思われるものの母音部分が「i」とも「j ɔ i」とも表記されている次の例がある。

- (23) (酒) 尽了 m i · n a · r a t < n a t > · t i (みななりて)
 (59) 後日 ' a · s a t · t i (あさつて)
 (76) (酒) 酔了 ' i · ' u · t h i (ゑひて)
 (32) (天) 陰了 k u · m o · t j ɔ i (くもりて)
 (33) (天) 晴了 p h a · r i · t j ɔ i (はれて)
 (34) 下(雨) p h u t · t j ɔ i (ふりて)
 (39) (日頭) 上了 ' a ʉ · k a t · t j ɔ i (あがりて)

これらの例から、共時的には、「i」と「j ɔ i」とは同一の音素に該当すると判断されよう。

次の例は、「j ɔ i」と「w i」とが自由変異音であることを示していると言える。

- (80) 大米 k h o · m j ɔ i (こめ)

(83) 米 ko・mui (こめ)

「joi」と「ui」とは同一の音素に該当する。

次に、* /エ/ に対応すると思われるもので、別の表記法のなされている例について考える。参考のために、『沖縄語辞典』（の音韻表記）の対応現代語も示す。（アクセント省略）

(31) (32) (33) 天 thjon (てん) tin (天)

(38) (39) 日頭 thjon・ta (てんだう?) tiida (太陽)

(62) 開年 mja・'u・njon (みやうねん) -nin (~年)

これらについては、次のような解釈が妥当と思われる。

1500年前後の朝鮮語で「天」は「thjon」であった（因みに、現代語はcon）。これに引かれて「天 thjon」とした可能性が大である。もしそうでないのなら、「体面 thjoi・mjon」などの例のように「thjoi」という綴字法は許されるのであるから、「天 thjoin」と表記されたであろう。

「日頭」に関しても同様であろう。「太陽→天」の連想が働いたに違いない。

「開年 mja・'u・njon」の「-njon」も、朝鮮語の「年」の「njon」に引かれてしまったものであろう。

以上のように、ハンダルの「i」「joi」「jo」「ui」は* /エ/ の異音を表記したと考えられ、[e]が[i]へと変化していく過程における中間的な母音の姿を写し取っていると見ることができる。

それぞれの音価はどうであったか。許雄(1965)に依ると、(当時の)朝鮮語の「o」は[ə]で、若干前舌的であったというから¹⁾「jo」は[e]を表記したと考えられよう。これから推して「joi」は「i」であろう。

.....
¹⁾ 『国語音韻学』 p344、p358

「wi」の朝鮮語の音価は [i j] であったとされるから、これで表記された沖縄語にも同様の音があったと考えられる。それは [i] であったであろう。(服部四郎「日本祖語について」の言うように [i] の可能性も考えられなくはない。)

これらがどのような変化経路を辿ったかを考える。その際に次の例は注目に値する。

(6) 姐姐 ' a · r ʌ i < n ʌ i >

[e] が [i] に変化する間に [i] を経由するが、その前に一時的に [ë] に移行したことを物語る例であろう。e → ë → i → i²⁾ の全変化相を「語音翻訳」が具現していることになる。

因みに、近年まで [ʔ u m a n i :] (思姉) という語が行われていた。

語例を追加しておこう。

(17) 酒 s a · k w i (さけ)

(78) 喫飯 ' a ʔ · k w i · r i (あげれ)

(22) 喫 r o < n o > · m i < m a > · s j ɔ i (のませ)

(148) 手 t h i (て)

(17) 一 p u · t j ɔ i · c ʌ (ふてつ)

(109) 筆 p h u n · t i (ふで)

(130) 鍋兎 n a · p w i (なべ)

(35) 雨 ' a · m w i (あめ)

(21) 他 ' a · r w i (あれ)

.....
2) 中本正智(1976) p109、p110

ハンダルの「a」で表記されている。これについては問題なかろう。ハンダルの音価 [a] と当時の沖縄語の音価とは大差なかったであろう。

語例は次のようである。

- (18) 他 ' a · r u i (あれ)
 (26) 紅 ' a · k a i · s a (あかさ)
 (93) 芥 k h a · n a < r a > · s i (からし)
 (41) 風 k h a n · c u i (かぜ)
 (16) 飯 s a · k a · n a (さかな)
 (134) 袴児 p h a · k a · m a (はかま)
 (39) 上了 ' a ʔ · k a t · t j ɔ i (あがりて)
 (102) 苦 r i < n i > · k a · s a (にがさ)
 (16) 飯 s a · k a · n a (さかな)
 (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) 酒 s a · k u i (さけ)
 (11) 正月 s j a · ' o ʔ · k o a · c ʌ (しやうぐわつ)
 (27) 白 s i · r u · s a (しろさ)
 (166) 龍 t h a · c ʌ (たつ)
 (11) 初 (三日) c h u i · t h a · c i (ついたち)
 (129) 刀子 k h a · t a · n a (かたな)
 (50) 涼快 s ʌ n · t a · s a (すださ) (すずしさ)
 (58) 明日 ' a · c j a (あした)
 (67) 底 s i · c j a (した)
 (100) 茶 c h j a (ちゃ)
 (167) 象 c a < c a u > (ざう)
 (2) 姓 n a (な)
 (53) 夏 n a t · c ʌ (なつ)
 (144) 鼻 p h a · n a (はな)
 (33) 晴了 p h a · r i · t j ɔ i (はれて)

- (52) 春 pha·ru (はる)
 (152) 牙齒 pha (は)
 (104) 淡 ' a·pa·sja (あは(し) さ)
 (132) 火盆 phi·pha·ci (ひばち)
 (77) 飯 ' om·pa·ri<ni> (おばに)
 (118) 帳 ma·ku (まく)
 (2) 日本国 ' ja·ma·to (やまと)
 (159) 馬 ' u·ma (うま)
 (62) 開年 mja·' u·njon (みやうねん)
 (111) (113) 箭 ' i·' ja (いや)
 (136) 瓦 kha·ra (かはら)
 (169) 虎 to·ra (とら)
 (2) (9) (11) 我 wan (われ)
 (18) 湯 ' oa·ka·si (わかせ)

4-1-4 * /ウ/

基本的にハンダルの「u」で表記されているが、「o」や「ʌ」や「w」などの例もある。用例は以下のとおりである。

「u」の例

- (88) 兎 ' u·saʎ·ki (うさぎ)
 (158) 牛 ' u·si (うし)
 (159) 馬 ' u·ma (うま)
 (137) 車子 ku·ru·ma (くるま)
 (118) 帳 ma·ku (まく)
 (20) 撤酒風 sa·ka·ku·rui (さかぐるい)
 (48) 暖和 nuk<nuk>·sa (ぬくさ)
 (133) 衣服 ki·ru<nu> (きぬ)

- (17)一 pu·tjoi·cΛ (ふてつ)
 (34)下(雨) phut·tjoi (ふりて)
 (36)下(雪) phu·ri (ふり)
 (52)冬 phu·'ju (ふゆ)
 (89)油 'a·pu·ra (あぶら)
 (47)白日 phi·ru (ひる)
 (52)春 pha·ru (はる)

「o」の例

- (131)箒 pha·'o·ki (ほうき)
 (65)平正 ma·sΛʔ·ko (ますぐ)
 (119)席子 mo·si·ru (むしろ)
 (162)狗 'i·no (いぬ)
 (114) (弓)弦 co·nu<ru> (つる)

「Λ」の例

- (50)涼快 sΛn·ta·sa (すださ) (すずしさ)
 (112)帚 sΛ (す)
 (107)硯 sΛ·cΛ·ri (すずり)
 (108)墨 sΛ·mi (すみ)
 (139)炭 sΛ·mi (すみ)
 (26)(27)面 cΛ·ra (つら)
 (142)面 chΛ·ra (つら)
 (60)月 cΛ·ki (つき)
 (166)龍 tha·cΛ (たつ)
 (53)夏 nat·cΛ (なつ)

「w」の例

- (145)口 khw·ci (くち)

「u」で表記されたものは問題なかろう。ハングルの音価 [u] に準じよう。

「o」については、次の「* / オ /」のところで述べる。

「Λ」で表記されているのは、ウ列音中「ス・ツ」に対応するものであり、かつて貴族・士族の男子が学習と厳しい躰とによって習得したという s i ([si])・c i ([tsi])と対応している。さらに、現代沖縄伊江島方言の [si] ([ʃi]と対立)・[tsi] ([tʃi]と対立)とも対応するものである。

エ列音に対応するものが「i」「j o i」「j o」「w i」「Λ i」とさまざまに表記されているのと対照的に、「(114) (弓)弦 c o・n u < r u >」を除いて、「Λ」で表記され、ほとんど揺れがない。当時一応安定した音であったと考えられる。

「Λ」の音価は、『国語音韻学』によると、[Λ]～[ɤ]とある。後舌母音であるということになるが、このハングル「Λ」は、1780年頃には消滅し、代わりにその場所に現われたのが「a」及び「w」であることから推して³⁾、多分に中舌的で「w」に近かったといえよう。

ハングルの「Λ」が非円唇母音であることを重視すれば、「Λ」で表記された沖縄語の音価は [w] であると判断されようし、「Λ」が多分に中舌的であって(ハングルの)「w」(音価は [i])に近かったということに力点を置けば、[u] であると考えられよう。どちらも可能性がないわけではない。結局は、[(s) u] から [(s) i] へ移行する過程において、「語音翻訳」がどの時期の様子を示しているかである。変化の初期の段階と考えるか後の段階と考えるかである。

これに示唆を与えてくれそうな例がある。前述の「(114) (弓)弦 c o・n u < r u > (つる)」と、他に「(71) 白酒 r i η < n i η >・k Λ・n a < r i >・s a・k w i (92) 醋 s Λ・' u」がある。

.....

³⁾ 例 k j o・z Λ r → k j o・' u r (冬)
m Λ・r Λ・t a → m a・r w・t a (乾く)
s Λ・t a → s a・t a (買う)

(114) の「c o · r u」は「ツル」に対応し、(71)の「n i ʝ · k ʌ · r i」は「ニゴリ」に対応すると考えられる。「c ʌ」と表記されてしかるべきところが「c o」とされ、「k o」あるいは「k u」と表記されてしかるべきところが「k ʌ」とされていることは、ハングルの「ʌ」で表記された沖縄語の音が、多分にハングルの「o」あるいは「u」に近かったことを窺わせる（「w」に近ければ「c w · r u」「n i ʝ · k w · r i」と表記される可能性もあった）。

しかし、近いだけで、同じではなかった。(92)の「s ʌ · u」がそれを物語っている。「ʌ」と「u」とは、非円唇か円唇かで対立していたのか、それとも中舌か後舌かで対立していたのか。「ʌ」が「w」よりは「o」・「u」に近かったらしいことを考慮に入れると、非円唇と円唇との対立であったと考えたほうが無難なようである。つまり、ハングルの「ʌ」は沖縄語の[w]を表記したものであるらしい。

さて、これを音韻と認めるかどうかの問題が残されている。結論から先に言うと、共時論的には/u/の異音として処理されようが、通時論的には音素を設定したほうが良いと考える。

「語音翻訳」による限り、[w]は/s/と/c/との後にしか現われないのであるから、共時態で考えれば、相補分布をなしていることになる。

(71) 白酒 r i ʝ < n i ʝ > · k ʌ · n a < r i > · s a · k w i を考慮に入れると、自由変異音と見たほうがより妥当かもしれない。

しかし、通時的観点に立つと、伊江島方言などに見るように、現代の方言が、子音の対立としてではあっても、その痕跡を留めていることは看過されてはなるまい。さらに、この音が、[i]を経て現代語の[i]へと変わったことは疑いを容れまいから、音韻と認めるのは不当ではないと思われる。これを音韻と認めると、音韻体系に不統一を生じる形となる。それはそれで結構である。音韻体系の不統一あるいは乱れこそが変化の証左となろうからである。

音素記号としては、/w/としてもよいが、ハングルの転写記号「w」と紛らわしいので、/ʌ/を用いることとする。

(145) □ khw·ci は、「母音の無声化」で扱う。

4-1-5 * /オ/

ハングルの「o」「u」で表記されている。* /エ/のように複雑ではないが、* /ア/のように単純というわけにもいかない。まず、用例を見てみよう。

「o」の例

- (7) 妹子 'o·ra<na>·ri (をなり)
(68) 大路 'o·pu·mi·ci (おほみち)
(79) 飯 'o·pa·ri<ni> (おばに)
(90) 塩 ma·si·'o (ましお)
(115) 窓 tho·'o·ri (とほり)
(9) 旧年 ku·co (こぞ)
(83) 米 ko·mwi (こめ)
(94) 胡椒 kho·sjo (こせう)
(141) 身子 to'·u (どう)
(30) 心腸 ki·mo·ro<no> (きもの)
(12) 江口 phu·ra<na>·mo·to (ふなもと)
(32) 陰了 ku·mo·tjoi (くもりて)
(29) 好 'jo·ta·sja (よたさ)

「u」の例

- (85) 魚 'i·'u (いを)
(14) 多酒 'o·pu·si (おほし)
(68) 大路 'o·pu·mi·ci (おほみち)
(9) 旧年 ku·co (こぞ)
(11) 今年 ku·tu·si (ことし)

- (69) 小路 ku·mi·ci (こみち)
 (156) 黒 ku·ru·sa (くろさ)
 (161) 鶏 thu·ri (とり)
 (119) 席子 mo·si·ru (むしろ)
 (27) 白 si·ru·sa (しろさ)

「* /ウ /」のところで、「ウ」に対応する「o」の例を見たが、ここでは、逆の、「オ」に対応する「u」の例を見ることになった。改めて、代表例を見てみよう。

「ウ」に対応する「o」の例

- (131) 箒 pha·'o·ki (はうき)
 (119) 席子 mo·si·ru (むしろ)
 (162) 狗 'i·no (いぬ)

「オ」に対応する「u」の例

- (9) 旧年 ku·co (こぞ)
 (11) 今年 ku·tu·si (ことし)
 (69) 小路 ku·mi·ci (こみち)
 (156) 黒 ku·ru·sa (くろさ)
 (161) 鶏 thu·ri (とり)
 (119) 席子 mo·si·ru (むしろ)
 (27) 白 si·ru·sa (しろさ)

これらは、当時の沖縄語では [u] と [o] とを区別しなくなっていた、あるいは、できなくなっていた証拠とすることができよう。

さらに、次のような例からは、ハングルの「o」と「u」とは異音を表わしていると解釈するしかない。

- (87) 猪 'o·'oa
 (160) 猪 'u·'oa
 (1) (2) 人 phi·chju
 (29) (30) 人 phi·cjo

音価は、ハングルの「u」で表記されたものは、それと同じ[u]としてよいが、「o」で表記されたものについては、一考の要があろう。/*o/から/u/への変化過程にあると考えられるから、もとの[o]よりは[u]に近付いた音でたったと言えよう。[u]あたりか。

さらに言えば、*/ウ/と/*オ/とが、状況に応じて、[u]とも[o]とも[u]ともなったというのが、あるいは、実際に近いのかもしれない。

4-1-6 二重母音、長母音

(56) 今日 khjo·'o (115) 窓 tho·'o·ri でわかるように、長母音を表記するために同じハングル母音を重ねる方法をとったと判断される。したがって、別の母音の続いている次のような例は、二重母音を示していると認められる。

- (26) 紅 'a·kai·sa (63) 拝 phai (75) 無 nai
(99) 菜蔬 so·nai (122) 匙 khai (138) 卓子 t h a ·
ki <ka>·tai (128) 櫃子 kha·'i
(131) 箒 pha·'o·ki (155) 緑 'a·'o·sa (11) 正月
sja·'oŋ·koa·cΛ (96) 生薑 sja·'oŋ·ka
(86) 鹿 kha·'u
(92) 醋 sΛ·'u
(90) 塩 ma·si·'o (95) 川椒 san·si·'o (46) 黑夜
'i·'u·ru (57) 昨日 khi·ri <ni>·'u (114) 弓
'i·'u·mi
(141) 身子 to'·u
(9) (63) 正月 sjo·'oŋ·koa·cΛ
(151) 手指頭 'oi·pw i
(103) 酸 sui·sja (126) 砂貼是 sui·rwi (11) 初

chui · tha · ci (29) 撒酒風 sa · ka · ku · rui (124)
篩 phu · rui (143) 眼 mui

以上から、「o' o」、「ai」「a' i」、「a' o」「a' u」、
「Λ' u」、「i' o」、「i' u」、「o' u」、「oi」、「ui」の
組み合わせを見ることができる。

「o' o」は、長母音 [ɔ:] を示していると見て間違いのないと思われる
が、「(9) (63) 正月 sjo · ' oŋ · koa · cΛ」は、扱いに注意を要
するものである。[au] → [ɔ:] の変化を先取りした例であると言えよ
う。「(11) 正月 sja · ' oŋ · koa · cΛ」の例もあるのであるか
ら、音韻論的に強いて解釈すれば、/ - au - / とすべきであろうが、この
「- o' o -」の具体音声 [ɔ:] であることを推定するに留めたほうが
よいと思う。

「(56) 今日 khjo · ' o (115) 窓 tho · ' o · ri」は、それ
ぞれに音韻的に対応する現代語 [tʃu:] · [tu:ji] に引きつけて
解釈すれば / kjuu / · / tuuri / のようになるかもしれないが、こ
れらも、具体音声 [ɔ:] であることを推定するに留めたほうがよか
ろう。

「ai」「a' i」は、[ai] であるとしてよかろう。『おもろさう
し』においてもまだ長母音になっていないし⁴⁾、朝鮮語においても [ai]
→ [ɛ:] の変化は、19世紀に起こったことである。

「ai」と「a' i」との書き分けは、アクセントの違いを示そうとした
ことによる可能性が高い。『沖縄語辞典』の次の例がその裏付けとなる。

kee◎ (名) さじ (匙) kee① (名) ひつ。衣裳箱。 (後略)
◎と①とは、アクセントを示していて、◎が平板 (\overline{kee}) を、①が頭高
($\overline{ke}e$) を表わす。これを参考に次のように言うことができよう。

.....

⁴⁾ 高橋俊三 (1980) 「『おもろさうし』の表記法と音韻」 (複製『尚家
本おもろ御さうし』第四分冊付録『解説おもろさうし』) 参照。

「(122) 匙」は「k h a i」でよいが、「(128) 櫛子」はそうはいかず、「k h a · ' i」としたのであろう。現代ソウル語ではそうではなくなっているが、中期朝鮮語は高低アクセントを有していたから、「語音翻訳」の筆録者は、「匙」と「櫛子」とのアクセントの違いに注意を払ったと思われる。「匙」は [$\overline{k^n a i}$]、「櫛子」は [$\overline{k^n a' i}$] であった。

「a' o」・「i' o」・「o' u」・「o i」は、音韻論的には、それぞれ / a u / ・ / i u / ・ / u u / ・ / u i / と解釈してかまわないが、具体音声としては、それぞれ [a o] ・ [i o] ・ [o u] ・ [o i] にかなり近かったであろう。

「Λ' u」は、[w u] か。 / w u / と解釈できよう。

「u i」に関して、「(103) 酸 s u i · s j a」は音声としては [s w i } a] であって、 / s u i s j a / と解釈されよう。この語は「スイサ」に対応すると考えられる。前述したように、「ス」に対応するものは「s Λ」と表記されるのであったから、「s Λ · ' i · s j a」と表記されるべきところであろうが、そうはなっていないので [s w i } a] などではなく [s w i } a] を写そうとしたと考える。(ちなみに、[s u i } a] であれば「s u · ' i · s j a」と表記されたであろう。)

「(143) 眼 m u i」は、表記の上から、ここに置いたが、 / *エ / に関係して「第五章」で改めて扱うことになるろう。

長音であったと思われるもので、長音表記のなされていないものも、わずかながら、ある。次のような例がそれである。

(64) 地 c i (100) 茶 c h j a (116) 門 z j o

4-1-7 母音の無声化

母音の無声化を示していると考えられる次のような例がある。

(48) 暖和 ruk < nuk > · sa (49) 天熱 ' ak · sa

(145) □ khw · ci (43) 清早 sto · mui · ti

これらは、それぞれ、[nuk_usa] · [ʔats_usa] · [k^hu_otsi] · [s_utumiti] を表わそうとしたものに違いない。

「(145) □ khw · ci」は、第一拍目に無声化が起こったために、「ruk < nuk > · sa」「' ak · sa」のように子音だけでそれを示すことができず、母音「u」を加えることで示した。ハングルで「kc」あるいは「khc」という綴字法が許されなかったからである。これに反し、「(43) 清早 sto · mui · ti」の場合は、「st」が許されるので、それが使えた。

4-2 半母音

4-2-1 * / j /

現代語と同じと考えてよかろう。

(用例) (2) 日本国 ' ja · ma · to (4) 父親 ' a · s ja

(29) 好 ' yo · ta · s ja (56) 今日 khjo · ' o

(116) 門 zjo

4-2-2 * / w /

これも現代語と同じと考えて差し支えないと思われる。

(用例) (2) (9) (11) 我 wan (3) 姓 na · ' oa (なは)

(18) 湯 (酒) ' oa · ka · si (81) 小米 ' a · ' oa

(11) 正月 sja · ' oŋ · koa · cu (25) 坐 ' ju ·

' oai · ri

「oai」は [wai] を表わしているとする。

4-3 子音

4-3-1 * /キ、ケ、カ、ク、コ/の子音

ハンダルの「k」「kh」で表記されている。いわゆる語頭では強い有気音を示す「kh」の例が多く、語中ではそうではない「k」の例が多いが、次の例でわかるように、その時に気音が強ければ「kh」とし、弱ければ「k」としたもののようである。

(80)米 kh o · m j o i (83)米 k o · m u i

無気音を示すハンダル「kk」で書かれた例はない。

以上のことから、音価は [k, k^h] であったと推定される。

「*キ」相当部分は「ki」「khi」で表記されている。破擦音化していない。/i/の後の「カ」は「kja」である。口蓋化している。

(11)到 k i t · c j o i (29)(30)心腸 k i · m o (133)衣服
k i · r u < n u > (36)(37)雪 ' j u · k i (54)秋 ' a · k i
(57)昨日 k h i · r i < n i > · ' u

(22)小 ' j o i · k j o i · n a < r a > · k u (17)(18)(19)(23)
(70)(71)(72)(73)(74)(75)(76)酒 s a · k u i

(147)頭 k a · n a n < r a n > · z u (16)飯 s a · k a · n a
(20)撒酒風 s a · k a · k u · r u i (72)清酒 ' j o · k a · s a ·
k u i (134)袴児 p h a · k a · m a

(93)芥 k h a · n a < r a > · s i (41)風 k h a n · c u i
(117)掛帳 k h a · s j a < c j a > (121)紙 k h a · m i (129)
刀子 k h a · t a · n a (136)瓦 k h a · r a

(137)車子 k u · r u · m a (156)黒 k u · r u · s a (118)帳
m a · k u (145)口 k h u · c i

(29)(30)這箇 k o · n o (83)米 k o · m u i (80)米 k h o ·
m j o i (94)胡椒 k h o · s j u

- (9) 旧年 ku·co (69) 小路 ku·mi·ci (19) 来 ku
 (9) 甚麼 'i·kja (56) 今日 khjo·'o

4-3-2 * /ギ、ゲ、ガ、グ、ゴ / の子音

ハングルの「k」で表記されており、「ŋ」に後続する形で表記された例が多い。この「ŋ」に関しては「4-4 撥音」のところで詳しく述べる。

音価に関して、[g]であって[ŋ]ではなかったという決め手はないが、現代（沖縄）語のガ行子音が語頭・語中とも[g]であり、また、現代朝鮮語でŋの次のkは有声音となるが、それは[g]であることから推して、[g]であったと判断しておく。

- (88) 兎 'u·saŋ·ki (78) 喫飯 'aŋ·kwī·ra (11)
 請 'a·kwī·ra (13) 喫飯 'a·ki·mo·ro<no>
 (15) 好下飯 'o·sa·ka·ra·na (39) 上了 'aŋ·
 kat·tjoi (96) 生薑 sja·'oŋ·ka (65) (地) 平正
 ma·sΛŋ·ko (20) 撤酒風 sa·ka·ku·rui (9) (63)
 正月 sjo·'oŋ·koa·cΛ (61) 来月 tjoi·'oaŋ·
 koa·cΛ

4-3-3 * /チ、テ、タ、ツ、ト / の子音

「テ」「タ」「ト」に対応するのは「t」「th」で、「チ」「ツ」に対応するものは「c」「ch」で、それぞれ表記されている。

また、/i/の後の「テ」「タ」「ト」のなかにも「c」「ch」で表記されたものがある。破擦音化がかなり進んでいたことを知ることができる。

語頭では強い有気音の「th」、語中ではそうではない「t」の例が多い。[t, t^h]であった。

「c」「ch」に関しても、次の例により（当時の沖縄語に）気音の有無による対立のないことがわかる。

無気音表記（「t t」「c c」など）の例も見当たらない。

(1) 人	phi · chju	(26) 面	cΛ · ra
(20) 人	phi · cjo	(142) 面	chΛ · ra

15・6世紀頃の朝鮮語の「c」・「ch」は、それぞれ [ts] ・ [ts^h] であるとされるが、「(100) 茶 chja」の例により（当時の沖縄語に）[t] も確認できる。

「cΛ · ra」は [tsura] であろうが、「chΛ · ra」もあるから、多少口蓋化しはじめていたのでであろう。「人 phi · cjo、phi · chju」も同様である。

(59) 後日 ' a · sat · ti (148) 手 thi (34) 下雨 phut · tjoi (166) 龍 tha · cΛ (11) 初 (三日) chui · tha · ci (115) 窓 tho · ' o · ri (169) 虎 to · ra (161) 鶏 thu · ri

(64) 地 ci (145) 口 khw · ci (142) 面 chΛ · ra (17) — phu · tjoi · cΛ (53) 夏 na · cΛ

(150) 舌頭 si · cja (9) 起身 that · cjo i (11) 到 kit · cjo i (1) (2) 人 phi · chju (100) 茶 chja

4-3-4 * /ヂ、デ、ダ、ヅ、ド / の子音

「デ」「ダ」「ド」に対応するのは「t」で表記されている。[d] であったと考えられる。

「ヂ」と「ヅ」とに対応する例は見当たらない。存在すれば、「チ」・「ツ」との対応関係から考えて、「c」か「z」かで表記されたはずである。

先行の「n」と関連して「4-4 撥音」の項参照。

(109) 筆 p h u n · t i (38) 日頭 t j o n · t a (141) 身子
t o · ' u (138) 卓子 t h a · k i < k a > · t a i

4-3-5 * /ヒ、ヘ、ハ、フ、ホ/の子音

ハングルの「p h」と「p」で表記されている。それらと対応する現代語とを比べてみると、次のようなことが言える。

- ① 「p i」で表記されたもので現代語で [Φ i] (h w i) であるものと同時に、「p h i」で表記されたもので現代語で [Φ i] (h w i) であるものが存在する。
- ② 「p u」で表記されたもので現代語で [Φ u] (h u) であるものと、「p h u」で表記されたもので現代語で [Φ u] (h u) であるものを比べると、前者が語中であって「ホ」に対応するものであるのに対し、後者は語頭であって「フ」に対応するものである。
- ③ その他の「p h」は、すべて語頭である。

(例) (対応現代語は『沖縄語辞典』による。アクセント表示省略)

(163) 羊	p i · c ʌ · c j a	h w i c i z i (未)
(132) 火盆	p h i · p h a · c i	h w i b a c i (火鉢)
(149) 足	p h i · s j a	h w i s j a (足)
(14) 多酒	' o · p u · s i	? u h u s a n (多い)
(68) 大路	' o · p u · m i · c i	? u h u m i c i (大通り。大道)
(52) 冬	p h u · ' j u	h u j u (冬)
(109) 筆	p h u n · t i	h u d i (筆)
(98) 蒜	p h w i · r u	h w i r u (大蒜)
(153) 花	p h a · n a	h a n a (花)

以上のことと、例えば「花」が [Φ a n a] であれば「h o a · n a」と

表記された可能性があることを考え合わせると⁵⁾、「ph」は（[Φ]ではなく）[p^h]を示している可能性が高い。

（その他の用例）

(164) 老鼠 'o·'ja·pi·chju (104) 淡 'a·pa·sja (17)一 pu·tjoi·cΛ

(1) (2)人 phi·chju (47)向日 phi·ru (33)晴了 pha·ri·tjoi (52)春 pha·ru (131)箒 pha·'o·ki (134)袴児 pha·ka·ma (144)鼻 pha·na (152)牙齒 pha (12)江口 phu·ra<na>·mo·to (34)下(雨) phut·tjoi (36)下(雪) phu·ri

4-3-6 *ノビ、ベ、バ、ブ、ボノの子音

ハンダルの「p」で表記されている。[b]であった。

先行の「m」に関しては「4-4 撥音」の項参照。

(24)要子 'a·sum·pi (97)葱 kiŋ·pi·na<ra>
(45)晩夕 'jo·sam·pwi (77)飯 'om·pa·ri<ni>
(16)無甚麼 'a·rja·pwi·ran·ru<tu>·mo
(130)鍋児 na·pwi (151)飯 'o·pa·ri<ni> (80)飯
'o·pan·ra<ni> (81)飯 'o·pan·ri<ni>
(89)油 'a·pu·ra

4-3-7 *ノシ、セ、サ、ス、ソノの子音

ハンダルの「s」で表記されている。「sa」と表記されたのと「sja」と表記されたのがあるところから、音価は[s] [ʃ]であった

.....
⁵⁾ 『漂海録』「琉球」語には、「hoa·chi·koa·chi」(八月)の例がある。

ことがわかる。

(3) 本国 si·ma (27) 白 si·ru·sa (67) 底 si·
cja (150) 舌頭 si·cja (11) 今年 ku·tu·si (14) 多
酒 'o·pu·si (90) 塩 ma·si·'o (119) 席子 mu·
si·ru

(5) 哥哥 sin·ca (100) 焼(茶) 'oa·ka·si (22) 饋
(他) 喫 ro<no>·mi<ma>·sjoi

(16) 飯 sa·ka·na (95) 川椒 san·si·'o

(50) 涼快 sΛn·ta·sa (92) 醋 sΛ·'u (107) 硯 sΛ·
cΛ·ri (108) 墨 sΛ·mi (21) 不要饋 ro<no>·ma·
sΛ·ra<na> (25) 平 ma·sΛη·ko (40) 落了 'ja·
sΛ·mjoi·'is·cjo i (43) 清早 sto·mwi·ti

(103) 酸 sui·sja (126) 砂貼是 sui·rwi

(99) 菜蔬 so·nai

(11) 正月 sja·'oη·koa·cΛ (96) 生薑 sja·'oη·
ka (4) 父親 'a·sja (29) 好 'jo·ta·sja (104) 淡
'a·pa·sja (149) 足 phi·sja

(9) (63) 正月 sjo·'oη·koa·cΛ (91) 醬 mi·sjo

(94) 胡椒 kho·sju

[si] と [ʃi] との対立があったかどうかは、ハングルの表記から
は、わからない。対立があったとしても、ハングルではともに「si」と表
記する以外に方法はない。

ここで「4-1-4 * /ウ /」の項で述べたことを想起したい。
「sΛ」で表記されたものは「ス」に対応するのであった。

ところで、貴族・士族の成年男子が近年まで区別していた [ʃi] と
[si] との対立について考えてみると、次の例のように、[ʃi] は
「シ」「セ」に対応し、[si] は「ス」に対応する。

[Φuʃi] husi (星) [ʔaʃi] ʔasi (汗)

[sina] sina (砂) [simi] simi (墨)

[u] → [w] → [i] → [i] と変化したことによって、「シ」「セ」と「ス」との対立が [ʃi] と [si] との対立として実現したのであろう。このことと、現在でも [ʃi] : [si] の対立を有する伊江島方言などでは、[ʔasi:] (汗) のように、[si] に「セ」と対応するものが含まれることを考え合わせると、現在では「シ」「セ」がともに [ʃi] になっている沖縄語 (首里語など) においても、「ス」が [sw] である段階では、「シ」の [ʃi] と「セ」の [si] とが対立していたと考えられる。だから、たとえば、「(27) 白 si·ru·sa」は [ʃirusa] であり、「(5) 哥哥 sin·ca」は「先者 (センザ)」に対応し、[sindza] であったろう。

4-3-8 * /ジ、ゼ、ザ、ズ、ゾ / の子音

ハングルの「z」および「c」で表記されている。

(116) 門 zjo (147) 頭 ka·nan<ran>·zu
 (66) 頂 cΛn·ci (41) 風 khan·cwi (5) 哥哥 sin·ca
 (167) 象 ca<ca'u> (107) 硯 sΛ·cΛ·ri (163) 羊 pi·cΛ·cja (9) 旧年 ko·co

「-n·z-」と「-n·c-」とで違いがあるかということになるが、用例を見た限りにおいては、違いはない。ともに [(n) dz] か [(n) dʒ]、あるいは [(n) dʒ] を表わしていよう。「-n」との関連で「4-4 撥音」参照。

「ヂ」と「ヅ」とに対応する例が見当たらないので、「ジ」と「ヂ」・「ズ」と「ヅ」の区別があったかどうかには、触れられない。

4-3-9 * /ミ、メ、マ、ム、モ / の子音

ハングルの「m」で表記されている。現代語と同じ音価 [m] であったろう。

(23) 尽了 mi·na·rat<nat>·ti (68) (69) 路 mi·
ci (146) 耳 mi·<mi> (121) 紙 kha·mi (139) 炭
sΛ·mi

(35) 雨 a'·mui (43) 清早 sto·mui·ti (83) 米 ko
·mui

(90) 塩 ma·si·'o (118) 帳 ma·ku (8) 本国 si·
ma (137) 車 ku·ru·ma

(165) 蛇 pha·mu (119) 席子 mo·si·ru

(12) 江口 phu·ra<na>·mo·to (29) (30) 心腸 ki·
mo (32) 陰了 ku·mo·tjɔi

(62) 開年 mja·'u·njɔn

4-3-10 * /ニ、ネ、ナ、ヌ、ノ/の子音

ハングルの「n」で表記されている。誤って「r」で表記された例もある。これについては、次項「4-3-11」で述べる。

(71) 白酒 riɥ<niɥ>·kΛ·na<ri>·sa·kui (102)
苦 ri<ni>·ka·sa (77) 飯 'om·pa·ri<ni>

(6) 姐姐 'a·rΛi<nΛi>

(2) 姓 na (53) 夏 nat·cΛ (144) 鼻 pha·na

(48) 暖和 ruk<nuk>·sa (51) 向(火) ru<nu>·ku·
mi (162) 狗 'i·no (133) 衣服 ki·ru<nu>

(30) 心腸 ki·mo·ro<no> (60) 這月 ko·ro<no>
cΛ·ki (81) 小米(飯) 'a·'oa·ro<no> (26) (27) 面
cΛ·ra·ru<nu>

現代語と同じく [n] であった。ハングルでは [n] と [ɲ] との書き分けがないから、/i/の前で [ɲ] となると断言はできないが、可能性は高かろう。

「語音翻訳」に接してすぐに気付くことは、rとnとの混同の多いことである。沖縄語のrをnのハングルに、沖縄語のnをrのハングルにしてしまっている例が多い。「日本祖語について・7」には、それが全部上げられ、「nとrの混同例は、全体の32パーセントに達する」(p99)と述べられている。そして、その原因が次のように説明される。

知識人を除いては、正式に・はr-(ㄹ)で書かれる漢字音は実際にはn-で読まれたため、漢字音を表わすハングルを取り扱いなら(ㄹ)もこの点に関する原理を十分に理解しない半知識人の中にはハングルのrとnとを混同する傾向があったであろう。成希顔自身にそんな癖があったとは考えられないから、右述の誤記を説明するためには、筆耕あるいは印刷職人にそういう癖があったと考えるよりほか仕方がないのではなかろうか」(p100)。これ以外の理由は考えられないと思われる。

このように、rとnとが混同されている例があるので、nで表記されていてもrと判断されるものはここで扱う。

(4) (6) (7) (74) 有 ' a · r i (36) 下 (雪) p h u · r i (107) 硯
s a · c a · r i

(25) 坐 ' j u · ' o a i · r i (33) 晴了 p h a · r i · t j o i
(79) 做 s a · r j o i (21) 他 ' a · r w i (28) 這箇 k u · r w i

(126) 砂貼是 s u i · r w i

(24) 裏 ' u · c i · p a · r a (136) 瓦 k h a · r a (169) 虎
t o · r a

(47) 白日 p h i · r u (52) 春 p h a · r u (130) 車 k u · r u
· m a (114) 弦 c o · n u < r u >

(27) 白 s i · r u · s a (119) 席子 m o · s i · r u (156) 黒
k u · r u · s a

(16) 無甚麼 ' a · r j a · p w i · r a n (140) 柱 p h a · n j a

< r j a >

(20) 撒酒風 sa · ka · ku · rui (124) 篩 phu · rui

(30) 歹 (' j o) ' o a r · s a (44) 日 phir · ma

以上の他に、現代語の r をハングルの t で表記した例がある。次がそれである。

(93) 芥末 nan · ta · ri < ni > · kha · ta · si

これに対して、服部博士は「これは己 (r) を ㄷ (t) に誤ったものである」(前掲論文 p97) と説明される。

もしそうだとすれば、「(61) 来月 t j o i · ' o a ʔ · k o a · c ʌ」の t も r を誤ったと解することができるかもしれない。この「(61) 来月」に関して、伊波論文では、不明としながらも、「之を ti wag wats ü と読むと、現代語に類似の語がない。試みに第一音節の字を ㄷ に代へて読むと、rewagwats ü になつて来月に近くなる。ㄷ (de) にしても、首里語の r は舌端が振動しないで、欧米の探訪者も往々 d と思った位だから、結局同じになるわけである。大島方言では、来月を de getsu といひ、来来月を dede getsu というから、これから類推して、琉球語でもかつて dëgwats ü といつていたと考えることも出来る」(『全集』第四巻 p85) と述べられている。そして、「芥末 nan · ta · ri < ni > · kha · ta · si」の項には、(nadani karashi) とローマナイズが付され、「辛子、からしなの実を粉にしたもの。今はたゞカラシという」と述べられているだけで、ハングルでは t である (kha · ta · si) のをローマナイズでは r としたことはない。

字形が似ていることから r (ㄹ) を t (ㄷ) に誤ったというのは容易に首肯できることである。と同時に、伊波論文の r の説明にも説得力がある。

『沖縄語辞典』には、現代首里語の r に関し、次のような記述がある。

標準語の語頭のラ行の子音は、那覇方言では r に対応するが、首里方言では通常 d に対応する。首里方言で語頭を r に発音するのは教養ある貴族・士

族の成年男子の発音、文語的な発音、または新しい発音である。

標準語の語中の「ラ (ra)」「レ (re)」「ル (ru)」「ロ (ro)」の子音は首里方言でも r に対応するのが普通である。(p42)

現代語がそうであるからそうであったとは、俄かには言えない面もあるが、示唆に富む事柄ではある。

結局のところ、「芥末」の t は r の誤りであり、「来月」の t は発音通り ([d] を) 聞き取ったものであって r の誤りではないと考えられまいか。

音価は、現代語と同じであったと考えてよかろう。

4-3-12 声門閉鎖（喉頭化）と非声門閉鎖（非喉頭化）

ハングルには、声門閉鎖音を示すとされる「？」が存在するのに、「語音翻訳」には、それが現われていない。このハングルが、『東国正韻』（六巻、1447年完成）の漢字音表記のために設けられたものであって、『訓民正音解例』の（初声）用字例から除外されており、世宗・世祖代文献において漢字音以外の表記にこの文字が使用されたのは、動名詞語尾の表記と「間の s」（「～の」の意を示す）の代わりに用いられるという二つの場合に限られているなど⁶⁾、特殊な文字であったこともいづらか影響していようが、筆録者がその存在を知らなかったとも思えず、理由は、「語音翻訳」当時の沖繩語に求められるべきものとする。

もちろん、音声的に声門閉鎖音が存在しなかったとは言えない。母音が語頭に立つもの、例えば、(34) (35) 雨 ' a · m u i、(158) 牛 ' u · s i
(14) 多酒 ' o · p u · s i などは、それぞれ [? a -]、[? u -]
[? o -] と発音されていたであろう。しかし、声門閉鎖の有無によって意味の違いを生じたとは思われない。

.....
⁶⁾ 『韓国語の歴史』 p133

現代語では、次の例のように、声門閉鎖の有無によって意味の違いを生じるものがある。

イ、[?j a:] (お前) …… ロ、[j a:] (家)

イ、[?n n i] (稲) …… ロ、[n n i] (胸)

イ、[?w a:] (豚) …… ロ、[w a:] (我、我が)

これらの対立は、イのそれぞれの例の語頭母音の脱落した段階において、初めて意識されたのではないか。例えば、[?u r a] (お前) の段階において [j a:] (家) との意味区別をするのが [?] であろうはずはない。

[?u r a] が母音脱落を起こして [?r a:] となり、さらに [?j a:] となった時期において声門閉鎖の有無が示差的特徴となり得たのである。

他の例にしても同様である。「稲」が [?i n e] → [?i n i] → [?i n i] → [?n n i] と変化して、[m u n e] → [m u n i] → [n n i] と変化した「胸」と対立するようになったのであり、「豚」も ([?o w a] →) [?u w a] → [?w a:] と変化した段階において [w a:] (我、我が) と対立するようになったのである。

このように考えれば、少なくとも、「語音翻訳」の段階においては、音素 /?/ を認める必要はなかろう。

4-4 撥音

朝鮮語には、音声としての有声音は存在するが、そのみを表記する文字は、「△」(z)を除いて、ないので、日本語の有声子音を表わすのに、無声子音を示すハングル(k, t, c, p)の前に鼻音の「ㄱ, ㄴ, ㅁ」を先行させて示すとされる。伊波普猷は、この考えに従っている。

他の朝鮮資料は、今、措くとして、少なくとも「語音翻訳」にはこの考えは当てはまらない。それは、次のような理由によってである。

① 鼻音を示すハングル(ㄱ, ㄴ, ㅁ)が、次の音が有声音であることを示すための単なる印なのであれば、三つも使う必要はないのではないか。

一つで事足りるのではないか。よし、三つ使ったとしても、いろいろな組み合わせが現われてよい。朝鮮語（当時、及び現代でも）には、綴字法として「n・k」「n・p」「m・k」「m・t」「m・c」「ŋ・t」「ŋ・p」「ŋ・c」の組み合わせもある⁷⁾。にもかかわらず、「語音翻訳」では、「n・t」「n・c」「m・p」「ŋ・k」の組み合わせしかなく、一種の相補分布をなしている。これは、（有声子音の前に）鼻音が実際に存在したことを示していると考えられる。

② ハングル「z」は、それ自体有声子音であるから、鼻音の助けを借りる必要はないのに、次のような例がある。

(147) 頭 ka・nan<ran>・zu

さらに、『捷解新語』においては、次の例のように、語頭の有声子音を示すために、朝鮮語にはない綴字法を使ったりしている。

mpu・zjon（豊前） nto・ko（どこ）
ŋko・za・ru（ござる）

つまり、m・n・ŋをそれぞれp・t・kに先行させてそれを一綴字の中に取り込んでいる。もし、「語音翻訳」における「m・p」「n・t」「ŋ・k」などが有声子音を表記する方法であったのならば、例えば、「(141) 身子 to・'u」は「nto・'u」と表記されたはずである。そうはなっていないのであるから、「n・t」などが有声子音を表記するための手段とは言い難い。

③ 現代（首里）語では、いわゆる撥音便は消滅している。そして、ここで問題にしている（有声子音の前の）鼻音も現代語では消えている。この二つの間には密接な関連があるように思われる。

.....

⁷⁾ 例（中期朝鮮語） pɔn・kai（稲妻）， tun・pak・hɛ・ta（不体裁である）， sam・ki・ta（生ずる）， stɛm・to・'ja・ki（汗疹）， kɛ・rim・cɛ（女子の礼装の時、頭髪を掩う黒の頭巾）， mɛiŋ・tɛr・ta（作る）， pu・huɔŋ・pa・hoi（鳳凰岩）， hɛiŋ・cɛ（布巾）

例えば、「読んで」に対応する [judi] について考えてみる。これは [*jomite]・[jumiti] から [jundi] を経てきた形であることは間違いなからう。その鼻音の脱落した形である。

ところで、「筆」に対応する現代語は [Φudi] であるが、「語音翻訳」では「(109) 筆 phun·ti」となっている。鼻音が存在した。

「読んで」の鼻音と「筆」の鼻音が共に脱落しているのは、この二つが同じ性質のものであったことを語ってくれる。

以上により、有声子音の前に鼻音が存在し、それは鼻母音などではなく、撥音と呼べるものであったと言えよう。

さらに言えることは、その脱落が「語音翻訳」の段階で始まっていたということである。次の例がそれを示している。

(17) 請 ' a · k u i · r a

(78) 喫飯 ' a ŋ · k u i · r a

(77) 飯 ' o m · p a · r i < n i >

(79) 飯 ' o · p a · r i < n i >

現代語で、有声子音の前に鼻音（撥音）存在する語は、語的にその現象を留めているものか、脱落現象の終わった後に入って来たものであると言えよう。例えば、「考える」は現代語で [kaŋge:jun] [kaŋge:jin] で、有声子音の前に鼻音の存在する語であるが、『おもろさうし』には、音韻的に「考える」に対応する語は見当たらない。『おもろさうし』が歌謡を集めたものであることも考慮する必要があるが、示唆を与える事柄であると思う。

ここで、目を別のところに転じてみる。次の例によって、（有声子音の前の鼻音云々に拘りなく）いわゆる「撥音」の存在が確認できる。

(1) (9) 我 wan (11) 我們 wan

(157) 青 than·chjɔŋ (95) 川椒 san·si·'o

「san·si·'o」は漢語由来と考えられ、ある意味では撥音の先駆けではなからうか。「than·chjɔŋ」は、朝鮮語そのものといった

風情である。「丹青」は朝鮮語で「*than·chjoŋ*」である。

「*san·si·'o*」に撥音の存在を見るのであれば、「(147) 頭 *ka·nan<ran>·zu*」も同様に扱うことができよう。そうであれば、*[g]* の前の *[ŋ]*、*[b]* の前の *[m]* もそれに準じるものと考えて差し支えないのではあるまいかというのが、前述の主張である。

ただし、これらの撥音と現代語の撥音とは、区別する必要があるものと思われる。現代語のそれは、次の例のように、*[m-]* *[n-]* の後の母音が脱落してできたと考えられるからである。

<i>[ŋka}i]</i>	←	<i>[muka}i]</i> (昔)
<i>[nna]</i>	←	<i>[mina]</i> (皆)
<i>[?iN]</i>	←	<i>[?inu]</i> (犬)
<i>[kagan]</i>	←	<i>[kagami]</i> (鏡)
<i>[wan]</i>	←	<i>[wami]</i> <i>[wanu]</i> (我身?)

先に述べたように、「語音翻訳」に現われたような撥音は、勢力が弱くなっていた。それと相前後して、母音脱落による撥音が生じたと考えられまいか。「我 *wan*」が、その証拠となろう。つまり、「川椒」などの撥音と母音脱落による撥音との橋渡しの（あるいは中間的）存在と考えたい。

（現代語において「読みて」の撥音 (*mi→n→ϕ*) は脱落しているのに、「鏡」の撥音 (*mi→N*) は脱落していないことの説明にもなる、か。）

ちなみに、「(79)(80)(81)飯」の「*'om·-*」と「*'o·-*」の違いには、「御飯」の「御」を「オン」というか「オ」というかの違いも反映されていそうである。

4-5 促音

促音を示すと思われる次のような例がある。

(23) 尽了 *mi·na·rat<nat>·ti*

(59) 後日 *'a·sat·ti*

(34) 下(雨) *phut·tjoi*

(39) 上了 ' a ŋ · k a t · t j ɔ i

(9) 起身 t h a t · c j ɔ i

(40) 落了 ' j a · s ʌ · m j ɔ · ' i s · c j ɔ i

それぞれ、順に、「みななつて」「あさつて」「降つて」「上がつて」「発つて」「やすみ入つて」に対応すると思われる。

「(59)後日 ' a · s a t · t i」を例に考えてみる。「- t t -」のように表記されていれば、無気音の表示である可能性もあるが、「- t · t -」のように、前の子音が前音節の終わりにある、つまり、朝鮮語でいうパッチムの形になっているので、それは否定されよう。

パッチムの「s」は、(「t」の前では)「t」と音価を同じくするから、「- s · c -」は「- t · c -」と同じと考えてよい。

よって、パッチムに準じて考えると、「- t · t -」「- t · c -」「- s · c -」は、その間に休止のあることをしめしていることになり、促音表記であると考えられる。

同じくパッチムの形での表記になっている次のような例もある。

(28) 甚麼子 r u < n u > · ' u k · k a

(35) 晴了 p h a · r i t · t j ɔ i

(13) 一路上 m i t · c i · m i t · c i

(132) 火盆 p h i · p h a t · c i

(11) 到 k i t · c j ɔ i

(8) 幾時 ' i t · c ʌ

(53) 夏 n a t · c ʌ

これらについては一考を要しそうである。対応(現代)語形との関係上、俄かには促音表記と言えない例である。

伊波普猷は、「朝鮮語には t s がないので、之を写すのにス又はヌを以てし、或はその前の音節の語尾に、ㄷ(t)を付けて之を写したのものもある」(『全集』第四巻 p55)と説明しているが、これは当たらない。15世紀頃の朝鮮語の「c」・「ch」はそれぞれ [t s] ・ [t s^h] であったと考えられるからである。

観点を変えて考えてみる。例えば、「(53)夏 nat・cΛ」は、具体音声は、[natsw]であったとして、「na・cΛ」と表記すると、「(107)硯 sΛ・cΛ・ri」「(9)旧年 ku・co」の例が示すように、母音間の「c」は有声音を表わすことになるから、そうならないように「nat・cΛ」としたと考えられなくもない。しかし、これには、すぐ反証が上がる。先に見たとおり（「4-3-3」）、[ts]を示すと思われるハングル「c」は母音間のそれであったし、気音が強いと判断された時に「ch」で表記したのであり、有声音と間違われないうために「ch」とする配慮などはなされていないのであった。そして、何よりも、「起身that・cjoi」が促音の存在を裏付けるはずである。もっとも、この例が「発つて」にではなく「発ち」に対応するというのであれば、話は別である。

疑問の余地は残しながらも、これらの例も促音表記と見てよいのではないか。

4-6 無気音

「4-3-1」「4-3-3」「4-5」などで見たように、ハングルの無気音表記に相当する例は、見当たらない。

4-7 口蓋化・破擦音化

「4-3-1」「4-3-3」で触れた。その要点は、以下のものであった。即ち、

- 「キ」は、破擦音化していない。
- /i/の後の「カ」は、口蓋化している。[kja]。
- 「チ」「ツ」は、破擦音化している。
- /i/の後の「テ」「タ」「ト」は、破擦音化している。

4-8 文法

文法項目に関係しそうな用例を示すに留める。

4-8-1 動詞

4-8-1-1 言い切りの形

- (4, 5, 6, 7, 74) 有 ' a · r i (あり) (3) ' i · ' u (言ふ)
- (36) 下雪 ' j u · k i p h u · r i (雪 降り)⁸⁾

4-8-1-2 連用形

- (40) 落了 ' j a · s ʌ · m j ɔ (休み～)

4-8-1-3 「～て」の形⁹⁾

- (39) 上了 ' a ʎ · k a t · t j ɔ i (上がりて)
- (32) 陰了 k u · m o · t j ɔ i (曇りて) (33, 35) 晴了 p h a · r i · t j ɔ i (晴れて) (34) 下雨 p h u t · t j ɔ i (降りて)
- (76) 酔了 ' i · ' u · t i (酔ひて) (83) 師 s i · r a ʎ · k a < k i > · t i (精げて) (23) r a t < n a t > · t i (成りて)
- (37) (雪) 住了 p h i < p h a > · r i t · t i (晴れて) (19) 酒 ' o a · k a < k i > · t i (分けて?) (40) ' i s · c j ɔ i (入

.....
⁸⁾ 名詞形と考えられなくもないが、言い切りの形(終止形)である可能性が高い。

⁹⁾ 形の上では「～て」であるが、構文上「過去」の意味を示している例ばかりである。

りて) (24) 'oai · chjoi (いらっしゃって?) (11) 纒到
(這裏) kit · cjoi (来て) (8) 離了 tha · cjoi (発
ちて) (9) 起身 that · cjoi (発ちて)

4-8-1-4 命令形

(24) 要子 'a · sam · pi (遊べ) (78) 喫飯 'aʔ · kui ·
ri (「あげれ」) (19) ku (来) (51) 向火 ru < nu > ·
ku · mi (温め) (73) 飲酒 nu · mi (飲め) (25) 坐
'ju · 'oai · ri (座れ) (82) 做 'jo · ra · ri (「よ
られ」? 作れ?) (18) 湯酒 'oa · ka · si (沸かせ)
(79) 做 sa · rjoi (「為れ」? せよ? 作れ?) (22) 喫
ro < no > · mi < ma > · sjoi (飲ませ)

4-8-1-5 禁止形

(21) 不要饋他 ro < no > · ma · sa · ra < na > (飲まずな)

4-8-1-6 勧誘形、意志形

(17) 請 'a · kui · ra (「あげら」、あげよう) (15) 好下飯
'o · sa · ka · ra · na (食べましょう)

4-8-1-7 丁寧な形

(16) 無 'a · rja · pwi · ran (ありません)

4-8-1-8 「～た」の形(?)

(12) 到 ciŋ < caŋ > (来た?) (10) 到 siŋ < cjaŋ >
(来た?)

4-8-2 形容詞

「言い切りの形」と判断される用例しかない。いわゆる「語尾」の形により分類して示す。

4-8-2-1

(155) 緑 ' a · ' o · s a (あをさ) (26) 紅 ' a · k a i · s a
(あかさ) (49) 天熱 ' a k · s a (あつさ) (101) 甜 ' a ·
m i < m a > · s a (あまさ) (106) 辣 k h a · n i < r a > ·
s a (からさ) (156) 黒 k u · r u · s a (くろさ) (105) 鹹
s i · p a · k a · n a < r a > · s a (渋辛さ?) (27) 白 s i ·
r u · s a (しろさ) (50) 涼快 s a n · t a · s a (涼しさ)
(102) 苦 r i < n i > · k a · s a (苦さ) (48) 暖和 r u k ·
< n u k > · s a (温さ) (30) 歹 ' j o · ' o a r · s i
< ' o a r · s a > (悪さ)

4-8-2-2

(104) 淡 ' a · p a · s j a (あはさ) (103) 酸 s u i · s j a
(酸さ) (29) 好 ' j o · t a · s j a (良さ)

4-8-2-3

(14) 多酒 ' o · p u · s i (おほし)

4-8-2-4

(75) 無了 nai (ない)

4-8-3 助詞

4-8-3-1 格助詞

(26, 27) -ru < nu > (～の、～が、主格)

(29, 30) -ro < no > (～の、～が、主格)

(112, 113, 114) -nu (～の、所有格)

(86) -ru < nu > (～の、所有格)

(63, 66, 67) -no (～の、所有格)

(80, 81) -ro < no > (～の、所有格)

4-8-3-2 接続助詞

(32, 33, 34, 35, 39) -tjoi (～て) (19, 23, 37, 76, 83) -ti
(～て) (8, 9, 11, 24, 40) -cjoi (～て)

(16) -ru < tu > mo (～ども)

4-8-3-3 副助詞

(3) -'oa (～は) (28) -'ja (～は)

4-8-3-4 終助詞

(3, 10, 12, 28,) -ka (～か、疑問) (8) -ki < ka > (～か、疑問)

(21) -na (～な、禁止) (15) -na (～な、勧誘)

第二節 『漂海録』 「言語」の沖縄語

『漂海録』 「言語」の沖縄語を分析・研究することにより十八・九世紀の沖縄語の姿を考える。

1、資料解題

[所在地] : 大韓民国全羅南道新安郡都草面牛耳里

[文書の体裁]

一冊本。縦24.5cm、横15.5cm。表紙に「柳菴叢書」とあり、副題として、「漂海録」「呂宋舶制」「車説答客難」「車説答」とある。各章の初めに、それぞれ「漂海始末」「雲谷船説」「車説答客難」「諸車説」とある。

紙数48枚。用紙は楮紙。筆写本。匡郭は、縦約19cm、横約13cm、双辺、10行・22字。

『柳菴叢書』の成立は、1818年と判断される。「雲谷船説」の末尾に「戊寅中冬書于玄州書屋」とある。「戊寅」は、1818年に当たる。

柳菴は、流配された漢学者のようであるが、生没年不詳。

1801年末、大風のため牛耳島付近から奄美大島に流され、沖縄島・ルソン島に滞在後、マカオから南京・北京など経て満三年の漂泊を経験、帰郷した朝鮮「魚商」達からの聞き書きが「漂海録」（「漂海始末」）である。その末尾に「言語」と題して「琉球」と「呂宋」の言葉をハングルで表記している。

2、研究史

①崔徳源（1980年）

「文淳得의 漂海録<琉球 및 呂宋 漂流記>」（文淳得の漂海録<琉球および呂宋漂流記>）『論文集』第14集 木浦海洋専門大学

②松原孝俊（1984年）

「朝鮮への漂着と琉球への漂着—李朝時代の二つの漂着記録の詳解—」
『文明のクロスワード Museum Kyushu』第15号（季刊 第4巻・第4号 通巻15号）博物館等建設推進九州会議編

③多和田眞一郎（1992年）

「ハングル資料沖縄語（十九世紀初）」『沖縄文化研究』18号 法政大学沖縄文化研究所

④多和田眞一郎（1994年）

『「琉球・呂宋漂海録」の研究—二百年前の琉球・呂宋の民俗・言語—』武蔵野書院

3、「言語」「琉球」語解説

「琉球」語に関して、現代語との対応を考えつつ、分析の前提となるべき若干の解説・コメントを、それぞれに付け加えていく。

記録された言葉が、どの地域のものなのかは、分析の過程で明らかにされていくであろうが、漂流者達の滞在状況から推して、沖縄本島南部地域の言葉が主であり、それに奄美地域の言葉がいくらか混入していると判断される。

「本文」については、「言語」の翻字（転写）の項（「付録 資料 四 『漂海録』「言語」「琉球」語索引）参照。

翻字に関し、ハングルのひとまとまりとひとまとまりとの間に「・」を入れてハングルとの対応が確かめられるようにした（「ひとまとまり」は概略「音節」相当）。

ハングルの誤記・誤写と思われるものがある場合は、正しいと考えられるものをくくに入れて、後のほうに示す。

表現を簡略化するために次のようにする。たとえば、「現代語 {pɯʃi} と対応すると考えられる」とすべきところを、支障のない範囲において、「{pɯʃi} と対応」というように表示する。

1. 人 (1) 人 scjo

[tt¹⁾u] と対応。ハングルの「~~ㅅ~~」表記は無¹⁾気音の可能性を示唆している。また, [tt¹⁾o:] (人は) に対応するとも考えられる。

²⁾
「クリフォード琉球語彙」には choo (man) とある。

2. 男 (2) 우씨가 'u · ski · ka

[jikiga] [wikiga] と対応。ハングルの「~~ㅅ~~」も無¹⁾気音を表示しようとしたか。

なお、影印では「우씨가」のように見えるが、「우씨가」である。「~~ㅅ~~」と書いたのを「~~ㅅ~~」になおすために「~~ㅅ~~」の左上の部分塗りつぶして「人」としたのである。それで「~~ㅅ~~」のように不自然になっている。

「クリフォードごい」には ickkeega (man) とある。

1) たとえば

小倉進平(1928)

朝鮮語で toin-siot というのは, toin と siot より成る。toin とは「濃い」の義。siot とは諺文ㅅ字の名稱であつて, ㅅ, ㅆ, ㅈ, ㅊ 等に於ける初頭にある場合のㅅに對する名前である。此等の場合におけるㅅは, ㅅの文字が本來具有する処のS音をあらはすものではなく, 單にㅅを kka, ㅆを tta, ㅈを ssi の如く發音する場合の二つの子音の中の最初の k, t, s をあらはすものとして考えられて居る。kk, tt, ss の音が長子音の如き感じを與へ, 氣息がそれぞれ發音位置に於て濃化せられる感じがあるので之を濃音と稱するのである。

崔鶴根(1968) (247頁)

以上から母音脱落に依ろうと, 子音挿入に依ろうと, 「人」音が「フ, ㄷ, ㅅ, ㅆ, ㅈ, ㅊ」等と連接する場合, 「~~ㅅ~~」「~~ㅆ~~」「~~ㅈ~~」「~~ㅊ~~」「~~ㅅ~~」等の子音群が, 語中に發生することとなり, これと同様の子音群は, 必然的に「濃音」の表記となる。また, このような濃音の發生は相当古い時代に遡及できるように思われる。(原文は朝鮮語)

など。

2) Basil Hall: Account of a Voyage of Discovery to the West Coast of

3. 女 (3)우나귀 'u · na · kui

[jinagu] [winagu] と対応。「귀」が [guji] を表示しているとすれば、「女か」であるらしいことになるが、可能性は低い。

「クリフォードごい」には innago (woman) とある。

4. 国王 (4)오 'o

[wo:] と対応。

「クリフォードごい」に kowung (king, or monarch) がある。

5. 丞相 (5)우슈 'u · sju

[ʔuʃu:] [ʔusu:] (「御主」) と対応。ただし、現代語は「国王」の意となろう。

6. 大官 (6)대상관 tai · sjag · koan

「大将官」に当たる語であろうが、現代語としては、機能してはいまい。

7. 小官 (7)소관 sjo · koan

「大官」に対する「小官」であろう。これも現代語としてはなじみがない。ちなみに、「呂宋」語의리세단 kli · spi · tan は captain (キャプテン・船長) である。

8. 通事 (8)두즈 tu · cw

[tu:dzi] と対応。

.....
Corea, and Great Loo-Choo Island, (with an Appendix, containing Charts, and Various Hydrographical and Scientific Notices, and *Vocabulary of the Loo-Choo Language by H.J.Clifford, Esq. Lieutenat Royal Navy*), London, Jhon Murray, 1818

本文書「漂海録」の「琉球」語とほぼ同時代の「琉球語」を記録したものとして対照する。以下「クリフォードごい」と略称する。

9. 美^{面官〇我国}_{風憲之属} (9)비사 pi・sa

「風憲」は「風俗が乱れないようにとりしめる規則。また、とりしめる役人」の意。「비사」の形では対応する現代（沖縄）語を見出すことはむずかしい。

³⁾
「呂宋」語の可能性もあるが、確証が得られない。

また、朝鮮語の「風憲」は、李朝時代「面」「里」の仕事を司った役（所）のひとつも意味するから、この方面からのアプローチも必要となろう。

12. 富人 (10)후취인 hu・skui・'in

未詳。〔Φūkkwi:N〕（脹れる）と関連があるか。あるいは「富貴人」（ふうきにん）か。

13. 童児 (11)가마두 ka・ma・tu

〔kamadu:〕という名の子供が、身近に居たのであろう。

「クリフォードごい」に worrabee (child) がある。

14. 無姓人 (12)미쥬부 mi・cju・pu

未詳。イロカノ語 BISIO [f.Sp.], n.vice と関連があるかもしれない。

16. 口 (13)구지 ku・ci

〔kū tji〕と対応。

「クリフォードごい」には coochee および cootchee (mouth) とある。

17. 耳 (14)미미 mi・mi

〔mimi〕と対応。

「クリフォードごい」には mimmee (ear) とある。

.....
3) 例えば、イロカノ語 PISKAL [f.Sp.] n. fiscal. イロカノ語に関しては、Ernesto Constantino (1971) " ILOKANO DICTIONARY " 参照。

18. 鼻 (15) 피이 phi·'i

[hā'na] (鼻)と直接的に対応する形ではない。誤記だとして、正しかるべき形を想定すると파나 (pha·na), 화나 (hoa·na), 하나 (ha·na) などが考えられるが、離れすぎている。

誤記でなければ、誤解か。「屁」である。[Phi:] [çi:]と対応すると考えるのである。「鼻」をつまむ動作が誤解を生んだ、と。

19. 陽茎 (16) 딴이 tin·'li <단이 tan·'li>

「딴이」は「단이」の誤記だと思われる。[tani] (陰茎)と対応する。

[tani]と対応するものであるのなら、「다니 ta·nli」と綴ってほしいところであるが、発音上は、双方差違がない(「93. 船(67)후니」参照)。ハングルの綴りでは、前の音節の最終子音(字)は、後続音節が母音(字)で始まる場合、その後続母音(字)と結合して(発音されて)しまうからである。

20. 婦人私処 (17)마리 ma·rui <마늑 ma·nui>

「마늑」の誤記。ハングルの「ㄹ(r)」と「ㄴ(n)」とは、よく混同が起る。(「語音翻訳」の項「第一節4-3-11」参照)

「女陰」を意味する語。ただし、沖縄本島およびその周辺の島に分布する「ピー、ポー、ホー、マンジュー」などに対応するのではなく、喜界島(北東部)の⁴⁾「マーニュー [ma:nju:]」に当たる語であろう。文淳得らが奄美に二か月近く滞在したということと無関係ではあるまい。

21. 坐 (18)맨소오리 main·so·'o·ri

[(?)mē'n so:ri] (いらっしゃいませ)と対応。「ここへ来てお座り下さい」の意味に取れないことはないから「坐」と解したのであろう。[ji' miso:ri] (お座り下さい)ではあるまい。

ちなみに、「クリフォードごい」には eeree (sit down, in a chair), eemeesh-awdee (sit down, on the ground) がある。

4) 中本正智(1981) p76-77 参照。

22. 喫 (19)우사加里 'u · sa · ka · ri

[ʔuːsagari] (召しあがれ) と対応。

「クリフォードごい」に ozagadee (offer, to) とある。

23. 唯 (20)우 'u

[ʔuː:] (目上に対する「はい」) と対応。

「クリフォードごい」に oo (yes) とある。

24. 諾 (21)오오닷 'o · 'o · tso

[ʔo:] (親しい目上に対する「はい」) と対応。「닷」の部分については保留としておく。

25. 眠 (22)이냐띠 'i · nai · tsi

[niːnti] (眠って) と対応。「띠」の「以」は「ts」ではなく、「t'」(無気音)を示しているとする。

「クリフォードごい」には neebooee (eyes, closing the), ninjoong (sleep, to), nintee (sleeping), nintoong (die, to) などがある。

26. 死 (23)신용 sin · 'jun

[ʃiːnu N] と対応。ハングルの綴り方としては「시닝」も可。(「19. 陽莖」の項で述べた、前の音節末子音と後の音節の母音との結合参照)

当時の発音は [ʃinun] が [ʃinu N] であったらしい。[-nu-] の部分に注目したい。

「クリフォードごい」には sheenoong (dead), sheenoung (kill, to, by the fire of a gun), sheemoong (kill, to) とある。

27. 歌 (24)가재 ka · cai

未詳。イロカノ語の KASAR (wedding) と関係があるか。

「クリフォードごい」には oota (song), ootayoong (sing, to) がある。

28. 舞 (25)우두이리 'u·tu·'i·ri

[wū' duji] 「踊り」(舞い) と対応するのか, [wū' duri] 「踊れ」(舞え) と対応するのかは, はっきりしない。

29. 謝罪 (26)군에하 kun·oi·hja

[kune:ja:] (仲直りだね。仲直りしようね) と対応するのであろう。[kune:ju N] [kune:ji N] (①こらえる ②仲直りする) と関連がある。

30. 辱人 (27)와사라문 'oa·skΛ·ra·muun

未詳。[wā' go:rimu N] (乱暴者, 踏みはずし者) と対応か。「辱人」は「けがれた人」の意。

「呂宋」語「마리후」も未詳。

33. 福 (28)후 hu

[Φu:] (果報, 幸運) と対応。

34. 風 (29)간의 kan·wi <간직 kan·cwi, 간의 kan·zui>

[kā' dzi] と対応。「간의」のままであるとすると [kanī] のようになって「金」などと対応してしまうことになる。「간직」あるいは「간의⁵⁾」とあるべきところである。いずれにしても, 有声子音の前に鼻音が存在したことを示唆する例となろう。「의」の表記も, */e/から/i/への歴史的変化を考えるうえで, 注目される。

「クリフォードごい」には kazzee, kassée (wind) とある。

5) 見方によっては「의」の「〇」が「○」ではなく、「△」(z)に見えないこともない。「(72)화」も同じである。そうであれば好都合なのであるが, 明らかに「〇」であって「△」に見える例が多いことから((45)산실이, (52)한우슈など), 否定的にならざるをえない。

35. 月 (30)과치 koa・chi

[gwatʃi] と対応。「月(つき)」のつもりのようであるが、後続の「正月・二月・三月……」の「一ぐわつ」を取り出して項目を立てたらしい。(→「言語」「呂宋」語 参照 p(35))

「クリフォードごい」に stichee (moon, month), stchay (moon, the), gwautsee (moon, month) とある。

36. 正月 (31)쇼과치 sjo・koa・chi

[ʃo:gwatʃi] [so:gwatʃi] と対応。

37. 二月 (32)임과치 'im・koa・chi

[ningwatʃi] と対応。

38. 三月 (33)산과치 san・koa・chi

[sangwatʃi] と対応。

39. 四月 (34)스과치 su・koa・chi

[sigwatʃi] [ʃingwatʃi] と対応。「시과치」あるいは「신과치」「싱과치」とあるべきであろう。なぜ「ス」と表記されたかについては「45. 十月」のところで述べる。

40. 五月 (35)우과치 'u・koa・chi <구과치 ku・koa・chi>

[gugwatʃi] [gungwatʃi] と対応。「구과치」のように表記されるべきところが「우과치」となっているのは、次の理由による。朝鮮語では語頭に有声子音が現われないことと音声上の似通いから [gu] が [wu] と聞かれ、「우」とされた。

41. 六月 (36) 숙구과치 sjuk · ku · koa · chi <륙구과치 rjuk · ku · koa · chi>

[rukugwatʃi] と対応。「륙구과치」とあるべきであろうが、朝鮮語の、語頭に「ㄹ」の現われない特徴のために表記に苦労したようである。いや、表記の前に、既に、文淳得らに [ru~] が聞きとれなかった可能性が高い。「摩擦音」だけを聞きとったのであろう。その結果の「숙~」であると見る。

「ㄱ」(k·k) 表記は、促音 [kk]/Qk/ではなく、無声子音 [k] を表わさんがためのものと思われる。「슈구~」だと⁶⁾ [(ru) gu~] となるからである。

42. 七月 (37) 치시과치 chi · si · koa · chi <시치과치 si · chi · koa · chi>

[ʃitʃigwatʃi] と対応。「시치과치」とあるべきところである。音位転換を起こした表記となっている。[ʃi] と [tʃi] との類似性 (及びその母音の無声化) と未知の言語であることが影響していよう。

43. 八月 (38) 화치과치 hoa · chi · koa · chi

[hatʃigwatʃi] と対応。「화~」に注目したい。[ha] ではなく、[Φa] であつたらしいことに。

44. 九月 (39) 구과치 kuŋ · koa · chi

[kuŋɡwatʃi] と対応。

45. 十月 (40) 시과치 si · koa · chi <즈과치 cuu · koa · chi>

[dzu:ɡwatʃi] と対応。「즈과치」(さらに言えば 주과치) とあるべきであろう。「四月」との取り違えが起こっていると考えられる。「四月 시과치」「十月 스과치」なら整合性があるが。組み合わせを変えてしまったのである。それには朝鮮語「十月 시월 si · 'uor」が介在しているか。

6) 現代朝鮮語の例を、参考として、示す。

田中다나까 (ta · na · kka) 加賀가가 (ka · ka)

「즈과치」とあるべきところが「스과치」となっているのには、二つの理由が考えられる。ひとつは、ハングル「ス」の(上の)横棒を落として「ㅅ」としてしまった誤記。もうひとつは、朝鮮語では語頭に有声(子)音が現れないために沖縄語の語頭音 [dʒ] を [s] と聞いた。

また、この部分で、母音が円唇の「ㄹ (u)」ではなく、平唇の「ㅡ (w)」で表記されていることが気にかかる。

46. 十一月 (41)시모지시 si・mo・ci・ci <시무치치 si・mu・chi・chi>
〔simutʃitʃi〕(霜月)と対応。ハングル通りの発音だとすると〔simodʒidʒi〕となり、〔simutʃitʃi〕に近いのであれば「시무치치」とあるのが理想であろう。

47. 十二月 (42)시와시 si・'oa・si
〔siwa:ʃi〕(師走)と対応。

48. 毎日 (43)미나치 mai・ni・chi
〔me:nitʃi〕と対応。

49. 水 (44)미리 mi・cwi

〔miᵝdʒi〕〔miᵝdʒi〕と対応。「ㅈ」については、「づ」との対応で興味ある様相を見せている。「지 ci」とはなっていない。「クリフォードごい」には meezee, meese (water) とある。

50. 山 (45)산실이 san・sir・'i

「山尻 さんしり」か。質問した者(文淳得ら)と答えた者(沖縄の人間)とが同じ「もの」を見ながら、焦点は別々のところにあったというようなことがあり、そこから生じた誤解があろう。

また、当時の沖縄で「山(やま)」を「さん」と言ったかも疑問である。朝鮮語「山 산 san」の干渉があるか。

7) 「語音翻訳」に「山頂 사노츠지」(sa·no·chan·ci)「山底 사노시자」(sa·no·si·cja) とあるのが想起される。何らかの影響関係があるか。

「クリフォードごい」に yamana meetchee (path) があり, yama の存在が知られる。

51. 馬 (46)마 ma

[?mma] と対応。

「クリフォードごい」に ma (horse) とある。

52. 牛 (47)우시 'u·si

[?uʔji] と対応。

「クリフォードごい」に ooshee (cow, bullock) とある。

53. 豕 (48)시시 si·si

[jamaʃiʃi] (猪) と対応か。

「クリフォードごい」には boota (pig) がある。

54. 鶏 (49)두리 tu·ri

[tuʔji] と対応。

「クリフォードごい」には tooee (cock, fowl) とある。

55. 米 (50)구미 ku·mi

[kumi] と対応。

「クリフォードごい」には coomee (rice) とある。

.....
7) 第一節 参照。

56. 橘 (51)군회부 kun·hui·pu <구늬부 ku·nui·pu>

[kunubu] [kunibu] (みかん類) と対応。ハングルの綴字としては「구늬부 ku·nui·pu」も可。ハングル「⁸⁾ㅎ(h)」は母音間で弱化してしまう。それと、「19. 陽茎」の項で述べた現象(前の音節末子音と後の音節の母音との結合)とが関係して「군회부」は結果的に「구늬부」と同じになる(「93. 船 (67) 후늬」参照)。

「クリフォードごい」には kooneebou (orange) とある。

57. 甘藷 (52)한우슈 han·'u·sju

ハングル表記上は「하누슈 ha·nu·sju」でもよい。これと音韻的・形態的に対応するのは、奄美大島・喜界島に分布する [hanusi] [hansu:] などであろう。⁹⁾ 沖縄本島南部地域では [ʔmmu] (芋) という語形しか行われていない。

「クリフォードごい」には moo (potatoes, sweet potatoes) とある。

58. 甘蔗 (53)옥이 'uk·'i

[wu:dʒi] と対応。「옥이」は「우기」と綴っても同じで、[wugi] か [ʔugi] かを表わすと考えられる。現代語では、奄美大島に [wugi:] [wugi] が、徳之島に [ʔugi] が存在する。喜界島は [wuni] [ʔu:ni] [guni] など。¹⁰⁾ 沖縄本島南部地域は、ほとんど [wu:dʒi] であるが、南西部に [ʔu:gi] がある。

8) 正確には、母音と母音との間及び「ㄴ(n), ㅁ(m), ㅇ(ŋ), ㄹ(r)」と母音との間。

9) 中本(1981) p 182-183参照。

10) 中本(1981) p 194-195参照。

59. 烟草 (54)다박귀 ta・pak・kui

〔tabaku〕と対応。「박귀」の「ㄱ」は、「41. 六月」で述べたのと同様、無声子音を表記するためと考えられる。

「-귀」が「-kuji」であるとするれば、疑問を表す(接尾辞)/i/が付いていると解され、「다박귀」は「煙草か」を意味することとなる。が、「呂宋」語も全く同じ綴りとなっているから、単に'tobacco'である可能性が高い。

「クリフォードごい」には tobacco (tobacco) とある。

60. 雨傘 (55)가사 ka・sa

〔kasa〕と対応。

「クリフォードごい」に kassa (umbrella), kassa (hat, worn by the natives) がある。

61. 箸 (56)하시 ha・si

〔haʃi〕と対応。ただし、沖縄本島南部地域の現代語は〔me:ʃi〕か〔ʔume:ʃi〕である。それぞれ「みはし 御箸」, 「おみはし 御御箸」に対応すると思われる。「하시」と直接的に対応するのは、奄美大島・喜界島の〔haʃi〕であろう。¹¹⁾喜界島には〔paʃi〕〔Φaʃi〕も分布する。

「クリフォードごい」には fashay (chopsticks), mayshung (chopsticks) がある(それぞれ「箸は」, 「箸も」に対応)。

62. 烟臺 (57)시리 si・ri <치시리 chi・si・ri>

〔tʃiʃiri〕(キセル)と対応。「チシリ」の「チ」の母音の無声化が激しく「tʃ」と「ʃ」とが重なって聞こえたか。

「クリフォードごい」にも shirree (pipe) とある。

.....
11) 中本正智(1981) p370-371 参照。

63. 草履 (58)사바 sa・pa

[sa̠ba] と対応。奄美・沖縄・宮古・八重山全域的に [saba] である。ただし、奄美大島・喜界島・徳之島の一部と鳩間島に [dzo:ri] がある。

「クリフォードごい」に sabaugh, sabock (shoes, or sandals) とある。

65. 露酒 (59)소주 sjo・cu

「焼酎」のことであろうが、現代沖縄語との直接的対応語は考えにくい。語彙的には [sa̠ki] (酒) が対応しよう。ちなみに、現代朝鮮語には「소주 (焼酎)」があり、これは李朝期には「소주」であった。

「クリフォードごい」に sackkee (wine) とある。

66. 豆腐 (60)두부 tu・hu

[to:Φu] と対応。「도오부」などとなっていないのは、朝鮮語「두부 tu・pu (豆腐)」との混淆があったからか。

67. 油 (61)안다 'an・ta

[?anda] と対応。

77. 白村 (62)두마 tu・ma

地名の「泊 (とまり)」を差すのであれば、「두마리 tu・ma・ri」か「두마이 tu・ma・i」かの形で表記されてしかるべきである。「白」もさることながら、何らかの落ちがあるはずである。

80. 一 (63)씩잇 stwi・'is

[ti:tʃi] (ひとつ) と対応か。しかし、そうであれば、[tʃi] と対応する「치 chi」か「지 ci」かなどが表記されそうなものである。それが無いのは、「씩잇」が [ti:tʃi] ではなく [ti:] に対応する蓋然性が高いということになる。ハンデル「¹⁾ㅅ」は「無気音」を表示している可能性がある。また、母音字「-」

は、「ふて(つ)」*/pute (tu)/から [ti:(tʃi)] に到る途中のある時点¹²⁾の姿を伝えるものであると考えられる。

「クリフォードごい」には teetese (one) とある。

81. 二 (64) ^ㄸ stAs

「80. 一」と同様の理由で、「ふたつ」[ta:tʃi] ではなく、「ふた」[ta:] に対応すると考えられる。また、これも「80. 一」と同じく「ㄸ」は無気音を表わし、母音「、」(A) は「ふた(つ)」*/puta (tu)/から [ta:(tʃi)] に到る、ある時点の姿を伝えるものであろう。

「クリフォードごい」に tatesee (two) がある。

12) [tʰi:t] ように聞こえたか。[tʰi:] の発音が終了すると自然に舌が歯茎に着き、内破音 [tʰ] の状態になった。それを「一ㄸ」の「ㄸ」で示そうとしたのではなかろうか。「81. 二 (64) ^ㄸ」の二番目の(終わりの)「ㄸ」も同様である。

なお、音韻対応において、[ti:tʃi] を「ひとつ」ではなく、「ふてつ」に遡るとするのは、次のような理由による。

- ①「ひとつ」なのであれば、同じような音環境にある「ひと(人)」[ttʃu] や「ひとり(一人)」[tʃuji] などのように、[(t)tʃutʃi] か [tʃu:tʃi] かとなり「と」相当部分が [tʃu] のようになるはずである。
- ②「ひとつ」でないのなら何であるか。「語音翻訳」にある「請一鍾酒 사괴부 데즈아괴라」の「부데즈」pu·tʃi·ca がそれである。これは「ひとつ」ではなく「ふてつ」に対応すると考える以外にない(誤記・誤写がないという前提で)。
- ③「ふてつ」と考えると、後述するように(4-1 母音), 本「漂海録」に現れるハングル「一ㄸ」(wi) が*/エ/に対応することとも照応する。
- ④また、「ふたつ」が現代語で [ta:tʃi] であることとも平行的に説明できる。即ち、*/putetu/「ふてつ」・*/putatu/「ふたつ」の同じ/put-/の/-u-/の無声化が発端となって変化が起こり、最終的には [ti:tʃi]・[ta:tʃi] に到ったのである。

ちなみに、「おもしろさうし」には「ふてつ」がある。「ひとつ」はない。

89. 錢 (65)칸의 khan・'ui

「카니 kha・nui」と綴ってもよく、[kani] と対応。母音字「-ㅏ」は * / e / から / i / に変化する、過渡期的状態を反映していると解される。

91. 交易 (66)케라 khœi・ra

[kœi:ra] (変・換・代・替) と対応すると考えられる。「交易」することは「交換」することであるからであろう。

「クリフォードごい」の kayra (exchange, to, fans) も示唆を与えてくれる。

93. 船 (67)후니 hu・nui

[Φuni] と対応。「니」の母音字部分「-ㅏ」は、「89. 錢」の「-ㅏ」と同様、* / e / → / i / の過渡的姿。

「クリフォードごい」に hoonee (ship) とある。

94. 文字 (68)시미 si・mi

[simi] と対応。音韻的・形態的には「墨」と対応する語であるが、現代語でも「文字」(そして「学問」)の意。

「クリフォードごい」に simmee (ink) とある。

95. 筆 (69)후디 hu・tui

[Φu'di] と対応。「디」の母音字部分「-ㅏ」は「89. 錢」「93. 船」と同様、* / e / → / i / 途中の姿。

「クリフォードごい」に hoodee (pencil) とある。

96. 紙 (70)가빌 ka・pir

[kã'bi] と対応。しかし、それなら「가비」でよい。最後の「ㅍ」は何か。「紙なのである」と言った場合の [kã'biru ja'ru] の [ru] に当たるか。会話としては [ja'ru] を省略して [kã'biru] だけでも完結しよう。もう一つの可能性。イロカノ語「紙」PAPEL との混淆。

「クリフオードごい」に kabee (paper) とある。

97. 囊 (71) 밧쌩 mis・scin

未詳。[mitʃi:N] (閉じる) と関係があるか。

あるいは、イロカノ語か。次を参照。

¹³⁾
bistí (Sp. *vestip*), *agbistí*, To vest, *bistian*, To vest, to dress, to robe

98. 簪 (72) 이화 'i・hoa

[dʒi:Φa:] と対応。「파」(pha) ではなく、「화」(hoa) であることに注意。

「クリフオードごい」に eepha, jeewa (pin worn in the hair of boys) とある。

99. 扇 (73) 오지 'o・ci

[ʔo:dʒi] と対応。

「クリフオードごい」に ojee (fan) とある。

101. 無 (74) 비부랑 pi・pu・rang

未詳。(臆説。「をりはべらぬ」[wuibirang] の音位転換か。¹⁴⁾ [wu ibirang] → [wubirang] → [biwurang] (부비랑) → (비부랑))

102. 好 (75) 주라사 cu・ra・sa

[tʃurasa] (清らかさ・美しさ) と対応。

「クリフオードごい」に choorasa (good, handsome) とある。

.....
13) ILOKO-ENGLISH DICTIONARY による。

14) 早を [wu] に対応させるのは、朝鮮語の歴史的音変化 [p → β → w] を参照してのことである。

103. 大好 (76)주주라사 cu·cu·ra·sa

[tʃu:dʒurasa] (強^{つよ}清らさ, 大変(な)美しさ) と対応か。

105. 平安乎 (77)간쥬야 kan·cju·'ja

[gandʒu:ja:] (頑丈でな, 元気でな。頑丈だね, 元気だね) と対応か。

「クリフォードごい」に ooganjoo (very well (speaking of health)) とある。

「呂宋」語の 「아리우시 'a·ri·'u·si」 は, スペイン語の adiós (さようなら) に対応。

107. 何処在乎 (78)망카리야 maŋ·kha·rwi·'ja

[ma:ŋkajija] (どこには) か [ma:ŋkajiga] (どこにか) と対応か。

108. 白村在 (79)두마카리 tu·ma·kha·rwi

[tuma (ji) kaji] (泊に) と対応か。

「107」と「108」とに關係する「クリフォードごい」として次の例がある。
amaki eechoong or moodoeeng (go to, on shore) (go to, on land, or shore)

109. 彼処 (80)아마사라 'a·ma·ska·ra

[ʔamakara] (あそこから) と対応。「사」の「ㅅ」については前述。

無氣音表記。

「クリフォードごい」に次のようにある。-kara (by and by) (directly) (to offer a)

111. 取來 (81)무씬지스 mu·scin·ci·sko

[muttʃi ʔn̄'dzi ku:] (持って行って来い) と対応か。

4、『漂海録』「言語」の沖縄語

本『漂海録』と同時代・同地域の言葉（琉球語）を記録したと考えられる「クリフォード琉球語彙」がある。この資料については、第三章の第一節で詳しく扱うが、その結果を参考にしながら、「言語」「琉球」語の分析を行う。

ただし、資料の性質上、形態・統辞に触れるだけの材料がないので、残念ながら、音声・音韻に限った分析とならざるをえない。

ところで、特に外国（語）資料を対象とする場合、その筆録者の言語（方言）の影響が資料に現われる可能性を考慮に入れておく必要があるが、本資料においては、それが二重構造になっている。普通なら、「琉球」語及び「呂宋」語に接した人達が全羅道（牛耳島）言葉の使い手だから、その背景だけを考えればよいのであろうが、今回は、筆録者が（牛耳島の人達ではなく）全羅道言葉以外の使い手だということがあって、注意を要する。丁若詮の言葉が中央（ソウル）語のそれであることは疑いないし、柳菴にしても、流配された人物らしく思われるから、同じであろう。そうであるから、全羅道言葉を背景にもった人達の発音した「琉球」語なり「呂宋」語なりが、「ハングル」という文字で表記された時点において、それは中央語（ソウル語）を背景にした（中央語に「翻案」された）資料となったと見なすことができるのである。もちろん、全羅道言葉を一切考慮の外に置くわけではないが、以下の分析においては、主として中央語（ソウル語）を対象にすればよいということになる。

なお、用例は（ハングルを省き）、ハングル翻字（転写）のみで示すこととする。そして、その示し方は次のようにする。

①（「琉球」語通し番号）

㊦用例ハングル翻字

㊧〔対応日本語〕

㊨漢語通し番号

㊩漢語

〈例〉 ① ㊦ ㊧ ㊨ ㊩
 (67) hu・tui [ふで] 95 筆

『漂海録』 「言語」 「琉球」 語

(『「琉球・呂宋漂海録」の研究』 1994年)

修道人	土人	唐人	兄弟	無差人	口	果	月	移
琉球	呂宋	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球
琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球

修道人	土人	唐人	兄弟	無差人	口	果	月	移
琉球	呂宋	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球
琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球

修道人	土人	唐人	兄弟	無差人	口	果	月	移
琉球	呂宋	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球
琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球

山	馬	牛	豚	羊	六	楊	甘	甘	甘	烟
琉球										
琉球										

五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	每日	水
琉球	琉球	琉球	琉球						
琉球	琉球	琉球	琉球						

正月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
琉球	琉球										
琉球	琉球										

4-1 母音

4-1-1 * /エ/ と * /イ/

現代語では一様に /i/ [i] であっても、遡れば * /エ/ に対応するものと * /イ/ に対応するものがあるので、その観点から用例を見ていく必要がある。

* /エ/ 相当部分は、以下のように、ハングルで 「ㄹ」 (ɾi)、 「ㄱ」 (wi)、 「ㄷ」 (i) 三通りの現れ方をしている。

「ㄹ」 (ɾi) の例

(16) tin · 'ɾi <tan · 'ɾi> [たね 種] 19 陽茎

(22) 'i · nɾi · tsi [いねて] 25 眠

「ㄱ」 (wi) の例

(29) kan · 'wi <kan · cwi, kan · zwi> [かぜ] 34 風

(65) khan · 'wi [かね] 89 銭

(51) kun · hwi · pu [くねんぼ 九年母] 56 橘

(69) hu · twi [ふで] 95 筆

(67) hu · nwi [ふね] 93 船

「ㄷ」 (i) の例

(57) si · ri [(キ) セル] 62 烟台

(22) 'i · nɾi · tsi [いねて] 25 眠

(81) mu · scin · ci · sko [もちていきてこ] 111 取来

(50) ku · mi ㊦ [こめ] 55 米

まず注目されることは、* /ネ/ 相当部分が nɾi (←-n · 'ɾi も結果的に同じ) と nwi (←-n · 'wi, -n · hwi も結果的には同じ) との二様に現れるということである。音韻論的処理なるものを施すとすれば、一つに帰せしめてしまうのに都合の良い例となるが、そのような操作をする以前の段階で考察する。

その前に、「ㄹ」「ㄱ」に関する「呂宋」語の用例も見ておく。用例の示し方は、前述のそれにならい、呂宋語通し番号：用例ハングル翻字：対応イロ

カノ語 (あるいはスペイン語) : 漢語通し番号 : 漢語とする。以下同じ。

- ③ kli · spi · tan [KAPITAN] 7 小官
- ⑮ cu · mui <mui · cu> [mes] 35 月
- ③③ kλ · ran · tui [grande] 78 大
- ⑤③ mɔn · tui [dónde] 106 那裏
- ④③ sui · ka · 'uɔr · no [SINGYU(TALLU)] 88 最小銀錢
- ④ spλ · rui [PADRE] 10 修道人
- ⑥ kom · spλ · rui [KOMPADRE] 15 彼人
- ⑤ cuin · ta · ma · ri [santamaria] 11 土人

1800年ごろのハングルの音価について見てみよう。

「↓」(ai) についてみる。許雄 (1965) によると、次のようである。

$$\left. \begin{array}{l} / \Delta j / > / aj / \\ / aj / - / aj / \end{array} \right\} > / \epsilon /$$
 (注) / Δj / は「↓」のこと。

と変化した可能性が高く、「↓」の消滅を1780年頃と見れば、/ Δj / > / aj / の変化も同時期であったろうから、次の段階の / aj / > / ε / の変化は1800年以後のことだと考えざるをえない。(P 436~437)

また、李基文 (1972) には、次のようにある。少し長く引用する。

母音 '、' は、すでに16世紀に第一段階の消失(第二音節以下での消失)を経験しているが、18世紀後半に到って第二段階の消失(語頭音節での消失)が起こり、完全にその痕跡を留めなくなる。(P 200)

音素 '、' は消滅したが、文字 '、' は、現代正書法 (1933) によって廃止されるまで続けて使用された。

この '、' の消失で第一音節の二重母音 '↓' が 'H' に変わったが、その後しばらくして 'H' [ai] と 'H' [əi] は、それぞれ [ε] [e] と単母音化した。(P 201)

二重母音 'H', 'H' の単母音化は、18世紀末葉に起こったと結論できる。(P 202)

次に、「↓」(wi) について見る。「↓」は、現代語では「-」([w]あるいは

(i)か「ɿ」(〔i〕)かのどちらかで発音される傾向にあり、所有格を示す「의」の場合は〔e〕となるのが普通である。ここに到る過程の一端を、許雄(1965)は「/ij/の不安定さ」と言い、「不安定になったのは」「19世紀からだと考えられる」(P438)と言う。また、李基文(1972)には、「中世末葉に‘물」(根)の‘ㅍ’が‘ㅍ’で現われる例があるが」「この傾向は17世紀になって一般化した」(P203)とあり、さらに「ここに来て再び、‘ㅍ>ɿ’の変化が起こった」(同頁)や「19世紀に入って‘ㅍㅍㅍ’の次の‘ㅍ’が‘ɿ’に変化した単語が多く見出される」(同頁)や「16世紀に‘ㅍ’が非語頭音節で‘ㅍ’に変化した事実」(同頁)などが参考になる。

なお、ハングル「ㅍ」(wi)の用例は、* /エ/相当部分以外には次の二例が目につく。

(44) mi · cui [みづ] 49 水

(63) stui · 'is [ひと (つ)] 80 一

これらについては、後で述べる(母音の無声化、無気音表記、

口蓋化・破擦音化)

以上のことと、「ㅍ」(oi)、「ㅍ」(ai)の用例が長音〔ε:〕を示しているらしいこと(後述。{4} * /ai/ * /ae/)、そして「クリフォードごい」の結果などを照らし合わせると、「ㅍ」と「ㅍ」とは〔ε〕及び〔e〕を示している可能性が高く、また〔i〕あたりまでもカバーしていると考えられる。

「ɿ」で表わされた例が、* /i/のあとの「て」であって、ほとんど〔i〕となっていたであろうことと照応する。

* /イ/に対応する部分は、例外なく「ɿ」(i)である。主な用例のみをあげる。

* /イ/の用例

(25) ㅍ · nai · tsi [いねて] 25 眠

(53) 'uk · ㅍ [をぎ 荻] 58 甘蔗

(48) ㅍ · ㅍ [しし] 53 豕

(23) ㅍ · 'jug [しぬ] 26 死

(42) ㅍ · 'oa · si [しはす] 47 十二月

- (41) si · mo · ci · ci [しもつき] 46 十一月
 (47) 'u · si [うし] 52 牛
 (56) ha · si [はし] 61 箸
 (13) ku · ci [くち] 16 口
 (37) chi · si · koa · chi <si · chi · koa · chi> [しちぐわつ] 42 七月
 (43) maɪ · ni · chi [まいにち] 48 毎日
 (49) tu · ri [とり] 54 鶏

4 - 1 - 2 * /ア/

これはほとんど「ト」(a)で表記されている。唯一の例外が、「ふたつ」の「た」相当部分である。(64)stas [ふた(つ)] 81二。これについては「4-6」で述べる。

* /ア/ の用例

- (61) 'an · ta [あぶら] 67 油
 (80) 'a ma · ska · ra [あまから] 109 彼処
 (55) ka · sa [かさ] 60 雨傘
 (29) kan · 'wi [かぜ] 34 風
 (65) khan · 'wi [かね] 89 銭
 (11) ka · ma · tu [カマド] 13 童児
 (70) ka · pir [かみ] 96 紙
 (52) han · 'u · sju [かんしよ] 57 甘蔗
 (77) kan · cju · 'ja [がんじょう] 105 平安乎
 (58) sa · ba [サバ] 63 草履
 (45) san · sir · 'i [さんしり] 50 山
 (16) tin · 'li <tan · 'li> [たね] 19 陽莖
 (54) ta · pa · kui [タバコ] 59 烟草
 (3) 'u · na · kui [をなご] 3 女
 (56) ha · si [はし] 61 箸
 (46) ma [うま] 51 馬

- (17) ma · rui <ma · nui> [マーニュー] 20 婦人私処
 (58) sa · pa [サバ] 63 草履
 (30) koa · chi [ぐわつ] 35 月

4 - 1 - 3 * /オ / と / ウ /

* /オ / 相当部分は圧倒的に「一」(u) で表記されており、自由異音的に二・三「一」(o) の例がある。「クリフォードごい」の結果とも一致する。

* /オ / の用例

- (5) 'u · sju [おしゆ 御主] 5 丞相
 (11) ka · ma · tu [かまど 竈] 13 童児
 (50) ku · mi [こめ] 55 米
 (62) tu · ma [とま (り)] 77 白村
 (49) tu · ri [とり] 54 鶏
 (81) mu · scin · ci · sko [もちて〜] 111 取来
 (53) 'uk · 'i [をぎ 荻] 58 甘蔗
 (25) 'u · tu · 'i [をどり、をどれ] 28 舞
 (3) 'u · na · kui [をなご] 3 女
 (21) 'o · 'o [おお] 24 諾
 (81) mu · scin · ci · sko [もちていきてこ] 111 取来
 (41) si · mo · ci · ci [しもつき] 46 十一月
 (1) scjo [ひと、ひとは] 1 人

「一」(o) の例に関しては、「非語頭音節での '一>' 傾向が追加され」(李基文前掲書 P203) が参考になろう。

* /ウ / は例外なく「一」(u) である。

* /ウ / の用例

- (47) 'u · si [うし] 52 牛
 (13) ku · ci [くち] 16 口
 (51) kun · hui · pu [くねんぼ] 56 橘
 (39) kuŋ · koa · chi [くぐわつ] 44 九月

(28) hu [ふ] 33 福

(69) hu · tui [ふで] 95 筆

(67) hu · nui [ふね] 93 船

参考として、「呂宋」語に関する「ㄊ」と「ㄐ」の用例を追加する。

「ㄊ」(o) の用例

⑥ kom · spa · rui [KOMPARE] 15 彼人

④⑤ skom · spa · rui · koan · to · 'joi · si [kompare~] 90 價幾何

⑤③ kom · spa · rui · mən · tui · pa · si · 'ja [kompare~] 106 那裏去乎

⑪ sin · 'i · 'o · ra [senōra] 29 謝罪

⑭ po · pur · 'oi [POBRE] 32 可憐

⑳ man · sok [MANOK] 54 鷄

㉘ 'ir · no · sko [ILOKO] 72 一啗呢

㉞ no · 'i [DOS] 81 二

⑤① moi · no [bueno] 102 好

⑨ tor · no · pi [TURUG] 25 眠

⑯ stan · nom [DANUM] 49 水

㉟ tar · no [TALLU] 82 三

④① sar · no · psa [TALLU PISI] 85 中銀錢

「ㄐ」(u) の用例

⑰ ma · pu [BABUY] 53 豕

⑩① mur · ni · ta · ra [moridera?] 26 死

㉒ 'ui · mu [emo?] 68 福建

③② hap · pun [HAPON] 76 日本

③⑨ pi · sju [PISOS] 84 大銀錢

⑤② 'a · ri · 'u · si [adiós] 105 平安乎

④④ pu · 'ak [PIPAK] 89 錢

「ㄊ」と'o'、「ㄐ」と'u'の対応を原則としているようであるが、交叉した対応(ㄊ: u、ㄐ: o)を示す例もあり、少々複雑である(ㄐ: iの例さえあ

る)。それが、琉球語の表記にも、多少反映されている。

4-1-4 二重母音あるいは長母音

多和田(1980)では/ε/と/ɔ/とを認めているが、これはともに、音声的実態としては「長音」である。

本資料も同様の現象を見せている。用例を、少し整理して、示す。

* /ai/ → /ee/ [ɛ:]

(6) tai · sjaŋ · koaŋ [だいしやうくわん] 6 大官

(43) mɔi · ni · chi [まいにち] 48 毎日

前述(P52)の/ɔj/・/aj/ → /ε/を参照。ただし、ハングルでは、原則として、長音が表記上に現われないから、ここで上の例を長音とするのは、現代沖縄語から類推してのことである。以下においても同じ。

* /ae/ → /ee/ [ɛ:]

(66) kɔi · ra [かへら] 91 交易

ただし、この例は、厳密な意味では*/ae/に該当しない。「ハ行転呼音」を経過したあとの状態で捉えた場合のことになる。

(二重母音「ɔi」(ɔi)の単母音についてはP80で述べた。)

ちなみに、ハングル「ɔi」の用例として、「呂宋」語に次のようなものがある。

⑭ po · pur · 'ɔi [POBRE] 32 可憐

* /au/ → /oo/ [ɔ:]

(73) 'o · ci [あふぎ] 99 扇 (ハ行転呼後の形)

(31) sjo · koa · chi [しやうぐわつ] 36 正月

(4) 'o [わう] 4 国王

(18) main · so · 'o · ri [いまりさうらへ] 21 坐

「-ɔ-」(-so · 'o-)は紛れもなく長音を表記しようとしたものである。

* /ao/ → /oo/ (用例ナシ)

* /eu/ → /oo/ [ɔ:]

(7) sjo・koag [せうくわん] 7 小官

(59) sjo・cu [せうちう 焼酎] 65 露酒

* /ou/ → /uu/ [u:]

(77) kan・cju [がんじよう 岩乗] 105 平安乎

* /oo/ → /uu/ (用例ナシ)

* /iu/ → /juu/ [ju:]

(59) sjo・cu [せうちう] 65 露酒

ハンゲル「ス」(c)は、このころ口蓋化しており ((tʃ))、(59)は ([so:tʃu:])
を表示していると考えられる。

4 - 1 - 5 (母音の)無声化

次の例は、母音の無声化を示すものと判断される。

(37) chi・si・koa・chi [しちぐわつ] 42 七月

(57) si・ri [(キ)セル] 62 烟台

次の三つの例は、「無声化」を経て「無気音」へと移行したと考えられる。

「無気音表記」参照。

(63) stui・'is [ひと (つ)] 80 一

(64) stAs [ふた (つ)] 81 二

(1) scjo [ひと] 1 人

以上をまとめると、次のようになる。

1. * /イ/ [i]

2. * /エ/ [ɛ, e, i, i]

3. * /ア/ [a]

4. * /オ/ [u, o]

5. * /ウ/ [u]

6. * /ai/ [ɛ:]

* /ae/ [ɛ:]

- * /au/ [o:]
- * /ao/ 用例ナシ
- * /eu/ [o:]
- * /ou/ [u:]
- * /oo/ 用例ナシ
- * /iu/ [ju:]

7. 無声化有り。

二重母音は長母音化しているのに、* /エ/・* /オ/は /i/・/u/ に移行していない。その過程にあるという姿である。これは「クリフォードごい」の分析結果とも一致し、沖縄語の「三母音化」なるものが、比較的新しいものであるという可能性を示唆する。

4-2 半母音

4-2-1 /j/

次の用例から /j/ を認めることができる。

- (26) kun · 'ci · hja [クネーヤー] 29 謝罪
- (77) kan · cju · 'ja [がんにようヤー] 105 平安乎
- (5) 'u · sju [おしゆ] 5 丞相
- (52) han · 'u · sju [かんしよ] 57 甘蔗
- (77) kan · cju · 'ja [がんにようヤー] 105 平安乎
- (23) sin · 'jug [しぬ] 26 死
- (31) sjo · koa · chi [しやうぐわつ] 36 正月
- (6) tai · sjaj · koag [だいしやうくわん] 6 大官
- (7) sjo · koag [せうくわん] 7 小官
- (59) sjo · cu [せうちう] 65 露酒
- (1) scjo [ひと] 1 人
- (17) ma · rwui <ma · nwui> [マーニュー] 20 婦人私処

「解説」で見たごとく、(52)、(17)は奄美の言葉である可能性が高いから、沖縄

島中・南部地域の言葉に限った考察をする場合は、語例(用例)から除くべきである。

4-2-2 /w/

次の用例から/w/が認められる。

(4) 'o [わう] 4 国王

(53) 'uk·'i [をぎ] 58 甘蔗

(2) 'u·ski·ka [をとこ] 2 男

(25) 'u·tu·'i·ri [をどり、をどれ] 28 舞

(3) 'u·na·kui [をなご] 3 女

(72) 'i·hoa [ジーファー] 98 簪

(30) koa·chi [ぐわつ] 35 月

(31)~(40) koa·chi [ぐわつ] 36~45 月

(42) si·'oa·si [しはす] 47 十二月

(6) tai·sjaŋ·koaŋ [だいしやうくわん] 6 大官

(7) sjo·koaŋ [せうくわん] 7 小官

(38) hoa·chi·koa·chi [はちぐわつ] 43 八月

(4) (53) (2) (25) (3)については{12}声門閉鎖(喉頭化)と非声門閉鎖(非喉頭化)で述べる。

4-3 子音

4-3-1 * /キ、ケ、カ、ク、コ/の子音

ハングル「フ」(k)、「ヲ」(kh)・「ㄱ」(sk)で表記されている。用例は次のようである。

(55) ka·sa [かさ] 60 雨傘

(29) kan·'ui [かぜ] 34 風

(11) ka·ma·tu [カマド] 13 童児

(70) ka·pir [かみ] 96 紙

- (39) kuŋ · koa · chi [くぐわつ] 44 九月
 (13) ku · ci [くち] 16 口
 (51) kun · hui · pu [くねんぼ] 56 橘
 (50) ku · mi [こめ] 55 米
 (54) ta · pa · kui [タバコ] 59 烟草
 (36) sjuk · ku · koa · chi <rjuk · ku · koa · chi> [ろくぐわつ] 41 六月
 (65) khan · 'ui [かね] 89 銭
 (66) khoi · ra [かへら] 91 交易
 (78) maŋ · kha · rui · 'ja [-かり-] 107 何処在乎
 (79) tu · ma · kha · rui [-かり] 108 白村在
 (80) 'a · ma · ska · ra [-から] 109 彼処
 (81) mu · scin · ci · sko [-こ] 111 取来

(29)と(65)とを比べればわかるように、ハングルの「フ」と「ヲ」とで差異を示そうとはしていません。しかし、「ク」とこれら二つとの間には違いが存し、「有気音」と「無気音」との問題を考えるうえでの好材料を提供してくれている。「解説」で触れたとおりである。「無気音」のことは、「無気音表記」で改めて扱う。

以上により、「クリフォードごい」より導き出された /k/ ([k, kʰ]) に [kʰ] (無気音) が追加されなければならない。

* /キ/ については、「口蓋化・破擦音化」で述べる。

4-3-2 * /ギ、ゲ、ガ、グ、ゴ/ の子音

例外なくハングル「フ」(k)で表記されている。このハングルだけでは、それが無気音 [k] を示しているのか、有気音 [g] を示しているのか判然としないのであるが、現代(沖縄)語との対応関係から有気音 [g] と認定できるのである。用例は以下のとおり。

- (77) kan · cju · 'ja [がんじようヤー] 105 平安乎
 (30)~(40) koa · chi [ぐわつ] 35~45 月
 (2) 'u · ski · ka [をとこ] 2 男

(3) 'u · na · kui [をなご] 3 女

(53) 'uk · 'i [をぎ] 58 甘蔗

* /ギ/ については、「口蓋化・破擦音化」で述べる。

4 - 3 - 3 * /チ、テ、タ、ツ、ト/ の子音

* /チ/ と * /ツ/ とは、口蓋化さらには破擦音化しており、ハングル「ㄷ」(c) ・ 「ㄷ」(ch) で表記されている。

(13) ku · ci [くち] 16 口

(59) sjo · cu [せうちう] 65 露酒

(81) mu · scin · ci · sko [もちていきてこ] 111 取来

(43) mɔi · ni · chi [まいにち] 48 毎日

(41) si · mo · ci · ci [しもつき] 46 十一月

(76) cu · cu · ra · sa [つよきよらさ] 103 大好

(30)~(40) koa · chi [ぐわつ] 35~45 月

* /チ/ * /ツ/ については、「口蓋化、破擦音化」でも述べる。

* /テ、タ、ト/ は、一様にハングル「ㄷ」(t) で表記されている。「ㄷ」(th) の用例はない。

(22) 'i · nɔi · tsi [いねて] 25 眠

(16) tin · 'ɔi <tan · 'ɔi> [たね] 19 陽茎

(54) ta · pa · kui [タバコ] 59 烟草

(60) tu · hu · [たうふ] 6 豆腐

(64) stɔs [ふた(つ)] 81 二

(62) tu · ma [とま(り)] 77 白村

(49) tu · ri [とり] 54 鶏

(63) stui · 'is [ひと(つ)] 80 一

有気音を示すハングル「ㄷ」の用例がないからといって、当時の沖縄語がそうであったことにはならない。むしろ、逆である。前に「ㄷ」(kh)の存在を見た。後述するように「ㄷ」(ph)もあるからである。

4-3-4 * /ヂ、デ、ダ、ヅ、ド / の子音

* /ヂ / に対応する用例はないが、* /ヅ / が一例あり、ハングル「ㄷ」(c) で表記されている。現代語との対応から有声音であると見なす。(ハングルの「ㄷ」は母音間 (及びこれに準じる環境) で有声音になることも考慮されている。19世紀初めには、口蓋化し [d₃] となっていた。)

(44) mi·cwi [みづ] 49 水

* /デ、ダ、ド / は、ハングル「ㄷ」(t) で表記される。これも現代語との対応、ハングル「ㄷ」の母音間での有声化現象から、有声音 [d] を表示したものと見なされる。

(69) hu·twi [ふで] 95 筆

(6) tai·sjaŋ·koaŋ [だいしやうくわん] 6 大官

(11) ka·ma·tu [カマド] 13 童児

(25) 'u·tu·'i·ri [をどり、をどれ] 28 舞

4-3-5 * /ヒ、ヘ、ハ、フ、ホ / の子音

「(15) phi·'i 18 鼻」が「へ (屁)」に対応するのであれば、興味ある用例となるが、未詳のため、保留とする。

ハングル「ㅎ」(h) で表記された、次の例をあげることができる。

(56) ha·si [はし] 61 箸

(38) hoa·chi·koa·chi [はちぐわつ] 43 八月

(72) 'i·hoa [ジーファー] 98 簪

(28) hu [ふ 福] 33 福

(69) hu·twi [ふで] 95 筆

(67) hu·nwui [ふね] 93 船

(60) tu·hu [たうふ] 66 豆腐

* /ヒ / と * /ホ / の用例がない。

* /ハ / に「ㅎ」(ha) と「ㅏ」(hoa) との二通り現われている。これをどう解釈するか。

「解説」で見たとおり、(56)ha·si は奄美の言葉である可能性が高いから、こ

れを除外して（沖縄島中・南部の言葉を）考えることにする。

「𠵼」(hoa) は、両唇摩擦音「Φ」を表示しようとした結果の表記であることは疑いを入れまい。これから類推すれば「𠵼」(hu) も〔Φu〕である可能性が高くなる。

もともと、現代語で、「葉」は〔Φaː〕であるのに「齒」は〔haː〕であるという事象もあるから、慎重である必要があるが、「クリフォードごい」に‘fa’や‘pha’などがあったことと照らし合わせれば、この当時の*／ヒ、へ、ハ、フ、ホ／の子音は両唇摩擦音〔Φ〕であったとしてよいのではなかろうか。

4-3-6 *／ビ、ベ、バ、ブ、ボ／の子音

次の用例は、現代（沖縄）語との対応、ハングル「ㅍ」(p) の性質等から、両唇破裂有声音〔b〕を示しているものと判断される。

(51) kun・hwi・pu〔くねんぼ〕56 橘

(54) ta・pa・kui〔タバコ〕59 烟草

以上の他に本文中に次の例がある。

二十二の6 ku・pa〔クバ〕九波木

二十八の2 // // //

二十八の5 ma・sa〈pa・sa〉〔バサ〕磨沙

ハングルの「ㄹ」(m) が「呂宋」語（イロカノ語）の‘b’に対応する例がある。

⑰ ka・ma〔KABAYO〕51 馬

⑱ ma・skʌ・'o〔BAKA〕52 牛

⑲ ma・pu〔BABUY〕53 豕

㉑ ma・ka・si〔BAGAS〕55 米

㉓ ma・ki〔BAGIO?〕73 馬宜

④1 mjɔiŋ・thɔŋ〔BENTE〕86 小銀

⑤0 moi・no〔bueno〕102 好

二十八の5 ma・saも同様の例であって、〔basa〕を示す。

4-3-7 * /シ、セ、サ、ス、ソ / の子音

- (48) si · si [しし] 53 豕
- (37) chi · si · koa · chi < si · chi · koa · chi [しちぐわつ] 42 七月
- (23) sin · 'jug [しぬ] 26 死
- (42) si · 'oa · si [しはす] 47 十二月
- (41) si · mo · ci · ci [しもつき] 46 十一月
- (45) san · sir · 'i [さんしり] 50 山
- (47) 'u · si [うし] 52 牛
- (56) ha · si [はし] 61 箸
- (31) sjo · koa · chi [しやうぐわつ] 36 正月
- (6) tai · sjaŋ · koaŋ [だいしやうくわん] 6 大官
- (5) 'u · sju [おしゆ] 5 丞相
- (52) han · 'u · sju [かんしよ] 57 甘蔗
- (7) sjo · koaŋ [せうくわん] 7 小官
- (59) sjo · cu [せうちう] 65 露酒
- (57) si · ri [(キ)セル] 62 烟台
- (45) san · sir · 'i [さんしり] 50 山
- (33) san · koa · chi [さんぐわつ] 38 三月
- (55) ka · sa [かさ] 60 雨傘
- (75) cu · ra · sa [きよらさ] 102 好
- (68) si · mi [すみ] 94 文字

例外なくハングル「ハ」(s) で表記されている。si はもとより、sja、sju、sjo より硬口蓋音 [ʃ] を推しはかることができよう。

* /セ /、* /ス / について、「口蓋化・破擦音化」で述べる。

4-3-8 * /ジ、ゼ、ザ、ズ、ゾ / の子音

用例が少ない。確定的なのは次の二例だけである。

- (8) tu · cu [つうじ] 8 通事

(77) kan·cju [がんじよう] 105 平安乎

ハングル「ㄷ」(c)は、このころ口蓋化して[tʃ]となっており、母音間(及びこれに準じる環境)で有声音となるから、[dʒ]を示していることになる。

「4-1-4」も参照。「口蓋化・破擦音化」も参照。

4-3-9 * /ミ、メ、マ、ム、モ / の子音

ハングル「ㄹ」(m)で表記されている。特記すべき事柄はない。用例を示す。

(14) mi·mi [みみ] 17 耳

(44) mi·cwi [みづ] 49 水

(68) si·mi [すみ] 94 文字

(50) ku·mi [こめ] 55 米

(46) ma [うま] 51 馬

(43) mai·ni·chi [まいにち] 48 毎日

(11) ka·ma·tu [カマド] 13 童児

(78) mag·kha·rwi·'ja [マー〜] 107 何処在乎

(80) 'a·ma~[あま〜] 109 彼処

(62) tu·ma [とま(り)] 77 白村

(41) si·mo·ci·ci [しもつき] 46 十一月

(81) mu·scin·ci·sko [もちて〜] 111 取来

4-3-10 * /ニ、ネ、ナ、ヌ、ノ / の子音

ハングル「ㄹ」(n)で表記されているが、一つだけ例外的に「ㄹ」が脱落した形のものとなっている。また、「解説」の関連するところで述べたように(P62)、ハングルの綴りでは前の音節の最終子音(字)は後続音節が母音で始まる場合その後続母音(字)と結合して(発音されて)しまう。

(43) mai·ni·chi [まいにち] 48 毎日

(25) 'i·nai·tsi [いねて] 25 眠

(16) tin·'ai <tan·'ai> [たね] 19 陽茎

- (65) khan · 'wi [かね] 89 錢
 (67) hu · nui [ふね] 93 船
 (23) sin · 'juŋ [しぬ] 26 死
 (3) 'u · na · kui [をなご] 3 女
 (32) 'im · koa · chi [にぐわつ] 37 二月
 (32) 'im · koa · chi については、「撥音」で述べる。

「クリフォードごい」には、「gn」という綴りがあって、硬口蓋鼻音 [ŋ] の存在を確かめることができた。本資料でも(23)sin · 'juŋ から同様のことが言えよう。

4-3-11 * /リ、レ、ラ、ル、ロ / の子音

「クリフォードごい」では、(アルファベットの) 'd' 'r' 'l' が自由異音的に出現したのでひとつにまとめて /d/ [d, r, l] のようにしたが、本資料では [d] を示す「ㄷ」(t) と [r] を示す(と推測される)「ㄹ」(r) とで書き分けが行われている。* /デ、ダ、ド / については、すでに4-3-4 で見た。「ㄹ」の用例を示す。

- (49) tu · ri [とり] 54 鶏
 (45) san · sir · 'i [さんしり] 50 山
 (25) 'u · tu · 'i · ri [をどり · をどれ] 28 舞
 (19) 'u · sa · ka · ri [めしあがれ] 22 喫
 (57) si · ri [キセル] 62 烟台
 (78) maŋ · kha · rui [-かり · かれ] 107 何処在乎
 (79) tu · ma · kha · rui [とまりかり · かれ] 108 白村在
 (66) khei · ra [かへら?] 91 交易
 (80) 'a · ma · ska · ra [あまから] 109 彼処
 (102) cu · ra · sa [きよらさ] 102 好
 (36) suk · ku · koa · chi <ruk · ku · koa · chi> [ろくぐわつ] 41 六月
 (36) suk · ku · koa · chi については「解説」の当該箇所述べた。

ハングル「ㄹ」だけからは弾き音 [r] と側面音 [l] の問題は論じられ

ない。これを補うものとして「クリフォードごい」を位置づけることができよう。

4-3-12 声門閉鎖（喉頭化）と非声門閉鎖（非喉頭化）

声門閉鎖音〔?〕を示そうとしたと思われる表記例はない。

ハングルには、声門閉鎖音を表記する文字「ㅁ」が用意されていたが、19世紀は、使用されなくなって久しきを経たころであった。本「漂海録」に現われないのは当然である。

以上の理由により、「クリフォードごい」と同様、対応する現代（沖縄）語との関連で考えなければならない。

手がかりになると考えられるのが次の例である。

(46) ma〔うま〕51 馬

現代語では〔?mma〕である。(46)maという表記は、当時も〔?mma〕に近い形であったことを物語ると思われる。〔?uma〕などであったとすれば「우마」(u・ma)のように表記されたであろう。漂流者が〔?m-〕を聞きとることができなかつた可能性が高い。万一聞き取れたとして、それを再現して聞かせても筆録者が聞き取れたかどうか。ここでも聞き取つたとしても、ハングルの正書法では「ㅁㅁ」(mma)などというのは許されないから、表記の仕様がなかった。

現代（沖縄）語で、母音で始まる（とされる）言葉の最初は、声門閉鎖（喉頭化）音かそうでない（非喉頭化）音かのいずれかである。また、ハングルの綴字法では、母音で始まる音節の場合、母音字の前に「ㅇ」（'）を添える。この二つの事柄から、資料中「ㅇ+母音」の形で表記されたものには、声門閉鎖（喉頭）音／?／を示している場合と非喉頭化音／'／を示している場合とがあることになる。「解説」で見たことを参照しながら整理すると、以下のようになる。

／?／対応例

(61) 'an・ta〔あぶら〕67 油

(80) 'a・ma〔あま〕109 彼奴

- (20) 'u [う] 23 唯
 (47) 'u·si [うし] 52 牛
 (5) 'u·sju [おしゆ] 5 丞相
 (73) 'o·ci [あふぎ] 99 扇
 (21) 'o'o [おお] 24 諾

／'／対応例

- (4) 'o [わう] 4 国王
 (53) 'uk·'i [をぎ] 58 甘蔗
 (2) 'u·ski·ka [をとこ] 2 男
 (25) 'u·tu·'i·ri [をどり・をどれ] 28 舞
 (3) 'u·na·kui [をなご] 3 女

現代(沖縄)語には、／?j-／：／'j-／,／?w-／：／'w-／の対立も存するが、本資料では、その数が少ないこともあって、用例を見つけ出すことができない。

4-4 撥音

伝統的な用語に従い、「撥音」と言う。単独で「拍」または「モーラ」を形成すると考えられる鼻音のことである。／N／と抽象されるものどものことを考える。

軟口蓋音 [k] [g] を示すハングル「フ」(k) の前と語末では「○」(ŋ)、その他の前では「ㄴ」(n) という原則が成り立つが、例外が二つある。(33)と(32)である。

「○」(ŋ) の用例

- (39) kuŋ·koa·chi [くぐわつ] 44 九月
 (6) tai·sjaŋ·koaŋ [だいしやうくわん] 6 大官
 (7) sjo·koaŋ [せうくわん] 7 小官

「ㄴ」(n) の用例

- (61) 'an·ta [あぶら] 67 油

- (81) mu · scin · ci · sko [もちていきてこ] 111 取来
 (18) main · so · 'o · ri [まゐりさうらへ] 21 坐
 (77) kan · cju [がんじよう] 105 平安乎
 (45) san · sir · 'i [さんしり] 50 山
 (29) kan · 'ui <kan · cui> [かぜ] 34 風
 (33) san · koa · chi [さんぐわつ] 38 三月

「ロ」(m) の用例

- (32) 'im · koa · chi [にぐわつ] 37 二月

「-n · k-」と「-m · k-」の解釈をどうするか。まず、(32)'im · koa · chi は現代語[niggwatʃi]に対応するのであった。細かいことは省くが、この[nig]という部分の鼻音の響きあい「唸」('im)の形をとらせた。鼻音を強調した表記になったと思われる。

(33)の san · koa · chi も同一線上にあると考えられよう。同じく鼻音の強調である。ハングルの正書法上「-ŋ · k-」でなければならないという制約がないことも背景にある。

このことは、この種の鼻音が、「鼻母音」などという「母音」に付属したのではなく、「撥音」と呼ばれるべき、独立した存在であることを主張しているようで興味深い。

4-5 促音

これも伝統的呼び名に従っている。/Q/と表示されるもの。

現代(沖縄)語との対応から、促音を含んでいると予想される用例は、次の二つしかない。現代語の音声表記も添える。

- (1) scjo [ひと] 1 人 [ttʃu]

- (81) mu · scin · ci · sko [もちていきてこ] 111 取来 [muttʃiʔndziku:]

そしてこれらは、図らずもと言うべきか、当然の結果と言うべきか、無気音表記の形をとっているのである。

4-6 無気音表記

既に見てきたように、次の例は、ハングルの無気音表記に相当するものであった。

「ㄱ」(sk) の例

- (2) 'u · ski · ka [をとこ] 2 男
- (80) 'a · ma · ska · ra [あまから] 109 彼処
- (81) mu · scin · ci · sko [もちていきてこ] 111 取来

「ㅅ」(sc) の例

- (1) scjo [ひと] 1 人
- (81) mu · scin · ci · sko [もちていきてこ] 111 取来

「ㅌ」(st) の例

- (63) stwi · 'is [ひと (つ)] 80 一
- (64) stʌs [ふた (つ)] 81 二

「ㅍ」(ts) の例 (これは「ㅌ」に準じる)

- (22) 'i · nʌi · tsi [いねて] 25 眠

「ㅃ」(k · k) の例

- (36) suk · ku · koa · chi <ruk · ku · kʌa · chi> [ろくぐわつ] 41 六月
- (54) ta · pak · kui [タバコ] 59 烟草

考察を進める前に、「呂宋」語の用例も見ておこう。

「ㄱ」(sk) の例

- ⑱ ma · skʌ · 'o [BAKA] 52 牛
- ⑳ ma · ska · 'oi [Makau] 71 澳門
- ㉑ 'ir · no · sko [ILOKO] 72 一啖呢
- ㉒ mai · sʌ · sko · 'a · ri · sa [MAYSA KUARTA] 83 一錢
- ㉓ skom · spa · rui · koan · to · 'jʌi · si [kompare cuānto es] 90 價

幾何

「ㅅ」(sc) の例ナシ

「ㄗ」(st) の例

⑩ stan・nom [DANUM] 49 水

「ㄘ」(ss) の例

⑦ ssui・'in・ta (未詳) 21 坐

⑬ mi・'a・ssa・pi [MIA saber?] 31 不知

「ㄙ」(sp) の例

③ kli・spi・tan [KAPITAN] 7 小官

④ spa・rui [PADRE, pari] 10 修道人

⑥ kom・spa・rui [KOMPARE] 15 彼人

⑤③ kom・spa・rui・mon・tui・pa・si・'ja [kompere dónde PASYAR]

106 那裏去乎

「ㄗ」「ㄘ」「ㄙ」などが、無気音（濃音）の表示であることは、「解説」で確認した。

これは、今のところ、表面的印象にすぎないが、フィリピンからの留学生達の発音は（フィリピンの言葉も日本語も）、無声破裂音の場合、総じて無気音的である。ハングルの無気音表記の信憑性を裏付けるものとなろう。

⑩stan・nom は、語頭に有声子音を有しない「ハングルの耳」が、有声子音を聞いて、その無気音性に反応した（有声音性を捨象した）好例だと思われる。

ハングルの表記法や「呂宋」語の用例などから見て、上記「琉球」語の例が、音声的実態として無気音の性質を帯びていたことは疑いないようであるが、現代語との対応から三つのグループに分かれるらしいことに気づく。それは次のようである。

[1] 現代語では無声有気音に近く実現するもの

(2) [jik'iga, wik'iga]

(80) [ʔamak'ara]

(81) [muttʃiʔndʒik'u:]

[2] 現代語では「促音」として実現するもの

(1) [tt{u}]

(8) [muttʃi~]

〔3〕現代語でも方言によっては、語的に無気音を残すとされているもの

(63) [t'i: (tʃi)]

(64) [t'a: (tʃi)]

(ここで現代語と言っているのは、たびたび述べているように、沖縄島中・南部地域の現代語である。)

〔1〕は軟口蓋破裂音、〔2〕は硬口蓋歯茎破擦音、〔3〕は歯茎破裂音であるという違いを、まず上げることができる。次に、変化の過程において「母音の無声化」(さらにその母音の脱落までも)を経験したらしい〔2〕〔3〕とそうでない〔1〕という対立がある。母音の脱落后、その次の子音の無気音化を招いたようであり、それが「促音」の形をとる方向へ行ったもの〔2〕と無気音を維持しようとしたもの〔3〕とに分かれたらしく思える。

沖縄語の歴史(音変化)を考えるうえで興味ある事柄であって、さらに追究していきたいところであるが、これだけのわずかな資料だけでは決定的なこととは言えないので、今回は、ここまでに留めておくことにしよう。

4-7 口蓋化・破擦音化

口蓋化・破擦音化と関連して、多和田(1980)では、語音翻訳=翻・クリフォード琉球語彙=琉・沖縄語辞典=沖を対照しつつ次頁のような表を作ったことがあった。

資料の年代を確認しておく。翻=1501年。琉=1818年。沖=1963年(ただし、言語資料としては、主たる資料提供者二人の生年が1883年と1890年であることから、19世紀末から20世紀初のそれとしたほうがよい)。

「ケ」「ゲ」は、それぞれ/i/の直後のものに限っている。

「漂海録」の用例を検討し、この表と対照しようとする。

* /キ/の用例

(4) si・mo・ci・ci [しもつき] 46 十一月

(75) cu・ra・sa [きよらさ] 102 好

	翻	琉	沖
キ	ki	tʃi	tʃi
シ	ʃi	ʃi	ʃi
チ	tʃi	tʃi	tʃi
ケ	kī	tʃi / tsi	tʃi
セ	sī	ʃi / si	ʃi
ス	suu	si	si
ツ	tsuu	tsi	tsi

	翻	琉	沖
ギ	gi	dʒi	dʒi
ジ	(d)ʒi	dʒi	dʒi
ヂ	dʒi	dʒi	dʒi
ゲ	gī	dʒi / (d)zi	dʒi
ゼ	zī	dʒi / zi	dʒi
ズ	(d)zuu	dzi	dzi
ヅ	dzuu	(d)zi	dzi

* /シ/ の用例 (「4-3-7」で見た。省略)

* /チ/ の用例 (「4-3-3」参照)

* /ケ/ の用例 (/i/のあとの「ケ」という条件の例ナシ)

* /セ/ の用例

(57) si·ri [(キ)セル] 62 烟台

* /ス/ の用例

(68) si·mi [すみ] 94 文字

* /ツ/ の用例

(41) si·mo·ci·ci [しもつき] 46 十一月

(76) cu·cu·ra·sa [つよきよさら] 103 大好

(30)~(40) koa·chi [ぐわつ] 35~45 月

(8) tu·cu [つうじ] 8 通事

* /ギ/ の用例

(73) 'o·ci [あふぎ] 99 扇

* /ジ/ の用例 (「4-3-8」参照)

* /ヂ/ の用例 (ナシ)

* /ゲ/ の用例 (ナシ)

* /ゼ/ の用例 (ナシ)

* /ズ/ の用例 (ナシ)

* /ヅ/ の用例

(44) mi·cui [みづ] 49 水

「用例ナシ」が多くて心もとない限りであるが、その制約の中で以下のことが言えよう。

* /キ/ は、「クリフォードごい」も示すように、完全に破擦音化していた。[tʃi]。

* /ギ/ も、破擦音化していた。[dʒi]。ただし、「(53)'uk·'i [をぎ] 58 甘蔗」がある。これは、「解説」で見たとおり、ここでは対象外となる。

* /シ/ ・ * /ジ/ は、「クリフォードごい」と同じ。

* /チ/ は、「語音翻訳」の段階で破擦音化しており、このころはその延長線上にある。

* /ヂ/ は、用例はないが、* /チ/ に準じると考えられる。

* /ケ/ ・ * /ゲ/ は、用例はないが、「クリフォードごい」と同じと思われる。

* /セ/ は、[ʃi] となっていた。* /ゼ/ もこれに準じよう。

* /ス/ は、母音が [i] になっていたことは確かだが、子音が [ʃ] か [s] かはハングル「ㅅ」だけではわからない。「クリフォードごい」の支援を得て [si] とする。* /ズ/ も同様。

* /ヅ/ は、「クリフォードごい」と同じく、[tʃi] に近かったと思われるが、「(8) tu·cui [つうじ]」があり、慎重を要する。『沖縄語辞典』に「通事」は収録されていないが、これと同音と考えられる、「çuuzi ①(名)通じ。便通」がある。これを音声表記にすれば [tsu:dʒi] である。[tʃi] はおろか [tsu] にも至っていない。音声環境(後続母音が * /ウ/ であること)が関係しているようだが、ハングル子音が破擦音の「ㅅ」(c)ではなく、破裂音の「ㄷ」(t)であることが問題を複雑にしている。語的な、例外的なものと同様に片付けてしまうのは簡単だが、重大な何かが秘められている可能性がある(「じ」部分の「ㄷ」(cu)もそうである)。後日を期す。

* /ヅ/ は、一例しかないが、近年まで [midzi] の形を保持していた「水」

の例であることは幸運であった。

「4-1-1」で見た限りにおいてハングル「ㄱ」(wi)は[e] [i]を示している可能性があるが、ここでは[e]は適合しない。[i]であるとみるのが妥当である。してみると、「クリフォードごい」から導き出された[(d)zi]は[(d)zi]と修正される余地が出てきた。

㊦(4-1-1) (50)ku·mi [こめ]は、「구미」(ku·mui)と綴られてもよさそうなものであるが、「口」(m)が「ㄱ」(w)をも兼ねた響きを持っていることと、次に引用するようなことが重なって、このような表記になったと思われる。

「近代語の時期に起こった注目すべき母音変化のひとつに唇音‘ㄱ, ㅁ, ㅂ, ㅅ’下の母音‘-’の円唇化がある。」「この円唇母音化は17世紀末葉に起こったと推定される。」(李基文(1972) P202)

第二章
沖繩語漢字資料の研究

第一節 「琉球館訳語」の沖縄語

1. 「琉球館訳語」の成立

明代に中国で編纂された、外国語に関するテキスト・教科書を一括して『華夷訳語』と呼ぶが、その中に「日本館訳語」「朝鮮館訳語」などとともに「琉球館訳語」と称されるものがある。

『華夷訳語』は、石田幹之助によって甲・乙・丙・丁の四種に分類されている。

王聞遠の「考慈堂書目」に、それぞれの訳語の採録・編集者として「毛寅 朝鮮語 李広元 西番語 呉之任 琉球語 楊振 日本語」などとあることから「琉球語」の採録・編集者は呉之任とされるが、それ以外のことは何もわからない。

『華夷訳語』そのものの編纂年代が不明であるので（十五世紀から十六世紀初めにかけてではあるらしい）、「琉球館訳語」の成立時期についても不詳あるいは未詳ということになるが、伊波普猷の十五世紀半ば成立説が有力な説として最近まで受け継がれてきた。しかし、それは誤りであるらしいことがはっきりしてきている。（私は、十六世紀前半ではないかと考えている。）

書誌学的な、詳しいことは、福島邦道(1993)『日本館訳語攷』や大友信一・木村晟(1979)『琉球館訳語 本文と索引』などを参照。

『華夷訳語』の成立状況や「琉球館訳語」記載の言語の分析などから十五・六世紀の沖縄の言葉を反映したものと思われる。

2、研究史

「琉球館訳語」の研究史に関して、福島邦道(1993)に次のような記述がある。

琉球の資料は前にのべたが、日本にくらべて、その研究はおくれている。
(p75)

「琉球館訳語」以降の、中国資料における琉球語研究は、「琉球館訳語」における琉球語研究の不十分なことを、そのまま受けついでいるのである。
(p126)

『華夷訳語』の丙種本で、ほかの「訳語」にくらべて、「琉球館訳語」の研究をいちじるしく遅らせ、研究の進んだほかの「訳語」にくらべて、はなはだ見劣りのするものとなってしまったのである。服部氏の研究も、部分的には、きわめてすぐれたものであるが、全面的な解説にはいたっていないため、搔痒の感をいだかざるを得ないのである。(p127)

「琉球館訳語」の研究の完成をまつべきであるが、その人とその資料がないようである。(p128)

『華夷訳語』の研究史上、琉球語の研究に見るべきものがほとんどないということである。(p129)

そうであれば、本論が、その本格的研究の第一歩であるということになる。

3、「琉球館訳語」「言語」の解説

第一章第一節でハングル資料「語音翻訳」の分析を行なうことで、十五・六世紀の沖縄語の音韻について考察したが、それを踏まえて「琉球館訳語」の沖縄語について考える。

前述のように、「琉球館訳語」に関する研究は、遅れているそうであるから、まず、初歩的なところから押えていく必要がある。その手初めとして、「琉球館訳語」に記載された「琉球語」のそれぞれが、現代沖縄語の何と対応すると考えられるかについて述べることにする。ここで対照する現代沖縄語とは、具体的には、首里方言に準じる、「ヤードイ言葉」の宜野湾市赤道（あかみち）方言である。

項目順に音声表記による現代沖縄語を対応させ、解説を加える。

アクセントは、次のように表示する。

(例) ㄱ [? u } i] (牛) [? u] が高く、 [} i] は低い。

 — [? m m a] (馬) [? m] と [m a] とが同じ高さ。

(この方言の語アクセントは、一拍目が高いか、そうでないかの二種類だけであると言ってよい。)

本文は、『琉球館訳語 本文と索引』所収のロンドン本による。

項目通し番号、漢語、音訳字、現代沖縄語、(日本語訳)の順である。

	↓	↓	↓	↓	↓
	↓	↓	↓	↓	↓
(例)	001、	天	甸尼	↓	↓
				ㄱ [t i N]	(天)

天文門

001、天 甸尼

⊃ [t i n] (天)。

002、日 非禄

⊃ [c i r u] (昼)。

003、月 都及

⊃ [t } i t } i] (月)。

004、風 噓集

⊃ [k a d z i] (風)。

005、雲 枯木

⊃ [k u m u] (雲)。

006、雷 刊每那立

⊃ [k a n n a j i] (雷)。

007、雨 噓也

⊃ [ʔ a m i] (雨)。

008、雪 由乞

⊃ [j u t } i] (雪)。但し、(沖縄)古語では「霰」を「ゆき」と言う。

009、星 波矢

⊃ [Φ u } i] (星)。

010、霧 乞立

⊃ [t } i r i] (霧)。[t } i r i ʔ u r a : s o : n] (霧がかかっている)のように言う。

011、雹 科立

「科立」は、「こほり」で、⊃ [k u : r i] (氷)が対応しよう。但し、近年まで「氷砂糖」を⊃ [k u : r i]と言っていた。

012、電 波得那

⊃ [Φ u d i : n u] (稲光の、稲光が)。「波得」[Φ u d i :] (ほでり)と「那」[n u] (の)とに分析できる。

013、 霞 个嚙尼

「霞」(かすみ)に対応するのは [kaʃimi] であろうし、「个嚙尼」に対応するのは [kugani] (黄金、こがね) であろう。

014、 霜 失莫

[ʃimu] (霜)。

015、 今日 交哇

[tʃu:ja] (今日は)。「交」[tʃu:] (今日)と「哇」[ja] (は)とに分析できる。

016、 起風 嚙集福禄姑

「嚙集」は [kadʒi] (風)、「福禄姑」は [ʔutʃun] であろうが、「福禄姑」には疑問が存する。「日本語」であろうか。¹⁾

「語音翻訳」から推せば、当時の沖縄語としては、「フキ」あるいは「フチ」に対応する形が想定される。

017、 天陰 甸尼奴姑木的

[tinnu] [kumuti] (天の曇って)。「語音翻訳」には「天陰了 tʃon·ku·mo·tʃoi」とある。

018、 天晴 甸尼奴法立的

[tinnu] [hariti] (天の晴れて)。「語音翻訳」には「天晴了 tʃon·pha·ri·tʃoi」とある。

019、 下雨 嚙乜福禄

[ʔami] [ʔujun] (雨 降る)。「語音翻訳」には「下雨 amui·phut·tʃoi」とある。

この「福禄」も「日本語」である可能性が高い。

.....

¹⁾ 『日本館訳語攷』に次のようにある。

琉球館と日本館とで、どちらかの訳語が先にでき、どちらかがどちらかの訳語によったと考えられるが、その解決は将来にまたなければならない。(p35)

「日本館」「琉球館」と言いながら、収録したものに、ふさわしくないものがあり、「琉球館訳語」の方にそれがいちじるしいのである。(p116)

020、 下雪 由乞福祿

ㄟ [j u t } i] ㄟ [Φ u j u n] (雪 降る)。「語音翻訳」には
「下雪 ' j u · k i · p h u · r i」とある。

この「福祿」も「日本語」である可能性が高い。

021、 明日 阿者

ㄟ [? a t } a] (明日)。

022、 昨日 乞奴

ㄟ [t } i n u :] (昨日)。

023、 風雹 噓集科立

004、011 参照。

地 理 門

024、 露 禿有

ㄟ [t } i j u] (露)。

025、 地 只尼

ㄟ [d ʒ i :] (地)。「只」は「001、 天 甸尼」からの類推でつ
いたものか。あるいは「天に～、地に～」に対応するのか。

「日本館訳語」は「地 只」である。

026、 土 是只

ㄟ [n t } a] (土)。「是只」は「日本語」であろう。

「日本館訳語」には「土 足只」とある。

027、 江 密乃度

ㄟ [n n a t u] (港)。

028、 河 噓哇

現代沖繩語の「河」はㄟ [k a : r a]。ㄟ [k a :] は「井戸」。

「日本館訳語」も同じ「河 噓哇」である。

029、 海 烏也

ㄟ [? u m i] (海)。

030、山 亞馬奴

┐ [j a m a n u] (山の)。「亞馬」 [j a m a] (山)と「奴」
[n u] (の)とに分析できる。

「日本館訳語」は「山 牙馬」である。

031、水 民足

┐ [m i d z i] (水)。

「日本館訳語」も同じ「水 民足」である。

032、氷 姑亦立

「011、雹 科立」参照。

033、路 密集

┐ [m i t s i] (道)。

034、石 亦石

┐ [ʔ i s i] (石)。

035、井 亦噎喇

「028、河 噎哇」参照。

036、牆 那別

┐ [k u b i] (壁)。┐ [k a b i] は「紙」。

037、城 遶

「城」は [g u s u k u] [g u s i k u]。「遶」は「日本語」である可能性が高い。「日本館訳語」も「城 遶」である。

038、泥 个乜禄

「泥(どろ)」なら [d u r u]、「捏ねる(こねる)」なら [k u
n i j u n] [k u n i : n]。

「个乜禄」は「日本語」か。「日本館訳語」は「泥 各轟禄」。

039、沙 是那

┐ [s i n a] (砂)。

040、灰 活个立

「埃(ほこり)」は┐ [Φ u j i]。「灰(はい)」は┐ [Φ e :]。

041、 橋 扒只

⊃ [h a } i] (橋)。

042、 磚 亞及亦石

音韻的には、⊃ [j a t } i ? i } i] を対応させることができるが、
現実的ではない。

043、 瓦 噓哇喇

⊃ [k a : r a] (瓦)。

「日本館訳語」も同じ「瓦 噓哇喇」。

044、 岸 倭噓

「陸 (おか)」は⊃ [? a g i] 。

「日本館訳語」も同じ「岸 倭噓」。

045、 嶺 密乜

「嶺 (みね)」の対応語不詳。

046、 遠 它加撒

⊃ [t u : s a] (遠さ)、⊃ [t u : s a n] (遠い)。

「加」は、次の「近 集加撒」と揃えよう (?) として挿入したか。

「日本館訳語」は「遠 它撒」である。

047、 近 集加撒

⊃ [t } i k a s a] (近さ)、⊃ [t } i k a s a n] (近い)。

048、 長 那噓失

⊃ [n a g a s a] (長さ)、⊃ [n a g a s a n] (長い)。

049、 短 密失那失

⊃ [? i n t } a s a] (短さ)、⊃ [? i n t } a s a n] (短い)

050、 前 馬乜

⊃ [m e :] (前)。

051、 後 烏失禄

⊃ [k u } i] (後ろ)、⊃ [k u s a :] (後ろ)、[} i r i :]
(後ろ) (尻)。

052、 左 分達立

┌ [ɕ i d ʒ a j i] (左)。

053、 右 民及立

┐ [n i d ʒ i r i] (右)。

054、 上 鳥也

┌ [ʔ i :] [ʔ w i :] (上)。

055、 下 世莫

┐ [ʔ i t ʔ a] (下)、┐ [ʔ i m u] (下)。

056、 東 加尼

┐ [ʔ a g a r i] (東、「あがり」)。「加尼」は、何らかの事情で「アガリ」の「ア」相当部分が表記されなかった結果であろう。

057、 西 尼失

┐ [ʔ i r i] (西、「いり」)。
┐ [n i ʔ i] は「北」。

058、 南 米南米

┌ [Φ e :] (南)。

「日本館訳語」は「南 密納密」であるが、「米南米」は「日本語」であろう。

059、 北 乞大

┐ [n i ʔ i] (北)。「乞大」は「日本語」か。

060、 路近 密集奴集加撒

┐ [m i t ʔ i n u] ┌ [t ʔ i k a s a n] (道が 近い)。

061、 路遠 密集奴它加撒

┐ [m i t ʔ i n u] ┐ [t u : s a n] (道が 遠い)。

062、 山水 亞馬奴民足

┌ [j a m a n u] ┐ [m i d ʒ i] (山の 水)。

063、 海洋 鳥也民足

┌ [ʔ u m i m i d ʒ i] (海水)。
┌ [ʔ u m i n u] ┐ [m i d ʒ i] (海の 水)。

064、水路 民足密集

→ [midzimitʃi] (水道、ミヅミチ) (?)。

時 令 門

065、春 法祿

→ [haru] (春)。

066、夏 那都

→ [natʃi] (夏)。

067、秋 阿及

→ [ʔatʃi] (秋)。

068、冬 由福

→ [Φuju] (冬)。「由福」は「福由」の誤りであろう。

「日本館訳語」は「福由」である。

069、冷 必亞撒

— [çidzurusu] (冷たさ)、— [çidzurusuN] (冷たい)。

070、熱 嚙子撒

— [ʔatʃisa] (熱さ)、— [ʔatʃisuN] (熱い)。

071、寒 必角祿撒

「必角祿撒」は「— [çidzurusu] (冷たさ)」に対応。

「寒い」は— [çi:suN]。

072、暑 奴祿撒

「奴祿撒」は— [nurusu] (温さ、ぬるさ)に対応。「暑い」は— [ʔatʃisuN]。

073、陰 姑木的

— [kumuti] (曇って)。

074、陽 法立的

— [hariti] (晴れて)。

075、晝 必祿

→ [çiru] (昼)、— [çiruma] (昼間)。

- 076、夜 由禄
 一「juru」(夜)、一「ju:ru」(夜)。
- 077、早 速多
 一「{itimiti}」(早朝)。
- 078、晚 約姑立的
 一「ju:」一「kuriti」(夜 暮れて)。
- 079、時 吐及
 一「tut{i}」(時)。
- 080、氣 亦及
 一「?i:t{i}」(息)。
- 081、年 多失
 一「tu{i}」(年)。
- 082、節 些姑尼集
 一「{it{i}」(節)。「些姑尼集」は「節句日 せつくにち」か。
- 083、今年 个多失
 一「kundu」(「こんど」、今年)。一「kutu{i}」(今年)
 もあるが、あまり使わない。
- 084、明年 苗年
 一「ja:n」(来年)。
- 085、今日 交哇
 → 015 参照。
- 086、明日 阿者
 → 021 参照。
- 087、昨日 乞奴
 → 022 参照。
- 088、早起 速多密的
 → 077 参照。
- 089、正月 烧哇的
 一「so:gwat{i}」(正月)。

- 090、 二月 寧哇的
 一 [niʔgwatʃi] (二月)。
- 091、 三月 撒哇的
 一 [saʔgwatʃi] (三月)。
- 092、 四月 升哇的
 一 [ʃiʔgwatʃi] (四月)。一 [ʃigwatʃi] (四月)
- 093、 五月 惡哇的
 一 [guʔgwatʃi] (五月)。
- 094、 六月 祿姑哇的
 一 [rukugwatʃi] (六月)。
- 095、 七月 是止哇的
 一 [ʃitʃigwatʃi] (七月)。
- 096、 八月 法只哇的
 一 [hatʃigwatʃi] (八月)。
- 097、 九月 姑哇的
 一 [kuʔgwatʃi] (九月)。
- 098、 十月 柔哇的
 一 [dʒu:gwatʃi] (十月)。
- 099、 十一月 失木多及
 一 [ʃimutʃitʃi] (十一月、霜月)。
- 100、 十二月 失哇思
 一 [ʃiwa:ʃi] (十二月、師走)。
- 101、 閏月 烏奴烏多及
 一 [jundʒitʃi] (閏月)。
- 102、 今年閏月 个多失烏奴烏多及
 一 [kundunu] 一 [jundʒitʃi] (今年の 閏月)。
- 103、 今年閏三月 个多失烏奴烏多及撒哇的
 一 [kundunu] 一 [jundʒitʃinu] 一 [saʔgwatʃi] (今年の 閏月の 三月)。

104、 明年閏十月 苗年烏奴烏多及柔哇的

— [ja:nnu] ㄣ [jundzitiinu] ㄣ [dzu:gwa
tʃi] (来年の 閏月の 十月)。

花 木 門

105、 茶 扎

— [tʃa:] (茶)。

106、 花 法那

— [hana] (花)。

107、 米 姑米

— [kumi] (米)。

108、 樹 那及

— [ki:] (木)。「那及」は「~の き(木)」であろう。「111、
栢 馬足那及」参照。

109、 果 烏乜

ㄣ [ʔmmi] (梅)。

110、 松 馬足

— [ma:tʃi] (松)。

111、 栢 馬足那及

— [ma:tʃinuki:] (松の木)。

— [ma:tʃigi:]
(松木)。

112、 梅 烏乜

ㄣ [ʔmmi] (梅)。

113、 笋 達及

ㄣ [daki] (竹)。

114、 竹 達及

ㄣ [daki] (竹)。

115、 草 姑撒

— [kusa] (草)。

116、 棗 那多也

不詳。言うとするば、[natʃimi]。

117、 菜 菜

― [jase:] (野菜)。

118、 瓜 烏立

― [ʔuji] (瓜)、あるいは― [ʔujigwa:] (瓜)。

([-gwa:] は指小辞)。

119、 葉 尼

ㄱ [Φa:] (葉)。「尼」は朝鮮語を示している。つまり、朝鮮語が混入した例である。「葉(は)」は、中期朝鮮語で「ㅛ niph」、現代朝鮮語で「잎 'iph」である。

120、 香 稿

― [ʔuko:] (御香)。

121、 蓮蓬 花孫奴殼

「はすの こ」であろうが、対応語無し。「日本語」?

122、 蓮子 花孫奴米

「はすの み」であろうが、対応語無し。「日本語」?

「み(実)」は― [naji] (成り)と言う。― [ki:nu naji] (木の実、「木の成り」)。

123、 蓮花 花孫奴法那

「はすの はな」。「日本語」?

124、 龍眼 隆暗

― [riŋgan] (龍眼)。

125、 荔枝 立是

― [ri:tʃi] (荔枝)。

126、 甘蔗 翁枝

― [wu:dʒi] (甘蔗、「荻(をぎ)」)。

127、 胡椒 姑焼

対応語無し。あるとするば、― [kusu:] か。

- 128、 木香 南木稿
「なんもかう」。対応語無し。
- 129、 蘇木 思哇
「すはう」。対応語無し。
- 130、 速香 申自密稿
— [ʃ i n d ʒ i m i k o :] 。
- 131、 丁香 胡失
— [t ʃ o : d ʒ i] (丁子)。
- 132、 沉香 定稿
— [d ʒ i ɯ k o :] (沈香)。
- 133、 檀香 別姑旦結
— [b j a k u d a ɯ g i :] (白檀木)。— [ʃ i n d a n] (梅檀)、— [ʃ i n d a ɯ g i :] (梅檀木)。
- 134、 乳香 由稿
「にゆうかう」。対応語無し。
- 135、 血蝎 槽奴結
対応語無し。
「血蝎」の意味不詳。「槽奴結」は「ぞうのち(象の血)」と考えられな
いこともないが¹⁾、「花木門」には馴染みそうにない。
- 136、 垓児茶 烏定尼
「垓児茶」未詳。あるいは— [? u t ʃ i n n i] か。
- 137、 奇南香 加奴木稿
「かのもかう」。対応語無し。

.....

¹⁾ 『琉球館訳語 本文と索引』の p122 に「ぞうーのーち [象の血]
<?>」とある。

鳥 獸 門

- 138、 龍 達多
 └ [t a t ʃ i] (竜、辰)
- 139、 虎 它喇
 └ [t u r a] (虎、寅)。
- 140、 鹿 加目
 └ [k o : n u ʃ i ʃ i] (鹿)。
 「加目」は不詳。
- 141、 馬 烏馬
 └ [ʔ m m a] (馬)。
- 142、 獅
 └ [ʃ i : s a :] (獅子)。└ [ʃ i : ʃ i] とも。
- 143、 牛 烏失
 └ [ʔ u ʃ i] (牛)。
- 144、 兔 烏撒及
 └ [ʔ u s a d ʒ i] (兔)。
- 145、 熊 姑馬
 └ [k u m a] (熊)。
- 146、 象 槽
 └ [d z o :] (象)。
- 147、 鷄 它立
 └ [t u j i] (鳥、鷄)。
- 148、 鷲 達噎
 └ [t a k a] (鷹)。
- 149、 猪 鳴哇
 └ [ʔ w a :] (豚)。
- 150、 驢 仝
 └ [ʔ w a :] (豚)。

151、 驟 全

一 [? w a :] (豚)。

152、 狗 亦奴

一 [? i n] (犬)。

153、 皮 嚙哇

一 [k a :] (皮)。

154、 鼠 聶

一 [n i :] (子)。十二支の子である。「鼠」は一 [? e n t } u]
あるいは一 [? w e n t } u]。

155、 鶯 達个

「達个」は「たか(鷹)」である²⁾。

「うぐいす(鶯)」は一 [? u g u j i } i]。箆鳴きの時は一 [t } o
t t } o r a :] と言う。

156、 魚 亦窩

一 [? i j u] (魚)。

157、 羊 非多只

一 [c i t } i d z i] (羊、未)。

158、 蛇 密密

一 [h a b u] (ハブ)。「ミミ」という古い形があったことになる。

「語音翻訳」には「蛇 p h a · m u」とある。

159、 猴 撒禄

一 [s a : r u :] (猿)。

160、 亀 嚙也

一 [k a : m i :] (亀)。

161、 雀 思孫也

一 [k u r a :] (雀)。
[} i d z i m i] などとは言わない。

.....
²⁾ この項目については、他の「一訳語」(「日本館」「朝鮮館」「西番館」)もこのように誤っている。『日本館訳語攷』 p96-97 参照。

- 162、 鳳凰 夫窩
 ー [Φ u : w o :] か。
 (ママ)
- 163、 麒麟 乞奔
 「麒麟」は「麒麟」の間違い。「キリン」。ー [t } i r i n] 。
- 164、 孔雀 公少
 ー [k u d z a k u] (孔雀) 。
- 165、 獅子 乞食
 →142 参照。
- 166、 獬豸 害宅
 「かいち (獬豸)」。対応語無し。獬豸は、牛に似ている神獣の名。
- 167、 仙鶴 思禄
 ー [t } i r u] (鶴) 。
- 168、 象牙 槽華
 ー [d z o : n u] ー [h a :] (象の 齒)
- 169、 玳瑁 噯也那个
 ー [k a : m i :] ー [k u :] (亀の甲)。ー [k a : m i n a k u :] は「鼈甲」のことである。
- 170、 龜全 噯也
 →160 参照。
- 171、 牛角 烏失祖奴
 ー [? u } i n u t } i n u] (牛の角) 。
- 172、 猿皮 撒禄噯哇
 ー [s a : r u : n u k a :] (猿の皮) 。
- 173、 熊皮 姑馬噯哇
 ー [k u m a n u k a :] (熊の皮) 。
- 174、 喜雀 孔加查思
 「孔加查思」不詳。
 「鳥」はー [g a r a s a :] あるいはー [g a r a } i] 。

175、老鴉 噯喇思

— [garasa:] あるいは — [gara{i}]。

176、釣魚 亦窩独立的

→ [ʔiju] — [tuti] (魚 取って・釣って)。

177、海虵 烏也孫必

対応語未詳。

178、鴻鷹 達个

→ 155 参照。

179、紫鷹 麻達喇哀茲

「麻達喇哀茲」に対応するか疑問は残るが、「燕」を — [mattara:] と言う。

180、鶴頂 它立那姑只

→ [tujinu] → [kut{i}] (鳥の 口)。

181、海懶皮 喇姑奴噯哇

— [rakkonu] — [ka:] (ラッコの 皮)。

182、大海繆 密洋殼

183、玳瑁殼 噯也那个

— [ka:minaku:] (鼈甲)。

184、犀牛角 烏失祖奴

→ [ʔu{inu}] → [t{inu}] (牛の 角)。

宮 室 門

185、城 邊

→ 37 参照。

186、牆 那別

→ 36 参照。

187、塔 塔把

対応語不詳。「塔」は「たふば(塔場)」か。

188、 門 勒那

— [dʒo:nu] (門の)。「勒那」は「勒」— [dʒo:] (門)と「那」[nu] (の)とに分析できる。

189、 窓 慢多

対応語無し。

「日本館訳語」に「窓 牙暗都」とあり、これが「琉球館訳語」に収録されるべく、「窓 慢多」は「日本館訳語」に入るべきであったか。

『図説琉球語辞典』の「戸」の項によると、沖縄島中・北部地域(恩納村付近)に「ヤドゥ ja:du」が分布する。参考になろう。

190、 房 亦葉

「亦葉」が「家」を示しているのであれば— [ja:] が対応する。

191、 楼 塔 噯惡

— [takaja:] (高家、高屋)か。

192、 井 亦 噯喇

→ 35 参照。

193、 河 噯哇

→ 28 参照。

194、 御河 噯哇

→ 28 参照。

195、 御前 惡亞

「惡亞」未詳。— [ʔujanuja:] (親の家)の前半分の[ʔuja]に相当するか。

196、 御路 密集

→ 33 参照。

197、 御橋 扒只

→ 41 参照。

198、 母塚 密集

→ 33 参照。

199、 皇城 姑速姑

┌ [g u s u k u] あるいは┌ [g u } i k u] (城)。

200、 館駅 葉急

「えき」。対応語無し。

201、 開門 勒那阿个罗

┌ [d ɜ o : n u] ┌ [? a t } u N] (門が 開く)。

┌ [d ɜ o :] ┌ [? a k i : N] (┌ [? a k i j u N]) (門 開ける)。

「阿个罗」(あける)は「日本語」であろう。

202、 関門 勒那大葉罗

┌ [d ɜ o : n u] ┌ [m i t } a j u N] (┌ [m i t } a j i N]
(門が 閉まる)。┌ [d ɜ o :] ┌ [m i t } i j u N] (┌ [m i
t } i : N] (門 閉める)。

「大葉罗」(とじる)は「日本語」であろう。

203、 草房 姑撒亦葉

┌ [k u s a j a :] (草家、草屋)。

204、 瓦房 嚙哇喇亦葉

┌ [k a : r a j a :] (瓦家、瓦屋)

205、 見朝 大立葉亦及

対応語無し。「内裏へ 行き」か。

「行く」は┌ [? i t } u N]。

206、 入朝 大立葉密達

対応語無し。「内裏へ 見た」か。

「見た」は┌ [n t } a N]。

207、 辭朝 慢多罗

「慢多罗」は「日本語」で「もどる」か。

「戻る」は┌ [m u d u j u N] あるいは┌ [m u d u j i N]。

208、 朝裏去 烏只八籃亦及

対応語無し。

「うちばらへ 行き」か。

「語音翻訳」に「請裏頭要子 'u·ci·pa·ra·' oai·
choi· 'a·sum·pi」とある。

209、 上御道 烏也密集

ㄣ [? i : m i t } i] あるいはㄣ [? w i : m i t } i] (上道)。

器 用 門

210、 盥 干不立

「盥」は「かぶと (兜)」。「干不立」は「かぶり (被り)」に対応するのであろう。

「被る」は ㄣ [k a n d z u n] 。

211、 甲 約罗亦

「約罗亦」は「よろい (鎧)」。 ㄣ [j u r u j i] (鎧)。

212、 刀 達只

ㄣ [t a t } i] (太刀)。

213、 箭 亞

ㄣ [j a :] (矢)。

214、 弓 由密

ㄣ [j u m i] (弓)。

215、 弦 禿奴

ㄣ [t } i r u] (弦)。

216、 鎗 亞立

ㄣ [j a j i] (槍)。

217、 卓 代

ㄣ [d e :] (台)。

218、 盤 扒只

ㄣ [h a : t } i] (鉢、皿)。

219、 盆 大籜

ㄣ [t a : r e :] (盥)。

220、 瓶 瓢

⊃ [biN] (瓶)。

221、 床 墮个

┌ [tuku] (床)

222、 舩 福尼

┌ [Φuni] (船、舟)。

223、 桅 花時

┌ [ha:ja] (柱)。

224、 舵 看失

┌ [kadzi] (舵)。

225、 櫓 罗

┌ [ru:] (櫓)。

226、 蓬 賀

┌ [Φu:] (帆)。

227、 筧 扒只

┌ [?ume:}i] (箸、「おみはし 御御箸」か)。

228、 帶 乞角必

┌ [?u:bi] (帶)。

「乞角必」は「ききび」で、『おもろさうし』に出てくる「きゝうひ」・
「きゝおひ」・「きゝおび」(帶)に当たる。

229、 畫 葉

⊃ [kata] (絵、「形」)。

┌ [ji:] (絵)。「絵を描く」は

⊃ [kata] ┌ [kat}uN]。(例) ┌ [?innukata]

┌ [kat}uN] (犬の絵(を)描く)。

230、 書 福密

┌ [Φumi] (文、手紙)。

231、 筆 分帖

⊃ [Φudi] (筆)。

- 232、 字 開的
 ー [k a t ʃ i] (書いて)。ー [k a t ʃ u N] (書く)。
- 233、 墨 思墨
 ー [ʃ i m i] (墨、学問)。
- 234、 紙 嚙也
 ー [k a b i] (紙)。
- 235、 硯 孫思立
 ー [ʃ i d ʒ i r i] (硯)
- 236、 鎖 撒舍
 ー [s a : ʃ i] (錠、錠前)。「撒舍」には、これが対応しよう。
- 237、 碗 麻加立
 ー [m a k a j i] (碗、まかり)。
- 238、 屏風 飄布
 ー [b j o : b u] (屏風)。
- 239、 香炉 稿炉
 ー [ʔ u k o : r u] (御香炉)。
- 240、 花瓶 法那飄
 ー [h a n a b i N] (花瓶、はなびん)。
- 241、 香盒 稿法个
 ー [k o : b a k u] (香箱)。
- 242、 倭扇 昂及
 ー [ʔ o : d ʒ i] (扇)。
- 243、 香珠 稿達馬
 ー [k o : d a m a] (香玉)。
- 244、 滾刀 那及那達
 ー [n a d ʒ i n a t a] (長刀)。
- 245、 鉄猫 烏失加尼

対応語未詳。「ー加尼」は「ーかね(金、金属)」に対応。

246、馬舩 烏馬奴福尼

— [ʔmmanu] — [Φuni] に対応しよう。これは、音韻的には「うまの ふね（馬の船）」にも「うまの ほね（馬の骨）」にも対応する。意味的には、後者が無難のようにも思えるが、漢語の「馬舩」に重きを置けば、「馬を載せる（載せた）船→馬の船」という解釈も成り立つか。

247、快舩 福尼

— [Φuni] （船、舟）。

248、箱子 凱

→ [ke:] （櫃）。「語音翻訳」に「櫃子 kha·'i」とある。

249、板橙 个失加及

— [ku}ikaki] （腰掛け）。

250、交床 全

— [ku}ikaki] （腰掛け）。

251、交椅 喬古魯古

対応語無し。「きよくろく」。

252、酒鍾 撒嚙子及

→ [sakadzit}i] （杯、さかづき）。

253、茶鍾 溥嚙子及

— [t}u:ka:] （急須）。「溥嚙子及」は「おちやつぎ」。

254、食羅 大籟

— [ta:re:] （盥）。219 参照。

255、雙陸 速禄姑

— [}iguruku] （双六）

256、碁子 乞是

対応語無し。

「碁子」は「棋子」（碁石）に同じ。「乞是」は、その音「きし」を示しているらしい。あるいは、「碁石」の意の「いし」か。

257、木盆 大籟

→219、254 参照。

258、 舖盖 是及莫那

ㄣ [ʃ i t ʃ i m u N] (敷物) 。

259、 金亀 孔加尼噓也

対応語無し。

「孔加尼噓也」は「こがねかめ(黄金亀)」で、対応としてはㄣ [k u g a n i k a : m i] が考えられる。

260、 銀鶴 南者思禄

対応語無し。「なんぢやつる」。

ㄣ [n a n d ʒ a] は「銀」。(例) ㄣ [n a n d ʒ a d ʒ i : Φ a :] (銀の簪)。

261、 銀亀 南者噓也

対応語無し。「南者噓也」は「なんぢやがめ」だから、対応としては、

ㄣ [n a n d ʒ a g a : m i :] が考えられる。

262、 金鶴 孔加尼思禄

対応語無し。「こがねつる」。

263、 金帯 孔加尼乞角必

対応語無し。「こがねききおび」。

「乞角必」について 228 参照。

264、 玉帯 亦石乞各必

対応語無し。「いしききおび」。

「乞各必」は「乞角必」と同じ。228 参照。

265、 銀帯 南者乞角必

対応語無し。「なんぢやききおび」。

「乞角必」について 228 参照。

266、 花帯 法那乞角必

対応語無し。「はなききおび」。

「乞角必」について 228 参照。

267、 角帯 祖奴乞角必

対応語無し。「つのききおび」。

「乞角必」について 228 参照。

268、 金鍾 孔加尼麻加立

対応語無し。「こがねまかり」。「麻加立」について 237 参照。

269、 水筒 民足大籜

— [bindare:] (水盥)。「みづだらひ」から「ビンダレー」への(音)変化がある。

「大籜」について 219 参照。

270、 鞍子 烏馬奴姑籜

— [ʔmmanukura] (馬の鞍)。「うまの くら」。

271、 鞭子 烏馬奴不只

— [ʔmmanubuti] (馬の鞭)。「うまの むち」。

272、 金粉盒 孔加尼法个

— [kuganibaku] (黄金箱)。「こがねばこ」。

273、 銀粉盒 南者法个

対応語無し。「なんぢやばこ」。

274、 硯瓦盒 孫司立法个

— [ʔidzirikubaku] (硯箱)。

275、 鎖扶板 密達

対応語無し。「密達」未詳。

276、 討修舡隻 福尼茲孤立

「福尼茲孤立」は「ふねつくり」か。「船を造る」は— [ʔuni] — [tʃukujun]、「船を造って」は— [ʔuni] — [tʃukuti]。

人 物 門

277、 皇帝 倭的每

対応語無し。

278、 王妃 扎喇

対応語無し。(参考) — [ʔunadzara] (貴人の夫人)。

279、 王旧 敖那使多

対応語無し。「わうのしうと」。

「王」は $\bar{}$ [wo:]、「舅」は $\bar{}$ [ʃitu]。

280、 國王 敖那

$\bar{}$ [wo:nu] (王の)。「敖那」は $\bar{}$ [wo:] (王)と [nu] (の)とに分析できる。

281、 王子 敖那烏哇

$\bar{}$ [wo:nu] $\bar{}$ [kkwa] (王の 子)。

282、 朝廷 倭每奴

対応語無し。「おまへの」(御前の)か。

283、 大夫 太福

対応語無し。「たいふ」。

284、 長吏 大思

対応語無し。「たいし」。

285、 使者 使臣

対応語無し。「ししん」。

286、 通事 度日

対応語無し。「つうじ」。

『漂海録』に「通事 tu·cw」がある。

287、 正使 申思

対応語無し。「しんし」(真使)か。

288、 師父 失農包

対応語無し。「しのぼう」。

289、 唐人 大力那必周

$\bar{}$ [to:nuttʃu] (唐の人)。

「大力那必周」は「だいたうのひと」であろう。「一カ一」は「一刀一」の誤記と見る。「303、大唐大人 大刀那安周」とある。

290、 副使 付思

対応語無し。「ふくし」。

- 291、 尚書 上書
 対応語無し。「しやうしよ」。
- 292、 和尚 包子
 一 [bo: dʒi] (坊主)。
- 293、 長老 朝老
 対応語無し。「ちやうらう」。
- 294、 父親 阿舎多
 「語音翻訳」の「父親 'a·sja」に同じ。「阿舎多」は「阿舎」(あしゃ)と「多」(と)に分析できる。
 現代語の「父親」は一 [jikiganu?uja] (男の親)。呼びかけの場合は一 [?oto:]、以前は一 [su:]、更に遡れば、
 [ta:ri:]があった。
- 295、 母親 阿也
 一 [?aja:] (母親)。但し、最近は一 [?oka:]。
- 296、 大唐人 大力那必周
 →289 参照。
- 297、 大明人 大苗必周
 一 [minnut{u}] (明の人)。
- 298、 琉球人 倭及奴必周
 一 [?ut{ina:nt{u}] (沖縄の人)。
- 299、 日本人 亞馬奴必周
 一 [jamatunt{u}] (大和の人、「日本人」)。但し、「亞馬奴」は「アマヌ」とも考えられる。そうであれば、「向こうの人」の意となる。
- 300、 大明皇帝 大苗倭的每
 対応語無し。
- 301、 萬歲皇帝 麻柔倭的每
 対応語無し。

302、 朝貢使臣 嚙得那使者

対応語無し。

「嚙得那」は「くわうてい（皇帝）の」か。

303、 大唐大人 大刀那安周

対応語無し。「だいたうのあじ」か。「あじ」は「按司」か。

→289、296 参照。

304、 都通事 度日

→286 参照。

305、 兄 先扎

一 [ʃ i : d ʒ a] (年上のきょうだい。兄、姉)。

「語音翻訳」に「哥哥 sin・ca」とある。

306、 弟 非都只

一 [ʔ u t t u] (年下のきょうだい。弟、妹)。

「非都只」は「ひとつ」にしか対応しない。何かの誤解が働いたか。「日本館訳語」には「弟 吾都都」(おとと)とある。

307、 妻 眠多木

一 [t u d ʒ i] (妻、とき)。

「眠多木」は「めども」に対応か。宮古・八重山では、女性を「ミドゥン」または「ミドゥム」と言う。

308、 子 烏哇

一 [k k w a] (子)。一 [ʔ u ʒ a] (親)に対する「子」。

一 [ʔ u ʔ u t t ʃ u] (おとな)に対する「子」は一 [w a r a b i] (童)。

309、 大使臣 先度

対応語未詳。「先度」は琉球王朝の官職名の「せんどう(船頭)」か。

「田名文書」に「せんどう」とある。

舟の船頭は一 [ʃ i n d u :] とする。

310、 二使臣 才付

「才付」不詳。

311、 三使臣 官舎

対応語無し。

「田名文書」に「くわにしや」「くわんしや」とある。

312、 琉球國王 倭及那敖那

— [ʔutʃina:wo:nu] (沖繩王の)。「敖那」について
280 参照。

313、 琉球使臣 倭及那使者

— [ʔutʃina:nu] (沖繩の)「使者」。→302 参照。

314、 琉球大夫 倭及那太福

— [ʔutʃina:nu] (沖繩の)「太福」。→283 参照。

315、 琉球長使 倭及那大思

— [ʔutʃina:nu] (沖繩の)「大思」。→284 参照。

316、 琉球人伴 倭及那必周

— [ʔutʃina:nu] ⇨ [ttʃu] (沖繩の 人)

317、 琉球都通事 倭及那度日

— [ʔutʃina:nu] (沖繩の)「度日」。→286、304 参照。

318、 琉球正使 倭及那申思

— [ʔutʃina:nu] (沖繩の)「申思」。→287 参照。

319、 琉球封國王 倭及那敖那

→312 参照。

人 事 門

320、 跪 非撒慢多及

— [çisamantʃi:] (跪き座り)。「非撒慢多及」は「ひざまづき」。

321、 説 噓達立

⇨ [katajun] あるいは ⇨ [katajin] (語る)。文語的である。

322、 拜 排是

┌ [w u g a m u N] あるいは┌ [w u g a n u N] (拝む)。

「排是」は「はいす(拝す)」か「はいし(拝し)」。「日本館訳語」に収録されるべきであったか。「日本館訳語」には「吾阿也」(をがみ)とある。

323、 興 烏達的唆亦

対応語無し。「烏達的唆亦」は「お立ちさう(ら)へ」か。

324、 走 也姑亦及

┌ [Φ e : k u] ⇨ [? i k i] (⇨ [? i k e :]) (早く 行け)。

「行く」は⇨ [? i t { u N}]、 「行って」は⇨ [? n d ʒ i]、 「行き(たい)」は⇨ [? i t { i (b u s a N) }]。

325、 去 亦及

「亦及」は、「行き」(連用形)なのか、「行け」(命令形)なのか、定かではない。この点は、324 も同様である。

326、 來 外亦立

┌ [t { u : N}] (来る)。┌ [t t { i}] (来て)。┌ [k u :] あるいは┌ [k u : w a] (来い)。┌ [t { i : (b u s a N) }] (来(たい))。

「外亦立」は、音韻的に┌ [t { u : N}] とは対応しない。「語音翻訳」に「' o a i · c h o i」とある。また、宮古島地域には [w a : ɿ] がある。

327、 侏 烏喇哇

⇨ [? j a : j a] (君は、お前は)。

「烏喇哇」は「烏喇」と「哇」とに分析できる。「語音翻訳」に「' u · r a」とある。

328、 無 乃

┌ [n e : N] (無い)。

「乃」は「ない」を示していようが、これが直接┌ [n e : N] に繋がるのかどうなのかに関しては、疑問を残す。

329、 我 昂哇

— [wanja] (私は)、— [wanne:] (私は)。

「昂哇」は「昂」と「哇」とに分析できる。「語音翻訳」に「wan」とある。

330、 西 尼失

→057 参照。

331、 有 阿立

— [ʔan] (有る、在る)。— [ʔati] (あって)、— [ʔaji (gisa:)] (あり(ぞ))。

「阿立」は「あり」に対応。「語音翻訳」に「'a·rja·pui·ran·ru·mo (ありはべらねども)」とある。

332、 歹 哇禄撒

— [wassan] (悪い)。— [waruku] (悪く)、— [wakku] (悪く)。

「語音翻訳」に「'jo·'oar·sa」とある。

333、 東 加尼

→056 参照。

334、 睡 眠不立

⊃ [nindʒun] (眠る)。⊃ [ninti] (眠って)、
⊃ [nindzi (busan)] (眠り(たい))。

335、 好 約立撒

— [jutasan] (よろしい)。— [jutaʃiku] (よろしく)。

「語音翻訳」に「'jo·ta·sja」とある。

336、 賣 高葉

「高葉」の代わりに、次の項目の「烏立」が来るべきである。

⊃ [ʔujun] · ⊃ [ʔujin] (売る)、⊃ [ʔuti] (売って)。

337、 買 烏立

「烏立」の代わりに、前の項目の「高葉」が来るべきである。更に言えば、「日本館訳語」の「買 稿的」が、本来的には、ここにあるべきものと考えられる。

ㄟ [k o : j u N] ・ ㄟ [k o : j i N] (買う)、ㄟ [k o : t i] (買って)。

338、 請來 子盖失

ㄟ [t } i k e :] ㄟ [} } i] (遣い して)。

ㄟ [s u N] (為る)、ㄟ [} } i] (為て)、ㄟ [} i : (b u s a N)] (し(た))、ㄟ [s a N] (為た)、ㄟ [s a N] (為ない)。

ㄟ [s a n t a N] (為なかった)。

339、 醉了 由的

ㄟ [j i : t i] (酔って)。

ㄟ [j i : j u N] (酔う)、ㄟ [j i : t i] (酔って)、ㄟ [j i : j i (b u s a N)] (酔い(た))、ㄟ [j i : t a N] (酔った)、

ㄟ [j i : r a N] (酔わない)、ㄟ [j i : r a n ㄟ t a N] (酔わなかった)。

「語音翻訳」に「' i ・ ' u ・ t i」とある。

340、 入朝 大立葉密達

→206 参照。

341、 見朝 大立葉亦及

→205 参照。

342、 大明 大苗

ㄟ [m i N] (明)。「大苗」に関して 297、300 参照。

343、 請行 窩喇立

対応語無し。[Φ e : d a r i] (行きやがれ、行ってしまえ)は関係があるか。

344、 鞠躬 烏孫必

対応語無し。「語音翻訳」に「' a ・ s u m ・ p i」(遊べ、か)とあ

るのは参考になるか。

345、 底頭 烏乞立

┌ [? u k i r i] ・ ┌ [? u k i r e :] (起きろ、起きよ)。
┌ [? u k i j u n] ・ ┌ [? u k i : n] (起きる)、┌ [? u k i
t i] (起きて)、┌ [? u k i : (b u s a n)] (起き(たい))、
┌ [? u k i t a n] (起きた)、┌ [? u k i r a n] (起きない)
┌ [? u k i r a n t a n] (起きなかった)。

346、 擺着 那喇別

┌ [n a r a b i] (並び、並べ)。
┌ [n a r a b u n] (並ぶ)、┌ [n a r a d i] (並んで)、
┌ [n a r a b i (b u s a n)] (並び(たい))、┌ [n a r a d a]
(並んだ)、┌ [n a r a b a n] (並ばない)、┌ [n a r a b a n
t a n] (並ばなかった)。

347、 叩頭 噯籃子

┌ [k a r a d z i] (髪)。
「語音翻訳」には「頭髮 k h a ・ s i ・ r a」「頭 k a ・ n a n ・
z u」とある。これは、逆かもしれない。入れ替わった可能性がある。

348、 立住 達只外立

┌ [t a t t } o : r i] (立っていよ、立っている)に対応か。

349、 朝貢 噯得那

対応語無し。「くわうていの(皇帝の)」か。

→302 参照。

350、 謝恩 密温普姑立

対応語無し。「みおんほこり(御御誇り)」か。

351、 平身 个失烏奴必約

┌ [g a m a k u] ┌ [n u b a } i] (腰 伸ばせ)。

「个失烏奴必約」は「こしをのべよ(腰を伸ばせよ)」であろう。

352、 慶賀 密由外立

┌ [? u j u w e :] (お祝い)。「密由外立」は「みゆはひり」か。

- 353、 引領 阿老思
 対応語不詳。
- 354、 表章 漂那
 対応語無し。「ひやうの(表の)」?
- 355、 賞賜 非近的
 ー [c i t } i d i m u n] (引き出物)。
- 356、 起來 掲只
 ー [t t } i] (来て)。ー [t } u : n] (来る)、ー [t } i :
 (b u s a n)] (来(たい))。「掲只」は「キチ」であろう。
- 357、 進貢 噓得那
 →302、349 参照。
- 358、 進表 漂那阿結的
 「漂那」ー [? a g i t i] (漂那 上げて)。「漂那」は 354 に同
 じ。
- 359、 進本 盆那阿結的
 ー [h o n] ー [t u r a t } i] (本 取らせて=上げて)。
 「阿結的」は 358 に同じ(「上げて」)。
- 360、 報名 包名
 対応語無し。「包名」は「ほうめい」。
- 361、 辭朝 慢多罗
 →207 参照。
- 362、 回去 慢多罗
 →207、361 参照。
- 363、 早起 速多密的
 →077、088 参照。
- 364、 下程 林斤
 対応語不詳。
- 365、 筵宴 扎半失
 対応語無し。「扎半失」は「ちやばんじ(茶飯事)」か。

366、 買賣 烏立高葉

→336、337 参照。

367、 勅書 着姑少

対応語無し。「ちよくしよ」。

368、 拿来 莫只个

┌ [m u t t } i] ┐ [k u :] (持って来い)。

369、 好看 約達撒密的

┐ [j i : m i t } i] (良い道)。「約達撒」は「よたさ」。

370、 不好 哇禄撒

→332 参照。

371、 放下 烏着刻

┌ [? u t } a k u] (お客)。

372、 作揖 撒哇立是立

「撒哇立是立」不詳。「語音翻訳」に「做饭 ' o · p a · r i · s w · r j o i」とあり、「是立」は、この「s w · r j o i」と同じであろう。「作れ」か。

373、 給賞 非近的

→355 参照。

374、 方物 木那哇

┌ [m u n u j a] (物は)、┌ [m u n o :] (物は)。

375、 多少 亦加撒

┌ [t } a s s a] (いくら)。「イカサ」から「チャッサ」への変化ありき。

376、 言語 姑只

┐ [k u t } i] (口)。┐ [k u t } i] 単独では「言語・言葉」の意味は表わさない。[-g u t } i] の形で「～語、～言葉」の意味となる。(例)┌ [? u t } i n a : g u t } i] (「沖縄口」、沖縄語、沖縄言葉)、┌ [j a m a t u g u t } i] (「大和口」、日本語、日本の言葉)、┌ [? u r a n d a g u t } i] (「オランダ口」、外国語)。

- 377、 聖旨 由奴>失
 ㄣ [jununu {i}] (世の主)。
- 378、 曉的 失達哇
 ㄣ [{i} t t {i}] (知って)。ㄣ [{i} t t {e :}] (知っては)。
 「失達哇」は「しつたは」で、「知ったは」の可能性が考えられようが、
 余りに文語的過ぎるといふ感は否めない。
- 379、 不曉的 民那失達哇
 ㄣ [nna] ㄣ [{i} r a n] (皆 知らない)。否定(文)のはずである。
- 380、 今年慶賀 个多少密由外立
 →083、102、103 及び 352 参照。
- 381、 明日早起 阿者速多密的
 →021、086、及び 363 参照。
- 382、 御前謝恩 惡亞密温普姑立
 →195 及び 350 参照。
- 383、 且慢走 烏乞立乃
 「烏乞立乃」は「日本語」的。ㄣ [? u k i r a r a n] (起きられな
 い)か。
- 384、 上緊走 排姑亦及
 →324 参照。
 「排姑」に関して。324 には「乜姑」とあるが、この「排姑」が正しい音
 訳か。
- 385、 上御路 烏乜密集
 →209 参照。
- 386、 再叩頭 馬達嚙藍子乞
 →347 参照。
- 387、 我醉了 昂哇由的
 →329、339 参照。
- 388、 不好看 吐禄撒密的

┌ [warumitʃi] (悪い道)。┐ [janamitʃi] (悪い道)。

389、 昨日賞賜 乞奴非近的

→022、087、355 参照。

390、 今日御前謝恩 交哇悪亞密温普姑立

→015、085、195、350、382 参照。

衣服門

391、 緞 恕思

┌ [dunʃi] (緞子) (どんす)。

「恕思」は「日本語」で、「しゆす」か。

392、 紗 撒

対応語無し。「さ」。

393、 羅 罗

対応語無し。「ろ」。

394、 絹 活見

┌ [ʔi:tʃu] (絹)。

「活見」対応語無し。「ほっけん」。

395、 紬 柔

対応語無し。「しう」。

396、 布 木綿

┌ [mumin] (木綿)。

397、 靴 姑足

┐ [kutsu] (靴)。

398、 襪 都姑也

不詳。「襪」は「たび(足袋)」のはずであるから、それに対応するものを想定すべきか。

「足袋を履く」を(現代)沖縄語で┌ [ta:bi] ┐ [kumin] と言う。┐ [kudi] (履いて)、┐ [kumi (busan)] (履き

(たい)、ㄷ [kumi] (履け) などとなる。「姑也」は、これらと関連がありそうである。「都」は「たび」と。『琉球館訳語 本文と索引』では「都」を「那」と見ているが、その必要はあるまい。

もう一つの可能性。「襪」の訳として「足衣」が考えられるが、この「足衣」を「ソクイ」と読んだとすれば、「都姑也」と(音が)近くなることがわかる。

「朝鮮館訳語」には「鞮 展亨 蛙」とあるが、文瑾奎『朝鮮館譯語研究』は「[展亨] このままでは到底解読できない。」とする。

399、 鞋 三扒

ㄷ [saba] (草履)。

400、 帽 看不立

→210 参照。「干不立」と「看不立」とは同じ(音を表示している)と思われる。

401、 帶 乞角必

→228 参照。

402、 網巾 網巾

対応語無し。「まうきん」。

403、 紗帽 紗帽

対応語無し。「しやぼう」。

404、 員領 及都

不詳。「員」が「まる、まるいもの、まるい」を意味し、「領」が「うなじ、くび、着物の襟」を意味するとすれば、その方面からのアプローチが必要になる。「及都」は、(音が)「キツ」かこれに近いものを考えたほうが良い。「キヌ」ではなかろう。

現代朝鮮語で「襟」を「옷깃 'os-kis」あるいは単に「깃 kis」と言うが、朝鮮古語でも「깃 kis」であった。これは示唆に富む。つまり、「及都」は「襟」を意味する朝鮮語である可能性が高い。

ちなみに、「朝鮮館訳語」には「圓領 完零」とある。「完零」は、漢語「圓領」の発音を示しているだけである。朝鮮語の訳語ではない。

405、 衣服 乞那

— [tʃin] (衣、着物)。

406、 綿布 奴>木綿

「奴>」と「木綿」は順序が逆のように思える。つまり、「ぬのーもめん」ではなく「もめんーぬの」であろう。— [muminununu] (木綿布)。

407、 彩段 法那恕思

「法那」は「はな(花)」。「恕思」は 391に同じ。

408、 竹布 達及木綿

「たけもめん(竹木綿)」?

409、 夏布 那多木綿

「なつもめん(夏木綿)」?

410、 官絹 活見

→394 参照。

411、 葛布 噓布

対応語無し。「かつふ」。

412、 改機 盖乞

対応語無し。「かいき」。「改機」は、絹布の名。日本では「海機」とも書く。

413、 段子 恕思

→391 参照。

414、 倭絹 活見

→394、410 参照。

415、 表裏 烏喇惡莫的

— [ʔuraʔumuti] (裏表)。

416、 西洋布 尼失木綿

対応語無し。「にしもめん」。「西洋の木綿」の意(?)。

417、 玳瑁帶 噓乜奴个乞各必

→「噓乜奴个」は 183「噓乜那个」に同じ。「乞各必」は 264参照。

418、 龜全帶 嚙也乞角必

→「嚙也」は 160 参照。「乞角必」は 228、263、265、266、401 に同じ。

419、 鶴頂帶 它立那姑只乞各必

→「它立」は147、180 参照。「姑只」は180 参照。「乞各必」は264、417 参照。

420、 虎班絹 它喇活見

→「它喇」は139 参照。「活見」は394、410、414 参照。

421、 織金雲絹 孔加尼姑木活見

→「孔加尼」は259、262、263、268、272 参照。「姑木」は005 参照。「活見」は394、410、414、420 参照。

422、 玉帶 亦石乞角必

→「亦石」は034、042、264 参照。「乞角必」は228、263、265、266、267、401、418 に同じ。

423、 銀帶 南者乞角必

→「南者」は260、261、265、273 に同じ。「乞角必」は228、263、265、266、267、401、418、422 に同じ。

424、 金帶 孔加尼乞角必

→「孔加尼」は259、262、263、268、272、421 参照。「乞角必」は228、263、265、266、267、401、418、422、423 に同じ。

425、 織金綵段 孔加尼法那恕思

→「孔加尼」は259、262、263、268、272、421、424 参照。「法那」は106、123、240、266、407 参照。「恕思」は391、413 参照。

426、 花帶 法那乞各必

→「法那」は106、123、240、266、407、425 参照。

「乞各必」は264、417、419 参照。

飲 食 門

427、 酒 撒及

→ [s a k i] (酒)。

428、 肉 失失

—「{ i } i」(肉)。

429、 茶 扎

→105 参照。

430、 飯 翁班尼

—「? u b u N」(御飯)。

「語音翻訳」に「' o · p a · r i < n i >」「' o m · p a · r i < n i >」「' o · p a n · r i < n i >」とある。

431、 麵 以立蒙乞

対応語不詳。「いりむぎ(煎り麦)」か。

432、 菓 烏乜

→101、112 参照。「うめ(梅)」。

433、 菜 菜

→117 参照。

434、 水 民足

→031、062、064、269 参照。

435、 醉了 由的

→339、387 参照。

436、 飽了 哇那密撒

—「w a t a」—「m i t t { a n}」(満腹した。腹満ちた)。

「哇那密撒」未詳。「ワタ ミッチャ」ぐらいは想定できそうである。

437、 飢了 亞撒

—「j a : s a n}」(空腹だ、ひもじい)。

438、 酒飯 撒及翁班尼

→「撒及」は427、「翁班尼」は430 参照。

439、 鮮魚 必撒莫只

『混効験集』に「むしやもち 魚の類を云 さかななゝ云か如し」とあるのは、「必撒莫只」と同じと判断される。

→156、176 参照。

440、 喫茶 昂乞立扎

→「昂乞立」は358、359 の「阿結的」と同語（活用形は違う）。「扎」は105、429 参照。

441、 喫飯 昂乞立翁班尼

→「昂乞立」は440、「翁班尼」は430、438 参照。

442、 喫肉 昂乞立失失

→「昂乞立」は440、441、「失失」は428 参照。

443、 喫水 昂乞立民足

→「昂乞立」は440、441、442 参照。「民足」は031、062、064、269、434 参照。

444、 螺螄肉 密洋失失

― [t a : n n a] (田螺、「たにな」)。「密洋失失」は「にな」の「しし」。「失失」は428、442 参照。

445、 酒飯喫 撒及翁班尼昂乞立

→「撒及」は427、438、「翁班尼」は430、438、441、「昂乞立」は440、441、442、443 参照。

446、 吃 昂乞立

→440、441、442、443、445 参照。

447、 明日早起喫筵宴 阿者速多密的昂乞立扎半失

→「阿者」は021、086、381、「速多密的」は088、363、381、「昂乞立」は440、441、442、443、445、446、「扎半失」は365 参照。

身 躰 門

448、 頭 噉籃子

― [t i b u r u] (頭)。― [k a r a d z i] (頭髮)。

→347、386 参照。

449、 耳 眉

― [m i m i] (耳)。「日本館訳語」には「耳 密密」とある。

「語音翻訳」にも「m i」とある。双方共に「落ち」があるか。

450、眉 馬由

— [maju] (眉)。

451、目 乜

— [mi:] (目)。「語音翻訳」に「mui」とある。

452、口 姑之

↪ [kutʃi] (口)。→180、419、376 参照。

「語音翻訳」に「khu·ci」とある。

453、牙 華

— [ha:] (齒)。→168 参照。

「語音翻訳」に「pha」とある。

454、鼻 花那

↪ [hana] (鼻)。

「語音翻訳」に「pha·na」とある。

455、手 帖

— [ti:] (手)。

「語音翻訳」に「thi」とある。

456、脚 亞失

↪ [cisa] (足)。

「語音翻訳」に「phi·sja」とある。

457、心 个个罗

— [kukuru] (心)。— [tʃimu] (「肝」、心)とも言う。

「語音翻訳」に「ki·mo」とある。

458、身 度

— [du:] (「胴」、身体)。

「語音翻訳」に「to·'u」とある。

459、髮 加籃

— [karadzɪ] (頭髮)。→347、448 参照。

460、 眉毛 不潔

一 [maj u] (眉)。一 [maj ugi:] (眉毛)。

「不潔」不詳。「まゆげ」の「ゆげ」の部分に相当するか。

461、 胡子 品乞

一 [ci dʒi] (髭、髯)。

珍 宝 門

462、 金 孔加尼

→259、262、263、268、272、421、424、425 参照。

463、 銀 南者

→260、261、265、273、423 参照。

464、 銅 嚙加加尼

一 [ʔakugani] (あかがね、銅)。一 [do:] とも。

465、 鉄 姑禄加尼

一 [kurugani] (くろがね、鉄)。一 [titʃi] とも。

466、 錫 失禄加尼

一 [ʃirugani] (しろがね、錫)。一 [ʃidʒi] とも。

467、 錢 熟尼

一 [dʒiN] (錢、金)。

468、 鈔 支尼

→467 に同じ。

469、 玉 亦石

→034、042、264、422 参照。

470、 珠 達馬

→243 参照。

471、 石 亦石

→034、042、264、422、469 参照。

472、 瑪瑙 烏馬那達馬

「うまのたま」。「烏馬」は141、246、270、271、「達馬」は243、470 参

照。

473、 珊瑚 亜馬那達馬

「やまのたま」。「珊瑚」が何故「山の珠」か。

「亜馬」は030、062、「達馬」は243、470、472 参照。

474、 玊珠 達馬

→243、470、472、473 参照。

475、 象牙 槽華

「ざうは」。「槽」は135、146、168、「華」は168、453 参照。

476、 水晶 民足達馬

「みづたま」。「民足」は031、062、064、269、434、「達馬」は243、470、473、474 参照。

477、 玉石 達馬亦石

「たまいし」。「達馬」は243、470、472、473、474、476、「亦石」は034、042、264、422、469、471 参照。

478、 琥珀 它喇

→139、420 参照。

479、 囉子 達馬

→243、470、472、473、474、476、477 参照。

480、 龜全 噶乜

→160、169、170、183、259、261、417 参照。

481、 玳瑁 噶乜那个

→169 と同じ。

482、 犀角 烏失祖奴

「うしつの」。「烏失」は143、171、184、245、「祖奴」は171、184、267 参照。

483、 倭扇 昂及

→242 参照。

484、 倭刀 達只

→212 参照。

- 485、 硫磺 魚敖
一 [j u : w e :] (硫黄)
- 486、 片腦 兵卞
対応語無し。「びんべん」。
- 487、 惡味 惡肺
対応語無し。「やあふい」。
- 488、 丁香 朝失
→131 参照。
- 489、 沉香 定稿
→132 に同じ。
- 490、 速香 申自密稿
→130 に同じ。
- 491、 木香 南木稿
→128 に同じ。
- 492、 乳香 由稿
→134 に同じ。
- 493、 檀香 別姑旦稿
→133 参照。
- 494、 黄礬 晃礬
対応語無し。「くわうばん」。
- 495、 血結 槽那結
「ざうのち」。「槽」は135、146、148、475、「結」は135 参照。
- 496、 香珠 稿達馬
「かうたま」。「稿」は120、128、130、132、134、239、241、243、489、490、
491、492、493、「達馬」は243、470、472、473、476、477、479 参照。
- 497、 蘇木 思哇
→129 に同じ。
- 498、 胡椒 姑焼
→127 参照。

499、 海蛇 烏也孫必

→177 に同じ。

500、 金剛纂 孔加尼

→259、262、263、268、272、421、424、425、462 参照。

501、 阿芙蓉 阿卞

一 [? a Φ i N] (阿片)。

502、 瑪瑙珠 烏馬那達尼

「うまのたま」。472 参照。

503、 珊瑚珠 亞馬那達馬

→473 参照。

504、 奇南香 加那木稿

→137 参照。

505、 孩児茶 烏定尼

→136 参照。

506、 蘇合藥 思合約

「すはうやく」。「思合」129、497 参照。

数 目 門

507、 一 的子

一 [t i : t } i] (一つ)。

508、 二 達子

二 [t a : t } i] (二つ)。

509、 三 密子

三 [m i : t } i] (三つ)。

510、 四 由子

四 [j u : t } i] (四つ)。

511、 五 亦子子

五 [? i t } i t } i] (五つ)。

512、 六 木子

⌣ [m u : t } i] (六つ)。

513、 七 那那子

┌ [n a n a t } i] (七つ)。

514、 八 甲子

⌣ [j a : t } i] (八つ)。

515、 九 姑姑奴子

┌ [k u k u n u t } i] (九つ)。

516、 十 吐

⌣ [t u :] (十、とお)。

517、 十一 吐的子

⌣ [t u : t i : t } i] (とおひとつ)。現代語では、┌ [d ʒ u :
? i t } i] (十一)が普通。

518、 十二 吐達子

⌣ [t u : t a : t } i] (とおふたつ)。現代語では、┌ [d ʒ u :
n i] (十二)が普通。

519、 十三 吐密子

⌣ [t u : m i : t } i] (とおみっつ)。現代語では、┌ [d ʒ u :
s a n] (十三)が普通。

520、 十四 吐由子

⌣ [t u : j u : t } i] (とおよっつ)。現代語では、┌ [d ʒ u :
} i] (十四)が普通。

521、 十五 吐亦子子

⌣ [t u : ? i t } i t } i] (とおいつつ)。現代語では、
┌ [d ʒ u : g o] (十五)が普通。

522、 十六 吐木子

⌣ [t u : m u : t } i] (とおむっつ)。現代語では、┌ [d ʒ u :
r o k u] (十六)が普通。

523、 十七 吐那那子

↗ [tu: nanatʃi] (とおななつ)。現代語では、
┌ [dzu: ʃitʃi] (十七) が普通。

524、 十八 吐甲子

↗ [tu: ja:tʃi] (とおやっつ)。現代語では、┌ [dzu: hatʃi] (十八) が普通。

525、 十九 吐姑姑奴子

↗ [tu: kukunutʃi] (とおここの)。現代語では、
┌ [dzu: ku] (十九) が普通。

526、 二十 達子吐

↗ [ta:tʃitu:] (ふたつとお)。現代語では、↗ [nidzu:] (二十) が普通。

527、 二十一 達子吐的子

↗ [ta:tʃitu:tʃitʃi] (ふたつとおひとつ)。現代語では、
↗ [nidzu:ʔitʃi] (二十一) が普通。

528、 二十二 達子吐達子

↗ [ta:tʃitu:ta:tʃi] (ふたつとおふたつ)。現代語では、
↗ [nidzu:ni:] (二十二) が普通。

529、 二十三 達子吐密子

↗ [ta:tʃitu:mi:tʃi] (ふたつとおみっつ)。現代語では、
↗ [nidzu:san] (二十三) が普通。

530、 二十四 達子吐由子

↗ [ta:tʃitu:ju:tʃi] (ふたつとおよっつ)。現代語では、
↗ [nidzu:ʃi:] (二十四) が普通。

531、 二十五 達子吐亦亦子

↗ [ta:tʃitu:ʔitʃitʃi] (ふたつとおいつつ)。現代語では、
↗ [nidzu:go:] (二十五) が普通。

532、 二十六 達子吐木子

↗ [ta:tʃitu:mu:tʃi] (ふたつとおむっつ)。現代語

では、ㄣ [nidʒu:roku] (二十六) が普通。

533、 二十七 達子吐那那子

ㄣ [ta:tʃitu:nanatʃi] (ふたつとおななつ)。現代語では、ㄣ [nidʒu:ʃitʃi] (二十七) が普通。

534、 二十八 達子吐甲子

ㄣ [ta:tʃitu:ja:tʃi] (ふたつとおやっつ)。現代語では、ㄣ [nidʒu:hatʃi] (二十八) が普通。

535、 二十九 達子吐姑姑奴子

ㄣ [ta:tʃitu:kukunutʃi] (ふたつとおここのつ) 現代語では、ㄣ [nidʒu:ku:] (二十九) が普通。

536、 三十 密子吐

ㄣ [mi:tʃitu:] (みっつとお)。現代語では、ㄣ [sandʒu:] (三十) が普通。

537、 一錢 亦止買毎

対応語無し。「いちもんめ」。

538、 二錢 尼買毎

対応語無し。「にもんめ」。

539、 三錢 衫買毎

対応語無し。「さんもんめ」。

540、 四錢 深買毎

対応語無し。「しもんめ」。

541、 五錢 烏買毎

対応語無し。「ごもんめ」。

542、 六錢 祿姑買毎

対応語無し。「ろくもんめ」。

543、 七錢 是止買毎

対応語無し。「しちもんめ」。

544、 八錢 法只買毎

対応語無し。「はちもんめ」。

545、 九錢 姑買每

対応語無し。「くもんめ」。

546、 一兩 就買每

対応語無し。「じょうもんめ」。

547、 十兩 必亜姑就每

対応語無し。「ひやくじょうもんめ」。「就買每」のはずである。「買」脱落。

548、 一百兩 必亜姑

一 [c j a : k u] (百)。

549、 一千个 森那

一 [ʃ i n n u] (千の)。「森」(せん)と「那」(の)とに分析できる。

550、 一萬 麻柔吐失

対応語無し。「吐失」は「とし(年)」であろうが、「麻柔」は未詳。「萬」に関連するだろうが。

551、 千歳 森那

→549 参照。

552、 萬萬歳 麻柔吐失

→550 参照。

通 用 門

553、 買 烏立

→337、366 参照。

554、 賣 高葉

→336、366 参照。

555、 来 外亦立

→326 参照。

556、 去 亦及

→205、208、324、325、341、384 参照。

- 557、 遠 它加撒
→046、0612 参照。
- 558、 近 集加撒
→047、060 参照。
- 559、 上 烏乜
→054、209、385 参照。
- 560、 下 失莫
→055 参照。
- 561、 東 加尼
→056、333 参照。
- 562、 西 尼失
→057、330、416 参照。
- 563、 南 米南米
→058 参照。
- 564、 北 乞大
→059 参照。
- 565、 前 馬也
→050 参照。
- 566、 後 烏失祿
→051 参照。
- 567、 左 分達立
→052 参照。
- 568、 右 民及立
→053 参照。
- 569、 你 烏喇哇
→327 参照。
- 570、 我 昂哇
→329、387 参照。

571、 有 阿立

→331 参照。

572、 無 乃

→383 参照。

573、 説 噓達立

→321 参照。

574、 看 密只

→206、304 参照。

575、 求討 達毛立

― [t a b o : r i] (賜れ)。― [t a b o : j u n] (賜る)、
― [t a b o : r i] (賜り)。

576、 什物 是及莫奴

→258 参照。

577、 起身 掲只亦及

→「掲只」は356、「亦及」は205、341、208、325、556 参照。

「きていき」(来て行き)に対応。「たちていき」ではない。

578、 起去 掲只亦及

→577 参照。

579、 起來 掲只

→356、577、578 参照。

大筋として *キテ [k i t e] → *キチェ [k i t ʃ e] →

*キチ [k i t ʃ i] → ッチ [t t ʃ i] のような変化過程が考えられるが、その「キチ」の段階を示しているようである。

580、 回去 慢多罗

→207、361、362 参照。

581、 請來 子盖失

→338 参照。

582、 説話 噓達立

→321、573 参照。

583、 不敢 揚密撒

¬ [jami : sa] (止めるよ)。

584、 曉的 失達哇

→378 参照。

585、 知道 失只

¬ [{}itt{}i] (知って)。¬ [{}ijun] (知る)、¬ [{}iran] (知らない)、¬ [{}itt{}an] (知った)、¬ [{}arant{}an] (知らなかった)。

586、 不答 仝

→585 参照。

587、 回賜 仝

→585 参照。

588、 好看 約達撒密只

→335、369 参照。

589、 不好 哇祿撒

→332、370 参照。

590、 買賣 烏立高葉

→366 に同じ。

591、 有無 阿立及^(ママ)

→331、571 参照。

592、 東西 加尼尼失

→「加尼」は056、333、561、「尼失」は057、330、416、562 参照。

593、 不曉的 民那失達哇

→379 に同じ。

594、 不知道 失籃子

¬ [{}iran] (知らない)。→378、379、584、585、593 参照。

595、 明日起身 阿者速多密的揭只

→「阿者」は021、086、381、447、「速多密的」は088、363、381、447、595 参照。「揭只」は356、577、578、579 参照。

4、「琉球館訳語」の沖縄語

「語音翻訳」の分析結果につけ加えるべきものはない。ここでは、用字・用例を示すに留める。

「琉球館訳語」

(『琉球館訳語 本文と索引』 1979年 による)

右	後	短	近	嶺	苑	橋	欒	城	井
民木立	身取	喜天登大	喜登	喜七	味清	八乃	是那	速	手清
上	左	前	長	速	岸	磚	灰	泥	藩
鳥	分	鳥	分	分	分	分	分	分	分

路	水	海	江	地	風	明日	天	陰
喜集	民足	鳥	喜名	地理門	喜集	何者	喜集	喜集
石	氷	山	河	土	露	昨日	下	天
喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜

今日	霞	電	星	雨	雲	月	天	天文門
喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜
起	霜	電	霧	雷	雷	風	日	日
喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜

果	米	茶	今年閏三月	閏月	十一月	九月	七月	五月
鳥	葉	花	喜	喜	喜	喜	喜	喜
松	樹	花	喜	喜	喜	喜	喜	喜
鳥	鳥	鳥	鳥	鳥	鳥	鳥	鳥	鳥

三月	正月	昨日	今日	今年	年	時	早	晝	陰
喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜
喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜
喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜

寒	秋	春	海洋	路	地	西	下
喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜
喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜
喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜	喜

鬃	孔雀	鳳凰	龜	蛇	魚	鼠	狗	驢	鸞
鬃毛	公火	六角	龜毛	龜鱗	魚鱗	鼠毛	狗毛	驢毛	鸞毛
仙鶴	獅子	麒麟	雀	猴	羊	鷹	皮	驢	猪
毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛

象	兔	獅	虎	龍	奇南香	血竭	檀香	丁香
指	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛
鷄	熊	牛	馬	虎	烏獸門	琥珀	乳香	沉香
毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛

蘇木	胡椒	荔枝	蓮花	蓮蓬	葉	菓	草	笋	栢
毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛
蓮香	木香	甘蔗	龍眼	蓮子	香	瓜	菓	竹	梅
毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛

瓶	盤	鉢	弓	刀	盔	上御道	解朝	見朝
瓶	盤	鉢	弓	刀	盔	鳥毛	鳥毛	鳥毛
床	盆	卓	弦	箭	甲	朝雲	朝雲	朝雲
毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛

草房	開門	皇城	御橋	御前	河	樓	窓	塔	城
毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛
毛房	閨門	郭驛	母驛	御路	御河	井	房	門	牆
毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛

犀牛角	大海螺	鶴頂	鷓鴣	魚	喜雀	抹皮	龜	象牙
毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛
宮室門	玳瑁	海狗	紫鵝	海狗	老鴉	熊皮	牛角	玳瑁
毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛

金鶴	孔名鳥類	金帶	孔名鳥類
玉帶	亦名名必	銀帶	南名鳥類
花帶	法那鳥類	南帶	法那鳥類
金鍊	孔名鳥類	水筒	孔名鳥類
鞍子	鳥名鞍子	鞭子	鳥名鞍子
金粉盒	孔名鳥類	銀粉盒	南名鳥類
硯盒	鳥名硯盒	銀杖	南名鳥類
討論每隻	鳥名硯盒		
人物門			
皇帝	傳的錄	王妃	孔名

銀鶴	南名鳥類	銀龜	南名鳥類
舖蓋	鳥名舖蓋	金龜	孔名鳥類
菓子	鳥名菓子	木盆	大類
食器	大類	雙陸	大類
酒鐘	投子手	茶鐘	投子手
交床	企	交椅	香香堂
箱子	凱	紋橙	企
馬缸	鳥名馬缸	快缸	佛尼
深刃	印名深刃	鉄箱	鳥名深刃
倭扇	鳥名	香珠	佛尼

花糕	鳥名糕	香金	佛尼
屏風	鳥名屏風	香炉	佛尼
額	佛尼	碗	佛尼
絲	佛尼	硯	佛尼
字	佛尼	墨	佛尼
書	佛尼	筆	佛尼
帶	佛尼	畫	佛尼
蓬	佛尼	筋	佛尼
船	佛尼	櫓	佛尼
帆	佛尼	挽	佛尼

騰	鳥名騰	好	鳥名好
夕	鳥名夕	東	鳥名東
西	鳥名西	有	鳥名有
無	鳥名無	我	鳥名我
來	鳥名來	你	鳥名你
走	鳥名走	去	鳥名去
拜	鳥名拜	興	鳥名興
純	鳥名純	說	鳥名說
人事門			
琉球封國王	傳是封國王		

目人	鳥名目人	大明皇帝	鳥名大明皇帝
萬歲皇帝	鳥名萬歲皇帝	朝貢使臣	鳥名朝貢使臣
大層大人	鳥名大層大人	都通事	鳥名都通事
元	鳥名元	第	鳥名第
妻	鳥名妻	子	鳥名子
大使臣	鳥名大使臣	二使臣	鳥名二使臣
三使臣	鳥名三使臣	琉球國王	鳥名琉球國王
琉球使臣	鳥名琉球使臣	琉球大夫	鳥名琉球大夫
琉球長使	鳥名琉球長使	琉球人伴	鳥名琉球人伴
琉球都通事	鳥名琉球都通事	琉球正使	鳥名琉球正使

王曰	鳥名王曰	國王	鳥名國王
王子	鳥名王子	朝廷	鳥名朝廷
大夫	鳥名大夫	長史	鳥名長史
使者	鳥名使者	通事	鳥名通事
正使	鳥名正使	師父	鳥名師父
唐人	鳥名唐人	副使	鳥名副使
尚書	鳥名尚書	扣尚	鳥名扣尚
長老	鳥名長老	父親	鳥名父親
母親	鳥名母親	大唐人	鳥名大唐人
大明人	鳥名大明人	琉球人	鳥名琉球人

言語	契	聖旨	由故、失
曉的	來達性	不曉的	民那來達士
今年慶賀	个多外路出外	明日早起	何者更多要の
御前謝恩	喜達達喜望	且慢走	鳥毛立刀
上采走	外好子及	上御路	鳥毛每集
拜叩頭	鳥達達喜手毛	我辭了	鳥毛由の
不好看	上御路喜火	昨日有賜	鳥毛非此的
合御前謝恩	喜達達喜望		
衣服門			
意			
紗			
機			

起來	相入	進貢	進印
進表	鳥羽信符的	進本	空印信符的
報名	包名	解朝	慢多更
回去	慢多更	早起	慢多更の
下程	林行	進宴	孔平火
買貢	鳥毛高葉	勅書	着如火
拿未	其个	好看	約度按糸的
不好	法服機	放下	鳥毛到
作拵	機立臺	拾賞	非此的
方物	木物性	多火	亦加機

賣	高葉	買	壹
請來	手立矢	醉了	四的
入朝	大玉葉葉達	見朝	大玉葉葉又
大明	大苗	請行	高羽立
鞠躬	鳥羽	底頭	鳥毛立
搦着	那羽到	叩頭	鳥毛立
立住	虎毛立	朝貢	鳥毛立
謝恩	喜達達喜望	平身	个多鳥羽到
發價	喜達達喜望	引領	何者意
表章	喜達達喜望	賞賜	非此的

麵	麥	菓	鳥毛
菜	菜	水	鳥毛
餅	鳥	飽	鳥毛
鮮魚	鳥	酒飯	鳥毛
與飯	鳥毛	與茶	鳥毛
與飯	鳥毛	與肉	鳥毛
與水	鳥毛	與肉	鳥毛
道飯	鳥毛	與肉	鳥毛
明日早起	鳥毛	與肉	鳥毛
身躰門			

餃子	意	倭絹	片見
表乘	鳥羽	西洋布	尾矢木綿
玳瑁帶	鳥毛	龜金帶	鳥毛
鶴頂帶	鳥毛	虎斑絹	鳥毛
織金雲縞	鳥毛	玉帶	鳥毛
銀帶	鳥毛	金帶	鳥毛
編金綾段	鳥毛	花帶	鳥毛
飲食門			
酒	肉	飯	鳥毛
茶	鳥		

羅	絹	紗	布	絹	絹
帶	帶	帶	帶	帶	帶
紗帽	紗帽	真領	絹巾	網巾	網巾
衣服	衣服	絹布	絹布	絹布	絹布
衫段	衫段	竹布	竹布	竹布	竹布
夏布	夏布	官絹	官絹	官絹	官絹
香布	香布	改機	改機	改機	改機

片腦	去下	惡味	毒辟
丁香	弱失	沉香	又隔
速香	中自容積	木香	南木隔
乳香	肉積	檀香	別括是積
黃礬	是毒	血結	積外結
香珠	括連馬	蘇木	惡生
胡椒	括規	海蛇	馬毛禁
金剛藤	孔加尼	阿芙蓉	百下
瑪瑙珠	馬馬那連尼	珊瑚珠	玉馬那連尼
奇南香	加那木隔	孩兒茶	馬史尼

倭刀	建只	硫磺	魚鼓
犀角	馬史尼奴	倭扇	昂及
龜全	生七	玳瑁	生七骨了
琥珀	毛利	礬子	連馬
水晶	氏足連馬	玉石	連馬苦若
環珠	連馬	象牙	穆羊
瑪瑙	馬馬那連馬	珊瑚	玉馬那連馬
珠	連馬	石	赤石
歟	文尼	玉	赤石
賜	夾核加尼	戲	燕尼

頭	法童子	耳	有
眉	馬由	目	七
口	括之	牙	羊
鼻	花那	手	帖
脚	亞失	心	丁丁夏
身	度	髮	加夏
肩毛	不潔	胡子	品乞
金	珍寶門	銀	南者
銅	孟加加尼	鉄	括林孟尼

七錢	是止買每	八錢	法只買每
九錢	括買每	一兩	括買每
十兩	空括括每	一百兩	空括括
一千丁	空括	一萬	空括括
千歲	空括	萬萬歲	空括括
買	馬主	賣	馬葉
來	外主	去	才及
遠	空括	近	空括
上	馬史	下	馬史

十七	吐邪子	十八	吐甲子
十九	吐邪子	二十	連子吐
二十一	連子吐子	二十二	連子吐子
二十三	連子吐子	二十四	連子吐子
二十五	連子吐子	二十六	連子吐子
二十七	連子吐子	二十八	連子吐子
二十九	連子吐子	三十	連子吐子
一錢	止買每	二錢	尼買每
三錢	括買每	四錢	括買每
五錢	括買每	六錢	括買每

蘇合藥	是合藥	數目門	是合藥
一	的子	二	連子
三	毒子	四	甲子
五	毒子	六	木子
七	邪子	八	甲子
九	括買每	十	吐
十一	吐的子	十二	連子
十三	吐子	十四	吐子
十五	吐子	十六	吐子

琉球館訳語	明日起身	不曉的	有無	不好	回賜	知道	不敢	請來
	氏那本達達	氏那本達達	氏那本	哇孫孩	今	大只	地本孩	子美夫
	不曉道	東向	買賣	好看	付答	曉的	說話	生達王
	大島子	氏那本	氏那本	氏那本	今	大達王		

起來	起身	求討	說	有	你	左	前	南	東
折尺	折尺	建毛王	建毛王	阿	馬	分達王	馬	木由米	泥
回去	起去	什物	看	無	我	右	後	北	西
僕多夫	僕多夫	是來某奴	再只	刀	再止	氏那王	馬後	毛天	辰

「琉球館訳語」音訳漢字用例一覽

本文は、ロンドン本による。

配列は、対応すると考えられる「歴史的仮名遣い」により、五十音順とする。用字は、総画数の少ないものから多いものへと並べる。

見出し語通し番号を用い、用例数を示す。但し、「003」、「087」などの「00」、「0」などは省き、「3」、「87」などのようにした。。

用字・用例（語頭、語中の順で、かつ見出し語通し番号順）（用字部分は「 - 」で示す）・対応する本文の中国語（ [] でくる。対応するものが無い場合は、（ ）で和訳を示す）・用例の見出し語通し番号 の順である。

(例)

之	姑	[口]	452
用字	用例	対応する本文 見出し中国語	用例の見出し語 通し番号

- あ
- 安 一周 [大人] 303
- 亜 一失 [脚] 456
- 一馬奴 [日本] 299
- 阿 一及 [秋] 67
- 一結的 [進] 358, 359
- 一个罗 [開] 201
- 一舍多 [父親] 294
- 一者 [明日] 21, 86, 381, 447, 595
- 一下 [阿芙蓉] 501
- 一セ [母親] 295
- 一老思 [引領] 353
- 一立 [有] 331, 571, 591
- 昂 一乞立 [喫] 440, 441, 442, 443, 445, 446, 447
- 哀 麻達喇一茲 [紫鴈] 179
- 嗑 一加加尼 [銅] 464
- 一子撒 [熱] 70
- 一セ [雨] 7, 9
- あふ
- 昂 一及 [倭扇] 242, 483
- い
- 以 一立蒙乞 [麵] 431
- 亦 一加撒 [多少] 375
- 一及 [氣] 80
- 一及 [去] 208, 325, 556, 577, 578
- [走] 324, 384
- [見] 205, 341
- 一石 [石] 34, 42, 447, 469
- [玉~] 264, 422
- 一止買每 [一錢] 537
- 一子子 [五] 511
- 一亦子 [五] 521, 531
- 一奴 [狗] 152
- 一葉 [房] 190, 203, 204
- 一窩 [魚] 176
- 外一立 [来] 326, 555

- う 烏 一撒乃 [兔] 144
 一失 [牛] 143, 171, 184, 482
 一失加尼 [鉄猫] 245
 一失禄 [後] 51, 556
 一孫必 [鞠躬] 344
 一定尼 [垓兒茶] 136, 505
 一只八籃 [朝裏] 208
 一セ [上] 54, 209, 385, 559
 一馬 [馬] 141, 246, 270, 271, 472, 502
 一セ [海] 29, 63, 177, 499
 一セ [果] 109
 [華] 112
 [梅] 132
 一喇惡莫的 [表裏] 415
 一喇哇 [你] 327, 569
 一立 [瓜] 118
 一立 [買] 338, 366, 553, 590
 一奴一多及 [閏月] 101, 102, 103, 104
 ? 鳴 一哇 [猪] 149
 [驢] 150
 [騾] 151
 え 葉 一急 [館駅] 200
 お 烏 一乞立 [底頭] 345
 一乞立乃 [且慢走] 383
 一達的唆亦 [興] 323
 倭 一及那 [琉球] 312, 313, 314, 315, 316, 317, 318, 319
 一及奴 [琉球] 298
 一的每 [皇帝] 277, 300, 301
 一每奴 [朝廷] 282
 翁 一班尼 [飯] 430, 438, 441, 445
 惡 烏喇一喇的 [表裏] 415
 一垂 [御前] 195, 382, 390
 溥 一嗑子及 [茶鍾] 253
 おん 温 密一普姑立 [謝恩] 350, 382, 390

か 个 達一 [鶯] 155
 [鴻鴈] 178
 干 一不立 [盃] 210
 加 一奴不稿 [奇南香] 137, 504
 一目 [鹿] 140
 嗑一加尼 [銅] 464
 亦一撒 [多少] 375
 烏失一尼 [鉄猫] 245
 个失一及 [板橙] 249
 [交床] 250
 集一撒 [近] 47, 60, 558
 它一撒 [遠] 46, 61, 557
 麻一立 [碗] 237
 那 一別 [牆] 36, 183
 密失一失 [短] 49
 看 一失 [舵] 224
 一不立 [帽] 400
 高 一葉 [壳] 336, 366, 554, 590
 嗑 一集 [風] 4, 16, 23
 一達立 [說] 321, 573 [說話] 582
 一布 [葛布] 411
 一哇 [河] 28, 193, 194
 [皮] 153, 172, 173, 181
 一哇喇 [瓦] 43, 204
 一七 [紙] 234
 [龜] 160, 169, 170, 183, 259, 261, 417, 418, 480,
 481
 一籃子 [頭] 347, 386, 459
 一籃 [髮] 459
 一喇思 [老鴉] 175
 撒一子及 [酒鍾] 252
 達一 [鶯] 148
 塔一惡 [楼] 191
 倭一 [岸] 44

かい 害 一宅 [獬豸] 166
 盖 一乞 [改機] 412
 開 一的 [字] 232
 かう 稿 一 [香] 120, 128, 130, 132, 134, 137, 489, 490
 一達馬 [香珠] 243, 496
 一法个 [香盒] 241
 一炉 [香炉] 239
 かひ 盖 子一失 [請来] 338, 581
 凱 一 [箱子] 248
 かふ 个 嗑セ那一 [玳瑁] 169, 183, 417, 481
 かん 官 一舍 [三使臣] 311
 が 加 嗑加一尼 [銅] 464
 孔一尼 [金] 259, 262, 263, 268, 272, 421, 425, 462
 孔一查思 [喜雀] 174
 失禄一尼 [錫] 466
 一尼 [東] 56, 333, 561, 593
 嗑 姑禄一尼 [鉄] 465
 个一尼 [霞] 13
 那一失 [長] 48
 亦一喇 [井] 35, 192
 がん 暗 隆一 [龍眼] 124
 き 乞 一角必 [帶] 228, 263, 265, 266, 267, 401, 418, 422, 423,
 424
 一各必 [帶] 264, 417, 419, 426
 一大 [北] 59, 564
 一是 [棊子] 256
 一奴 [昨日] 389
 一立 [霧] 10
 一辨 [麒麟] 163
 烏一立 [底頭] 345
 烏一立乃 [且慢走] 383
 馬達嗑籃子一 [再叩頭] 386

及 那一 [樹] 108
 一那 [衣服] 405
 一都 [員領] 404
 一奴 [昨日] 22, 87
 阿一 [秋] 67
 亦一 [氣] 80
 倭一奴 [琉球] 298
 倭一那 [琉球] 312, 313, 314, 315, 316, 317, 318, 319
 盖一 [改機] 412
 溥嗑子一 [酒鍾] 252
 是一莫那 [舖盖] 258
 是一莫奴 [什物] 576
 溥嗑子一 [茶鍾] 253
 都一 [月] 3
 多一 [月] 99, 101, 102, 103, 104
 吐一 [時] 79
 非撒慢多一 [跪] 320
 馬足那一 [松] 110
 [栢] 111
 歪一亦石 [磚] 42
 近 非一的 [賞賜] 355, 389
 [給賞] 373
 各 乞一必 [帶] 264, 417, 419, 426
 角 乞一必 [帶] 228, 263, 265, 266, 267, 401, 418, 422, 423, 424
 急 葉一 [館駅] 200
 揭 一只 [起来] 356, 579
 一只 [起] 577, 578, 595
 結 別姑旦一 [壇香] 133
 喬 一古魯古 [交椅] 251
 巾 網一 [網巾] 403
 斤 林一 [下程] 364

きよ
 きん

ぎ 乞 以立蒙一 [麵] 431
 及 昂一 [倭扇] 242, 483
 烏撒一 [兔] 144
 那一那達 [滾刀] 244
 民一立 [右] 53, 568
 翁一 [甘蔗] 126
 < 公 一少 [孔雀] 164
 古 喬一魯一 [交椅] 251
 姑 一哇的 [九月] 97
 一撒 [草] 115, 203
 一之 [口] 452
 一只 [言語] 376
 [頂] 180, 419
 一足 [靴] 397
 一馬 [熊] 145, 173
 一木 [雲] 5, 421
 一木的 [陰] 17, 73
 一買每 [九錢] 545
 一籟 [鞍子] 270
 一祿嗑尼 [鉄] 465
 福祿一 [起] 16
 姑速一 [皇城] 164, 199
 速祿一 [双陸] 255
 些一尼集 [節] 82
 着一少 [勅書] 367
 都一七 [襪] 398
 排一亦及 [上緊走] 384
 必垂一 [十兩] (百) 547
 [一百兩] 548
 別一旦結 [壇香] 133
 別一旦稿 [壇香] 493
 七一亦及 [走] 324
 孤 妓一立 [討修] 276
 刻 烏着一 [放下] 371

(や)く 約 思合一 [蘇合藥] 506
 くわう 晃 一攀 [黃攀] 494
 嗑 一得那 [朝貢] 302, 349
 [進貢] 357
 く 姑 一速姑 [皇城] 164, 199
 くわ 哇 一的 [~月] 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98,
 103, 104
 け 个 阿一罗 [開] 201
 及 亦一 [去] 208, 325, 556, 578
 [走] 324, 384
 [起身] 577
 [見~] 205, 341
 个失加 [板橙] 249
 [亦床] 250
 撒一 [酒] 427, 438, 445
 達一 [笋] 113
 [竹] 114, 408
 けふ 交 一哇 [今日] 15, 85, 390
 けん 見 活一 [絹] 394, 420, 421
 [官絹] 410
 [倭絹] 414
 げ 乞 昂一立 [喫] 440, 441, 442, 443, 445, 446, 447
 品一 [胡子] 461
 結 阿一的 [進] 358, 359
 潔 不一 [眉毛] 460
 こ 个 一 [来] 368
 一嗑尼 [霞] 13
 一一罗 [心] 457
 一失 (腰) 249, 250, 351
 一多失 [今年] 83, 102, 103
 一多少 [今年] 380
 一セ禄 [泥] 38

墮一 [床] 221
 法一 [盒] 241, 272, 273, 274
 活一立 [灰] 40
 孔 一加尼 [金] 259, 262, 263, 268, 272, 421, 424, 425, 462
 [金剛纂] 500
 一加查思 [喜雀] 174
 姑 一一奴子 [九] 515, 525, 535
 一燒 [胡椒] 127
 [胡椒] 498
 一亦立 [冰] 32
 一米 [米] 107
 普一立 [思] 350, 382, 390
 喇一 [海獺] 181
 烏 一哇 [子] 281, 308
 殼 花孫奴一 [蓮蓬] 121
 密洋一 [大海螺] 182
 こほ 科 一立 [雹] 11, 23
 こ 烏 一買每 [五錢] 541
 惡 一哇的 [五月] 93
 さ 三 一扒 [鞋] 399
 撒 一 [紗] 392
 一 嗑子及 [酒鐘] 252
 一及 [酒] 427, 438, 445
 一舍 [鎖] 236
 一祿 [猴] 159, 172
 一哇立是立 [作揖] 372
 嗑子一 [熱] 70
 亦加一 [多少] 375
 烏一及 [兎] 144
 姑一 [草] 203
 集加一 [近] 47, 60, 558
 它加一 [遠] 46, 61, 557

奴祿一 [暑] 72
 必一莫只 [鮮魚] 439
 必角祿一 [寒] 71
 必歪一 [冷] 69
 歪一 [飢了] 437
 揚密一 [不敢] 583
 約達一 [好] 335, 369, 588
 哇祿一 [歹] 332
 [不好] 370, 589
 吐祿一 [不好] 388
 哇那密一 [飽了] 436
 さい 才 一付 [二使臣] 310
 菜 一 [菜] 117, 433
 さう 唆 烏達的一亦 [興] 323
 さん 衫 一買每 [三錢] 539
 撒 一哇的 [三月] 91, 103
 ざ 撒 非一慢多及 [跪] 320
 ざう 糟 一 [象] 135, 146, 168, 475, 495
 し 乞 一食 [獅子] 165
 升 一哇的 [四月] 92
 少 个多一 [今年] 380
 失 一一 [獅] 142
 一一 [肉] 428, 442, 444
 一農包 [師父] 288
 一哇思 [十二月] 100
 一莫 [霜] 14
 一木多及 [十一月] 99
 一莫 [下] 560
 一籃子 [不知道] 594
 一祿嗑尼 [錫] 446
 子盖一 [請求] 338, 581
 歪一 [脚] 456

烏一 [牛] 143, 171, 184, 482
 烏一加尼 [鉄猫] 245
 烏一祿 [後] 51, 566
 个一 (腰) 351
 个一加及 [板橙] 249
 [交床] 250
 多一 [年] 81, 83, 102, 103
 吐 一(年) 550, 552
 那嗑一 [長] 48
 尼一 [西] 57, 330, 416, 562, 592
 波一 [星] 9
 密失那^{ㄉㄨㄣˊ}一 [短] 49
 由奴^{ㄉㄨㄣˊ}一 [聖旨] 377
 世 一莫 [下] 55
 石 亦一 [石] 34, 471, 477
 [玉~] 264, 422, 469
 只 扒^{ㄉㄨㄣˊ}一 [橋] 41, 197
 扒^{ㄉㄨㄣˊ}一 [筋] 227
 使 一者 [使^{ㄉㄨㄣˊ}臣] 302, 313
 一臣 [使^{ㄉㄨㄣˊ}者] 285
 一多 (舅) 279
 是 一及莫那 [舖^{ㄉㄨㄣˊ}盖] 258
 [什物] 576
 一止 [七] 95, 543
 立一 [荔枝] 125
 乞一 [棊子] 256
 思 申一 [正使] 287, 318
 大一 [長史] 284
 [長使] 315
 付一 [副使] 290
 食 乞^{ㄉㄨㄣˊ}一 [獅子] 165
 時 花一 [梳] 223
 深 一買母 [四錢] 540

しう 柔 一 [紬] 395
 しつ (り) 失 一達哇 [曉的] 378, 379, 584, 593
 一只 [知道] 585
 [付荅] 586
 [回賜] 587
 しゃ 舍 阿一多 [父親] 294
 官一 [三使臣] 311
 紗 一帽 [紗帽] 403
 しゃう 上 一書 [尚書] 291
 燒 一哇的 [正月] 89
 しゆ 恕 一思 [緞] 391
 [段] 407, 425
 [段子] 413
 しょ 少 着姑一 [勅書] 367
 書 上一 [尚書] 291
 しん 申 一思 [正使] 285, 318
 一自密稿 [速香] 130, 490
 一臣使 [使者] 285
 じ 子 嗑籃一 [叩頭] 347, 386
 [頭] 448
 日 度一 [通事] 286, 304, 317
 失 胡一 [丁香] 131, 488
 扎半一 [筵宴] 365
 密一那失 [短] 49
 周 安一 [大人] 303
 じう 柔 麻一倭的每 [万歳皇帝] 301
 じふ 柔 一 [十] 98, 104, 550, 552
 就 一 (十) 546, 547
 じやう 邊 一 [城] 37, 185
 じやく 少 公一 [孔雀] 164
 じゆ 角 必一祿撒 [寒] 71
 じよう 勒 一那 [門] 188, 201, 202

す 自 申一密稿 [速香] 130, 490
 舎 撒一 [鎖] 236
 思 一孫セ [雀] 161
 一哇 [蘇木] 129, 497
 一合約 [蘇合藥] 506
 一墨 [墨] 233
 阿老一 [引領] 253
 嗑喇一 [老鴉] 175
 孔加查一 [喜雀] 174
 失哇一 [十二月] 100
 怒一 [緞] 391
 [段] 407, 425
 [段子] 413
 是 一那 [沙] 39
 撒哇立一立 [作揖] 372
 排一 [拜] 322
 速 一多 [早] 77
 一多密的 [早起] 88, 363, 381, 447, 595
 姑一姑 [皇城] 199
 孫 一思立 [硯] 235
 一司立法个 [硯瓦盒] 274
 烏一必 [鞠躬] 344
 烏七一必 [海虵] 177, 499
 花一 [蓮] 121, 122, 123
 すご 速 一祿姑 [双陸] 255
 ず 子 失籃一 [不知道] 594
 包一 [和尚] 292
 司 孫一立法个 [硯瓦盒] 274
 思 孫一立 [硯] 235
 せう 焼 姑一 [胡椒] 127
 [胡椒] 498

せつ 些 一姑尼集 [節] 82
 せん 先 一扎 [兄] 305
 一度 [大使臣] 305
 森 一那 [一千个] 549
 [千歲] 551
 ぜ 支 一尼 [鈔] 468
 集 嗑一 [風] 4, 16, 23
 熟 一尼 [錢] 467
 た 大 一籟 [盆] 219
 [食羅] 254
 [木盆] 257
 [水筒] 269
 乞一 [北] 59, 564
 那 哇一密撒 [飽了] 436
 都 一姑也 [襪] 398
 達 一嗑 [鶩] 148
 一个 [鶩] 155
 [鴻鴈] 178
 一只 [刀] 212
 [倭刀] 484
 一多 [龍] 138
 一只外立 [立住] 348
 一馬 [珠] 243, 470, 472, 473, 476, 496, 503
 [玕珠] 474
 [囉子] 479
 [玉] 477
 一尼 [珠] 502
 一毛立 [求討] 575
 一子 [二] 508, 518, 526, 527, 528, 529, 530, 531, 532,
 533, 534, 535
 鳥一的唆亦 [興] 323
 嗑一立 [說] 321, 573
 [說話] 582

失一哇 [晝的] 378, 379, 584, 593
 那及那一 [滾刀] 244
 馬一 [再] 386
 麻一喇哀茲 [紫鴈] 179
 密一 [入] (見た) 206, 340
 密一 [鎖扶板] 275
 約一撒 [好] 335, 369, 588
 塔 一嗑惡 [樓] 191
 (し)た 者 阿一 [明日] 381, 447, 595
 (ち)た 撒 哇那密一 [飽了] 436
 たい 大 一思 [長史] 284
 [長使] 315
 太 一福 [大夫] 283, 814
 たう 力 大 一 [唐] 289
 [大唐] 296
 刀 大 一 [大唐] 303
 たふ 塔 一把 [塔] 187
 だ 達 一及 [竹] 114, 408
 [笋] 113
 分一立 [左] 52, 567
 だい 大 一力 [唐] 289
 [大唐] 296
 一刀 [大唐] 303
 一苗 [大明] 297, 300, 342
 一立葉 [朝] 205, 206, 340, 341
 代 一 [卓] 217
 だん 旦 別姑一稿 [壇香] 493
 別姑一結 [壇香] 133
 ち 之 姑一 [口] 452
 止 亦一 [一] 537
 是 一 [七] 543

只 烏一八籃 [朝裏] 208
 姑一 [頂] 180, 419
 [言語] 376
 達一 [刀] 212
 [倭刀] 484
 達一外一 [立住] 348
 是_ㄨ一 [土] 26
 扒_ㄨ一 [盤] 218
 法一 [八] 544
 非都_ㄨ一 [弟] 306
 必撒莫_ㄨ一 [鮮魚] 439
 一尼 [地] 25
 不一 [鞭子] 271
 宅 害_ㄨ一 [獬豸] 166
 結 一 [血] 135, 495
 集 一加撒 [近] 47, 60, 558
 些姑尼 [節] 82
 密一 [路] 33, 60, 61, 64, 196, 209, 385
 密一 [母孀] 198
 ちや 扎 一 [茶] 105, 429, 440
 一半失 [筵宴] 365, 447
 一喇 [王妃] 278
 噓_ㄨ 溥一子及 [茶鍾] 253
 着 鳥一刻 [放下] 371
 ちやう 胡_ㄨ 一失 [丁香] 131
 朝 一失 [丁香] 488
 一老 [長老] 293
 ちよ 着 一姑少 [勅書] 369
 ちん 定 烏一尼 [孩兒茶] 136
 [孩兒茶] 505
 ぢ 失 看一 [舵] 224
 ぢや 扎 先一 [兄] 305
 ぢん 定 一稿 [沉香] 132, 489

- つ 子 一 (〜つ) 507, 508, 509, 510, 511, 512, 513, 514, 515,
517, 518, 519, 520, 521, 522, 523, 524, 525, 526,
527, 528, 529, 530, 531, 532, 533, 534, 535, 536
一盖失 [請来] 338, 581
一乞 [叩] 386
嗑一撒 [熱] 70
溥嗑一及 [茶鍾] 253
- 多 一及 [月] 99, 101, 102, 103, 104
達一 [龍] 138
那一 [夏] 409
那一セ [棗] 116
非一只 [羊] 157
- 秃 一有 [露] 24
一奴 [弦] 215
- 足 姑一 [靴] 397
馬一 [松] 110
[栢] 111
- 的 哇一 [〜月] 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98,
103, 104
- 思 一禄 [鶴] 167, 260, 262
是 一只 [土] 26
祖 一奴 [角] 171, 184, 267, 482
效 一孤立 [討修] 276
麻達喇哀一 [紫鴈] 179
- 都 一及 [月] 3
及一 [員領] 404
那一 [夏] 66
- つう 度 一日 [通事] 286, 304, 317
- づ 子 撒嗑一及 [酒鍾] 252
多 非撒慢一及 [跪] 320
足 民一 [水] 31, 62, 63, 64, 269, 434, 443, 476
葉 大一罗 [関] 202

て 帖 一 [手] 455
 的 一子 [一] 507, 517, 527
 阿結一 [進] 358, 359
 烏喇惡莫一 [表裏] 415
 倭一每 [皇帝] 277, 300, 301
 速多密一 [早起] 88, 363, 381, 447
 独立一 [釣] 176
 法立一 [陽] 74
 約姑立一 [晚] 78
 密一 [看] 369, 388
 只 密一 [看] 574, 588
 (き)て 的 開一 [字] 232
 (ち)て 只 独一 [起来] 356
 揭一 [起] 577, 578, 579, 595
 莫一个 [拿来] 368
 (ひ)て 的 由一 [醉了] 339, 435
 (り)て 只 失一 [知道] 585
 [付盒] 586
 [回賜] 587
 姑木一 [陰] 73
 てい 的 嗑一那一 [進貢] 357
 得 嗑一那 [朝貢] 302, 349
 て(ん) 甸 一尼 [天] 1, 17, 18
 で 帖 分一 [筆] 231
 的 非近一 [賞賜] 355, 389
 [給賞] 373
 で(り) 得 波一那 [電] 12
 と 大 一葉罗 [関] 202
 它 一喇 [虎] 139, 420
 一刺 [琥珀] 478
 一立 [鷄] 147
 [鶴] 180, 419

多 一失 [年] 81, 83, 102, 103
 一少 [年] 380
 一 (〜と) 294
 使一 (舅) 279
 速一 [早] 77
 速一密的 [早起] 88, 363, 381, 447, 595
 吐 一及 [時] 79
 一失 [年] 550, 552
 周 必一 [人] 296, 297, 298, 299, 316
 独 一立的 [釣] 176
 度 密乃一 [江] 27
 都 非一只 [弟] 306
 墮 一个 [床] 221
 とほ 它 一加撒 [遠] 46, 557
 とを 吐 一 [十] 516, 517, 518, 519, 520, 521, 522, 523, 524,
 525, 526, 527, 528, 529, 530, 531, 532, 533,
 534, 535, 536
 ど 多 慢一 [窓] 189
 慢一罗 [辞朝] 207
 [回去] 362, 580
 眠一木 [妻] 307
 度 先一 [大使臣] 309
 どう 度 一 [身] 458
 な 乃 密一度 [江] 27
 奴 倭及一 [琉球] 298
 那 一嗑失 [長] 48
 一及一達 [滾刀] 244
 一都 [夏] 66
 一多 [夏] 409
 一多セ [棗] 116
 一一子 [七] 513, 523, 533
 一喇別 [擺着] 346

倭及一 [琉球] 312, 313, 314, 315, 316, 317, 318, 319
 刊每一立 [雷] 6
 是一 [沙] 39
 法一 [花] 106, 123, 240, 426
 [彩~] 407
 [綵~] 425
 花一 [鼻] 454
 民一 (皆) 379, 593
 哇一密撒 [飽了] 436
 南 米一米 [南] 58, 563
 ない 乃 一 [無] 328, 571
 及 一 [無] 591
 なん 南 一者 [銀] 260, 261, 265, 273, 423, 463
 一木稿 [木香] 128, 491
 に 尼 一 [葉] 119
 一買每 [二錢] 538
 一失 [西] 57, 330, 416, 562, 592
 烏定一 [孩兒茶] 136
 [孩兒茶] 505
 翁班一 [飯] 430, 438, 441, 445
 些姑一集 [節] 82
 熟一 [錢] 467
 支一 [鈔] 468
 只一 [地] 25
 甸一 [天] 1, 17, 18
 寧 一哇的 [二月] 90
 (に)ゆう 由 一稿 [乳香] 134, 492
 め 奴 一一 [布] 406
 一祿撒 [暑] 72
 亦一 [狗] 152
 由一一失 [聖旨] 377
 那 及一 [衣服] 405

ね セ 个一禄 [泥] 38
 _ツ 密一 [嶺] 45
 尼 烏失加一 [鉄猫] 245
 个嗑一 [霞] 13
 孔加一 [金] 259, 262, 263, 268, 272, 421, 424, 425,
 462, 500
 姑禄嗑一 [鉄] 465
 失禄加一 [錫] 466
 福一 [缸] 222, 246, 276
 [快缸] 247
 眠 一不立 [睡] 334
 聶 一 [鼠] 154
 ねん 年 苗一 [明年] 84, 104
 の 奴 一必約 [平] 351
 — (～の) 17, 18, 30, 60, 61, 62, 121, 122, 123, 135,
 181, 246, 270, 271, 282, 299, 377, 417
 加一木稿 [奇南香] 137
 姑姑一子 [九] 515, 525, 535
 是及莫一 [什物] 576
 祖一 [角] 171
 奴一木綿 [綿布] 406
 那 一 (～の) 12, 111, 169, 180, 183, 188, 201, 202, 279,
 280, 281, 289, 296, 302, 303, 312, 319, 349, 357,
 (359), 419, 472, 473, 481, 495, 502, 503, 549, 551
 加一木稿 [奇南香] 504
 是及莫一 [舗盖] 258
 漂一 [表章] 354, 358
 木一哇 [方物] 374
 農 失一包 [師父] 288

のふ 奴 乞一 [昨日] 87
 は 扒 一只 [橋] 41
 [御橋] 197
 一只 [筋] 227
 一只 [盤] 218
 花 一時 [桅] 228
 一孫 [蓮] 121, 122, 123
 法 一只 [八] 96, 544
 一那 [花] 116, 123, 240, 266, 407, 425, 426
 一那 [鼻] 454
 一祿 [春] 65
 一立的 [晴] 18
 華 一 [牙] 168, 453, 475
 哇 一 (~は) 15, 85, 327, 329, 374, 378, 379, 387, 390,
 569, 570, 584, 593
 嗑一 [河] 28, 193
 [御河] 194
 嗑一 [皮] 153, 172, 173, 181
 嗑一喇 [瓦] 43
 失一思 [十二月] 100
 はい 排 一是 [拜] 322
 はう 包 一名 [報名] 360
 合 思一約 [蘇合藥] 506
 哇 思一 [蘇木] 129, 497
 はや 排 一姑亦及 [上緊走] 384
 ば 八 烏一只一籃 [朝裏] 208
 扒 三一 [鞋] 399
 把 塔一 [塔] 187
 法 一个 [~盒] 241, 272, 273, 274
 班 翁一尼 [飯] 430, 438, 441, 445
 ぼう 包 一子 [和尚] 292
 失農一 [師父] 288
 帽 紗一 [紗帽] 403

ばん 半 扎一失 [筵宴] 365, 447
 攀 晃一 [黄攀] 494
 ひ 亦 約罗一 [甲] 211
 分 一達立 [左] 52, 567
 必 一角禄撒 [寒] 71
 一周 [人] 289, 296, 298, 299, 316
 一亜姑 (百) 547
 [一百兩] 548
 一亜撒 [冷] 69
 非 一近的 [賞賜] 355, 389
 [給賞] 373
 一撒慢多及 [跪] 320
 一都只 [羊] 157
 一都只 [弟] 306
 一禄 [日] 2
 品 一乞 [胡子] 461
 葉 高一 [壳] 336, 554, 590
 ひやう 飄 一那 [表章] 354, 358
 びん 兵 一卞 [片腦] 486
 び 必 一撒莫只 [鮮魚] 439
 烏孫一 [鞠躬] 344
 烏セ孫一 [海虵] 499
 乞各一 [帶] 417, 419, 426
 乞角一 [帶] 418, 422, 423, 424
 別 奴一約 [平] 351
 びや 別 一姑旦 [壇] 493
 ひやう 飄 一布 [屏風] 238
 びん 飄 一 [瓶] 220, 240
 ふ 分 一帖 [筆] 231
 付 一思 [副使] 290
 才一 [二使臣] 310

福 一禄姑 [起] 16
 一尼 [缸] 222, 246, 247, 276
 一密 [書] 230
 由一 [冬] 68
 一禄 [下~] 19, 20
 太一 [大夫] 283, 314
 ふい 肺 惡一 [惡味] 487
 ふ(く) 付 一思 [副使] 290
 ぶ 布 嗑一 [葛布] 411
 ぶ 不 干一立 [盔] 210
 看一立 [帽] 400
 眠一立 [睡] 334
 布 飄一 [屏風] 238
 へ セ 烏一 [上] 54, 209, 385, 559
 馬一 [前] 50
 也 馬一 [前] 565
 葉 亦一 [房] 190, 203, 204
 大立一 [朝] 205, 206
 へん 卞 阿一 [阿芙蓉] 501
 べん 卞 兵一 [片腦] 486
 べ 別 那一 [牆] 36, 186
 那喇一 [擺着] 346
 ほ 亦 姑一立 [氷] 32
 波 一失 [星] 9
 一得那 [電] 12
 活 一个立 [灰] 40
 賀 一 [蓮] 226
 普 密温一姑立 [謝恩] 350, 382, 390
 ほう 夫 一窩 [鳳凰] 162
 ほう 活 一見 [絹] 394, 410, 414, 420, 421
 ほん 盆 一那阿結的 [進本] 359

ま 馬 一達 [再] 386
 一足 [松] 110, 111
 一七 [前] 50
 一也 [前] 565
 一由 [眉] 450
 亜一奴必周 [日本人] 299
 烏一 [馬] 141, 246, 270, 271, 272, 502
 姑一 [熊] 145, 173
 達一 [珠] 243, 470, 472, 473, 474, 476, 477, 496, 502,
 503
 [囉子] 479
 亜一 [山] 30, 62, 473, 503
 麻 一加立 [碗] 237
 孔加尼一加立 [金鍾] 268
 一達喇哀茲 [紫鴈] 179
 慢 一多 [窓] 189
 非撒一多及 [跪] 320
 まう 網 一巾 [網巾] 402
 まへ 每 倭一 [朝廷] 282
 倭的一 [皇帝] 300, 301
 ま(ん) 麻 一 [万] 301, 550, 552
 み 七 鳥一 [海] 29, 63, 177, 499
 嗑一 [終] 234
 都姑一 [襪] 398
 民 一及立 [右] 53, 568
 一足 [水] 31, 62, 63, 64, 269, 434, 443, 476
 一那 (皆) 379, 593
 一乃度 [江] 27
 米 一 (実) 122
 一南一 [南] 58, 563
 每 刊一那立 [雷] 6
 眉 一 [耳] 449

密 一温 (御恩) 350, 382, 390
 一失那失 [短] 49
 一達 [鎖扶板] 275
 一達 (見た) 206, 340
 一集 [路] 33, 60, 61, 64, 196, 198, 209, 385
 一子 [三] 509, 519, 529, 536
 一只 [看] 574, 588
 一的 [看] 369, 388
 一セ [嶺] 45
 一一 [蛇] 158
 一洋殼 [大海螺] 182, 444
 一由外立 [慶賀] 352, 380
 申自一稿 [速香] 130, 490
 福一 [書] 230
 由一 [弓] 214
 哇那一撒 [飽了] 436
 墨 思一 [墨] 233
 みやう 苗 一年 [明年] 84 104
 大一 [大明] 297, 300, 342
 む 木 一子 [六] 512, 522, 532
 蒙 以立一乞 [麵] 431
 不 一只 [鞭子] 271
 め 七 一 [目] 451
 嗑一 [雨] 7, 19
 烏一 [果] 107
 [梅] 112
 [菓] 432
 嗑一 [龜] 160, 169, 170, 183, 259, 261, 417, 418, 480,
 481
 思孫一 [雀] 161
 那多一 [棗] 116

米 姑一 [米] 107
 每 買一 [錢] 537, 538, 539, 540, 541, 542, 543, 544, 545,
 546, 547
 眠 一多木 [妻] 307
 密 速多一的 [早起] 88, 363, 381, 447, 595
 揚一撒 [不敢] 583
 めん 綿 木一 [布] 396, 406, 408, 409, 416
 も 木 一那哇 [方物] 374
 一綿 [布] 396, 406, 408, 409, 416
 毛 達一立 [求討] 575
 目 加一 [鹿] 140
 莫 一只个 [拿来] 368
 是及一那 [舖盖] 258
 是及一奴 [什物] 576
 世一 [下] 55
 失一 [下] 560
 慢 一多罗 [辞朝] 207, 361
 [回去] 362, 580
 もん 買 一每 [錢] 537, 538, 539, 540, 541, 542, 543, 544, 545,
 546, 547
 や 七 阿一 [母親] 295
 一姑亦及 [走] 324
 甲 一子 [八] 514, 524, 534
 亜 一 [箭] 213
 一撒 [飢了] 437
 一及亦石 [磚] 42
 一馬 [山] 30, 62, 473, 503
 一立 [鎗] 216
 鳥一 [御前] 195
 惡一 [御前] 382, 390
 必一姑 (百) 547, 548
 必一撒 [冷] 69

洋 密一殼 [大海螺] 182
 密一失失 [螺螄肉] 444
 惡 一肺 [惡味] 487
 塔嗑一 [樓] 191
 揚 一密撒 [不敢] 583
 やく 約 思合一 [蘇合藥] 506
 ゆ 由 一乞 [雪] 8, 20
 一密 [弓] 214
 密一外立 [慶賀] 352, 380
 一福 [冬] 68
 馬一 [眉] 450
 有 秃一 [露] 24
 魚 一敖 [硫磺] 485
 不 一潔 [眉毛] 460
 よ 由 一 (世) 377
 一子 [四] 510, 520, 530
 一祿 [夜] 76
 約 一姑立的 [晚] 78
 一達撒 [好] 335, 369, 588
 一罗亦 [甲]
 个失烏奴必一 [平身] 351
 ら 老 阿一思 [引領] 353
 查 孔加一思 [喜雀] 174
 喇 鳥一惡莫的 [表裏] 415
 鳥一哇 [你] 327, 569
 窩一立 [請行] 343
 嗑一思 [老鴉] 175
 嗑哇一 [瓦] 43, 204
 扎一 [王妃] 278
 它一 [虎] 139, 420
 [琥珀] 478
 那一別 [擺着] 346
 麻達一哀茲 [紫鴈] 179
 亦嗑一 [井] 35, 192

籃 烏只八一 [朝裏] 208
 嗑一子 [頭] 347, 448
 加一 [髮] 459
 らう 老 朝一 [長老] 293
 らつ 喇 一姑 [海獺] 181
 らひ 籟 大一 [盆] 219
 [食羅] 254
 [木盆] 257
 民足大一 [水筒] 267
 り 立 阿一 [有] 331, 571, 591
 以一蒙乞 [麵] 431
 烏一 [瓜] 118
 烏一 [買] 337, 366, 553, 590
 嗑達一 [說] 321, 573
 [說話] 582
 千不一 [盃] 210
 看不一 [帽] 400
 刊每那一 [雷] 6
 乞一 [霧] 10
 孔加尼麻加一 [金鍾] 268
 科一 [霰] 11, 23
 姑亦一 [冰] 32
 撒哇一是一 [作揖] 372
 孫思一 [硯] 235
 孫司一 [硯] 274
 大一 [朝] 205, 206, 340, 341
 達只外一 [立住] 348
 它一 [鷄] 147
 [鶴] 180, 419
 独一的 [釣] 176
 眠不一 [睡] 334
 分達一 [左] 52, 567

活个一 [灰] 40
 密温普姑一 [謝恩] 350, 382, 390
 民及一 [右] 53, 568
 密由外一 [慶賀] 352, 380
 亜一 [鎗] 216
 外亦一 [来] 555
 尼 加一 [東] 56, 333, 561, 592
 りゆう 隆 一暗 [龍眼] 124
 りん 林 一斤 [下程] 364
 犇 乞一 [麒麟] 163
 る 奴 烏一烏多及 [閏月] 101, 102, 103, 104
 禿一 [弦] 215
 罗 阿个一 [開] 201
 大葉一 [閉] 202
 慢多一 [辭朝] 207, 361
 [回去] 362, 580
 禄 嗑集福一姑 [風起] 16
 个セ一 [泥] 38
 撒一 [猴] 159
 思一 [仙鶴] 167, 260, 262
 奴一撒 [暑] 72
 法一 [春] 65
 非一 [日] 2
 必一 [昼] 75
 必角一撒 [寒] 71
 福一 [下~] 19, 20
 由一 [夜] 76
 哇一撒 [歹] 332
 [不好] 370, 589
 吐一撒 [不好] 388

- れ 立 昂乞一 [喫] 440, 441, 442, 443, 445, 447
 [吃] 446
 烏乞一 [底頭] 345
 [慢走] 383
 窩喇一 [請行] 343
 達毛一 [求討] 575
 約姑一的 [晚] 78
- れい 立 一是 [荔枝] 125
- ろ 罗 一 [櫓] 225
 [羅] 393
 个个一 [心] 457
 約一亦 [甲] 211
- 炉 稿一 [香炉] 239
- 禄 一姑 [六] 94, 542
 烏失一 [後] 51, 566
 姑一嗑尼 [鉄] 465
 失一加尼 [錫] 466
 速一姑 [双陸] 255
- 魯 喬古一古 [交椅] 251
- わ 外 一亦立 [来] 326, 555
 密由一立 [慶賀] 352, 380
- 吐 一禄撒 [不好] 388
- 哇 一禄撒 [罗] 332
 [不好] 370, 589
 一那密撒 [飽了] 436
 鳴一 [猪] 149
 [驢] 150
 [騾] 151
 烏一 [子] 281, 308
 撒一立是立 [作揖] 372
- わう 赦 一那 [国王] 279, 280, 281, 312, 319
 魚一 [硫磺] 485
 窩 夫一 [鳳凰] 162

わん 昂 一哇 [我] 329, 387, 570
 む 亦 一嗑喇 [井] 35, 192
 ゑ 由 一的 [醉了] 339, 387, 435
 葉 一 [画] 229
 を 外 達只一立 [立住] 348
 倭 一嗑 [岸] 44
 烏 个失一奴必約 [平身] 351
 翁 一及 [甘蔗] 126
 窩 一喇立 [請行] 343
 亦一 [魚] 156

(第五章のための準備)

♠ 二重母音及び長母音

「琉球館訳語」の中に * a i 相当部分を含むと考えられる語例を求め、「語音翻訳」と対照すると、その用字例は、[ε:]ではなく [a i] を示していることが確認できる。

(例) 「用字、用例、対応する本文見出し中国語」の順

「かい」相当の例

盍 一乞 <改機>、開 一的 <字>

「さい」相当の例

才 一付 <二使臣>、菜 一 <菜>

「だい」相当の例

大 一苗 <大明>、一立葉 <朝> 代 一 <卓>

この時期は、/ - i w a / → / - i j a / の変化はあったが、/ - a w a /, / - u w a /, (- o w a) はそのままであったと言えよう。

「語音翻訳」の例

/ - a w a / の例

姓 na・oa (名は～)、 小米飯 'a' oa・ro<no>
' o・pan・ri<ni> (粟の御飯)

/-uwa/, (/ - owa/)

猪肉 'o' oa・no・si・si (豚の肉)、 猪 'u'・
' oa (豚)

/-ija/の例

這箇 ku・ri・' ja (これは～)

「琉球館訳語」の例

/-awa/の例

你 烏喇哇 (うらは)、 河 噓哇 (かは)、 御河 噓哇 (か
は)、 皮 噓哇 (かは)、 瓦 噓哇喇 (かはら)

/-uwa/の例

今日 交哇 (けふは)、 方物 木那哇 (ものは)

「琉球館訳語」では、総じて、「名詞+助詞」の分析ができずに、それが
あたかも名詞のみであるかのように考えたと解釈される例が少なくない。

{3、「琉球館訳語」「言語」の解説} で見たとおりであるが、改めて例
を示そう。() は和訳。

「名詞+の」の例

山 亜馬奴 (山の)、 朝廷 倭每奴 (御前の)、 電 波得那 (雷
の)、 門 勒那 (門の)、 国王 敖那 (王の)、 琉球国王 倭及
那敖那 (沖縄王の)、 琉球封国王 倭及那敖那 (沖縄王の)、 一千
个 森那 (千の)、 千歳 森那 (千の)

「名詞+は」の例

今日 交哇 (今日は)、 你 烏喇哇 (汝は)、 我 昂哇 (我は)、
方物 木那哇 (物は)

「名詞+へ」の例

朝 大立葉 (内裏へ)

これに対し、「語音翻訳」では、「名詞＋助詞」を分析できていないということはほとんどない。この違いは筆録者の分析能力の差によることもあるであろうが、その根底にあるのは、母語の差であろう。助詞を有する朝鮮語とそうでない中国語との違いであろう。

◆ 有声子音の前の鼻音

「語音翻訳」で見たように、「琉球館訳語」でも有声子音の前に鼻音が存することを示していると思われる例が多い。

①ガ行子音の前の用字が韻尾に鼻音を有する例（当該箇所には下線を施す。以下同じ。）

孔加尼<金>、 孔加查思<喜雀>、 以立蒙乞<麵>、 昂及<倭扇>、 烏撒及<兎>、 民及立<右>、 翁及<甘蔗>、 昂乞立<喫>、 品乞<胡子>

②ザ行子音の前の用字が韻尾に鼻音を有する例

噓籃子<叩頭><頭>、 公少<孔雀>、 失籃子<不知道>、 孫司立法个<硯瓦盒>、 先扎<兄>

③ダ行子音の前の用字が韻尾に鼻音を有する例

分達立<左>、 看失<舵>、 非撒慢多及<跪>、 民足<水>、
分帖<筆>、 非近的<賞賜><給賞>、 慢多<窓> 慢多罗<辞朝><回去>、 眼多木<妻>

④バ行子音の前の用字が韻尾に鼻音を有する例

三扒<鞋>、 翁班尼<飯>、 烏孫必<鞠躬>、 烏セ孫必<海蛭>
于不立<盃> 看不立<帽>、 眠不立<睡>

その他の項目に関しては、「第五章 通時的考察」に譲る。

語彙は、「朝鮮・中国資料対照琉球語彙」として最終部「付録 資料」に収録した。

第二節 その他の漢字資料の沖縄語

沖縄の言葉をそれとして記録した中国資料は、「琉球館訳語」以外に、次のようなものがある。

陳侃『使琉球録』中の「夷語」「夷字」（1534年）

郭汝霖『使琉球録』中の「夷語」（1561年）

周鐘 等『音韻字海』中の「附録夷語音釈」「附夷字音釈」（1572年頃）

屠赤水 等『篇海類編』中の「外夷語音之殊」（1572年頃）

余象斗 等『海篇正宗』中の「夷語音釈」（1572年頃）

蕭崇業・謝杰『使琉球録』中の「夷語附」（1579年）

夏子陽・王士禎『使琉球録』中の「夷語附」「夷字附」（1606年）

徐葆光『中山伝信録』中の「字母」「琉球語」（1721年）

潘相『琉球入学見聞録』中の「土音」「字母」（1764年）

中国の皇帝が琉球国「中山王」を封ずるのが「冊封」で、そのために派遣された使者「冊封使」の正使あるいは副使の行なった報告記録が『使琉球録』や『使琉球記』（後出）や『中山伝信録』等である。それぞれの冊封使は、あらかじめ琉球に関する調査、研究をしてから出発している。当然、前の冊封使の記録も読んでいる。それぞれに前記録の内容を取り込んだり、批判したりしているが、こと「夷語」に関しては、前の記録を踏襲した部分が多い。（「夷語」という名称そのものが最たるものである。その中において『中山伝信録』の「琉球語」は異彩である。）

項目を立てて言葉を取り扱っていないので別にしたが、他の冊封使記録に次のようなものがある。

張学礼『使琉球記』（1664年）

汪楫『使琉球雜記』（1683年）

周煌『琉球国志略』（1757）

李鼎元『使琉球記』（1802年）

斉鯤・費錫章『続琉球国志略』（1808年）*

林鴻年『使琉球録』（1838年）＊

趙新『続琉球国志略』（1866年）＊ （＊は、来琉の年）

さて、「夷語」記録の元資料になったのではないかと考えられるのが、「琉球館訳語」である。

「琉球館訳語」は、次のような順序で語（あるいは句、文）が分類、配列されている。

天文門、地理門、時令門、花木門、鳥獸門、宮室門、器用門、人物門、
人事門、衣服門、飲食門、身体門、珍宝門、数目門、通用門

陳侃以下の四つの『使琉球録』の分類、配列もこれとまったく同じである。

（ちなみに、『音韻字海』およびこれと同類の『篇海類編』、『海篇正宗』も同じである。）

その序文で、それまでの使録類の誤りを正し、「信」を「伝」と述べている、徐葆光『中山伝信録』（1721）は、次のような順序である。

天文、地理、時令、花木、鳥獸、宮室、器用、人物、人事、身体、
衣服、飲食、珍宝、数目、通用

「門」の字がなく、「身体」が「衣服」の前に置かれている。これは、『華夷訳語』中の「日本館訳語」の順序と同じで、その「文史門」・「声色門」・「方隅門」を欠いた形となっている。

「日本館訳語」

天文門、地理門、時令門、花木門、鳥獸門、宮室門、器用門、人物門、
人事門、身体門、衣服門、飲食門、珍宝門、文史門、声色門、数目門、
方隅門、通用門

ついでながら、「朝鮮館訳語」は次のようになっている。

「朝鮮館訳語」

天文門、地理門、時令門、花木門、鳥獸門、宮室門、器用門、人物門、
人事門、身体門、衣服門、声色門、珍宝門、飲食門、文史門、数目門、
干支門、封名門、通用門

「夷語」資料それぞれの（天文の）初めの二・三語の音訳字を比べてみる。

「琉球館訳語」

天^{甸尼} 日^{非禄} 月^{都及} 風^{嗑集} 雲^{姑木}

陳侃の『使琉球録』

天^{甸尼} 日^{非禄} 月^{都及} 風^{嗑濟} 雲^{姑木}

『音韻字海』

天^{甸尼} 日^{飛禄} 月^{都急} 風^{嗑濟} 雲^{姑木}

蕭崇業・謝杰の『使琉球録』

天^{甸尼} 日^{飛陸} 月^{都急} 風^{嗑濟} 雲^{姑木}

夏子陽・王士禎の『使琉球録』

天^{甸尼} 日^{飛陸} 月^{都急} 風^{嗑濟} 雲^{姑木}

『中山伝信録』

天^町 日^飛 月^{子急} 星^{夫矣} 風^{嗑買} 雨^{阿梅}

『琉球入学見聞録』

天^廳 日^虚 月^訾 星^弗 風^吟 雨^阿

第三章

沖縄語アルファベット資料の研究

「クリフォード琉球語彙」の沖縄語

英語で表記された「クリフォード琉球語彙」（1818年）に資料としての検討を加えた上で、十九世紀初の沖縄語の音韻について考える。

沖縄語を「畑」に譬えると、その「歴史」の「畑」は、先人によってある程度耕されていたにも拘らず、久しく作物が入れられなかったために、土が少々固くなってしまった。耕し直さなければならない。その場合、時の流れに沿ってコツコツと耕していくのも一法であろうが、固い土に出会った時に、それを砕くことのみで労力を奪われ、なかなか前に進めないことになる。それよりは、比較的柔らかいところから耕し始め、その部分にだけでも作物を入れて収穫を得るようにしたほうがよい。そうすれば、その作物が周りの固い土を砕いてくれ、労力も軽減されようし、能率も上がるであろう。

比較的柔らかい土壌の一つとして、「語音翻訳」があった。面積は小さいが、肥沃な部分であり、耕せば耕すほど収穫の増えるところである。

次に比較的柔らかい土壌の一つが、「クリフォード 琉球語彙」であろうと思われる。ただし、これは小石や砂などの混じった部分であって、その小石や砂などを取り除くことから始めなければならない。

まず、それがどのような土壌であるかについて見ておくことにしよう。

1、資料

1-1

Captain Basil Hall の航海記 “Account of a Voyage of Discovery to the West Coast of Corea, and the Great Loo-Choo Island” (1818)の付録として載せられている ‘VOCABULARY OF THE LANGUAGE SPOKEN AT THE JAPAN SEA. COMPILED BY HERBERT JOHN CLIFFORD, ESQ. LIEUTENANT, ROYAL NAVY. (IN TWO PARTS)’ が「クリフォード氏の琉球語彙」と言われるものであることは周知のことである。

その付載の事情については、『航海記』の本文に詳しく述べられている。『南島方言資料』にはその簡単な要約があり、服部四郎「国語諸方言のアクセント概観（六）」（『方言』第三卷第六号）では、14ページ中9ページにわたって言語資料としての観点からの説明がなされている。

この点に関して、ここでは、省略に従う。

以下の分析にあたっては、勉誠社文庫71『クリフォード琉球語彙』（1979年12月30日 第一刷）を使用した。

1 - 2

先に、小石や砂などが混じっていると述べたのは、資料として不適切なものや取り扱う際に注意を要するものなどが少なからず存在するという意味である。これは、偏にクリフォードの誤解あるいは勘違いに起因するものであると言えよう。調査者と被調査者との間の意思疎通がうまくいかなかったということである。もっとも、このようなことは、今日の方言調査などにも多々あることであるから、ひとりクリフォードを責める訳にはいかない。むしろ、初めて接する「琉球語」をかなりなまでに正しく聞き取ったと判断されるその耳を褒めるべきであろう。

資料をどのように取り扱ったかを示す意味で、このことに関して少し述べておこうと思う。綴字等に関しては、後で詳しく述べるから、ここでは主に語義に関して述べることにする。

1 - 3

例に出した語の所在箇所がわかるように、通し番号を付す（PART Iのみ）。後述する音韻の項で例を出す時に便利なように、通し番号は、見出し語たる 'English' ではなく、訳語たる 'Loo-Choo' に付することとする。

English	Loo-Choo
Above, or the top of a thing	(1) Wee
Alive	(2) Itch-itchee

:	:	:
:	(中略)	:
:	:	:
Cap		(94) Cammoódee, or Mawtsee
:	:	:
:	(中略)	:
:	:	:
Yours		(955) Cobra ya moong

(1)から(955)までということになるが、(94)で明らかのように、語数が955あることにはならない。優に千を越える。

1 - 4

双方とも同一物を見ていながら、それぞれ別の「もの」を考えてしまうのは、同じ「言語」を話している人々の間でもよく起こることであるから、クリフォードと「琉球人」との間でそのようなことが起こったのは、当然と言えば当然であろう。いくつか例を示し、念のために、注をつける。

Bird (37) Hótoo

(「鳩」を指して「鳥」を聞いたつもりになった。)

Button (85) Hagánee, or Kánee

(「ボタン」に相当する言葉は無かったであろうから、船員あるいは軍人の「金ボタン」を示された native speaker は「カネ(金属)」と答えざるを得なかった。)

Cask (101) Sobcoo

(「桶」の「底」を指して「これは？」などと聞いたのであろう。)

Watch (885) Kárahigh

(「(腕)時計」と「磁石」との勘違いと言えよう。)

具体的な物でこのようであるから、そうでない「概念語」とも言うべきも

のは推して知るべしである。

Die, to (166) Níntoong

(「死ぬ」と「寝ている、横たわっている」)

Jump, to (372) Móyoong

(「跳ぶ」と「踊る」)

Here (339) Coo

(「ここ」と「来い」。ただし、Coo は Cooma の -ma が印刷の過程かで落ちた可能性もある。)

Let, to, fall a thing (409) Nágeeoong

(「落とす」と「投げる」)

数字に関しては、ほとんどが位取りを誤っている。その一部を示す。

Eighteen (201) Kwá'chee joo, or fá'chee joo

(「八十」)

Eighty (202) Hapá'ck coo, or Habbá'ck coo

(「八百」)

Eleven (203) Too

(「十」)

Fifteen (231) Goon'joo

(「五十」)

Fifty (232) Gooshá'coo, or gooyá'coo

(「五百」)

Hundred (359) Sing

(「千」)

Million (465) Chaw

(「兆」)

'PART II' の初めの部分に 'NUMERALS' という項目があって、'One' から 'Ten' に対する正しい 'Loo-Choo' が示されており、その漢字まで添えてある。にもかかわらず、上に示したようなことになる。二桁以上の数字に関しては、ほとんどが間違っている。外国語を学習する際に、一番難しいのは

数字であって、数を数えるのに即座にその言語で行なうことができれば、その言語をほぼマスターしたとってよいと言われるほどだから、クリフォードの間違ひは、あたり前のことであろう¹⁾。

未知の言語に接したのであるから、これまた無理のないことであるが、「分節」の仕方を誤っている例がいくつかある。

Four-sided figure (273) Sícca Coódair

(「四角台」の意味であろうが、「シカ=クダイ」と分析してしまったようなものである。)

Letting a thing escape (348) Oótoo Batch

(「飛ばしてしまつて」の意であろう。「ブット=バシテ」などと分析したようなものである。)

次のような例も、広い意味では分析の仕方を誤つたと言えよう。

Sterm of a boat (750) Cooma toomo

(Cooma toomo は、「ここ(は)艦」の意)

Mew, to, as a cat (461) Nachoong deeoong

(Nachoong deeoong は、「なくと言う」の意味であるから、「と言う」に当たる deeoong は不要である。)

この、‘(n)dee’ (～と) 及び ‘(n)deeoong’ (～と言う) を、クリフォードは、分析できなかつた、あるいは、その意味が分からなかつたと言うことができる。同じ例が他にもある。

Potatoes, sweet (563) Moo, or Moondee

Web-footed bird leg (894) Sha

————— two legs (895) Shandee

.....

¹⁾ ただし、次のような正しい例もあることはある。

Years, eighteen, of age (942) Joo hatchee

—, fourteen (943) Joo shee

—, thirty (944) Sanjoo

—, twenty-five (945) Neejoo goo

次のようなものは、英語が紛れ込んだと判断されよう。

Yellow, dirty or dingy (948) Cheéroo dingee

(dingee は、英語 dingy の直訳に他なるまい。)

Water tub (875) Meez-ofwhókee (cont. of meezee
and ofoowookee)

(-ofwhókee、 ofoowookee の of は、英語の of ではないかと考えられる。)

全部の例をあげたわけではないが、このような例の占める割合は、そう高くない。つまり、このような例に注意すれば、相当に信頼のおける資料である²⁾。そのことは、後述の分析で明らかになる。

.....

²⁾ ちなみに、『クリフォード琉球語彙』（勉誠社文庫71）の「解説」に、次のようにある。

こんな項目もなくはないというふくみから、もっとはるかにいっそういかがおぼしいへんてこりんな例をあえていま、さらにここにくわえても、これがクリフォードのひたむきな探求心そのものに直接ひびくところはないとして、しかしながら、つぎのばあいには中途においてとにかくなにかおかしな手ちがいがそこにあつたにはやっぱりちがいないのではなからうか。

すなわち

《Lake, or light Purple-Coomoola satchee》

と。うす紫を《Coomoola satchee》とするのはよからうけれど、はじめの《Lake》については、もとメモとか手稿のたぐいであつてはローマ字をもってクムイにあたる形の書きとめてあつたのを整理の段階のそのどこかでおとしてしまつて、それで、いまわれわれの接する、とんでもない見だしにまどまつてしまつたといつた、とにかくそういうなんらかの不幸なことがここに背後におこつてゐるものと考えたい。(p83-84)。

この解釈には疑問がある。《Lake》を「池」と考えればこういう解釈も生まれようが、「深紅(色)」と考えればこの見出しには何の不自然さもなからう。「深紅(色)」と「薄紫(色)」とは近いはずである。無理に「クムイ」(池)と関連づける必要はなからう。

2、その「琉球語彙」は首里方言か那覇方言か

「クリフォード琉球語彙」に関する研究としては、前掲の服部論文が唯一のものと言ってよい。しかし、これはアクセントだけについて述べたものであるから、狭義の音韻に関して「クリフォード琉球語彙」を取りあげたのは皆無ということになる。

さて、服部論文では、「クリフォード琉球語彙」が首里方言か那覇方言かについて、次のように結論づけている。すなわち、検討の結果、そのアクセント表記法は信用できないものであり³⁾、この点から首里方言か那覇方言かを断ずることはできないが、クリフォードに「琉球語」を教えた人々の中で重要な役割を演じた Madera (=真栄平房昭) が生粋の首里人であるということなどから「那覇方言よりも首里方言に近いと思はれる点の多いのは」「興味がある」と。

.....
³⁾ 伊波和正「『クリフォード琉球語彙』：‘U’」（『琉球の方言』14、1990年 3月）に次のようにある。

アクセント記号 ‘ ’ が子音の後に置かれている場合は促音の存在を示す。クリフォードはアクセント記号は「音節の最後の母音の上に記す」(p. 7)と明記しながら、その原則に悖り、子音の後に ‘ ’ を記したりしている。それなりの理由があるものと考えられる。(p. 91)

(現代語との対応から)「促音の存在を示す」と考えられる場合もあるが、そうでない場合もある。

ついでに言えば、この伊波論文は「読みにくい」。分かりにくい。例えば、「英語においてhungは[ʌN]、unkは[ʌNk]と発音される場合が普通である。従ってクリフォードにおいても、[ʌN]、[ʌNk]と読むべきであろう。」(p. 91)と言うが、「クリフォード琉球語彙」を「英語として読む」のであろうか。また、「原則としてIPAを用いる。撥音は、nで表記されたもの、ngで表記されたものがあるが、[N]を用いる。促音は [Q]を用いる。」(p. 90)に到っては、伊波普猷と似ているとしか思えない。「音声」と「音韻」とを区別する頭では理解しにくい。[]は音声、Qは音韻を示す。

いま、これに付け加えるべきものを持たない。ただ、これは直観に過ぎないが、首里方言を主とし、それに那覇方言及び他の方言が混入している可能性がある。例えば、Father (224) Shoo は、首里方言なら、[t a : r i :] (Taree などと表記されたか) であろうし⁴⁾、Smoke (715) Kinsee も首里方言なら、[k i b u } i] (Kiboosee など) であつたろう。

分析していく過程において、どの方言の要素が多いかが分かって来よう。

3、綴字

‘VOCABULARY’の冒頭に‘Note on the orthography used in the following vocabulary. -The sounds in the Loo-Choo words are expressed by the letters which in English correspond nearest to those sounds.’とある。「その音に最も近い英語の綴り」で表記したと言うのであるが、それがどういうことであるのかを確認しておく必要があるように思う。原則としては、所謂ローマ字式表記法に準じていると考えてよさそうであるが、必ずしもそうではない。例えば、Compass (134) Kárahigh / Seed (661) Nigh は、それぞれ英語の‘high’, ‘night’などの発音を想起しなければならない。つまり、‘igh’は[a i]を示しているのである⁵⁾。このような意味における「英語の綴り」であることを念頭におく必要がある。

なお、18世紀後半から19世紀初めの英語は‘Modern English’の範疇で捉えて大過なからうが、厳密には、クリフォードの出身地の方言などを参考ににして考えるべきであろう。しかし、今その方面の資料を持たない。

.....

⁴⁾ これには問題があるかもしれない。「南島八重垣」によると、昔はシュー（主）と言っていたが、久米村から始まったターリーという呼び方が首里にも及んだという。だから、ターリーに追われる前のシューの可能性もある。

⁵⁾ Kárahighは「磁石」、Nighは「果実」の意である。

4、音韻

予め、記述上の約束をしておく。

① 音素・音声、英語式による表記法（綴字）、語例、考察の順に述べる。

② 英語式表記法（綴字）に関して：子音の項では、考察に便利なように、いわゆるモーラ（あるいは拍）相当を示す。

③ 語例については、次のようにする。

ア、‘English’ は省略し、‘Loo-Choo’ とその「和訳」を示す。

ただし、前述のような「誤解あるいは勘違い」の存すると認められるものについては‘English’ も付す。

イ、アクセント表示は、削除する。

ウ、頭文字が大文字で表記されているが、そうすることが有意義だとも思われないので、小文字に改める。

エ、提示する例は、必要最小限に留める。

4-1 母音

4-1-1 /i/ [i, ɪ, e, ī, e]

綴字：i, ee, e, u

語例：(715) kinsee (煙), (335) ting (天), (260) shishee (肉), (9) aree (あれ), (213) mee (目), (34) magesa (大きさ、大きい), (100) tenakikakittee (手に掛けて), (102) eegoosecoo (城), (118) mayshung (箸も)

‘i’、‘ee’ で表記されたものは、共に [i] を示していると認められる。あえて音声的違いを求めるならば、‘i’ は短く、‘ee’ は長いということになろうか。伊江島方言の [} i } i :] (肉) と (260) shishee の例を比べてみると、そのように言えそうである。(長母音について後述するので、そこで詳しく述べることになろう。)

(34)、(100)、(102)の‘e’は、現代語^一 [m a g i s a] ・^一 [t i : n a k a j i] ^一 [k a k i t i] ・^一 [ʔ i : g u ʃ i k u] との対比から [ɪ] と推定する。(^一・^一はアクセントを示す。第二章に同じ。以下同じ。)

英語 ‘s u n’ ‘f u n’ などから類推して、(118) の ‘u’ は、[ɪ] あるいは [ə] 辺りであろう。

(100) te (手) と (521) tee (手) の例があり、‘e’ と ‘ee’ とは変異音を示している。詳述はしないが、他もそれぞれ / i / に該当すると判断される。

4-1-2 / ε / [ε] ⁵⁾

綴字：a i, a y, a y e h, a

語例：(223) quaittee (太って), (378) doogaitee (転んで), (273) sicca coodair (四角台), (208) kayara (替えよう), (310) paychin (親雲上), (636) hayay (走ること), (265) hayah (蠅), (306) sayeh (飛蝗), (731) whfa (南), (84) habaroo (蝶), (326) nang (無い), (326) narang (無い)

英語の ‘a i m’ ‘s a y’ ‘m a k e’ などと現代(沖縄)語の^一 [k w ε : t i] (太って)、^一 [k ε : r a] (替えよう)、^一 [h a : j ε :] (走ること)、^一 [s ε :] (飛蝗)、^一 [Φ ε :] (南)、^一 [h a : b ε : r u :] (蝶)、^一 [n ε : n] ・^一 [n ε : r a n] (無い) などとを考え合わせると ‘a i’ ‘a y’ ‘a y e h’ ‘a’ が [ε :] を示していることは間違いなからう。

(265) hayah, (306) sayeh の ‘-h’ は、長音であることを意識的に示そうとした結果だと思われる。(273) の ‘-r’ も同様であろう。

.....
⁵⁾ 第一・二章では、簡略表記のため、[ε :] の代わりに [e :] を用いている。

4-1-3 /a/ [a, α, ʌ]

綴字：a, aa, au(gh), aw, e, u, o, i(gh)

語例：(688) ka (皮), (517) fooca (外), (279) tatee (立て),
 (473) gnafing (もつと), (682) sabaugh (草履は), (886) sasee
 noo quaw (「鍵の子」、鍵) <Watch key>, (237) eebeegwaw (小指),
 (106) skehdang (搦んだ), (596) oonajera (女王), 684) kutta (肩)
 (283) kagung (鏡), (455) assa bung (朝食), (42) korosa (暗さ)
 (626) morrosa (太さ、丸し), (134) karahigh (磁石), (661) nigh
 (実) <Seed>

‘The letter α is invariably sounded as in the English word far.’ というコメントにより、‘a’は大分後ろ寄りの音を示していることが明らかとなる。‘u’や‘o’がそのことを強調していよう。‘e’の例は、前寄りであることを示していると考えられる。

4-1-4 /u/ [u, ʊ, o]

綴字：u, oo, o, ou, wi, a

語例：(639) ootooshung (落とす), (631) ootoochoong (落とす)
 (735) cooba (蜘蛛), (673) sooyoong (剃る), (440) woo (牡)
 (42) korosa (黒さ、黒し), (121) nonoo (布), (160) sheenoong
 (死ぬ), (198) kamoong (食べる), (378) sheenoung (死ぬ),
 (356) twitchee (時), (376) koorashoong (殺す), (456) feera moo
 moong (昼食)

英語の ‘moon’ ‘tooth’ などから推して、‘oo’は[u]と考えるべく、それより短いと判断したものを‘u’と表記したように思われる。‘o’は[u]か[o]かであろう。‘ou’も同様であろう。

(198) の -moong と (378) の -noung に見るように、これらは変異音であり、また、(121) nonoo (布) が示しているように、*oに対応するのが[o]で、*uに対応するのが[u]であるなどとも言えない。

4-1-5 /o/ [o]⁶⁾

綴字: o, au, aw

語例: (39) bodsee, or bodzee (坊主), (37) hotoo (鳩) <Bird>, (145) hoyoong (這う), (460) oowhoko (たくさん), (372) moyoong (踊る) <Jump, to>, (168) sauteeyoong (育てる), (728) nautee (治って) <Sore from riding>, (141) oohawkooong (たくさんいる) (146) hawyoong (這う), (219) tawshoong (倒す)

次に示すように、現代語との対応から、'o, o, au, aw' はともに [o:] を表わしていると認定できる。

— [bo: dʒi] (坊主)、— [ho: tu] (鳩)、— [ho: ju n] (這う)、— [ʔuho: ku] (たくさん)、— [no: ti] (治って)

(145) と (146)、(460) と (141) を見れば明らかなように、綴字の違いによって別の音を表わしているとは思えない。

4-1-6 長母音

「4-1-2」の終わりのところで、(265) hayeh, (306) sayeh の 'eh' は、長音を示そうとした結果であろうと述べたが、全体としてみると、長音であるかどうかについては、それほど神経を使っていないと見ることができる。

例えば、(335) ting (天) と (522) tee (手)、(451) hatung (布団) <Mat > と (204) too (十) <Eleven> を比べると、'i' が [i] を、'ee' が [i:] を表わしており、同じように、'u' が [u] を、'oo' が [u:] を表わしているような印象を与えるが、(21) dakee (竹) と (374) king (蹴る) とが示すように、必ずしもそうではない。

.....

⁶⁾ 第一・二章では、簡略表記のため、[o:] の代わりに [o:] を用いている。

ところで、クリフォードとしては、/i/に相当する音を‘ee’で、
/u/に相当する音を‘oo’で表記しようとしたようである。冒頭の注記
の一部‘Ee and oo, whether accented or not, always express one syllable.’
が、それを物語っていると解釈できよう⁷⁾。と同時に、この注記は、
クリフォードが音の長短にあまり注意しなかったことの証左になるのではな
いか。つまり、彼の関心は、‘syllable’にあったのであり、
‘tip’と‘teeth’とは共に‘one syllable’と聞くクリ
フォードの英語の耳には [tiŋ] でも [ti:(ŋ)] でも ‘syllable’
としては「同じ」であつたに違いない。

/a/に関して考えてみよう。‘aa’の例は、次に示す三例しか無く、
‘ā’などの例は見当たらない。他はすべて‘a’である。

(9) aree ga aanyoong (彼がそう言う) <Answer, to>, (144) gaanee
(蟹), (739) kaa <Spoon >

‘aanyoong’は、むしろ‘anyoong’と表記されるべく、‘kaa’は、長
母音表記がされてしかるべき (688) ka (皮) や (362) kamee (壺) <Jar, a
large earthern>などと比べると、特に長く聞こえたので、これだけそう表
記されたと考えるしかない⁸⁾。

4-1-7 母音の無声化

母音の無声化を示すような例がある。

.....

⁷⁾ 現に用例を見ると、例えば‘chee’30例に対して‘chi’10例、
‘coo’84例に対して‘cu’2例といった具合である (PART I のみ)。
‘i’および‘u’で表記されたものは、たまたま英語に同様のものが
あつた場合であろう。例えば、(120) ching (衣、着物)、(296) ching
(金)、(310) payching (親雲上)などは、英語の‘chin’などが連想さ
れた結果ではなかろうか。

⁸⁾ (739) kaa は [kɛ:] の可能性もある。

当該箇所の下線を施す。

イ、(707) rookpackcoo (六百) <sixty>

ロ、(139) ostang (覆った) (381) spootee (吸って) <Kiss, to
(lit. Kissing the mouth)>

ハ、(454) stimmee teemoong (朝食) (640) spookarasa (塩辛さ)

ニ、(271) speeaakoo (四百) <Forty> (35) stcha (下)
(831) stcha (舌)

ホ、(572) sheetskeeoong (押しつける) (729) natskasha (恋しさ)
(595) titskoong (拳) <Quarrel, to>

イ [k_u], ロ [s_u], ハ [ʃ_i] あるいは [s_u], ニ [ʃ_i],
ホ [t_s_i] であると考えられる。

4-2 半母音

特に問題は無いと思われるので、語例を示すに留める。

4-2-1 /j/ [j]

(357) ya (家), (952) ya (君), (135) neenyagooroo (蜷),
(62) yoomee (弓), (70) ooyoong (折る), (290) yawna (ゆっくり)

4-2-2 /w/ [w]

(1) wee (上), (80) weekee (糸けり), (140) sack-quee (咳)
(282) queeoong (与える), (223) quaittee (太って), (33) watta
(腹), (535) jeewa (簪), (237) eebeegwaw (小指), (20) quashee
(菓子), (110) quatee (食って), (82) woo ooshee (牡牛)

4-3 子音

4-3-1 /k/ [k, kⁿ]

綴字：

ki, kee	kay	ka, ke, ku	koo, ko	ko, kaw
		ca	cu, coo, co	co
qui, qwee	quai	qua, quaw		

語例：(551) akirree (開けよ), (12) ooking (起きる), (21) dakee (竹), (80) weekee (兄弟、「糸けり」); (208) kayra(替えよう); (196) kamoong (食べる), (688) ka (皮), (106) skehdang (搦んだ) (684) kutta (肩), (94) cammoodee (冠) <Cap>; (477) kootoo (琴) (602) kookoo fooyoong (小さく降る) <Rain, lightly>, (42) korosa (黒さ); (130) cung coo (ここ 来い), (486) coobee (首), (199) (卵), (823) tobacco (タバコ); (437) skoyoong (作る、準備する) (452) kaw (香), (301) maconarang (おいしくはない); (910) quirree (くれ), (140) sack-quee (咳); (223) quaittee (太って); (20) quashee (菓子), (886) sasee noo quaw (鍵) <Watch key>

ほとんど現代語 (首里、那覇を問わず) と同じと考えてよい。

*k e, *k o に対応するものは、それぞれ [k i], [k u] となっている。

*k i に対応するものは、後述するように、[t i] となっている。

4-3-2 /g/ [g]

綴字：

gi, gee, ge	gai, ga	ga, gu	goo, go	go, gaw
		gua, gwaw		

語例：(816) naging (投げる), (409) nageeoong (投げる) <Let, to, fall a thing>, (34) magesa (大きさ); (378) doogaitee (転んで)
 (116) ootooga (顎); (148) garrasee (鳥), (144) gaanee (蟹),
 (694) harraga (脇腹), (283) kagung (鏡); (102) gooseecoo (城)
 (256) goo (五), (114) innago (女); (654) weegosa (痒さ),
 (458) gawjee hackkiyoong <Measure, to>; (88) ooshee gua (子牛),
 (237) eebeegwaw (小指)

現代語と同じ。*ge, *goに対応するものは、[gi] / gi /,
 [gu] / gu / となっている。*gi, *(i)geについては後述 (→
 / z /)。

4-3-3 / t / [t, t^h]

綴字：

ti, tee, te	tayeh	ta, to	tu, too, twi	to, taw
-------------	-------	--------	--------------	---------

語例：(335) ting (天), (695) titskoong (拳 <Quarrel, to,>,
 (77) tootee (取って), (522) tee (手), (100) te (手); (915)
 tayehfoo (台風); (938) tamoong (薪), (437) sata (砂糖), (823)
 tobacco (タバコ); (451) hatung (布団), (37) hotoo (鳩) <Bird>,
 (477) kootoo (琴), (356) twitchee (時); (424) simmatong (住んで
 いる), (219) tawshoong (倒す)

*te, *toに対応するものは、それぞれ [ti] / ti /, [tu]
 / tu / である。

*ti, *tuについては後述する (→ / c /)。

(318) kee <Hand>は、有気音 [t^h] を示している例であろう⁹⁾。

.....

⁹⁾ もっとも、この例には、次のような注がついている。

綴字：

dee, de	dai, deh	da	du, doo, do	daw
		la	loo	
		dle		
ri, ree	ree	ra, ru, ro	roo, ra	

語例：(529) hoodee (筆) <pencil>, (803) addee (あれ), (808) coodee (これ), (61) deeshoong (礼する、おじぎをする), (815) noodee (喉), (820) kadezee (「干れ地」?) <Tide>, (295) oorittee (下りて), (219) tawring (倒れる), (9) aree (あれ); (273) sicca coodair (四角台), (835) chirreedeh (切り台); <Tray, or waiter>, (388) samooree (侍); (21) dakee (竹), (427) teeda (太陽), (583) moola sachee (紫), (425) undlecha (蜥蜴), (386) eeranna (鎌), (400) warrayoong (笑う), (161) chee karung (聞こえない), (42) korosa (暗さ); (5) noodung (飲んでいる), (476) dooroo (泥), (657) doo (櫓), (414) doochoo oota (琉歌), (46) koorooma (車), (23) teeroo (籠), (376) koorashoong (殺す);

.....

This word is used to denote a tree as well as a hand; this probably arises from the similarity; considering the hand as the trunk, and the fingers the branches of the tree.

これぐらいの類推なら稚気があるといいのであるが、類推は、時に思わぬ方向へ行ってしまうことがあるので自戒したいところである。例えば、首里語では東京語の「キ」が「チ」になる。だから、「キモノ(着物)」は「チムン」となると説明した人がいる。形式的にはそう言えようが、実際の首里語では「着物」のことは「チン」と言う(「衣(キヌ)」に対応)。「チムン」は「肝も」あるいは「心も」という意味になる。

(90) daw (蠟燭)

(803) addee (あれ)、(9) aree (あれ)、(414) doochoo oota (琉歌)
(414) loochoo oota (琉歌) を比べると一目瞭然、[d]、[ɽ]、[l]
は自由異音である。と同時に (loochooを別にして) ‘r’ は語頭には現われ
ず¹⁰⁾、語頭の例はすべて ‘d’ であるので、一種の相補分布の様相も呈
している (すでに見たように、‘d’ は語中にも現われるから相補分布では
ありえないが)。

『那覇方言概説』(金城朝永著、1944年、三省堂)には、音韻の第七項
[ホ] のところに、次のようにある。

極端にいふと、那覇方言には、d音は殆ど使用されてゐないと見ても、差
支えない位である。これに反して、首里方言では、d音とr音とを使い分
けてゐるので、標準語のd音を割合正確に写してゐるが、どちらかといへ
ばd音を好んで用ひ、標準語でr音であるものまで、d音にしてしまう傾
向が多分にある。(p67)

さらに「第三章 アクセント」では、前掲の服部論文を紹介した後、「クリ
フォード琉球語彙」に関して、次のように断じている。

この語彙が首里方言であることは、ボートの「櫂」(scull of a boat)
Doo (<do: <ro, 櫂) の語頭をd音に表記してあること(那覇方言ならばru:。
これについては、音韻第七項[ホ]参照)や、「火を取ってこい (Bring
fire here) の Fee tooteecoo (<fi: tutiku:) の tooteecoo の第二音節
(tee) が、所謂促音化してゐないこと(那覇方言では必ず tuttiku:
と発音される) などから推しても、明らかである。(p76~p77)

.....

¹⁰⁾ (777) rejeecoong (拳?) <Strike, to>の例があるが、これは、
tejeecoongの誤りと考えられる。

d音とr音の問題は、首里方言と那覇方言とを区別する重要な指標となることは間違いない。しかし、これだけをもって「琉球語彙」全部が首里方言であると断定することはできない。関連するところでその都度述べるが、那覇方言の要素も多分に含んでいるのである(→ /p/, /c/, /z/, /Q/など参照)。

表記法について少し検討しておくべき問題がある。それは、'd'と'dd'および'r'と'rr'とに何らかの違いが認められるかということである。結論から先に言おう。何らかの音声的違いを示しているとは考えられない。'ddee'と'rra'の例が多いので、母音に関係しているのかとも思われるが、'rree'や'rroo'の例もあるので¹¹⁾、それは言えない。それよりも、(803) addee (あれ)と(808) coodeeを示せば十分であろう。英語に引かれてこのようにした可能性が高い。'arrange' 'arrow' 'arrear' 'addition' など参照。

(583) moola satchee の'l'は'colour'の連想によると考えるのは穿ちすぎであろうか。

4-3-5 /p/ [p, p^h, Φ, ç, h]

綴字:

pi, pee	pay	pa, (pha)	poo	
fi, fee	fa	fa, pha	foo	
whfee	whfa			
	wfay			
			whoo	who
hee	hayeh	ha, ho, high	hoo, ha	ho, haw

¹¹⁾ 次のような例がある。(19) irreechang (炒めた), (79)

chirreetee (切れて), (302) worroosa (悪さ)

語例：(863) pintaw (弁当?) <Victual or dinner box>, (271) speekoo (四百) <Forty>, (269) fisha (足、脚), (270) fitchayeh (額), (473) gnafing (もつと), (416) feeroo (昼), (77) fee (火), (548) feera (籠), (188) afeeroo (家鴨), (906) feefee (口笛), (142) awhfee (兄、恋人) <Country>, (156) (416) heeroo (昼); (310) paychin (親雲上), (731) fa (南), (731) whfa (南), (173) wfaysa (早さ) <Don't stir(said to a person rising to depart)>, (265) hayeh (蠅); (202) hapack coo (八百) <Eighty>, (535) jeepha (簪)¹²⁾, (200) fatchee (八), (553) woo noo fa (芭蕉の葉), (263) fanna (花), (551) fanna (鼻), (848) haccoo (百) <Twenty>, (499) honna (鼻), (494) coohaccoo (九百) <Ninety>, (134) karahigh (磁石); (640) spookarasa (塩辛さ), (162) fookassa (深さ), (747) fooshee (星), (637) foo (帆), (915) tayehfoo (台風), (790) whfoota (蓋), (485) whoosoo (臍), (677) hoonee (船), (365) hoota (蓋), (451) hatung (布団); (460) oowhoko (たくさん), (37) hotoo (鳩), (145) hoyoong (這う), (141) oohawkoo-oong(たくさん居る), (146) hawyoong (這う)

‘f’が[Φ]を表わしていることは間違いないし、‘wh’も英語の‘who’などを持ち出すまでもなく、[Φ]を表わしている。(485) whoosoo (臍)には‘A strong aspirate on the first syllable.’という注が付いていて、このことを裏付けている。‘wf’や‘whf’は‘wh’に準じよう。これから推して‘hee’は[ç i]であると判断できる。

次のような例によって、「琉球語彙」内においては、[p] [Φ] [ç] [h]は、音素/p/に該当すると解釈してよかろう。

.....

¹²⁾ ‘ph’は、英語の‘phone’ ‘graph’などから推すと[p^h]ではなく、[Φ]を示している可能性が高い。(315) kurrazzeeの脚注の文中に‘jeefa’の例がある。

{	(416) feeroo (昼)	{	(551) fanna (鼻)
	(416) heeroo		(449) honna

{	(790) whfoota (蓋)	{	(271) speeakoo (四百)
	(365) hoota		(494) coohacoo (九百)

しかし、史的観点及び「琉球語彙」が単一の方言とは限らないと言う観点に立つと事態は変わってくる。

まず、(731) fa,whfa (南) と (265) hayeh (蠅) とに注目したい。

「南」は [Φ ε :]、「蠅」は [h ε :] であることを示している。19世紀末から20世紀初の首里方言を収録したと考えてよい『沖縄語辞典』¹³⁾ によると、「南」は hwee◎、「蠅」は hwee①である。アクセントは違うものの、共に [Φ ε :] である。つまり、[h ε :] (蠅) は首里方言ではありえない。

また、p→Φ→hの変遷から見ると、hacoo (百)、speeakoo (四百)、coohacoo (九百) が、同一方言内に存在するとは考えにくい。

あるいは、「ヒ」=hee、「ヘ」=fee、「フ」=hoo、「ホ」=foo か
 というと、次に示すので明らかなように、そうでもない。

fee (火) (ヒ)	fookasa (深さ) (フ)
feera (籠) (ヘ)	hoota (蓋) (フ)
heeroo (昼) (ヒ)	fooshee (星) (ホ)
	hooyoong (掘る) (ホ)

『那覇方言概説』に、次のようにある。

「ハ」(ha) は、那覇方言では、語間と語尾では f 音を保存するが、語頭

.....
¹³⁾ 主たる資料提供者二人 (島袋盛敏、比嘉春潮) の生年が、それぞれ 1890年と1883年である。

においては、h音に代る場合が尠くない。(p52)

ある語などは、f音もh音も両方使ひ、f > hの過渡期に属している。例へば、前出の「木の葉」の「葉」(fa)などは、ki:-nu-fa:の如く、語尾にくる時には今でも決して ha:とは発音せず、f音を頑固に踏襲して、必ず fa: といっているが、たゞ一語だけの場合、または語頭にくる時には、ha: も同じ程度に用ひ(る)。(p52)

標準語の波行の所謂拗音 hja, (hju), hjo は、那覇方言では、例えば、hjaku (百) > ha:ku (< hja:ku), hjo: } i (拍子) > hjo: } i の如く、やはり、h音が用ひられてゐる。この場合には、hjo は別として、hja は所謂直音化する傾向が認められる。(p53)

『那覇方言概説』でいう那覇方言がいつごろの資料か判然としないが、20世紀初のそれと考えると大過なからう。今引用したことと前述したことを考え合わせると、「琉球語彙」に那覇方言が混入していると言って差し支えあるまい。少なくとも、「蠅」(hayeh) と「百」(hacoo) は、那覇方言であろう。

細説はしないが、次の例は、さらにその他の方言の混入を予想させるものである。

(232) gooshacoo, or gooyacoo (五百) <Fifty>

ちなみに、(535) jeewa は、八行転呼音を想起させるおもしろい例である(‘wha’あるいは‘hwa’の例がないので、印刷過程上の‘h’の脱落は考えにくい)。

4-3-6 /b/ [b]

綴字：

bi, bee	ba	ba, bau(gh), bu, bo	boo	bō, baw
---------	----	---------------------	-----	---------

語例：(904) binta (びんた) <Whiskers>, (235) eebee (指), (280) oobee (帯); (84) habaroo (蝶); (742) banjaw gaunnee (曲尺),

(54) sabanee (サバニ), (682) saback (草履); (22) boochee (鞭)
 (534) boota (豚), (217) neebooe (眠り), (720) haboo (ハブ);
 (39) bodsee (坊主), (951) baw (棒、天秤棒)

説明不要のように思われる。

4-3-7 /s/ [s, ʃ]

綴字:

si, see, se	sayeh	sa	soo	sau, saw
shi, shee, (shay), shu	shay	sha, shu	shu, shoo	shaw

語例: (663) sitchee (七), (359) sing (千) <hundred>, (139) sinna (砂), (78) nasibbee (茄子), (170) seenoong (死ぬ), (730) seesa (酸っぱい), (102) gooseecoo (城), (148) garrasee (鳥), (92) dawsecoo (蠟燭), (101) eegoosecoo (城), (260) shishee (肉), (323) sangshing (「三線」、三味線), (57) sheemootsee (書物、本) (160) sheenoong (死ぬ), (67) quashee (菓子), (75) hashee (橋) (118) mayshung (箸も); (306) sayeh (飛蝗), (118) fashay (箸は); (180) sackkee (酒), (472) saroo (猿), (157) asattee (明後日) (269) fisha (足、脚), (578) basha (芭蕉布), (316) gooshung (杖) <Hammer>; (91) soocoo (底), (485) whoosoo (臍), (630) ootooshung (落とす), (224) shoo (父), (358) mashoo (塩), (631) ootooshoong (落とす), (569) eenshoo (味噌 <Powder>; (168) sau teeyoong (育てる), (545) saw (棹), (611) sawkee (籠), (264) hanshaw (笛), (703) eemeeshawdee (お座り下さい)

ここでは「シ」「セ」「ス」と [ʃi] [si] との関係が問題になる。
 英語の綴字では、例えば、's i p' と 's h i p' や 's e e p' と

‘sheep’ などのように、‘si’ と ‘see’ は [si] を、
 ‘shi’ と ‘shee’ は [ʃi] を示す。クリフォードは、このことを
 「琉球語」に適用している。

今、(663) sitchee (七) と (170) seenoong (死ぬ) を除いて、「シ・
 セ・ス」と ‘si’ ‘see’ ‘shi’ ‘shee’ との対応関係を表に
 すると、次のようになる。

シ	セ	ス
shi	shi	si
shee	si	see

『沖縄語辞典』における sicigwaci[◎] (七月)、hasi^①
 (橋)、sin^① (千)、sansin^① (三味線)、şina^① (砂)、
 garaşı[◎] (鳥) などをもとに、同じような表を作ってみると、次のよ
 うになる。

シ	セ	ス
si	si	şı

これらと、「語音翻訳」における「シ = [ʃi] [si]、セ = [si] [sɪ]、ス = [su]」とを対照する。

	語音翻訳	琉球語彙	沖縄語辞典
シ	ʃi、si	ʃi	ʃi

セ	s ī、s I	{ i、si	{ i
ス	s u	s i	s i
ソ	s o、s u	s u	s u

(音声表記。参考までに「ソ」も示した。)

これによって、「セ」s i → { i の変化が起きたのは、1800年前後らしいことがわかる。ここに到って、先に除外しておいた、「シ」に対応する 's i' の例も説明がつこう。その理由は、過渡期における「揺れ過ぎ」と、[s i] と [{ i] とを正確に聞き分けるクリフォードの耳に求めることができる。

以上は、首里方言という前提に立っての見解である。那覇方言などの要素が混じっているとすれば、少し修正を受けよう。例えば、(323) sangshing (三味線) などは那覇方言であるかもしれない¹⁴⁾。そうであれば、「セ」s i → { i の変化時期は、もう少し下ることになる。

4-3-8 /c/ [tʃ, ts]

綴字：

chi, chee, (chay)	chay	cha, chu	choo	chaw
tchee	/	tcha	/	/
tsi, tsee	/	(tsa)	/	/
sti, stee	/	/	/	/
tzee	/	(tza)	/	/

¹⁴⁾ 『那覇方言概説』参照。「五十音図の佐行と、那覇方言との対応関係を示すと、大體 s a = s a, { i = { i, s u > { i, s e = { i, s o = s u となつてゐ」る。(p64)

語例：(120) ching (衣、着物)，(397) chawching (提燈)，(623) chinna (綱)，(79) chirreetee (切れて)，(888) tinchee (天気)，(151) cheeong (切る)，(381) coochee (口)，(620) meechee (道) (230) cheeroo (弦)，(254) cheena (綱)，(565) cheejoong (注ぐ) (468) stchay (月は)，(470) oostitchee (御月、大月) <Moon, full>; (242) cha-chee (消して)，(31) coocha (寢室)，(474) acha (明日) (817) oochung-ging (投げ捨てる)，(35) stcha (下)，(831) stcha (舌)；(129) choong (来る)，(284) eechoong (行く)；(465) chaw (兆) <Million>，(60) neechawng (似ている)；(215) matsidjee (睫)，(330) tseebooroo (頭)，(119) matsee kee (松)，(353) tsnnoo (角)，(218) steera (顔、「面」)，(371) titzee (鉄) (；(7) neetsa <Angry>，(346) katsameeong (掴む)，(921) dackkeezitza <Wine kettle>)

「キ」「チ」「ツ」との対応が問題になる¹⁵⁾。『沖縄語辞典』から次の語例を参考にして、前項と同じような表を作ると、次のとおりとなる。

c i N ⊙ (着物)，c i j u N ⊙ (切る)，t i n c i ① (天気)，k u c i ① (口)，m i c i ① (道)，ç i r u ① (弦)，ç i n a ⊙ (綱)，ç i z u N ① (注ぐ)，ma ç i g i ⊙ (睫)，ç i b u r u ⊙ (頭)，ma a ç i ⊙ (松)，ç i n u ⊙ (角)，ç i r a ⊙ (顔)

	語音翻訳	琉球語彙	沖縄語辞典
キ	[ki]	chi, chee [tʃi]	ci [tʃi]
チ	[tʃi]	chee [tʃi]	ci [tʃi]
ツ	[tsu]	chi, chee [tʃi] tsi sti tsee, stee tzee [tʃi]	çi [tʃi]

.....

¹⁵⁾ / i / _ の環境における「ケ」も取りあげるべきであるが、適当な例が見つからないので、今仮りに除いておく。

『沖繩語辞典』で「ツ」= [t s i] であるから、「琉球語彙」の「ツ」= [t } i] の語例は、首里方言ではないことになる。那覇方言であろう。なお、/ i / _ の環境における「タ」が、' c h a ' ではなく、' t c h a ' と表記されていることに注目したい (35)、(831))。まだ [t } a] になり切っていないことを示していると考えられる。「語音翻訳」に関して、[t s a] か [t } a] かを推定したのは、当を得ていた。

4 - 3 - 9 /z/ (dʒ, dz, z)

綴字 :

ji, jee		ja, je	joo	jaw
zi, zee, zzee		za		
djee				
dsee				
dzee			dzoo	
dge-ee				

語例 : (698) jing (銀), (220) ojee (扇), (25) feejee (髭), (230) teenoo feejee (肘), (410) jee (字), (194) jee (地), (402) meejee kannee (「水金」、鉛), (921) dackkeezitza (酒注ぎ) <Wine kettle>, (870) meezee (水), (315) kurrazzee (髪), (911) kazzee (風), (215) matsidjee (睫), (39) bōdsee (坊主), (39) bōdzee (坊主), (666) sadge-ee (下僕); (41) injassa (苦さ), (292) feeja (山羊), (596) oonajerra (女王), (759) choozackkee (強酒); (151) feejoong (削る), (587) kanjoong (被る), (801) joo (十), (864) joobackkoo (重箱), (252) dzoo (尾); (742) banjaw gaunnee (曲尺)

英語を参考にすると、j e e = [dʒ i], z e e = [z i], d z e e = [d z i] と仮定できよう。「ギ、ジ、ヂ、ゲ¹⁶⁾、ゼ、ズ、ヅ」との対

応関係を考えてみる。

まず、『沖縄語辞典』から関連する代表語を選び出してみる（簡略にするために、一語ずつとした）。

? o o z i ㊟ (扇), z i i ㊟ (字), h w i z i g e e ① (肘),
h w i z i ① (髭), k a z i ① (風), b o o z i ㊟ (坊主),
m i z i ① (水)

(z i = [d ʒ i], z i = [d ʒ i] ~ [d z i])

これらから推して、「琉球語彙」における「ズ」= j e e、「ヅ」= j e e の例は、首里方言ではないと判断できる（那覇方言であろう）。今、このような例を除いて、これまでと同じような表を作ってみる。

ギ	ゲ	ジ	ゼ	ヂ	ズ	ヅ
ji						
jee	jee	jee		jee		
.....
	zee		zee		dzee	zee
	djee				dsee	

(ズ = d z e e から考えて、ヅ = d z e e とありたいところである。)

さらに、「キ、シ、チ、ケ、セ、ス、ツ」と対照した表を作ると、次のようになる（翻 = 語音翻訳、琉 = 琉球語彙、沖 = 沖縄語辞典 である）。

.....

¹⁶⁾ / i / _ の環境における「ゲ」である。

	翻	琉	沖
キ	ki	tʃi	tʃi
シ	ʃi	ʃi	ʃi
チ	tʃi	tʃi	tʃi
ケ	kī	(A)	tʃi ¹⁷⁾
セ	sī	ʃi / si	ʃi
ス	suu	si	si
ツ	tsu	tʃi	tʃi

	翻	琉	沖
ギ	gi	dʒi	dʒi
ジ	(d)ʒi	dʒi	dʒi
ヂ	dʒi	dʒi	dʒi
ゲ	gī	dʒi / (d)zi	dʒi
ゼ	zī	(B) / zi	dʒi
ズ	(d)zu	dʒi	dʒi
ヅ	dzu	(d)zi	dʒi

ここに「同型性」の考え方を応用すれば、 $A = [t \{ i / t s i]$, $B = [d ʒ i]$ が想定できよう。

この表から、次のような変化を読み取ることができると思う。

- (a) $k i \rightarrow t \{ i$ の変化は、19世紀初以前に起こった。(キ)
- (b) $k \bar{i} \rightarrow k i$ の変化が19世紀初以前に起こり、それがさらに $t \{ i$ に変化したのは、1800年前後である。(ケ)
- (c) $s i \rightarrow \{ i$ の変化も1800年前後に起こった。(セ)
- (d) $s u \rightarrow s \bar{i} \rightarrow s i$ の変化が考えられ、 $s \bar{i} \rightarrow s i$ は19世紀初以前である。(ス)
- (e) $t s u \rightarrow t s \bar{i} \rightarrow t s i$ の変化が考えられ、 $t s \bar{i} \rightarrow t s i$ は19世紀初以前である。(ツ)

4 - 3 - 10 /m/ [m]

綴字 :

mi, mee	may	ma, mo	moo	mo, maw
---------	-----	--------	-----	---------

語例 : (190) mimmee (耳) , (382) sheemirree (締めよ) , (836) kooraming (踏む) , (72) namee (波) , (213) mee (目) , (44) meegua (盲) ; (118) mayshung (お箸も) ; (119) matsee kee (松) , (470) maroo (丸) <Moon, full> , (24) tamma (玉) , (354) ma (馬) ,

17) ? i c i ⊙ (「池」、庭池) など参照。

(626) morroosa (丸さ) ; (73) moonee (胸) , (94) cammoodee (冠) ,
 (122) moo (芋) ; (372) moyoong (踊る) <Jump, to> , (783) oodeemaw
 (腕無し)

現代語と同じと考えてよからう。

4 - 3 - 11 / n / {n, n}

綴字 :

ni, nee, (nay)	nay, na	na, nigh	noo, no nou, na	no-a, nau, naw
gnee		nea, nya, gnea, gna		

語例 : (261) ning (煮る) <Flesh, to> , (708) ninjoong (寝る) , (60)
 neechawng (似ている) , (144) gaanee (蟹) , (217) neebooe (眠り) ,
 (225) hantee (羽) , (Part II .48) atookarra qua gnee queeoong (あと
 で子供にやる) ; (249) hannay (羽は) , (326) nang (無い) ; (26)
 nashee (無し) , (125) naee (実) <Cocoa-nuts> , (158) asa tinnacha
 (明明後日) , (263) fanna (花) , (541) nay (実) , (661) nigh
 (実) <Seed> , (4) eenea, ignea (Italian gn.) (皆) , (135) neenya
 gooroo (蜚) , (473) gnafing (もっと) ; (5) noodung (飲んでいる)
 (121) nonoo (布) , (950) cheenoo (昨日) , (198) kanoung (食べる)
 (614) manayoong (馬 乗る) ; (667) no-a-yoong (縫う) , (728)
 nautee (治って) , (433) nawyoong (縫う)

クリフォードは、例に見るように、[ni] と [ɲi] とを聞き分けてい
 る。(4)に付けられた注記 'Italian gn.' がこのことをよく物語ってい
 る。

しかし、[ni] [ɲi] 共に /ni/ と考えてよさそうである。(261)

と(708)参照。つまり、「ニ」「ネ」の違いはない(ただし、[ɲa]は、当然、/nɲa/と考える)。

4-3-12 / ? / , / ' /

声門閉鎖音を示した綴字は、特に見当たらない。しかし、次の例は、その存在を窺わせるものである。

(421) quaw seeba <Lip, upper>

これは「上唇」の意味であるから、[?wa:ʃiba]を示そうとしたに違いない。ところが、次のような例もあるので、必ずしも声門閉鎖音が聞き分けられたのではないようである。

(41) injassa (苦さ)

(446) injasa (短さ)

(586) injashoong (出す)

(対応する現代語は、それぞれ、[ndʒasan] [?intʃasa] [?ndʒasun]である。)

次の例を見ると一層その感を深くする。

(354) ma (馬) (168) moo (芋)

(対応する現代語は、[?mma] [?mmu]である。)

これには、英語では声門閉鎖音を表記する方法がなかったことも原因しているよう。

いずれにしても、声門閉鎖音の存在は否定できまい。

injashoongを[?ndʒaʃun]と推定して、/?nzjasju~/と解釈するならば、injassa [ndʒasa]は/nzjasa/と解釈してもよいが、/'nzjasa/とすれば、所謂長音の解釈にも資すると考えられるので、/?/とともに/'/を設定するとよい。

4-4 撥音 /N/ [m, n, ŋ, N]

明らかに撥音を示していると思われる例に、次のようなものがある。

(94) cammoodee (冠) <Cap>, (278) hamboong (半分); (89) koonda (膝), (154) innago oongua (娘), (166) nintoong (寝ている) <Die, to>, (195) fingassee (東), (597) kanjoong (被る), (901) indeeta oong (濡れている); (807) sangbacoo (三百) <Thirty>; (310) paychin (親雲上), (12) ooking (起きる), (605) yoomoong (読む)

ところが、同じような表記がなされていて撥音とは思えない例も、多く存在する。

(190) mimmee (耳), (343) gammacoo (腰), (367) simmee (墨) <Ink>; (114) innago (女), (139) sinna (砂), (144) gannee (蟹), (263) fanna (花), (349) anna (穴), (623) chinna (綱) など。

これらの語と対応する現代語には、「撥音」は存在しない。現代語にはなく、19世紀初にはあったということであるとか、あるいは首里方言・那覇方言以外の方言には存したというのであれば、興味ある問題であるが、どうもそうとは考えられない。例が 'mm' 'nn' に限るところから、英語にその原因があることがわかる。'hammer' 'summer' 'cannon' 'manner' など参照。

4-5 促音 /Q/

'kk' 'tt' 'ss' などと表記されたのが、促音を示すであろうと一応見当がつけられるが、その中で、現代(首里)語との対照において、促音と認められるものはわずかにすぎない。次がそうである。

(140) sack-quee (咳), (83) akka (痛い!), (96) mootchee eechoong (持って行く), (947) kassa cheeroo (「軽い黄色」?) <Yellow, dark>

これに対して、次のような例は、それに対応する現代（首里）語では促音とならないものである。

(238) nackka eebee (中指), (443) ickkeega (男), (741) kackkoo (角), (919) sackkee (酒), (34) watta (腹), (157) asattee (明後日), (684) kutta (肩), (768) tettee (照って), (162) fookassa (深さ), (195) fingassee (東), (324) kassa (笠), (304) goositchee (薄), (48) foo-tchoong (吹く), (63) feetchoong (引く)

これらの表記が正しければ、19世紀初めまでは存した促音が現代（首里）語では消えてしまったか、これらの語が首里方言ではないかのいずれかであるということになる。即断しがたい問題なので、保留しておきたい。ただ、今のところ、この表記の正しさに対して否定的である。（注 3）参照）

第四章

沖繩語仮名資料の研究

第一節 碑文記にみる沖縄語

『琉球国中碑文記』（漢字仮名混じり文）所収の次の碑文の分析を行なう。五十音順の語彙集である。

- 1、たまおとんのひもん（1501年）
- 2、石門之東之碑文（国王頌徳碑）（1522年）
- 3、石門の西のひもん（真珠湊碑文）（1522年）
- 4、崇元寺之前東之碑うらの文（1527年）
- 5、かたはなの碑おもての文（1543年）
- 6、添継御門の南のひのもん（1546年）
- 7、やらさもりくすくの碑のおもての文（1554年）
- 8、浦添城の前の碑おもての文（1597年）
- 9、ようどれのひのもん（1609年）
- 10、本覚山碑文（1624年）

本文は、「伊波本」をもととし、「東恩納本（甲乙）」『仲原善忠全集 第二巻 文学編』および塚田清策『琉球国碑文記』を参照した。

★本文を、適宜分ち書きにし、句読点を施した。（1行30字とした。）（行数・字数を示す数字を付した）（印刷の都合上横書きとした）

★索引は、見出し語を五十音順に並べる。

★用例は、出順（年代順、行順）に並べる。ただし、五十音順としたほうがよいと思われる場合は、そのようにする。

用例中における見出し語相当部分を「——」で示す。

★所在個所を「I(1)1」のように示す。これは「たまおとんのひのもん」の1行目の一字目であることを示している。同じように、「II(2)5」は「石門之東之碑文」の2行目の5字目である。

★助数詞「一日」「一人」の前の漢数字は、便宜上、字音による50音順にして配列した。たとえば、「一日」「二日」は「いちにち」「ににち」とし、「一人」「二人」は「いちにん」「ににん」とする。

★漢字のあてられるものは、見出し語の次に（ ）に入れて示した。漢字のものは、そのまま見出し語とした。

★同一音となる見出し語は、ひらがな・カタカナ・漢字の順とする。

★名詞・動詞・形容詞・副詞・接続詞・助動詞・助詞（格助詞・接続助詞・副助詞・終助詞）・接辞の順とした。品詞名は、略号とし、〈 〉で示す。次のとおり。

Ⅲ 石門の西のひのもん (真珠湊碑文) (1522年)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

① 首里の王 おきやかもいかなし天の ミ御ミ事に、ま玉ミなどの
 2 ミち つくり、はし わたし申候 時の ひの もん。
 3 嘉靖元年 ミつのへむまのとし 四月九日 きのとのとりのへに、
 4 きこゑ大きききみ の おれめしよわちへ、まうはらいの 時に、
 5 御せるゝ たまわり申候。
 6 とよみもり よそいもり おくのミよ くもことまりに、
 7 ま玉はし くにのまたや わたしよわちへ、つかしよわちへ、
 8 たしきやくき つさしよわちへ、あさかかね ととめわちへ、
 9 ミしまよねん みくによねんてて、御ゆわい めしよわちや事、
 10 千人の さとぬしへ あくかへ そろて、御はい おかミ申候。
 11 この はしハ、くにの あんし けすの ため、又 世の
 12 御さうせの ために、ねたてひかわ、又 とよミくすく。
 13 此 くすくと ミつのかくこのために、一はんの さとぬしへ
 14 あくかへ。はへはら しまおそい大きと ちへねん さしきわ、
 15 ま玉はしお わたり、下しましり ともに かきのはなちに
 16 せいそろい。
 17 天三十三天、地は 十八天、あかめたてまつり候て、三百人
 18 そうたち、はしくやうの 御ゆわい 申候。
 19 此 すみの ことはハ 三人の 世あすたへ
 20 まかねたる くにかみの 大やくもい
 21 まうしかね かうちの 大やくもい
 22 たるかねもい たくしの 大やくもい

くもり
伊波本は
「くりこ」

Ⅳ 崇元寺之前東之碑 うらの文 (1522年)

① あんしも けすも くまにて むまから おれるへし。
 (西之碑モ同ジ)

Ⅴ かたはなの碑 おもての文 (1543年)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

① 首里天の 御ミ事 をかみ申、みち つくり、まつ うへ申候
 2 ひの もん。
 3 大りうきう国 中山王 尚清ハ、そんとんより このかた
 4 二十一代の 王の 御くらひを つきめしよわちへ、天より 王の
 5 御なをは 天つき王にせと さつけめしよわちへ、御いわひ事

6 かきりなし。王かなしハ、むまれなから むかしいまの 事を
 7 さとりめしよわちへ、天下を おさめめしよわる 事、むかし
 8 もろこしの ていわう きよう しゆんの 御代に にたり。
 9 しかれは、御たかへめしよわる もり あり。たいりより
 10 ひかしに あたりて へんの たけと いふ。これハ、
 11 きこゑ大きみきミ、かミ ほとけの 御あそひめしよわる
 12 ところ。あめ ふる 時ハ、とろ つち ふかさ あるけに、
 13 国王の 御ミ事に、ミちを つくり、まつを うへれとの
 14 御ミ事を をかミ、くにの あんしへ あすたへ
 15 大やくもいた 里主へ けらへ あくかへ、こころ 一に あわせ、
 16 ちからを そろへ、いしを はめ、まつを うへれハ、ミちハ
 17 きよらく、まつハ すゝし。一すしの ミちに 千りやうの 金を
 18 人々 ミおほけに あひ申候。されは、
 19 嘉靖二十二年 ミつのととう 六月二十四日 ひのとのとりのへに、
 20 きこゑ大きみきミの をれめしよわちへ
 21 天つき王にせの あんしをそひかなし、
 22 ミ御ミつかひ めしよわちへ、あまこ あわしめしよわちへ、
 23 御ほこりめしよわちや事、おもひくわへ くにの あんしへ
 24 あすたへ 大やくもいた 里主へ けらへ あくかへ そろて
 25 ミはい をかミ申候。おひ人 わか人 めとも わらへに
 26 いたるまで よるも ひるも 御たかへ し申候。ねかひ事
 27 かなひ、よろこひ、たのしむ 事 かきりなし。
 28 大明嘉靖二十二年 ミつのととう 八月大吉日
 29 世あすたへ 三人
 30 大さとの 大やくもい まふとかね
 31 きすゝの 大やくもい いぬたるかね
 32 ミや平の 大やくもい まいくさかね
 33 奉行 一人
 34 花くすくの 大やくもい ま五ら

そろへ
 伊波本は
 「そへ」

VI 添継御門の南のひのもん (1546年)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
 ① 首里の王 天つき王にせの あんしおそいかなし天の
 2 ミ御ミ事に、すゑつきの 御ちやう 御石かき つミ申候 時の
 3 ひの もん。

4 首里天つきの あんしおそいかなし天の ミ御ミ事、御くすくの
 5 御石かき きよらさ ちよさ あれとも、御くすくの こし
 6 あて、はへおもての ひとへに ありよるけに、首里の 御世の
 7 御さうせ めしよわちへ 御石かき つませて ミ御ミ事
 8 をかミ候て、くにの あんしへ ミはんの 大やくもいた、
 9 里ぬしへ けらへ あくかへ こくより 上下、又 おくとより
 10 上、ミヤこ やへまの おゑか人 大小の 人々 そろて、
 11 御石かき つみ申候。御石かきの ねたての ふかさハ 二ひろ、
 12 あつさハ 五ひろ、たけハ 十ひろ、なけハ 二百三十ひろに、
 13 つみみちへて 御くらともに けらへ申候。
 14 嘉靖二十五年 ひのへむまの年 八月一日 ミつのとどりのへに、
 15 きこゑ大ききみきみの をれめしよわちへ、まうはらへの 時に、
 16 御せゝる 御たほひ めしよわちへ、首里もり またまもり
 17 けらへて、くもこたけ 世つきたけ おりあけわちへ、
 18 つみあけわちへ、世の こし あて あをりやたけ
 19 おりあけわちへ、つみあけわちへ、すゑつきの ミ物
 20 いちやちや けらへわちへ、御ゆわい めしよわちへ 御おもろ
 21 御たほひ めしよわちや事、おもひくわへ くにの
 22 あんしへ 大やくもいた 里主へ けらへ あくかへ こくより
 23 上下、おくとより 上、ミヤこ やへまの おゑか人
 24 しま ともに ミはい をかミ申候。
 25 又 九月三日 ひのとのミのへに、
 26 なるやの大ぬし きみの 御のほりめしよわちへ、
 27 首里天つきの あんしおそひかなし、ミ御ミつか井
 28 めしよわちへ、御ゆわひ めしよわちへ、御おもろ御たほひ
 29 めしよわちや事、そろて ミはい をかみ申候。
 30 又 ちやうらう そうたち そろて、御石かきの 御くやうの
 31 御ゆわひ申候。
 32 この 御石かき つみ申候 あひたハ、日々の ミ御ほけハ
 33 かすしらす、月々に おゑか をかみ申候。みはいハ、
 34 首里天つきの あんしおそひかなし天の ともゝと とひやくさと
 35 ミはい をかミ申候。
 36 嘉靖二十五年 ひのへむま 十二月三十日に しるし申候。
 37 世あすたへ 三人
 38 かなはの 大やくもい しほたるかね

ちやうらう 伊波本は 「ちやうちう」

39 かうちの 大やくもい たるかね
 40 くにかみの 大やくもい しほたるかね
 41 奉行 三人
 42 しやなの 里主 ま五ら
 43 花くすくの 里主 まさかひ
 44 まふにの 里主 ま三ら

VII やらさもりくすくの碑 おもての文 (1554年)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
 ① 琉球国 中山王
 2 尚清 てにつきわうにせの あんしおそびかなしの ミ御ミ事。
 3 国の ようし、とまりの かくこの ために、やらさもりの
 4 ほかに くすく つませてて おかて、くにの あんしへ
 5 ミはんの さとぬしへ けらへ あくかへ かミしも ち
 6 はなれ そろて、からめちへ、くすく つミつけて
 7 ミおやしちやれは、
 8 嘉靖三十二年 ミつのとのおし 五月四日 つちのとのおりのへに、
 9 きこゑ大ききミの をれめしよわちへ、まうはらひ
 10 めしよわちやる ミせせるに、
 11 やらさもり やへさもり、いしらこは、ましらこは、
 12 おりあけハちへ、つミあけハちへ、ミしまよねん おくのよねん
 13 世そふもり 国のまでや けらへハちへ、このミよハちへ、
 14 たしきやくき ついさしよハちへ、あさかかね とゝめハちへ、
 15 まう はらて、みよ はらててゝ いのりめしよハちやるけに、
 16 ともゝ すゑ、せいくさ よせらやいてゝと
 17 わうかなしむ ミはひ おかミめしよはる。かミしもの あんし
 18 けす そろて 千万の ミはひ おかて あり。
 19 又 ちやうらう はうすた そろて ちかための およハひ
 20 しめさしよハる。
 21 おきなハの 天きや 下へ、きこゑ大ききの 御せちの
 22 ミまふりめしよハるけに、むかしから いくさ ちちよくの
 23 きちやる ことハ なきやもの やれとも
 24 御世の おさうせ 国の ようしの ために いきやてゝ
 25 いよことの あら 時や ミはんの 御ま人。一はんの せいや
 26 しより御城の 御まふり。一はんの せいや なはの はん。

ちやうらう
 伊波本は
 「ちやうらう」

- 27 一はんの せい 又 はゑはら しまおそい大さと
 28 ちへねん さしき しもしましりきやめの せいや
 29 かきのはなち やらさもりくすくに よりそふて、ミおやたいり
 30 おかむやに おさためめしよハやる み御ミ事ハ しま世の
 31 てやちきやら ねいし まいしの やに いつきやめむ
 32 いきよくまし。くるくまし。
 33 大明嘉靖三十三年六月吉日
 34 世あすたへ 三人
 35 くすくまの 大やくもい まいくさ
 36 うちまの 大やくもい まとく
 37 こちひらの 大やくもい まうし
 38 ふきやう 一人
 39 かつれんの 大やくもい まふとう

同碑うらの文

- 40 やらさもりくすくの かくこ、又 ねたてひかわの ミつの
 41 かくこハ、三人 おろくの 大やくもい きまの 大やくもい
 42 かなくすくの 大やくもい。いつきやめむ ちよく かたく
 43 かくこ するへし。

VIII 浦添城の前の碑 おもての文 (1597年)

- 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
 (1 首里天の ミ御ミ事に たいへいけう たひらはし つミ申 時の
 2 ひの もん。りうきうこく ちうさんわう
 3 しゃうねいハ、そんとんより このかた 二十四代の わうの
 4 御くらゐを つきめしよわちへ、うらおそひより しよりに
 5 てりあかりめしよわちや事、
 6 てんより わうの 御なをは、てたかすゑ あんしおそひ
 7 すゑまさる わうにせて、つけめしよわちへ、千萬の
 8 御ゆわい事 あり。しかれば、
 9 首里てたかすゑ あんしおそひかなし天の ミ御ミ事。
 10 くにの あち けす たミひやくしやうの ため、御世の
 11 御さうせ めしよハちへ、
 12 たひらおほなハ たひらの かはら、雨 ふる 時ハ ところ

13 つち ミつの ふかさ あるけに、はし かけさせ、
14 きほくひりまで みちに いし はめさせて、 をかて、
15 ミはんの 大やくもいた さとぬしへ けらへ あくかへ
16 かミしも ち はなれ そろて、ミち はし つミつけて
17 ミおやしたれハ、
18 萬曆二十五年 ひのとのとり 八月十二日 つちのとのミのへに、
19 かミほとけの をれめしよハちゑ、まうはらひ めしよはちやる
20 ミせゝるに、
21 たひらもり おしあけもり、いしらこは ましらこは
22 おりあけわちへ、つミあけわちへ、くもこはし ミ物はし
23 かけよわちへ、わたしよわちへ、ミしまよねん くにのまでや
24 このミよわちへ、けらへわちて、いのりめしよわちやるけに、
25 きこゑ大きみかなし 玉うらおそひに 御ちよわひ
26 めしよハちや事、
27 わうかなしの おほこりめしよハちゑ、おらおそひの御くすく世の
28 つちに 御ちよわいめしよハちゑ、御くすくの うちほかの
29 御いへ ひのかミ 御たかへめしよわちや事、
30 あち けす そろて ミはい おかミ申候。
31 又 くに の あちへ ちやうらうた あすたへ
32 かなそめはつまき はうすた ミはんの 大やくもいた
33 さとぬしへ けらへ あくかへ 御よひめしよわちへ、
34 御いちやわりハ 千りやうの 金よりも なを まさりの
35 ミおほけに あひ申候。
36 又 うらおそひまさりの 大やくもいた さとぬしへ けらへ
37 あくかへ おゑか人 のろへ、しまの あすた くにの あむた、
38 大小の ゑくか おなこ とともに 御よひめしよわちへ、
39 ミおほけハ かすしらす おゑか たまわり申。
40 ミはい おきなハの 天か下の あち けす おゑ人 わか人
41 おなこ わらへまでも おもひ事ハ、
42 首里てたかすゑ あんしおそひかなし天の ねいし まいしの
43 やに いつまでも 御ちよわいめしよわる 御かほう
44 ねかひ申し候て、よるも ひるも ミはい をかミ申候。
45 萬曆二十五年 ひのとのとり 九月大吉日
46 世あすたへ 三人
47 くにかミの 大やくもい ま五ら

- 48 とよミ城の 大やくもい まうし
 49 なこの 大やくもい またる
 50 ふきやう 二人
 51 くすくまの 大やくもい またる
 52 かハかミの 大やくもい またる

IX ようとれのひのもん (1609年)

- 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
 ① りうきう国 てたかすゑ あんしおそい すへまさる
 2 王にせかなしは うらおそいより しよりに
 3 てりあかりめしよわちやこと、うらおそいの ようとれは
 4 ゑそのてたの 御はか やりよるけにてゝ、御さうせ
 5 めしよわちへ、ちよく きよらく けらゑらしめしよわちへ、
 6 大ちよもいかなし おやかなし ミ御ミつかい めしよわちへ、
 7 あとハ てたかすゑ あんしおそいかなしも 御ちよわひ
 8 めしよわに、あに あれはと 千代 萬代 なるまでも 御なハ
 9 のこらに しゆるてゝ、御さうせ めしよわちへと この ひの
 10 もんハ たてめしよわちやる。
 11 この 御はかの さうちハ、うらおそいまきりより ほん 正月
 12 まゑに きよらく からめくへしと ミ御ミ事 おかミ申候。
 13 世あすたへ 三人、いけくすくの 大やくもい よむたもさの
 14 大やくもい とよみくすくの 大やくもい。
 15 そうふきやう 二人、あはこんの 大やくもい こちひらの
 16 大やくもい。
 17 いしふきやう 一人、たまくすくの 大やくもい。
 18 この すミの あさく ならば ほるへし。
 19 萬曆四十八年 かのへさる 八月吉日

X 本覚山碑文 (1624年)

- 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
 ① 首里の王 天きやすゑ あんしおそいかなしの おなこの
 2 おやかなしの 御すきりめしよわちや事 ミいくに 御はか
 3 けらへわちへ 御ミつかい すれてて、ミ御ミ事
 4 をかミ申候 ほとに、石の さいく あつめ候て、一七日の
 5 うちに からめきミちへて、

6 天啓四年 甲子 十月六日 ひのとのゐのへに、御おくり し申候。
7 あに あれは、国中の 僧侶 めとも わらへの いふに
8 およひ申さす。
9 をりふし 唐より 御つかいの ちいへい 御わたり候て
10 御さ候間、御とむらひに いろいろの かさり物を すゑ、
11 かくにて 代の 官人の さいもん よミ候て ミはい
12 からめき申候。
13 かに ある 事は 昔今にも あるましく候ほどに、末代の
14 するへ の ために ひの もん 御たてめされ候。
15 此 御はかところは、大あんしおしられの おもひくわへ
16 ゑくか 御三人、おなこ 御五人に 御給り候ほどに、
17 千年萬年までも 此 御すしより ほかに あんしも けすも
18 入事 あらは、天に あふき、地に ふして たたるへし。
19 世あすたへ 三人、くしかミ まによこ 国かミ まさふろ
20 いまきしん 思ひとく。
21 総奉行 なか城 おもひ二ら。
22 石ふきやう あたにや太郎 敬白
23 于時大明天啓四年竜集甲子冬十月如意珠日

索引 及び用例

あ

- あかめ(崇め)〈動〉
—たてまつり候て III(17)14
- あかり(-上がり)〈補助〉
てり—めしよわちやこと IX(3)3
- あくかへ(赤頭)〈名〉
III(10)12, III(14)2, V(15)16, V(24)21,
VI(9)11, VI(22)22, VII(5)17, VII(15)23,
VII(33)12, VII(37)2
- あけ(-上げ)〈補助〉
おり—わちへ VII(22)4
つミ—ハちへ VII(12)12
つミ—わちへ VI(18)4, VI(19)12, VII(22)12
- あさかかね 〈名〉
III(8)17, VII(14)18
- あさく(浅く)〈形〉
—ならばほるへし。 IX(18)8
- あすた(長老達)〈名〉
しまの— VII(37)20
- あすたへ(長老部)〈名〉
V(14)21, V(24)1, VII(31)21
世— III(19)21, V(29)3
- あそひ(遊び)〈動〉
御—めしよわる V(11)21
- あたにや太郎(安谷屋太郎)〈名〉
石ふきやう— X(22)7
- あたり(当たり)〈動〉
ひかしに—て V(10)6
- あち(按司)〈名〉⇨あんし
くにの—けす VII(10)6
—けすそろて VII(30)2
天か下の—けす VII(40)17
- あちへ(按司部)〈名〉
くにの—の— VII(31)10
- あつさ(厚さ)〈名〉
—ハ五ひろ VI(12)2
- あつめ(集め)〈動〉
さいく—候て X(4)18
- あて(-当て)〈接辞〉
こし— VI(6)2, VI(18)16
- あと(後)〈名〉
—ハ IX(7)1
- あに 〈副〉
—あれは IX(8)7, X(7)1
- あはこん(阿波根)〈名〉
—の大やくもい IX(15)11
- あひ(会ひ)〈動〉
ミおほけに—申候。 V(18)10, VII(35)8
- あひた(間)〈名〉
御石かきつみ申候—ハ VI(32)14
- 間 〈接助〉
御さ候— X(10)4
- あふき(仰ぎ)〈動〉⇨あをき
天に—地にふして X(18)11
- あまこ(眼)〈名〉
—あわしめしよわちへ V(22)15
- あむた 〈名〉
くにの— VII(37)28
- あめ(雨)〈名〉
—ふる時ハ V(12)5
- 雨 〈名〉
—ふる時ハ VII(12)19
- あら(有ら)〈動〉
あらそふ人—は I(14)20
そむく人—は I(16)20
入事—は X(18)4
いよことの—時や VII(25)8

あらそふ(争ふ)〈動〉
 —人あらは I(14)13
 あり(有り)〈動〉
 ひとへに—。
 たるけに VI(6)17
 あり(有り)〈動〉
 もり—。 V(9)19
 御ゆわい事—。 VIII(8)8
 あり 〈補動〉
 おかて—。 VII(18)21
 ある(有る)〈動〉
 ふかさ—けに V(12)24, VIII(13)13
 かに—事は X(13)4
 —ましく候ほどに X(13)15
 あれ(有れ)〈動〉
 きよらさちよさ—とも VI(5)16
 あに—は IX(8)10, X(7)4
 あわし(合わし)〈動〉
 あまこ—めしよわちへ V(22)19
 あわせ(合わせ)〈動〉
 ころ—に— V(15)28
 あをき(仰ぎ)〈動〉⇔あふき
 てんに— I(17)10
 あをりやたけ(煽りや嶽)〈名〉
 —おりあけわちへ VI(18)19
 あんし(按司)〈名〉⇔あち
 きこゑ大きみの— I(3)14
 きんの— I(8)10
 こゑくの— I(7)11
 さすかさの— I(4)12
 とよみくすくの— I(9)14
 中くすくの— I(5)12
 みやきせん— I(6)13
 よそひおとんの大— I(2)15
 く—toの—けす III(11)13
 —もけすも IV(1)1, X(17)21
 かみしもの—けす VII(17)27
 あんしおしられ(按司お知られ)〈名〉
 大—のおもひくわへ X(15)12
 あんしおそい(按司襲い)〈名〉
 てたかすゑ—の X(1)13
 あんしおそいかなし(按司襲い加那志)〈名〉
 —も IX(7)11
 天きやすゑ—の X(1)12
 あんしおそいかなし天(按司襲い加那志天)
 〈名〉
 天つき王の— VI(1)14
 首里天つきの—のミ御ミ事 VI(4)8
 あんしおそひ(按司襲ひ)〈名〉
 てたかすゑ— VIII(6)21
 あんしおそひかなし(按司襲ひ加那志)〈名〉
 首里天つきの— VI(27)8
 てにつきわうにせの— VII(2)14
 あんしおそひかなし天(按司襲ひ加那志天)
 〈名〉
 首里天つきの—の VI(34)8
 —のミ御ミ事 VIII(9)9
 首里てたかすゑ—の VIII(42)9
 あんしへ(按司部)〈名〉
 く—toの— V(14)16, V(23)26, VI(8)14
 VI(22)2, VII(4)26
 あんしをそひかなし(按司襲ひ加那志)〈名〉
 天つき王にせの— V(2)9
 い
 いきや(如何)〈副〉
 —て、 VII(24)23
 いきよく(動く)〈動〉
 —まし VII(32)2

- いくさ(軍)〈名〉
 — 勝ちよきのきちやることハ VII(22)20
- いけくすく(池城)〈名〉
 — の大やくもい IX(13)10
- いし(石)〈名〉
 — をはめ V(16)10
 — はめさせて、 VII(14)14
 — のさいくあつめ候て X(4)11
- 石かき(石垣)〈名〉
 御 — つみ申候時の VI(2)19
 御 — つみ申候。 VI(11)3
 御 — つみ申候あひたハ VI(32)5
 御くすくの御 — きよらさちよさあれとも
 VI(5)3
 御 — つませて VI(7)15
 御 — のねたてのふかさハ VI(11)13
 御 — の御くやうの VI(30)19
- いしふきやう(石奉行)〈名〉
 — 一人 IX(17)1
- 石ふきやう(石奉行)〈名〉
 — あたにや太郎 X(22)1
- い上(以上)〈名〉
 I(10)18
- いしらこ(石子)〈名〉
 — はましらは VII(11)14, VIII(21)15
- いたる(到る)〈動〉
 千年万年に — まで I(12)20
 わらへに — まで V(26)1
- 一日 〈名〉
 八月 — VI(14)18
 一人 〈名〉
 奉行 — V(33)5
 ふきやう — VII(38)5
 いしふきやう — IX(17)8
- 一はん(一番)〈名〉
 — のさとぬしへ III(13)20
 — のせい VII(25)23, VII(26)14, VII(27)2
- いちやちや(板門)〈名〉
 — けらへわちへ VI(20)2
- いちやわり(労り)〈名〉
 御 — ハ VIII(34)3
- いつ(何時)〈名〉
 — きやめむ VII(31)21, VII(42)14
 — までも VIII(43)5
- 五 〈名〉
 あつさハ — ひろ VI(12)7
- いぬたるかね(犬樽金)〈名〉
 きす、の大やくもい — V(31)14
- いのり(祈り)〈動〉
 — めしよハちやるけに VII(15)17, VIII(24)19
- いふ(言ふ)〈動〉
 へんのたけと — V(10)19
- いふ(言ふ)〈動〉
 — におよひ申さす。 X(7)24
- いへ(威部)〈名〉
 御くすくのうちほかの御 — VII(29)3
- いま(今)〈名〉
 むかし — の事を V(6)23
- 今 〈名〉
 昔今にも X(13)11
- いまきしん(今婦仁)〈名〉
 — 思ひとく X(20)1
- いよこと(異様事)〈名〉
 — のあら時や VII(25)2
- 入 〈動〉
 — 事あらは X(18)1
- いろいろ 〈名〉
 — のかさり物を X(10)13
- いわひ事(祝ひ事)〈名〉⇨ゆわい事
 御 — かきりなし。 V(5)25

う

う(卯)〈名〉

みつのとのお — V(19)13, V(20)15

うし(丑)〈名〉

みつのとのお — VII(8)13

うち 〈名〉

一七日の — に X(5)1

うちほか(内外)〈外〉

—の御いへひのかみ VII(28)24

うちま(内間)〈名〉

—の大やくもい VII(36)4

うへ(植へ)〈動〉

まつ — 申候ひのもん V(1)25

うへれ(植へれ)〈動〉

まつを — との御ミ事 V(13)22

うへれ(植へれ)〈動〉

まつを — は V(16)21

うらおそい(浦襲い)〈名〉 ⇔ うらおそひ

—のようとは IX(3)15

—よりしよりに IX(2)15

うらおそいまきり(浦襲い間切)〈名〉

—より IX(11)14

うらおそひ(浦襲ひ)〈名〉 うらおそい

—よりしよりに VII(4)17

うらおそひまきり(浦襲ひ間切)〈名〉

—の大やくもいた VII(36)4

え ナシ

お

御 〈接辞〉

-あそひ

—めしよわる V(11)20

-石かき

—つみ申候時の VI(2)8

御くすくの — きよらさちよさ VI(5)2

—つませてて VI(7)14

—つみ申候。 VI(11)2

—のねたてのふかさハ VI(11)12

—の御くやうの VI(30)18

この — つみ申候あひたハ VI(32)5

-一人

I(2)2, I(3)2, I(4)2, I(5)2

I(6)2, I(7)2, I(8)2, I(9)2

-いちやわり

—ハ VIII(34)2

-いへ

うちほかの — ひのかみ VII(29)2

-いわひ事

-かきりなし。 V(5)24

-おくり

—し申候。 X(6)23

-おもろ

—御たほいめしよわちや事 VI(20)27

VII(23)21

-かほう

—ねかひ申し候て VII(43)22

-くら

—ともにけらへ申候。 VI(13)9

-くすく

—の御石かき VI(4)25

—のこしあて VI(5)21

おらおそひの — VII(27)25

—のうちほかの VII(28)5

-城

しよりの — の御まふり VII(26)5

-くやう

—の御ゆわひ VI(30)24

- くらひ
王の—をつきめしよわちへ V(4)10
- くらみ
わうの—をつきめしよわちへ VII(4)2
- 五人
—に御給り候ほどに X(16)13
- さうせ
首里の御世の—のために III(12)2
首里の御世の—めしよわちへ VI(7)2
御世の—めしよハちへ VII(11)2
—めしよわちへ IX(4)21, IX(9)12
- さため
—めしよハやる VII(30)8
- 三人
ゑくか— X(16)5
- すきり
—めしよわちや事 X(2)8
- すし
—よりほかに X(17)11
- すゑ
この—千年万年に I(12)9
- せゝる
—御たほひめしよわちへ VI(16)2
- せち
—のミまふりめしよハるけに VII(21)23
- たかへ
—めしよわるもり V(9)6
—し申候。 V(26)15
—めしよわちや事 VII(29)11
- たて
—めされ候。 X(14)17
- たほい
御おもろ—めしよわちや事 VI(21)2
VI(28)26
- たほひ
御せゝる—めしよわちへ VI(16)7
- 給り
—候ほどに X(16)18
- ちやう
すゑつきの— VI(2)13
- ちよわい
—めしよハちゑ VII(28)6
—めしよわる VII(43)11
- ちよわひ
—めしよハちや事 VII(25)19
—めしよわに IX(7)22
- つかい
—のちいへい X(9)10
- とむらひ
—に X(10)6
- な
王の—をは V(5)1
わうの—をは VII(6)10
—ハのこらに IX(8)27
- のほり
—めしよわちへ VI(26)15
- はか
ゑそのてたの—やりよるけに IX(4)8
この—のさうちは X(11)4
ミいくに—けるへわちへ X(2)24
- はかところ
此—は X(15)3
- ほけ⇨ おほけ
日々のミ—ハ VI(32)24
- ほこり
—めしよわちや事 V(23)1
—めしよハちゑ VII(27)8
- ま入
ミはんの— VII(25)19
- まふり

- しより御城の—— VII(26)9
- ミ事
- しよりの—— I(11)11
- 首里天の—— V(1)6
- 国王の—— V(13)5
- ををかミ V(14)1
- み——ハ VII(30)20
- ミ——に VI(2)2
- あんしおそいかなし天のミ—— VI(4)21
- ミ——をかみ候て VI(7)26
- あんしおそひかなし天のミ—— VII(2)26
- 首里天のミ——に VIII(1)7
- あんしおそひかなし天のミ—— VIII(9)22
- ミ——おかみ申候。 IX(12)19
- ミ——をかミ申候ほとに X(3)20
- みつかい
- すれてて X(3)8
- ミ——めしよわちへ IX(6)17
- みつか井
- めしよわちへ VI(27)19
- ゆわい
- めしよわちや事 III(9)18
- はしくやうの——申候。 III(18)13
- めしよわちへ VI(20)15
- ゆわい事
- 千萬の——あり。 VIII(8)2
- ゆはひ⇨ およハひ
- めしよわちへ VI(28)9
- 申候。 VI(31)2
- 世
- の御さうせ VI(6)28, VII(24)2, VIII(10)25
- 代
- に II(1)14, V(8)21
- よひ
- めしよわちへ VIII(33)17, VIII(33)18
- わたり
- 候て御さ候間 X(9)21
- お <格助>
- ま玉はし——わたり III(15)6
- おかて(置かて) <動+接助>
- くすくつませてて—— VII(4)16
- おかて(拝で) <動+接助>
- ミはひ——あり。 VII(18)17
- おかミ(拝ミ) <動>
- 御はい——申候。 III(10)25
- ミはひ——めしよはる。 VII(17)12
- ミはい——申候。 VIII(30)16
- ミ御ミ事——申候。 IX(12)23
- おかむ(拝む) <動>
- やにおさためめしよハやる VII(30)2
- おきなハ(沖縄) <名>
- の天きや下ハ VII(21)2
- の天か下のあち VIII(40)6
- おきやか <名>
- よそひおとんの大あんし—— I(2)19
- おきやかもいかなし天(おきやか思い加那志天)
- <名>
- 首里の王の——のミ御ミ事に III(1)6
- おきやかもひかなし(おきやか思ひ加那志)
- <名>
- 首里——まあかとたる I(1)3
- おく(奥) <名>
- のミよ III(6)14
- おくのよ(奥の世) <名>
- ねん VII(12)25
- おくと(奥渡) <名>
- より上 VI(9)26, VI(23)5
- おくのミよ(奥の滞) <名>
- とよみもりよそいもり——くもことまりに
- III(6)14

- おくり(送り)〈名〉
 御—し申候。 X(6)24
 おさうせ(御了簡)〈名〉⇒御さうせ, さうせ
 御世の— VII(24)6
 おさまる(納まる)〈動〉
 このところに—へし。 I(13)14
 おさめ(治め)〈動〉
 —めしよわる事 V(7)15
 おしあけもり(押し上げ杜)〈名〉
 たひらもり— VII(2)8
 -おしられ 〈接辞〉
 大あんし—の X(15)15
 -おそい(-襲い)〈接辞〉⇒おそひ, をそひ
 あんし—かなし天の VI(1)17, VI(4)11
 あんし— IX(1)16
 あんし—かなしも IX(7)14
 あんし—かなしの X(1)15
 うら—よりしよりに IX(2)11
 うら—のようどれは IX(3)17
 うら—まきりより IX(11)16
 -おそひ(-襲ひ)〈接辞〉⇒おそい, をそひ
 あんし—かなし VI(27)11
 あんし—かなし天の VI(34)11, VII(42)12
 あんし—かなしの VII(2)17
 うら—まきり VIII(36)6
 大ちよもいかなし(大ちよ思い加那志)〈名〉
 —おやかなし IX(6)1
 おとちとの(おとち殿)
 —もいかね I(3)18
 おとん(御殿)〈名〉
 よそひ—の大あんし I(2)9
 おなこ(女)〈名〉
 大小のゑくか— VII(38)10
 わか人—わらへまでも VII(4)2
 —のおやかなしの X(1)23
 —御五人に X(16)9
 おひ人(老ひ人)〈名〉⇒ おゑ人
 —わか人めとも V(25)11
 おほ-(大-)〈接辞〉
 たひら—なハ VII(12)5
 大- 〈接頭〉
 よそひおとんの—あんしおきやか I(2)14
 —あんしおしられの X(15)11
 おほけ 〈名〉⇒御ほけ
 ミ—にあひ申候。 V(18)5, VII(35)3
 ミ—ハ VII(39)3
 大さと(大里)〈名〉
 しまおそい— III(14)17, VII(27)22
 —の大やくもい V(30)3
 大ぬし(大主)〈名〉
 なるやの—きみ—の VI(26)5
 おもひくわへ(思ひ子部)〈名〉
 —くに—のあんしへ V(23)13, VI(21)15
 大あんしおしられの— X(15)21
 おもひ事(思ひ事)〈名〉
 —ハ VII(41)13
 おもひ二ら(思二良)〈名〉
 なか城— X(2)9
 思ひとく(思徳)〈名〉
 いまきしん— X(20)7
 おもひふたかね(思二金)〈名〉
 とよみくすくのあんし— I(9)18
 おもろ 〈名〉
 御—御たほい VI(20)28, VI(28)22
 おやかなし(親加那志)〈名〉
 大ちよもいかなし— IX(6)10
 おなこの—の X(2)1
 大やくもい(大屋子思い)〈名〉
 あはこんの— IX(15)17
 いけくすくの— IX(13)17

- うちまの — VII(36) 9
 大きとの — V(30) 8
 おろくの — VII(41) 14
 かうちの — III(21) 22, VI(39) 11
 かつれんの — VII(39) 10
 かなくすくの — VII(42) 8
 かなはの — VI(38) 11
 かハかミの — VIII(52) 10
 きすゝの — V(31) 8
 きまの — VII(41) 24
 くすくまの — VII(35) 10, VIII(51) 10
 くにかみの — III(20) 23, VI(40) 12
 くにかみの — VI(40) 12, VIII(47) 10
 こちひらの — VII(37) 10, IX(16) 1
 たくしの — III(22) 23
 たまくすくの — IX(17) 18
 とよみくすくの — IX(14) 15
 とよミ城の — VIII(48) 10
 なこの — VIII(49) 8
 花くすくの — V(34) 9
 ミヤ平の — V(32) 8
 よむたもさの — IX(14) 1
 大やくもいた(大屋子思い達)〈名〉
 あすたへ — 里主へ V(15) 1, V(24) 6, VI(22) 7
 うらおそひまきりの — VIII(36) 14
 ミはんの — VI(8) 24, VIII(15) 7, VIII(32) 21
 およハひ(御祝ひ)〈名〉⇒御ゆわい, 御ゆわひ
 ちかための — VII(19) 24
 およひ(及び)〈動〉
 いふに — 申さす。 X(8) 1
 おらおそひ(浦襲ひ)〈名〉
 —の御くすく VIII(27) 19
 おりあけ(おり上げ)〈動〉
 くもこたけ世つきたけ — わちへ VI(17) 19
 あをりやたけ — わちへ VI(19) 2
 いしらこはましらこは — ハちへ VII(12) 2
 いしらこはましらこは — わちへ VIII(22) 2
 おれ(降れ)〈動〉 をれ
 きこゑ大ききみきみの — めしよわちへ III(4) 13
 おれる(降れる)〈動〉
 むまから — へし。 IV(1) 20
 おろく(小禄)〈名〉
 —の大やくもい VII(41) 9
 おゑか 〈名〉
 —をかみ申候。 VI(33) 16
 —たまわり申。 VIII(39) 14
 おゑか人 〈名〉
 ミヤこやへまの — VI(10) 13, VI(23) 22
 あくかへ — のろへ VIII(37) 7
 おゑ人(老ゑ人)〈名〉⇒おひ人
 けす — わか人 VIII(40) 23
 か
 -か 〈格助〉
 首里てた — すゑ VII(9) 5, VIII(42) 5
 てた — すゑ VIII(6) 17, IX(1) 9, IX(7) 7
 おきなハの天 — 下のあち VIII(40) 13
 かうち(河内)〈名〉
 —の大やくもい III(21) 17, VI(39) 6
 かきつけ(書き付け)〈名〉
 この — そむく人あらは I(16) 9
 かきのはなち(垣花地)〈名〉
 —にせいそろい III(15) 22
 —やらさもりくすくによりそろて VII(29) 2
 かきり(限り)〈名〉
 —なし。 V(6) 1, V(27) 17

かく(此く)〈副〉
—にて X(11)1
かくこ(恪護)〈名〉
ミつの—のために III(13)12
とまりの—のために VII(3)14
やらさもりくすくの— VII(40)11
ミつの—ハ VII(41)1
—するへし。 VII(43)1
かけ(架け)〈動〉
はし—させ VII(13)21
くもこはしミ物はし—よわちへ VIII(23)2
かさ(傘)〈名〉
さす—のあんし I(4)8
かさり物(飾り物)〈名〉
—をすゑ X(10)19
かす(数)〈名〉
ミ御ほけハ—しらす VI(33)2
ミおほけハ—しらす VII(39)8
嘉靖 〈名〉
—元年 III(3)1
—二十二年 V(19)1
大明—二十二年 V(28)3
—二十五年 VI(14)1, VI(36)3
—三十二年 VII(8)1
大明—三十三年 VII(33)3
かた(方)〈名〉
そんとんよりこの— V(3)25, VII(3)17
かたく(堅く)〈形〉
ちよく—かくこするへし VII(42)25
かちよく(海賊?)〈名〉
いくさ—の VII(22)24
かつれん(勝連)〈名〉
—の大やくもい VII(39)4
かなくすく(金城)〈名〉
—の大やくもい VII(42)1

-かなし(-加那志)〈接辞〉
あんし—も IX(7)17
あんしおそい—天の VI(1)20, VI(4)14
あんしおそい—の X(1)15
あんしおそひ— VI(27)14, VII(2)20
あんしおそひ—天の VI(34)14, VII(9)15,
VIII(42)15
あんしをそひ— V(21)15
おきやかもひ— I(1)9
大ちよもい— IX(6)6
おや— IX(6)12
おなこのおや—の X(2)3
きこゑ大きみ— VII(25)7
わう—む VII(17)3
わう—の VIII(27)3
王—ハ V(6)8
王にせ—は IX(2)4
かなそめはつまき(金染鉢巻)〈名〉
あすたへ—はうすた VII(32)2
かなは(我那覇)〈名〉
—の大やくもい VI(38)6
かなひ(叶ひ)〈動〉
ねかひ事— V(27)1
かに 〈副〉
—ある事は X(13)1
金 〈名〉
千りやうの—を V(17)29
千りやうの—よりも VII(34)16
かのへ(庚)〈名〉
—さる IX(19)9
かハかミ(河上)〈名〉
—の大やくもい VII(52)4
かはら(河原)〈名〉
たひらの— VII(12)15
かほう(果報)〈名〉

- 御——ねかひ申し候て VII(43)23
- かみ(神)〈名〉
- ひの—— VII(29)8
- ほとけの御あそひめしよわるところ
VI(11)12
- ほとけのをれめしよハちゑ VII(19)2
- 上 〈名〉
- おくとより—— VI(10)2, VI(23)11
- かみしも(上下)〈名〉
- ちはなれそろて VII(16)2
- かみしも(上下)〈名〉
- ちはなれそろて VII(5)22
- のあんしけす VII(17)21
- 上下 〈名〉
- こくより—— VI(9)21, VI(23)2
- から 〈格助〉
- むま——おれるへし。 IV(1)17
- むかし—— VII(22)17
- からめき 〈動〉
- ミちへ X(5)5
- ミはい——申候。 X(12)1
- からめく 〈動〉
- きよく——へしと IX(12)10
- からめちへ 〈動+接助〉
- ちはなれ——、くすくつみつけて VII(6)10
- き
- き(来)〈動〉
- いくさからちよくの——ちやることハ VII(23)2
- きこゑ大きみ(聞得大君)〈名〉
- のあんし I(3)6
- きみ \searrow V(11)1, VI(9)1
- きみ \searrow V(20)1, VI(15)1
- の御せちの VII(21)15
- きこゑ大きみ(聞得大君)〈名〉
- きみ \searrow III(4)1
- きこゑ大きみかなし(聞得大君加那志)〈名〉
- 玉うらおそひに御ちよわひ VII(25)1
- きすゝ(宜寿次)〈名〉
- の大やくもい V(31)3
- 吉日 〈名〉
- 六月大—— VII(33)12
- 八月大—— V(28)20
- 八月—— IX(19)17
- 九月大—— I(18)16, VII(45)18
- 甲 〈名〉
- 子 X(6)6, X(23)11
- きのと(乙)〈名〉
- のとり III(3)21
- きほくひり(儀保小坂)〈名〉
- まで VII(14)2
- きま(儀間)〈名〉
- の大やくもい VII(41)20
- きみ \searrow (君々)〈名〉
- きこゑ大きみ——の III(4)7
- にるやの大ぬし——の VI(26)9
- きみ \searrow (君々)〈名〉
- きこゑ大きみ—— V(11)7, V(20)7, VI(15)7, VI(9)7
- きや 〈格助〉
- おきなハの天——下ハ VII(21)9
- 天——すゑ X(1)7
- きやう(堯)〈名〉
- しゆんの御代ににたり。 V(8)12
- きやめ 〈副助〉
- しもしましり——の VII(28)17
- いつ——む VII(31)23, VII(42)16
- きよらく(清らく)〈形〉
- ミちは—— V(17)1
- ちよく——けらゑらしめしよわちへ IX(5)12

—からめくへしと IX(12)5
きよらさ(清らさ)〈名〉
御石かきの—ちよさあれとも VI(5)7
きん(金武)〈名〉
—のあんし I(8)6

く

くき(釘)〈名〉
たしきや— III(8)6, VII(14)6
九月 〈名〉
—大吉日 I(18)13, VIII(45)15
—三日 VI(25)3
くしかミ(具志頭)〈名〉
—まによこ X(19)10
くすく(城)〈名〉
御—の御石かき VI(4)26
御—のこしあて VI(5)22
御—のうちほかの御いへひのかみ VIII(28)19
—つませてて VII(4)6
—つみつけて VII(6)16
とよみ— III(12)24
やらさもり—に VII(29)14
やらさもり—のかくこ VII(40)6
おらおそひの御— VIII(27)26
城 〈名〉
しより御—の御まふり VII(26)6
くすくま(城間)〈名〉
—の大やくもい VII(35)4, VIII(51)4
くに(国)〈名〉
—のまたや III(7)7
—のあんしけす III(11)9
—のまたや VII(23)24
—のあらけすたミひやくしやうの VIII(10)2
—のあむた VIII(37)24

国 〈名〉
—のようし VII(3)2, VII(24)11
—のまたや VII(13)8
くにかみ(国頭)〈名〉
—の大やくもい III(20)17, VI(40)6
くにかミ(国頭)〈名〉
—の大やくもい VIII(47)4
国かミ(国頭)〈名〉
—まさふろ X(19)20
くにし(国々)〈名〉
—のあんしへ V(14)10, V(23)20, VI(8)8
VI(21)22, VII(4)20
—のあちへ VIII(31)4
国中 〈名〉
—の僧侶 X(7)8
九日 〈名〉
四月— III(3)18
九人 〈名〉
い上— I(10)21
くひり(小坂)〈名〉
きほ—まで VIII(14)4
くま(此処)〈名〉
—にて IV(1)10
くもこたけ(雲子獄)〈名〉
—世つきたけおりあけわちへ VI(17)7
くもことまり(雲子泊)〈名〉
—に III(6)20
くもこはし(雲子橋)〈名〉
—ミ物はし VIII(22)18
くやう(供養)〈名〉
はし— III(18)8
御—の御ゆわひ VI(30)25
くら(蔵)〈名〉
御—ともに VI(13)12
くらひ(位)〈名〉⇨くらみ

玉の御——をつきめしよわちへ V(4)11
くらみ(位)〈名〉⇒くらひ
わうの御——をつきめしよわちへ VIII(4)3
くるく(「狂う」か)〈動〉
——まし VII(32)9
くわ(子)〈名〉
おもひ——へ VI(2)18, X(15)24
月 〈名〉
五——四日 VII(8)17
六——二十四日 V(19)16
六——大吉日 VII(33)10
八——大吉日 V(28)18
八——吉日 IX(19)16
八——一日 VI(14)17
八——十二日 VIII(18)17
九——大吉日 I(18)14, VIII(45)16
九——三日 V(25)4
十——六日 X(6)10
十—— X(23)15
十二——三十日に VI(36)18
官人 〈名〉
代の——の X(11)9
元年 〈名〉
嘉靖—— III(3)3

け

敬白

石ふきやうあさにや太郎—— X(22)14
けす(下司)〈名〉
あんし——のため III(11)17
あんしも——も IV(1)6, X(17)26
かみしものあんし—— VII(18)2
くにのあち——たみひやくしやうの VIII(10)9
あち——そろて VIII(30)5

天か下のあち—— VII(40)20
けに 〈接助〉
ふかさある—— V(12)26, VIII(13)15
ありたる—— VI(6)21
いのりめしよわちやる—— VII(15)28, VIII(24)29
ミまふりめしよはる—— VII(22)11
やりよる——てて IX(4)16
けらへ——あくかへ(家来赤頭)〈名〉
里主へ—— V(15)12, V(24)17, VI(22)18
里ぬしへ—— VI(9)7
さとぬしへ—— VI(5)13, VIII(15)19, VIII(33)8
VII(36)27
けらへ(造へ)〈動〉
いちやちや——わちへ VI(20)8
——わちへてて VIII(24)10
御はか——わちへ X(3)1
国のまでや——はちへ VII(13)16
御くらともに——申候。 VI(13)16
首里もりまたまもり——て VI(17)2
けらゑらし(造らゑらし)〈動〉
ちよくきよらく——めしよわちへ IX(5)17

こ

弘治 〈名〉

——十四年 I(18)8

こく(此処)〈名〉

——より上下 VI(9)16, VI(22)27

こく(国)〈名〉

りうきう——ちうさんわう VIII(2)11

国 〈名〉

大りうきう—— V(3)6

琉球—— VII(1)4

りうきう IX(1)5

国王 〈名〉

—の御ミ事に V(13)1
五月〈名〉
—四日 VII(8)16
于
—時大明天啓四年 X(23)1
こころ(心)〈名〉
—一にあわせ V(15)21
御さ候〈動〉
御わたり候て—間 X(10)1
こしあて(腰当て)〈名〉
御くすくの— VI(5)27
世の—あをりやたけ VI(18)13
こちひら(東風平)〈名〉
—の大やくもい VII(37)4, IX(15)23
こと(事)〈名〉
きちやる—ハなきやもの VII(23)7
事〈名〉
むかしいまの—を V(6)27
おさめめしよわる— V(7)24
よろこひたのしむ—かきりなし。 V(27)15
かにある—は X(13)7
入—あらは X(18)2
こと〈接助〉
めしよわちや— K(3)12
事〈接助〉
めしよハちや— VIII(26)8
めしよわちや— III(9)29, V(23)11, VI(21)13,
VI(29)8, VIII(5)13, VIII(29)21,
X(2)18
ことは(言葉)〈名〉
此オミの—ハ III(19)11
五人〈名〉
ゑくか御— X(16)14
この(此)〈名+格助〉
—御石かき VI(32)1

—御すゑ I(12)6
—御はかの IX(11)1
—かきつけ I(16)6
そんとんより—かた V(3)23, VIII(3)15
—すみ I(15)6, IX(18)1
—ところに I(13)6
—はしハ III(11)2
—ひのもんハ IX(9)25
此〈名+格助〉
—御すしより X(17)9
—御はかところは X(15)1
—くすく III(13)4
—オミのことは III(19)5
このミ(工ミ)〈動〉
国のまでやけらへハちへ—よハちへ
VII(13)21
くにのまでや—よわちへけらへわちへてて
VII(24)2
これ〈名〉
—ハ V(10)22
こゑく(越来)〈名〉
—のあんし I(7)6
さ
さ(歳)〈名〉
とも>ととひやく—と VI(34)29
-さ〈接辞〉
きよら—VI(5)10
ちよ—VI(5)14
ふか—V(12)22, VI(11)25, VIII(13)11
さいく(細工)〈名〉
石の—あつめ候て X(4)14
さいもん(祭文)〈名〉
—よミ候て X(11)13

さうせ(想思)〈名〉
世の御—のために III(12)3
御—めしよわちへ VI(7)3, IX(4)22, IX(9)
13
御世のお— VII(24)7
御—めしよハちへ VII(11)3
さうち(掃除)〈名〉
御はかの—ハ IX(11)9
さし(刺し)〈動〉
たしきやくきつい—よハちへ VII(4)11
たしきやくきつ—よわちへ III(8)10
さしき(佐敷)〈名〉
ちへねん—わ III(14)26
ちへねん—しもしましり VII(28)7
さす(差す)〈動〉
—かさのあんし I(4)6
させ(助動)
はしかけ— VII(13)23
いしはめ—て、 VII(14)18
さため(定め)〈動〉
お—めしよハやる VII(30)9
さつけ(授け)〈動〉
—めしよわちへ V(5)14
里主 〈名〉
しやなの— VI(42)11
花くすくの— VI(43)12
まふにの— VI(44)11
さとぬしへ(里主部)〈名〉
千人の—あくかへ III(10)6
—はんの— III(13)25
みはんの— VII(5)7
ミはんの大やくもいた— VII(15)14, VII(33)2
うらおそひまきりの大やくもいた— VII(36)

21

里ぬしへ(里主部)〈名〉

大やくもいた— VI(9)2
里主へ(里主部)〈名〉
大やくもいた— V(15)8, V(24)13, VI(22)14
さととり(悟り)〈動〉
—めしよわちへ V(7)1
候 〈補動〉
—て
あかめたてまつり— III(17)22
あつめ— X(4)21
御わたり— X(9)25
よミ— X(11)20
ねかひ申し— VII(44)7
ミ御ミ事をかミ— VI(8)5
—。
御たてめされ— X(14)22
申—。
ミおほけにあひ— V(18)13, VII(35)11
おかみ— VII(30)20, IX(12)27
おかミ— III(10)29
御ゆわい— III(18)19
御ゆわひ— VI(31)7
からめき— X(12)6
けらへ— VI(13)20
御おくりし— X(6)30
御たかへし— V(26)22
十二月三十日にしるし— VI(36)28
御せゝるたまわり— III(5)11
御石かきつみ— VI(11)10
ミはいをかみ— VI(24)17, VI(29)22,
VI(35)9
おゑかをかみ— VI(33)20
ミはいをかミ— V(25)9, VII(44)26
—(十名詞)

御わたり候て御さ—間 X(10)3
あるましく—ほとに X(13)20

御給り——ほとに X(16)21
申——(十名詞)
つみ——あひたハ VI(32)12
つみ——時の VI(2)26
わたり——時に II(2)9
わたし——時のひのもん III(2)15
うへ——ひのもん V(1)28
たて——ひのもん II(2)17
をかミ——ほとに X(4)5
さる(申)〈名〉
かのへ—— IX(19)12
されは 〈接〉
——嘉靖二十二年 V(18)15
三十
二百——ひろに VI(12)25
三十三天 〈名〉
天—— III(17)2
三十二年 〈名〉
嘉靖—— VII(8)3
三十三年 〈名〉
嘉靖—— VII(33)5
三十日 〈名〉
十二月——に VI(36)19
三日 〈名〉
九月——ひのととのみのへに VI(25)5
三人 〈名〉
——の世あすたへ III(19)16
世あすたへ—— V(29)8, VI(37)10, VII(34)8,
VII(46)9, IX(13)7, X(19)7
奉行—— VI(41)7
——おろくの大やくもいきまの大やくもい
かなくすくの大やくもい VII(41)6
ゑるか御—— X(16)6
三百人 〈名〉
——そうたち III(17)25

し
し(為)〈動〉
御おくり——申候。 X(6)28
御たかへ——申候。 V(26)20
しかれは 〈接〉
御代ににたり。—— V(9)1
御ゆわい事あり。—— VII(8)11
四月 〈名〉
——九日 III(3)16
四十八年 〈名〉
萬曆—— IX(19)4
下 〈名〉
おきなハの天きや——ハ VII(21)12
天か——のあちけす VII(40)14
十 〈名〉
二百三——ひろに VI(12)26
十月 〈名〉
——六日 X(6)9
甲子冬—— X(23)14
一七日 〈名〉
——のうちに X(4)24
しほたるかね(小樽金)〈名〉
かなハの大やくもい—— VI(33)17
くにかみの大やくもい—— VI(40)18
十二月 〈名〉
——三十日にしるし申候。 VI(36)16
十二日 〈名〉
八月—— VIII(18)18
十八天 〈名〉
地は—— III(17)10
十四年 〈名〉
弘治—— I(18)10
しま(島)〈名〉
——ともにミはいをかみ申候 VI(24)2

—のあすた VII(37)16
 しまおそい(島襲い)〈接辞〉
 —大きと III(14)12, VII(27)17
 しましり(島尻)〈名〉
 下— III(15)13
 しも— VII(28)13
 しまよ(島世)〈名〉
 ミ—にん III(9)3, VII(12)19, VII(23)18
 しま世(島世)〈名〉
 —のてやちきやら VII(30)25
 しめさし 〈動〉
 およハひ—よハる。 VII(20)2
 しも(下)〈名〉
 かミ—のあんしけす VII(17)23
 かみ—ちはなれそろて VIII(16)4
 下 〈名〉
 こくより上— VI(9)19, VI(23)3
 しもしましり(下島尻)〈名〉
 ちへねんさしき— VII(28)11
 下しましり(下島尻)〈名〉
 —ともに III(15)12
 小 〈名〉
 大—のゑくかおなこ VII(38)3
 正月 〈名〉
 ほん—まゑに IX(11)28
 尚清 〈名〉
 中山王—ハ V(3)12
 琉球国中山王— VII(2)1
 しゃうねい(尚寧)〈名〉
 ちうさんわう—ハ VIII(3)1
 しやな(謝名)〈名〉
 —の里主 VI(42)6
 しゆる(為ゆる)〈動〉
 のこらに—てて IX(9)6
 しゆん(舜)〈名〉
 きやう—の御代に V(8)16
 しより(首里)〈名〉
 —の御ミ事 I(11)6
 うらおそひより—に VIII(4)25, IX(2)17
 首里 〈名〉
 —の王 III(1)1, VI(1)1, X(1)1
 —の御世の御さうせ VI(6)24
 首里おきやかもいかなし(首里おぎやか思い加那志)〈名〉
 —の御代に II(1)1
 首里おきやかもひかなし(首里おぎやか思ひ加那志)〈名〉
 —まあかとたる I(1)1
 しより御城(首里御城)〈名〉
 —の御まふり VII(28)2
 首里てたかすゑ(首里てだが末)〈名〉
 —あんしおそひかなし天の VIII(9)1, VIII(42)1
 首里天 〈名〉
 —の御ミ事 V(1)1
 —のミ御ミ事 VIII(1)1
 首里天つき(首里天継ぎ)〈名〉
 —のあんしおそいかなし天の VI(4)1
 —のあんしおそひかなし VI(27)1
 —のあんしおそひかなし天の VI(34)1
 首里もり(首里杜)〈名〉
 —またまもりけらへて VI(15)19
 しら(知ら)〈動〉
 ミ御ほけハかす—す VI(33)4
 かす—すおゑかたまわり申。 VIII(39)10
 しるし(記し)〈動〉
 十二月三十日に—申候。 VI(36)24
 しるへ(標)〈名〉
 —のために X(14)1

す

-す 〈助動〉

およひ申さ——。 X(8) 6

かすしら——。 VI(33) 6

かすしら——おゑかたまわり申。 VIII(39) 12

すきり(過ぎり)〈動〉

御——めしよわちや事 X(2) 9

すし(筋)〈名〉

御——より X(17) 12

——のミち V(17) 15

すゝし(涼し)〈形〉

まつハ—— V(17) 10

すへ(末)〈名〉 ⇨すゑ

——まさる王にせかなしは IX(1) 20

すみ(墨)〈名〉

此——のことハ III(19) 7

すみ(墨)〈名〉

この——見るへし。 I(15) 9

この——のあさくならは IX(18) 4

する(為る)〈動〉

かくこ——へし。 VII(43) 5

すれ(為れ)〈動〉

御ミつかい——てて X(3) 14

すゑ(末)〈名〉 ⇨すへ

この御—— I(12) 10

ともゝ—— VII(16) 6

てたか—— VIII(6) 18, IX(1) 10, IX(7) 8

——まさるわうにせてて VIII(7) 2

首里てたか—— VIII(9) 6, VIII(42) 6

天きや—— X(1) 9

すゑ(据ゑ)〈動〉

かさり物を—— X(10) 25

すゑつき(添継)〈名〉

——の御ちやう VI(2) 7

——のミ物 VI(19) 18

せ

せい(勢)〈名〉

——そろい III(16) 2

——はんのせいや VII(25) 28, VII(26) 19

——はんの—— VII(27) 7

しもしましりきやめの——や VII(28) 22

せいいくさ(勢軍)〈名〉

——よせらやいてゝと VII(16) 9

せち(靈力)〈名〉

きこゑ大きみの御——の VII(21) 24

千代 〈名〉

——萬代なるまでも IX(8) 15

千人 〈名〉

——のさとぬしへあくかへ III(10) 2

千年 〈名〉

——万年にいたるまで I(12) 13

——萬年までも X(17) 1

千万 〈名〉

——のミはひ VII(18) 9

千萬 〈名〉

——の御ゆわい事 VIII(7) 24

千りやう(千両)〈名〉

——の金を V(17) 23

——の金よりも VIII(34) 10

そ

そうたち(僧達)〈名〉

三百人—— III(18) 1

ちやうらう——そろて VI(30) 9

そうふきやう(総奉行)〈名〉

——二人 IX(15) 1

総奉行 〈名〉
— なか城おもひ二ら X(2)1
僧侶 〈名〉
国中の— めとも X(7)12
そむく(背く)〈動〉
このかきつけ— 人あらは I(16)14
そめ(染め)〈接辞〉
かな— はつまき VII(32)4
-そろい(-揃い)〈接辞〉
せい— III(16)4
そろて(揃て)〈動+接助〉
さとぬしへあくかへ— III(10)17
けらへあくかへ— V(24)26
大小の人々— VI(10)25
— ミはいをかみ申候。 VI(29)10
ちやうらうそうたち— VI(30)14
ちはなれ— VII(6)6, VIII(16)13
あんしけす— VII(18)5
あちけす— VII(30)8
ちやうらうはうすた— VII(19)14
そろへ(揃へ)〈動〉
ちからを— V(16)6
そんとん(尊敬)〈名〉
— よりこのかた V(3)16, VII(3)8
た
-た(-達)〈接辞〉
あす— VII(37)22
あむ— VII(37)30
大やくもい— V(15)6, V(24)11, VI(8)29,
VI(22)12, VII(15)12, VII(32)26,
VII(36)19
ちやうらう— VII(31)19
はうす— VII(19)12, VII(32)14

大-〈接辞〉
八月— 吉日 V(28)19
六月— 吉日 VII(33)11
九月— 吉日 I(18)15, VII(45)17
— 明 I(18)6, V(28)1, VII(33)1, X(23)3
— りうきう国 V(3)1
代 〈名〉
二十一— の王の V(4)4
二十四— のわうの VII(3)23
千— 萬代なるまでも IX(8)16
千代萬— なるまでも IX(8)19
大小 〈名〉
— の人々 VI(10)18
— のゑくかおなこ VII(38)2
たいへいけう(太平橋)〈名〉
— たいらはし VII(1)12
たいり(内裏)〈名〉
— より V(9)22
唐 〈名〉
— より X(9)6
たかへ(崇べ)〈動〉
御— めしよわるもり V(9)7
御— し申候 V(28)16
御— めしよわちや事 VII(29)12
たくし(沢岨)〈名〉
— の大やくもい III(22)18
たけ(丈)〈名〉
— 八十ひろ VI(12)11
たけ(嶽)〈名〉
へんの— V(10)15
くもこ— VI(17)10
世つき— VI(17)16
あをりや— VI(18)23
たしきやくき(だしきや釘)〈名〉
— つたしよわちへ III(8)2

—ついさしよハちへ VII(14)2
たたる(崇る)〈動〉
—へし。 I(17)21, X(18)22
-たち(-達)〈接辞〉
そう— III(18)3
たて(建て)〈動〉
—申候ひのもの II(2)14
このひのものハ—めしよわちやる。 IX(10)5
ひのもの御—めされ候。 X(14)18
たてまつり(奉り)〈補助動〉
あかめ—候て III(17)17
たのしむ(楽しむ)〈動〉
よろこひ—事かきりなし。 V(27)10
たひら(平良)〈名〉
—のかはら VIII(12)10
たひらおほな(平良大庭)〈名〉
—ハたひらのかはら VIII(12)2
たひらはし(平良橋)〈名〉
たいへいけう— VIII(1)19
たひらもり(平良杜)〈名〉
—おしあけもり VIII(2)2
たほひ 〈名〉 ⇨たほひ
御おもしろ御—めしよわちや事 VI(21)3,
VI(28)27
たほひ 〈名〉 ⇨たほひ
御せゝる御—めしよわちへ VI(16)8
給り 〈動〉
御—候ほとに X(16)19
玉うらおそひ(玉浦襲ひ)〈名〉
—に御ちよわひ VIII(25)11
たまくすく(玉城)〈名〉
—の大やくもい IX(17)11
たまわり(賜り)〈動〉
御せゝる—申候。 III(5)6
おゑか—申。 VIII(39)18

たミひやくしやう(民百姓)〈名〉
—のため VIII(10)12
ため(為)〈名〉
くにのあんしけすの— III(11)21
たミひやくしやうの— VIII(10)22
御させの—に III(12)8
みつかくこの—に III(13)16
とまりのかくこの—に VII(3)19
国のようしの—に VII(24)19
しるへの—に X(14)7
太郎 〈名〉
石ふきやうあたにや— X(22)11
-たり 〈補助動〉
きようしゆんの御代にに—。 V(8)26
たるかね(樽金)〈名〉
かうちの大やくもい— VI(39)17
たるかねもい(樽金思い)〈名〉
—たくしの大やくもい III(22)11
ち
ち(地)〈名〉
—にふして I(17)14
地 〈名〉
—は十八天 III(17)7
—にふして X(18)15
ち(来)〈動〉
玉うらおそひに御—よわひ VIII(25)20
御—よわいめしよハちゑ VIII(28)7
いつまでも御—よわいめしよわる VIII(43)12
御—よわひめしよわに IX(7)23
ちいへい(指揮)〈名〉
御つかいの— X(9)16
ちうさんわう(中山王)〈名〉
りうきうこく—しやうねいハ VIII(2)14

中山王 〈名〉
 大りうきう国——尚清ハ V(3)8
 琉球国——尚清 VII(1)6
 ちかため(地固め)〈名〉
 ——のおよハひ VII(19)18
 ちから(力)〈名〉
 ——をそろへ V(16)1
 ち金丸(冶金丸)〈名〉
 ミヤこより——ミこしミ玉の II(1)24
 ちきやら(力)〈名〉
 しま世のてや—— VII(31)4
 ちはなれ(地離れ)〈名〉
 ——そろて VII(5)27, VIII(16)7
 -ちへ 〈接辞〉⇔——ちゑ, ——て
 -めしよわ——
 あわし—— V(22)26
 御のほり—— VI(23)23
 御よひ—— VIII(33)24, VIII(38)25
 おれ—— III(4)19
 さつけ—— V(5)21
 さとり—— V(7)8
 つき—— V(4)22, VIII(4)14
 つけ—— VIII(7)21
 をれ—— V(20)19, VI(15)19, VII(9)19
 -よわ——
 かけ—— VII(23)6
 けらゑらし—— IX(5)26
 このミ—— VIII(24)7
 つかし—— III(7)27
 つさし—— III(8)14
 めし—— V(22)12, VI(7)11, VI(15)16,
 VI(20)23, VI(28)6, VI(28)18,
 IX(5)5, IX(6)27, IX(9)21
 わたし—— III(7)19, VIII(23)14
 -よハ——
 このミ—— VII(13)26, VII(14)15
 めし—— VIII(11)11
 -わ——
 おりあけ—— VI(17)24, VI(19)7
 けらへ—— VI(20)12, VIII(24)14, X(3)5
 つミあけ—— VI(18)7, VI(19)15
 ととめ—— III(8)27
 とゝめ—— VII(14)28
 -ハ——
 おりあけ—— VII(12)7
 けらへ—— VII(13)18
 つミあけ—— VII(12)15
 からめ—— VII(6)13
 からめきミ—— X(5)10
 つみみ——て VI(13)5
 ちへねん(知念)〈名〉
 ——さしきわ III(14)21
 ——さしきしもしましり VIII(28)2
 -ちや 〈接辞〉
 -めしよわ——
 御すきり——事 X(2)16
 御たかへ——事 VIII(29)19
 御ほこり—— V(23)9
 てりあかり——事 VII(5)11
 てりあかり——こと IX(3)10
 めしよハ——事 VIII(26)6
 めしよわ——事 III(9)27, VI(21)11, VI(29)6
 ちや(門)〈名〉
 いちや——けらへわちへ VI(20)5
 ちやう(門)〈名〉
 すゑつきの御—— VI(2)14
 ちやうらう(長老)〈名〉
 ——そうたちそろて VI(30)3
 ——はうすたそろて VII(19)3
 ちやうらうた(長老達)〈名〉

くに∟のあちへ——あすたへ VII(3)14
 -ちやる〈接辞〉
 いのりめしよわ——けに VII(15)25, VII(24)26
 き——ことハ VII(23)3
 たてめしよわ——。 IX(10)11
 めしよは——ミせゝるに VIII(19)28
 めしよわ——ミせせるに VII(10)6
 -ちやれ〈接辞〉
 くすくつみつけてみおやし——は VII(7)6
 ちよ 〈名〉
 大——もいかなし IX(6)2
 ちよく(強く)〈形〉
 いくさか——のきちやることハ VII(22)25
 ——かたくかくこするへし。 VII(42)21
 ——きよらくけらゑらし IX(5)8
 ちよさ(強さ)〈名〉
 御石かききよらさ——あれとも VI(5)12
 -ちゑ〈接辞〉 ⇨ちへ, -て
 おほこりめしよハ—— VIII(27)16
 めしよハ—— VII(28)15
 をれめしよハ—— VIII(19)15
 つ
 ついさし(突刺し)〈動〉 ⇨つさし
 たしきやくき——よわちへ VII(14)9
 つかい(遣い)〈名〉 ⇨つかひ, つか井
 ミ御ミ——すれてて X(3)10
 御ミ——のちいへい X(9)11
 つかし(着かし)〈動〉
 ま玉はしくにのまたやわたしよわちへ——
 よわちへ III(7)22
 つかひ(遣ひ)〈名〉 ⇨つかい, つか井
 ミ御ミ——めしよわちへ V(22)4
 つか井(遣ひ)〈名〉 ⇨つかい, つかひ

ミ御ミ——めしよわちへ VI(27)21
 つき(継ぎ)〈動〉
 御くらひを——めしよわちへ V(4)16
 御くらゐを——めしよわちへ VIII(4)8
 月と 〈名〉
 ——におゑかをかみ申候。 VI(33)8
 つくり(造り)〈動〉
 ミち—— III(2)4
 みち—— V(1)18
 ミちを—— V(13)14
 つけ(付け)〈動〉
 すゑまさるわうにせてて——めしよわちへ
 VIII(7)15
 -つけ(-付け)〈補助動〉
 くすくつミ——て VII(6)22
 ミちはしつミ——て VIII(16)24
 つさし(突刺し)〈動〉 ⇨ついさし
 たしきやくき——よわちへ III(8)9
 つち(土)〈名〉
 とろ——ふかさあるけに V(12)17
 とろ——ミつのふかさあるけに VIII(13)2
 つち(頂)〈名〉
 世の——に VIII(28)2
 つちのと(己)〈名〉
 ——のとりのへに VII(8)21
 ——のミのへに VIII(18)22
 つませ(積ませ)〈動〉
 御石かき——てて VI(7)19
 くすく——てておかて VII(4)10
 つミ(積ミ)〈動〉
 なけハ二百三十ひろに——みちへて VI(13)2
 御ちやう御石かき——申候時の V(2)23
 御石かき——申候。VI(11)7
 この御石かき——申候あひたハ VI(32)9
 くすく——つけて VIII(6)20

くもこたけ世つきたけおりあけわちへ——あ
けわちへ VI(18)2

あをりやたけおりあけわちへ——あけわちへ
VI(19)10

いしらこはましらこはおりあけハちへ——あ
けハちへ VII(12)10

いしらこはましらこはおりあけわちへ——あ
けわちへ VIII(22)10

たいらはし——申時のひのもん VII(1)25

ミちはし——つけて VIII(16)22

て

て(手?)<名>

しま世の——やちきやら VII(31)2

て <接助>

ひかしにあたり—— V(10)9

くすくつませてておか—— VII(4)18

はめさせてゝをか—— VIII(14)25

ミはひおか——あり。 VII(18)19

からめきミちへ—— X(5)12

首里もりまたまもりけらへ—— VI(17)5

あかめたてまつり候—— III(17)23

あつめ候—— X(4)22

御わたり候——御さ候間 X(9)26

ねかひ申し候——よるもひるも VIII(44)8

よミ候—— X(11)21

ミ御ミ事をかミ候—— VI(8)6

千人のさとぬしへあくかへそろ—— III(10)19

けらへあくかへそろ—— V(24)28

大小の人々そろ—— VI(10)27

そろ——ミはいをかみ申候。 VI(29)12

ちやうらうそうたちそろ—— VI(30)16

ちやうらうはうすたそろ—— VII(19)16

ちはなれそろ—— VII(6)8, VIII(16)15

あんしけすそろ—— VII(18)7

あちけすそろ—— VIII(30)10

御石かきつませ—— VI(7)22

くすくつみつけ—— VII(6)24

ミちはしつミつけ—— VIII(16)26

なけハ二百三十ひろにつみみちへ—— VI(13)7

まうはら—— VII(15)7

みよはら——てゝ VII(15)14

よりそふ—— VII(29)23

ちにふし—— I(17)19

地にふし—— X(18)20

かくに—— X(11)4

ていわう(帝王)<名>

もろこしの—— V(8)7

てた <名>

——かすゑあんしおそひ VIII(6)15

首里——かすゑあんしおそひかなし天の
VIII(9)3, VIII(42)3

——かすゑあんしおそい IX(1)7

ゑその——の御はか IX(4)4

——かすゑあんしおそいかなしも IX(7)5

てて <接助>

御ミつかいすれ—— X(3)16

やりよるけに—— IX(4)18

わうにせ——つけめしよわちへ VIII(7)12

てゝ <接助>

けらへわちへ——いのりめしよわちやるけに
VIII(24)16

のこらにしゆる—— IX(9)9

ミしまよねんみくによねん—— III(9)15

いきや—— VII(24)26

はめさせ——をかて VIII(14)20

みよはらて—— VII(15)15

よせらやい——と VII(16)19

てにつきわうにせ(天継ぎ王にせ)<名>

—のあんしおそひかなしの VII(2)4
てりあかり(照り上がり)〈動〉
しよりに—めしよわちや事 VIII(5)2
しよりに—めしよわちやこと IX(3)1
てん(天)〈名〉
—にあをき I(17)6
—よりわうの御なをは VIII(6)1
天 〈名〉
—より王の御なをは V(4)25
おきなハの—きや下ハ VII(2)8
—きやすゑあんしおそひかなしの X(1)6
—にあふき X(18)8
—三十三天 III(17)1
-天 〈接辞〉
あんしおそひかなし—の VI(1)23, VI(4)17
あんしおそひかなし—の VIII(2)18
三十三— III(17)5
十八— III(17)12
天下 〈名〉
—をおさめめしよわる事 V(7)11
天啓 〈名〉
—四年 X(6)1
大明—四年 X(23)5
天つき(天継ぎ)〈名〉
首里—のあんしおそひかなし天の VI(4)3
天つき王にせ(天継ぎ王仁世)〈名〉
御なをは—とさつけめしよわちへ V(5)6
—のあんしをそひかなし V(2)1
—のあんしおそひかなし VI(1)6
と
十 〈名〉
たけハ—ひろ VI(12)15
-と 〈格助〉

此くすく—ミつのかくこのために III(13)7
御なをは天つき王にせ—さつけめしよわちへ V(5)12
へんのたけ—といふ。 V(10)17
ともゝととひやくさ—ミはいをかミ申候。
VI(34)30
まつをうへれ—の御ミ事をかミ V(13)25
あにあれば— X(8)13
からめくへし—ミ御ミ事おかみ申候。
X(12)16
と 〈副助〉
せいくさよせらやいてゝ—……おかみめしよはる。 VII(16)21
御さうせめしよわちへ—このひのもんハたてめしよわちやる。 X(9)23
時 〈名〉
まうはらいの—に III(4)29
まうはらへの—に VI(15)29
いよことのあら—や VII(25)11
あめふる—ハ V(12)11
雨ふる—ハ VIII(12)24
たいらはしつミ申—のひのもん VIII(1)29
御ちやう御石かきつみ申候—のひのもん
VI(2)28
はしわたし申候—のひのもん III(2)17
ち金丸ミこしミ玉のわたり申候—にたて申候ひのもん II(2)11
—大明天啓四年 X(23)2
と(年)〈名〉
ともゝ—とひやくさと VI(34)23
ところ(所)〈名〉
この—に I(13)9
御あそひめしよわる— V(12)1
とし(年)〈名〉
ミつのへむまの— III(3)13

年 〈名〉

ひのへむまの—— VI(14)14

ととめ(留め)〈動〉

あさかかね——わちへ III(8)23

ととめ(留め)〈動〉

あさかかね——はちへ VII(14)24

とひやく(十百)〈名〉

ともと——さと VI(34)25

とまり(泊)〈名〉

——のかくこのために VI(3)9

とむらひ(弔ひ)〈名〉

御——にいろいろのかさり物をすゑ X(10)7

-とも(-共)(接辞)

おひ人わか人め——わらへにいたるまで

V(25)20

僧侶め——わらへのいふにおよひ申さす。

X(7)6

-とも 〈接助〉

きよらさちよさあれ—— VI(5)18

なきやものやれ—— VII(23)19

ともに(共に)〈副〉

下しましり——かきのはなちにせいそろい

III(15)18

しま——ミはいをかみ申候。 VI(24)5

大小のゑくかおなこ——御よひめしよわちへ

VIII(33)14

ともに(共に)〈副〉

御くら—— VI(13)14

ともと(十百)〈名〉

——ととひやくさと VI(34)20

——すゑ VII(16)2

とよみくすく(豊見城)〈名〉

——のあんし I(9)6

——の大やくもい IX(14)7

とよみくすく(鳴響み城)〈名〉

——のあんし I(9)6

——の大やくもい IX(14)7

とよみくすく(鳴響み城)〈名〉

ねたてひかわ又—— III(12)21

とよみ城(豊見城)〈名〉

——の大やくもい VII(48)4

とよみもり(鳴響み杜)〈名〉

——よそいもり III(6)2

とり(酉)〈名〉

きのとの——のへに III(3)25

つちのとの——のへに VII(8)26

ひのとの—— V(19)26, VIII(18)13, VIII(45)12

みつのとの——のへに VI(14)25

とろ(泥)〈名〉

——つちふかさあるけに V(12)14

——つちみつのふかさあるけに VIII(12)27

な

な(名)〈名〉

王の御——をは V(5)2

わうの御——をは VII(6)11

御——ハのこらに IX(8)28

な(庭)〈名〉

たひらなほ——ハ VII(12)7

なか城(中城)〈名〉

——おもひ二ら X(21)5

中くすく(中城)〈名〉

——のあんし I(5)6

-なから 〈接助〉

むまれ——むかしいまのことを V(6)16

なき(無き)〈形〉

きちやることハ——やもの VII(23)11

なけ(長)〈名〉

——ハ二百三十ひろに VI(12)19

なこ(名護)〈名〉

—の大やくもい VIII(49)4

なし(無し)〈形〉

かきり— V(6)4, V(27)20

なは(那覇)〈名〉

—のはん VII(26)23

なら(成ら)〈動〉

あさく—はほるへし。 IX(18)12

なる(成る)〈動〉

千代萬代—までも IX(8)21

なを(猶)〈副〉

金よりも—まさりの VIII(34)21

に

に(似)〈動〉

きようしゆんの御代に—たり。 V(8)25

に〈助動〉

ひとへ—ありたるけに

かく—て X(11)3

二百〈名〉

なけハ—三十ひろに VI(12)23

に〈格助〉

(時)

千年万年—いたるまで I(12)18

のち— I(14)11

御代— II(1)16

わたり申候時— II(2)12

まうはらいの時— III(4)30

まうはらへの時— VI(15)30

きのとのとりのへ— III(3)29

ひのとのとりのへ— V(19)30

ひのとのみのへ— VI(25)15

ひのとのみのへ— X(6)21

みつのとりのとりのへ— VI(14)29

つちのとりのとりのへ— VII(8)30

つちのとりのみのへ— VIII(18)30

月と—おゑかをかみ申候。 VI(33)10

十二月三十日—しるし申候。 VI(36)22

ほん正月まゑ— IX(12)3

一七日のうち—からめきみちへ X(5)3

昔今—も X(13)12

(場所)

このところ—おさまるへし。 I(13)12

くもことまり—ま玉はしくにのまたやわた

しよわちへ III(6)26

一すしのみち—千りやうの金を V(17)21

みち—いしはめさせて、 VIII(14)12

やらさもりのほか—くすくつませてて

VII(14)4

めしよわちやるミせせる— VII(10)14

めしよはちやるみせゝる— VIII(20)6

(対象)

ち—ふして I(17)15

地—ふして X(18)16

てん—あふき I(17)8

天—あふき X(18)9

きようしゆんの御代—にたり。 V(8)23

ミおほけ—あひ申候。 V(18)8, VIII(35)6

御五人—御給り候ほとに X(16)16

御すしよりほか—あんしもけすも入事あら

は X(17)19

(原因)

ミ御ミ事—, ま玉ミなどのミちつくり

III(1)22

世の御さうけのため—, ねたてひかわ又と

よミくすく III(12)10

国王の御ミ事—, ミちをつくり V(13)8

あんしおそいかなし天のミ御ミ事—, すゑ

つきの御ちやう VI(2)5

首里天のミ御ミ事—たいへいけうたいらは

しつミ申時の VII(1)10

VII(28) 4

(理由)

てたかすゑあんしおそいかなしも御ちよわひ
めしよわ——、あにあればと IX(8) 5
ミ御ミ事をかミ申候ほと——、石のさいくあ
つめ候て X(4) 9

(方角)

ひかし——あたりて V(10) 4

(比況)

ねいしまいしのや——いつまでも御ちよわい

VII(43) 3

かにある事は昔今にもあるましく候ほと——、
末代のしるへのために X(13)23
御五人に御給り候ほと——、千年萬年までも
……入事あらは X(16)24

-に 〈接助〉

いふ——およひ申さす。 X(7)26

(目的)

みつかくこのため——、一はんのさとぬしへ
III(13)18

二十一代 〈名〉

——の王の V(4) 1

二十二年 〈名〉

嘉靖—— V(19) 3

大明嘉靖—— V(28) 5

とまりかくこのため——、やらさもりのほか
にくすくつませてて VII(3)21

二十四日 〈名〉

六月—— V(19)17

国のようしのため——、いきやて、 VII(24)21
しるへのため——ひのもん御たてめされ候。
X(14) 9

二十四代 〈名〉

——のわうの VII(3)20

二十五年 〈名〉

嘉靖—— VI(14) 3, VI(36) 5

萬曆—— VIII(18) 4, VIII(45) 3

御なハのこら——しゆるてて IX(9) 4

御とむらひ——いろいろのかさり物をすゑ

X(10)11

-日 〈接辞〉

六月二十四—— V(19)20

八月十二—— VII(18)20

九月大吉—— I(18)17, VIII(45)19

九月三—— VI(25) 6

(結果)

こころ——あわせ V(15)26

なけハ二百三十ひろ——つみみちへて

VI(12)29

十二月三十——に VI(36)21

一七——のうちに X(4)26

(帰着点)

わらへ——いたるまで V(25)26

かきのはなち——せいそろい III(15)28

やらさもりくすく——よりそふて VII(29)17

しより——てりあかりめし

よわちや事 VII(4)28

しより——てりあかりめしよわちやこと

IX(2)20

二人 〈名〉

ふきやう—— VII(50) 8

そうふきやう—— IX(15) 8

-にて 〈格助〉

くま——むらからおれるへし。 IV(1)12

にるやの大ぬし(にるやの大主)〈名〉

——きみ〱の VI(28) 1

玉うらおそひ——御ちよわひ VII(25)17

世のつち——御ちよわいめしよハちゑ

-人 〈接辞〉

三百——そうたち III(17)27
三——の世あすたへ III(19)17
世あすたへ三—— V(29)9, VI(37)11
奉行三—— VI(41)8
ふきやう二—— VII(50)9
そうふきやう二—— IX(15)9
ゑくか御五—— X(16)15

ぬ ナシ

ね

子〈名〉

甲—— X(6)7, X(23)12

-ね〈格助〉

ミしまよ——ん III(9)6, VII(12)22, VII(23)21

みくによ——ん III(9)13

おくのよ——ん VII(12)29

ねいし(根石)〈名〉

——まいしのやに VII(31)9, VIII(42)21

ねかひ(願ひ)〈動〉

御かほう——申し候て VIII(44)2

ねかひ事(願ひ事)〈名〉

——かなひ V(26)24

ねたて(根立て)〈名〉

御石かきの——のふかさハ VI(11)18

ねたてひかわ(根立て樋川)〈名〉

——又とよミくすく III(12)12

——のミつのかくこハ VII(40)17

-年〈接辞〉

大明弘治十四—— I(18)12

嘉靖二十二—— V(19)6

大明嘉靖二十二—— V(28)8

嘉靖二十五—— VI(14)6, VI(36)8

嘉靖三十二—— VII(8)6

嘉靖三十三—— VII(33)8

萬曆二十五—— VIII(18)7, VIII(45)6

萬曆四十八—— IX(19)7

天啓四—— X(6)4, X(23)8

千——万年にいたるまで I(12)14

千——萬年までも X(17)2

千年万——にいたるまで I(12)17

千年萬——までも X(17)4

の

-の〈格助〉

(主格)

あんしおそひかなし天——……御ちよわいめ
しよわる VIII(42)19

いくさかちよく——きちやることハ VII(22)25

いよこと——あら時や VII(25)6

御せち——ミまふりめしよハるけに VII(21)26

おやかなし——御すきりめしよわちや事

X(2)6

御世——御さうせめしよわちへ VI(6)30

御世——御さうせめしよハちへ VIII(10)27

かみほとけ——御あそひめしよわる V(11)18

かミほとけ——をれめしよハちゑ VIII(19)7

きこゑ大きききみ——おれめしよわちへ

III(4)11

きこゑ大きききみ——をれめしよわちへ

V(20)11, VI(15)11

きこゑ大きききみ——をれめしよわちへ

VII(9)11

代の官人——さいもんよミ候て X(11)11

このすミ——あさくならば IX(18)6

首里天つきのあんしおそひかなし——ともゝ

ととひやくさと VI(34)18

にるやの大ぬしきみ——御のほりめしよ

わちへ VI(26)13

みつ——ふかさあるけに VII(13)7
はへおもて——ひとへにありたるけに
VI(6)10
ミこしミ玉——わたり申候 II(2)3
わうかなし——おほこりめしよハちゑ
VII(27)6

(所有格)

——あんし
きこゑ大きみ—— I(3)12
きん—— I(8)8
こゑく—— I(7)9
さすかさ—— I(4)10
とよみくすく—— I(9)12
中くすく—— I(5)10
みやきせん—— I(6)11
——大やくもい
あはこん—— IX(15)15
いけくすく—— IX(13)15
うちま—— VII(36)7
大さと—— V(30)6
おろく—— VII(41)12
かうち—— III(21)20, VI(39)9
かつれん—— VII(39)8
かなくすく—— VII(42)6
かなは—— VI(38)9
かハかミ—— VIII(52)8
きすゝ—— V(31)6
きま—— VII(41)22
くすくま—— VII(35)8, VIII(51)8
くにかみ—— III(20)21, VI(40)10
くにかミ—— VIII(47)8
こちひら—— VII(37)8, IX(15)27
たくし—— III(22)21
たまくすく—— IX(17)16
とよみくすく—— IX(14)13

とよミ城—— VII(48)8
なこ—— VIII(49)6
花くすく—— V(34)7
みや平—— V(32)6
よむたもさ—— IX(13)28
——ため
御さうせ——に III(12)6
みつかくこ——に VII(3)17
くにのあんしけす—— III(11)19
たミひやくしやう—— VIII(10)20
しるへ——に X(14)4
国のようし——に VII(24)17
あんしおそいかなし——おなこのおやかなし
の X(1)21
あんしおそしかなし天——ミ御ミ事に
VI(1)24, VI(4)18
あんしおそひかなし——ミ御ミ事 VII(2)23
あんしおそひかなし天——ミ御ミ事 VIII(9)19
石——さいく X(4)12
——はん——さとぬしへ III(13)23
——はん——せい VII(25)26, VII(26)17, VII(27)5
いろいろ——かさり物を X(10)17
うちほか——御いへひのかみ VIII(28)28
まつをうへれと——御ミ事 V(13)26
うらおそい——ようどれは IX(3)20
おらおそひ——御くすく世の VII(27)24
うらおそひまきり——大やくもいた VIII(36)12
御石かき——ねたてのふかさハ VI(11)16
御石かき——御くやうの VI(30)22
おきなハ——天きや下ハ VII(21)6
おきなハ——天か下の VIII(40)10
おきやかもいかなし天——ミ御ミ事に
III(1)16
おく——ミよ III(6)16
御くすく——御石かき VI(4)29

御くすく——こしあて VI(5)25
御くすく——うちほかの VII(23)22
御くやう——御ゆわひ VI(30)28
御つかい——ちいへい X(9)14
おなこ——おやかなしの X(1)26
御はか——さうちは IX(11)7
大あんしおしられ——おもひくわへ X(15)19
御世——おさうせ VII(24)4
かみしも——あんしけす VII(17)25
きこゑ大きみ——あんし I(3)12
きこゑ大きみ——御せちの VII(21)21
きのと——とりのへに III(3)24, III(3)27
きようしゆん——御代に V(8)19
くに——またや III(7)9
くに——あんしけす III(11)11
くに——あちけすたミひやくしやうの
VII(10)4
くに——またや VIII(23)26
くに——あむた VIII(37)26
国——またや VII(13)9
国——ようし VII(3)3, VII(24)12
くに——あんしへ V(14)14, V(23)24,
VI(8)12, VI(12)26, VI(4)24
くに——あちへ VIII(31)8
国中——僧侶 X(7)10
国王——御ミ事に V(13)3
三人——世あすたへ III(19)18
一七日——うちに X(4)27
しま——あすた VIII(37)18
しま世——てやちきわら VII(30)28
しもしましりきやめ——せいや VII(28)20
しやな——里主 VI(42)9
しより——御ミ事 I(11)9
首里——御世の VI(6)26
首里——王 III(1)3, VI(1)3, X(1)3

首里おきやかもいかなし——御代に II(1)12
しより御城——御まふり VII(26)7
首里天——御ミ事 V(1)4
首里天——ミ御ミ事に VIII(1)4
首里天つき——あんしおそひかなし VI(27)6
首里天つき——あんしおそいかなし天の
VI(4)6
首里天つき——あんしおそひかなし天の
VI(34)6
此すミ——ことはハ III(19)9
すゑつき——御ちやう VI(2)11
すゑつき——ミ物 VI(19)22
千人——さとぬしへあくかへ III(10)4
千萬——ミはひ VII(18)11
千萬——御ゆわい事 VIII(7)26
千りやう——金 V(17)27, VIII(34)14
大小——人々 VI(10)20
大小——ゑくかおなこ VIII(38)4
たひら——かはら VIII(12)13
ちかため——およハひ VII(19)22
つちのと——とりのへに VII(8)25
つちのとのとり——へに VII(8)28
つちのと——ミのへに VIII(18)26
つちのとのミ——へに VIII(18)28
てにつきわうにせ——あんしおそひかなしの
VII(2)12
天か下——あちけす VIII(40)15
天つき王にせ——あんしをそひかなし
V(21)7
天つき王にせ——あんしおそいかなし
VI(1)12
つミ申候時——ひのもん VI(2)29
つミ申時——ひのもん VIII(1)30
はしわたし申候時——ひのもん III(2)18
とまり——かくこのために VII(3)12

なは——はん VII(26)25
二十一代——王の V(4)5
二十四代——わうの VIII(3)24
にるや——大ぬしきみ の VI(26)4
ねいしまいし——やに VII(31)16, VIII(42)28
御石かきのねたて——ふかさハ VI(11)21
ねたてひかわ——ミつの VII(40)23
はしくやう——御ゆわい III(18)11
花くすく——里主 VI(43)10
ひ——かミ VIII(29)7
ひ——もん II(2)20, III(2)21, V(2)2, VI(3)
2, VII(2)2, IX(9)29, X(14)12
一すし——ミち V(17)17
ひのと——とり V(19)25, VII(18)12, VII(45)11
ひのと——ミのへに VI(25)11
ひのとのミ——へに VI(25)13
ひのと——あゐのへに X(6)17
ひのとのあゐ——へに X(6)19
ひのへぬま——年 VI(14)13
日く——ミ御ほけハ VI(32)21
まうはらい——時に III(4)27
まうはらへ——時に VI(15)27
まさり——ミおほけに VIII(34)27
ま玉ミなど——ミちつくり III(1)29
末代——しるへのために X(13)27
まふに——里主 VI(44)9
ミいくに——御はか X(2)24
みつ——かくこ III(13)11, VI(40)27
みつのと——う V(19)12, V(28)14
みつのと——うし VII(8)12
みつのととり——へに VI(14)27
みつへのむま——とし III(3)12
みはん——さとぬしへ VII(5)5
ミはん——大やくもいた VI(8)22, VII(15)5,
VIII(32)19

ミはん——御ま人 VII(25)17
ミヤこやへま おゑか人 VI(10)11, VI(23)20
むかしいま——事を V(6)25
もろこし——ていわう V(8)5
やらさもり——ほかに VII(3)28
やらさもりくすく——かくこ VII(40)9
世——御さうせ III(11)27
世——こしあて VI(18)11
おらおそひの御くすく世——つちに VIII(27)30
代——官人の X(11)7
よそひおとん——大あんし I(2)12
二十四代のわう——御くらみを VIII(3)28
わう——御なをは VII(6)8
王——御くらひ V(4)8
王——御なをは V(6)30
わらへ——いふにおよひ申さす。 X(7)22
ゑそのてた——御はか X(4)6
(同格)
ゑそ——てたの御はか X(4)3
のこら(残ら)〈動〉
御なハ——にしゆるてて IX(9)1
のち(後)〈名〉
——にあらそふ人あらは I(14)9
のほり(上り)〈動〉
にるやの大ぬしきみ の御——めしよわち
へ VI(26)16
のろへ(ノロ部)〈名〉
あくかへおゑか人——しまのあすた VIII(37)12
は
-は 〈副助〉
いしらこ——ましらこは VII(11)18, VIII(21)19
御はかところ—— X(15)9
かにある事—— X(13)8

いしらはましらこ — VII(11)24, VIII(21)25
 うらおそいのようにとれ — IX(3)26
 -ハ 〈副助〉
 あと — てたかすゑあんしおそいかなしも
 IX(7)3
 つみ申候あひた — VI(32)17
 あつさ — 五ひろ VI(12)5
 御いちやわり — VIII(34)8
 御な — のこらに IX(8)29
 たひらおほな — VIII(12)8
 おもひ事 — VIII(41)17
 ミつのかくこ — VII(41)4
 きちやること — なきやもの VII(23)9
 此すみのことは — III(19)14
 さうち — IX(11)12
 これ — V(10)24
 中山王尚清 — V(3)14
 しゃうねい — VIII(3)6
 天きや下 — VII(21)13
 たけ — 十ひろ VI(12)13
 地 — 十八天 III(17)8
 あめふる時 — V(12)13
 雨ふる時 — VIII(12)25
 なけ — 二百三十ひろに VI(12)21
 このはし — III(11)7
 このひのもん — たてめしよわちやる。
 IX(10)3
 御石かきのねたてのふかさ — VI(11)26
 ミち — きよらく V(16)28
 まつ — すゝし V(17)8
 日とのミ御ほけ — かすしらす VI(32)27
 ミおほけ — VIII(39)6
 み御ミ事 — VII(30)23
 みはい — VI(33)25
 王かなし — V(6)11

-は 〈副助〉
 王の御なを — V(5)4
 わうの御なを — VIII(6)13
 -は 〈接助〉
 人あら — I(14)22, I(16)22
 入事あら — X(18)6
 あにあれ — IX(8)12, X(7)6
 あさくなら — ほるへし。 IX(18)14
 くすくつみつけてみおやしちやれ —
 VII(7)9
 -ハ 〈接助〉
 まつをうへれ — V(16)24
 ミおやしたれ — VIII(17)8
 はい(拜)〈名〉
 み — ハ VI(33)23
 ミ — おかみ申候。 VIII(30)13
 ミ — をかミ申候 V(25)2, VI(24)10, VI(29)15,
 VII(35)2, VIII(44)19
 ミ — おきなハの VIII(40)3
 ミ — からめき申候 X(11)24
 御 — おかミ申候。 III(10)22
 はうすた(坊主達)〈名〉
 ちやうらう — そろて VII(19)9
 かなそめはつまき — ミはんの大やくもいた
 VIII(32)11
 はか(墓)〈名〉
 御 — やりよるけにてて IX(4)9
 この御 — の IX(11)5
 ミいくに御 — けらへわちへ X(2)25
 はかところ(墓所)〈名〉
 此御 — は X(15)4
 はし(橋)〈名〉
 — わたし申候 III(2)8
 この — ハ III(11)5
 — かけさせ VIII(13)18

みち——つみつけて VII(16)19
-はし(-橋)〈接辞〉
くもこ—— VIII(22)21
たひら—— VIII(1)22
ま玉—— III(7)4, III(15)4
ミ物—— VIII(22)26
はしくやう(橋供養)〈名〉
——の御ゆわい III(18)6
八月 〈名〉
——大吉日 V(28)17
——一日 VI(14)16
——十二日 VIII(18)16
——吉日 IX(19)15
-はちへ 〈補助〉 ⇨ わちへ
おりあけ—— VII(12)6
けらへ—— VII(13)17
つみあけ—— VII(12)14
とゝめ—— VII(14)27
はつまき(鉢巻)〈名〉
かなそめ—— VIII(32)6
花くすく(花城)〈名〉
——の大やくもい V(34)3
——の里主 VI(43)6
はひ(拜)〈名〉 ⇨ はい
ミ——おかみめしよはる。 VII(17)9
ミ——おかてあり。 VII(18)14
はへおもて(南風表)〈名〉
——のひとへにありたるけに VI(6)5
はへはら(南風原)〈名〉 ⇨ はゑはら
——しまおそい大さと III(14)7
はめ(嵌め)〈動〉
いしを—— V(16)14
いし——させてゝ VIII(14)17
はら(払)〈動〉
まう——て VII(15)5

みよ——ててゝ VII(15)12
-はらい(-祓い)〈接辞〉 ⇨ はらひ, はらへ
まう——の時に III(4)24
-はらひ(-祓ひ)〈接辞〉 ⇨ はらい, はらへ
まう——めしよはちやるミせゝるに VIII(19)20
まう——めしよわちやるミせせるに VII(9)24
-はらへ(-祓へ)〈接辞〉 ⇨ はらい, はらひ
まう——の時に VI(15)24
はゑはら(南風原)〈名〉 ⇨ はへはら
——しまおそい大さと VII(27)12
はん(番)〈名〉
なはの—— VII(23)27
-はん(一番)〈接辞〉
——のさとぬしへ III(13)21
ミ——の大やくもいた VI(8)20
ひ
ひ(火)〈名〉
——のかミ VIII(29)6
ひ(碑)〈名〉
——のもの II(2)19, III(2)20, V(2)1, VI(2)1, VIII(2)1, IX(9)28, X(14)11
ひかし(東)〈名〉
——にあたりて V(10)1
ひかわ(樋川)〈名〉
ねたて—— III(12)15, VII(40)20
人 〈名〉
あらそふ——あらは I(14)18
そむく——あらは I(16)18
-すし(一筋)〈名〉
——のミち V(17)14
— 〈名〉
——のころ——にあわせ V(15)25
人々 〈名〉

—ミおほけにあひ申候。 V(18)1
大小の—そろて VI(10)22
ひとへ(一重)〈名〉
—にありたるけに VI(6)12
ひのかみ(火の神)〈名〉
御いへ—御たかへめしよわちや事 VII(23)6
ひのと(丁)〈名〉
—のとり V(19)22, VII(18)9, VII(45)8
—のみのへに VI(25)8
—のみのへに X(6)14
ひのへ(丙)〈名〉
—むま VI(14)8, VI(36)10
日と 〈名〉
—のミ御ほけハ VI(32)19
ひやく(百)〈名〉
ともゝとと—さと VI(34)26
百 〈名〉
三—人 III(17)26
二—三十ひろに VI(12)24
ひやくしやう(百姓)〈名〉
たミ—のため VII(10)14
ひる(昼)〈名〉
よるも—も V(26)11, VII(44)14
-ひろ(-尋)〈接辞〉
あつさハ五— VI(12)8
たけハ十— VI(12)16
ねたてのふかさは二— VI(11)29
なけハ二百三十—に VI(12)27
ふ
ふかさ(深さ)〈名〉
とろつち—あるけに V(12)20
御石かきのねたての—ハ VI(11)23
ミつの—あるけに VII(13)9

ふきやう(奉行)〈名〉
—一人 VII(38)2
—二人 VII(50)3
いし— IX(17)3
石— X(22)2
そう—二人 VII(50)3
奉行 〈名〉
—一人 V(33)2
—三人 VI(41)4
総— X(21)2
ふし(伏し)〈動〉
ちに—て I(17)7
地に—て X(18)18
二ひろ(二尋)〈名〉
ふかさハ— VI(11)28
冬 〈名〉
—十月 X(23)13
ふる(降る)〈動〉
あめ—時ハ V(12)8
雨—時ハ VII(12)21
へ
へ(日)〈名〉
きのとのとりの—に III(3)28
つちのとのとりの—に VII(8)29
つちのとのみの—に VII(18)29
ひのとのとりの—に V(19)29
ひのとのみの—に VI(25)14
ひのとのみの—に X(6)20
ミつのとのとりの—に VI(14)28
-へ(-部)〈接辞〉
あすた— V(14)24, V(24)4, VII(31)24
あち— VII(31)12
あんし— V(14)19, V(23)29, VI(8)17, VI(22)

5, VII(4)29
おもひくわ—— V(2)18, VI(2)21, X(15)26
さとぬし—— III(10)10, III(13)29, VII(5)11, VII
(15)18, VII(33)6, VII(36)25
里ぬし—— VI(9)5
里主—— V(15)10, V(24)15, VI(22)16
のろ—— VII(37)14
世あすた—— III(19)24, V(29)6, VI(37)8, VII
(34)6, VII(46)7, IX(13)5, X(19)
5
へし 〈助動〉
おさまる—— I(13)18
おれる—— IV(1)23
かくこする—— VII(43)7
きよらくからめく——と IX(12)14
たたる—— I(17)24, X(18)25
見る—— I(15)14
ほる—— IX(18)18
へんのたけ(弁の嶽)〈名〉
たいりよりひかしにあたりて——といふ。
V(10)11
ほ
ほか(外)〈名〉
やらさもりの——に VII(4)2
うち——の御いへひのかみ VII(28)26
御すしより——に X(17)17
ほけ 〈名〉
ミお——にあひ申候。 V(18)6, VII(35)4
ミお——ハ VII(39)4
日とのミ御——ハかすしらす VI(32)25
ほこり(慶り)〈動〉
御——めしよわちや事 V(23)2
お——めしよハち糸 VII(27)9

ほど(程)〈副助〉
あるましく候——に X(13)21
御給り候——に X(16)22
をかミ申候——に X(4)7
ほとけ(仏)〈名〉
かミ——の御あそひめしよわるところ
V(11)15
かみ——のをれめしよハち糸 VII(19)4
ほる(彫る)〈動〉
このすみのあさくならば——へし。 IX(18)16
ほん(盆)〈名〉
——正月まゑに IX(11)25
ま
まあかとたる(真加戸樽)〈名〉
首里おきやかもひかなし—— I(1)13
まいくさ(真伊久佐)〈名〉
くすくまの大やくもい—— VII(35)16
まいくさかね(真伊久佐金)〈名〉
みや平の大やくもい—— V(32)14
まいし(真石)〈名〉
ねいし——のやに VII(31)13, VII(42)25
まう(毛)〈名〉
——はらいの時に III(4)24
——はらひめしよわちやるミせせるに
VII(9)22
——はらひめしよハちやるミせゝるに
VII(19)20
——はらへの時に VI(15)22
——はらて VII(15)2
申さ 〈補動〉
いふにおよひ——す。 X(8)4
まうし(真牛)〈名〉
こちひらの大やくもい—— VII(37)16

とよミ城の大やくもい—— VII(48)16
申し 〈補動〉
ねかひ——候て VII(44)5
申 〈動〉
はしくやうの御ゆわい——候 III(18)18
御ゆわひ——候。 VI(31)6
申 〈補動〉
ミおほけにあひ——候。 V(18)12, VII(35)10
まつうへ——候ひのもん V(1)27
ミはいおかみ——。 VII(30)19
ミ御ミ事おかみ——。 IX(12)26
御はいおかみ——候。 III(10)28
ミはいからめき——候。 X(12)5
御くうとものけらへ——候。 VI(13)19
御おくりし——候。 X(6)28
御たかへし——候。 V(26)21
十二月三十日にしるし——候。 VI(36)27
たて——候ひのもん II(2)16
御せゝるたまわり——候。 III(5)10
御石かきつみ——候時のひのもん VI(2)25
御石かきつみ——候。 VI(11)9
御石かきつみ——候あひたハ VI(32)11
はしわたし——候時のひのもん III(2)14
ち金丸ミこしミ玉のわたり——候時に
II(2)8
ミはいをかみ——候。 VI(24)16, VI(29)21,
VI(35)8
おゑかをかみ——候 VI(33)19
ミはいをかみ——候。 V(25)8, VII(44)25
ミ御ミ事をかみ——候ほとに X(4)4
首里天の御ミ事をかみ——、みちつくり
V(1)13
申 〈補動〉
たいらはしつミ——時のひのもん VII(1)27
申 〈補動〉

おゑかたまわり——。ミはいおきなハの
VII(33)22
まうし(真牛)〈名〉
とよミ城の大やくもい—— VII(8)16
まうしかね(真牛金)〈名〉
——かうちの大やくもい III(2)11
まうはらい(毛祓い)〈名〉
——の時に III(4)22
まうはらひ(毛祓ひ)〈名〉
——めしよはちやるミせゝるに VII(19)18
——めしよわちやるミせせるに VII(9)22
まうはらへ(毛祓へ)〈名〉
——の時に VI(15)22
まかねたる(真金禱)〈名〉
——くにかみの大やくもい III(20)11
まきり(間切)〈名〉
うらおそい——より IX(11)19
うらおそひ——の VII(36)9
ま五ら(真五良)〈名〉
花くすくの大やくもい—— V(34)15
しやなの里主—— VI(42)14
くにかミの大やくもい—— VII(47)16
まさかひ(真栄)〈名〉
花くすくの里主—— VI(43)15
まさふろ(真三郎)〈名〉
国かミ—— X(19)24
まざふろかね(真三郎金)〈名〉
こゑくのあんし—— I(7)15
きんのあんし—— I(8)14
まさり(勝り)〈名〉
なを——のミおほけに VII(34)24
まさる(勝る)〈動〉
すゑ——おうにせてて VII(7)4
すへ——王にせかなしは IX(1)22
ま三ら(真三良)〈名〉

まふにの里主—— VI(44)14
 ましく(助動)
 いきよく—— VII(32)6
 くるく—— VII(32)12
 ましく(助動)
 ある——候ほどに X(13)17
 ましらこ(真石子)〈名〉
 いしらこは——は VII(11)20, VIII(21)21
 又(副)
 III(11)24, III(12)19, VI(9)24, VI(25)1, VI(30)1,
 VIII(19)1, VII(27)10, VII(40)15, VIII(31)2, VIII(36)2
 ま玉橋(真玉橋)〈名〉
 ——くにのまたやわたしよわちへ III(7)2
 ——をわたり III(15)2
 ま玉ミなど(真玉湊)〈名〉
 ——のみちつくり III(1)24
 またまもり(真玉杜)〈名〉
 首里もり——けらへて VI(16)24
 また(名)
 くにの——や III(7)10
 またる(真樽)〈名〉
 なこの大やくもい—— VIII(49)14
 くすくまの大やくもい—— VIII(51)16
 かハかミの大やくもい—— VIII(52)16
 まつ(松)〈名〉
 ——うへ申候ひのもん V(1)22
 ——をうへれとの V(13)18
 ——をうへれは V(16)17
 ——ハすゝし。 V(17)6
 末代(名)
 ——のしるへのために X(13)25
 -また(副助)
 いたる—— I(12)23, V(26)4
 なる——も IX(8)23
 いつ——も VIII(43)7
 きほくひり—— VIII(14)7
 千年萬年——も X(17)5
 おなこわらへ——も VIII(41)9
 まて(名)
 国の——や VI(13)10
 くにの——や VIII(23)27
 まとく(真徳)〈名〉
 うちまの大やくもい—— VII(36)15
 まなへたる(真鍋樽)〈名〉
 さすかさのあんし—— I(4)16
 まにきよたる(真仁堯樽)〈名〉
 中くすくのあんし—— I(5)16
 まによこ(真如古)〈名〉
 くしかミ—— X(19)15
 ま人(真人)〈名〉
 ミはんの御—— VII(25)20
 まふとう(真布度)〈名〉
 かつれんの大やくもい—— VII(39)16
 まふとかね(真布度金)〈名〉
 大きさの大やくもい—— V(30)14
 まふに(摩文仁)〈名〉
 ——一の里主 VI(44)6
 まふり(守り)〈動〉
 御せちのミ——めしよハるけに VII(22)3
 まふり(守り)〈名〉
 しより御城の御—— VII(26)10
 まもたいかね(真武体金)〈名〉
 みやきせんのあんし—— I(6)17
 まゑ(前)〈名〉
 ほん正月——に IX(12)1
 萬(名)
 千——のミはひ VII(18)10
 千——の御ゆわい事 VIII(7)25
 萬代(名)
 千代——なるまでも IX(8)18

万年 〈名〉

千年——にいたるまで I(12)16

萬年 〈名〉

千年——までも X(17)3

萬曆 〈名〉

——二十五年 VII(18)2, VIII(45)1

——四十八年 IX(19)2

み

ミ(巳) 〈名〉

ひのとの——のへに VI(25)12

つちのとの——のへに VIII(18)27

み-(御-) 〈接辞〉

——御ミ事ハ VII(30)19

——くによねん III(9)9

——はいハ VI(33)22

——よはらて VII(15)9

ミ-(御-) 〈接辞〉

——おほけ

——にあひ申候。 V(18)4, VIII(35)2

——ハ VIII(33)2

——御ほけ

日との——ハ VI(32)23

——御ミ事

おきやかもいかなし天の——に III(1)18

あんしおそいかなし天の——に VI(2)1

あんしおそいかなし天の—— VI(4)20

あんしおそひかなしの—— VII(2)25

あんしおそひかなし天の—— VIII(9)21

首里天の——に VIII(1)6

——をかミ候て VI(7)25

——おかみ申候。 IX(12)18

——をかミ申候ほどに X(3)19

御一つかい

——すれてて X(3)9

——御ミつかい

——めしよわちへ IX(6)16

——御ミつかひ

——めしよわちへ V(22)1

——御ミつか井

——めしよわちへ VI(27)18

——おやたいり

——おかむやに VII(29)25

——しまよ

——ねん III(9)2, VII(12)18, VIII(23)17

——はい

——をかミ申候。 V(25)1, VIII(44)18

——をかみ申候。 VI(24)9, VI(23)14, VI(35)

——おかみ申候。 VIII(30)12

——おきなハの VII(40)2

——からめき申候。 X(11)23

——はひ

——おかみめしよはる。 VII(17)8

——おかてあり。 VII(18)13

——まふり

——めしよハるけに VII(22)2

御- 〈接辞〉

——はいおかミ申候。 III(10)21

ミいくに 〈副〉

——墓 X 20

ミおやし 〈動〉

くすくつみつけて——ちやれは VII(7)2

ミちはしつミつけて——たれハ VIII(17)2

ミこし(御腰) 〈名〉

ち金丸——ミ玉のわたり申候時に II(1)28

ミせせる 〈名〉

めしよわちやる——に VII(10)10

ミせゝる 〈名〉

めしよはちやる——に VII(20)2

御せゝる 〈名〉

— たまわり申候。 III(5)1

— 御たほひめしよわちへ VI(16)2

ミ玉(御玉)〈名〉

ち金丸ミこし—の II(2)1

みち(道)〈名〉

— つくり V(1)15

— にいしはめさせてゝ VII(14)10

ミち(道)〈名〉

— つくり III(2)1

— をつくり V(13)10

— はきよらく V(16)26

— すしの—に V(17)19

— はしつミつけて VII(16)17

-ミちへ 〈補動〉

からめき—て X(5)9

-みちへ 〈補動〉

つみ—て VI(13)4

ミつ(水)〈名〉

— のかくこのために III(13)9

— のかくこハ VII(40)25

— のふかさあるけに VII(13)5

ミつのと(癸)〈名〉

— のう V(19)8, V(28)10

— とりのへに VI(14)21

— のうし VII(8)8

ミつのへ(壬)〈名〉

— むまのとし III(3)6

ミなど(湊)〈名〉

ま玉— III(1)26

ミはん(三番)〈名〉

— の大やくもいた VI(8)19, VII(15)2, VII(32)

— の御ま人 VII(25)14

— のさとぬしへ VII(5)2

ミ物(見物)〈名〉

すゑつきの—いちやちや VI(19)24

くもこはし—はし VII(22)24

みやきせん(今帰仁)〈名〉

— のあんし I(6)6

ミやこ(宮古)〈名〉

— より II(1)18

— やへまのおゑか人 VI(10)4, VI(23)13

ミや平(宮平)〈名〉

— の大やくもい V(32)3

みよ(滯)〈名〉

— はらて VII(15)9

ミよ(滯)〈名〉

おくの— III(6)17

見る 〈動〉

このすみ—へし。 I(15)12

明 〈名〉

大— I(18)7, V(28)2, VII(33)2, X(23)4

む

-む 〈副助〉

いつきやめ— VII(31)26, VII(42)19

わうかなし— VII(17)6

むかし(昔)〈名〉

— いまの事を V(6)20

— もろこしのていわう V(7)26

— から VII(22)14

昔 〈名〉

— 今にも X(13)10

むま(馬)〈名〉

— からおれるへし。 IV(1)15

むま(午)〈名〉

ひのへ— VI(14)11, VI(36)13

ミつのへ—のとし III(3)10

16

むまれ(生まれ)〈動〉

—なから V(6)13

め

め(女)〈名〉

—とも V(25)19, X(7)15

-めさ(-召さ)〈補助〉

御たて—れ候。 X(14)20

めし(召し)〈動〉

御さうせ—よわちへ VI(7)7, IX(5)1,
IX(9)17

御さうせ—よハちへ VIII(11)7

御おもろ御たほい—よわちや事 VI(21)7,
VI(29)2

御せゝる御たほひ—よわちへ VI(16)12

御ゆわい—よわちや事 III(9)23

御ゆわい—よわちへ VI(20)20

御ゆわひ—よわちへ VI(28)14

まうはらひ—よわちやるミせゝるに VII(10)
2

まうはらひ—よハちやるミせゝるに VIII(19)
24

ミ御ミつかい—よわちへ IX(6)23

ミ御ミつかひ—よわちへ V(22)8

ミ御ミつか井—よわちへ VI(28)2

-めし(-召し)〈補助〉

あまこあわし—よわちへ V(22)22

いのり—よハちやるけに VII(15)21, VIII(24)22

御あそひ—よわる V(11)24

ミはひおかミ—よはる。 VII(17)15

おさため—よハやる。 VII(30)12

おさめ—よわる事 V(7)18

御すきり—よわちや事 X(2)12

御たかへ—よわるもり V(9)10

御たかへ—よわちや事 VII(29)15

御ちよわい—よハちゑ VIII(28)11

御ちよわい—よわる VII(43)16

御ちよわひ—よハちや事 VII(26)2

御ちよわひ—よわに IX(8)1

御のほり—よわちへ VI(26)19

おほこり—よハちゑ VIII(27)12

御ほこり—よわちや事 V(23)5

御よひ—よわちへ VII(33)20, VII(38)21

おれ—よわちへ III(4)15

けらゑらし—よわちへ IX(5)22

さつけ—よわちへ V(5)17

さとり—よわちへ V(7)4

たて—よわちやる。 IX(10)7

御くらひをつき—よわちへ V(4)18

御くらみをつき—よわちへ VIII(4)10

つけ—よわちへ VII(7)17

てりあかり—よわちや事 VII(5)7

てりあかり—よわちやこと IX(3)6

ミまふり—よハるけに VII(22)6

をれ—よわちへ V(20)15, VI(15)15, VII(9)15

をれ—よハちゑ VIII(19)11

も

-も 〈副助〉

あんし—けすも IV(1)4, X(17)24

あんしおそいかなし— IX(7)20

あんしもけす— IV(1)8, X(17)28

よるもひる— V(26)13, VII(44)16

よる—ひるも V(26)9, VII(44)12

昔今に—あるましく候ほとに X(13)13

いつまで— VII(43)9

千年萬年まで— X(17)7

わらへまで— VII(41)11

- なるまで—— IX(8)25
 金より—— VIII(3)19
 -もい(思い)〈接辞〉 ⇨もひ
 大ちよ——かなし IX(6)4
 おとちとの——かね I(3)24
 もし 〈副〉
 ——のちに I(14)6
 もの 〈名〉
 なきや——やれとも VII(23)14
 -もひ(思ひ)〈接辞〉 ⇨もい
 おきやか——かなし I(1)7
 もゝ(百)〈名〉
 と——ととひやくさとミはい VI(34)21
 もり(杜)〈名〉
 御たかへめしよわる—— V(9)16
 おしあけ—— VII(2)12
 首里——またまもり VI(16)21
 たひら—— VII(2)5
 とよみ—— III(6)5
 首里もりまたま—— VI(16)27
 やへさ—— VII(1)11
 やらさ—— VII(3)26, VII(1)5
 やらさ——くすくに VII(29)12
 やらさ——くすくのかくこ VII(40)4
 よそい—— III(6)11
 世そふ—— VII(3)5
 もろこし(唐土)〈名〉
 ——のていわう V(8)1
 もん(文)〈名〉
 ひの—— II(2)22, III(2)23, V(2)4, VI(3)4,
 VII(2)4, IX(10)1, X(14)14
 や
 -や 〈副助〉
 なき——ものやれとも VII(23)13
 -や 〈副助〉
 あら時—— VII(25)12
 一はんのせい—— VII(25)30, VII(26)21
 しもしましりきやめのせい—— VII(28)24
 しま世のて—— VI(3)3
 くにのまた—— III(7)12
 国のまで—— VII(13)12
 くにのまで—— VII(23)29
 やに(様に)〈副助〉
 おかむ——おさためめしよハやる VII(30)5
 ねいしまいしの—— VII(3)18, VII(43)2
 やへさもり(八重座杜)〈名〉
 やらさもり—— VII(1)8
 やへま(八重山)〈名〉
 ミやこ——のおゑか人 VI(10)8, VI(23)17
 やらさもり(屋良座杜)〈名〉
 ——のほかに VII(3)23
 ——やへさもり VII(1)2
 やらさもりくすく(屋良座杜城)〈名〉
 ——によりそふて VI(29)9
 ——のかくこ VII(40)1
 やりよる 〈助動〉
 御はか——けにてて IX(4)12
 やれ 〈助動〉
 なきやもの——とも VII(23)17
 ゆ
 ゆわい(祝い)〈名〉 ⇨ゆわひ, よハひ
 御——めしよわちや事 III(9)19
 はしくやうの御—— III(18)14
 ゆわい事(祝い事)〈名〉 ⇨いわい事
 御——あり。 VII(8)3
 ゆわひ(祝ひ)〈名〉 ⇨ゆわい, よハひ

御—めしよわちへ VI(20)16, VI(28)10

御—申候。 VI(30)3

よ

世 〈名〉

—の御さうせ III(11)26

御—の御さうせ VI(6)29, VII(24)3, VII(40)26

—のこしあて VI(48)10

おらおそひの御くすく—のつちに VII(27)29

代 〈名〉

きようしゆんの御—ににたり。 V(8)22

—の官人の X(11)6

世あすたへ(世長老部)〈名〉

三人の— III(19)20

—三人 V(23)2, VI(37)4, VII(34)2, VII(46)3,

IX(13)1, X(19)1

ようし(要事)〈名〉

国の— VII(3)5, VII(24)14

ようとれ 〈名〉

うらおそいの—は IX(3)22

よせらやい(寄せらやい)〈動〉

せいくさ—てゝと VII(16)14

よそいもり(世襲い杜)〈名〉

とよみもり— III(6)8

よそひおとん(世襲ひ御殿)〈名〉

—の大あんし I(2)6

世そふもり(世襲ふ杜)〈名〉

—国のまでやけらへハちへ VII(13)2

世つきたけ(世継ぎ嶽)〈名〉

くもこたけ—おりあけわちへ VI(17)13

四日 〈名〉

五月— VII(8)18

四年 〈名〉

天啓— X(6)3, X(23)7

-よハちへ 〈補動〉 ⇨よハちゑ, よわちへ

このミ— VII(13)24

ついさし— VII(14)13

御さうせめし— VII(11)9

-よハちや 〈補動〉 ⇨よわちや

めし—事 VII(26)4

-よハちやる 〈補動〉 ⇨よわちやる

まうはらひめし—ミせゝるに VII(19)26

-よハちやる〈補動〉

いのりめし—けに VI(15)23

-よハちゑ 〈補動〉 ⇨よハちへ, よわちへ

御ちよわいめし— VII(28)13

おほごりめし— VII(27)14

をれめし— VII(19)13

よハひ(祝ひ)〈名〉 ⇨ゆわい, ゆわひ, よ
わい

お— VII(19)25

-よハやる 〈補動〉

おさためめし—ミ御ミ事ハ VII(30)14

-よハる 〈補動〉 ⇨よハる, よわる

おかみめし— VI(17)17

-よハる〈補動〉 ⇨よハる, よわる

しめさし— VI(20)6

ミまふりめし—けに VI(22)8

しめさし— VII(20)6

ミまふりめし—けに VII(22)8

よひ(呼ひ)〈動〉

お—めしよわちへ VII(33)18

御—めしよわちへ VII(33)19

よミ(誦ミ)〈動〉

さいもん—候て X(11)18

よむたもさ(読谷山)〈名〉

—の大やくもい IX(13)23

-より 〈格助〉

うらおそい—しよりに IX(2)14

- うらおそひ——しよりに Ⅷ(4)22
うらおそいまきり—— IX(1)22
おくと——上 VI(9)29, VI(23)8
此御すし——ほかに X(17)14
こく——上下 VI(9)18, VI(22)29
そんとん——このかた V(3)20, Ⅷ(3)12
たいり—— V(9)25
唐—— X(9)7
てん——わうの御なをは Ⅷ(6)3
天—— V(4)26
みやこ—— II(1)21
千りやうの金——も Ⅷ(34)17
よりそふ(寄り揃)〈動〉
やらさもりくすくに——て Ⅶ(29)19
よる(夜)〈名〉
——もひるも V(28)7, Ⅷ(44)10
-よる〈補動〉
あり——けに VI(6)19
よろこひ(喜び)〈動〉
——たのしむ事かきりなし。 V(27)5
よわ 〈補動〉
御ちよわひめし——に IX(8)3
-よわい 〈補動〉 ⇨よわひ
御ち——めしよハちゑ Ⅷ(28)8
御ち——めしよわる Ⅷ(43)13
-よわちへ 〈補動〉 ⇨よハちへ, よハちゑ
あまこあわしめし—— V(22)24
御のほり—— VI(26)21
御よひめし—— Ⅷ(33)32, Ⅷ(38)23
おれめし—— III(4)17
かけ—— Ⅷ(23)4
けらゑらし—— IX(5)24
このミ—— Ⅷ(24)5
さつけめし—— V(5)19
さとりめし—— V(7)6
つかし—— III(7)25
つきめし—— V(4)20, Ⅷ(4)12
つけめし—— Ⅷ(7)19
うさし—— III(8)12
御さうせめし—— VI(7)9, IX(5)3, IX(9)19
御せゝる御たほひめし—— VI(16)14
御ゆわいめし—— VI(20)22
御ゆわひめし—— VI(28)16
ミ御ミつかいめし—— IX(6)25
ミ御ミつかひめし—— V(22)10
ミ御ミつか井めし—— VI(28)4
わたし—— III(7)17, Ⅷ(23)12
をれめし—— V(20)17, VI(15)17, Ⅶ(9)17
-よわちや 〈補動〉 ⇨よハちや
御すきりめし——事 X(2)14
御たかへめし——事 Ⅷ(29)17
御ほこりめし——事 V(23)7
てりあかりめし——事 Ⅷ(5)9
てりあかりめし——こと IX(3)8
御ゆわいめし——事 III(9)25
御たほいめし——事 VI(21)9, VI(29)4
-よわちやる 〈補動〉 ⇨よハちやる
いのりめし——けに Ⅷ(24)24
まうはらひめし——ミせせるに Ⅶ(10)4
このひのもんハたてめし—— IX(10)9
-よわひ 〈補動〉 ⇨よわい
御ち——めしよハちや事 Ⅷ(25)21
御ち——めしよわに IX(7)24
-よわる 〈補動〉 ⇨よはる, よはる
御あそひめし——ところ V(11)26
おさめめし——事 V(7)20
御たかへめし——もり V(9)12
御ちよわいめし——御かほう Ⅷ(43)18
ら ナシ

り

りうきう(琉球)〈名〉

—こくちうさんわう Ⅷ(2)7

大—国 V(3)2

—国 IX(1)1

琉球 〈名〉

—国 Ⅶ(1)2

りやう(兩)〈接辞〉

千—の金を V(17)24

千—の金よりも Ⅷ(34)11

る ナシ

れ

-れ 〈助動〉

御たてめさ—候。 X(14)22

る

六月 〈名〉

—二十四日 V(19)15

—大吉日 Ⅶ(33)9

六日 〈名〉

十月— X(6)11

わ

-わ 〈副助〉

ちへねんさしき— Ⅲ(14)29

わう(王)〈名〉

—の御くらみを Ⅷ(3)26

—の御なをは Ⅷ(6)6

ちうさん—しやうねいハ Ⅷ(2)18

王 〈名〉

首里の— Ⅲ(1)4, Ⅵ(1)4, X(1)4

—の御くらひ V(4)7

—の御なをは V(4)29

中山— Ⅶ(1)8

わうかなし(王加那志)〈名〉

—む Ⅶ(17)1

—のおほこりめしよハちゑ Ⅷ(27)1

王かなし(王加那志)〈名〉

—ハ V(6)7

わうにせ(王仁世)〈名〉

すゑまさる—てて Ⅷ(7)8

王にせ(王仁世)〈名〉

天つき— V(5)9

王にせかなし(王仁世加那志)〈名〉

すへまさる—ハ IX(2)1

わか人(若人)〈名〉

おひ人—めとも V(25)15

おゑ人—おなこ Ⅷ(40)27

わたし(渡し)〈動〉

はし—申候時の Ⅲ(2)11

—よわちへ Ⅲ(7)14, Ⅷ(23)9

わたり(渡り)〈動〉

—申候 Ⅱ(2)5

ま玉はしお— Ⅲ(15)8

御—候て御さ候間 X(9)22

-わちへ 〈補動〉 ⇨ハちへ

おりあけ— Ⅵ(17)23, Ⅵ(19)6, Ⅷ(22)6

いちやちやけらへ— Ⅵ(20)11

けらへ—てて Ⅷ(24)13

けらへ— X(3)4

つミあけ— Ⅵ(18)6, Ⅵ(19)14, Ⅷ(22)14

ととめ— Ⅲ(8)23

わらへ(童)〈名〉

—にいたるまで V(25)23

おなこ——までも Ⅷ(4)6
——のいふにおよひ申さす。 X(7)19

ゐ

ゐ(亥)〈名〉
ひのとの——のへに X(6)18

ゑ

ゑくか(男)〈名〉
大小の——おなこ Ⅷ(3)6
——御三人 X(6)1
ゑそのでた(英祖のテダ)〈名〉
——の御はか IX(4)1

を

-を 〈格助〉

いし——はめ V(6)12
王のくらひ——つきめしよわちへ V(4)14
御くらゐ——つきめしよわちへ Ⅷ(4)6
王の御な——は V(5)3
わうの御な——は Ⅷ(6)12
御ミ事——をかミ V(4)4
かさり物——すゑ X(10)23
千りやうの金—— V(17)30
むかしいまの事—— V(6)28
ちから——そろへ V(6)4
天下——おさめめしよわる事 V(7)13
まつ——うへれとの V(3)20
まつ——うへれは V(6)19
みち——つくり V(13)12
をか(置か)〈動〉
はめさせて、——て Ⅷ(10)23

をかみ(拜み)〈動〉

——申 V(1)10

おゑか——申候。 VI(3)16

ミ御ミ事——候て VI(8)2

ミはい——申候 VI(29)18

をかミ(拜ミ)〈動〉

御ミ事を—— V(4)6

ミ御ミ事——申候ほどに X(4)1

ミはい——申候 V(25)5, VI(24)13, VI(35)5

Ⅷ(44)22

-をそひ(襲ひ)〈接辞〉 ⇨おそい, おそひ

あんし——かなし V(2)12

をりふし(折り節)〈名〉

——唐より X(9)1

をれ(降れ)〈動〉 ⇨おれ

きこゑ大きみきミの——めしよわちへ

V(20)13, VI(5)13

きこゑ大きみきミの——めしよわちへ

Ⅶ(9)13

かミほとけの——めしよハちゑ Ⅷ(19)9

ん

-ん 〈副助〉

おくのよね—— Ⅶ(12)30

みくによに—— III(9)14

ミしまよね—— III(9)7, Ⅶ(12)23, Ⅷ(23)22

第二節 「田名文書」にみる沖縄語

「田名文書」第一号（1523年）から第十一号（1606年）までの分析を行なう。五十音順の語彙集である。「田名(たな)文書」とは、首里の田名家（麻氏）に保存されていた同家の辞令集三十二枚のことである（仲原善忠「田名文書試解」『仲原善忠全集 第二巻 文学編』）（現在は、沖縄県立博物館蔵）。本文も、「田名文書試解」に拠る。

同文書は、仲原により下記のように三分類されている。

「平仮名書き和文」（第1号～第11号）

第1号（1523年）、第2号（1536年）、第3号（1537年）、
第4号（1541年）、第5号（1545年）、第6号（1551年）、
第7号（1560年）、第8号（1562年）、第9号（1563年）、
第10号（1593年）、第11号（1606年）

「仮名交り和文、漢字を主体とする」（第12号～第16号）

第12号（1627年）、第13号（1630年）、第14号（1631年）、
第15号（1634年）、第16号（1660年）

「漢文」（第17号～第32号）

第17号（1671年）、第18号（1698年）、第19号（1709年）、
第20号（1712年）、第21号（1713年）、第22号（1718年）、
第23号（1720年）、第24号（1732年）、第25号（1749年）、
第26号（1759年）、第27号（1768年）、第28号（1772年）、
第29号（1779年）、第30号（1805年）、第31号（1832年）、
第32号（1850年）

第1号から第11号は、「和文の中に沖縄語がまざり、また、漢字もはさまれている」（仲原）もので、十六世紀から十七世紀頃の「沖縄文語」とも言うべきものを見せてくれる。

- 見出し語と同じ部分を「—」で示す。
- 本文に、行数を示す数字を入れた。
- 所在箇所を文書番号と行数とで示す。

例 「あめく 2—3」は、文書第二号の三行目の意。

本文

(1) 文書第一号

1. しよりの御ミ事
2. たうへまいる
3. たから丸か
4. くわにしやわ
5. せいやりとみかひきの
6. 一人しおたるもい
7. てこくに
8. たまわり申候
9. しよりよりしおたるもい
10. てこくの方へまいる

嘉靖二年八月二十六日

(2) 文書第二号

1. しよりの御ミ事
2. にしはらまきりの
3. あめくのさとぬしところハ
4. にしのおりの
5. 一人くわんしやに
6. たまわり申候
7. しよりよりくわんしやの
8. 方へまいる

嘉靖十五年五月十三日

(3) 文書第三号

1. しよりの御ミ事
2. たうへまいる
3. よつきとみかせん「とうハ」
4. はゑのこおり「の」
5. 一人あめくの大や
6. 「くもいに」
7. たまわり申候
8. しよりよりあめくの
9. 大やくもいの方へまいる

嘉靖十六年八月「二〇」

(4) 文書第四号

1. しよりの御ミ事
2. まなはんゑまいる
3. せちあらとミかちくとのハ
4. つつかねてほりの
5. 一人まさふろてこくに
6. たまわり申候
7. しよりよりまさふろ
8. てこくの方へまいる

嘉靖二十年八月十日

(5) 文書第五号

1. しよりの御ミ事
2. まわしまきりの
3. きまのかなくすくの
4. さとぬしところハ
5. はゑのこおりの
6. 一人あめくの
7. 大やくもいに
8. たまわり申候
9. しよりよりあめくの大やくもいか方へまいる

嘉靖二十四年十一月六日

(6) 文書第六号

1. しよりの御ミ事
2. まわしまきりの
3. きまのさとぬしところハ
4. はゑのこおりの
5. 一人きまかなくすくの
6. 大やくもいに
7. たまわり申候
8. しよりよりかなくすくの大やくもいか方へまいる

嘉靖三十年四月十三日

(7) 文書第七号

1. しよりの御ミ事
2. とよみくすくまきりの
3. 大ミねのさとぬしところハ
4. にしのごおりの
5. 一人せそこの大やくもいに
6. たまわり申候
7. しよりよりせそこの大やくもいか方へまいる

嘉靖三十九年十二月五日

(8) 文書第八号

1. しよりの御ミ事
2. ふさいとミかひきの
3. けらゑあくかへの
4. せんとうハ
5. はゑのこおりの
6. 一人大ミねの大やくもいに
7. たまわり申候
8. しよりより大ミねの大やくもいか方へ参る

嘉靖四十一年十二月五日

(9) 文書第九号

1. しよりの御ミ事
 2. せちあらとミかひきの
 3. さとぬしへけらへあくかへの
 4. せんとうハ
 5. はゑのこおりの
 6. 一人大ミネの大やくもいに
 7. たまわり申候
 8. しよりより大ミネの大やくもいか方へまいる
- 嘉靖四十二年十一月五日

(10) 文書第十号

1. しよりの御ミ事
 2. まわしまきりの
 3. きまのさとぬしところハ
 4. けしのおりの
 5. 一人きまのさとぬし大やくもいに
 6. たまわり申候
 7. しよりよりきまのさとぬし大やくもいか方へまいる
- 万曆二十一年五月十六日

(11) 文書第十一号

1. しよりの御ミ事
 2. ちやくにとミかひきの
 3. さとぬしへけらへ
 4. あくかへのせんとうハ
 5. けしのおりの
 6. 一人おしあけとミか
 7. せんとう大やこもいに
 8. たまわり申候
 9. しよりよりおしあけとミかせんとう大やこもいか方へまいる
- 万曆三十四年八月十一日

索引

㊦

あくかへ

さとぬしへけらへ — 9-3, 11-4

けらえ — 8-3

あめく

2-3, 3-5, 3-8, 5-6, 5-9

㊧

ナシ

㊨

ナシ

㊩

ナシ

㊪

おしあけとミ

11-6, 11-9

御ミ事

1-1, 2-1, 3-1, 4-1, 5-1, 6-1, 7-1, 8-1, 9-1,
10-1, 11-1

大ミね

7-3, 8-6, 8-8, 9-6

大みね

9-8

大やくもい

3-5, 3-9, 5-7, 5-9, 6-6, 6-8, 7-5, 7-7, 8-6,
8-8, 9-6, 9-8

さとぬし — 10-5, 10-7

大やこもい

せんとう — 11-7, 11-9

か

～か

たから丸一 1-3

せいやりとみ一 1-5

よつきとみ一 3-3

せちあらとミ一 4-3, 9-2

大やくもい一 5-9, 6-8, 7-7, 8-8, 9-8, 10-7,
11-9

ふさいとミ一 8-2

ちやくにとミ一 11-2

おしあけとミ一 11-6, 11-9

方

1-10, 2-8, 3-9, 4-8, 5-9, 6-8, 7-7, 8-8,
9-8, 10-7, 11-9

かなくすく

5-3, 6-5, 6-8

き

きま

5-3, 6-3, 6-5, 10-3, 10-5, 10-7

く

くわにしや

1-4

くわんしや

2-5, 2-7

け

けらへ

さとぬしへ一 あくかへ 9-3, 11-3

けらゑ

一 あくかへ 8-3

こ

こおり

2-4, 3-4, 5-5, 7-4, 8-5, 9-5, 10-4, 11-5

こほり

6-4

さ

さとぬし大やくもい

10-5, 10-7

さとぬしところ

2-3, 5-4, 6-3, 7-3, 10-3

さとぬしへ

—けらへあくかへ 9-3, 11-3

~候

申候—1-8, 2-6, 3-7, 4-6, 5-8, 6-7, 7-6, 8-7,

9-7, 10-6, 11-8

し

しおたるもい

1-6, 1-9

しより

1-1, 1-9, 2-1, 2-7, 3-1, 3-8, 4-1, 4-7, 5-1,

5-9, 6-1, 6-8, 7-1, 7-7, 8-1, 8-8, 9-1, 9-8,

10-1, 10-7, 11-1, 11-9

す

ナシ

せ

せいやりとみかひき

1-5

せそと

7-5, 7-7

せちあらとミ

—かちくとの 4-3

—かひき 9-2

せんとう

あくかへの — 8-4, 9-4, 11-4

よつきとみか — 3-3

おしあけとミか — 大やくもい 11-9

おしあけとミか — 大やこもい 11-7

㊦

ナシ

㊧

たう

1-2, 3-2

たから丸

1-3

たまわり

— 申候 1-8, 2-6, 3-7, 4-6, 5-8, 6-7, 7-6,
8-7, 9-7, 10-6, 11-8

㊨

ちくとの

せちあらとミか — 4-3

㊩

つつかねてほり

4-4

㊪

てこく

1-7, 1-10, 4-5, 4-8

㊫

~とみ

せいやり — 1-5

よつき — 3-3

~とミ

せちあら — 4-3, 9-2

ふさい — 8-2

ちやくに — 11-2

おしあけ — 11-6, 11-9

とよみくすく

7-2

㊦

ナシ

㊧

～に

てこくー 1-7, 4-5

くわんしやー 2-5

大やくもいー 5-7, 6-6, 7-5, 8-6, 9-6, 10-5,
11-7

にし

2-4, 7-4, 10-4, 11-5

にしはら

2-2

㊨

ナシ

㊩

ナシ

㊪

～の

しよりー 1-1, 2-1, 3-1, 4-1, 5-1, 6-1, 7-1,
8-1, 9-1, 10-1, 11-1

…ひきー 1-5, 8-2, 9-2, 11-2

てこくー 1-10, 4-8

まきりー 2-2, 5-2, 6-2, 7-2, 10-2

あめくー 2-3, 3-5, 3-8, 5-6, 5-9

にしー 2-4, 7-4, 10-4, 11-5

こおりー 2-4, 3-4, 5-5, 7-4, 8-5, 9-5, 10-4,
11-5

こほりー 6-4

くわんしやー 2-7

はゑー 3-4, 5-5, 6-4, 8-5, 9-5

大やくもいー 3-9

つつかねてほりー 4-4

きまー 5-3, 6-3, 10-3, 10-5, 10-7

かなくすくー 5-3, 6-5, 6-8

大ミねー 7-3, 8-6, 8-8, 9-6, 9-8

せそこー 7-5, 7-7

あくかへー 8-3, 9-3, 11-4

☐

～ハ

さとぬしところー 2-3, 5-4, 6-3, 7-3, 10-3

せんとうー 3-3, 8-4, 9-4, 11-4

ちくとのー 4-3

はゑ

3-4, 5-5, 6-4, 8-5, 9-5

☐

～ひき

せいやりとみかー 1-5

ふさいとミかー 8-2

せちあらとミかー 9-2

ちやくにとミかー 11-2

一人

1-6, 2-5, 3-5, 4-5, 5-6, 6-5, 7-5, 8-6, 9-6,
10-5, 11-6

☐

ふさいとミ

ーかひき 8-2

☐

～へ

たうー 1-2, 3-2

方ー 1-10, 2-8, 3-9, 4-8, 5-9, 6-8, 7-7,
8-8, 9-8, 10-7, 11-9

☐

ナシ

ま

まいる

1-2, 1-10, 2-8, 3-2, 3-9, 4-2, 4-8, 5-9,
6-8, 7-7, 9-8, 10-7, 11-9

参る

8-8

～申

一候 1-8, 2-6, 3-7, 4-6, 5-8, 6-7, 7-6, 8-7,
9-7, 10-6, 11-8

まきり

2-2, 5-2, 6-2, 7-2, 10-2

まさふろ

4-5, 4-7

まなはん

4-2

まわし

5-2, 6-2, 10-2

み

ナシ

む

ナシ

め

ナシ

も

ナシ

や

ナシ

ゆ

ナシ

よ

よつきとみ

3-3

～より

しよりー 1-9, 2-7, 3-8, 4-7, 5-9, 6-8, 7-7,
8-8, 9-8, 10-7, 11-9

㊦

ナシ

㊧

ナシ

㊨

ナシ

㊩

ナシ

㊪

ナシ

㊫

～わ

くわにしゃー 1-4

㊬

ナシ

㊭

～ゑ

まなはんー 4-2

㊮

ナシ

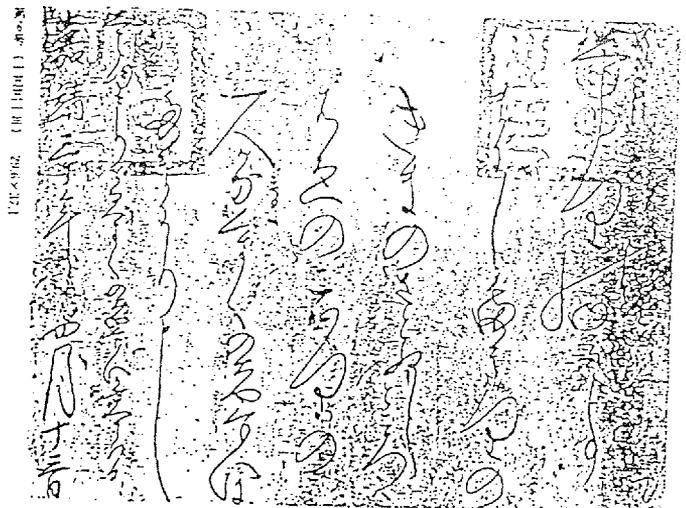
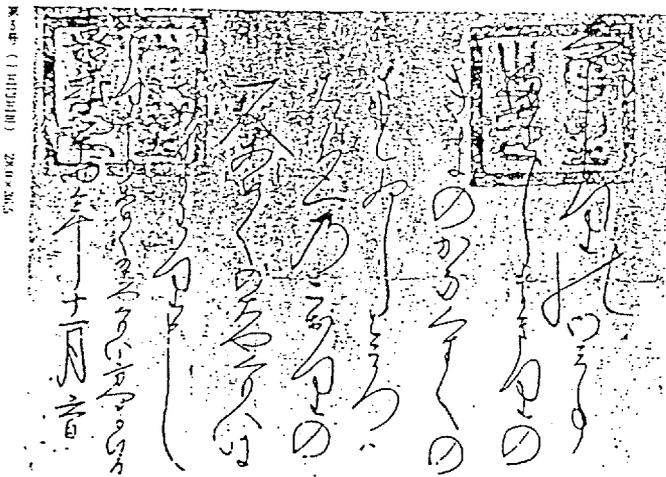
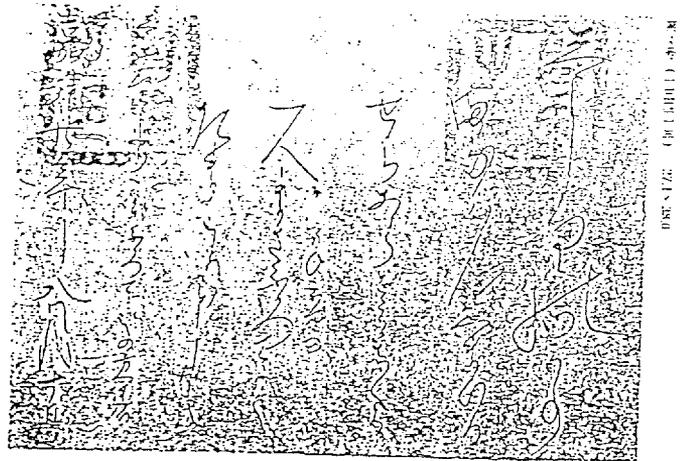
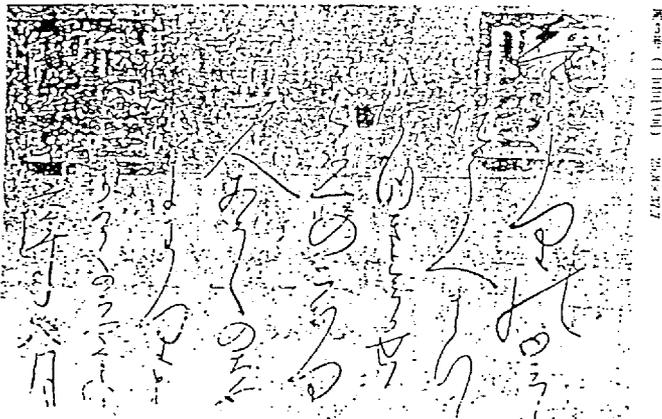
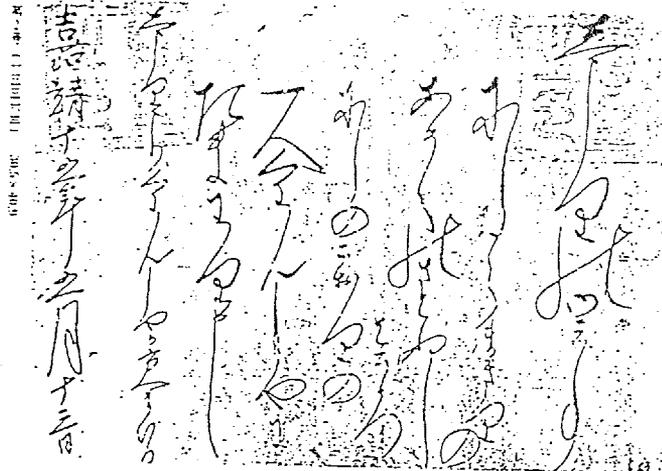
㊯

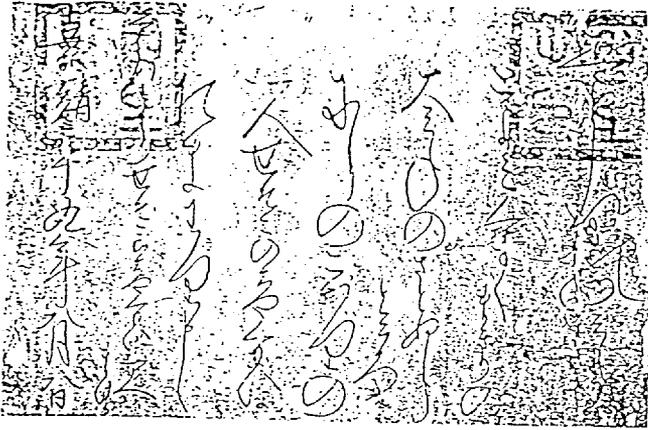
ナシ

田名文書

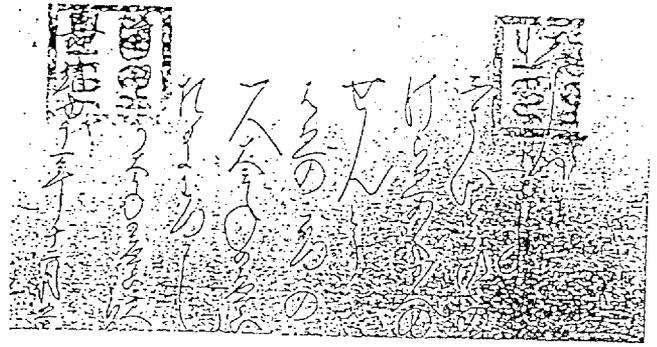
『企画展 田名家所蔵品展—ある首里士族の400年—』

(沖縄県立博物館 1987年)

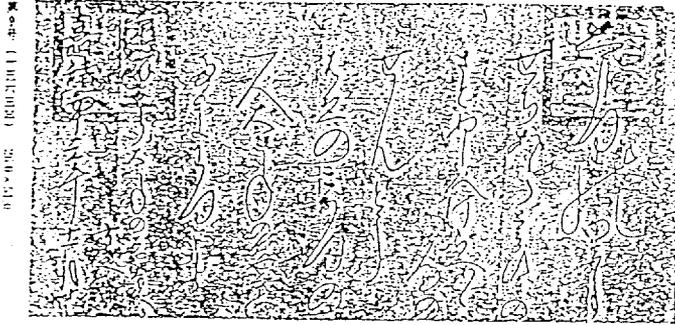




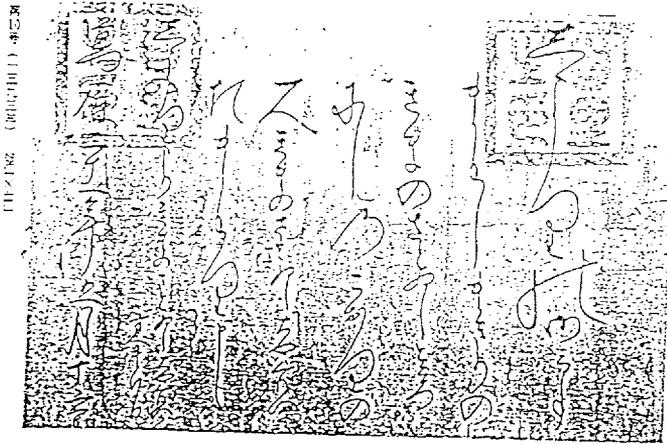
Kōchō (Kōchō) 27.5x41.0



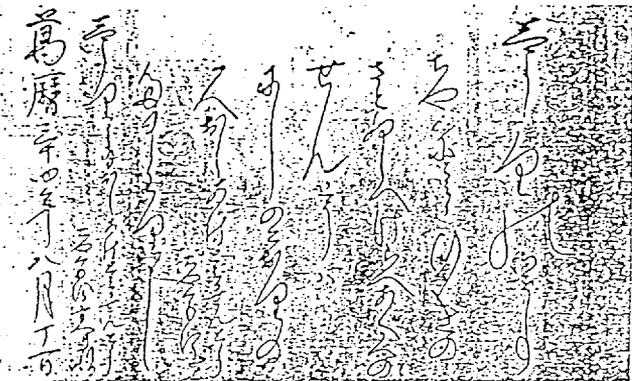
Kōchō (Kōchō) 26.2x43.8



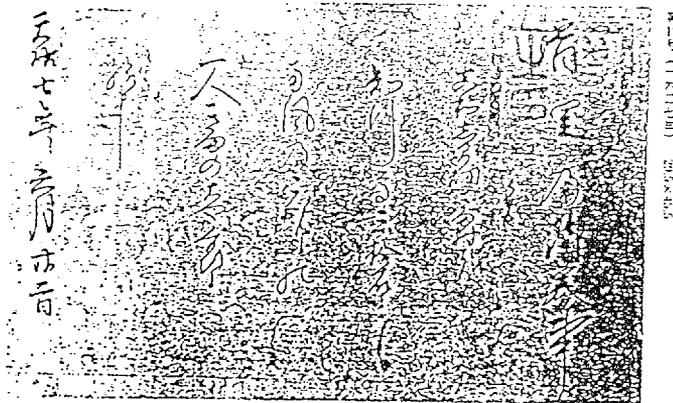
Kōchō (Kōchō) 28.0x41.0



Kōchō (Kōchō) 28.1x41.1



Kōchō (Kōchō) 27.8x41.0



Kōchō (Kōchō) 28.8x43.5

第三節 「琉球官話集」にみる沖縄語

『琉球官話集』の「呼称類、内外親属称呼之類、向人回答類、人物死後称呼之言、応答人物死後之類、身体之類、食物之類」中の仮名で表記された「琉球語」を分析し、五十音順に配列する。

本文は、「宮良當壯全集 10 琉球官話集」に拠る。

官話とは、清朝時代の公用語・標準語のことであるが、近世の「琉球」では、冊封・進貢貿易等に関して中国人との間で使われた中国語を言う。その学習書が「官話集」である。それに付された「琉球語」の分析である。

☆ 「漢語」項目に、通し番号を付す。（「頭註」は対象外とした。）

☆ 見出し語は、ひらがなとし、「歴史的仮名遣い」による。漢字の当てられるものは、そのようにする。ただし、送り仮名は省く。

☆ 「助動詞」「助詞」のみについて、<助動><助>のように品詞名を付す。判別の便宜上、（文法的）「意味」も示す。例えば、次のとおり。

た <助動><過去>
の <格助><主格>

あくび (欠伸)

アクビ 305 打疴 — 愛眠也

306 呵欠 — ノラビ

あさ (朝)

アサ 476 早飯 シテミチメシ — メシ

477 午飯 ヒルマモノ — バン

あさげ (朝食)

シテミチメシ 476 早飯 — アサミシ

アサミシ 476 早飯 シテミチメシ —

あさざ

ビイナ 591 苜蓿 —

あさる (漁)

アサル 341 刷牙 ハンザキヤア ハー

あし (脚)

アシ 522 蒸蹄 インブシブター

アス 520 勝蹄 ブター

ヒサ 221 伸脚 — ノベル

222 脚踢 — ザキ

223 後跟 — ノアル

ヒシヤ 224 脚面 — ノワタ

372 脚底板 — ノウラ

あしさき (足先)

アシザキ 222 脚踢 —

あせ (汗)

アシ 279 汗水 —

あせも (汗疹)

アスポ 294 瘡子 —

㊦

あか (赤, 紅)

アカ 429 紅糰 — カウズ

あか (垢)

アカ 278 垢垢

あかかうじ (赤麴)

アカカウズ 429 紅糰 —

あぎと (腰門)

カクス 238 腰帶 —

あぐ (揚)

アゲ 383 油札糕 アンラークワシ ア

ンラゲイ

ゲイ 383 油札糕 アンラアゲクワシ

アンラー

330 汗瘡 —
 あつざけ (熱酒)
 アツザケ 542 熱酒 —
 543 盞酒 — アツラシザケ
 あつし (熱)
 アツ 542 熱酒 —ザケ
 あつらす (?) (熱)
 アツラシ 543 盞酒 上全 —ザケ
 アツラス 555 炖茶 温茶也 チヤー
 あは (粟)
 アハ 393 饅頭齋 —マンツヨ
 433 小米 —
 あばた (痘痕)
 クモザ 197 麻臉 — 面帶痘迹
 あはまんぢゆう (粟饅頭)
 アハマンツヨ 393 饅頭齋 —
 あひる (家鴨)
 アヒル 523 鴨肉 —ノセ、
 524 蒸鴨 ンボシー
 525 鴨蛋 一ノコヲガ
 あふ (合)
 イヤエ 488 便飯 アリーノモノ
 あぶら (油)
 アンラ 383 油札糕 —アゲクワシ —
 アゲイ
 509 肥肉 —ズシ
 565 茶油 ツハチ—
 567 蒜油 マアヨ マアー
 アンダ 566 香油 ウクマー
 あぶらあげ (油揚)
 アンラアゲ 383 油札糕 —クワシ ア
 ンラゲイ
 アンラゲイ 383 油札糕 アンラアゲク
 ワシ —
 あぶらあげくわし (油揚菓子)
 アンラアゲクワシ 383 油札糕 — ア
 ンラゲイ
 アマザケ 541 福酒 マキリノウナガリ
 サケ —
 あまし (甘?)
 アマ 541 福酒 マキリノウナガリサケ
 —ザケ
 あらたし (新)
 アラ 276 破爪 女子初与人交合開色也
 —ホガシ
 あらほがし (破爪)
 アラホガシ 276 破爪 女子初与人交合
 開色也 —
 あり (有)
 アリ 488 便飯 —イヤエノモノ
 アン 346 有病 ヤマエノ—
 ありあふ (有合)
 アリエヤエ 488 便飯 —ノモノ
 あをし (青, 緑)
 アヲ 452 緑豆 —マミ
 466 稻糲 —ヨ子 粗米也
 あをまめ (青豆, 緑豆)
 アヲマミ 452 緑豆 —
 あをよね (青米, 緑米)
 アオヨ子 466 稻糲 — 粗米也
 あん (餡)
 アン 411 包子 —モキ
 413 包心 マンツヨノ—
 422 糰子 —モキ 上同
 あんもち (餡餅)
 アンモキ 411 包子 —
 422 糰子 — 上同

㊦

いづ (出)

- イギル 322 発熱 ニツノー
 イジル 327 出膿 ウメノー 上全
 イシル 329 拔膿 ウメノー
 テル 231 溼尿^{シヨビン} シイバエ
 ヨー

いぬ (犬)

- イン 505 狗肉 一ノセ、

いね (稲)

- イ子 464 稲谷 一ムメ
 465 禾穗 一ノホヲ

いねもみ (稲粃)

- イ子ムメ 464 稲谷 一

いまだ (未)

- ニヤラ 193 蓬頭 一サバカンカラズ
 ホリイカラズ 髪乱
 也

いも (芋)

- イモ 425 番薯 一 ハンツン一
 427 地瓜 一
 608 山薬薯 カヤー

いりしし (炒肉)

- イリキジ、 511 炒肉 一

いる (入)

- イリ 286 疹瘡 ガサ
 195 仮髪 女ノーカン
 イリ、 486 盛飯 メシー
 553 泡茶 チャー チャワカス

いる (炒)

- イリキ 511 炒肉 一ジ、

いれがみ (入髪)

- イリカン 195 仮髪 女ノー

いを (魚)

- イヲ 526 鮮魚 ナマー
 527 煎魚 カアカシー
 528 鹹魚 シヨー
 534 魚腥 一ナマシ

いをなます (魚胎)

- イヨナマシ 534 魚腥 一

いんげんまめ (隠元豆)

- ウコマメ 447 扁食 一
 ウクマミ 454 扁豆 一

㊧

うごま (胡麻)

- ウクマ 566 香油 一アング
 ウグマ 588 芝蔴 一

うし (牛)

- ウセ 502 牛肉 一ノセ、

うしろ (後)

- ウシル 182 頭後 一クブ
 189 脳坑 一コブ

うしろくぼ (後窪)

- ウシルクブ 182 頭後 一
 ウシルコブ 189 脳坑 一

うす (臼)

- ウラス 470 碓米 モミーニスル

うつ (打)

- ウチ 362 眼跳 目屢跳動也 メイボト
 キスル ミーシヨル]

うみ (膿)

- ウミ 325 作膿 一ノツク 上全
 326 瀑膿 一ノイヤイル
 ウメ 324 灌膿 一カサノーツ、モ
 327 出膿 一ノイジル 上全
 329 拔膿 一ノイシル

うら (裏)

- ウラ 372 脚底板 ヒシヤノー

うり (瓜)

ウエ 578 糟瓜 カスキケ—
581 青瓜 モフ—
582 甜瓜 モフ— 北京

うるち (梗)

サクグミ 462 冬米 — カンミイ
サクグメ 463 粳米 — ヤハラグミ
カンミイ 462 冬米 サクグミ —
ヤハラグミ 463 粳米 サクグメ —

うんさい (雲菜)

ウンツヤ 601 蕘菜 —

うんぺん (雲片)

ウンパン 377 雲片糕カウ —カウ

㊦

なし

㊧

お (御)

ウ 541 福酒 マキリノ—ナガリサケ
アマザケ

おく (奥)

ウク 235 大牙 —ハ

おくば (奥歯)

ウクハ 235 大牙 —

おそふ (襲, 被)

ウソヤ 209 眼罩メ—

おとがひ (頤)

ウトガエ 237 地閣 —

おふし (啞)

ツイグヲ 308 啞吧 —

おほ (大)

ウフ 313 大舌 ウホシタ —ゲキスル
シタクワエ
374 大拇指 —オヘビ

437 大麦 —ムジ

ウホ 214 拇指 —イビ

313 大舌 —シタ ウフ

グキスル シタ

クワエ

おほし (多)

ウホサ 347 多病 ヤマエノ—

おや (親)

ウヤ 36 乾母 ヤシナイ—

おゆび (指)

オヘビ 373 手指頭 —

374 大拇指 ウフ—

ウヘビ 376 無名指 ナラシ—

イビ 213 中指 ナカー

214 拇指 ウホ—

375 小拇指 —ンクワ

㊨

かうじ (麴)

カウズ 429 紅糴 アカー

かうらい (高麗)

クヲリヤ 570 花椒 —グソ

かきがさ (搔癢)

カキガサ 292 小瘡 — グマガサ

かく (搔)

カキ 292 小瘡 —ガサ グマガサ

カク 339 爬耳 ミ、—

340 抓痒 ヲヘカウサ—

かく (欠)

カ、 360 缺唇 スバー

かさ (瘡)

カサ 288 瘡痒 —ノヲヘ カフサ

321 生瘡 —ノシヤウジタン

324 灌膿 —ノウメツ、モ

328 収口 —ノコキクナル

- 287 賊痘 ハシ 壊痘
291 痘疵 痘壳也 キヨラーノケツ
ガサ 285 痘瘡 キヨラー
286 疹瘡 イリー
292 小瘡 カキー グマー
293 蠟瘡 アマバイ ハイー
319 疔瘡 チヤウー
- かしき (炊飯)
カシキエ 481 蒸飯 ー
かしら (頭)
カラアジ 280 頭疼 ーノヤリ
カラズ 179 頭首 ー
カマキ 181 頭角 カター
かしらげ (頭髮)
カラズ 191 頭髮 ー
193 蓬髮 ニヤラサバカン ー
ホリイ ー 髮乱也
- かす (粕)
カシ 549 酒渣 ーザイ
カス 577 糟菜 ーツケツケナ
578 糟瓜 ーキケウエ
- かすてら (Pão de Castella)
カステラ 384 鶏蛋糕 ー
- かた (片)
カタ 181 頭角 ーカマキ
かたし (濃)
カタ 551 濃湯 ージル
かたし (固)
カタ 244 顴骨 ーズラ
かたじる (濃汁)
カタジル 551 濃湯 ー
かたつら (固面?)
カタズラ 244 顴骨 ー
がてう (鷓鳥)
ガアナタ 529 鷓肉 ーせ、
- 530 焼鶴 ヤキー
かは (皮)
カア 205 眼皮 ミノー
225 筋条 ーズ
332 眼皮 ミイノー 重出
ガ 251 肚皮 ワター
かはく (乾)
カケハル 358 口渴 クツ
かはすち (皮筋?)
カアズ 225 筋条 ー
かはら (瓦)
ガアラ: 370 脖罗蓋 チンシー
かぶ (蕪)
カボ 596 蕪青 ー シリノルイ
インリ 597 菜頭 ー
ンリ 596 蕪青 カボ ーノルイ
かまち (輔?, 框?)
カマキ 181 頭角 カタ
かまほこ (蒲鋒)
カマブク 408 肉員 シ、ー
かみ (髪)
カン 195 仮髮 女ノイリー
かむ (咬, 食)
カミ 485 吃飯 モノー
かゆ (粥)
カイ 496 煮粥 ータク
497 稀飯 ー
498 啜粥 ーノム
かゆし (痒)
ヲヘカウサ 340 抓痒 ーカク
から (唐?) (辛?)
カヤ 608 山藥薯 ーイモ
からいも (唐芋?, 辛芋?)
カヤイモ 608 山藥薯 ー
からし (辛子)

カラス 573 芥 辣 カイラシ 一
 からしな (辛子菜)
 カラスナア 595 芥菜 ナア 一
 かわかす (乾)
 カアカシ 527 煎魚 一イヨ
 かんたうふ (寒豆腐)
 カンタヲホ 557 豆干 一
 かんまい (寒米)
 カンミイ 462 冬米 サクグミ 一

㊦

き (黄)
 キ 600 胡 薑 コウキョウ 一リヤク子
 609 黄 羅 蔔 コウロク 一タイク子イ
 きうり (胡瓜)
 ケウエ 598 瓜菜 一
 きく (菊)
 キク 605 萵 蒿 菜 コウキョウ ション一
 きず (疵)
 ケジ 203 艾 疔 ヤツヨ一
 ケツ 291 痘 疵 痘 壳 也 キヨウカサノ一
 きだいこん (黄大根)
 チヤリヤク子 600 胡 薑 コウキョウ 一
 チタイク子イ 609 黄 羅 蔔 コウロク 一
 きつぺん (橘餅)
 チパン 431 桔 餅 一
 きば (牙)
 チイバ 234 牙 齒 一 ハア
 きび (黍)
 キビ 460 高 粱 一
 きも (肝)
 キモ 366 心 頭 一
 367 心 肝 上 全
 きよら (清)
 キヨラ 285 痘 瘡 一ガサ

291 痘 疵 痘 壳 也 一カサノケツ
 ツヨラ 198 光 臉 一ズラ
 きよらかさ (清痘)
 キヨラカサ 291 痘 疵 痘 壳 也 一ノケツ
 キヨラガサ 285 痘 瘡 一
 きよらつら (清面)
 ツヨラズラ 198 光 臉 一
 きりにら (切菲)
 キリビラ 589 菲 菜 キリ 一
 きりもち (切餅)
 チリモツ 445 大 麩 一
 きる (切)
 キリ 589 菲 菜 キリ 一ビラ
 チリ 445 大 麩 チリ 一モツ

㊦

くさし (臭)
 コサ、 357 嚼 臭 クキノ 一
 くそ (糞)
 クソ 206 眼 屎 クソ ミ一
 338 耳 屎 クソ ミ、一
 355 鼻 屎 ハナ一
 くち (口)
 クキ 356 歪 嘴 クキ 一ヤウガア
 357 嘴 臭 一ノコサ、
 クツ 358 口 渴 クツ 一カハケル
 コキ 328 収 口 カサノ一クヲル
 グキ 313 大 舌 ウホシタ ウフースル
 シタクワエ
 314 刀 舌 ヤナースル
 くちびる (唇)
 スバ 359 嘴 唇 クキ 一
 360 缺 唇 一カ、
 くず (葛)
 コジ 428 葛 粉 クジ ワラビ一

くづる (崩)
クジラア 337 耳聾 ミ、ー

くびす (踵)
アル 223 後跟 ヒサノー

くぼ (窪)
クブ 182 頭後 ウシルー
コブ 189 脳坑 ウシルー

くぼむ (窪)
コブミ 369 膈子窩 ワキノー

くむ (編)
グン 192 辮子 ヒラー

くろし (黒)
コル 450 烏豆 ーマメ
451 黒豆 上同

コ、 364 黒仁 ミイノーミ

くろまめ (黒豆)
コルマメ 450 烏豆 ー
451 黒豆 上同

くろめ (黒目)
コ、ミ 364 黒仁 ミイノー

くわし (菓子)
クワシ 377 雲片糕 ウンパンー
383 油札糕 アンラアゲー ア
ンラゲイ

401 軟糕 ノンクウフー

クワス 402 糠糕 ー
403 餅糕 上同
424 糖樛 サトフモキ ー

㊦

け (毛)

ゲ 199 苦毛 ホクー
272 下毛 コラー
273 陰毛 女ノコラー
274 陽毛 男ノコラー

けじらみ (毛虱)
ヒヤアン 275 烏螿 ー

㊧

こ (子)
クワ 37 乾児 ヤシナイー

こ (粉)
クワ 396 蕎麥粉 ソバー
コ 432 米粉 ヨヲノー

コヲ 439 麩粉 モジノー
560 麩醬 上全 モジノーミン

グワ 436 中粉 ナカー

こ (小)
グマ 292 小瘡 カキガサ ーガサ

こ (一小)
クワ 157 先叔 亡父之弟也 シ、ルヲ
ザ、アー
375 小拇指 イビンー
409 口包 マンツヨー

コハ 334 鼠眼 メイー

こがさ (小瘡)
グマガサ 292 小瘡 カキガサ ー

ここ (此所)
コ、 268 陰門 女ノー

ござう (五臟)
グザウ 368 五臟 ー

こし (脊)
クシ 211 手背 テイノー
255 脊背 ーナガニ

こし (腰)
コシ 282 腰疼 ーノヤモン

こしざけ (醜酒)
コシザケ 540 醜酒 ー 下酒也 斟酒也

こす (濾)
コシ 540 醜酒 ーザケ 下酒也 斟酒也

こせ (古癖)
カウス 289 癬瘡 一 シゴキヤハ
290 疥瘡 上全
カフサ 288 瘡痒 カサノヲヘ 一
シゴキヤハ 289 癬瘡 カウス 一
こせう (胡椒)
クソ 571 班椒 一
グソ 570 花椒 クヲリヤー
568 胡椒 一
569 番椒 上全
こと (事)
| 362 眼跳 目屢跳動也 メイボトミ
キスル ミウチシヨルー
こはげ (強毛, 陰毛)
コヲゲ 272 下毛 一
273 陰毛 女ノ一
274 陽毛 男ノ一
こはし (強, 硬)
クハ 242 胃坎 一ム子
243 胃臆 一ム子ノシタ 上全
コヲ 272 下毛 一ゲ
273 陰毛 女ノ一ゲ
274 陽毛 男ノ一ゲ
こはむね (強胸, 硬胸)
クハム子 242 胃坎 一
243 胃臆 一ノシタ 上全
こはる (強, 硬)
クハ 266 硬了 一タン タ子ノウワル
クワエ 313 大舌 ウホシタ ウフゲキ
スル シター
ウワル 266 硬了 一クハタン タ子ノ一
こぶ (瘤)
グヲホ 184 枕骨 マクラ一
こぶし (拳)
カウサア 216 虎拳 一

テイズクン 215 拳頭 一
こほり (氷)
コヲリ 430 冰糖 一サタウ
こほりさたう (氷砂糖)
コヲリサタウ 430 冰糖 一
こむぎ (小麦)
ンナムジ 438 小麦 一
こむら (腓)
コンダ 259 小腿 一
260 腿肚 一
こめ (米)
コミ 471 舂米 一シラケル
472 搗米 一ワル 上全
473 篩米 一ヨル
グミ 434 白米 シラゲ一
461 粳米 モキ一
462 冬米 サク一 カンミイ
463 粳米 サクグメ ヤハラ一
グメ 463 粳米 サク一 ヤハラグミ
ゴミ 475 炒米 ハキヤ一
クビ 397 西国米 シイヤカー

さ

さい (菜)
サイ 489 菜飯 一ハン
602 婆蓂菜 ホルゴ一
サアイ 483 撈飯 シヤイバン 一ンハン
シャイ 483 撈飯 一ンバン サイン
ハン
さいごくこめ (西国米)
シイヤカクビ 397 西国米 一
さいはん (菜飯)
サイハン 489 菜飯 一
サインバン 483 撈飯 シヤインバン

シヤインバン 483 撈飯 — サアイン
ハン

さうまい (糙米)
ノヲマイ 469 米未搗者 —

さうめん (索麩)
サウミン 442 索麩 —
サウメン 443 線麩 —

さき (先)
ザキ 222 脚踢 ヒサ—

さけ (酒)
サケ 541 福酒 マキリノウナガリ—
アマザケ
544 斟酒 —ツグ 杯ニツク也
545 篩酒 上全
546 罈酒 上全
547 倒酒 上全
ザケ 540 釀酒 コシ— 下酒也 斟酒
也
541 福酒 マキリノウナガリサケ
アマ—
542 熱酒 アツ—
543 盞酒 上全 アツラシ—

さけかす (酒粕)
カシザイ 549 酒渣 —

ささげ
ホヲダヲ 453 豇豆 —マミ
459 菜豆 —マミ
ホヲラフ 599 豆結 —

さたう (砂糖)
サタウ 430 冰糖 コヲリ—
サトフ 424 糖粿 —モキ クワス

さたうもち (砂糖餅)
サトフモキ 424 糖粿 —

さといも (里芋)
ツンノコ 426 芋頭 —

さばく (裁)
サバカ 193 蓬頭 ニヤラ—ジカラズ
ホリイカラズ 髮乱
也

㊦
じ (持)
ジイ 296 痔瘡 —
しし (肉)
シ、 408 肉員 —カマブク
508 精肉 マ—
510 瘦肉 マ—
513 蒸肉 ンブシブタ —ンブシ
533 魚飯 —ミシ
ジ、 511 炒肉 イリキ—
512 焼肉 ヤキ—
ス、 412 肉包 —マンツヨ
セ、 500 肉羹 —ノシル
502 牛肉 ウセノ—
514 煮肉 子イ—
せ、 503 鶏肉 トエノ—
504 羊肉 ヒキズノ—
505 狗肉 インノ—
506 猪肉 ホター
523 鴨肉 アヒルノ—
529 鶩肉 ガアナア—
ズシ 509 肥肉 アンラ—
ズせ 507 炖肉 ンボシ—

しす (死)
シ、 157 先叔 亡父之弟也 —ルヲ
ザ、アクワ

した (舌)
シタ 233 舌頭 —
309 舌頭 — 重出
310 舌根 —ノ子イ

313 大舌 ウホー ウフグキスル
 ークワエ

した (下)

シタ 243 腎腫 クハム子ノ一

シキヤ 250 小肚 一ワタ

しほ (塩)

シヨ 515 塩肉 一ブタ
 528 鹹魚 一イヨ
 532 魚養 乾魚也 一ツケ

しほいを (塩魚)

シヨイヨ 528 鹹魚 一

しほづけ (塩漬)

シヨツケ 532 魚養 乾魚也 一

しほぶた (塩豚)

シヨブタ 515 塩肉 一

しほる (絞)

シボエ 315 痢病 リイビウフ 一ハタ

しほりわた (絞腸)

シボエハタ 315 痢病 リイビウフ 一

しやうが (生姜)

シヤウガ 574 糟音 ツケー
 610 生薑 ナマー

しやうず (生)

シヤウジ 321 生瘡 カサノ一タン

しやうゆ (醤油)

シヤウヨ 562 清醬 一
 563 醬油 一

しゆんぎく (春菊)

シヨンキク 605 茼蒿菜 一

じゆんさふ (吮唾)

ンタラ一307 吮唾 一

しらぐ (精)

シラゲ 434 白米 一グミ

シラケル 471 舂米 コミー

しらげごめ (精米)

シラゲグミ 434 白米 一

しらばい (白遺)

シラバイ 201 汗斑 一
 298 汗痲 一

しり (尻)

チビ 226 屁股 一

しる (汁)

シル 500 肉羹 セ、ノ一
 501 菜湯 一
 552 清湯 一

ジル 551 濃湯 カター

しろうり (白瓜)

モフウエ 581 青瓜 一
 582 甜瓜 一 北京

しろし (白)

シル 363 白仁 ミイノ一ミ
 449 白豆 一マミ

しろまめ (白豆)

シルマミ 449 白豆 一

しろめ (白目)

シルミ 363 白仁 ミイノ一

しん (心)

シン 361 眼睛 メノ一

しんしゃく (斟酌) ?

シンシヤク 342 精漿 一
精取和地

㊦

す (為)

スル 313 大舌 ウホシタ ウフグキ一
 シタクワエ
 314 刀舌 ヤナグキ一
 333 斜眼 ヒキミー シヤウマア
 362 眼跳 目屢跳動也 メイボト
 ミキ一 ミウチシヨ
 ル]

シヨル 362 眼跳 目屢跳動也 メイボ
トミキスル ミウチー]

す (酢)

スエ 572 酸醋 — ハヤイ

ハヤイ 572 酸醋 スエ —

ず (助動) (打消)

ン 193 蓬頭 ニヤラサバカーカラズ
ホリイカラズ 髮乱也

すがめ (眇)

シヤウマア 333 斜眼 ヒキミスル —

すぢ (筋)

カアズ 225 筋条 —

する (擦)

スル 470 礎米 モミウラスニ—

㊦

せうちう (烧酎)

ソウフキヨ 539 烧酎 氣酒 —

せうべん (小便)

シヨビン 231 溲尿 — シイバエヨテル

262 窩尿 — 上同

263 小便 —

せき (咳)

サクエ 303 咳嗽 —

せむし (偃僕)

カウグヲ 佗背 背不能伸 —

クウグヲ 258 湾腰 クシ—

せんきゆう (川芎)

センチヨ 594 芎菜 —

㊧

そば (蕎麦)

ソバ 396 蕎麦粉 — クヲ

そばこ (蕎麦粉)

ソバクヲ 396 蕎麦粉 —

そふ (添)

スイリ 487 添飯 メシー

㊨

だいこん (大根)

タイク子イ 609 黄蘿蔔 チ—

リヤク子 600 胡蘿蔔 —

たいふしんばん

タイフシンバン 484 饑飯 —

だいべん (大便)

リヤビン 261 大便 —

たう (唐)

トウ 455 田豆 — マアメ

457 豌豆 インラヲマミ — マアミ

458 蚕豆 — マミ

たうがらし (唐辛子)

クオリヤグソ 570 花椒 —

たうふ (豆腐)

タウホ 556 豆腐 —

558 豆乳 — イヤウ

タヲホ 557 豆干 カン—

トウフ 448 黄豆 — マメ

たうふまめ (豆腐豆)

トウフマメ 448 黄豆 —

たうふゆ (豆腐湯)

タウホイヤウ 558 豆乳 —

たうまめ (唐豆)

トウマアメ 455 田豆 —

トウマアミ 457 豌豆 インラヲマミ —

トウマミ 458 蚕豆 —

たく (炊)

タク 496 煮粥 カイ—

タケ 480 煮飯 メシー

たち (太刀)

タキ 456 刀豆 — ワキ

たちはき (太刀佩)
 タキワキ 456 刀豆 一
 たな (棚)
 ザナ 398 年糕 正月餅 トシーモキ
 たね (種)
 タナ 467 稗子 一ガエイ子
 たね (陰莖)
 タ子 245 肌肥 一
 246 毳毳 上全
 265 卵抛 一ノクヲガ ヤクワン
 266 硬了 音取 擬建音型 タハタン 一ノウワル
 267 軟了 音フロン 擬建音ヨケン ヤハラシヤ 一ノダデ
 ル
 たねがはり (種変)
 タナガエ 467 稗子 一イ子
 たまご (卵)
 クヲガ 265 卵抛 タネノー ヤクワン
 コヲガ 525 鴨蛋 アヒルノー
 531 雞蛋 トエノー
 たり (助動) (完了)
 タン 266 硬了 音取 擬建音型 クハー タ子ノウワル
 321 生瘡 カサノシヤウジ
 たる (垂)
 ダデル 267 軟了 音フロン 擬建音ヨケン ヤハラシヤ タ子ノ
 一
 ライ 354 鼻水 ハナ一
 たわむ (撓)
 タマヤ 196 凹面 チラー 面如船也
 だんご (団子)
 ダアグ 423 湯具 一
 ㊦
 ち (血)
 キイ 302 吐血 一ハク
 ち (乳)

チイ 365 奶乳 一
 ぢまめ (地豆)
 ズマアミ 389 落花生 一
 ちや (茶)
 チヤ 553 泡茶 一イリ、 一ワカス
 554 烹茶 上同
 555 炖茶 温茶也 一アツラス
 ちやうがさ (疔瘡)
 チヤウガサ 319 疔瘡 一
 ちゆうぶ (中風)
 キヨブ 343 中風 一

㊦

つく (付)
 ツク 325 作膿 ウミノ一上全
 ツキ 495 鍋粍 ナン一
 つく (潰)
 ツケ 532 魚糞 乾魚也 シヨ一
 574 糟糞 一シヤウガ
 575 鹹菜 一ナ
 576 醃菜 上全
 577 糟菜 カスツケ一ナ
 579 醬菜 ミソズケ一ナ
 580 淹蒜 一ヒル
 ズケ 579 醬菜 ミソ一ツケナ
 ズケ 577 糟菜 カス一ツケナ
 キケ 578 糟瓜 カス一ウエ
 つく (注)
 ツグ 544 斟酒 サケ一 杯ニツク也
 545 飾酒 上全
 546 昏酒 上全
 547 倒酒 上全
 ツク 544 斟酒 サケツグ 杯ニ一也
 つくる (作)
 ツヨクリ 482 做饭 メセ一

つけしやうが (漬生姜)
 ツケシヤウガ 574 糟薑 一
 つけな (漬菜)
 ツケナ 575 鹹菜 一
 576 醃菜 上全
 577 糟菜 カスツケー
 579 醬菜 ミソズケー
 つけひる (漬蒜)
 ツケヒル 580 淹蒜 一
 つじ (旋毛)
 キバ 180 腦頂 ヒヨルキ 一
 つつむ (包)
 ツ、モ 324 灌膿 カサノウメー
 つとめて
 シテミテ 476 早飯 一ミシ アサミシ
 つばき (椿)
 ツハチ 565 茶油 一アンラ
 つばきあぶら (椿油)
 ツハチアンラ 565 茶油 一
 つめ (爪)
 ツメ 212 指甲 一
 ツマグ 521 爪尖 ブター
 つら (面)
 チラ 196 凹面 一タマヤ 面如船也
 ズラ 244 顛 カター
 つんぼ (聾)
 ミ、クジラア 337 耳聾 一

㊦

て (手)

テイ 210 手臂 一ノヒギ
 211 手背 一ノクシ
 215 拳頭 一ツクン
 217 彈手 一ハンク
 218 挽手 一マゲル

220 伸手 一ノビル
 227 手掌 一ノワタ
 229 手湾 一ノヒズノマカエ
 283 手疼 一ノヤモン

㊧

とうぐわ (冬瓜)
 シボエ 583 冬瓜 一
 とし (年)
 トシ 398 年糕 正月餅 一ザナモキ
 としだなもち (年棚餅)
 トシザナモキ 398 年糕 正月餅 一
 とづ (閑)
 クワル 328 収口 カサノコキ一
 どもり (吃)
 ンザナ 311 急舌 一
 312 結舌 上全
 とり (鳥)
 トエ 503 鶏肉 一ノセ、
 531 雞蛋 一ノコオガ
 とりゆ (取湯)
 トヘヨヲ 494 飯湯 一
 とる (取)
 トヨン 350 把脉 ミヤクンツヨン、ミ
 ヤク一
 トヘ 494 飯湯 一ヨヲ
 とんし (頓死)
 トンシ 317 暴病 一

㊨

な (名)
 ナ 376 無名指 一ラシウヘビ
 な (菜)
 ナ 577 糟菜 カスツケツケー
 579 醬菜 ミソズケツケー

590 苺菜 ンザ—
 591 苺菜 ビイー
 603 苦蕒菜 キシア— ホクテル
 ニガ—
 ナア 595 芥菜 — カラス—
 607 弘籐菜 ホウフチ—
 ないぎ (内儀)
 アヤ前 38 尊夫人 — 御内儀
 なか (中)
 ナカ 213 中指 —イビ
 436 中粉 —グヲ
 なかご (中粉)
 ナカグヲ 436 中粉 —
 ながね (長峰)
 ナガニ 225 脊背 クシ—
 256 腰肋 雷蛇切二音力裂 —
 ボネ
 ながねぼね (長峰骨?)
 ナガニボネ 256 腰肋 雷蛇切二音力裂
 —
 なかゆび (中指)
 ナカイビ 213 中指 —
 ながる (流)
 ナガリ 541 福酒 マキリノウ—サケ
 アマザケ
 なし (無)
 ラシ 376 無名指 ナ—ウヘビ
 なすび (茄子)
 ナアスビ 584 茄子 —
 ななし (名無)
 ナラシ 376 無名指 —ウヘビ
 ななしゆび (名無指)
 ナラシウヘビ 376 無名指 —
 なべ (鍋)
 ナン 495 鍋粳 —ツキ

なべつき (鍋付飯)
 ナンツキ 495 鍋粳 —
 なま (生)
 ナマ 526 鮮魚 —イヨ
 610 生蕒 —シヤウガ
 なまいを (生魚)
 ナマイヨ 526 鮮魚 —
 なましやうが (生生姜)
 ナマシヤウガ 610 生蕒 —
 なます (膾)
 ナマシ 534 魚腥 イヨ—
 なみだ (涙)
 ナラ 207 眼涙 ミイノ—

 ㊦
 に (格助)
 ニ 470 礎米 モミウヲス—スル
 に (格助)
 ニ 544 斟酒 サケツゲ 杯—ツク也
 になし (苦)
 ンザ 590 苺菜 —ナ
 ニガ 603 苦蕒菜 キシアナ ホクテル
 —ナ
 にな (苦菜)
 ニガナ 603 苦蕒菜 キシアナ ホクテ
 ル —
 ンザナ 590 苺菜 —
 キシアナ 603 苦蕒菜 — ホクテル
 ニガナ
 ホクテル 603 苦蕒菜 キシアナ —
 ニガナ
 にひ (新)
 メイ 399 粽子 五月五日 —モキ
 にひもち (新餅?)
 メイモキ 399 粽子 五月五日 —

にら (蕓)

ピラ 587 葱子 ニラ — シンモト
589 蕓菜 キリー

にる (煮)

子イ 514 煮肉 —セ、

ぬ

ぬか (糠)

ノカ 474 米糠 —

ぬんくう (暖鍋)

ノンクウフ 401 軟糕 ヌンクウフ —クワシ

ね

ね (根)

子イ 310 舌根 シタノー

ねぎ (葱)

シンモト 587 葱子 ニラ ピラ —

の

の (格助) (属格)

ノ 195 仮髪 女—イリカン
205 眼皮 ミ—カア
207 眼涙 ミイ—ナラ
210 手臂 テイ—ヒギ
211 手背 テイ—クシ
223 後跟 ノ ヒサ—アル
224 脚面 ヒシヤ—ワタ
227 手掌 テイ—ワタ
229 手湾 テイ—ヒズ—マカエ
230 脚湾 ツンシ—マガエ
239 腎門 サナズ—アズマア
243 胃臆 クハム子—シタ
265 卵抛 タ子—クヲガ ヤクワン
268 陰門 女—コ、
273 陰毛 女—コヲゲ

274 陽毛 男—コヲゲ
288 瘡痒 カサ—ヲヘ
291 痘疵 痘壳也 キヨラカサ—ケツ
310 舌根 シタ—子イ
332 眼皮 ミイ—カア 重出
361 眼睛 メ メ—シン
363 白仁 ミイ—シルミ
364 黒仁 ミイ—コ、ミ
369 膈子窩 ワキ—コブミ 手夾下
也
372 脚底板 ヒシヤ—ウラ
413 包心 マンツヨ—アン
432 米粉 ヨヲ—コ
439 麩粉 モジ—コヲ
465 禾穗 イ イ子—ホヲ
488 便飯 アリイヤエ—モノ
500 肉羹 セ、—シル
502 牛肉 ウセ—セ、
503 鶏肉 トエ—セ、
504 羊肉 ヒキズ—セ、
505 狗肉 イン—セ、
516 猪肚 ブターウホガイ
517 猪肺 ブターホク
523 鴨肉 アヒル—セ、
525 鴨蛋 アヒル アヒル—コヲガ
531 雞蛋 トエ—コヲガ
541 福酒 マキリーウナガリサケ
560 麩醬 上全 モジ—コヲミノ
596 蕓青 カボ カボ ンリールイ

の (格助) (主格)

ノ 266 硬了 カタ クハタン タ子—ウワル
267 軟了 カタ ヤハラシヤ タ子—ダ
デル
280 頭疼 カアラジ—ヤリ
281 眼疼 メイ—ヤモン

282 腰疼 コシーヤモン
 283 手疼 テイーヤモン
 284 脚疼 ヒサーヤモン
 321 生瘡 カサーシヤウジタン
 322 発熱 ニツイーギル
 324 灌膿 カサーウメツ、モ
 325 作膿 ウミーツク 上全
 326 瀑膿 ウミーイヤイル
 327 出膿 ウミーイジル 上全
 328 収口 カサーコキクヲル
 329 拔膿 ウメーイシル
 346 有病 ヤマエーアン
 347 多病 ヤマエーウホサ
 357 口臭 クキーコサ、

のど (喉)

ノヲリイ 232 喉嚢 —

のぶ (伸)

ノビル 220 伸手 テイー
 ノベル 221 伸脚 ヒサー
 ノヲビ 306 呵欠 アクビ —

は

は (歯)

ハア 234 牙齒 チイバ —
 ハ 235 大牙 ウクハ
 236 小牙 マイ—
 341 刷牙 ーンザキヤア ーアサル

はい (肺)

ホク 517 猪肺 ブタノ—

ほうき (箒)

ホウフチ 607 払箒菜 ーナア

ほうきな (箒菜)

ホウフチナア 607 払箒菜 —

はく (吐)

ハク 302 吐血 キイー

はく (佩)

ワキ 456 刀豆 タキー

はくしゆ (白酒)

パアキヨ 538 白酒 林檎酒 —

はしが (麻疹)

イリガサ 286 疹瘡 —

はじく (弾)

ハンク 217 弾手 テイー

ハキヤ 475 炒米 ーゴミ

はじけごめ (弾米)

ハキヤゴミ 475 炒米 —

はだへ (膚)

ハタエ 253 皮膚 —

はな (鼻)

ハナ 353 鼻子 —

354 鼻水 ーライ

355 鼻屎 ークソ

はなくそ (鼻糞)

ハナクソ 355 鼻屎 —

はなだれ (鼻垂)

ハナライ 354 鼻水 —

はふ (這)

バイ 201 汗斑 シラー

298 汗斑 シラー

はる (腫)

ハリル 323 腫了 —

ハレ 301 蠱脹 中表也 ワターヤマヘ

はん (飯)

ハン 483 撈飯 シヤイバン サアイン—

489 菜飯 サイー

バン 477 午飯 ヒルマモノ アサー

478 晩飯 ヨー

483 撈飯 シヤイン— サアイン

ハン

484 饑飯 タイフシン—

はんだま

ハントマ 604 紅根菜 —

ハンラマ 592 蕃苜 —

はながさ (賊痘)

ハンカサ 287 賊痘 — 壞痘

はんつんいも (蕃薯芋)

ハンツンイモ 425 番薯 イモ —

ひ

ひきみ (引見)

ヒキミ 333 斜眼 —スル シヤウマア

ひく (引)

ヒキ 333 斜眼 —ミスル シヤウマア

ひざ (斜)

チンシ 370 膝蓋 —ガアラ

ツンシ 230 脚湾 —ノマガエ

ひたひ (額)

ヒタイ 185 額頭 —

ひぢ (肘)

ヒキ 210 手臂 テイノ—

ヒズ 229 手湾 テイノ—ノマカエ

ひつじ (羊)

ヒキズ 504 羊肉 —ノセ、

ひひめく

ヒミキ 304 痰呼 —

ひゆ (莧)

ミンボトケ 606 馬齒莧 —

ひよめき (腦頂)

ヒヨルキ 180 腦頂 — キ、

183 額門 —

186 頭腦 —

187 腦蓋 上全

188 腦門 上全

ひら (平)

ヒラ 192 辯子 —ゲン

ひらくみ (平組)

ヒラゲン 192 辯子 —

ひる (蒜)

ヒル 580 淹蒜 ツケ—

586 蒜子 —

ひるげ (昼食)

アサバン 477 午飯 ヒルマモノ —

ヒルマモノ 477 午飯 — アサバン

ひるま (昼間)

ヒルマ 477 午飯 —モノ アサバン

びんた (鬚毛)

ビンタ 190 鬚毛 —

びんらう (檳榔)

ヒンタウ 406 檳榔 —

ふ

ふくげ (ふく毛)

ホクゲ 199 苦毛 —

ふくる (脹)

ホクワア 335 眼腫 メイ—

ボコエ 316 虚腫 ンナ—

ふさがる (塞)

ホサカル 208 閉眼 ミクラ 入眼也
メ—

ふすべ (贅)

クツヘ 320 肉瘻 —

ぶた (豚)

ブタ 513 蒸肉 ンブシー シ、ンブシ

515 塩肉 シヨ—

516 猪肚 —ノウホガイ

517 猪肺 —ノホク

518 腰子 —マミ

520 膀蹄 —アス

521 爪尖 —ツマゲ

522 蒸蹄 ンブシーアシ 猪足也

ホタ 506 猪肉 一せ、

ふる (狂)

ホレイ 193 蓬頭 ニヤラサバカンカラ
ズ 一カラズ

ふる (振)

ホレイ 344 癩疾 一

ふんどし (褌)

サナズ 239 腎門 一ノアズマア

㊦

へちま (糸瓜)

ナベラア 585 茄子 一

㊧

ほ (穂)

ホヲ 465 禾穂 イ子ノ一

ぼうぼう (麦粉菓子)

ハウ 415 箔餅 一 麦做的山東人愛吃

416 饅餅 上全

417 饅々 上全

418 饅子 上同

419 餡餅 上同

ほがす (穴門)

ホガシ 276 破爪 女子初与人交合開色
也 アラー

ほじる?

ザキヤア 341 刷牙 ハン一 ハアサル

ほぞ (臍)

ホソ 252 肚臍 一

ほとめく

ボトミキ 362 眼跳 目屢跳動也 メイ
一スル ミウチシ
ヨル]

ほね (骨)

ボネ 256 腰肋 雷蛇切二音力裂 ナガ

ニ一

ほるごさい

ホルゴサイ 602 婆蓑菜 一

㊨

ま (真)

マ 508 精肉 一シ、

510 痕肉 一シ、

ま (麻) ?

マア 567 蕨油 一ヨ 一、ンラ

まい (米)

ミイ 462 冬米 サクグミ カン一

マイ 469 糙米 米末掃者 ノヲ一

まえ (前)

マイ 236 小牙 一ハ

まえば (前歯)

マイハ 236 小牙 一

まがる (曲)

マカエ 229 手湾 テイノヒズノ一

マガエ 230 脚湾 ツンシノ一

まぐ (曲)

マゲル 218 挽手 テイ一

219 絞手 上全

まくら (枕)

マクラ 184 枕骨 一グヲホ

またたく (瞬)

メイボトミキ 362 眼跳 目屢跳動也
一スル ミウチシ
ヨル]

ミウチ 362 眼跳 目屢跳動也 メイボ
トミキスル 一シヨ
ル]

まつり (祭)

マキリ 541 福酒 一ノウナガリサケ
アマザケ

まふ (舞)

マエ 348 看病 ミイー

まめ (豆)

マアミ 389 落花生 ズー

457 豌豆 インラヲマミ トウー

559 豆醬 ー、ソ

マアメ 455 田豆 トウー

マミ 449 白豆 シルー

452 緑豆 アラー

453 豇豆 ホヲダラー

454 扁豆 ウクー

457 豌豆 インララー トウマア

458 蚕豆 トウー

459 菜豆 ホヲダラー

マメ 447 扁豆 ウクー

448 黄豆 トウフー

450 烏豆 コルー

451 黑豆 上同

まめ (豆) (腎臟)

マミ 518 腰子 ブター

まゆ (眉)

マヨ 204 眉毛 ー

まんちゆう (饅頭)

マンツヨ 393 饅頭齋 アハー

409 口包 ークワ

410 饅頭 ー

412 肉包 ス、ー

413 包心 ーノアン

421 糰員 ー

み

みき (御酒)

ミキ 499 米肌 ー

みそ (味噌)

ミソ 559 豆醬 マアミー

560 麩醬 上全 モジノコラー

561 麦醬 上全 モジー

579 醬菜 ーズケツケナ

みそづけ (味噌漬)

ミソズケ 579 醬菜 ーツケナ

みな (皆) (虚)

ンナ 316 虚腫 ーボコエ

みまひ (見舞)

ミイマエ 348 看病 ー

みみ (耳)

ミ、 337 耳聾 ークジラア

338 耳屎 ークソ

339 爬耳 ーカク

みみくそ (耳糞)

ミ、クソ 338 耳屎 ー

みみず (蚯蚓) <病名>

ミ、ザア 202 抱痢 ー

みやく (脈)

ミヤク 350 把脉 ーンツヨン ートヨン

351 診脉 上全

352 看脉 上全

みる (見)

ミイ 348 看病 ーマエ

ンツヨン 350 把脉 ミヤクー ミヤク
トヨン

351 診脉 上全

352 看脉 上全

ミ 333 斜眼 ヒキースル シヤウマア

む

むぎ (麦)

ムジ 437 大麦 ウフー

438 小麦 ンナー

モジ 439 麩粉 ーノコラ

560 麩醬 上全 一ノコヲミン
 561 麦醬 上全 一ミン
 モツ 445 大麩 チリ一
 むこ (婚)
 モヲク 26 女婚 女子之嫁也 一
 むす (蒸)
 ンボシ 507 炖肉 一ズセ
 524 蒸鴨 一アヒル
 ンブシ 513 蒸肉 一ブタ シ、一
 522 蒸蹄 一ブタアシ 猪足也
 むすぶ (結)
 アズマア 239 腎門 サナズノ一
 むね (胸)
 ム子 242 胃坎 クハ一
 243 胃膈 クハ一ノシタ 上全
 248 胃口 上同 一グキ
 むねぐち (胸口)
 ム子グキ 248 胃口 上同 一

め

め (目)

メ 208 閉眼 ミクラ 入眼也 一ホサ
 カル
 209 眼罩 一ウソヤ 遮眼物也
 361 眼睛 一ノシン
 メイ 281 眼疼 一ノヤモン
 334 鼠眼 一コハ
 335 眼腫 一ホクワア
 362 眼跳 目屢跳動也 一ボトミ
 キスル ミウチシヨ
 ル
 ミ 205 眼皮 一ノカア
 206 眼屎 一クソ
 362 眼跳 目屢跳動也 メイボトミ
 キスル 一ウチシヨル

363 白仁 ミイノシル一
 364 黒仁 ミイノコ、一
 ミイ 207 眼淚 一ノナラ
 332 眼皮 一ノカア 重出
 363 白仁 一ノシルミ
 364 黒仁 一コ、ミ
 めくそ (目糞)
 ミクソ 206 眼屎 一
 めくら (盲)
 ミクラ 208 閉眼 一 入眼也 メホサ
 カル
 ミクワ 336 瞎眼 一
 めし (飯)
 メシ 480 煮飯 一タケ
 486 盛飯 一イリ、
 487 添飯 一スイリ
 メセ 482 倣飯 一ツヨクリ
 ミシ 476 早飯 シテミテ一 アサ一
 533 魚飯 シ、一

もち

もち (餅)

モキ 398 年糕 正月餅 トシザナ一
 399 粽子 五月五日 メイ一
 411 包子 アン一
 422 糰子 アン一 上同
 424 糖糰 サトフ一 クワス

もちごめ (糯米)

モキグミ 461 糯米一

もの (物)

モノ 477 午飯 ヒルマ一 アサバン
 488 便飯 アリイヤエノ一
 485 吃飯 一カミ

もみ (粃)

モミ 470 砵米 一ウラスニスル

ムメ 464 稲谷 イ子—

もも (腿)

モ、 228 大腿 —

519 大腿 —

もろみ (醪) ?

モルン 548 酒娘 —

㍷

やうじやう (養生)

ヤウジヤウ 349 治病 —

やきと (灸)

ヤツヨ 203 艾炷 —ケジ

やく (焼)

ヤキ 512 焼肉 —ジ、

530 焼鶴 —ガアナア

やくわん (薬罐)

ヤクワン 265 卵抛 タ子ノクヲガ —

やくびよう (厄病)

ヤコビヤウ 295 疔瘡 —

やしなふ (養)

ヤシナイ 36 乾母 —ウヤ

37 乾兒 —クワ

やはらし (柔, 軟)

ヤハラシヤ 267 合フロシ 軟了 —

ヤハラ 463 粳米 サクグメ —グミ

やまひ (病)

ヤマヘ 301 合山 蠱脹 中表也 ワタハレ—

ヤマエ 346 有病 —ノアン

347 多病 —ノウホサ

やむ (痛)

ヤモン 281 眼疼 メイノー

282 腰疼 コシノー

383 手疼 テイノー

284 脚疼 ヒサノー

ヤリ 280 頭疼 カアラジノー

㍸

ゆ (湯)

ヨ 550 煮湯 —ホカシ

ヨヲ 432 米粉 —ノコ

494 飯湯 トヘ—

イヤウ 558 豆乳 タウホ—

ゆ (油)

ヨ 567 蔴油 マア—

ゆがむ (歪)

ヤウガア 356 歪嘴 クキ—

ゆのこ (湯粉)

ヨヲノコ 432 米粉 —

ゆばり (尿)

シイバエ 231 溲尿 シヨビン —ヨテル

㍹

よ (夜)

ヨ 478 晩飯 —バン

よう (癩)

ヲヘ 288 瘡痒 カサノ— カフサ

よね (米)

ヨ子 466 稻糶 アヲ— 粗米也

よばん (夜飯)

ヨバン 478 晩飯 —

よる (選)

ヨル 473 篩米 コミ—

㍺

らい (癩)

クンキ 299 癩瘋 —

クンツヤ 297 癩疾 —

らうがい (癩疥)

ボラヒ 345 癩病 —

らふさう (蠟瘡)

アマバイ 293 蠟瘡 — ハイガサ
ハイガサ 293 蠟瘡 アマバイ —

㊦

り〈助動〉〈完了〉

ル 157 先叔 亡父之弟也 シ、—ヲ
ザ、アクワ

りびよう (痢病)

リイビウフ 315 痢病 — シボエハタ

㊧

るい (類)

ルイ 596 蔓青 カボ シリノー

㊨

なし

㊩

なし

㊪

わかす (沸)

ワカス 553 泡茶 チヤイリ、 チヤー
554 烹茶 上同

ホカシ 550 煮湯 ヨー

わき (脇)

ワキ 369 膈子窩 —ノコブミ 手夾下也

わた (腸)

ワタ 224 脚面 ヒシヤノー
227 手掌 テイノー
249 肚子 —
250 小肚 シキヤー
251 肚皮 —ガ
301 蠶脹 中表也 —ハレヤマヘ
ハタ 315 痢病 リイビウフ シボエー

わたがは (腸皮)

ワタガ 251 肚皮 —

わたはれ (腸脹)

ワタハル 301 蠶脹 中表也 —ヤマヘ

わらび (蕨)

ワラビ 428 葛粉 —コジ
わらびくづ (蕨葛)

ワラビコジ 428 葛粉 —
わる (割)

ワル 472 搗米 コミー 上全

わるぐち (悪口)

ヤナグキ 314 刀舌 —スル

わろし (悪)

ヤナ 314 刀舌 —グキスル

㊫

ゐ (胃)

ウホガイ 516 猪肚 ブタノー

㊬

ゑんどう (豌豆)

インラヲマミ 457 豌豆 —トウマアミ
トウマアミ 457 豌豆 インラヲマミ —

㊭

を〈格助〉

ヨ 231 溲尿 シヨビン シイバエーテ
ル

をぢ (叔父)

ヲザ、ア 157 先叔 亡父之弟也 シ、
ルークワ

第四節 仮名資料にみる沖縄語

第一節・第二節・第三節でそれぞれの資料の分析を行なった。ここで、以上の仮名資料全体に関する考察をする。

結論的には、高橋俊三（1991）『おもろさうしの国語学的研究』の分析・研究結果の域を出るものはない。その要点だけを摘記してみると、次のようである。

『おもろさうし』で使われている言語の音韻の主な特徴は次のようなことである（四頁～六頁による）。

一、母音

(1) 『おもろさうし』の時代、主な短母音は五個（a・i・î・u・o）であったと考えられる。オ段の仮名と、ウ段の仮名を正しく書き分けようとしているが、（混用した例も多いので）多くの語において、oはuに変わりつつあったと考えられる。『おもろさうし』においてすらこのように混同しているのであるから、日常口頭語ではほとんど区別を失っていたであろう。しかし、完全にoがuになった時期はa uがo：と変化するようになった時とするのが穏当なように考えられる。

(2) ア行・ハ行・ワ行以外の行では、エ段の仮名とイ段の仮名を混用した例はほとんどない。エ段の母音がîに近い音になっていたが、まだ完全にîになっていなかったからであろう。

ゑそこ・いそこ（良き船）、こへ・こい・こゑ（声）

(3) ウ段音の母音uは変化なくuであったが、ス・ツ・ズ・ヅにおいてはîに変化していた。

するむ・せるむ（宣る）、よせぎ・よすぎ（濯ぎ）

(4) 本土の一音節の語に対応する語の母音は長音であった（ただし、当時短音か長音かということは意味の区別に影響しなかったと考えられる）。

せひ（岩礁）、よう（世）

(5) 連母音 a i や a u 等は、後の母音が脱落しやすかった。連母音 o u 等は融合して ^マou あるいは、u : に近い音になっていた。

しりきや (しりがい)、ひやし (拍子)、おむうな・おもな (思ふな)

二、子音

(1) 語中のハ行音の転呼はすでに生じている。

といろ (十尋)、おうね (御船)

(2) 四つ仮名の混同はすでに生じている。

しまじり・しまぢり (島尻)、ずれ・づれ (いづれ)

(3) 子音の前の i 母音の影響による口蓋化の現象が盛んである。そのため拗音が音韻として存在する。

いみや (今)、こしあてはりや (腰当柱)

(4) 『おもろさうし』では、子音の後の i 母音の影響による軟口蓋破裂音の口蓋化の現象 (キ・ギがチ・ヂになる現象) はまだ生じていない。ただし、破裂音の口蓋化現象 (キャ・ギャ・がチャ・ヂャになる現象) は生じている。

ちよわる (来給う)、ちよらのはな (清らの花)

(5) はねる音が存在する。

はんた (崖)

(6) つまる音が存在したかと思われる。(存在したにしても一モーラとはみなされなかったであろう。)

もちちへ・もちゑ (持って)

(7) 『おもろさうし』では r i の子音が脱落して i になる現象はまだ生じてない。

とり (鳥)、もり (杜)

(8) 『おもろさうし』では k u r a や g u r a の Q k w や N g w への変化はまだ生じていない。

まくら (枕)、てくらん (天願)

(9) 語尾のシが脱落することがある。

むか（昔）、ももと（百年）

(10) ダ行音がラ行音に変化した例は二、三あるのみである。

ろ（係助詞）、てしなみ（レイシ並）、ここら（「ここだ」）

(11) 「お」と「を」の仮名は語頭^マおいても混用されている。今日の首里方言でも区別があるところからすると、それは音の同一化によるのではなく、仮名文字の使用に関する問題だと思われる。

おかう・をかう（御顔）、おなり・をなり（姉妹）

(12) ア行の「え」の仮名は使わず、すべてワ行の「ゑ」を使っているが、これも、音の同一化によるものでなく、仮名文字の使用に関する問題だと思われる。

また、『混効験集』（1711年）、『仲里旧記』（1703年頃）、『君南風由来并位階且公事』（1703年頃）、『琉球国由来記』（1713年）をもとにした「十八世紀初期の音韻」の要点は、次のとおりである（四〇二頁～四二一頁による）。

一、エ段音とイ段音

（ア行・ハ行・ワ行以外では）混同しておらず、原則的に区別があるといえる。母韻eがiに変化する途中の音、例えばïなどを映そうとしたらしいもの、あるいは母韻eとiの中間のような音を映そうとしたものもある。

二、キ・ギ口蓋化

大体において、カ行拗音は口蓋化し、キは口蓋化していない。

三、ツ・ヅ・ス・ズの口蓋化

大勢として、ツとチ、スとシ、ヅ・ズとジの区別を保存している。

四、リの子音脱落

リはイに変化しているとみなしてよい。

五、その他の音韻的特徴

（主に『混効験集』により）

- ◇子音の前の i 母韻の影響による口蓋化の現象が非常に発達している。
- ◇『おもろさうし』ではまだ k u r ・ g u r が (k) k w ・ n g (w) に音変化していないのに『混効験集』では音変化している。
- ◇ b u r a , m u r a , z u r a が n d a に音変化している。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

碑文記・田名文書・琉球官話集をもとにいささか付け加えたとすれば、以下のようなになる。

(碑文記)

[オ段とウ段] (混同例少なし)

こく (此処) VI (9) 16、VI (22) 27、くま (此処) IV (1) 10

[エ段とイ段] (混同例少なし)

(老人) おひ人 V (25) 11

おゑ人 VIII (40) 23

(今婦仁) みやきせん I (6) 6 いまきしん X (20) 1

[ス・ツ]

すみ (墨) III (19) 7、すみ (墨) I (15) 9・IX (18) 4 (「しみ」ナシ)

ちよく (強く) VII (22) 25、ちよさ (強さ) VI (5) 12

[(もと) 一音節]

『おもろさうし』の「よう (世)」に当たる例は、「世」と、漢字でしか出てこない。

[連母音の後の母音の脱落]

ちや (門) VI (20) 5 ただし、「ちやう (門) VI (2) 14」もある。

やに (様に) VII (30) 5

つさし (突刺し) III (8) 9

[八行転呼]

「仰ぎ」 あふき X (18) 11、あをき I (17) 10

「祝事」 いわひ事 V (5) 25、ゆわい事 VIII (8) 3

「襲ひ」 おそい IX (3) 15 、おそひ VIII (4) 17

「位」 くらひ V (4) 11 、くらゐ VIII (4) 3

「末」 すへ IX (1) 20 、すゑ I (12) 10

(資料の年代は反映されていないという結果を得る。つまり、新旧の差はないと言える。)

[口蓋化]

子音の前の i の影響による口蓋化

いきや (如何) VII (24) 23、 いきよく (動く) VII (32) 2、

みやきせん (今婦仁) I (6) 6、 いちやちや (板門) VI (20) 2、

いちやわり (労り) VIII (34) 3、 ちちよく (海賊?) VII (22) 24、

ちから (力) VII (31) 4

破裂音の口蓋化

ちよわひ (来給ひ) VIII (25) 20

[はねる音]

あんし (按司) I (3) 14 ・ I (8) 10 ・ III (11) 13 ・ IV (1) 1 ・ VII (17) 27・・

いまきしん (今婦仁) X (20) 1、 みやきせん (今婦仁) I (6) 6、

かつれん (勝連) VII (39) 4、 きん (金武) I (8) 10、 しゆん (舜) V

(8) 16、 てん (天) I (17) 6 ・ VIII (6) 1、 はん (番) VII (26) 27、 ほん

(盆) IX (11) 25、 もん (文) II (2) 22

[r i の子音脱落] (ナシ)

とまり (泊) VII (3) 9

とり (酉) III (3) 25、 V (19) 26、 VI (14) 25、 VII (8) 26 ……

[語尾のシ脱落]

と (年) VI (34) 23 (ただし、とし (年) III (3) 13 あり)

[語頭の「お」と「を」]

おれ (降れ) III (4) 13

をれ (降れ) V (20) 13、 VI (15) 13、 VII (9) 13、 VIII (19) 9

(田名文書)

資料が、1523年～1606年と古いこと、それに「辞令書」であることも影響していよう。「変化」が少ない。「歴史的仮名遣い」に近い現われをしている。しかし、いくらかの「揺れ」は、ある。

[オ段とウ段]

(親雲上) 大やくもい 3-5、3-9、5-7、5-9、6-6、
6-8、7-5、7-7、8-6、8-8、
9-6、9-8

大やこもい 11-7、11-9

[ハ行転呼]

(家来) けらへ 9-3、11-3

けらゑ 8-3

(郡) こおり 2-3、3-4、5-5、7-4、8-5、9-5、
10-4、11-5

こほり 6-4

{ ~ハ 2-3、3-3、4-3、5-4、6-3、7-3、8-4
9-4、10-3、11-4
~わ 1-4

{ ~へ 1-2、1-10、2-8、3-2、3-9、4-8、5-9、
6-8、7-7、8-8、9-8、10-7、11-9
~ゑ 4-2

[はねる音]

くわんしや 2-5、2-7

(ちなみに、『琉球館訳語』「311 三使臣 官舎」の「官舎」は、この「くわんしや」である。「くわにしや」(1-4)ともある。)

せんとう 3-3、8-4、9-4、11-4、11-7、11-9

まなはん 4-2

(琉球官話集)

標準的あるいは規範的「大和口（大和言葉、日本語）」を意識した表記を心掛けているようであるが、「現実（の音声）」には勝てず、それが露呈している例が多い。最後に〔（誤った）規範意識による（誤った）類推仮名遣い〕という項目を設け、これについて少々詳しく述べた。

これと関連して、次の引用をしておく。

『琉球官話集』が明治になってから書き改められた可能性がある。

{平和彦「近世琉球の官話」『宮良當壯全集 月報7』昭和56年6月}

[オ段とウ段]

イ子ムメ(464) (稲粍)、ウクマ(566)・ウグマ(588) (う胡麻)、
ウシルクブ(182)・ウシロコブ(189) (後窪)、ウク(235) (奥)、
カボ(596) (蕪)、カマブク(408) (蒲鋒)、コサ>(357) (臭さ)、
コル(450) (黒)、クシ(211) (脊)、ノカ(474) (糠)、ホサカル
(208) (塞)、モジ(439) (麦)、モヲク(26) (婿)、マヨ(204) (眉)、
タウホ(556・558)・タヲホ(557)・トウフ(448) (豆腐)

[エ段とイ段]

ウセ(502) (牛)、ムメ(464) (粍)、ウメ(324・327・329) (膿)、
ケジ(203) (疵)、マアミ(389・457・559)・マアメ(455)・マミ(449・
452・453・454・457・458・459)・マメ(447・448・450・451) (豆)、メシ
(480・486・487)・メセ(482)・ミシ(476・533) (飯)、マイハ(236)
(前歯)、ハリル(323) (腫)

[ス・ツ・ズ・ヅ]

アシ(522)・アス(520) (脚)、アスポ(294) (汗疹)、イギル(322)・
イジル(327)・イシル(329) (出)、カシ(549)・カス(577・578)
(粕)、カタズラ(244) (固面?)、カラス(573) (辛子)、ケジ(203)・
ケヅ(291) (疵)、ツヨラズラ(198) (清面)、コジ(428) (葛)、
スエ(572) (酢)、チラ(196) (面)、ナマシ(534) (膾)、ミソズケ
(579) (味噌漬)、ウヲス(470) (白)、カウズ(429) (麴)

[(もと) 一音節]

クヲ (396) ・ コヲ (439・560) (粉)、ホヲ (465) (穂)

[ハ行転呼]

ウトガエ (237) (頤) (おとがひ)、コヲリ (430) (氷) (こほり)、
シヨ (515・528・532) (塩) (しほ)、ハタエ (253) (膚) (はだへ)、
ヒタイ (185) (額) (ひたひ)、ミイマエ (348) (見舞) (みまひ)、
ヤマエ (346・347) (病) (やまひ)

(規範に則った例)

アハ (393・433) (粟)、アヒル (523・524・525) (家鴨)

[口蓋化]

破裂音の口蓋化

チ (600・609) (黄)、チイバ (234) (牙)、ツヨラ (198) (清ら)、
チリ (445) (切り)、ツバチ (565) (椿)、ホウフチ (607) (箒)、
ムジ (437・438) ・ モジ (439・560・561) ・ モヅ (445) (麦)、ンザナ
(590) (苦菜)

[はねる音]

アンラ (383・509・565・567) ・ アンダ (566) (油)、アン (411・413・422)
(餡)、イン (505) (犬)、イリカン (195) (入れ髪)、コンダ (259・
260) (腓)、サウミン (442) (素麺)、シン (361) (芯)、シヨビン
(231・262・263) (小便)、リヤビン (261) (大便)、トヨン (350) (取
る)、マンツヨ (393・409・410・412・413・421) (饅頭)、ンザナ (311・
312) (吃)、ンナ (316) (皆)、ンボシ (507・524) (蒸し)

[r i の子音脱落]

トエ (503・531) (鳥)、ウエ (578・581・582) (瓜)

[b u r a, m u r a → n d a]

アンラ (383・509・565・567) ・ アンダ (566) (油) (あぶら)、
コンダ (259・260) (腓) (こむら)

〔（誤った）規範意識による（誤った）類推仮名遣い〕

「き・ち・つ」、「ぎ・ぢ・づ・じ」、「し・せ・す」、「じ・ぜ・ず」が、それぞれに同じ音になっていたこと（順に [tʃi], [dʒi], [ʃi], [dʒi]）を示す例どもである。例えば、本来「つ」であるべきところを「き」としているのが、その最たるものである。

口（くち） クキ (356・357) 、クツ (358) 、コキ (328)

餅（もち） モキ (398・399・411・422・424)

太刀（たち） タキ (456)

血（ち） キイ (302)

中風（ちゆうぶ） キヨブ (343)

祭（まつり） マキリ (541)

羊（ひつじ） ヒキズ (504)

漬（つけ） キケ (578)

旋毛（つじ） キヅ (180)

出（いづ） イギル (322) 、イジル (327) 、イシル (329)

肉（しし） シ> (408・508・510・513・533)

ス> (412)

セ> (500・502・514)

せ> (503・504・505・506・523・529)

～ジ> (511・512)

～ズせ (507)

～ズシ (509)

この他に、次のような例もある。

麦（むぎ） モツ (445)

豆腐（たうふ） タウホ (556・558) 、タヲホ (557) 、トウフ (448)

第五章

沖縄語の通時的考察

第一節 音声・音韻史

第一章から第四章までの一通りの纏めをすることで、沖縄語の音声・音韻に関する通時的考察を行なう。

『おもろさうし』を中心とする仮名資料をもとにして、沖縄語の音変化の過程は、ほぼ明らかにされたと思われるが、時間との関わり（その音変化はいつごろ起こったか、その音はいつごろまで行なわれたかなど）については、詳らかでない部分が少なからず存在すると言える。ここの纏めを、この時間の問題を考える出発点としたい。

また、後半において、沖縄語の音変化の特徴を如実に示していると思われる「口蓋化と破擦音化」及び「有声子音の前の鼻音」を取り上げ、時間の問題を少し詳しく見ていくことにする。

資料を、次のものに絞る。記述においては、以下のように、略号を用いる。

- ① 翻……………「語音翻訳」（1501年）
- ② 館……………「琉球館訳語」（16世紀前半成立？）
- ③ 使……………『使琉球録』（1534年）
- ④ 字……………『音韻字海』（1572年頃）
- ⑤ 信……………『中山伝信録』（1721年）
- ⑥ 見……………『琉球入学見聞録』（1764年）
- ⑦ 刈……………「クリフォード琉球語彙」（1818年）
- ⑧ 漂……………『漂海録』（の「琉球」語）（1818年）

（ただし、前半においては「翻」「館」「信」「刈」「漂」を中心に考察する。）

各資料に共通に現れる語例をもとに考察していくが、それが見つからない場合は、音環境の似ているものを使う（主に後半において）。

（中国資料の場合は、先行文献の引き写し項目・事項が少なくないので、この点にも留意する必要がある。）

本論で対象としたのは、16世紀以降の沖縄語である。15世紀以前はどうであったか。想定される音韻は、以下のものであろうか。

1	* i	* e	* a	* u	* o
2	* k i	* k e	* k a	* k u	* k o
3	* g i	* g e	* g a	* g u	* g o
4	* t i	* t e	* t a	* t u	* t o
5	* d i	* d e	* d a	* d u	* d o
6	* p i	* p e	* p a	* p u	* p o
7	* b i	* b e	* b a	* b u	* b o
8	* s i	* s e	* s a	* s u	* s o
9	* z i	* z e	* z a	* z u	* z o
10	* m i	* m e	* m a	* m u	* m o
11	* n i	* n e	* n a	* n u	* n o
12	* r i	* r e	* r a	* r u	* r o
13	* j i	* j e	* j a	* j u	* j o
14	* w i	* w e	* w a	* w u	* w o

15世紀以前の沖縄語の（想定される）音韻

果たしてこれでよいのか、その上限はどの辺りかなど、検討すべきことが多く、今後の研究に待たなければならないが、16世紀以降と対照するための臨時的尺度としては、容認可能であろう。

16世紀以降の沖縄語の音韻

「語音翻訳」の分析結果によれば、母音は、/i/・/a/・
/u/三母音化への傾斜を見せているが、/i/・/ɯ/・/θ/
も認めることができる。

/i/は*/e/から/i/へ移行する途中の姿であり、/ɯ/
は/ス/・/ツ/・/ズ/・/ヅ/において認められるものである
し、/θ/は*/o/から/u/への移行を見せはじめていると判
断される/オ/である。

「琉球館訳語」においても同様のことが言える。それを確認する
ために、エ段音とオ段音に焦点を絞り、代表的音訳字の音を、「琉
球館訳語」よりは時代が下ることになるが、『中原音韻』（1324）
と比べれば、時代的に「琉球館訳語」により近いと考えられる『西
儒耳目資』（1626）で調べてみる。以下のようなのである。

なお、『西儒耳目資』には声調記号（´、`、^ˉなど）が付され
ているが、此処では直接関係がないので、煩雑さを避けるために、
これは省く。また、原本のアルファベットは筆記体であるが、活字
体に改める。

エ 葉：x e i e
ケ 个：k o 及：k i e 潔：k i e
ゲ 乞：k' i k' i e n i e
セ (なし)
ゼ 支：c h i 緝：c i e 熟：x o
テ 帖：t' i e 的：t i e
デ 支 → テ
 的 → テ
ネ 尼：n i e i n i 聶：n i e 眠：m i e n
ヘ 葉 → エ

ベ 別: pie
 メ 米: mi 毎: moei mui 密: mie 眠 →ネ
 レ 立: lie

 オ 倭: goei uei uo 悪: o u ia
 翁: um
 コ 个 →ケ 姑: ku 殻: k'io 孔: k'un
 ゴ 悪 →オ
 ソ (なし)
 ゾ (なし)
 ト 大: to t'o ta t'oi 它: t'a t'o
 xe 多: to 吐: t'u 周: cheu 独: to
 度: to tu ce 都: tu 墮: t'o to
 hoei
 ド 多 →ト 度 →ト
 ノ 那: na no 奴: nu
 ホ 波: pi po poei 活: kuo huo
 賀: ho
 ボ 普: p'u
 モ 木: mo 目: mo 莫: mu mo 毛: mao
 ヨ 由: ieu 約: iao io
 ロ 禄: lo 魯: lu
 ヲ 外: vai uai 倭 →オ 翁 →オ

微妙なバリエーションがあつて、単純ではないが、基本的には、
 * /エ/ 相当部分に「-ei」と「-i」とを含む字が、* /オ/
 相当部分に「-o」と「-u」とを含む字が（「琉球館訳語」にお
 いて）使用されていることを確認することができる。

服部四郎「日本祖語について・1～22」（『月刊 言語』1978年1月～1979年12月）で述べられていることを、此処でいちいち取り上げて検討するのが、ある立場からすれば、筋かもしれないが、もとの記述があまりに詳細過ぎることもあって、それを引用しつつ論を進めていくと錯綜してしまう懸念が大きいことから、どこでどのような頻度で触れられているかを示すに留めようと思う。連載第一回目の『月刊 言語』1978年1月号の66頁を「1頁目」と見なして「通しの頁」をつけていくと、最終回（22回）の最終頁が218頁となる。この方式にしたがって、項目とその所在頁とを示すことにする（詳細なものではないが）。

エ（47,181）、オ（182）、二重母音（112）、長母音（203）

キ（71～79、81～87、97）、ケ（52～55、71～79、81～88、97）、カ（138）、ギ（71～79、81～87）、ゲ（52～55、71～79、81～88）、ガ（138）

チ（100,102,103,105）、テ（102,104,106,216,217）、ツ（113,114,115,216,217）、ト（111）、ヂ（102,103,108）、デ（102,103,108）、ヅ（114）

ハ行音（118～127）　ヘ（186）、フ（216,217）、ホ（129,132）
ジ（102,103,108）

nとr（64～69）　ナ（198）、ヌ（198）、ノ（133）
リ（132,197）

声門閉鎖と非声門閉鎖（137）　無気音（169,170）

喉頭化音と非喉頭化音（有気音）（16）

撥音（89）　鼻母音（51）

口蓋化・破擦音化（111,187）

日本館訳語・琉球館訳語の成立（123,126,130）

以下の表中「()」は、「用例なし」であるが、前後左右から類推したもの。「現」は、現代語。

各資料(翻・館・信・刂・漂)のそれぞれのモーラ相当部分の用字・用例を示し、それから推定される音声・音韻を表示する。(ハングルは原則として転写字で示す。音訳字は代表例を示す。)

1、 * /イ、エ、ア、ウ、オ/

1-1 * /イ/

翻：i

館：以、亦

信：夷、亦、一、衣、依、畏

刂：ee, i

漂：i

	翻	館	信	刂	漂	現
音声	i	i	i	i	i	i
.....
音韻	i	i	i	i	i	i

1-2 * /エ/

翻：jo, joi, wi, i

館：葉

信：又、一、員

刂：e, ee, i, u

漂：Λi, wi, i

	翻	館	信	勿	漂	現
音声	e	ɪ	ɪ	e	ɛ	i
	ɪ	ï	i	ɪ	e	
	i			i	i	
	ë			ə	ï	
	ï			ï		
.....
音韻	i	i	i	i	i	i

1-3 * /ア/

翻：a

館：安、亜、阿、哀

信：阿、亜、唾、枉

勿：a, aa, au(gh), aw, e, u, o, i(gh)

漂：a

	翻	館	信	勿	漂	現
音声	a	a	a	a	a	a
				ɑ		
				ʌ		
.....
音韻	a	a	a	a	a	a

1-4 * /ウ/

翻：u, w, o, ʌ

館：烏

信：兀、屋、烏、吾

列：u, oo, o, ou, a

漂：u

	翻	館	信	列	漂	現
音声	u w U ʌ	u	u	u U o	u	u
.....
音韻	u	u	u	u	u	u

1-5 * /才/

翻：o, u

館：烏、倭、翁、惡

信：烏、倭、屋、文、五、鬱

列：oo, o, wi, a

漂：u, o

	翻	館	信	列	漂	現
音声	o U u	o U	U u	o U u	o (U) u	u

音韻	ə	ə	u	u	u	u
----	---	---	---	---	---	---

1-6 二重母音、長母音

かい 翻: kai

館: 盖

信: 瞎

刈: kaa

漂: (ナシ)

たい 翻: tai

館: 大

信: 苔

刈: deh

漂: tai

ない 翻: nai

館: 乃

信: (尼)

刈: na

漂: (ナシ)

かう 翻: kha·'u

館: 稿

信: 科

刈: kaw

漂: (ナシ)

ほう 翻: pha·'o

館: 包、哇

信: 火、和、哇

刈: ho, haw

漂: (ナシ)

ほう 翻: (ナシ)

館: 包

信: 巴、

刈: baw, bo

漂: (ナシ)

どう 翻: to·'u

館: 度

信: 度

刈: doo

漂: (ナシ)

とを 翻: (ナシ)

館: 吐

信: 土

刈: too

漂: (ナシ)

ちや 翻: chja

館: 扎

信: 札、茶

刈: cha

漂: (ナシ)

つひ 翻: chui

館: (ナシ)

信: 之

刈: (ナシ)

漂: (ナシ)

	翻	館	信	刈	漂	現
a i	ai	ai	ai,ε:	ε:	ε:	ε:
a u	au	au	o:	o:	o:	o:
o u	ou	ou	u:	u:	u:	u:
o o	(oo)	(oo)	u:	u:	(u:)	u:
i ja	ija	ija	a:	a:	(a:)	a:
u i	ui	ui	i:	(i:)	(i:)	i:

/ae/, /ao/, /ei/, /eu/, /eo/, /oi/,
 /iu/, /io/, /uu/などについては、用例が断片的にし
 か得られず、統一的な取り扱いが困難なので、省略にしたがう。

1-7 母音の無声化

翻	館	信	刈	漂	現
○	(○)	(○)	○	○	○

(○は、「無声化」あり)

2、 * /キ、ケ、カ、ク、コ /

キ 翻：k i, k h i

館：乞、及、近、急、揭、結

信：乞、及、吉、鷄、刻、綺、氣、基、輕、琴

列：c h i, c h e e

漂：c i

ケ 翻：k j o i, k u i

館：个、及

信：鷄

列：k i, k e e

漂：(例なし)

カ 翻：k a, k h a

館：个、干、加、高、噓、看

信：加、噓、看、客、喀、脚、夾、哈、課

列：k a, k e, k u, c a

漂：k a, k h a

ク 翻：k u, k h u

館：公、古、姑、孤、刻

信：空、苦、枯、沽、谷、哭、可、克、窟

列：k o, c o o,

漂：k u

コ 翻：k o, k h o, k u

館：个、孔、姑、殼

信：孔、姑、古、誇、括、枯、谷、哭、可、克、窟

刂: koo, coo, co, cu

漂: ku, sko

音声音韻		翻	館	信	刂	漂	現
キ	音声	ki k ^h i	ki	tsi tʃi	tʃi	tʃi	tʃi
	音韻	ki	ki	ci	ci	ci	ci
ケ	音声	kɪ kĩ	kɪ kĩ	k _ɟ i	k _ɟ i	k _ɟ i k ^h i	k _ɟ i
	音韻	ki	ki	ki	ki	ki	ki
カ	音声	ka k ^h a	ka kɑ	ka k ^h a	ka kΛ kɑ	ka k ^h a k'a	ka
	音韻	ka	ka	ka	ka	ka	ka
ク	音声	ku k ^h ü	ku kU	ku kU	ku kU	ku	ku
	音韻	ku	ku	ku	ku	ku	ku
コ	音声	ko k'o ku	ko kU ku	ku ku	ku ku	k'o kU	ku

						
	音韻	k ⊖	k ⊖	ku	ku	ku	ku

「iカ」などに関して、[口蓋化と破擦音化]を参照。

3、 * /ギ、ゲ、ガ、グ、ゴ/

ギ 翻：k i

館：乞、及

信：及、其、吉、鷄、棋

刈：j i, j e e

漂：c i

ゲ 翻：k i, k u i

館：乞、結、潔

信：其、之、几、潔、傑

刈：g i, g e e, g e

漂：k i

ガ 翻：k a

館：加、噓、暗

信：胡

刈：g a, g u

漂：k a

グ 翻：k u, k o

館：姑

信：吾、沽

刈: g o o

漂: (例なし)

ゴ 翻: k o, k ʌ

館: 烏^{アア}、悪^{アア}

信: 吾、古、姑、荷、谷

刈: g o

漂: k u

音声音韻		翻	館	信	刈	漂	現
ギ	音声	g i	g i	d z i d ʒ i	d ʒ i	d ʒ i	d ʒ i
	音韻	g i	g i	z i	z i	z i	z i
ゲ	音声	g i g i̇	g i g i̇	g i	g i	(g i)	g i
	音韻	g i	g i	g i	g i	(g i)	g i
ガ	音声	g a	g a g ʌ	g a	g a g ʌ g ɑ	g a	g a
	音韻	g a	g a	g a	g a	g a	g a
グ	音声	g u g U	g u g U	g u g U	g u g U	g u	g u

 音韻	g u	g u	g u	g u	g u	g u
ゴ	音声	g o	g o	g u	g o	g u	g u
		g u	g u	g u	g u		
		g ʌ	g u		g u		
 音韻	g ʊ	g ʊ	g u	g u	g u	g u

「iガ」などに関して、[口蓋化と破擦音化]を参照。

4、 * /チ、テ、タ、ツ、ト /

チ 翻: c i, c h i

館: 之、止、只、宅、結、集

信: 池、着、齊

列: c h e e, t c h e e

漂: c i, c h i

テ 翻: t j o, t h j o, t j o i, t i, t h i

館: 帖、的、只

信: 蹄、的、帝、得、執、堤、條

列: t i, t e e, t e

漂: t s i

タ 翻: t a, t h a

館: 大、都、達、塔

信: 大、都、達、塔、撻、抬、他

勿: ta, to

漂: ta

ツ 翻: cΛ, co, chΛ, chu

館: 子、多、禿、的、祖、茲、都、思、是

信: 子、禿、祖、之、磁、足、速、争、左

勿: chi, chee, tsee, tsi, tzee,
sti, stee

漂: ci, chi

ト 翻: to, thu

館: 大、多、吐、独、度、都、墮

信: 多、吐、禿、抵、土

勿: too, tu, twi

漂: tu

音声音韻		翻	館	信	勿	漂	現
子	音声	tsi	tsi	tsi tʃi	tʃi	tʃi	tʃi
	音韻	ti	ti	ci	ci	ci	ci
テ	音声	te tɿ ti tʰi	te tɿ ti	tɿ	tɿ ti	t' i	ti
	音韻	ti	ti	ti	ti	ti	ti

夕	音声	ta t ^h a	ta	ta	ta	ta	ta
	音韻	ta	ta	ta	ta	ta	ta
ツ	音声	tsu tsu	tsu tsi	tsi tsi	tsi tʃi	tsi tsu	tʃi
	音韻	cu	cu	ci	ci	ci	ci
ト	音声	to t ^h u	to tu	tu tu	tu	tu	tu
	音韻	tθ	tθ	tu	tu	tu	tu

「iタ」「iト」などに関しては、[口蓋化と破擦音化]を参照。

5、 * /ヂ、デ、ダ、ヅ、ド /

ヂ 翻: ci

館: 失

信: 失, 之

勿: jee

漂: (例なし)

𠂇 翻: (tjɔ, tjɔi) ti
 館: 帖、的、得
 信: 的
 𠂇: dee
 漂: twi

𠂈 翻: ta
 館: 達、大、代、旦
 信: 苔、大
 𠂇: dai
 漂: ta

𠂉 翻: zu, cʌ
 館: 子、多、足
 信: 子
 𠂇: jee, zee
 漂: cwi

𠂊 翻: to, tu
 館: 多、度
 信: 度、動
 𠂇: doo
 漂: tu

音声音韻		翻	館	信	𠂇	漂	現
𠂇	音聲	dzi (dzi)	dzi dzi	dʒi	dʒi	(dʒi)	dʒi
						

	音韻	d i	d i	z i	z i	(z i)	z i
デ	音声	d e d r d i	d e d r d i	d r d i	d i	d i	d i
	音韻	d i	d i	d i	d i	d i	d i
ダ	音声	d a	d a	d a	d a	(d a)	d a
	音韻	d a	d a	d a	d a	(d a)	d a
ヅ	音声	(d z u) (d z u)	d z u d z i	d z i	d z i	d z i	d z i
	音韻	(z u)	z u	z i	z i	z i	z i
ド	音声	d o d u	d o d u d u	d u d u	d u	d u	d u
	音韻	d ɒ	d ɒ	d u	d u	d u	d u

「iダ」「iド」などに関しては、[口蓋化と破擦音化]を参照。

6、 * /ヒ、ヘ、ハ、フ、ホ /

ヒ 翻： p i, p h i

館：亦、必、非、品、葉、分

信：必、非、皮、飛、辟、分

勿： f i, f e e, h e e, p e e

漂： (例なし)

ヘ 翻： p h u i

館：也、乜^{アア}、葉

信：葉

勿： f e e

漂： (例なし)

ハ 翻： p a, p h a

館：花、法、華、哇

信：花、法、華、哇、河、哥、番

勿： f a, h a, h i g h, w h f a

漂： h o a, h a

フ 翻： p u, p h u

館：付、福、分、肺

信：付、福、夫、胡、灰

勿： f o o, w h f o o, h o o, h a

漂： h u

ホ 翻： (例なし)

館：波、活、賀、普、夫

信：活、賀、夫、谷、哭

列: foo, whoo

漂: (例なし)

音声音韻		翻	館	信	列	漂	現
ヒ	音声	p i	p i Φ i	p i Φ i	p i Φ i c i	(Φ i)	ç i
	音韻	p i	p i	p i	hwi (hi)	(hwi)	h i
ヘ	音声	p ^h i	p i Φ i p i Φ i	p i Φ i p i Φ i	Φ i	(Φ i) (Φ i)	ç i
	音韻	p i	p i	p i	hwi	(hwi)	h i
ハ	音声	p a p ^h a	p a Φ a	p a Φ a	Φ a h a h Λ h α	Φ a	Φ a h a
	音韻	p a	p a	p a	hwa h a	hwa (ha)	hwa h a
フ	音声	p u p ^h u	(pu) Φ u	(pu) Φ u	Φ u	Φ u	Φ u

	音韻	p u	p u	p u	h u	h u	h u
ホ	音声	(po)	p o Φ o p U Φ U	p o Φ o p U Φ U	Φ U Φ u	(Φ u)	Φ u
 音韻	(pθ)	p θ	p u	h u	(hu)	h u

7、 * / ビ、ベ、バ、ブ、ボ /

ビ 翻 : p i

館 : 必、別、飄

信 : 飄、平

列 : b i, b e e

漂 : (例なし)

ベ 翻 : p u i, p i

館 : 別

信 : 脾、培

列 : b e e

漂 : (例なし)

バ 翻 : p a

館 : 八、把、法、班、包、帽

信 : 巴、百、褒

列 : b a

漂 : p a

ブ 翻：p u
 館：不、布
 信：風
 列：b o o
 漂：(例なし)

ボ 翻：(例なし)
 館：(例なし)
 信：毛、菩
 列：b o
 漂：p u

音声音韻		翻	館	信	列	漂	現
ビ	音声	b i	b i	b i	b i	b i	b i
	音韻	b i	b i	b i	b i	b i	b i
ベ	音声	b i b ī	b i b ī	b i b i	b i	(b i) (b ī)	b i
	音韻	b i	b i	b i	b i	(b i)	b i
バ	音声	b a	b a	b a	b a	b a	b a
	音韻	b a	b a	b a	b a	b a	b a
	音声	b u	b u	b u	b u	b u	b u

ブ						
	音韻	bu	bu	bu	bu	bu	bu
ボ	音声	(bo)	(bo) (bu)	bo bu	(bu)	(bu)	bu
 音韻	(bθ)	(bθ)	bu	(bu)	(bu)	bu

8、 * /シ、セ、サ、ス、ソ/

シ 翻：s i

館：升、少、失、世、石、使、是、思、時、食

信：失、使、四、式、細、施、昔、借、十、錫、什

列：s i, s e e, s h i, s h e e

漂：s i

セ 翻：s j o i, s i

館：焼、些、先、森

信：些、先、森、失、司

列：s i, s h i

漂：s i

サ 翻：s a

館：三、撒、才、菜

信：三、撒、殺

列：s a

漂：s a

ス 翻：sΛ

館：自、舍、思、是、速、孫

信：舍、思、是、司、細、西、色

刂：s i, s e e

漂：s i

ソ 翻：s o

館：遜

信：靴、山

刂：s o o

漂：(例なし)

音声音韻		翻	館	信	刂	漂	現
シ	音声	{ i s i	{ i s i	{ i s i	{ i	{ i	{ i
	音韻	s i	s i	s i	s i	s i	s i
セ	音声	s i s i (s i)	s i s i	s i	s i { i	(s i) ({ i)	{ i
	音韻	s i	s i	s i	s i	(s i)	s i
サ	音声	s a	s a	s a	s a	s a	s a
	音韻	s a	s a	s a	s a	s a	s a

ス	音声	s u	s i	s i	s i	s i	ʃ i
	音韻	s u	s u	s i	s i	s i	s i
ソ	音声	s o s u	s o s u s u	(s u) s u	s u	(s u)	s u
	音韻	s θ	s θ	s u	s u	(s u)	s u

9、* /ジ、ゼ、ザ、ズ、ゾ/

ジ 翻：c i

館：子、日、失、周ママ、柔

信：之、坐、祖、執、就

列：j e e

漂：c i

ゼ 翻：c u i

館：支、集、熟

信：支

列：z z e e

漂：(例なし)

ザ 翻：c a

館：糟

信：石

列：z a

漂：(例なし)

ズ 翻：c ʌ

館：子

信：子

刈：d s e e, d z e e

漂：(例なし)

ゾ 翻：c o

館：(例なし)

信：(例なし)

刈：(例なし)

漂：(例なし)

音声音韻		翻	館	信	刈	漂	現
ジ	音声	(dʒi)	dʒi	dʒi	dʒi	dʒi	dʒi
	音韻	(zi)	zi	zi	zi	zi	zi
ゼ	音声	(d)zï	(d)zɪ dzï	(d)zi	dʒi	dzï (dʒi)	dʒi
	音韻	zi	zi	zi	zi	zi	zi
ザ	音声	(d)za	(d)za	(d)za	dʒa	(dʒa)	dʒa
	音韻	za	za	za	za	(za)	za

ズ	音声	(d)zʉ	(d)zĩ	(d)zi	dzi	(dzi)	dʒi
	音韻	zʉ	zĩ	zi	zi	(zi)	zi
ゾ	音声	(d)zɔ	((d)zo) ((d)zʉ) ((d)zu)	((d)zʉ) ((d)zu)	(dʒu)	(dʒu)	dʒu
	音韻	zɔ	(zɔ)	(zu)	(zu)	(zu)	zu

10、 /ミ、メ、マ、ム、モ/

ミ 翻：mi

館：乜、民、米、每、眉、密、墨

信：乜、眉、米、密、名、陰、弥、你、迷

刂：mi, mee

漂：mi

メ 翻：mjɔ, mwi, mui

館：乜、米、每、眠、密

信：美、梅

刂：mi, mee

漂：mi

マ 翻：ma

館：馬、麻、慢、網、每

信：馬、麻、麥、木、易、末、漫、網

刂：ma, mo

漂 : m a

ム 翻 : m o, m u

館 : 木、不、蒙

信 : 母、姆、唔、美

勿 : m o o

漂 : (例なし)

モ 翻 : m o

館 : 木、毛、目、莫、慢、買

信 : 木、莫、買、母、摩、麼、悶

勿 : (例なし)

漂 : m o, m u

音声音韻		翻	館	信	勿	漂	現
ミ	音声	m i	m i	m i	m i	m i	m i
	音韻	m i	m i	m i	m i	m i	m i
メ	音声	m e m ĩ m u i	m r m ĩ	m r m i	m i	m i	m i
	音韻	m i	m i	m i	m i	m i	m i
マ	音声	m a	m a	m a	m a m α	m a	m a
	音韻						

	音韻	ma	ma	ma	ma	ma	ma
ム	音声	mU mu	mu	mu	mu	(mu)	mu
	音韻	mu	mu	mu	mu	(mu)	mu
モ	音声	mo	mo mU mu	mU mu	(mu)	mU	mu
	音韻	mθ	mθ	mu	(mu)	mu	mu

第一章第一節 4-1-6 (p34) で保留にした「mui」の問題を考える。表中の「メ」相当部分の [mwi] は、この「mui」から推定したものである。

第一章第二節 4-1-1 の「注」(p104) で、次のような引用をした。つまり、近世朝鮮語の時期に唇音 'm, p, ph, sp' 下の母音 'u' が円唇母音化した。この円唇母音化は17世紀末葉に起こったとされる、というものであった。

ここの「mui」は、この記述と逆の現象を見せているのであるが、「u」と「w」との交替性の萌芽を示しているとも考えられ、「mui」を「mwi」の変異と捉えることが可能である。

してみれば、「mui」は [mwi] よりも [mi] [me] を示している可能性が高くなる。

「mui」の表記には、子音 [m] の響きも無縁ではなからう。

11、 * /ニ、ネ、ナ、ヌ、ノ /

ニ 翻：ni

館：尼、寧

信：尼、泥、膩

列：ni, nee, gnee

漂：ni

ネ 翻：njō, nΛi

館：乜、尼、眠、聶、年

信：聶

列：ni, nee

漂：nΛi, n·'wi, nwi

ナ 翻：na

館：乃、奴、那、南

信：那、南、拿、納、押

列：na

漂：na

ヌ 翻：nu, no

館：奴、那

信：奴

列：no

漂：(例なし)

ノ 翻：no, nu

館：奴、那、農

信：奴、那、拿、諾

列：noo, na

漂：(例なし)

音声音韻		翻	館	信	勿	漂	現
ニ	音声	ni	ni	ni	ni ni	ni ni	ni ni
	音韻	ni	ni	ni	ni	ni	ni
ネ	音声	ne në	ni nī	ni ni	ni	ne nī	ni ni
	音韻	ni	ni	ni	ni	nī	ni
ナ	音声	na	na	na	na	na	na
	音韻	na	na	na	na	na	na
ヌ	音声	nu nu	nu	nu	nu nu	(nu)	nu
	音韻	nu	nu	nu	nu	(nu)	nu
ノ	音声	no nu	no nu nu	nu nu	nu nu	(nu)	nu
	音韻	nθ	nθ	nu	nu	(nu)	nu

12、 * /リ、レ、ラ、ル、ロ /

リ 翻：ni, ni <ri>

館：立、尼、林

信：利、里、衣、一

列：ri, ree, ee

漂：ri

レ 翻：rjoi, rui

館：立

信：礼、利、菱

列：ri, ree, dee, de

漂：ri, rui

ラ 翻：ra

館：老、喇、籃

信：羅、乱

列：la, ra, ru, ro

漂：ra

ル 翻：ru, r

館：奴_ヲ、罗、禄

信：羅、陸、奴、禄

列：roo

漂：(例なし)

ロ 翻：(例なし)

館：罗、炉、禄、魯

信：羅、魯、六

列：doo, ra

漂：suk <ruk>

音声音韻		翻	館	信	刈	漂	現
リ	音声	ri	ri li	ri li ji	ri ji	ri (ji)	ji
	音韻	ri	ri	ri, 'i	ri, 'i	ri, ('i)	' i
レ	音声	ri rī	ri li rī lī	ri li li	ri di	ri rī	ri
	音韻	ri	ri	ri	ri	ri	ri
ラ	音声	ra	ra la	ra la	ra (da)	ra	ra
	音韻	ra	ra	ra	ra	ra	ra
ル	音声	ru	ru lu	(ru) (lu)	ru (du)	(ru)	ru
	音韻	ru	ru	(ru)	ru	(ru)	ru
ロ	音声	(rU) (ro)	ro lo rU	rU lu ru	ru (du)	ru	ru

		l u	l u			
	音韻	(rθ)	r θ	r u	r u	r u	r u

13、 * /ヤ、ユ、ヨ /

ヤ 翻：j a

館：也_マ、亜、洋、揚、甲

信：亜、洋、牙、耶、呀、鴉

列：y a

漂：j a

ユ 翻：j u

館：由、有、魚、不

信：由、有、油、又、雖、憂

列：y o o

漂：j u

ヨ 翻：j o

館：由、約

信：由、郁、夭、幼、優、霞

列：(例なし)

漂：(例なし)

音声音韻		翻	館	信	刂	漂	現
ヤ	音声	ja	ja	ja	ja	ja	ja
	音韻	ja	ja	ja	'ja	'ja	'ja
ユ	音声	ju	ju	ju	ju	ju	ju
	音韻	ju	ju	ju	'ju	'ju	'ju
ヨ	音声	ju	ju ju	ju ju	(ju)	(ju)	ju
	音韻	jθ	jθ	ju	('ju)	('ju)	'ju

14、 * / 𠂔、エ、ワ、ウ、ヲ /

𠂔 翻：(例なし)

館：亦

信：依、兀

刂：ee

漂：(例なし)

エ 翻：'i

館：由、葉

信：夷、威

刂：wee

漂：(例なし)

フ 翻 : wa, oa

館 : 外、吐フツ、哇、敖、窩

信 : 哇、敖、華、倭、瓦、歪、碗

勿 : wa

漂 : oa

フ 翻 : (例なし)

館 : 外、倭、烏、翁、窩

信 : 烏、翁、戸、唔、歪

勿 : woo

漂 : u

音声音韻		翻	館	信	勿	漂	現
フ	音声	(wi)	wi	wi	ji	(wi)	ji
	音韻	(wi)	wi	wi	'i	('i)	'i
エ	音声	wi (we) (wI)	wI wī	wI wi	wi	(wi)	wi
	音韻	wi	wi	wi	'i	('i)	'i
フ	音声	wa	wa	wa	wa	wa	wa
	音韻	wa	wa	wa	'wa	'wa	'wa
	音声	(wU)	wO wU	wU wu	wu	wu	wu

フ						
	音韻	(θ)	θ	u	' u	' u	' u

15、 声門閉鎖（喉頭化）と非声門閉鎖（非喉頭化）
 （用字・用例省略）

	翻	館	信	刈	漂	現
音声	○	○	○	○	○	○
音韻	/	/	?	○	○	○

（「○」は、声門閉鎖音あり）

16、 撥音

（用字・用例省略）

翻	館	信	刈	漂	現
○	○	○	○	○	○

（「○」は、撥音あり）

17、 促音

(用字・用例省略)

翻	館	信	刈	漂	現
○	○	○	○	○	○

(「○」は、促音あり)

18、 無気音

(用字・用例省略)

翻	館	信	刈	漂	現
×	○	○	×	○	○

(「○」は、無気音表記・用字あり、「×」はナシ)

無気音表記があるか、無気音系統の用字があるかを見ただけで、それが音韻としてそうだという意味ではない。

現代語では、音声的には無気音も現われるが、余剰的特徴である。

[口蓋化と破擦音化]

口蓋化と破擦音化現象について考えるために、現代語の

[tʃi] [(d)ʒi] と対応する

(1) 「カ・ガとタ・ダ」、

[tʃi] [(d)ʒi] と対応する

(2) 「キ・ギ、チ・ヂと[i] の後のケ・ゲ、テ・デ」、

[ʃi] [(d)ʒi] ・ [tʃi] [(d)ʒi] と対応する

(3) 「ス・ズとツ・ヅ」

を取り上げる。

「音訳字」の音価推定の目安として、『学研漢和大字典』（以下『学研字典』と呼ぶ）（藤堂明保編、学習研究社、1981年 2月 1日 第10刷）の「上古音（周・秦）－中古音（隋・唐）－『中原音韻』（元）－北京語および、拼音（北京式ローマ字）による現代音」¹¹の項を使用する。

語例については、朝鮮資料はハングルとその転写とを示す。中国資料は「音訳字」のみを示し、「漢語」は省略する。（旧字体を新字体に改めたものが多い。）

¹¹ その「凡例」「日(七)中国語」によれば、「上古音～現代音」は「ローマ字」表記とあるが、これは「音声表記」とみなされる。

(1) カ・ガとタ・ダ

〔i〕に後続する「カ」を含む語として、現代語の〔tʃa:〕, 〔tʃitʃasaŋ〕, 〔mittʃa〕²⁾ に対応する「いか (如何)」「ちかし (近)」「みか (三日)」を取り上げる。ただし、八つの資料に共通に現われるものはない。

いか 翻이갸i·kja

ちかし 館集加撒 使即加撒 字即加撒 見恥喀撒

みか 信密介 見密戛

翻の「이갸」に、口蓋化現象を見ることができるが、他の資料ではどうか。「学研字典」によれば「加」「喀」「介」「戛」の音価は次のようである。

加 kār-kā-kia-tʃia(jià)

喀 k'ak-k'ʌk-k'iai·k'o-k'ə(kè·kà)

介 kād-kʌi-kiai-tʃie(jiè)

戛 kāt-kʌt-kia-tʃia(jià)

音価を推定するに際し、館使字については「中原音韻」のそれにならってよいが、信見の場合は、その成立年代から考えて、現代(北京)語音に近い状態を想定すべきであろう。³⁾ 上の例だけからすると館使字で〔kja〕, 信見で〔tʃa〕あるいは〔tʃa〕かと考えられるが、〔i〕のあと以外の「カ」にも同様の音訳字が当てられており、即断を許さない。〔i〕のあと以外の「カ」の例を次に示す。

2) アクセントは省略。以下同じ。

3) たとえば、「タ」の項でとりあげる信の「失脚衣 (ひたひ)」の例参照。脚 klak-klak-kiau-tʃiau(jiǎo·juē)の「kiau」ではなく、「tʃiau」をとるべきであろう。

まかり (碗)

翻 마가리 ma·ka·ri 館麻加立 使麻佳里, 麻加里 字麻佳里,
麻加里 信麦介衣, 麻佳里 見麼喀倚

いつか (五日)

信一子介 見一之憂

をか (陸)

館倭嗑 使倭嗑 字倭嗑 信倭喀 見倭喀

かぜ (風)

翻 칸지 kha·cui 館嗑集 使監濟, 嗑濟 字嗑濟 信喀買子,
喀買 見哈子, 曠子 刈 kazzee, kassee 漂 칸의 kan·wi

かみ (紙)

翻 카미 kha·mi 館嗑乜 使嗑乜 字堪批 信瞎皮 見哈比
刈 kabee 漂 가빌 ka·pir

「加・喀・介・憂」以外の「カ」相当字の「学研字典」による音価は次のとおり。

佳 kэг-kāi-kiai-tšia(jiā)

嗑 kap-kap-ko-kə(gé·gě)

həp-həp-ho-hə(hé)

監 klām-kām-kiam-tšian(jiān·jiàn)

哈 □ həp-həp-ha-ha(hā·hǎ)

□ ɲəp-ɲəp... 4)

曠 kat-kat-ko-kə(gé·gě) 5)

堪 k'am-k'am-k'am-k'an(kān)

瞎 hāt-hāt-hit'šia(xiā)

4) 「…」は「現代語が、上古・中古音から、著しく不規則な変化をしたもの」。(「学研字典」凡例, (七)中国語)

5) 「曠」による。

翻の「가」という口蓋化を示す表記はゆるぎない事実と思われる。
〔i〕のあと以外の「カ」はすべて「가ka」か「카kha」であることがこのことを裏付けている。それでは、中国資料の、〔i〕のあと以外の「カ」に口蓋化音らしいものを含む音訳字が当てられているものがあるのはなぜか。これは、気音の強いのを口蓋化した音のように聞いた結果ではないかと推測される。「かぜ」「かみ」の例にそれが顕著に現われていると言える。気音の強くなる語頭音であること、翻ではともに有気音を示すハングル「ㄱkh」が用いられていることと見の「かぜ」の「哈ha-ha」、字の「かみ」の「堪k'am」、信の「かみ」の「瞎hia-sia」とを比べれば首肯できよう。

その他の「カ」相当用字例については、(4)の「用字一覧」参照。

〔i〕に後続する「ガ」を含み、現代語の口蓋化（さらに破擦音化）したものとつながる語としては、翻に「にがし（苦）」があるだけである（現代語は〔ndʒasan〕）。

「리가사」とあって、一見口蓋化表記がなされていないところが、よく見ると「가」の「ㅏ」の部分の横線が次の「사」の「ㅏ」のそれより若干上にある。他の「ㅏ」の部分と比べても同じことが言える。「ㅏ」とあるべきところ、下の横線が印刷不鮮明で消えてしまったのではあるまいか。このことは「纂輯 日本譯語」および「南島方言資料」中の「語音翻訳」のその部分についても同様である。「纂輯 日本譯語」の場合は「ㅏ」の部分がほとんど消えており、国書刊行会復刻版「海東諸國紀」においても「ㅏ」の部分が不鮮明である。つまり、리가사는리가사とあったはずのもので、口蓋化を示す表記のなされた例であると判断できる。「리」は「ㄴ」の誤りと考えられるからㄴ가사である。

現代語に到る破擦音化の時期については、「カ」に準じて考えれば字と信との間あたりになるだろうが、資料不足により、保留せざるをえない。

他の「ガ」用字例については(4)参照。

〔i〕に後続する「夕」を含む語として「あした(明日)」「した(下)」「した(舌)」「ひたひ(額)」をとりあげる。(現代語は [ʔatʃa], [ʃitʃa], [ʃiba] ⁶⁾, [çitʃɛ:]) 用例は次のとおり。

あした(明日)

翻아자'a·cja 館阿者 使阿者 字阿者 信阿着 見阿雜
刈 acha

した(下)

翻시자si·cja 信昔着, 借着 刈 sticha

した(舌)

翻시자si·cja 信失着 見失渣 刈 seeba

ひたひ(額)

信失脚衣 見虚渣衣 刈 fitchayeh

翻の「자cja」により、16世紀初めには口蓋化の段階 [t̚a] [t̚ja] を過ぎ、破擦音の時期に到っていたとみ ることができる。それがいつまで続くか。中国資料ではどうか。例により音訳字の「学研字典」による推定音価をみる。

者 tiāg-t̚jiā-t̚ʃle-t̚ʃə(zhē)

着 diak-ɸiak t̚ʃlo-t̚ʃuə(zhuó)

t̚ʃlau-t̚ʃau(zháo·zhāo)

雜 dzəp-dzəp-tsa-tsa(zá)

渣 tsār-t̚ʃa-t̚ʃa-t̚ʃa(zhā)

脚 klak-klak-kiau-t̚ʃiau(jiǎo·jué)

⁶⁾ 現代語の [ʃiba] は、音韻的には「舌」とは対応しない。「クリフォード琉球語彙」には 'seeba' とある。

館使字の「者」⁷⁾は [tʃie] に、信の「着」は [ʃsau] に、見の「雑」は [tsa] にそれぞれよるべく、翻と考え合わせると、(あまり口蓋化のない) 破擦音の状態が見の時代、つまり18世紀後半ごろまで続いていたと考えられる。「着」「渣」のそり舌音、「雑」「脚」の無気音であることも傍証となるか。) ただし、翻の「冫」が示すように、全然口蓋化がなかったわけではない。それが、現代語のように、口蓋化した破擦音への傾斜を見せるのは18世紀末から19世紀初あたりではないかと考えられる。「クリフォード琉球語彙」(1818年)に 'acha'sticha'fitchayeh' とあるをその根拠とする。

ちなみに、「ひたひ」の末尾の母音に関し、信見ともに、「一脚衣」「一渣衣」と、二重母音 [-ai] を示しているらしいのに、「クリフォード」では '-tchayeh' と [-ɛ:] になっている。[ai] → [ɛ:] の変化を知るのに示唆を与えてくれる。

「夕」の他の用字例については(4)参照。

[i] に後続する「夕」を含む語として「あしだ(足駄)」と「ひだり(左)」(現代語は [ʔafidʒa] と [çidʒai]) とがあげられるが、「あしだ」は翻館使字に収録されてない。翻には「ひだり」もない。

あしだ(足駄)

信阿書着 見阿失雑

ひだり(左)

館分達立 使分達里 字分達里 信分搭里 見虚搭歴⁸⁾

刈 feejeeree

⁷⁾ 用字法から見て、先行文献(館か)の引き写しにより、三者同じになったものであろう。

⁸⁾ 印刷不鮮明。

用字「達」「搭」(「搭」は「搭」の異体字)の「学研字典」の音価は次のとおり。「着, 雑」については「夕」のところで示したので, 省略)

達 dat-dat-ta-ta(dá)

搭 t'ap-t'ap-t'a-t'a(tǎ)

「あしだ」に関しては, 信見で破擦音化していることがわかる。「ひだり」については問題があるが, 信の「搭」は, 先行文献の材料に「手を加えて音訳漢字などを変えたもの」⁹⁾に属すると考えられ(「分」「里」は先行文献と同じ), 見の「搭」は, 「カ」で述べたことと逆の現象として, 破擦音的要素を有気音に聞き取ったと解され, 解決がつこう。

なお, この「夕」については, その前に鼻音が存したであろうことも関連して, 破擦音化が「夕」より遅れたとも考えられる。

「夕」の前に鼻音が存したであろうことは, 「ひだり」の例でもわかるが, 「ふで(筆)」の例ではっきりしよう。

ふで(筆)

翻 **𠵼** **𠵼** phun · ti 館分帖 使分帖 字分噓 信夫的¹⁰⁾ 見弗的
 的 𠵼 hoodee 漂 𠵼 hu-tui

「あしだ」についても, 翻館使字に収録されていたとすれば, 「ひだり」と似たような様相を呈したにちがいない。

その他の「夕」の音訳字については(4)参照。

⁹⁾ 「纂輯日本譯語」P 258。

¹⁰⁾ これにより信の「分搭里」(ひだり)が, 先行文献の「分」「里」をそのままにし, 「搭」だけを変えたものであることがわかる。

(2) キ・ギ, ケ・ゲとチ・ヂ, テ・デ

「カ・ガ, タ・ダ」がその前の母音〔i〕によって口蓋化および破擦音化が起こるのに対し, 「キ・ギ, チ・ヂ」は自らの母音〔i〕だけにより, 先行母音の如何にかかわらない。(「ケ・ゲ, テ・デ」は先行母音にかかわると言えよう。)

「キ・ギ」を含む語で, (八つの中) 四つ以上の資料に収録されているものをいくつか示そう。

あき (秋)

翻 아끼 a·ki 館阿及 使阿及 字阿及 信阿紀 見阿吉

いき (息)

館亦及 使亦急 字亦急 信亦吉 刈 eechee

つき (月)

翻 스티치 ca·ki 館都及, 多及 使都急, 都及 字都急, 都及
信子急 見此吉 刈 stitchee 漂 지지 ci.ci

ゆき (雪)

翻 유끼 ju·ki 館由乞 使由其 字由旗 信又急 見欲吉

おきはな (沖縄)

館倭及奴, 倭及那 使倭急拿 字倭急拿 信倭急拿 見屋其惹
き (木)

館及, 結 使急 字急 信吉, 鷄 刈 kee

きぬ (衣)

翻 기루끼 ki·ru (nu) 館及那 使急那 字遮那 信軽, 衾, 豈
奴 刈 ching

みぎ (右)

館民及立 使民急里 字民急里 信名急里 見蜜吉歴 刈 meejeeree

うさぎ (兎)

翻 우상끼 u·sag·ki 館烏撒及 使吾撒急 字吾撒急 信兀
煞吉

あふぎ (扇)

館昂及 使昂季 字枉其 信丫吉, 枉其 見窩吉 ㄱ ojee 漂 오지 'o-ci
 をぎ (荻) 〈甘蔗〉

館翁及 使翁急 字翁急 信翁吉 ㄱ oojee 漂 옥이 'uk·'i

「キ・ギ」相当の音訳字を整理すると以下のようになる。どの資料に現われるかということと、「学研字典」の音価も合わせて示す。

	音訳字	資 料	「学研字典」による音価			
キ	結	館	ket	ket	kie	tʃie(jié·jiē)
	乞	館使字信	k'lət	k'lət	k'läi	tʃ'i(qi)
	及	館使字信見	gləp	gləp	kiei	tʃi(ji)
	急	使字信	kləp	kləp	kiäi	tʃi(ji)
	其	使字信見	kläg	klei	ki	tʃi(ji)
	気	使字信見	k'ləd	k'läi	k'läi	tʃ'i(qi)
	旗	字	gläg	glei	k'i	tʃ'i(qi)
	麒	字	kläg	klei	ki	tʃi(ji)
	遮	字	tiäg	tʃlä	tʃle	tʃə(zhē)
	起	字信	k'läg	k'lei	k'i	tʃ'i(qi)
	几	信	klər	kli	ki	tʃi(ji·ji)
	啓	信	k'er	k'ei	k'läi	tʃ'i(qi)
	夾	信	kāp	kʌp	kia	tʃia(jiā·jiá)
	紀	信	kläg	klei	ki	tʃi(ji)
	綺	信	kl'ar	k'lē	k'i	tʃ'i(qi)
	鷄	信	ker	kei	kiäi	tʃi(ji)
	豈	信	k'lər	k'läi	k'äi	tʃ'i(qi)
	子	信	tsiäg	tsiei	tsi	tsi(zī·zi)
	吉	信見	kiet	kiēt	kiäi	tʃi(ji)
	奇	見	ㄱglar	gle	k'i	tʃ'i(qi)
			ㄱklar	klē	ki	tʃi(ji)
	機	見	klər	kläi	kiäi	tʃi(ji)
	近	館使	glən	glən	kiən	tʃiən(jin)
進	使	tsein	tsiën	tsiən	tʃiən(jin)	
之	信	tiäg	tʃlei	tʃi	tʃi(zhi)	

キン キヌ	巾 君 輕 衾	館使信 字 信見 信	klən klən kiən tʃiən (jīn) kluən kluən kiuən tʃūən (jūn) k'ieŋ k'ieŋ k'iaŋ tʃ'iaŋ (qīng) k'ləm k'ləm k'iam tʃ'iam (qīn)
キヤ	客 恰	信 見	k'ak k'ak k'o k'ə (kè) k'iai tʃ'ie (qiè) k'ap k'ap k'ia ts'ia (qià)
キヤン	腔	見	k'uŋ k'əŋ k'iaŋ tʃ'iaŋ (qiāng)
キヨ	喬 求	館 見	glog gleu k'ieu tʃ'iau (qiáo) glog gləu k'iau tʃ'iau (qiú)
キ	乞 及 急 季 已 其 棋 鷄 既 之 吉 機	館 館 字信見 使字 使 使 見 字信 信 信 信 信 信見 見	→キ →キ →キ kied kii ki tʃi (ji) ɕiəŋ (yiei) ziei sī sī (si) →キ gləŋ glei k'i tʃ'i (qi) →キ klər kləi kiəi tʃi (ji) →キ →キ →キ
キヌ	琴 景 巾 間	信 信 見 見	gləm gləm k'iam tʃ'ian (qin) kläg kləŋ kiəŋ tʃ'iaŋ (jīng) →キン kän kən kian tʃian (jiān · jiàn)

表1 「キ・ギ」用字

「キ・ギ」の破擦音化の時期をいつごろに仮設するか。表1を念頭におき、字の「遮那」(きぬ)と使の「非進的」(ひきで)(前掲語例には示されてない)とをてがかりに考察を進めていこう。

まず、字の「夷語音釋」および「夷字音釋」は使の「夷語」「夷字」の転載されたものであるということを前提にする。使と字とで音訳字が違うものは、字が転載の際に字を変えたと見る。「きぬ」に関して言えば、使の「急那」を字が「遮那」に変えたと見たい。もともと軟口蓋破裂音系統の頭子音をもつ「急」を、「中原音韻」の段階で硬口蓋齒茎破擦音系統の頭子音をもつものになっていたであろう「遮」に変えたのである。字の時期には、「急」と「遮」とが同じ音(ではないにしてもかなり近い音)を有するようになっていたと考えられ、「急」(の頭子音)が破擦音化していたことを示すものとなろう。このことと、沖縄語の「キ」が破擦音化していたかどうかの問題とは直接には結びつかないが、館使字信見に共通に現われる、もともと軟口蓋破裂音系統の頭子音を有する音訳字(たとえば、及、乞、急)は、信見では現代(北京)語音に近い硬口蓋齒茎破擦音系統のそれに変っていた(先行文献資料の引き写しであるものを除き)と判断してよい材料となろう。(1)「カ」のところ述べたことと関連する。)

しかし、「遮那」に関しては、ことはそれほど単純ではない。問題なしとしない。用例の現われ方を見てみる。

使 292 衣服 急那

字 285 衫 遮那

299 衣服 乙依

(数字は資料の本文に付した通し番号である。以下同じ)

字の漢語見出し「衫」に相当するものが使に存在しないこと、字で「衣服」に「乙依」の音訳字が当てられていることがまず問題となろう。これらについては次のように考える。

字が「衫」相当の「琉球語」に（使に「衫」がないので）、意味の似ている「衣服」のそれを持って来て、音訳字を変えた。「那」にその痕跡を留めている。「衣服」についてはさらに字を変えた。「乙」は「乞」の誤りであろう。ただし、「依」と「那」とが同音とみなされるか問題が残る。

さらに問題なのは、字の「遮」の部分が不鮮明で、果して「遮」なのか判然としないことである。今、疑問を残しておく。

次に使の「非進的（ひきで）」について考察する。「ひきで」に相当する語は館と使とにしか存しない。次のようである。

館	355, 389	賞賜	非近的
	373	給賞	非近的
使	249	賞賜	非進的
	266	給賞	非近的

この例は館の成立時期問題とも関連をもちそうである。

さて、陳侃はその『使琉球録』を編むにあたり、かなりの意気込みを持っていたようである。諸書に載せられた琉球の記事について自らの実見をもとに批判していることはその現われであろう。そして、「夷語夷字」については、進箋で、自分が初めて載せたものであるとしてその独自性を強調している。しかし、先行の冊封使記録に「夷語夷字」が載っていないからといって当時の中国にそれに類するものがなかったことにはならない。多分あったであろうし、それは「琉球館訳語」ではなかったか。陳侃はそれを「参考資料」に使っ

たのではないか。それに依りながら「夷語」を調べたのではないか。
「これは参考資料と同じ。そのまま書いておこう。」「これも同じだが、(独自性を示すために)用字を変えようか。」などという過程があったのではなかろうか。その結果、館と使とに漢語、音訳字ともに一致するものが多くなった。(ついでに言えば、付載「夷語夷字」は冊封使記録の中にあってその独自性を示すに足るものであればよいのであるから、量は多くなくてよい。それなりの数で充分である。それが、収録語数が館より少ない理由のひとつか。)

先行文献の用字を変えたりした最たるものが信であるが、その帰結として用字の数が多くなっている。表1の「キ」の用字だけでもこのことが知られる。同様のことが使についても言えるのではあるまいか。館より使のほうが用字数が多い傾向にある。概して、館の用字に別の用字が加わる。(4)の用字一覧参照)

「ひきで」に話をもどそう。まず、使の「進」は「近」の誤記・誤写とは考えにくく、書き変えたと見るのが妥当であろう。使の時代の「近」と「進」とが同音であった可能性は小さく、書き変えたのは、当時の沖縄語の(「ひきで」の)「き」の音が、硬口蓋歯茎破擦音系の頭子音を持つ「進」に近いそれであったからであろう。ところが、「266給賜」では「近」となっている。なぜか。この時は先行文献をそのまま写したか。それではあまりに単純すぎる。「給賜」を聞いた時には「近」と音訳するのがよいと思われる音を得られたのだと考えるのはどうか。そうだとすれば「キ」が破擦音化する過渡期にあったと解釈できよう。

陳侃が館を参考にしたかどうかの問題を抜きにして、「万暦の頃の使録が、記録彙編中に収められた時、琉球館訳語を省略し、少し

く写音法をかえて、付録にした」¹¹⁾ という考えに従った場合、沖繩語の「キ」の破擦音化時期を示す有力な根拠にはならないが、万暦の頃（16世紀後半から17世紀初）（「ひきで」の音訳字中の）「進」と「近」とが中国語で同音であったらしいことになり、前述したように信見に現われる、軟口蓋破裂音系の頭子音をもつ音訳字は、現代（北京）語に近い、硬口蓋歯茎破擦音と考えてよいということを支える例となる。

翻の「ㄱki」および「ㄱkhi」が示すように16世紀初めごろの「キ」は破擦音化してない。「クリフォード琉球語彙」と『漂海録』が教えるように、19世紀の初めごろには、完全に破擦音化している。

（ eetchee 息、stitchee 지지 月、ching 衣 ）

そして、以上見てきたように、破擦音化が始まったのは16世紀の半ばごろであり、17世紀の初めには破擦音化が終了していたと考えられる。

「ギ」は、「キ」に準じよう。省略。

「ケ・ゲ」を含む語例。

さけ（酒）

翻 사긱 sa・kwi 館撒及 使撒急 字撒其 信煞几 見撒吉，
煞機

たけ（竹）

館達及 使達急 字達急 信托几，打吉 見他吉

ひげ（髭）

館品乞 使品其 字品其 信非几 見虚及

あく（上）（あげて，あげよ）

翻 앙긱리 'aj・kwi・ri 館阿結的，昂乞立 使阿傑的，昂乞利

¹¹⁾ 『纂輯日本譯語』 p253。

字安急弟 信阿傑的

「ケ・ゲ」に対して用いられた音訳字は、ほとんど「キ・ギ」のそれと同じである。しかし、だからといって「キ」と「ケ」、「ギ」と「ゲ」とが同音になっていたということにはならない。([i]のあとのケ・ゲを除いて) 現代語がそうではないことが何よりの証拠であり、翻の例がそれを物語っている。

「ケ」の音訳字と資料との関係、それぞれの字の音価(「中原音韻」と現代北京語)を表にしてみる。

音訳字	資 料	音 価	
及	館	kiei	tʂi(ji)
乞	館	k'iei	tʂ'i(qi)
急	使字信	kiəi	tʂi(ji)
其	使字信	ki	tʂi(ji)
几	信	ki	tʂi(ji·ji)
鷄	信	kiəi	tʂi(ji)
吉	信見	kiəi	tʂi(ji)
機	見	kiəi	tʂi(ji)
交	館	kiau	tʂiau(jiào)

表2 「ケ」の用字

これからまず気付くことは、「乞」を除き、無気音系統の字が使われていることである。たとえ「キ」に変化していたとしても、口蓋化はしてなかった。館の「乞」は、母音部分に重きをおいた音訳であると思われる。

ところで、翻段階の「ケ」の母音部分には「-|」だけしか出現し

ないが、他のエ段音に「ㄱ ai」「非 joi」のハングル母音が現われることから（第一章第一節4-1-2参照）、「ケ」にも同様の異音が存したと考えられる。このことと前記「キ」の項で考察したことを総合すると次のようになる。

	翻	館	使	字	信	見	クリ	漂
キ	ki	ki	k _j , ts _j i	ts _j i	t _j i	t _j i	t _j i	t _j i
ケ	kĕ, ke, kī, kl	ke, kī, kl	ki	k _j i	k _j i	k _j i	k _j i	k _j i

表3 「キ」「ケ」の変化

「ギ」「ゲ」も平行的に変化したと考えてさしつかえなからう。

〔i〕のあとの「ケ」の例が見出せないので、「ひげ」を例にして「ゲ」で考えることにする。翻には、この語は存しないが、収録されていたとすれば「핑긔 phig·kwi」などであったろうことは想像に難くない。クリには、feejeeとあり、破擦音化した姿を見せている。この変化はいつごろ起こったのか。「キ」「ギ」の破擦音化よりは遅れたとするのが無難だろうから、信の前あたり、16世紀末から17世紀初に設定できるか。

「チ・ヂ」を取り上げるのは、「キ・ギ」の破擦音化、「テ・デ」の口蓋化さらに破擦音化との関係を見るためである。

まず「チ・ヂ」の語例を示す。

みち（道）

翻미지 mi·ci 館密集 使密集, 蜜即 字密集, 蜜即 信密之,

密即 見蜜至 刈 meetchee, meechee

くち (口)

翻 ㄱ지 khw·ci 館姑只, 姑之 使谷只, 谷之 字谷只, 窟止

信谷之, 可之 見窟止, 窟齒 刈 cootchee, coochee 漂 구지 ku-ci

ち (地)

翻 지ci 館只 使只 字只 信池 見齒

ちや (茶)

翻 차chja 館扎 使扎 字札, 茶 信札, 茶 見茶

かぢ (舵)

館看失 使看失 字看息 信看失 見哈帶

「チ」はもと [ti] であったと考えられるが、翻では破擦音化した形「지ci」で現われている。当時の朝鮮語のハングル「ス」が、「ts」であったらしいことと、館を初めとする中国資料の用字例とから [tʃi] であったとみることができる。

ところで、例は多くないが、「チ」相当音訳字の中に「キ」でも現われるものがある。そして、それは主として信と見とにおいて見られる。たとえば、次のような例がある。

信夷夷喀之 (ゑかき, 画) 信密之 (みち, 道) 見亦之 (いち, 一)

「キ」と「チ」とが同音になった時期を示しそうな例である。クリではともに [tʃi] となっている。

(meetchee, meechee (みち), cootchee, coochee (くち))。

(「夷夷喀之」は「ゑかきて」の可能性もある。)

その他の「チ」および「ヂ」の用字例については(4)参照。

「テ・デ」について考える。語例を示す。

きて (来)

翻 깃제 kit·cjo 館掲只 使掲知 字掲知 信掲之
かきて (書, 描)

館開的 使開的 字開第 信喀之 刈 katchee
しりて (知)

館失只 使失知 字識之 信識之 見失之
はれて (晴)

翻 파리데 pha·ri·tjoi, 파릴데 pha·rit·tjoi, 피릴디 phi(pha)·
rit·ti 館法立的 使法立的 字法立的 信法力的 見花力的
て (手)

翻 티 thi 館帖 使帖 字剃 信蹄 見蹄 刈 tee
てん (天)

翻 텃 thjon 館甸尼 使甸尼 字甸尼, 甸泥 信町, 廳 見廳 刈 ting
ふで (筆)

翻 푼디 phun·ti 館分帖 使分帖 字忿嚏 信夫的 見弗的 刈 hoodee
ほでり (電)

館波得 使波得 字波得 信賀的 見福礼

漂 후디 hu-tui

「テ」は、母音の問題と関連して、「ケ」と共通する部分が多かろう。翻の時期には、「ケ」と同様に、次のような異音が認められよう。つまり、[tē, te, tī, ti] などである。これは中国資料の用字からも支持されよう。

例に見るように、[i] に先行された「テ」はその影響を受けて破擦音化している。翻段階では [tsē, tse, tsī, tsi] などであり、信段階では [tsi] であった ([tʃi] ではなかった) と思われる。この

ことについては、「ツ」のところも関連がある。

ところで、「かきて」は（「きて」「しりて」と比べて）少し様子が違う。破擦音化が認められるのは信の段階においてである。これは「い音便」のためと思われる。「カキテ」が「カイテ」に変わった時点では〔i〕が後続の「テ」を破擦音化する力がなく、〔kaiti〕などを経過するまで待たなければならなかったようである。これに対して（「促音便」の）「しりて」のほうは「し」の母音の力が働いたようである。翻の「앙갈데'ag·kat·tjoi（あがりて）」、「잇제'is·cjai（いりて）」の例参照。さらに、次の例とも対照。

うりて（売）

字屋的 信屋的 見屋的

くもりて（曇）

翻구모데 ku·mo·tjoi 館姑木的 使姑木的 信姑木的 見窟木的

ふりて（降）

翻플데 phut·tjoi 信福的 見福的

また、「～ひて」の類も破擦音化されない。「～ひて」にではなく、「～うて」などに対応するからであろう。次のような例がある。

かひて（買）

字科的 信科的 見科的

わらひて（笑）

字瓦喇的 信瓦喇的 見瓦喇的 勿 warratee

ゑひて（酔）

翻이우디 i·u·ti 館由的 信威蒂 見威蒂

ちなみに、/ *e / から変化した / i / は後続の / t / を破擦音化しな

い。「はれて」がそうであるが、他に次のような例があげられる。

つとめて (夙)

翻^レ土^ニ密^シ多^ク速^ニ館^トsto・mwi・ti 館速多密的 使速多密的 字速都密的
信速多密的

あげて (上)

館阿結的 使阿傑的 字安急弟 信阿傑的

「テ」は「テ」に準じる。省略。用字例は(4)参照。

(3) ス・ズとツ・ヅ

現代語の [ʃi]・[ʃi], [tʃi]・[(d)ʃi] に到る「ス・ズ, ツ・ヅ」の変化について考える。

「ス」「ズ」の語例を示す。(現は現代語)

さす (鎖)

館撒舎 使沙舎 字挿息 信沙四, 柴心 見除洗 刈 sasee (現 [sa:ʃi])

ぐすく (城)

館姑速姑 使谷僧谷 字窟宿孤 刈 gooseecoo (現 [gusʏku], [gusʃiku])

すな (砂)

館是那 使是那 字是那 信是那 見息拉 刈 sinna (現 [ʃina])

すみ (墨)

翻^レ々^ニ密^シ司^シ墨^ニ館^トsa・mi 館思墨 使思墨 字司默 信細米, 司墨, 西
米 見思密, 西米 刈 simmee 漂^レ々^ニ密^シ司^シmi (現 [ʃimi])

すずり (硯)

翻^レ々^ニ密^シ立^シ思^シ孫^ニ館^トsa・ca・ri 館孫思立, 孫司立 使孫思利 字孫司利
信思子里 見息子利 (現 [ʃiʃiri])

ばうず (坊主)

館包子 使鮑子 字褒子 信巴子 刈 bōdsee, bōdzee (現 [bo:^dʒi])
「ス」の音変化は「シ・セ・ソ」との関係で考えなければならない。
「第一章第二節4-7、第三章第一節4-3-7」で述べたことも参考にして、次のような変化過程を仮定する(細かいバリエーションは除外して)。

	a	b	c	d	e	f
シ	si	si	ʃi	ʃi	ʃi	ʃi
セ	se	sī	si	ʃi, s, i	ʃi	ʃi
ス	su	suw	sī	si	si	ʃi
ソ	so	su	su	su	su	su

表4

aは翻以前(多分15C末ごろまで)、dがクリ、^漂eが「沖縄語辞典」¹²⁾、fが現代語である。それぞれの中国資料はどの段階を示しているか。

(4)の用字例でわかるように、他の資料では多く「シ」の音訳字に用いられている「失」が信見では「セ」の音訳字としても用いられ、さらに「ス」のそれとしても用いられている。また、使では「ス」の音訳字である「司」が、字信では「ス」以外に「セ」に使われている。

「ぐすく(城)」の「ス」に当たる用字を見ると、館が「速」、使が「僧」、字が「宿」で、この順で、前寄りの母音を含む字に変わってきている。

以上のことを表にすると次のようである。

.....
¹²⁾ 第三章(注¹³⁾)で述べたごとく、20世紀初めごろの沖縄語とみて対処するのがよいと考える。

	音訳字	資 料	音 価	
			中原音韻	現 代 語
し	失	館 使 字 信 見	ʃl̥ai	sī (shī)
せ		信 見		
す		信 見		
す	司	使 字 信	sī	sī (sī)
せ		字 信		
グ ス ク の 「 ス 」	速	館	su	su (sù)
	僧	使	səŋ	səŋ (səng)
	宿	字	siu	su (sù) ʃiəu (xiú·xiù)

表 5

これだけでは断定的なことは言えないが、信に、「ス」「シ」両方に当てられている音訳字がいくつかある（「四，細，色」など）ことや「ソ」相当音訳字も考慮に入れると¹³⁾，館が a から b の間，使が c，信見が c と d の間あたりに位置することになるか。

「ズ」は「ス」に準じよう。省略。

「ツ・ヅ」を含む語例。

いつつ (五)

館亦子子 使亦子子 字一子孜 信一子子 刈 ittitsee

ひつじ (羊)

翻비즈자 pi·ca·cja 館非多只 使非都知 字匹牝知

たつ (龍)

翻타즈tha·ca 館達多 使達多 字達多 信達多

13) ただし，館使には「あそぶ (遊)」一語しかない。これは，現代語は [ʔasibuN] で，「ソ」が [ʃi] に対応する形となっていて，例外的である。おそらく「アスブ」に対応するのであろう。

なつ (夏)

翻 날자 nat · cA 館那都, 那多 使拿都 字拿都 信約之 見
那即 ㄱ 나annatsee (七つ)

ぐわつ (月)

翻 과자 koa · cA 館哇的 使哇的 字哇的 信括子 見刮止 漂 과치 koa·chi
まつ (松)

館馬足 使馬足 字馬足 信貿子 ㄱ matesee, matsee kee

ひとつ (一)

翻 부대자 pu · tjo · cA 館的子 使的子 字的子 信抵子 ㄱ teetesee

つき (月)

漂 식잇 stui·is

翻 자기 cA · ki 館都及, 多及 使都急, 都及 字都急, 都及

信子急 見此吉 ㄱ stitchee 漂 지지 ci·ci

つち (土)

館是只 使足只 字足只 信足池 見齒至

つとめて (夙)

翻 소미디 sto · mui · ti 館速多密的 使速多蜜的 字速都密
的, 速畚圈 信速都密的, 速畚拖枚

つゆ (露)

館禿有 使禿有 字禿有 信禿有 見七欲

つる (弦)

翻 조누 co · nu (ru) 館禿奴 使禿奴 字子奴 信子奴 見子
魯 ㄱ cheeroo

みづ (水)

館民足 使民足 字民足, 血子 信髓子, 血子 見媚吉, 蜜子,
梅子 ㄱ meezee 漂 미리 mi·cwi

翻が一貫して破擦音を示すハングル「ス」を用いていることは注目に値する。これに対して中国資料では、破裂音・破擦音両方が現われる。現代（北京）語でも破裂音である「多，都，禿」の存在は貴重である。¹⁴⁾ そして信においてこれらの音訳字が用いられているのは、先行文献の引き写しであると判断してよく、同じことは使に対してあてはまるのではないか。つまり、使は翻より後に成立したものであるから¹⁵⁾、使の破裂音系用字は、使独自のものではなく、先行文献（すなわち館）の資料を転載したものと考えざるをえない。この転載説を補強する例が「つち」であろう。館の「是」が使では「足」になっている。字信も同じである。これは、使が「足」に書き改め、字信がこれを踏襲した証しであろう。（館が、「ツ」を摩擦音系統の字で写した、他の例に「思禄（つる，鶴）」がある。これは「ツ」が破擦音的要素を帯びていたことの反映であろう。この例は、使字信では、ともに「司禄」とある。）

なお、館だけの用字で「独」がある。「176釣魚 亦窩独立的」がそれで、これが「つりて」に対応するのか「とりて」なのか判然としないところもあるが、示唆を与える例である。

クリでも、matsee（松），stitchee（月），stinnoo（角）などの例が示すように〔tsi〕の状態にあったから（『沖縄語辞典』も同じ）、信見は、当然、それと同じか、その前の段階にあった。

「ヅ」も「ツ」と同様に考えてよからう。ただ、現代語では〔(d)ʒi〕になっていると言えるが、老年層には〔dzi〕が保持されていることがある。1981年夏に、宜野湾市赤道在住（出生時以来転居なし）の八十歳の男性から〔midzi〕（水）を聞いた。

¹⁴⁾ 『中原音韻』で、『学研字典』によれば、多 tuo, 都 tu, 禿 t'u.

¹⁵⁾ 用字の母音にも注目して。

(4) 用字一覧

(1)~(3)に関する音訳漢字をまとめて表にすると次のようである。
語例については、付録「朝鮮・中国資料対照琉球語彙」参照。

「○」で用字の存在を示す。空欄は、その資料に、その用字のない意。

「カ」の用字一覧（「カン」「カイ・カヒ」「カウ」を含む）

	介	噓	加	噓	嗜	噓	佳	隼	堪	格	夾	摺	由	他	瞎	客	喀	哈
館	○	○	○	○														
使			○	○	○	○	○											
字			○	○		○		○	○									
信	○		○	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
見						○		○										○

要	干	刊	看	監	蓋	盖	害	開	勤	高	科	那	拿
	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	
		○	○	○		○	○	○	○	○			○
		○	○			○	○	○	○	○			○
			○							○			
○										○			

「ガ」の用字一覧

	加	噓	胡	喀	敢	夾	介	茄	搭	哈	平	暗	梗	噓
館	○	○										○		
使	○	○										○		
字	○	○	○								○	○		
信	○		○	○	○	○	○	○			○		○	○
見				○					○	○				

「タ」の用字一覧（「タイ」「タウ・タフ」を含む）

	者 大 着 脚 搭 雑 渣 搭 答	達 塔 林 荅 榻 捷 韃 打 托
館	○ ○	○ ○ ○
使	○ ○	○ ○ ○ ○ ○
字	○ ○	○ ○ ○ ○ ○
信	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
見		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

搭 搭 他 答 搭 待 大	太 大 帖	塔 力 刀 叨 駄
	○ ○	○ ○ ○
	○	○
○ ○ ○	○	○ ○
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○	○

「ダ」の用字一覧（「ダン」「ダイ」を含む）

	達 着 搭 雑 搭	達 打 搭	旦	代 大 荅
館	○	○	○	○ ○ ○
使	○	○		○ ○ ○
字	○	○		○ ○ ○
信	○ ○	○ ○		○ ○ ○
見	○ ○			

「キ」・「ギ」の用字一覧→表1

「ケ」の用字一覧→表2

「ゲ」の用字一覧

	乞 潔 結 其 傑 之 急 几 及 子
館	○ ○ ○
使	○ ○ ○ ○
字	○ ○ ○
信	○ ○ ○ ○
見	○ ○

「チ」の用字一覧 (「チウ」「チヤ」「チヤウ」「チヨ」を含む)

	止 宅 集 些 只 之 結 的 即 知 子 七 汁 着 痘 生 池 齊 至
館	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
使	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
字	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
信	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
見	○ ○ ○ ○ ○

齒 竹 恥 耻	柔	扎 札 茶	朝 胡 丈 芍	着 察
	○	○	○ ○	○
	○	○		○
	○	○		
		○ ○		
○ ○ ○ ○				○ ○

「ヂ」の用字一覧（「ヂン」を含む）

	周	失	息	之	几	帯	定	俗
館	○	○					○	
使		○						
字			○					
信	○			○	○	○		○
見						○		

「テ」の用字一覧（「テイ」「テウ」「テン」を含む）

	的	帖	第	弟	枚	剃	帝	得	底	蹄	蒂	只	知	其	之	已	只	止
館	○	○										○						
使	○	○										○	○					
字	○		○	○	○	○							○	○	○			
信	○				○		○	○	○	○	○			○	○	○	○	
見	○									○	○				○	○		○

「テ」の用字一覧

堤	條	梯	提	鳥	甸	町	廳
					○		
					○		
					○		
○	○			○		○	○
		○	○				○

	的	帖	得	嚏	礼
館	○	○	○		
使	○	○	○		
字			○	○	
信	○				
見	○				○

「ス」の用字一覧

	思	舍	孫	速	是	僧	司	息	訟	宿	心	四	細	西	色	失	洗	搥	挨
館	○	○	○	○	○														
使	○	○	○		○	○	○												
字	○		○		○		○	○	○	○									
信	○				○		○		○		○	○	○	○	○	○	○		○
見	○							○					○				○		○

「ズ」の用字一覧

	思	司	子
館	○	○	○
使	○		○
字		○	○
信			○
見			○

「シ」の用字一覧

	失	石	是	少	升	深	食	乞 _ㄣ	使	思	只	時	式	世	司	実	戸	匹 _ㄣ	申
館	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
使	○	○	○		○	○			○		○	○	○	○	○	○			
字	○	○	○		○		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
信	○	○	○			○		○			○	○			○				
見	○	○					○		○										

「ツ」の用字一覧

図 争 左 即 此 失 齒 七	度 通 吐
	○
	○
	○
○ ○ ○	○
○ ○ ○ ○ ○	○

	足 子 吉
館	○ ○
使	○ ○
字	○ ○
信	○
見	○ ○

[有声子音の前の鼻音]

この種の鼻音が存在したことは否めない事実であろうという前提のもとに、その消失時期に焦点を当ててみたい。まず、語例を示す。

〈ガ行子音の前〉

①しやうが (生姜)

翻 사옹가 *sa·'og·ka* 信 烧介 見 芍喀

②あふぎ (扇)

館 昂及 使 昂季 字 枉其 信 丫吉, 枉其 見 窩吉 刈 *ojee* 漂 *오지 'o·ci*

③うさぎ (兎)

翻 우상기 *'u·sag·ki* 館 烏撒及 使 吾撒急 字 吾撒急 信 兀
悠吉

④むぎ (麦)

館 蒙乞 使 蒙已 字 皿其

⑤をぎ (萩)

館 翁及 使 翁急 字 翁急 信 翁吉 刈 *oojee* 漂 *욱이 'uk·i*

⑥あげ〜 (上) (あげら, あげよ, あげて)

翻 아긔라 *a·kwi·ra*, 양긔리 *'ag·kwi·ri* 館 阿結的, 昂乞立
使 阿傑約, 阿傑約, 昂乞利 字 安急弟 信 阿傑的

⑦をなご (女)

字 圀男姑, 烏男姑 信 会南姑 見 烏那姑

刈 *innago* 漂 *우나귀 'u·na·kui*

〈ザ行子音の前〉

⑧かしらげ (頭毛) 〈カラジゲ〉

館嗑藍子乞 使嗑藍子其 字嗑蘭自之, 嗑藍自之, 嗑藍子其,
嗑十藍其 信喀籃子其, 喀蘭自之, 嗑藍自之

⑨くじやく (孔雀)

館公少 字枯雀姑 信姑雀姑

⑩かぜ (風)

翻칸지khan·cui 館嗑集 使監濟, 嗑濟 字嗑濟 信喀買子,
喀買 見哈子, 噶子 刈 kassee, kazzee 漂 칸의 kan·'ui

⑪すずり (硯)

翻손소리sa·ca·ri 館孫思立, 孫司立 使孫思利 字孫司利
信思子里 見息子利

⑫ぼうず (坊主)

館包子 使鮑子 字褒子 信巴子 刈 bōdsee, bōdzee

〈ダ行子音の前〉

⑬ひだり (左)

館分達立 使分達里 字分達里 信分搭里 見園摺摺 刈 feejeeree

⑭かち (舵)

館看失 使看失 字看息 信看失 見哈帶 刈 kassee

⑮みづ (水)

館民足 使民足 字民足, 血子 信閔子, 血子 見媚吉, 蜜子,
梅子 刈 meezee 漂 미지 mi·cui

⑩ふで (筆)

翻 분디 phun · ti 館分帖 使分帖 字忿嘆 信夫的 見弗的

⑪まだ (窓)

館慢多 使慢多 信馬都 見麻毒喀

ㄱ 勿 hoodee 漂 후디 hu · tui

⑫もどる (戻) 〈もどり〉

館慢多罗 使慢多羅 字悶都里 信 闊 都里 見木毒利 ㄱ moodoeeng
〈バ行子音の前〉

⑬おばに (御飯)

翻 오바리 'o · pa · ri 〈ni〉, 옴바리 'om · pa · ri 〈ni〉, 오반리 'o ·
pan · ri 〈ni〉 館翁班尼 使翁班尼 字汪班尼, 汪班泥 信
咄班 見翁班 ㄱ umbang, oombang

⑭おび (帯)

使文必, 丈 必 字文帶 信文筆, 烏必 見烏比, 烏必 ㄱ obee

⑮くび (首)

字空為 信枯必, 科必 ㄱ coobee

⑯あそぶ (遊) 〈あそび, あそべ〉

翻 아삼비 'a · sam · pi 館烏孫必 使烏遜皮

⑰ねぶる (眠) 〈ねぶり〉

館眠不立 使眠不里 字眠不里

⑱びやうぶ (屏風)

館飄布 使飄布 字飄布 信飄布 見妙不

以上の用例について、当該音節の用字を表にすると次のとおりである。☐は、用例なし。

語例	資料	翻	館	使	字	信	見	列	漂
①	しやうが	웅	/	/	/	燒	芍	/	/
②	あふぎ	/	昂	昂	枉	枉, Y	窩	o	오
③	うさぎ	상	撒	撒	撒	煞	/	/	/
④	むぎ	/	蒙	蒙	皿	/	/	/	/
⑤	をぎ	/	翁	翁	翁	翁	/	/	우
⑥	あげ〜	앙, 아	昂, 阿	昂, 阿	安	阿	/	/	/
⑦	をなご	/	/	/	男	南	那	na	나
⑧	かしらげ (カラジゲ)	/	藍	藍	藍, 籃, 蘭	籃, 蘭	/	/	/
⑨	くじやく	/	公	/	枯	姑	/	/	/
⑩	かせ	칸	嗑	監, 嗑	嗑	喀(買)	哈, 噶	ka	간
⑪	すずり	스	孫	孫	孫	思	息	/	/
⑫	ぼうず	/	包	鮑	褒	巴	/	bo	/
⑬	ひだり	/	分	分	分	分	虛	fee	/
⑭	かち	/	看	看	看	看	哈	ka	/
⑮	みづ	/	民	民	民, 血	血, 閔	媚, 蜜, 梅	mee	미
⑯	ふで	푼	分	分	忿	夫	弗	hoo	후
⑰	まど	/	慢	慢	/	馬	麻	/	/
⑱	もどり	/	慢	慢	悶	悶	木	moo	/
⑲	おばに	음, 오	翁	翁	汪	旺	翁	/	/
⑳	おび	/	/	文, 丈	文	文, 烏	烏	/	/
㉑	くび	/	/	/	空	枯, 科	/	coo	/
㉒	あそび(べ)	승	孫	遜	/	/	/	/	/
㉓	ねぶり	/	眠	眠	眠	/	/	/	/
㉔	びやうぶ	/	飄	飄	飄	飄	妙	/	/

表6 有声子音の前の音節の用字

それぞれの音訳漢字の『学研字典』による音価は以下のようである。

- ① 1 烧 thiɔŋ-ʃIɛu-ʃIɛu-ʃau(sháo)
 2 芍 dhiɔk-ʒlak-ʃIau-ʃau(sháo)
 ʃIɔ-ʃuə(shuò)
- ② 3 昂 ŋaŋ-ŋaŋ-aŋ-aŋ(áng)
 4 枉 ·iuəŋ-·iuəŋ-iuəŋ-uəŋ(wǎng)
 5 丫 ?-·ǎ-ia-ia(yā)
 6 窩 ·uar-·ua-uə-uə(wō)
- ③ 7 撒 sat-sat-sa-sa(sā · sā)
 8 煞 ㄟsāt-ʃʌt-ʃa-ʃa(shā)
 ㄟsād-ʃʌi-ʃai-ʃai(shài)
- ④ 9 蒙 moŋ-muŋ(mbuŋ)-muəŋ-məŋ(mēng · méng · měng)
 10 皿 mlǎŋ-mIʌŋ-miəŋ...miən(mǐn)
- ⑤ 11 翁 ·uŋ-·uŋ-oŋ-uəŋ(wēng)
- ⑥ 12 阿 ·ag-·a-ə-ə(ē)
 a-a(ā)
- 13 昂 → 3
- 14 安 ·an-·an-an-an(ān)
- ⑦ 15 男 nəm-nəm(ndam)-nam-nan(nán)
 16 南 nəm-nəm(ndam)-nam-nan(nán)
 17 那 nar-na(nda)-na-na(nā · nǎ · nà · nèi)
- ⑧ 18 藍 ǵlam-lam-lam-lan(làn)
 19 籃 ǵlam-lam-lam-lan(lán)
 20 蘭 lan-lan-lan-lan(lán)

- ⑨21公 kuŋ-kuŋ-koŋ-kuəŋ(gōng)
 22枯 k'ag-k'o-k'u-k'u(kū)
 23姑 kag-ko-ku-ku(gū)
- ⑩24嗑 kap-kap-ko-kə(gē · kè)
 h̄ap-h̄ap-ho-kə(hé)
- 25監 klām-kām-kiam-tʂian(jiān · jiàn)
 26咯 k'āk-k'ʌk-k'iai · k'o-k'ə(kè · kà)
- 27哈 □ h̄ap-h̄ap-ha-ha(hā · hǎ) : :
 □ = ŋ̄ap-ŋ̄ap... : 16) 「葛」による。 :
- 28噶 kat-kat-ko-kə(gé · gě) ¹⁶⁾ : :
- ⑪29孫 suən-suən-suən-suən(sūn · sùn)
 30思 siəg-siei-sī-sī(sī)
 31息 siək-siək-siəi-ʂi(xī)
- ⑫32包 pōg-pāu-pau-pau(bāo)
 33鮑 bōg-bāu-p'au-p'au(páo)
 34褒 pog-pau-pau-pau(bāo)
 35巴 pāg-pā-pa-pa(bā)
- ⑬36分 pʌuən-pʌuən-fən-fən(fèn)
 bʌuən-bʌuən-fən-fən(fèn)
- 37虚 hʌg-hʌo-hiu-ʂū(xū)
- ⑭38看 k'an-k'an-k'an-k'an(kàn · kān)
 39哈 →27
- ⑮40民 miən-miən(mbiən)-miən-miən(mín)
 41血 「血」の誤記とみる。 →10
 42閔 mʌn-mʌn(mblən)-miən-miən(mʌn)

- 43媚 mIuēr-mIui(mblui)-məi-məi(mèi)
- 44蜜 miet-miēt(mbiēt)-miəi-mi(mi)
- 45梅 muəg-muəi(mbuəi)-məi-məi(mèi)
- ⑩46分 →36
- 47忿 p'luən-p'luən-fən-fən(fèn)
- 48夫 pluag-(pluo)-plu-fu-fu(fū · fú)
- 49弗 pluət-pluət-fu-fu(fú)
- ⑪50慢 mǎn-mǎn(mbǎn)-man-man(mǎn)
- 51馬 māg-mǎ(mbǎ)-ma-ma(mǎ)
- 52麻 māg-mǎ(mbǎ)-ma-ma(má)
- ⑫53慢 →50
- 54悶 muən-muən(mbuən)-mən-mən(mèn · mēn)
- 55悶 「悶」の誤記とみる。→54
- 56木 muk-muk(mbuk)-mu-mu(mù)
- ⑬57翁 →11
- 58汪 ·uaŋ-·uaŋ-uaŋ-uaŋ(wāng)
- 59哂 ŋag-ŋo-u-u(wǔ · ŋg)
- ⑭60文 mluən-mluən(mbluən)-wən-uən(wén)
- 61丈 「文」の誤記とみる。→60
- 62烏 ·ag-·o-u-u(wū)
- ⑮63空 k'uŋ-k'uŋ-k'oŋ-k'uəŋ(kōng · kòng)
- 64枯 →22
- 65科 k'uar-k'ua-k'o-k'ə(kē)
- ⑯66孫 →29
- 67遜 suən-suən-suən...šüən(xùn)

②368眠 mən̄-men(mbien)-mien-mian(mián)

②469飄 biog-bieu-p'ieu-p'iau(piáo)

p'ioŋ-p'ieu-p'ieu-p'iau(piāo)

70妙 miog-mieu(mbieu)-mieu-miau(miào)

以上のことを参考にして、「有声子音の前の音節の用字」の表を、その韻尾に鼻音を有するか否かという観点からの表に作りかえてみる。

は鼻音あり。⊗は鼻音なし。☐は用例なし。

	翻	館	使	字	信	見	刈	漂
① しゃうが	○	/	/	/	×	×	/	/
② あふぎ	/	○	○	○	○, ×	×	×	×
③ うさぎ	○	×	×	×	×	/	/	/
④ むぎ	/	○	○	○	/	/	/	/
⑤ をぎ	/	○	○	○	○	/	/	×
⑥ あげ〜	○, ×	○, ×	○, ×	○	×	/	/	/
⑦ をなご	/	/	/	○	○	/	×	×
⑧ かしらげ<カラジゲ>	/	○	○	○	○	/	/	/
⑨ くじやく	/	○	/	×	×	/	/	/
⑩ かぜ	○	×	○, ×	×	×	×	×	(○)
⑪ すずり	×	○	○	○	×	×	/	/
⑫ ばうず	/	×	×	×	×	/	×	/
⑬ ひだり	/	○	○	○	○	×	×	/
⑭ かし	/	○	○	○	○	×	×	/
⑮ みづ	/	○	○	○	○	×	×	×
⑯ ふで	○	○	○	○	×	×	×	×
⑰ まど	/	○	○	/	×	×	/	/

⑱ もどり	/	○	○	○	○	×	×	/
⑲ おばに	○, ×	○	○	○	×	○	/	/
⑳ おび	/	/	○	○	○, ×	×	/	/
㉑ くび	/	/	/	○	×	/	×	/
㉒ あそび(べ)	○	○	○	/	/	/	/	/
㉓ ねぶり	/	○	○	○	/	/	/	/
㉔ びやうぶ	/	×	×	×	×	×	/	/

表7 有声子音の前の音節末の鼻音の有無

見においては、「おばに」を除いて、鼻音を有する例がない。この「おばに」は、「御飯」であって、「御」の読みとも関連し、ここで扱っている鼻音とは性質を異にするものと考えられる。信の用字が「𪛗」で、鼻音を有しないそれであることは示唆的である（翻で「ㄛ」「ㄜ」両方現われていることにも注目）。また、見の用字「翁」が館使と同じであることも関心を引く。

見は、鼻音を有しない段階と見てよからうから、鼻音の有無の境界線が、字と信との間に引けそうである。その典型が「ふで」であろう。

信で、「鼻音あり」「鼻音なし」両方の音訳字が用いれている場合、「鼻音あり」のそれは、先行文献のものをそのまま転載したと考えられる。「あふぎ」「おび」がその例である。もう少し詳しく見てみよう。その全用例を「漢語」とともに示す。

あふぎ 館 242 倭扇 昂及
483 倭扇 昂及
使 189 倭扇 昂季
字 186 倭扇 枉其

- 信 273 扇子 丫吉
 277 倭扇 枉其
 見 289 扇子 窩吉
 おび¹⁷⁾ 使 175 帶 文必 : :
 289 帶 丈必 : 17) 「ききおび」の例は除いた。 :
 字 172 帶 文帶 : :
 信 265 帶 文筆
 436 帶 烏必
 見 281 帶 烏比
 293 玉帶 塔麻烏比
 316 帶 烏必

転載の事実が如実に現われているのが、「倭扇 枉其」(字186, 信277)である。「漢語」部分も同じである。これほど明確ではないが、「かしらげ〈カラジゲ〉」「ひだり」「かぢ」「みづ」も同様である。

かしらげ〈カラジゲ〉

- 館 386 再叩頭 馬達嗑藍子乞
 使 277 再叩頭 麻達嗑藍子其馬
 字 239 低頭 嗑蘭自之
 241 叩頭 嗑籃自之
 272 再叩頭 麻達嗑藍子其
 325 髮 嗑十藍其
 信 376 再叩頭 麻達喀籃子其
 379 底頭 喀蘭自之
 381 叩頭 嗑籃自之

(字239と信379, 字241と信381, 字272と信376とに注目)

ひだり	館	52	左	分達立
		567	左	分達立
	使	50	左	分達里
	字	50	左	分達里
	信	47	左	分搭里
	見	49	左	𠄎𠄎𠄎
かぢ	館	224	舵	看失
	使	171	舵	看失
	字	168	舵	看息
	信	262	舵	看失
	見	277	舵	哈带
みづ	館	31, 62, 64, 269, 434, 476		
	水	民足		
		63	海洋	烏セ民足
	使	30, 309, 342	水	民足
	字	30	水	民足
		342	水晶	血子達馬
	信	30, 246	水	鬘子
		508	水晶	血子達馬
	見	32	水	媚吉
		62	水	蜜子
	263	水注	梅子利	

(字342と信508とに、特に音訳字「血」に、注目)

以上により、信の「鼻音あり」の例は先行文献からの転載であろうことがはっきりし、その「主要参考文献」が字であるらしいこと

もわかる。

ところで、いままで触れなかった「をなご」と「もどり」とは事情が異なるように思われる。転載の可能性もなくはないが、当該音節の頭子音が鼻音であること（「な」の [n], 「も」の [m]）により、音節末の鼻音も保たれていた例なのではないか。「信30, 246 水 関子」も同様の例と考えられる。（これらの例も、見, 列, 漂では「鼻音なし」となっている。）

「うさぎ」「あげ〜」「かぜ」「すずり」などは、鼻音消滅の時期を教えてくれる例であろう。その時期は、16世紀半ば以降に設定できようか。（「しやうが」「びやうぶ」「ぼうず」は、二重母音の長母音化とも関わりがあろうから、一概には言えないが、ここの仲間としてよかろう。ちなみに、「びやうぶ」が翻に収録されていれば、「しやうが」から推して、ㅂㅅㅁ부 pja · 'um · pu あるいはㅂㅅㅁ부 pja · 'om · pu と表記されたであろう。「ぼうず」はㅂㅅㅁ수 pa · 'un · zu あたりか。）

なお、現代語で、有声子音の前に鼻音の存在する方言の例として、加治工真市「琉球、小浜方言の音韻研究序説」参照。

今回は、『中原音韻』により館使字の音価を考えた（それも、ひとつの目安として『学研字典』によった）が、厳密には、館使字と年代のより近い『交泰韻』（1603）、『西儒耳目資』（1626）などにも当たる必要がある（既に、一部援用したが）。さらには、漢字音をハングルで表示した『東国正韻』（1447-48）・『朴通事諺解』（1677）・『老乞大新釋』（1761）・『朴通事新釋諺解』（1765）・『老乞大諺解』（1795）なども参照することが望ましい。信見についても同様のことが言える。今後の課題としたい。

第二節 音声・音韻史と文法史の交渉

(十九世紀沖繩語の動詞の成り立ち)

音声・音韻の変化が文法の変化を招来する例として、「十九世紀沖繩語の動詞の成り立ち」について考える。本論文の次に来るべき『沖繩語の文法に関する歴史的研究』の前章となるべきものである。

「クリフォード琉球語彙」を中心とし、『ベッテルハイム琉球語辞書』、『沖繩対話』、『チェンバレン琉球語文典』、『南島八重垣』、『沖繩語典』などの後続資料も動員して十九世紀沖繩語の文法について考察する。その中でも、動詞の終止形・「-て」の形・「-ている」の形などを取りあげて、それぞれの現代語に到る形成過程について考える。

1、動詞の終止形

1-1

『世界言語概説』下巻「琉球語」の文法の項でいう「《……する》形式（連用語幹に、ヲリ<居>に当る／u' N／の接尾したもの）」あるいは、いわゆる「終止形」に相当する形式を「クリフォード琉球語彙」に求めると次のようである。

「語尾」相当部分の現われ方に着目して、いくつかに分類してみる。通し番号は、第三章に同じ。「II」は 'PART II. SENTENCES' にある語彙であることを示している。

〈1〉-ingの例

(12) ooking (起きる), (374) king (蹴る),
(588) oocheeking (置く), (816) naging (投げる),
(219) tawring (倒れる), (672) chirraring (切られる),
(669) katcheeming (つかむ), (836) kooraming (踏む),
(261) ning (煮る), (426) meeing (見える),
(564) ireeing (入れる), (779) tateeing (立てる),
(867) hajeeing (脱ぐ), (II-37) tajeeing (たぎる, 沸く)

< 2 > - (ee) oong の例

(151) cheeoong (切る), (177) cheeoong (着る),
(253) kakeeoong (「かける」, 釣る), (409) nagee-
oong (投げる), (426) meeoong (見える), (510)
akeeoong (開ける), (538) katcheemeeoong (つかむ),
(686) meecheeoong (閉める), (701) eeoong (座る),
(745) tatteeoong (立てる), (782) hasseeoong (脱ぐ),
(II - 40) meesheeoong (見せる), (II - 48) quce-
oong (与える), (266) toobeeoong (飛ぶ), (291)
moodoeeoong (もどる)

< 3 > - yoong の例

① - eeyoong

(718) nadeeyoong (撫でる), (II - 23) meey-
oong (見える), (II - 106) eeyoong (植える)

② - iyoong

(458) hackkiyoong (はめる)

③ - ooyoong

(119) noobooyoong (登る), (350) hooyoong (掘
る), (392) nooyoong (塗る), (600) fooyoong
(降る), (673) sooyoong (剃る), (927) soosoo-
yoong (拭く), (II - 28) oocooyoong (送る)

④ - oyoong

(27) soo-go-yoong (なぐる, 打つ), (845) me-
egoyoong (巡る, 回る); (145) hoyoong (這う),
(372) moyoong (踊る)

⑤ - ayoong

(400) warrayoong (笑う), (464) hayoong (流れ
る), (662) wockkayoong (別れる), (699) ootay-
oong (歌う), (767) sagayoong (下がる), (769)
agayoong (上がる), (833) arayoong (洗う)

⑥ - awyoong

(146) hawyoong (這う), (443) nawyoong (縫う),

⑦ その他

(7) wyoong (割る), (176) hyoong (流れる),
(9) aanyoong (そう言う)

< 4 > - choong の例

(30) ootchoong (打つ), (98) dachoong (抱く),
(415) moochoong (持つ), (461) nachoong (鳴く),
(876) atchoong (歩く), (930) katchoong (書く)
; (129) choong (来る); (284) eechoong (行く)

< 5 > - joong の例

(390) coonjoong (結ぶ), (581) noojoong (抜く),
(587) kanjoong (被る), (708) ninjoong (眠る),
(774) weejoong (泳ぐ)

< 6 > - shung, - shoong の例

(186) fooshoong (乾す), (376) koorashoong (殺す),
(586) injashoong (出す), (631) ootoosh-
oong (落とす), (932) nawshoong (直す), (630)
ootooshung (落とす); (74) shoong (為る)

< 7 > - moong の例

(179) noomoong (飲む), (198) kamoong (食べる),
(605) yoomoong (読む)

< 8 > - noong, - noung の例

(160) sheenoong (死ぬ), (378) sheenoung (死ぬ),
(198) kanoung (食べる)

<3>~<8>は、ほとんど現代(首里)語と同じ。当面問題にされるべきものは<1>と<2>とである。

まず、<1>~<3>に分類されているものが、現代(首里)語では、例えば(アクセント省略)、

- [2ukiraN] (起きない)
- [2ukiti] (起きて)
- { [2ukijuN]
[2uki:N] } (起きる)
- [tʃiraN] (切らない)
- [tʃittʃi] (切って)
- { [tʃijuN]
[tʃi:N] }
- [2iriraN] (入れない)
- [2itti] (入れて)
- { [2irijuN]
[2iri:N] } (入れる)

などと変化し、小異を捨てれば、一つのグループにまとめることのできるもの¹⁾であることに気付くであろう(ただし、(266) toobeeoongは除く)。これらをまとめて「J型変化動詞」²⁾と呼ぼう。

.....
¹⁾ 『世界言語概説』下巻「琉球語」p332でいう(4)、(8)、(9)、(11)に相当。

²⁾ 現代沖縄語の動詞を「語幹末子音」の現われ方によって、次のように分類すると便利である。

次の、後にその例を示すように、同一「単語」で、「語尾」の現われ方が、二様あるいは三様あるものがあることに目が付こう。(共時態として扱うのであれば、「異形態」で処理してしまえばよかろうが、通時的観点に立てば、そもいかない。)

- (例) 投げる { (816) naging
 (409) nageeoong
- 見える { (426) meeing
 (426) meeooong
 (II-23) meeoyoong

「見える」(426) の例は、原典では次のようになっている。

Look, or see, to Meéooong, or Meéing

‘ Meéooong, or Meéing ’ の ‘or’ は何を意味しているのでしょうか。可能性として次の三つが考えられようか。

.....

現代沖縄語動詞の「語幹末子音」の現われ方による分類

型	語 例	語幹末子音
B 型	?asibu'N (遊ぶ)	b, d
C ₁ 型	kacu'N (書く)	c, k
C ₂ 型	tacu'N (立つ)	c, t, qc
C ₃ 型	cu'u'N (来る)のみ	—
C ₄ 型	?icu'N (行く)のみ	—
Z ₁ 型	?wi'izu'N (泳ぐ)	z, g
Z ₂ 型	ni'Nzu'N (眠る)	z, d, t
Z ₃ 型	ku'Nzu'N (結ぶ)	z, d, c
Z ₄ 型	'N('N)zu'N nu'u'N (見る)のみ	—

S ₁ 型	ca'asu'N (消す)	s, c
S ₂ 型	sju'N (為る)のみ	—
J ₁ 型	?ara'ju'N (洗う)	'j, r, t, '
J ₂ 型	'u'N (居る)	(r, t)
J ₃ 型	ci'ju'N (切る)	'j, r, qc, '
J ₄ 型	ki'ju'N (蹴る)	'j, r, {qc}, '
J ₅ 型	?iri'ju'N (入れる)	'j, r, qt, '
J ₆ 型	ci'ju'N (着る)	'j, r, c, '
J ₇ 型	?ju'N (言う)のみ	—
M 型	'jumu'N, 'junu'N (読む)	m, d, n
N ₁ 型	sinu'N (死ぬ)のみ	n, z
N ₂ 型	?a'N (有る)のみ	—
N ₃ 型	'ja'N (~だ)のみ	—

(- 'ju'N は - 'i'N と も)

- (a) 同一インフォーマントが二様の言い方をした。
- (b) インフォーマント A は 'Meeoong' と言ひ、B は 'Meeing' と言つた。
- (c) インフォーマント自身は 'Meeoong' としか言わないが、「甲という土地の人は 'Meeing' と言う。」というかたちで情報を提供した。

同一人が二様の言い方をすることはあつても三様の言い方をすることは考えにくいこと、クリフォードのインフォーマントが相当の知識人であつたらしいこと、「クリフォード琉球語彙」に大分推敲の跡が見えることなどを考え合わせると、<1>のグループは、別の方言ではないかと思われてくる。

1-4

時代は少し下るが、その「沖繩語」が明らかに那覇方言である『沖繩語典』（1896年）には、次のようにある（印刷の都合上、書体を変えたところがある）。

起	うきーん	(二百十九)
ニユ	ニル	
にーん	にーん	似・肖 (二百四十二)
ミユ	見	
みーん	見	(二百四十七)
キル	着	
ちーん	着	(二百三十)
キル	切	
ちーん	切	(二百卅一)
アク	アグ	
あきーん	あぎーん	上 (二百廿三)
人に花ヲ見サス		
人に花見しん		(二百廿一)
はな		

これらの例は、<1>グループが那覇方言であることを示す傍証になりは
 しまいか。少々乱暴過ぎるきらいがないでもないが、当面の対象は首里方言
 であるとして、那覇方言である蓋然性の強い<1>グループを除外して考え
 てみることにしたい。

1-5

さて、<2>グループと<3>グループとの関わりはどうなっている
 のか。例えば、‘Meeoong’ と ‘Meeing’ とは同じ発音なのか、違うのか。
 綴字法を分析した結果に従えば、

meeoong [mi: * uN] meeyoong [mi: juN]

のようになるが、果たしてこれでよいのか。

これに解答を与えるために、今しばらく他の資料に目を転じてみよう。

<2>・<3>グループ相応の語例を摘記する。

『南島八重垣』（1895年）（伊波普猷による「万国音標文字」「転写」の
 付された『方言』四ノ十 による。）

イ	イラ	ヘール	(ire: jun)	応ずる也。
ハ	ハケル	(haki jun)	大略掛けるの意に通ず。	
ド	ドケル	(duki jun)	避る也。	
ヲ	ヲイール	(wi: jun)	酔ふなり。	
カ	カミル	(kami jun)	戴也。	
フ	フケル	(Fuki jun)	轉る也。	
ア	アテル	(ati jun)	打の意也。	
モ	モタ	イール	(mte: jun)	榮える。草木など

の場合に多くいふ。

『チェンバレン琉球語文典』(1895年)

nayung (なる) kōyung (買う)

wasiyung, wasīng (忘れる)

shiyung, shīng (知る)

『沖繩対話』(1880年) (「終止形」の例が見出せないで、「連体形」を示す。筆者により「~~~~」を施した。)

△ 進上致ス、ツモリデアリマス
ウシヤギール。カンゲーヤ、ビーン。

△ 鳴キマスデ、ゴザリマシヤウ
フキールハツ。デービル。

△ 收^{トリ}獲^シハアリマシヤウ
トユルハツヤ、ビーン。

△ 多ク、用井マス
ウホークド。ムチーユル。

△ 見ヘマス、山ハ
ミイユル。ヤマー。

△ 起ル譯ヲ
ウクユルイハリ。

それぞれほんの一例を示したに過ぎないが、十九世紀の末には、沖繩(首里)語の動詞の終止形が、現代語と同じく、[-jun], [-jin]になっていたことを物語る十分な資料となろう。しかし、これだけでは、先に提出した疑問に対する答は得られない。

『ベッテルハイム琉球語辞書』(1849年)を見ることにする。

〈 rise 〉 ukĩung (起きる), 〈 kick 〉 kiúng (蹴る),
〈 lay 〉 utchikiung (置く), 〈 throw 〉 nagĩung (投
げる), 〈 seize 〉 kastimiung (つかむ), 〈 tread 〉
kuramiung (踏む), 〈 boil 〉 nyiung (煮る), 〈 put
into 〉 iriung (入れる), 〈 stand v. a 〉 tatiung
(立てる), 〈 undress 〉 haziung (脱ぐ)

〈 cut 〉 chiung (切る), 〈 dress 〉 shiung (着る),
〈 hang 〉 kakiung (掛ける), 〈 open 〉 akiung (開け
る), 〈 shut 〉 mitchiung (閉める), 〈 sit 〉 yiung
(座る), 〈 show 〉 míshiung (見せる), 〈 give 〉
kwiung (与える)
(ママ)

〈 pat 〉 nadiung (撫でる), 〈 plant 〉 wiung (植
える)

〈 climb 〉 nubuyung (登る), 〈 lacker 〉 núyung
(塗る), 〈 rain 〉 fuyung (降る), 〈 shave 〉 suy-
ung (剃る), 〈 wipe 〉 susuyung (拭く), 〈 stri-
ke 〉 suguyung (なぐる), 〈 crawl 〉 hōyung (這う),
〈 dance 〉 móyung (踊る), 〈 sew 〉 nóyung (縫う),
〈 laugh 〉 uarayung (笑う), 〈 separate 〉 uakayung
(別れる), 〈 wash 〉 árayung (洗う)

1 - 6

ここに到って、先の疑問に対する答が与えられる。

「クリフォード — 」の 'meeoong' などの例は

[mi :: ʷ uN] / mi' i' i' u' N /

のように考えてよいであろうということである。そして、ここで注意してお

くべきことは、「クリフォード — 」で‘- i n g’の形で現われた例も『ベッテルハイム — 』では‘- i u n g’³⁾となっていることである。<1> ‘- i n g’グループを那覇方言としたことが強化されたといえよう。

ちなみに、ベッテルハイムは（那覇の）「波の上」の「護国寺」に住まわされていたのに⁴⁾、その記録した沖縄語は、那覇方言ではなく、首里方言であったということになるようである。彼が接触を許された「琉球人」が「通事」達のみであったことによる。

1-7

現代沖縄（首里）語の動詞の「終止形」は、「連用形」に「ヲリ」を中核とする／-’ u’ N／が接続し、音変化を起こして出来上がったものと言えようが、今まで見てきたことにより、その変化なるものが十九世紀前半に起こり始め、半ば以降に固まったらしいことがわかる。固まる前の状態を見せてくれるのが、「クリフォード — 」であり、『ベッテルハイム — 』であることもわかった。

.....
³⁾ 綴字‘i’に関し、喜名朝昭・伊波和正・森庸夫・高橋俊三共訳

「ベッテルハイム 琉球語と日本語の文法の要綱(1)」(『南島文化』第2号)に次のようにある。

(母音上の)2個の点は外見上の2重母音を(2個の母音に)分け、その点の付された母音を短くすることを表わす。例えば、n d j i u n g .

(p49 L9 ~L11)

⁴⁾ 仲原善忠『琉球の歴史 下』p17 (昭和53年版ではp107)、東恩納寛惇『琉球の歴史』p122・124 参照。

しかし、音変化の起こる前の姿を見せてくれるのは「J型変化動詞」だけであると言ってもよく、その他のものは変化した後の姿しか見せてくれない。これはどうした訳であろうか。このことについて検討してみる必要がある。

それには、「クリフォード — 」の‘-oong’と‘-yoong’の書き分けが何に起因するのを探るのがよいように思われる。

繰り返しになるが、今一度、「クリフォード — 」と『ベッテルハイム — 』との語例を比較対照してみる。

資料 語義	クリフォード	ベッテルハイム
切る	checoong	chīūng
着る	checoong	chīung
座る	eeoong	yīung
かける	kakeeoong	kakīung
開ける	akeeoong	akīung
閉める	meecheeoong	mitchīung
見せる	meesheeoong	míshīung
与える	queeoong	kwiung
撫でる	nadeeyoong	nadīung
植える	eeyoong	wíung
笑う	warrayoong	uarayung
洗う	arayoong	arayung
別れる	wockkayoong	ūakayung
上がる	agayoong	agayung

塗る	nooyoong	núyung
降る	fooyoong	fuyúng
剃る	sooyoong	suyung
送る	oocooyoong	ukuyung
拭く	soosooyoong	súsuyung
なぐる	soo-go-yoong	suɣuyung
這う	hoyoong	hóyung
踊る	moyoong	móyung
縫う	nawyoong	nóyung
飛ぶ	toobeeoong	tubiung
遊ぶ	(なし)	asibiung

これで一目瞭然である。「語幹」の最終モーラ（あるいは拍）の母音⁵⁾の如何によることがわかる。「撫でる」「植える」の場合は今措くとして、語幹最終モーラ母音が、/i/の場合は‘-oong’（おび‘-ing’）、それ以外の場合は‘-yoong’（おび‘-yung’）と書き分けられている。そして、「撫でる」「植える」などは、/i/がわたり音的になった（もしくは半母音化した）例であって、‘-eeoong’のものも行く行くはそのようになることを示している。

先に見た『チェンバレン — 』の‘wasiyung’（忘れる）、‘shiyung’（知る）や『沖縄対話』の「ムチーユル」（用いる～）などがその証左となろう。

.....
⁵⁾ 例えば、

語幹
語尾
{ /'wara'j - u'N/ (笑う)

↑

語幹最終（モーラの）母音

のように呼ぶこととする。

「J型変化動詞」だけでなく、他の型の動詞も、すぐに音変化を起こしてしまっただけではないことを教えてくれるという意味で、「飛ぶ」toobeeoong, tubiung、「遊ぶ」asibiungの例は貴重だと言えよう。

他の型の動詞が現代語と同じ形になっていることは、すでに見たとおりであるが、確認の意味で、代表的な例を、『ベッテルハイム - 』からのものといっしょに、次に示しておこう。

資料 語義	クリフォード	ベッテルハイム
書 く	katchoong	katchung
抱 く	dachoong	datchung
持 つ 打 つ	moochoong ootchoong, oochoong	mutchung utchung
来 る	choong	chung
行 く	eechoong	ichung
泳 ぐ	weejoong	widjung
眠 る	ninjoong	nindjung
結 ぶ	coonjoong	kundjung
見 る	(なし)	nyung
乾 す	fooshoong	fushung
殺 す	koorashoong	kurushung
為 る	shoong	shung
読 む 飲 む 食べる	yoomoong, yoono-oong noomoong kamoong, kanoung	yunyung nunyung kanyung
死 ぬ 有 る	sheenoong (なし)	shinyung ang

それでは、「接続部分」が音変化を起こすにおいて、足並みが揃わなかった原因はどこにあるのか。結論的に、「語幹」の最終子音にその原因があると言えよう。

「J型変化動詞」では、それは / ' / である。音声的実態がなきに等しいものであるから、「連用形」の最終モーラを維持するのは / i / のみといても過言ではない。その上、その前の母音（「語幹」の最終母音）も / i / であるということになれば、後続の / u / に対して劣勢に置かれることもなく、/ u / に吸収されずに済む。いや、逆に / u / を、広い意味で、同化することになる。その例が、『チェンバレン — 』の 'wasing'（忘れる）・'shing'（知る）であり、『沖縄対話』の「フキール」（鳴く～）・「ウシヤギール」（差し上げる～）であろう。それが現代（首里）語で / -' j u' N / / -' i' N / 両形が並存していることの理由ともなるう。

ただし、現代語では、「語幹最終母音」が / i / でないものでも、例えば、[nubujin] / nubu' i N /（登る）、[warajin] / 'wara' i' N /（笑う）などのように、/ -' i' N / もとるが、これは類推によると考えられる。

さて、そうなると、<1>グループは那覇方言であろうとしたことが揺らぎはしないか。揺らがないことは『ベッテルハイム — 』の例が示してくれたが、次に例をあげるように、『沖縄語典』においても、「語幹最終母音」が / i / 以外の時は / -' j u' N /（～ゆん）になっていることを見れば、揺るがないどころか、確固としたものになるう。

な な ふ ゆ ん	ヌ フ	は は ふ ゆ ん	ハ フ	す す ゆ ん	フ フ ゆ ん	す ゆ ん	ソ ル	ふ ゆ ん	フ ル	ぬ ゆ ん	ヌ ル	さ が ゆ ん	サ ガ ル	あ ら ゆ ん	ア ラ フ
∨	∨	∨	∨	∨	∨	∨	∨	∨	∨	∨	∨	∨	∨	∨	∨
縫		這	匍	拭	剃	降	塗	下	洗						
(二百四十二)		匍 延蔓	(二百四十四)	(二百四十五)	(二百卅六)	(二百四十六)	(二百四十二)	(二百卅三)	(二百廿四)						

つまりは、こういうことになるのか。 /- (i)' i /+ /' u' N / の接続後において、那覇方言では /i / が /u / を同化した /- (i)' i ' N / の形をとり、首里方言では /i / が半母音化した /- (i)' j u ' N / を主として /- (i)' i' N / も並存させた。

1-11

さらに注意すべき事柄が残っている。例えば、「切る」「降る」の「連用形」⁶⁾は、それぞれ「キリ」「フリ」であろうから、*cheer eeong, *chiriung; *fooroong, *furung などとあってしかるべきであるのに、そうはなっていないことである。

.....

⁶⁾ 「連用形」の変遷に関して、高橋俊三「沖縄方言動詞の変遷—連用形を中心として—」『沖縄国際大学文学部紀要（国文学篇）』第21巻第1号通巻第33号 参照。

つまり、/ri/→/'i/という音韻変化が起こった後で、「連用形」に「ヲリ」を核とする形が接続するという現象が生じたと言え⁷⁾、それは共に1800年前後（少なくとも1818年以前）らしいと考えられる。さらに言えることは、本来「上一段」「下二段」などであったものが「ラ行（四段）化」したのはそれ以前だということである。例えば、「切る」「開ける」などは

/ciri/→/ci'i/, /?akiri/→/?aki'i/
 という変化を済ませていた。これは、現代語の「連用形」に/-ri/相当モーラが存することによって裏付けられる。「連用形」に接続する形式
 /busa'N/（～たい）、/gisa'N/（～そうだ）

が付いた場合に、

[tʃi:busaN]/ci'ibusa'N/（着たい）
 [?aki:busaN]/?aki'ibusa'N/（開けたい）
 [tʃi:gisaN]/ci'igisa'N/（着るそうだ）
 [?aki:gisaN]/?aki'igisa'N/（開けるそう
 だ）

となるように、「キホシ」「アケホシ」などに対応するのではなく、「キリホシ」「アケリホシ」とでもいった形に対応する。（先に

meeoong を [mi::^wuN]/mi'i'i'u'N/

とした理由はここにある⁸⁾。)

.....

⁷⁾ /-ri'u'N/→/'i'u'N/の可能性は残されている。
 ちなみに、「居る」は、「クリフォード —」には見当たらず、『ベッテルハイム —』では、'wung'である。

⁸⁾ [?uki:gisaN]/?uki'igasa'N/（起きるそう
 だ）、[kurami:gisaN]/kurami'igisa
 'N/（踏むそうだ）、[mi::gisaN]/mi'i'igi
 sa'N/（見えるそうだ）（c.f.）[mi:gisaN]/mi'i
 gisa'N/（見るそうだ）（/'nzigisa'N/とも）

2、動詞の「ーて」の形

次に述べる「ーている」の形の前段階として触れておく。

「クリフォードー」に「ーて」の形の例を求めると次のようである。

(2) itch - itchee (生きて), (II-75) katchee (書いて)

(76) mootchee (持って), (681) moochee (持って)

(566) cheejee (注いで), (775) weejee (泳いで)

(709) nintee (眠って)

(II-97) nooma chee (飲ませて), (428) hanna - r-
atchee (離して), (580) injatchee (出して), (592)
chachee (消して)

(II-43) shee (為て)

(77) tootee (取って), (79) chirreetee (切れて),
(133) noobootee (登って), (300) wockkatee (別れて),
(401) warratee (笑って), (630) soosootec (拭いて),
(884) aratee (洗って), (II-49) akittee (開けて),
(II-106) hootee (掘って), (II-108) sagatee (下が
って), (II-111) tawrittee (倒れて)

(749) ootee (居て, ~で), (253) stitchee (釣っ
て), (589) ittee (入れて)

(83) yaddee (「病んで」, 痛んで), (II-32) noo
dee (飲んで)

現代語と同じようになっている。いわゆる「撥音便・促音便・い音便」などに対応するもので、その「音便」相当部分が脱落あるいは消滅しているものがある。

3、「-ている」の形

「クリフォード - 」における「-ている」の形の例は、次のようである。相当部分の綴字の違いによって分類して示す。

- ung の例

(5) noodung (飲んでいる), (234) toomatung (捜している), (631) ootectung (落ちている), (832) yadeetung (破れている)

- oong の例

(166)(723) nintoong (寝ている), (407) yookata-toong (寄っかかっている?)

- ong の例

(97) kammeetong (頭に載せている), (329) yadong (「病んでいる」, 痛んでいる), (424) simmatoong (住んでいる), (877) seegatong (すがりついている)

- awng の例

(3) itch-chawng (生きている), (60) neechawng (似ている), (702) cechawng (座っている), (794) cheereetawng (切れている)

その他

(882) indeetawoong (濡れている), (901) indeet-aong (濡れている)

綴字法分析結果に依れば、次のようになろう。

- ung [- uN], - oong [- uN]

- ong [- UN]あるいは [- oN]

- awng [- o : N]

(「その他」の二例は、ともに [- o : N] か。)

これが正しいとすれば、もとの形とも言うべき「テ ヲリ」に近い形、現代語と同じ形、この二つの中間的な形という三様の「ーている」が、「クリフォード ー」には存していることになる。音変化を経た「ーて」の形に /' u' N/ の付いたのは、十八世紀後半あたり（少なくとも1818年以前）かという推定を可能にする資料のように思われるが、如何であろうか。

そうだとすれば、今度は、いつごろから現代語と同じようになったかを考えてみる必要がある。まず、例を見よう。

『ベッテルハイム ー』

kāratchóng (乾いている), shtchóng (知っている),
itchichóng (生きている), tstchóng (聞いている),
umutóng (思っている), yaritóng (破れている), si-
matóng (住んでいる), nintóng (寝ている), sagat-
ong (下がっている), sakitóng (裂けている), chi-
ritóng (切れている), yadóng (病んでいる), itad-
óng (痛んでいる), shidjóng (死んでいる)

『チェンバレン ー』

tutōng (取っている), yudōng (読んでいる), ch-
ōng (来ている), nchōng (見ている), shōru (為て
いる)

<p>△ サ チ ヨ ウ ル ハ ヅ 。 デ ー ビ ル 。</p>	<p>△ ホ コ ロ 綻 ビ マ シ タ デ 、 ゴ ザ リ マ シ ヤ ウ</p>	<p>△ ワ ス タ フ ヤ ビ ー サ ー 。</p>	<p>△ 忘 レ マ シ タ</p>	<p>△ フ ト ー ル 。 ム ヨ ー 。</p>	<p>△ フ 降 テ 、 ヲ リ サ ウ ニ</p>	<p>△ チ チ ヨ ー ク ト</p>	<p>△ 着 テ 、 ヲ リ マ ス ガ</p>	<p>△ ス チ ヨ ー ヤ 。 ビ イ ン 。</p>	<p>△ ス キ デ 、 ゴ ザ リ マ ス</p>
	<p>△ ウ ム ト ー ヤ ビ ー ン 。</p>	<p>△ 思 ヒ マ ス</p>		<p>△ カ ト ウ ル</p>	<p>△ カ 掛 リ タ ル</p>	<p>△ ム ツ チ ヤ ウ ヤ ビ ー ン 。</p>	<p>△ 持 テ ヲ リ マ ス</p>		

これで明らかなように、「ーている」の形が現代語と同じように

[ーo : N] / ーo' o' N /

に落ち着いたのは、十九世紀の半ばごろと考えて大過なからう。（ただし、「クリフォードー」の '-ung' '-oong' が、首里方言以外の方言である可能性は残っている。）

ところで、なぜ [-uN] / ーu' N / が [-o : N] / ーo' o' N / に変化したのであろうか。今のところ、憶説に過ぎないが、次のように考えられないだろうか。

つまり、音変化の結果、「連用形」と「ーて」の形とが同じになるものが生じ、「連用形+ヲリ」と「ーテ+ヲリ」との区別がつきにくくなった。そこで、「テ+ヲリ」を [-o : N] / ーo' o' N / として、「連用形+ヲリ」と区別した。例えば、

k a c i & ' u ' N → k a c u ' N

(書キ)

k a c i & ' u ' N → k a c u ' N → (k a c o ' N →)

(書キテ)

k a c o ' o ' N

のようにである。そして、類推によって、他の多くの、「連用形+ヲリ」と「-テ+ヲリ」とが同形でないものも、後者が / - o ' o ' N / になっているのではないか。

4、形容詞の「連体形」

形容詞の「連体形」に関して「クリフォード ー」に注目すべき例があるので、それを指摘しておく。

(121) akasa nonoo (赤い布), (640) spookarasa mezeze (塩辛い水), (936) choorasa innago (きれいな女), (II-57) coosa warrabee (小さい子ども)

(678) wesara hoonee (大きな船)

(THE NINE ORDERS OF RANK PAYCHINS, OR CHIEFS)

8th akasa noo hatchee matchee

(赤さ の はちまき) (赤いはちまき)

osa noo hatchee matchee

(青さ の はちまき) (青いはちまき)

「-さ」の形が「連体形」の機能を担っている時期があったと教えてくれる例なのか、どうなのか。(678) wesara が、現代語の / - r u / につながることは間違いなからうから、このころ / - s a / + / a r u / の形が生じたと考えてよいか、'sa noo ~' は、それに到る暫定的なものか。あるいは、この「~の」が省略されて「さ+名詞」の形になり、その後「アル」が付いたのか。興味は尽きない。今後の課題である。

第三節 三母音化、八行の子音、有声子音の前の鼻音

いままで、資料の分析に重きをおき、その変化がいつごろ起きていつごろまで続いたかについては考察したが、その原因・理由は何か・どうかについては触れないできた。ここで、少しそれに関わってみたい。

〔三母音化〕

柳田征司「日本語音韻史から見た沖縄方言の三母音化傾向とP音」（『室町時代語を通して見た 日本語音韻史』所収）によれば、「沖縄方言における口蓋化音は、はじめエ段音に起き、これが三母音化傾向を起こす原因となり、同時に他の段の子音の口蓋化をひきおこした。」(P1031) とされる（ここでの「沖縄方言」は「琉球方言」と読み替えたほうがよさそうである）。

これを出発点として論を進める。論点が拡散しないように焦点を「沖縄語」に絞る。

まず、「語音翻訳」のハングル表記「jɔ」・「jɔi」を [i e] と見て「エ段音が明確な口蓋音 - i e の形で存していたことを見のがしてはならない。」(p1038) というところを取りあげる。

確かにハングルの「j-」があり、口蓋化音を示しているように見えるが、ハングルの正書法を考慮に入れた場合、即断できない面がある。即ち、当時のハングルには [e] を表記する（単独の）文字はなかったはずであるから（「jɔi」は [ɔi] または [əi]、「jɔi」は [jɔi] または [jəi] で、15・6世紀の朝鮮語に [e] / e / はなかったから）、沖縄語の [e] かそれに近い音を写すには、いささか考える（工夫する）必要があったのではないかと思うのである。必ずしも口蓋化の表示ではないのかもしれないのである。これには、同一のモーラを表示するのに「-jɔi」とも「-wi」ともしていることも考慮に入れる必要があると思われる（例えば、* / 메 / を「mjɔi」とも「mwi」とも）。少々大胆な解釈であるが、次のようなことは考えられまいか。

[i] を表示するためには「wi」とする必要があった。「w」だけでは

後ろの音になる。これを前に寄せるために「i」が要請された（あるいは [i] の響きが「i」を当てさせた）。

「e」を表示するためには「o i」とする必要があった。「o」だけでは後ろの音になる。これを前に寄せるために「i」が要請された（さらに [e] の前寄りが響き「j o i」とさせた）。

ちなみに、現代朝鮮語では助詞の「' o i」（～に）も「' w i」（～の）もともに [e] と発音されるのが普通である。

しかし、『西儒耳目資』で見た「琉球館訳語」の用字例の* /エ/に（アルファベットの）「i e」が多かったことも事実だから、依然、口蓋化を示しているという解釈も捨て難い。そこで、別の資料にも当たって見ることにしよう。15世紀の（朝鮮）漢字音をハングルで表記した『東国正韻』（1447-48年）である。

「琉球館訳語」の用字例の「エ」段音相当字の、『東国正韻』におけるハングル表記の転写（第一章に準じる）を示すと以下ようになる。重複することになるが、対照する意味で、『西儒耳目資』のアルファベット表示も併記する。

	音訳字	『東国正韻』	『西儒耳目資』
エ	葉	' j o p	x e i e
ケ	个 及 潔	k a ' k k w p k j o r ?	k o k i e k i e
ゲ	乞	k h w i ' k h w r ?	k ' i k ' i e n i e

セ	(なし)		
ゼ	支 緝 熟	ci ' chip ssjuk	chi cie xo
テ	帖 的	thjɔp tjɔk	t'ie tie
デ	支 的	→ゼ →テ	→ゼ →テ
ネ	尼 聶 眠	ni ' njɔp mjɔn	nie i ni nie mien
ヘ	葉	→エ	→エ
ベ	別	pjɔr? ppjɔ?	pie
メ	米 每 密 眠	mjɔi? mΛi ' mir? →ネ	mi moei mui mie →ネ
レ	立	rip	lie

ほとんどの用字が「-jō-」を含むそれであり、大筋において『西儒耳目資』と似た様相を呈していると言える。しかし、前述のように、その背景には朝鮮語の事情があり、事態は変わらない。

そこで、観点を変えて見ることにする。15・6世紀ごろの沖縄語の* /エ/ が「口蓋化」していたと仮定し、それが「同時に他の段の子音の口蓋化をひきおこした」と言えるかどうかについて検討する。

本章第一節【口蓋化と破擦音化】（p386～417）で詳しく述べた分析結果によると、「語音翻訳」・「琉球館訳語」における「口蓋化・破擦音化」の状況は、その要点を示すと、次のようであった。

「-iカ」= [-i k j a]、 「-iガ」= [-i g j a]

①翻の「ㄱ ki」および「ㅋ khi」が示すように、16世紀初めごろの「キ」は破擦音化してない。(p399)

「-iタ」= [-i t s a]、 「-iダ」= [-i d z a]

②翻の「ㄷ cja」により、16世紀初めには口蓋化の段階 [t₁ a] [t₂ j a] を過ぎ、破擦音の時期に到っていたとみることができる。(p390)

「-iテ」= [-i t s̺ e]、 「-iデ」= [-i d z̺ e]

③例に見るように、[i]に先行された「テ」はその影響を受けて破擦音化している。(p403)

④「チ」はもと [t i] であったと考えられるが、翻では破擦音化した形「ㄷ ci」で現われている。(p402)

⑤ちなみに、* /e/ から変化した /i/ は後続の /t/ を破擦音化しない。(p404)

以上のすべてが、* /エ/ の口蓋化が他の段の子音の口蓋化もひきおこしたということへの反論となる。即ち、以下のように言える。

1、口蓋化の原因となったという* /エ/ がまだ口蓋化の段階にあるのに、その影響を受けて口蓋化したはずのものが、その先まで（破擦音まで）変化している。* /エ/ の影響ではない。原因は他にある。それは前の母音 [-i] であろう。(←②)

2、口蓋化の原因となったという* /エ/を含んだモーラの子音が、前の [i] の影響を受けたとしか考えられない変化（破擦音化）をしている。

(←③)

3、* /エ/に他を口蓋化する力があつたのであれば、その変化したあとの /i/ にもその力が保持されていてよさそうなものである。（少し言い過ぎか。） (←⑤)

①④も「1、2、3」を支える条件となるはずである。

「テ」と関連して「三母音化」の担い手である「ト」にも言及しておこう。第一章で見たように (p37)、「-iテ」同様に「-iト」も破擦音化している。それを再確認する意味で、「琉球館訳語」の「オ」段音の用字が『東国正韻』でどのような現われをしているか見てみよう。「エ」段音のそれに習って『西儒耳目資』も対照する。

	音訳字	『東国正韻』	『西儒耳目資』
オ	倭 悪 翁	? o a ' ? o ' ? o ŋ	g o e i u e i u o o u i a u m
コ	个 姑 殼 孔	→ケ k o ' k o k k h o ŋ	→ケ k u k ' i o k ' u n
ゴ	悪	→オ	→オ
ソ	(なし)		
ゾ	(なし)		

ト	大 它 多 吐 周 独 度 都 墮	thai ' tha ' ta ' tho ' cjuβ ttok tto' to ' (ナシ)	to t' o ta t' oi t' a t' o xe to t' u cheu to to tu ce tu t' o to hoei
ド	多 度	→ト →ト	→ト →ト
ノ	那 奴	na ' no '	na no nu
ホ	波 活 賀	pa ' koar? hha '	pi po poei kuo huo ho
ポ	普	pho '	p' u
モ	木 目 莫 毛	mok mok mΛik moβ	mo mo mu mo mao

ヨ	由 約	' j u β ? j a k	i e u i a o i o
ロ	禄 魯	r o k r o '	l o l u
ヲ	外 倭 翁	ŋ o i ' →オ →オ	v a i u a i →オ →オ

「-it」に適う用字は「周」である。『東国正韻』で「c j u β」、『西儒耳目資』で「cheu」である。いずれも、破擦音を示しているばかりか、母音にも変化が見える。他の「ト」だけでなく、その他の「オ段音」とも比べてみると、一層このことがはっきりするのである。

以上述べてきたように、少なくとも「語音翻訳」と「琉球館訳語」に依る限りでは、15・6世紀ごろの沖縄語の「エ段音」は、口蓋化してはいたが（* /イ/ の方向へ動こうとしていたのであるから当然ではあるが）、他の段の子音を口蓋化する作用は果たさなかった。そうであるから、三母音化の原因ともならないということになる。

口蓋化の原因は「イ」母音に求めるべく、したがって、三母音化の原因も他に求めなければならなくなる。今のところ代案を持たないが、従来言われてきた「融合母音 o : (< a u) ε : (< a i) の発生によって三母音化傾向が生じた」とする考え方にも賛同できないでいる。第一章第二節で見たように (p87)、『漂海録』「琉球」語に依れば、19世紀初めの沖縄語では「二重母音は長母音化しているのに、* /エ/・* /オ/ は、/イ/・/ウ/ に移行しているとは言いきれない」のである。これにどう対処するか、今後の大いなる課題である。

[八行の子音]

第一章で述べたように (p39, p40)、「語音翻訳」の分析結果から、15・6世紀ごろの沖縄語の「八行の子音」は両唇破裂音 [p] であったと考えるが、同じ資料をもとにしながら、柳田征司 (前掲) では両唇摩擦音 [Φ] と両唇破裂音 [p] とを認めている。すなわち、十六世紀初頭の首里方言の八行音は次のようになっていたと推定される、とする。(p1064)

語頭 Φであったが、ヒ・フの場合にPが実現する語があった。

語中 八行転呼を起こしていたが、稀にPが実現する語があった。

「語音翻訳」については前述のようであるから繰り返さず、「琉球館訳語」の用字例を使って再検討することとする。それぞれの用字例に対応する『東国正韻』と『西儒耳目資』の音を示す。

	音訳字	『東国正韻』	『西儒耳目資』
ハ	扒 花 法 華 哇	pai ' hoa ' pɔp hhoa ' ?oa '	pai hoa fa hoa k'ua fu ya ua
ヒ	必 非 分 品 亦 葉	pir? phi ' pʌn ppan phwn 'juk 'jɔp	pi pie fi fuen p'in ie xe ie

フ	付 福 分	pu ' ppu' pok →ヒ	fu fo →ヒ
へ	也 葉	'ja' →ヒ	(?) →ヒ
ホ	波 活 賀 (亦)	pa ' koar? hha ' →ヒ	pi po poei kuo huo ho →ヒ

用字例が語頭か語中かも見ておこう。

	ハ	ヒ	フ	へ	ホ
語頭	扒 花 法 華	必 非 分 品	付 福 分	/	波 活
語中	哇	亦 葉	付 福	也 葉	(亦)

「語中」の例の「哇、亦、葉、也」は、いずれも八行転呼音と見なされるもので、「語頭・語中」ともに現れるのは「付、福」だけということになる（「ホ」の項の「亦」は「こほり」に対応する語形に含まれているので、ここに置いたが、音韻的には「ホ」と対応するとは言えない）。

『西儒耳目資』では「p, f, h」から「k」まで現れて複雑であるのに対し、『東国正韻』では基本的に「p, ph」であると言える。「1447-48」年刊行の『東国正韻』のほうが、「1626」年刊行の『西儒耳目資』よりも「琉球館訳語」の漢字音に近い姿を留めていると考えて、『東国正韻』に重きを置く。

第一章で次のように述べた。

「花」が [Φana] であれば「hoa・na」と表記された可能性があることを考え合わせると⁵⁾、「ph」は（[Φ]ではなく）[p^h]を示している可能性が高い。

⁵⁾ 『漂海録』「琉球」語には、「hoa・chi・koa・chi」（八月）の例がある。（p39-40）

「hoa」は、両唇摩擦音 [Φ] を表示しようとした結果の表記であることは疑いを入れまい。これから類推すれば「hu」も [Φu] である可能性が高くなる。

もっとも、現代語で、「葉」は [Φa:] であるのに「齒」は [ha:] であるという事象もあるから、慎重である必要があるが、「クリフォードごい」に 'fa' や 'pha' などがあったことと照らし合わせれば、この当時の* /ヒ、へ、ハ、フ、ホ /の子音は両唇摩擦音 [Φ] であったとしてよいのではなかろうか。（p92）

これに若干の補足をしておく。『漂海録』「琉球」語にも「p」が現れるが、これは、「バ行」に対応するものだけである。

ところで、『東国正韻』には「hoa'」を初めとして、「h」を含む漢字も多数収録されている。いくつか例を示そう。

hoa' 花、華、火、貨、化、・・・

hhoa' 和、華、・・・

hhjoi ' 蹊、系、係、結、・・・
 hwi ' 犧、希、稀、喜、嬉・・・
 hoi ' 灰、賄、悔、・・・
 hhoi ' 回、廻、徊、會、・・・
 ho ' 呼、虎、許、・・・
 hho ' 胡、湖、糊、戸、下、互、・・・
 ha ' 何、嚇、呵、・・・
 hha ' 何、荷、河、假、下、夏、賀、・・・
 hu ' 芋、休、・・・

「語音翻訳」当時の朝鮮語に「h」があるのに（文字も、音も）、「語音翻訳」に「h」が使用されていない。「春 pha·ru」や「箒 pha·'o·ki」や「鼻 pha·na」や「牙齒 pha」などが [Φa] で始まるのであれば、「hoa」が現れてもよい。全部とは言わないまでも一つや二つ。「語音翻訳」の表記の仕方からすると当然起こり得るはずのものである。それが無いということは、「八行音」が [Φー] ではなかったということになる。

しかし、「琉球館訳語」の場合は、先に見た「花 hoa、華 hhoa'、活 koar?、賀 hha'」のように [Φー] の存在を窺わせるものがある。これをどう考えるか。

「語音翻訳」の「八行音」が [p] であったからと言って、これを「古代のp」だとは思わない。「八行転呼音」と同居しているのであるから、古いはずはない。この点、柳田説に賛同するものである。「p→Φ」と変化した後の「Φ」を経た「p」であると考え。但し、この「p」は、更に変化して「p→Φ→h」という道筋を辿ったのではないか。『漂海録』「琉球」語や「クリフォードごい」や現代語を見ると、そのように思えるのである。つまり、「p₁→Φ₁→p₂→Φ₂→h」という道筋である。「琉球館訳語」の [Φ] は、「Φ₁」なのか「Φ₂」なのか。即断はできない。しかし、後者であるような印象は抱いている。

参考として、バ行の音も示しておく。

	音訳字	『東国正韻』	『西儒耳目資』
バ	扒 八 把 法 班	pai ' par? ppa ' pop pan	pai pa p'a pa fa (ナシ)
ビ	必 別	pir? pjor? ppjor?	pi pie pie
ブ	不 布	pu ' po '	po fu ku fo pu
ベ	別	→ビ	→ビ
ボ	普	pho '	p'u

[有声子音の前の鼻音]

第一節で、第一章での分析をもとに、「この種の鼻音が存在したことは否めない事実であろうという前提のもとに、その消失時期に焦点を当て」たのであるが、福島邦道（1993）に次のようにあるのに接し、今一度触れてみたい。

以上、濁音表記をめぐる、単なる濁音をあらわすためのものか、濁音に鼻音をともなうものをあらわしているのか、両説について縷述してきたが、私は単なる濁音にするための表記にすぎないという考え方をとるものである。（p167）

と、理由を明示しないままの記述があつて戸惑うのであるが、すぐ後に

一口に外国資料と言っても、その日本語表記はまちまちであり、それぞれの資料に応じて対処すべきもので、一律にはあつかえないものと考えている。（p168）

と続くので、いささか落ち着く。

私は、少なくとも、ハングル資料に限って言えば、『伊呂波』・『捷解新語』と「語音翻訳」とは資料の性質が違ふと考えている。

前二者は、「日本語教科書」であつて、日本語を習得させるための工夫がなされていると言える。その一環として「語頭の有声子音の前に鼻音をおく」方法を考えだしたと思われる。それは「日本語に習熟し、教育的配慮のもとに教科書を編集した」者のなせる技である（特に『捷解新語』の場合はそうである）。

いくら日本語に習熟していても、それと趣の違ふ方言（沖縄語）を聞いてそれをハングルで表記した場合に、どのような現れ方をするかを調べたことがある（多和田（1991）「未知の言語の表記」『広島大学 留学生日本語教

育』第3号 参照}。結論は、ありきたりで、「聞こえたように、聞いたように」書くしかないということであった（例えば、[du:]は「to・u」としか書いてない）。聞き取れたように、あるいは、ハングルの正書法の許す範囲で書くしかなかったのである。

「語音翻訳」の筆録者の立場もこれと同じであったろう。つまり、聞いたとおり、正書法に従って書いたのである。（『漂海録』「琉球」語も同様であろう。）その対象となる言語の様態と書記手段となった言語の事情とが上手にかみあったのが、「エ」の表記であったように思う。

これ以上付け加えることはないと思うが、再確認の意味で、「琉球館訳語」の「有声子音の前の音節の用字」が『東国正韻』・『西儒耳目資』でどのようなになっているかを示しておこう。

音訳字	『東国正韻』	『西儒耳目資』
昂	ŋ a ŋ	g a m
撒	s a r ?	s a
蒙	m o ŋ	m a n m u n
翁	? o ŋ	u m
藍	(?)	l a n
公	k o ŋ	k u n
噓	(?)	h o
孫	s o n	s u n
包	(?)	p a o
分	p p u n	f u e n
看	k h a n	k ' a n
民	m i n	m i n
慢	m a n	m a n
諷	(?)	p ' i a o

主要参考文献

- 飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編（1984）『講座方言学10 沖縄・奄美の方言』国書刊行会
市河三喜・服部四郎監修（1955）『世界言語概説』下巻 研究社（1974 第7刷）
伊波普猷（1974）『伊波普猷全集』第四巻 平凡社
伊波普猷監修（1916）『琉球語便覧 附琉語解釈』糖業研究会（1969 琉球史料復刻頒布会版）
岩倉市郎（1977）『喜界島方言集』国書刊行会
内間直仁（1979）「琉球方言における動詞活用形の成立について」『人文科学』31集
内間直仁（1984）『琉球方言文法の研究』笠間書院
大阪外国語大学朝鮮語研究室（1986）『朝鮮語大辞典』角川書店
尾崎雄二郎・都留春雄・西岡弘・山田勝美・山田俊雄（1992）『角川 大字源』角川書店
大友信一・木村晟（1968）『日本館訳語 本文と索引』洛文社
大友信一・木村晟（1979）『琉球館訳語 本文と索引』小林印刷出版
沖縄タイムス社（1983）『沖縄大百科事典』
沖縄県庁編『沖縄対話』（1880）（1975 国書刊行会復刻版）
小倉進平（1924）『朝鮮南部の方言』（朝鮮史学会 大正13・3）
小倉進平（1928）「朝鮮語のtoin-siot」（『岡倉先生記念論文集』昭和3・12）
ともに『小倉進平博士著作集（三）』京都大学文学部国語学国文学研究室編（1975・5）所収
長田須磨・須山名保子（1977）『奄美方言分類辞典 上巻』笠間書院
長田須磨・須山名保子・藤井美佐子（1980）『奄美方言分類辞典 下巻』笠間書院
加治工真市（1982）「琉球、小浜方言の音韻研究序説」『琉球の言語と文化』論集刊行委員会
亀井孝解説（1979）『クリフォード 琉球語彙』勉誠社
亀井孝・河野六郎・千野栄一（1988）『言語学大辞典 第一巻 世界言語編（上）』三省堂
亀井孝・河野六郎・千野栄一（1992）『言語学大辞典 第三巻 世界言語編（下）』三省堂
京都大学国語学国文学研究室（1957）『捷解新語 本文・索引解題』京都大学国文学会
京都大学国語学国文学研究室（1968）『纂輯 日本譯語』京都大学国文学会
京都大学国語学国文学研究室（1987）『改修捷解新語』京都大学国文学会
金城朝永（1944）『那覇方言概説』（『金城朝永全集（上巻）』1974 沖縄タイムス社）
小泉保訳、M・シュービゲル著（1973）『音声学入門』大修館書店
河野六郎（1979）『河野六郎著作集 1 中国音韻学論文集』平凡社
河野六郎（1979）『河野六郎著作集 2 朝鮮語学論文集』平凡社
国立国語研究所（1963）『沖縄語辞典』大蔵省印刷局
申叔舟（1975）『海東諸国紀』国書刊行会
須藤利一訳（1982）『バジル・ホール 大琉球島航海探険記』第一書房
高橋俊三（1991）『おもろさうしの国語学的研究』武蔵野書院
田中健夫訳注、申叔舟著（1991）『海東諸国紀』岩波書店
多和田眞一郎（1979）「十五・六世紀首里語の音韻—『語音翻訳』にみる—（上）（下）」
『沖縄文化』第51号・第52号
多和田眞一郎（1980）「『クリフォード琉球語彙』にみる十九世紀の沖縄語」
『沖縄文化』第54号
多和田眞一郎（1981）「十九世紀沖縄語の動詞の成り立ち」『沖縄文化』第57号
多和田眞一郎（1982）「語音翻訳索引及び琉球館訳語用字一覧」『琉球の言語と文化』
論集刊行委員会

- 多和田眞一郎 (1982) 「沖縄方言と朝鮮語資料」『国文学 解釈と鑑賞』第47巻9号
- 多和田眞一郎 (1982) 「尚真期沖縄語音韻考」『沖縄文化』第59号
- 多和田眞一郎 (1984) 「沖縄語史的研究序説—『語音翻訳』再論—」
『現代方言学の課題 第3巻 史的研究篇』明治書院
- 多和田眞一郎 (1985) 「『クリフォード琉球語彙』琉英配列語彙」『琉球の方言』9
- 多和田眞一郎 (1985) 「朝鮮・中国資料対照琉球語彙」『琉球の方言』9
- 多和田眞一郎 (1985) 「沖縄語の音変化—朝鮮・中国資料による考察—」『沖縄文化研究』11
- 多和田眞一郎 (1986) 「沖縄の言語学<下>—韓国・中国・本土からみた琉球—」
『月刊 言語』vol.15 No.10
- 多和田眞一郎 (1988) 「中世朝鮮・中国人と琉球方言」『国文学 解釈と鑑賞』第53巻1号
- 多和田眞一郎 (1992) 「ハングル資料沖縄語(十九世紀初)」『沖縄文化研究』18
- 多和田眞一郎 (1994) 『「琉球・呂宋漂流録」の研究—二百年前の琉球・呂宋の民俗・言語—』
武蔵野書院
- 土井忠生 (1934) 「ベッテルハイムの琉球方言に関する著述」『方言』第四巻第十号
- 東条操 (1969) 『南島方言資料』刀江書院
- 藤堂明保 (1980) 『中国語音韻論 その歴史的研究』光生館
- 藤堂明保 (1981) 『学研漢和大字典』(第10刷) 学習研究社
- 中島文雄 (1979) 『英語発達史』(改訂版) 岩波書店
- 仲宗根政善 (1960) 「沖縄方言の動詞の活用」『国語学』41
- 仲宗根政善 (1983) 『沖縄今帰仁方言辞典』角川書店
- 仲本政世 (1896) 『沖縄語典』(1975 国書刊行会復刻版)
- 中本正智 (1976) 『琉球方言音韻の研究』法政大学出版局
- 中本正智 (1981) 『図説琉球語辞典』力富書房金鶏社
- 中本正智 (1983) 『琉球語彙史の研究』三一書房
- 沼本克明 (1986) 『日本漢字音の歴史』東京堂出版
- 野原三義 (1986) 『琉球方言助詞の研究』武蔵野書院
- 服部四郎 (1946) 『元朝秘史の蒙古語を表はす漢字の研究』文求堂
- 服部四郎 (1933) 「国語諸方言のアクセント概観(六)」『方言』第三巻第六号
- 服部四郎 (1959) 『日本語の系統』岩波書店
- 服部四郎 (1976) 「琉球方言と本土方言」『沖縄学の黎明』沖縄文化協会
- 服部四郎 (1977) 「琉球方言動詞“終止形”の通時的変化」『言語研究』第72号
- 服部四郎 (1978~79) 「日本祖語について・1~22」『月刊言語』vol.7 No.1~vol.8 No.12
- 服部四郎 (1979) 「『語音翻訳』を通して見た15世紀末の朝鮮語の発音」『言語の科学』第7号
- 服部四郎 (1984) 『音声学』岩波書店
- 浜田敦 (1970) 『朝鮮資料による日本語研究』岩波書店
- 浜田敦 (1983) 『続朝鮮資料による日本語研究』臨川書店
- 浜田敦 (1986) 『國語史の諸問題』和泉書院
- 春名徹訳、ベイジル・ホール著 (1986)
『朝鮮・琉球航海記—一八一六年アマースト使節団とともに—』岩波書店
- 平山輝男 (1937) 「アクセントから見た琉球方言の系統」『方言』第七巻第六号
- 福島邦道 (1993) 『日本館訳語攷』笠間書院
- B. J. ベッテルハイム (1849) 『琉球語辞書』大英博物館蔵稿本(複写)
- 外間守善 (1972) 『沖縄の言語史』法政大学出版局
- 外間守善 (1981) 『日本語の世界 沖縄の言葉』中央公論社

松浪有・小野茂・忍足欣四郎・秦宏一共訳、K・ブルナー著 (1973)
『英語発達史』大修館書店
村山七郎 (1981) 『琉球語の秘密』筑摩書房
諸橋轍次 (1976) 『大漢和辞典』(縮寫版第五刷)大修館書店
安田章 (1980) 『朝鮮資料と中世国語』笠間書院
安田章 (1990) 『外国資料と中世国語』三省堂
柳田征司 (1993) 『室町時代語を通して見た日本語音韻史』武蔵野書院
山内盛熹遺稿、伊波普猷補註 (1895) 「南島八重垣—明治初年の琉球語彙—」
『方言』第四卷第十号(1934)
山口栄鉄 (1976) 『チェンバレン 日琉語比較文典』琉球文化社

梅田博之 (1983) 『韓國語 音聲學的研究』螢雪出版社
許雄 (1965) 『改稿新版 国語音韻学』正音社
金亨圭 (1972) 『増補 国語史研究』一潮閣
黄希栄 (1979) 『韓國語音韻論』ニ友出版社
弘字出版社編集部 (1989) 『国漢 最新大字源』(改訂版)民衆書林
崔鉉培 (1971) 『한글 改正正音學』正音社
崔鶴根 (1968) 『国語方言研究』ソウル大学出版部
崔鶴根 (1978) 『韓國方言辞典』玄文社
崔範勲 (1990) 『韓國語發達史』慶雲出版社
南廣祐 (1973) 『補訂 古語辞典』一潮閣
노대규·김영희·이상복 (ノダイキ・キムヨヒ・イソフク) (1991) 『국어학서설』 신원문화사
임용기·성낙수·최기호 (イムヨギ・ソンナクス・チキホ) (国語学序説) (シウワ文化社)
文瓊奎 (1972) 『朝鮮館譯語研究』景仁文化社
李基文 (1972) 『国語音韻史研究』塔出版社
李基文著、村山七郎監修、藤本幸夫訳 (1975) 『韓國語の歴史』大修館書店
李家源・權五惇・任昌惇 (1990) 『東亜 漢韓大辞典』東亜出版社
李弘植 (1976) 『完璧 国史大事典』大栄出版社
劉昌惇 (1964) 『李朝語辞典』延世大学校出版部

Ernesto Constantino ILOKANO DICTIONARY (1971) University of Hawaii Press

Teresita V. Ramos TAGALOG DICTIONARY (1971) University of Hawaii Press

ILOKO-ENGLISH DICTIONARY (Rev. Andrés Carro's VOCABULARIO ILOKO-ESPAÑOL.) Translated, Augmented and Revised by Morice Vanovergh, C. I. C. M. Printed and Edited by the CATHOLIC SCHOOL PRESS Baguio, Philippines

付
録

資
料

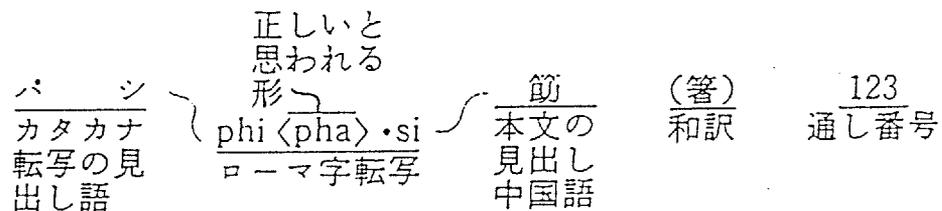
付 録 資 料

一、「語音翻訳」索引

凡 例

- ① 本文は、『海東諸國紀』(申叔舟著，国書刊行会，昭和50年10月20日発行)による。
- ② 本文のハングル部分は，ローマ字転写により示す。(音節の切れ目を「・」で示す。ハングルの誤記と思われる部分については直後に< >で正しいと思われる形を付す。)
- ③ 本文の見出し語に通し番号を付し，索引にもその番号を用いる。
- ④ カタカナ転写の見出し語，ローマ字転写，対応する本文の見出し中国語(対応するのがない時は，和訳)，和訳，通し番号の順に示す。

例



- ⑤ 配列は，五十音順である。
- ⑥ 旧字体を新字体に改める(主に，本文見出しの中国語について)。

転 写 一 覧 表

(カタカナ，ハングル，ローマ字の順)

ア 아 'a	イ 이 'i	ウ 우 'u	エ 예 'joi	オ 오 'o オアイ 왜 'oai オイ 외 'oi
--------	--------	--------	----------	----------------------------------

カ 카 kha 가 ka カイ कै khai 개 kai	キ 키 khi 기 ki キ=계 kjoi キヤ쟈 kja キョ쿄 khjo	ク 크 khur 쿠 ku	ケ 귀 kui	コ 코 kho 교 ko
ガ 가 ka	ギ 기 ki	グ 구 ku グマ ka グ과 koa	ゲ 귀 kui	ゴ 고 ko
サ 사 sa	シ 시 si シ=세 sjoi シヤ샤 sja シユ슈 sju シヨ쇼 sjo	ス 스 sa 스이취 sui		ソ 소 so
ザ 자 ca	ジ 지 ci ジャ쟈 cja	ズ 스 ca	ゼ 지 cui	ゾ 조 co
タ 다 ta	チ 지 ci チ=세 cjoi チョ쳐 chjo チヤ쟈 chja 쟈 cja チユ츄 chju チョ쵸 cjo	ツ 츠 cha 스 ca ツイ취 chui ツョ조 co	ティ티 ti テ=테 tjoi テョ터 thjo	ト 토 tho 도 to トゥ투 thu 투 tu
ダ 다 ta 다이대 tai		ヅ 수 zu ヅョ쵸 zjo	デ=테 tjoi	ド 도 to ドゥ투 tu
ナ 나 na 나이내 nai	ニ 니 ni ニョ녀 njjo	ヌ 누 nu	ネ 녀 nai	ノ 노 no
パ 파 pha 바 pa 바이패 phai	ピ 피 phi 피 pi	プ 푸 phu 부 pu	ペ 피 phui	
바 바 pa	비 비 pi	부 부 pu	피 피 pui	
マ 마 ma	ミ 미 mi ミ=메 mjoi 미ョ며 mjjo 미야먀 mja	ム 무 mu 무이뵤 mui	メ 뵤 mui	モ 모 mo

ヤ 야 'ja		ユ 유 'ju		ヨ 요 'jo
ラ ra	リ ri リㄹ rjoi リㄹ rja	ル ru ㄹ r ルㄹ rui	レ rui	
ワ wa 와 'oa				
ン n ㅇ	ム m ㅁ	ツ t ㅈ	シ s ㅅ	フ k ㅍ

本文

- 1 你是那裏的人 'u.ra.ca.ma.phi.chju
- 2 我是日本國的人 wan.'ja.ma.to.phi.chju
- 3 你的姓甚麼 'u.ra.na.'oa.'i.kja.'i.'u.ka
- 4 你的父親有麼 'u.ra.'a.sja.'a.ri
- 5 你哥哥有麼 'u.ra.sin.ca.'a.ri
- 6 你姐姐有麼 'u.ra.'a.rɿi.'a.ri
- 7 妹子有麼 'o.ra.ri.'a.ri
- 8 你幾時離了本國 'u.ra.'it.ca.si.ma.tha.cjoi.ki
- 9 我旧年正月起身 wan.ku.co.sjo.'oŋ.koa.ca.that.cjoi
- 10 你幾時到這裏 'u.ra.'it.ca.ko.ma.sij.ka
- 11 我們今年正月初三日纔到這裏 wan.ku.tu.si.sja.'oŋ.koa.ca.chui.
tha.ci.kit.cjoi
- 12 你初到江口是好麼 'u.ra.phu.ra.mo.to.cij.ka
- 13 一路喫食如何 'u.ra.mit.ci.mit.ci.'a.kwi.mo.ro.rat.to
- 14 多酒 'o.pu.si
- 15 好下飯 'o.sa.ka.ra.na
- 16 無甚麼好下飯 sa.ka.na.mo.'a.rja.pwi.ran.ru.mo
- 17 請一鍾酒 sa.kwi.pu.tjoi.ca.'a.kwi.ra
- 18 湯酒 sa.kwi.'oa.ka.si
- 19 酒酒來 sa.kwi.'oa.ka.ti.ku
- 20 撤酒風 sa.ka.ku.rui

- 21 不要餓他喫 'a·rui·ro·ma·sa·ra
 22 小餓他喫 'joi·kjoi·na·ku·ro·mi·sjoi
 23 酒尽了 sa·kwi·mi·na·rat·ti
 24 請裏頭耍子 'u·ci·pa·ra·'oai·chjo·'a·sam·pi
 25 平坐 ma·saŋ·ko·'ju·'oai·ri
 26 面紅 ca·ra·ru·'a·kai·sa
 27 面白 ca·ra·ru·si·ru·sa
 28 這箇叫甚麼子 ku·rui·'ja·ru·'uk·ka
 29 這箇人心腸好 ko·no·phi·cjo·ki·mo·ro·'jo·ta·sja
 30 這箇人心腸歹 ko·no·phi·cjo·ki·mo·ro·'jo·'oar·si
 31 天 thjon
 32 天陰了 thjon·ku·mo·tjoi
 33 天晴了 thjon·pha·ri·tjoi
 34 下雨 'a·mwi·phut·tjoi
 35 雨晴了 'a·mwi·pha·rit·tjoi
 36 下雪 'ju·ki·phu·ri
 37 雪住了 'ju·ki·phi·rit·ti
 38 日頭 thjon·ta
 39 日頭上了 thjon·ta·'aŋ·kat·tjoi
 40 日頭落了 thjo·ta·'ja·sa·mio·'is·cjo
 41 風 khan·cwi
 42 天亮了 'i·'u·ka·mi
 43 清早 sto·mwi·ti
 44 晌午 phir·ma
 45 晚夕 'jo·sam·pwi
 46 黑夜 'i·'u·ru
 47 向日 phi·ru
 48 暖和 ruk·sa
 49 天熱 'ak·sa
 50 涼快 san·ta·sa
 51 向日 phi·ru·ku·mi
 52 春 pha·ru

- 53 夏 nat·ca
 54 秋 'a·ki
 55 冬 phu·'ju
 56 今日 khjo·'o
 57 昨日 khi·ri·'u
 58 明日 'a·cja
 59 後日 'a·sat·ti
 60 這月 ko·ro·ca·ki
 61 來月 tjo·'oan·koa·ca
 62 開年 mja·'u·njon
 63 拜年 sjo·'on·koi·ca·no·phai
 64 地 ci
 65 地平正 ci·ma·san·ko
 66 山頂 sa·no·chan·ci
 67 山底 sa·no·si·cja
 68 大路 'o·pu·mi·ci
 69 小路 ku·mi·ci
 70 酒 sa·kui
 71 白酒 riq·ka·na·sa·kui
 72 清酒 'jo·ka·sa·kui
 73 飲酒 nu·mi
 74 酒有 sa·kui·'a·ri
 75 酒無了 sa·kui·nai
 76 酒醉了 sa·kui·'i·'u·ti
 77 飯 'om·pa·ri
 78 喫飯 'an·kui·ri
 79 做飯 'o·pa·ri·sa·rjoi
 80 大米飯 kho·mjoi·ro·'o·pan·ri
 81 小米飯 'a·'oa·ro·'o·pan·ri
 82 做下飯 sa·ka·na·'jo·ra·ri
 83 師米 ko·mwi·si·rajan·ka·ti
 84 肉 si·si
 85 魚 'i·'u
 86 鹿肉 kha·'u·ru·si·si
 87 猪肉 'o·'a·si·si
 88 兔肉 'u·san·ki·si·si
 89 油 'a·pu·ra
 90 塩 ma·si·'o
 91 醬 mi·sjo
 92 醋 sa·'u
 93 芥末 nan·ta·ri·kha·ta·si
 94 胡椒 kho·sju
 95 川椒 san·si·'o
 96 生薑 sja·'on·ka
 97 葱 kij·pi·na
 98 蒜 phi·ru
 99 菜蔬 so·nai
 100 燒茶 chja·'oa·ka·si
 101 甜 'a·mi·sa
 102 苦 ri·ka·sa
 103 酸 sui·sja
 104 淡 'a·pa·sja
 105 醱 si·pa·ka·na·sa
 106 粹 kha·ni·sa
 107 硯 sa·ca·ri
 108 墨 sa·mi
 109 筆 phun·ti
 110 弓 'i·'u·mi
 111 箭 'i·'ja
 112 弓袋 'i·'u·mi·nu·sa
 113 箭袋 'i·ja·nu·sa
 114 弓弦 'i·'u·mi·nu·co·nu
 115 窓 tho·'o·ri
 116 門 zjo

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 117 掛帳 kha·sja | 149 足 phi·sja |
| 118 帳 ma·ku | 150 舌頭 si·cja |
| 119 席子 mo·si·ru | 151 手指頭 'oi·pui |
| 120 靴 phi·sjaŋ·ka | 152 頭髮 kha·si·ra |
| 121 紙 kha·mi | 153 牙齒 pha |
| 122 匙 khai | 154 花 pha·ra |
| 123 筋 phi·si | 155 綠 'a·'o·sa |
| 124 篩 phu·rui | 156 黑 ku·ru·sa |
| 125 梳子 ma·ka·ri | 157 青 than·chjog |
| 126 砂貼是 sui·rui | 158 牛 'u·si |
| 127 木貼是 pha·ci | 159 馬 'u·ma |
| 128 櫛子 kha·'i | 160 豬 'u·'oa |
| 129 刀子 kha·ta·na | 161 鷄 tho·ri |
| 130 鍋兒 na·pui | 162 狗 'i·no |
| 131 簾 pha·'o·ki | 163 羊 pi·ca·cja |
| 132 火盆 phi·phat·ci | 164 老鼠 'o·'ja·pi·cju |
| 133 衣服 ki·ru | 165 蛇 pha·mu |
| 134 袴兒 pha·ka·ma | 166 龍 tha·ca |
| 135 裙兒 kha·ma·mo | 167 象 ca |
| 136 瓦 kha·ra | 168 獅 si·si |
| 137 草子 ku·ru·ma | 169 虎 to·ra |
| 138 卓子 tha·ki·tai | |
| 139 炭 sa·mi | |
| 140 柱 pha·nja | |
| 141 身子 to·'u | |
| 142 面 chΛ·ra | |
| 143 眼 mui | |
| 144 鼻 pha·na | |
| 145 口 khur·ci | |
| 146 耳 mi | |
| 147 頭 ka·nan·zu | |
| 148 手 thi | |

弘治十四年四月二十二日
啓下承文院

索引

ア

- ア オ サ 'a.'o.'sa 緑 (青さ) 155
 ア カ イ サ 'a.'kai.'sa 紅 (赤さ) 26
 ア キ 'a.'ki 秋 (秋) 54
 ア ゲ モ ノ 'a.'kui.'mo.'ro<no> 喫食 (上げ物) 13
 ア ゲ ラ 'a.'kui.'ra (上げよう) 17
 ア サ ッ テ ィ 'a.'sat.'ti 後日 (明後日) 59
 ア シ ャ 'a.'sja 父親 (父親) 4
 ア ス ム ビ 'a.'sɯm.'pi 耍子 (遊べ) 24
 ア チ ャ 'a.'cja 明日 (明日) 58
 ア ッ サ 'ak.'sa 天熱 (暑さ) 49
 ア ネ 'a.'rɯi<nɯi> 姐姐 (姉) 6
 ア バ シ ャ 'a.'pa.'sja 淡 (淡さ) 104
 ア ブ ラ 'a.'pu.'ra 油 (油) 89
 ア マ サ 'a.'mi<ma>.'sa 甜 (甘さ) 101
 ア メ 'a.'mɯi 雨 (雨) 34, 35
 ア リ 'a.'ri 有 (ある) 4, 5, 6, 7, 74
 ア リ ャ ベ ラ ャ 'a.'rja.'pɯi.'ran 無 (ありません) 16
 ア レ 'a.'rɯi 他 (あれ) 21
 ア ワ 'a.'oa 小米 (粟) 81
 ア ャ ガ ャ テ エ 'aɣ.'kat.'tɯi 上了 (上がって) 39
 ア ャ ゲ リ 'aɣ.'kui.'ri 喫飯 (上げよ) 78

イ

- イ ウ 'i.'u (言う) 3
 イ ウ 'i.'u 魚 (魚) 85
 イ ウ テ ィ 'i.'u.'ti 醉了 (酔って) 76
 イ ウ ミ 'i.'u.'mi 弓 (「射弓」, 弓) 110, 112, 114
 イ ウ ル 'i.'u.'ru 黑夜 (夜) 46
 イ ウ カ ミ 'i.'u.'kami 天亮了 (? 夜明け) 42
 イ キ ャ 'i.'kja 甚麼 (如何, どう) 3
 イ ャ チ エ 'is.'cɯi (入りて) 40

イ ッ ツ 'it·ca 幾時 (いつ) 8, 10
 イ ノ 'i·no 狗 (犬) 162
 イ ヤ 'i·'ja 箭 (「射矢」, 矢) 111, 113

ウ

ウ サ ャ ギ 'u·saŋ·ki 兎 (兔) 88
 ウ シ 'u·si 牛 (牛) 158
 ウ チ バ ラ 'u·ci·pa·ra 裏頭 (中) 24
 ウ マ 'u·ma 馬 (馬) 159
 ウ ラ 'u·ra 你 (あなた) 1, 3, 4, 5, 6, 8, 10, 12, 13
 ウ ワ 'u·'oa 猪 (豚) 160

エ

エ キ エ ラ ク 'joi·kjoi·na<ra>·ku 小 (少なく) 22

オ

オ アイ チ オ 'oai·chjo (? いらっしやって) 24
 オ イ ベ 'oi·pwi 手指頭 (指) 151
 オ ナ リ 'o·ra<na>·ri 妹子 (「をなり」, 妹) 7
 オ サ ガ ラ ナ 'o·sa·ka·ra·na 好下飯 (食べましょう) 15
 オ バ ニ 'o·pa·ri<ni> 飯 (御飯) 79
 オ バ ニ ス リ エ 'o·pa·ri<ni>·sa·rjoi 做飯 (?「おばに すれ」) 79
 オ バ ャ ニ 'o·pan·ri<ni> 飯 (御飯) 80, 81
 オ ブ ～ 'o·pu～ 大 (「おほ～」, 大～) 68
 オ ブ シ 'o·pu·si 多酒 (多し) 14
 オ ブ ミ チ 'o·pu·mi·ci 大路 (大道, 大きな道) 68
 オ ム バ ニ 'om·pa·ri<ni> 飯 (御飯) 77
 オ ヤ ビ チ ュ 'o·'ja·pi·cju 老鼠 (親鼠)
 オ ワ 'o·'oa 猪 (豚) 87

カ

— カ —ka (～カ (疑問)) 3, 28
 — ガ —ka (～か (疑問)) 10, 12
 — カ —ki<ka> (～か (疑問)) 8
 ガ (ワ) ka (? 皮) 120
 カ イ khai 匙 (さじ) 122

- カ イ kha·'i 櫃子 (長持) (櫃) 128
 カ ウ kha·'u 鹿 (鹿) 86
 カ シ ラ kha·si·ra 頭髮 (髪) 152
 カ タ ナ kha·ta·na 刀子 (刀) 129
 カ チ ャ kha·sja<cja> 掛帳 (蚊帳) 117
 カ マ モ kha·ma·mo 裙兒 (下裳) 135
 カ ミ kha·mi 紙 (紙) 121
 カ ワ ラ kha·ra 瓦 (瓦) 136
 カ ラ サ kha·ni<ra>·sa 粹 (辛さ) 106
 カ ラ シ kha·ta<ra>·si 芥末 (辛子) 93
 カ ラ ャ ツ ka·nan<ran>·zu 頭 (頭) 147
 カ ャ セ khan·cui 風 (風) 41
 キ
 キ ャ チ ャ kit·cjai 纔到這裏 (来て) 11
 キ ニ ウ khi·ri<ni>·'u 昨日 (昨日) 57
 キ ャ ヌ ki·ru<nu> 衣服 (衣) 133
 キ モ ki·mo 心腸 (「胆」, 心) 29, 30
 キ ャ オ khjo·'o 今日 (今日) 56
 キ ャ ビ ラ kij·pi·na<ra> 葱 (?「切りにら」, ?にら) 97
 ク
 ク ku 来 (来い) 19
 ク ～ ku～ 小～ (小～) / ～mi·ci～路 (小道) 69
 ク ャ ヅ ku·co 旧年 (去年) 9
 ク チ khur·ci 口 (口) 145
 ク ト ャ シ ku·tu·si 今年 (今年) 11
 ク ミ チ ku·mi·ci 小路 (小道, 小さい道) 69
 ク モ テ ャ ku·mo·tjai 陰了 (曇って) 32
 ク ル サ ku·ru·sa 黒 (黒さ) 156
 ク ル マ ku·ru·ma 車子 (車) 137
 ク レ ku·rmi 這箇 (これ) 28
 グ ャ ャ ツ -koa·ca 一月 (～月) / tjai·'oan～来～61, sja·'on～正～11,
 sjo·'on～9, 63

コ

- コ シ ュ kho·sju 胡椒 (胡椒) 94
 コ ノ ko·no 這箇 (この) 29, 30
 コ ノ ko·ro<no> 這 (この) 60
 コ マ ko·ma 這裏 (ここ) 10
 コ ミ エ ko·mjci 大米 (米) 80
 コ メ ko·mui 米 (米) 83

サ

- ザ ウ ca<ca·'u> 象 (象) 167
 サカグルイ sa·ka·ku·rui 撤酒風 (酒狂い) 20
 サ カ ナ sa·ka·na 下飯 (肴) 16, 82
 サ ケ sa·kui 酒 (酒) 17, 18, 19, 23, 70, 74, 75, 76
 一 サ ケ -sa·kui 酒 (~酒) 71, 72
 サ ン sa<san> 山 (山) 66, 67
 サ ン シ オ san·si·'o 川椒 (山椒) 95

シ

- シ シ si·si 肉 (肉) 84, 86, 87, 88
 シ シ si·si 獅 (獅子) 168
 シ チ ャ si·cja 底 (下) 67
 シ チ ャ si·cja 舌頭 (舌) 150
 シバカラサ si·pa·ka·na<ra>·sa 鹹 (渋辛さ) 105
 シ マ si·ma 本国 (「島」, 国) 8
 シャオンガ sja·'oŋ·ka 生薑 (生姜) 96
 シャオングワツ sja·'oŋ·koa·ca 正月 (正月) 11
 ショオングワツ sjo·'oŋ·koa·ca 正月 (正月) 9
 ショオングワツ sjo·'oŋ·koi<koa>·ca 正月 (正月) 63
 ショオンワツノパイ sjo·'oŋ·koi<koa>·ca·no·phai 拜年 (? 正月の拝み,
 年始のあいさつ) 63
 シランギティ si·raŋ·ka<ki>·ti 師 (精げて) 83
 シ ル サ si·ru·sa 白 (白さ) 27
 シ ン ザ sin·ca 哥哥 (兄) 5

ス

- ス sA 俗 (「巢」, 翰) 112, 113
 スイシヤ sui·sja 酸 (酸さ) 103
 スイレ sui·puwi 砂貼是 (皿) 126
 ス u sA·'u 醋 (酢) 92
 スズリ sA·cA·ri 硯 (硯) 107
 ストメティ sto·mwui·ti 清早 (つとめて, 早朝) 43
 ズ ma cA·ma 那裏 (どこ) 1
 ス mi sA·mi 墨 (墨) 108
 ス mi sA·mi 炭 (炭) 139
 スリ = sA·rjoi 做 (?「すれ」(「為」の命令形), せよ, 作れ) 79
 スンダサ sAn·ta·sa 涼快 (涼しさ) 50

ソ

- ソナイ so·nai 菜蔬 (葉野菜) 99

タ

- ダイ tai (台) 138
 タカ ~ tha·ki<ka>~ (高~) 138
 タカダイ tha·ki<ka>·tai 卓子 (「高台」? テーブル) 138
 タチ = tha·cjai 離了 (発ちて, 発って) 8
 タ ts tha·cA 籠 (籠) 166
 タッチ = that·cjai 起身 (発ちて, 発って) 9
 タッチョン th·n·chjɔŋ 青 (?「丹青」, 青) 157

チ

- チ ci 地 (地) 64, 65
 —チ = —cjai (～て (接続助詞)) 40
 チ ja chja 茶 (茶) 100
 チャンガ ciŋ<cjaŋ>·ka 到 (来たか) 12
 チャンガ siŋ<cjaŋ>·ka 到 (来たか) 10

ツ

- ツイタチ chui·tha·ci 初三日 (ついたち) 11
 ツォル co·nu<ru> 弦 (弦) 114
 ツ ki cA·ki 月 (月) 60

ニグヅリ riŋ<niŋ>·ka·na<ri> (濁り) 71

ニグヅリサケ riŋ<niŋ>·ka·na<ri>·sa·kwi 白酒 (濁り酒) 71

ヌ

— ヌ -nu (～の (所有)) 112, 113, 114

— ヌ -ru<nu> (～の (所有)) 86

— ヌ -ru<nu> (～の, ～が (主格)) 26, 27

ヌ ウ ッ ru<nu>·'uk 甚麼子 (何) 28

ヌ ウ ッ カ ru<nu>·'uk·ka 甚麼子 (何か, 何であるか) 28

ヌ ク サ ruk<nuk>·sa 暖和 (温さ, 暖かさ) 48

ヌ ク ミ ru<nu>·ku·mi 向火 (温め, 暖まれ) 51

ヌ ミ nu·mi 飲酒 (飲め) 73

ノ

— ノ -no (～の (所有)) 63, 66, 67

— ノ -ro<no> (～の (所有)) 80, 81

— ノ -ro<no> (～の, ～が (主格)) 29, 30

ノ マ シ ㇿ ro<no>·mi<ma>·sjoi 喫 (飲ませ) 22

ノ マ ス ナ ro<no>·ma·sa·ra<na> 不要饋他喫 (飲ますな, 飲ませるな)

21

ハ

ハ pha 牙齒 (齒) 153

ハ イ phai 拝 (拜) 63

ハ オ キ pha·'o·ki 箒 (箒) 131

ハ カ マ pha·ka·ma 袴児 (袴) 134

ハ シ phi<pha>·si 筴 (筴) 123

ハ チ pha·ci 木貼是 (「鉢」, ?皿) 127

ハ ナ pha·na 鼻 (鼻) 144

ハ ナ pha·ra<na> 花 (花) 154

ハ ム pha·mu 蛇 (蛇。?はぶ) 165

ハ リ テ ㇿ pha·ri·tjoi 晴了 (晴れて) 33, 35

ハ リ ッ テ ィ phi<pha>·rit·ti (雪) 住了 (晴れて) 37

ハ リ ャ pha·nja<rja> 柱 (柱) 140

ハ ル pha·ru 春 (春) 52

ヅ ヌ zjo 門 (門, 入口) 116

ツ ラ ca·ra 面 (つら, 顔) 26, 27

ツ ラ chΛ·ra 面 (つら, 顔) 142

ツ ヌ ジ chaŋ·ci 頂 (「つじ」, 頂き) 66

テ

テ ィ thi 手 (手) 148

ー テ ィ -ti (～て (接続助詞)) 23, 37

ー テ エ -tjoi (～て (接続助詞)) 32, 33, 34, 35, 39

デニワングワツ tjoi·'oaŋ·koa·ca 来月 (来月) 61

テ ヌ thjon 天 (天) 31, 32, 33

テ ヌ ダ thjen 日頭 (太陽) 38, 39, 40

ト

ト ウ to·'u 身子 (「胴」, からだ) 141

ー ド ヌ モ -ru<tu>·mo (～ども) 16

ト ヌ リ thu·ri 鶏 (とり) 161

ト オ リ tho·'o·ri 窓 (? 通り) 115

ト ラ to·ra 虎 (虎) 169

ナ

ナ na 姓 (名) 3

ー ナ -na (～な (禁止)) 21

ー ナ -na (～(よ)う, ～ましよう (勧誘)) 21

ナ イ nai 無了 (無い) 75

ナ ヌ ツ nat·ca 夏 (夏) 53

ナ ヌ テ ィ rat<nat>ti (な～て) 23

ナ ヌ ト rat<nat>to 如何 (? 「何と」, どう) 13

ナ ベ na·pui 鍋尾 (鍋) 130

ナ ヌ ダ ニ nan·ta·ri<ni> 芥末 (? 「菜種」) 93

ナ ヌ ダ ニ カ ラ シ nan·ta·ri<ni>·kha·ta<ra>·si 芥末 (? 「菜種辛子」からし
な) 93

ニ

ニ ギ ャ サ ri<ni>·ka<kja>·sa 苦<苦さ> 102

ー ニ ヌ -nion 年 (～年) /mja·'u～開～ 62

ヒ

- ビ phi 火 (火) 51
 ビ シ ャ phi·sja 足 (足) 149
 ビ シ ャ ン phi·sjaŋ (足～) 120
 ビ シ ャ ン ガ phi·sjaŋ·ka 靴 (足皮) 120
 ビ チ ュ phi·chju 人 (人) 1, 2
 ビ チ ョ phi·cjo 人 (人) 29, 30
 ビ ツ ジャ pi·ca·cja 羊 (羊) 163
 ビ バ ッ チ phi·phat·ci 火盆 (火鉢) 132
 ビ ル phi·ru 向日 (昼) 47
 ビ ル マ phir·ma 晌午 (昼間) 44

フ

- ブ ッ テ ャ phut·tjoi 下雨 (降って) 34
 ブ テ ャ ツ pu·tjoi·ca 一鐘 (ひとつ) 17
 ブ ナ モ ト phu·ra<na>·mo·to 江口 (「船元」, 港) 12
 ブ ャ phu·'ju 冬 (冬) 55
 ブ リ phu·ri 下雪 (「降り」, 降る) 36
 ブ ル イ phu·rui 篩 (篩) 124
 ブ ン デ ィ phun·ti 筆 (筆) 109

へ

- ベ ル phi·ru 蒜 (蒜, にんにく) 98

マ

- マ カ リ ma·ka·ri 椀子 (碗) 125
 マ ク ma·ku 帳 (幕) 118
 マ シ オ ma·si·'o 塩 (「真塩」, 塩) 90
 マ ス ッ コ ma·saŋ·ko 平 (まっすぐ) 25, 平正 (まっすぐ, 平ら) 65

ミ

- ミ シ ョ mi·sjo 醬 (味噌) 91
 ミ チ mi·ci 路 (みち) 68
 ミ ッ チ ミ ッ チ mit·ci·mit·ci 一路 (道々, 途中) 13
 ミ ナ mi·na (皆) 23
 ミ ナ ナ ッ テ ィ mi·na·rat<nat>·ti 尽了 (みなになって, なくなって) 23

- ミ ミ mi<mi·mi> 耳 (耳) 146
- ミ ャ ウ ニ ャ ャ mja·'u·njɔn 開年 (明年, 来年) 62
- ム
- 一 ム -mo (～も) 16
- ム イ mui 眼 (目) 143
- モ
- モ シ ル mo·si·ru 席子 (筵) 119
- ヤ
- 一 ヤ -'ja (～は) 28
- ヤ ス ミ ャ 'ja·sa·mio (休み) 40
- ヤ ス ミ ャ イ ッ チ = 'ja·sa·mjo·'is·cjoɪ 落了 (休み入りて, 沈んで) 40
- ヤ マ ト 'ja·ma·to 日本国 (「大和」, 日本) 2
- ユ
- ユ オ アイ リ 'ju·'oai·ri 坐 (座われ) 25
- ユ キ 'ju·ki 雪 (雪) 36, 37
- ヨ
- ヨ カ ～ 'jo·ka～ (～良か～, 良い～) 72
- ヨ カ サ ケ 'jo·ka·sa·kwɪ 清酒 (「良か酒」, 良い酒, ?清酒) 72
- ヨ サ ム ベ 'jo·sam·pwi 晩夕 (夕方) 45
- ヨ タ シ ャ 'jo·ta·sja 好 (良さ) 29
- ヨ ラ リ 'jo·ra·ri 做 (?「よられ」(「よる」の命令形), 作れ?) 82
- ワ
- 一 ワ -'oa (～は) 3
- ワ カ シ 'oa·ka·si 湯酒 (沸かせ) 18, 焼茶 (沸かせ) 100
- ワ キ テ イ 'oa·ka<ki>·ti 酒 (分けて?) 19
- ワ ル サ 'jo·'oar·si<'oar·sa> 歹 (悪さ) 30
- ワ ャ wan 我 (我, 私) 2, 9, 11

(参考) 『老乞大』 頭



待書
那裏來

裏去我往北京去。你幾時離了王京。我這月
 日離了王京。既是這月初一日離了王
 京。到今半箇月。怎麼纔到的這裏。我有一箇
 木伴落後了來。我沿路上慢慢的行着。等候
 來。因此上來的遲了。那次伴如今赶上來了。
 不曾。這箇火伴便是。夜來纔到你這月盡頭。
 到的北京麼。到不得。知他那話。怎敢說。天可
 憐。見身已安樂時也。到你是高麗人。却怎麼



二、「琉球館訳語」用字一覧

「琉球館訳語」用字の『広韻』『韻鏡』『中原音韻』における所属一覧表を示す。

「琉球館訳語」用字

一 『広韻』・『韻鏡』・『中原音韻』所属一覧表一

(1) 広韻

①『校正宋本広韻』（重修者陳彭年等、校正者芸文印書館、中華民國六十五年四月校正五版）による。

②韻目と半切を示す。

(2) 韻鏡

①『音柱 韻鏡校本』（藤堂明保・小林博共著 木耳社 1971年）による。

②所属箇所を略式表記で示す。例えば、「外^{十三}開_三喉^全平_清一」は、「外転第十三開 喉音 全清 平声 一等韻」のことである。「三十九」などは「三九」と表記する。

(3) 中原音韻

①『中原音韻の研究 校本編』（服部四郎・藤堂明保著 江南書院 1958年）による。

②所属箇所を略式表記で示す。例えば、「車遮入作上」は「車遮韻入声作上声」。「真文平陽」は「真文韻平声陽」のこと。

③『中原音韻の研究 校本編』による 通し 番号を（末尾に）付す。

※ 用字に 通し 番号を 付す。重出のものについては 先行例参照。

（例）「13鳥→10」……「鳥」は「10」に既出。

※  は、該当字が見当たらないことを示す。

※ 「琉球館訳語」は、ロンドン本による。

歴史 仮名	用字 通番 し号	広韻		韻鏡	中原音韻	通し 番号
		韻目	反切			
あ	1 垂	禡	衣嫁	外二九開喉全清去二	家麻去	1213
	2 阿	歌	烏何	内二七開喉全清平一	歌戈平陰	1074
	3 哀	哈	烏開	外十三開喉全清平一	皆來平陰	501
	4 嗑	盍	胡臘 古盍		歌戈去	1148
	5 安	寒	烏寒	外三三開喉全清平一	寒山平陰	707
	6 昂	唐	五剛 魚兩		江陽平陽	105
あふ	7 昂	→ 6				
い	8 以	止	羊巳	内八開喉次清上四	齊微上	271
	9 亦	昔	羊益			
う	10 烏	模	哀都	内十三喉全清平一	魚模平陰	70 372
	11 鳴				魚模平陰	70 372
え	12 葉	葉	與涉 式涉	外四十喉次清入四	東遮入 作去	1287
お	13 烏	→ 10				
	14 倭	支 戈	於為 鳥禾	内二八合喉全清平一	歌戈平陰	1075

15 惡	模	哀都	(音)烏各 烏各故	内三開喉全清入一	蕭豪入 作去	1063
	暮	烏路				
	鐸	烏各				
16 翁	東	烏紅	内一喉全清平一	東鍾平陰	17	
17 溥	桓	度官		桓欵平陽	794	
おん	18 温	魂	烏渾	内十八合喉全清平一	真文平陰	606
か	19 个	箇	古賀		歌戈去	1141
	20 各	鐸	古落	内三開牙全清入一	蕭豪入 作上	1019
21 嗑	→ 4					
22 加	麻	古牙			家麻平陰	1157
23 角	屋	盧谷	古岳 古孝		蕭豪入 作上	1005
	覺	古岳				
24 高	豪	古勞	外三五牙全清平一	蕭豪平陰	917	
25 干	寒	古寒	外三三開牙全清平一	寒山平陰	706	
26 看	寒	苦寒	外三三開牙次清平一	寒山去	773	

27 那	歌	諾何	内二七開舌全清平一	歌戈平陽 家麻去	1083 1140 1219	
	箇	奴箇 奴帶 奴哥				
かい	28 盍	盍	胡臘	外四十喉濁入一	歌戈入 作平	1091
	29 開	哈	苦哀	外十三開牙次清平一	皆來平陰	507
かう	30 稿	皓	古老 苦到			
	31 盍	→ 28				
32 凱	海	苦亥		皆來上	536	
かふ	33 个	→ 19				
かん	34 官	桓	古九	外二四合牙全清平一	桓欵平陰	779
が	35 加	→ 22				
	36 嗑	→ 4				
がん	37 暗	勘	烏紺	外三元喉全清去一	監咸去	1577
き	38 乞	迄	去迄	内十九開牙次清入三	齊微入 作上	312
	39 及	緝	其立	内三八牙全濁入三	齊微入 作平陽	263

40 急	緝	居立	内三八牙全清入三	齊微入 作上	301	
	屑	古屑	外三三牙全清入四	車遮入 作上		
	隱	其謹 其靳 巨靳 巨隱	内十九開牙全濁上三	真文去		679
きよ	43 喬	宵	舉喬 巨嬌	外二五牙全濁平三	蕭豪平陽	951
きん	44 巾	真	居銀	外十七開牙全清平三	真文平陰	611
	45 斤	欣	舉欣 居勤	内十九開牙全清平三	真文平陰	611
ぎ	46 乞	→ 38				
	47 及	→ 39				
く	48 古	姥	公戸	内十二牙全清上一	魚模上	422
	49 姑	模	古胡		魚模平陰	369
	50 孤	模	古胡	内十二牙全清平一	魚模平陰	369
	51 刻	德	苦得	内四開牙次清入一		
	52 公	東	古紅	内一牙全清平一	東鍾平陰	14
(ケ)く	53 約	笑	於笑 於招		蕭豪入 作去 歌戈入 作去	1059 169

		於略 於笑	略 笑	內三開喉全清入三		
くわう	54 晃	湯	古	廣	內三合喉濁上一	江陽去 169
	55 嗜	→ 4				
く	56 姑	→ 49				
くわ	57 哇	佳 麻	於 鳥	佳 瓜		家麻平陰 1159
け	58 个	→ 19				
	59 及	→ 39				
	60 深	屑	古	屑		車遮入 ^{作上} 1262
けふ	61 交	肴	古	肴	外三五牙全清平二	蕭豪平陰 914
けん	62 見	霰	胡	電	外三三開牙全清去四	先天去 888
			胡	甸	外三三開喉濁去四	
げ	63 乞	→ 38				
	64 結	→ 41				
こ	65 个	→ 19				
	66 姑	→ 49				
	67 烏	→ 10				
	68 穀	覺	苦	角		

	69 孔	董	康	董	內一牙次清上一	東鍾上 38
こほ	70 科	戈	苦	禾	內二合牙次清平一	歌戈平陰 1068
			苦	臥		
			過	苦	臥	
ご	71 烏	→ 10				
	72 惡	→ 15				
さ	73 撒	早	蘇	早	外三三開齒清去一	寒山上 736
			蘇	汗	①	寒山去 776
		翰	蘇	盱		
			蘇	早		
	74 三	談	蘇	甘	外四十四齒清平一	監咸平陰 1530
		闕	蘇	暫	外四十四齒清去一	監咸去 1578
			蘇	甘		
さい	75 戈	哈	昨	哉		皆來平陽 522
	76 菜	代	倉	代	外十三開齒次清去一	皆來去 571
さう	77 唆	戈	蘇	禾		歌戈平陰 1071
さん	78 衫	銜	所	銜	外四十四齒清平二	監咸平陰 1532
	79 撒	→ 73				
ざ	80 撒	→ 73				
ざう	81 槽	豪	作	曹	外三五齒全清平一	蕭豪平陰 920

し	82 乞	→ 38				
	83 少	小	書	沼	外三五齒清上三	蕭豪上 990
			式	照		
		笑	失	照	外三五齒清去三	蕭豪去 1033
			失	沼		
	84 失	質	式	質	外十七開齒清入三	齊微入 ^{作上} 303
	85 世	祭	舒	制	外十三開齒清去三	齊微去 341
	86 石	昔	常	隻	外三五開齒濁入三	齊微入作平陽 258
	87 食	志	羊	吏		支思去 202
		職	乘	力	內四開齒全濁入三	齊微入作平陽 258
	88 使	止	踈	士		支思上 195
		志	踈	吏		支思去 201
	89 是	紙	承	紙		支思去 201
	90 思	之	息	茲	內八開齒清平四	支思平陰 186
			自	吏		支思去 202
			相	吏		
	91 時	之	市	之	內八開齒濁平三	支思平陽 190
	92 升	蒸	識	蒸	內四開齒清平三	庚青平陰 1311
	93 深	侵	式	針	內三三八齒清平三	侵尋平陰 1485
		沁	式	禁	內三八齒清去三	

				式今		
	94 只	支	章	移		
			之	爾		
		紙	諸	氏		齊微入 ^{作上} 298
しう	95 柔	尤	耳	由	內三七半齒次濁平三	尤候平陽 1419
しつ(り)	96 失	→ 84				
しゃ	97 舍	馬	書	治		車遮入 ^{作上} 1278
		禡	始	夜	外二九開齒清去三	車遮上 1255
	98 紗	麻	所	加		家麻平陰 1160
しやう	99 上	養	時	掌	內三三開齒濁上三	
			(簡)	尚		江陽去 153
		漾	時	亮		
	100 燒	宵	式	招	外三五齒清平三	蕭豪平陰 933
			式	照		
		笑	失	照		蕭豪去 1033
			失	沼		
			失	昭		
しゆ	101 怨	御	商	馨		魚模去 464
しよ	102 少	→ 83				
	103 書	魚	傷	魚	內十二齒清平三	魚模平陰 373

しん	104申	真	失入	外 ^{十七} 開齒清平三	真文平陰	586
	105臣	真	植鄰		真文平陽	631
じ	106子	止	即里	内 ^八 開齒 ^{全清} 上四	支思上	196
	107日	質	人質	外 ^{十七} 開 ^{半濁} 入三	齊微入 ^{作去}	351
	108失	→ 84				
	109周	尤	職流	内 ^{三七} 齒 ^{全清} 平三	尤侯平陰	1407
じう	110柔	→ 95				
じふ	111柔	→ 95				
	112就	宥	疾微	内 ^{三七} 齒 ^{全濁} 去四	尤侯去	1466
じやう	113遠	小	書詔 式照		蕭豪上	973
じやく	114少	→ 83				
じゆ	115角	→ 23				
じよう	116勅	德	盧則	内 ^{四三} 開 ^{半濁} 入一	齊微入 ^{作去}	356
十	117自	至	疾二	内 ^六 開齒 ^{全濁} 去四	支思去	204
	118舍	→ 97				
	119思	→ 90				
	120是	→ 89				
	121速	屋	桑谷	内 ^一 齒清入一	魚模入 ^{作上}	440
	122孫	魂	思渾	内 ^{十八} 合齒清平一	真文平陰	607

すご	123速	→ 121				
ず	124子	→ 106				
	125司	之	息茲		支思平陰	186
	126思	→ 90				
せう	127燒	→ 100				
せつ	128些	麻	写邪		車遮平陰	1237
		霽	蘇計		歌戈去	1143
せん	129先	先	蘇前	外 ^三 開齒清平四	先天平陰	820
			蘇前			
			蘇個			
ぜ	130森	侵	所今	内 ^{三八} 齒清平二	侵尋平陰	1487
	131支	支	章侈	内 ^四 開齒 ^{全清} 平三	支思平陰	182
	132集	緝	秦入	内 ^{三八} 齒 ^{全濁} 入四	齊微入作平陽	260
た	133熱	屋	殊六		尤侯入 ^{作平}	1430
					魚模入 ^{作平}	408
た	134大	泰	徒蓋	外 ^{十五} 開舌 ^{全濁} 去一	皆來去	563

		箇	唐佐		歌戈去	1133
		唐蓋				
	135達	曷	他達	外 ^三 開舌 ^{全濁} 入一	家麻入 ^{作平}	1178
		唐割				
	136塔	盍	吐盍		家麻入 ^{作上}	1196
(し)た	137者	馬	章也	外 ^{二九} 開齒 ^{全清} 上三	車遮上	1253
たあ	138大	→ 134				
たい	139大	→ 134				
たつ(つ)	140太	泰	他蓋	外 ^{十五} 開舌 ^{次清} 去一	皆來去	557
	141独	屋	徒谷	内 ^一 舌 ^{全濁} 入一	魚模入 ^{作平}	399
たつ(つ)	142掲	月	其謁			
		薛	渠列 亡列	外 ^三 開牙 ^{全清} 入三		
た(め)	143宅	陌	場伯	外 ^三 開舌 ^{全濁} 入二	皆來入 ^{作平}	526
たふ	144塔	→ 136				
だ	145達	→ 135				
だい	146大	→ 134				
	147代	代	徒耐	外 ^{十三} 開舌 ^{全濁} 去一	皆來去	563
だん	148旦	翰	得按	外 ^三 開舌 ^{全清} 去一	寒山去	753
ち	149之	之	止而		支思平陰	182

	150止	止	諸市	内 ^八 開齒 ^{全清} 上三	支思上	192
	151只	→ 94				
	152集	→ 132				
	153結	→ 41				
ちや	154扎	黠	側八		家麻入 ^{作上}	1198
	155着②	藥	直略	内 ^{十二} 舌 ^{全清} 去三	歌戈入 ^{作平}	1101
			張略	内 ^{十三} 舌 ^{全濁} 入三	蕭豪入 ^{作平}	966
156啞	→ 4					
ちやう	157胡	模	戸吳	内 ^{十二} 喉濁平一	魚模平陽	396
	158朝	宵	陟遙	外 ^五 舌 ^{全清} 平三	蕭豪平陰	922
直遙				蕭豪平陽	947	
ちよ	159着	→ 155				
ちん	160定	徑	徒徑	外 ^{三五} 開舌 ^{全濁} 去四	庚青去	1387
ち	161只	→ 94				
	162失	→ 84				
ちや	163扎	→ 154				
ちん	164定	→ 160				
つ	165子	→ 106				
	166多	歌	得何	内 ^{二七} 開舌 ^{全清} 平一	歌戈平陰	1079

167	秃	屋	他谷	内一	舌次清	入一	魚模入作上	457	
168	足	遇	子句 子侯 燭 即玉 将喻	内二	齒全清	入四	魚模入作上	455	
169	的	錫	都歷	外三	開舌次清	入四	齊微入作上	308	
170	祖	姥	則古	内十二	齒全清	上一	魚模上	417	
171	都	模	当孤	内十二	舌全清	平一	魚模平陰	379	
172	是	→ 89							
173	思	→ 90							
174	茲	之	疾之 子之	内八	開齒全清	平四	支思平陽 支思平陰	189 183	
つう	175	度	暮 鐸	徒故 徒落	/			魚模去 蕭豪入作平	470 959
	176	子	→ 106						
づ	177	多	→ 166						
	178	足	→ 168						
	179	葉	→ 12						
	180	帖	帖	他協	/			車遮入作上	1268
181	的	→ 169							

(き)て	182	的	→ 169							
(ち)て	183	只	→ 94							
(ひ)て	184	只	→ 94							
(り)て	185	只	→ 94							
てい	186	的	→ 169							
	187	得	德	多則	/			齊微入作上	309	
て(ん)	188	旬	戮	堂練				/		
で	189	帖	→ 180							
	190	的	→ 169							
で(り)	191	得	→ 187							
と	192	大	→ 134							
	193	它	歌	託何	/			歌戈平陰 (4)	1073	
	194	多	→ 166							
	195	吐	姥	暮	他魯 湯故	/			魚模上	419
									魚模去	482
	196	周	→ 109							
	197	独	→ 141							
	198	度	→ 175							
	199	都	→ 171							
	200	隨	支	許規	/					

		果	他果 徒果	内二	合舌全濁	上一	歌戈去	1133	
とほ	201	它	→ 193						
とを	202	吐	→ 195						
ど	203	多	→ 166						
	204	度	→ 175						
どう	205	度	→ 175						
な	206	乃	海	奴亥	外十三	開舌次濁	上一	皆来上	533
	207	那	歌 箇	諾何 奴箇 奴帶 奴哥	内十三	開舌全清	平一	歌戈平陽	1083
								歌戈去	1140
								家麻去	1219
	208	奴	模	乃都	内十二	舌次濁	平一	魚模平陽	386
209	南	覃	那含	外十三	舌次濁	平一	監咸平陽	1542	
ない	210	乃	→ 206						
	211	及	→ 39						
なん	212	南	→ 209						
に	213	尼	脂	女夷	内六	開舌次濁	平三	齊微平陽	236
	214	寧	青	奴丁	外三五	開舌次濁	平四	庚青平陽	1343
(二)ゆう	215	由	尤	以周	内三七	喉次清	平四	尤侯平陽	1416

ぬ	216	那	→ 207													
	217	奴	→ 208													
	218	都	→ 171													
ね	219	七	馬	彌也	外三九	開唇次濁	上四	車遮上 (増補項目 1259と1260の間)								
	220	尼	→ 213													
	221	聶	葉	尼輒	外三九	舌次濁	入三	車遮入作去	1285							
	222	眠	先	莫賢	外三三	唇次濁	平四	先天平陽	843							
ねん	223	年	先	奴顛	外三三	舌次濁	平四	先天平陽	859							
の	224	那	→ 207													
	225	奴	→ 208													
	226	農	冬	奴冬	内二	舌次濁	平一	東鍾平陽	25							
のふ	227	奴	→ 208													
は	228	扒	怪 黠 薛	博怪 博拔 方別	/											
								229	花	麻	呼瓜	外三三	合喉清	平二	家麻平陰	1168
								230	法	乏	方乏	内四三	唇全清	入三	家麻入作上	1201
	231	華	麻	化二 呼公 精 胡化	/			家麻平陽	1171							
									1218							

	232 哇	→ 57					
はい	233 害	泰	胡蓋	外十五	開喉濁去一	皆来去	562
	234 排	皆	步皆	外十三	開唇全濁平二	皆来平陽	515
はう	235 包	肴	布交	外三五	唇全濁平二	蕭豪平陰	915
	236 合	合	候間 (箇)間	外三九	喉濁入一	歌戈入作平	1091
	237 哇	→ 57					
はや	238 排	→ 234					
ば	239 八	黠	博拔	外三四	合唇全濁入二	家麻入作上	1209
	240 扒	→ 228					
	241 把	馬	博下	外二九	開唇全濁上二	家麻上	1191
	242 法	→ 230					
	243 班	刪	布還	外三四	合唇全濁平二	寒山平陰	712
ばう	244 包	→ 235					
	245 帽	号	莫報	外二五	唇次濁去一	蕭豪去	1046
ばん	246 半	換	博漫	外三四	合唇全濁去一	桓欵去	815
	247 攀	元	附袁	/			寒山平陽
ひ	248 必	質	卑吉	外十七	開唇全濁入四	齊微入作上	305
	249 非	微	甫微	内十合	唇全濁平三	齊微平陰	220
	250 分	文	府文	内二十	合唇全濁平三	真文平陰	583

		問	扶問	内二十	合唇全濁去三	真文去	678	
			方文					
	251 品	寢	丕飲	内三八	唇次濁上三	真文上	656	
	252 亦	→ 9						
	253 葉	→ 12						
ひやう	254 颯	宵	符霄	/			蕭豪平陽	956
			撫招	/			蕭豪平陰	924
びん	255 兵	庚	甫明	外三三	開唇全濁平三	/		
び	256 必	→ 248						
	257 別	薛	皮列	外三三	開唇全濁入三	車遮入作平	1249	
			彼列	/			車遮入作上	1270
			方別					
びや	258 別	→ 257						
びやう	259 颯	→ 254						
びん	260 颯	→ 254						
ふ	261 不	尤	甫鳩	内三七	唇全濁平三	魚模入作上	442	
			甫九					
			有方久甫鳩					

		有	甫救					
			甫鳩					
			甫救					
			方久					
		物	分物					
			府鳩					
			方久					
	262 付	遇	方遇	内十二	唇全濁平三	魚模去	471	
	263 福	屋	方六	内一	唇全濁入三	魚模入作上	441	
	264 分	→ 250						
ふい	265 肺	麌	芳麌	外十六	合唇次濁入三	齊微去	319	
ふいん	266 卞	線	皮雙	外三三	開唇全濁去三	先天去	896	
ふ(ク)	267 付	→ 262						
ぶ	268 布	暮	博故	内十二	唇全濁去三	魚模去	479	
ぶ	269 不	→ 261						
	270 布	→ 268						
へ	271 七	→ 219						
	272 也	馬	羊者	/			車遮上	1252
	273 葉	→ 12						
べん	274 卞	→ 266						

べ	275 別	→ 257						
ほ	276 波	戈	博禾	内二八	合唇全濁平一	歌戈平陰	1077	
	277 活	末	古活	外二四	合喉濁入一	歌戈入作平	1094	
			乎括					
			戸括					
	278 賀	箇	胡箇	内二七	開喉濁去一	歌戈去	1131	
	279 亦	→ 9						
ほう	280 夫	虞	防無	/			魚模平陽	394
			府符	/			魚模平陰	376
ほつ	281 活	→ 277						
ほん	282 盆	魂	蒲奔	内十八	合唇全濁平一	真文平陽	630	
ぼ	283 普	姥	滂古	内十二	唇次濁上一	魚模上	426	
ま	284 馬	馬	莫下	外二九	開唇次濁上二	家麻上	1185	
	285 麻	麻	莫霞	/			家麻平陽	1170
	286 慢	諫	謨晏	外二四	合唇次濁去二	寒山去	763	
まう	287 網	養	文兩	/			江陽上	132
まへ	288 每	賄	武罪	/				
		隊	莫儂	/				
			武罪	/				
ま(ん)	289 麻	→ 285						

み	290 七	→ 219			
	291 米	齊 莫 礼	外 十三 開唇 次濁	上 四	齊 微 上 285
	292 毎	→ 288			
	293 眉	脂 武 悲	内 六 開唇 次濁	平 三	齊 微 平 陽 237
		※ 目 悲	新添類隔今更音和切		
	294 密	質 美 筆	外 十七 開唇 次濁	入 三	齊 微 入 作去 353
	295 墨	德 莫 北	内 四 開唇 次濁	入 一	齊 微 入 作去 353
	296 民	真 彌 鄰	外 十七 開唇 次濁	平 四	真 文 平 陽 621
みやう	297 苗	宵 武 護	外 三五 唇 次濁	平 三	蕭 豪 平 陽 942
む	298 木	屋 莫 卜	内 一 唇 次濁	入 一	魚 模 入 作去 490
	299 不	→ 261			
	300 蒙	東 莫 紅	内 一 唇 次濁	平 一	東 鍾 平 陽 32
め	301 七	→ 219			
	302 米	→ 291			
	303 毎	→ 288			
	304 密	→ 294			
	305 眠	→ 222			
めん	306 綿	仙 武 延	外 三 開唇 次濁	平 四	先 天 平 陽 843
も	307 木	→ 298			

	308 目	屋 莫 六	内 一 唇 次濁	入 三	魚 模 入 作去 490
	309 莫	鐸 恭 各	内 三 開唇 次濁	入 一	蕭 豪 入 作去 1061
	310 毛	豪 莫 袍	外 三五 唇 次濁	平 一	蕭 豪 平 陽 943
		号 莫 報			
	311 慢	→ 286			
もん	312 買	蟹 莫 蟹	外 十五 開唇 次濁	上 二	皆 來 上 542
	313 七	→ 219			
や	314 亜	→ 1			
	315 惡	→ 15			
	316 甲	狎 古 狎	外 四 牙 全清	入 二	家 麻 入 作上 1202
	317 洋	陽 似 羊			江 陽 平 陽 98
	318 揚	陽 與 章			江 陽 平 陽 98
やく	319 約	→ 53			
ゆ	320 由	→ 215			
	321 有	有 云 久	内 三七 喉 次濁	上 三	尤 侯 上 1431
	322 魚	魚 語 居	内 十二 牙 次濁	平 三	魚 模 平 陽 388
よ	323 由	→ 215			
	324 約	→ 53			
ら	325 老	皓 盧 皓	外 三五 半舌 次濁	上 一	蕭 豪 上 979
	326 寮	佳 士 佳			

		土 取			家 麻 平 陰 1161
		麻 鈕 加			
	327 喇	曷 盧 達	外 二三 開唇 次濁	入 一	
	328 藍	談 魯 甘			監 咸 平 陽 1544
らう	329 老	→ 325			
らつ	330 喇	→ 327			
らひ	331 賴	泰 落 蓋			皆 來 去 569
	332 力	職 林 直			内 四 開唇 次濁
	333 立	緝 力 入	内 三八 半舌 次濁	入 三	齊 微 入 作去 354
	334 尼	→ 213			
りう	335 隆	東 力 中	内 一 半舌 次濁	平 三	東 鍾 平 陽 22
りん	336 林	侵 力 尋	内 三八 半舌 次濁	平 三	侵 尋 平 陽 1494
	337 舜	震 良 刃			
る	338 奴	→ 208			
	339 罗	歌 魯 何	内 二七 開唇 次濁	平 一	歌 戈 平 陽 1081
	340 禄	屋 盧 谷	内 一 半舌 次濁	入 一	魚 模 入 作去 489
れ	341 立	→ 333			
れい	342 立	→ 333			
ろ	343 罗	→ 339			
	344 炉	模 落 胡			魚 模 平 陽 387

	345 禄	→ 340			
	346 魯	姥 郎 古	内 十二 半舌 次濁	上 一	魚 模 上 420
わ	347 外	泰 五 会	外 十六 合 牙 次濁	去 一	皆 來 去 565
	348 吐	→ 195			
	349 哇	→ 57			
わう	350 敖	豪 五 勞	外 三五 牙 次濁	平 一	蕭 豪 平 陽 950
	351 窩			歌 戈 平 陰 1075	
わん	352 昂			→ 6	
ゐ	353 亦	→ 9			
	354 由	→ 215			
を	355 葉	→ 12			
	356 外	→ 347			
	357 倭	→ 14			
	358 烏	→ 10			
	359 窩	→ 351			
	360 翁	→ 16			

(延べ字数=360) (異なり字数=213)

- ①「散」による。 ②「著」による。 ③「箸」による。
- ④「佗」による。 ⑤「刺」による。

三、朝鮮・中国資料対照琉球語彙

本文、見出し語、配列の仕方などは、以下のようである。

① 本文は、「語音翻訳」は『海東諸国紀』（申叔舟著、国書刊行会、昭和50年10月20日発行）により、「琉球館訳語」は『琉球館訳語本文と索引』（大友信一・木村晟、小林印刷出版、昭和53年3月20日発行）により、「使琉球録」「音韻字海」「中山伝信録」「琉球入学見聞録」は『纂輯 日本譯語』（京都大学文学部国語学国文学研究室編、京都大学国文学会、昭和43年6月1日発行）によった。他に、次の資料も参照した。

『南島方言資料』（東条操編、刀江書院、昭和44年1月30日発行）

『「琉球館譯語」・「使琉球録」「音韻字海」・「琉球入学見聞録」・「中山傳信録」・寄語対照手冊』（坂井健一編、近世中国における日本語研究会、昭和50年3月31日発行）

『徐葆光 中山傳信録 上・下』（沖縄県立図書館、昭和51年3月31日・昭和52年3月17日発行）

なお、各資料の本文に通し番号を付した。

② 見出し語は、ひらがなとし、「歴史的かなづかい」による（五十音順に配列する）。漢字の当てられるものはそのようにする。但し、送りがなは省く。（「形態素」まで分析し、見出し語とする。しかし、「ひとり」「ふたり」

などは、「ひと」・「ふた」・「り」などとはしない。）

③ 「助動詞」「助詞」のみについて、＜助動＞＜助＞のように、品詞名を付す。判別の便宜のために「意味」（文法的）も示す。例えば次のとおり。

た＜助動＞＜過去＞

の＜格助＞＜主格＞

④ 資料は、略号とする。次のとおり。

翻 語音翻訳

館 琉球館訳語

使 使琉球録

字 音韻字海

信 中山伝信録

見 琉球入学見聞録

配列も、この順序である。ある項目にある資料名が無いのは、その見出しに相当するものがその資料に見当たらないことを示している。

⑤ 資料の旧漢字は、原則として、新漢字に改めた。また、異体字も、馴染みのある漢字に変えたものがある。例えば、「雞」は「鷄」に「煞」は「殺」にした。

⑥ 「語音翻訳」に関しては、見出し相当部分についてハングルとその転写とを併記した。朝鮮語の影響で誤ったと思われる箇所、及び翻刻上の誤りと考えられる箇所には、正しいと推定される形を＜ ＞で、転写字のところで示す（転写では、音節の切れ目に「・」を入れる）

⑦ 動詞の、所謂「連用名詞形」は、動詞の「終止形」(言い切りの形)による見出しのところに収める。例えば、「うりかひ(売買)」について、「うり」は「うる(売)」に、「かひ」は「かふ(買)」に収める。(この例の場合は、「うりかひ」も見出しとしてある。)

⑧ 動詞の「～て」の形のものは、「て」を含めた形で収める。例えば、「みて(見)」・「ききて(聞)」は、このまま収録し、「み」・「きき」のようにはしない。

⑨ 見出し語と音韻的に対応しない(と考えられる)ものには、その部分に下線 \sim を施しその旨を示す。

⑩ □は、原本の字が印刷不鮮明で、判読できない(空白)、あるいは、判読しにくい(推定字である)ことを示す。

⑪ 用例は、原則として、資料本文の順序に従って配列した。

⑫ 「？」は、疑問を残すという印である。

以上を例によって示すと、次のようである。

はる(晴)……ア

翻 파리데 pha·ri·tjoi 33 天晴了
 탄—

見 花力的 21 天晴 廳—

藥 78 陽 —

∴ ∴ ∴ ∴ ∴

イ ウ エ オ カ

はは(母)

見 那 \square 那 \square 奴 \square 呀 139 母 —
 キ

ア…見出し語。

イ…資料略号。

ウ(音訳)用例。

(pha·ri·tjoi は、ハンゲル파리데の
 転写。)(「花力的」は「ての形」)

エ…その資料の本文の通し番号。

オ…その資料の中国語。

カ…用例の所在箇所。「—」は、ウと同じ意。

(オ、カに関しては、原則として全部を載せるが、長すぎる場合は、該当部分だけに留めることがある。そのとき、「～」で省略のあることを示す。)

キ…見出し語と音韻的に対応しない印の下線 \sim 。

ク… \square \square \square の部分、印刷不鮮明である。

あ

あか(赤・紅)

館 嗑加 464 銅 —加尼

使 嗑加 331 銅 —加尼

信 阿格 353 痛 —着

見 阿噶 364 銅 —喀泥

あかがね(銅)

館 嗑加加尼 464 銅 —

使 嗑加加尼 331 銅 —

字 押里 \sim 噶尼 331 銅 —

信 阿里 \sim 喀膩 499 銅—

見 阿噶 \sim 喀泥 364 銅 —

あかし(赤・紅)

翻 아개사'a·kai <ka>·sa 26 面紅
 스라루—

- 信 阿夾殺 576 紅 —
- 見 阿喀殺 376 紅 —
- あかち (赤血)
- 信 阿格着 353 痛 —
- あかつき (曉)
- 翻 이우카미 i·'u·ka·mi 42 天亮
了 —
- 信 阿曠子吉 69 朝 —
- あがる (上)
- 翻 양간데 'ag·kat·tjoi 39 日頭上
了 턴다—
- あき (秋)
- 翻 아기 'a·ki 54 秋 —
- 館 阿及 67 秋 —
- 使 阿及 60 秋 —
- 字 阿及 60 秋 —
- 信 阿紀 59 秋 —
- 見 阿吉 73 秋 —
- あきなひ (商)
- 使 垂及耐 403 買壳 —
- あく (開)
- 館 阿个罗 201 開門 勒那—
- あく (上)
- 翻 아긔 'a·kui 17 請一鐘酒
사긔부데즈—라
- 앙긔리 'ag·kui·ri 78 喫飯 —
- 館 阿結的 358 進表 漂那—
359 進本 盆那—
- 昂乞立 440 喫茶 一扎
441 喫飯 一翁班尼
442 喫肉 一失失
443 喫水 一民足
445 酒飯喫 撒及翁班尼
—
446 吃 —
- 447 明日早起喫筵宴 阿
者速多密的一扎半失
- 使 阿傑約 252 進表 漂那—
阿傑的 253 進本 盆那—
昂乞利 312 喫茶 一扎
313 喫飯 一翁班尼
314 喫肉 一失失
- 字 安急弟 311 喫茶 札—
312 喫飯 汪班尼—
313 喫肉 失失—
- 信 阿傑的 進表 漂那—
- あげもの
- 翻 아긔모로 'a·kui·mo·ro <no> 13
一路上喫食如何 우라밀지밀지—
랄도
- あこ (や) がひ (阿古屋貝)
- 信 ?阿古曠 492 螺甸 —
- あさ (朝)
- 見 阿撒 81 朝 —
203 早起 一烏機
- あさおき (朝起)
- 見 阿撒烏機 203 早起 —
- あさし (淺)
- 信 阿殺之 553 淺 —
- あさて (明後日)
- 翻 아살디 'a·sat·ti 59 後日 —
- 信 阿殺的 22 後日 —
- 見 阿撒的 23 後日 —
24 大後日 欲哈—
- あざな (字)
- 信 阿三那 268 字 —
- あし (足)
- 翻 피상 phi·sjag 120 靴 —
피샤 phi·sja 149 足 —
- 館 垂失 456 脚 —

- 使 ^(マ) 惡失 323 脚 —
- 字 匹奢 322 脚 —
- 信 燦 420 脚 —
- 見 虛殺 305 脚 —
- あしがは (足皮)
- 翻 피상가 phi · sjag · ka 120 靴 —
- あした (明日)
- 翻 아자 'a · cja 58 明日 —
- 館 阿者 21 明日 —
- 86 明日 —
- 381 明日早起 —速多密的
- 447 明日早起喫筵宴 —速多密的昂乞立扎半失
- 595 明日起身 —速多密的揭只
- 使 阿者 21 明日 —
- 407 明早起身 —速多密的榻知
- 字 阿者 21 明日 —
- 391 明早起身 —速畚拖枚榻支
- 信 阿着 18 明日 —
- 602 明日起身 —速囹拖枚榻支
- 見 阿雜 18 明日 —
- あしだ (足駄)
- 信 阿書着 212 木套 —
- 見 阿失雜 232 木套 —
- あそぶ (遊)
- 翻 아슴비 'a · sʌm · pi 請裏頭耍了
우지바라왜쳐 —
- 館 烏遜必 344 鞠躬 —
- 使 烏遜皮 240 鞠躬 —
- あぢ (按司)
- 館 安周 303 大唐大人 大刀那—
- 信 阿几 292 大老爺 —噶那什
- あつし (暑·熱)
- 翻 악사 'ak · sa 49 天熱 —
- 館 嗑子撒 70 熱 —
- 使 嗑子撒 63 熱 —
- 字 嗑子撒 63 熱 —
- 信 阿子殺 62 熱 —
- 見 阿子撒 76 熱 —
- あに (兄) (年上)
- 翻 신자 sin · ca 5 你哥哥有麼
우라 — 아리
- 館 先扎 305 兄 —
- 使 先扎 216 兄 —
- 字 先牝 209 兄 —
- 信 洗之 307 兄 —
- 322 姊 —烏乃
- 328 伯 —渾局
- 見 西察 140 兄 —
- 154 姊 姑—烏乃
- 洗察 156 伯 —渾局
- あね (姉)
- 翻 아리 'a · rʌi <nʌi> 6 你姐有麼
우라 — 아리
- 信 洗之烏乃 322 姊 —
- 見 姑西察烏乃 154 姊 —
- あは (粟)
- 翻 아와 'a · 'oa 81 小米飯 —로오반리
- あはし (淡)
- 翻 아바사 'a · pa · sja 104 淡 —
- 館 ^(マ) 惡肺 487 惡味 —
- 信 阿法殺 574 淡的 —
- 見 阿花殺 374 淡 —
- あびがめ (浴瓶)
- 見 阿美搭阿美 247 湯盆 —

- あびぎぬ (浴衣)
 信 阿米琴 449 汗衫 —
 あびをけ (浴桶)
 見 阿美塔阿谷 224 浴桶 —
 あぶ (浴)
 信 阿美的 342 洗浴 —
 阿米 449 汗衫 — 琴
 見 阿美的 177 洗浴 —
 阿美 224 浴桶 — 塔阿谷
 247 湯盆 — 搭阿美
 あふぎ (扇)
 館 昂及 242 倭扇 —
 483 倭扇 —
 使 昂季 189 倭扇 —
 字 枉其 186 倭扇 —
 信 丫吉 273 扇子 —
 枉其 277 倭扇 —
 見 窩吉 289 扇子 —
 あぶら (油)
 翻 아부라 'a·pu·ra 89 油 —
 信 阿叻打 466 油 —
 見 庵答 339 油 —
 あへん (阿片)
 館 阿卞 501 阿芙蓉 —
 あま (彼所)
 館 亞馬 299 日本人 — 奴必周
 使 亞馬 213 日本人 — 奴必周
 あまし (什)
 翻 아미사 'a·mi <ma> sa 101 甜
 信 阿媽殺 570 甜的 —
 見 阿媽殺 371 甜 —
 あめ (雨)
 翻 아미 'a·muri 34 下雨 — 폴데
 35 雨晴了 — 파린데
 館 嗑乜 7 雨 —
 19 下雨 — 福祿
 使 嗑乜 7 雨 —
 19 下雨 — 福祿
 字 嗑乜 7 雨 —
 19 下雨 — 福祿
 信 阿梅 6 雨 —
 12 下雨 — 福的
 見 阿霉 6 雨 —
 阿霉 12 下雨 — 圖的
 あらふ (洗)
 信 阿采 343 上人洗面 烏木的一
 阿來 344 下人洗面 思答一來
 阿約的 354 洗東西 —
 見 阿來 178 上人洗面 烏木的一
 179 下人洗面 此辣—
 あられ (霰)
 見 阿那礼 17 雹 —
 あらわす (現) ?
 館 阿老思 353 引領 —
 あり (有·在)
 翻 아리 'a·ri 4 你的父親有麼
 우라야샤 —
 5 你哥哥有麼
 우라신자 —
 6 你姐姐有麼
 우라아리 —
 7 妹子有麼 오라리 —
 아랴 'a·rja 16 無甚麼好下飯 사카나무 —
 비란루모
 館 阿立 331 有 —
 571 有 —
 591 有無 — 及^(??)
 使 阿力 230 有 —

- 404 有無 一乃
- 字 阿力 229 有 一
- 信 阿美 583 有 一
- ありく (歩)
- 字 亜立其 224 行 一
- 信 阿之 356 行路 一
- 亜立其 364 行 一
- 見 阿之 188 行路 一
- あれ (彼)
- 翻 아리 'a·rui 21 不要饋他喫 一
로마스라
- あをし (青・緑)
- 翻 아오사 'a'·o·sa 155 緑 一
- 信 啞殺 577 青 一
- 見 窩殺 377 青 一
- ㊦
- い (終助) (疑問) (「み」も含む)
- 字 夷 379 実話 馬訟沽一
- 信 迷 41 遠 土殺一
- 42 近 土古尼一
- 美 583 有 阿一
- 夷 594 実話 馬訟沽一
- いか (如何)
- 翻 이가 'i·kja 3 你的姓甚麼
우리나와——이우가
- いき (息)
- 館 亦及 80 氣 一
- 使 亦急 73 氣 一
- 字 亦急 73 氣 一
- 信 亦吉 72 氣 一
- いく (生)
- 見 亦吉之 191 生 一
- いくら (幾)
- 館 亦加撒 375 多少 一
- 使 亦如撒 268 多少 一
- 字 亦加撒 264 多少 一
- 信 亦加殺 407 多少 一
- いし (石)
- 館 亦石 34 石 一
- 42 磚 亜及一
- 264 玉帶 一乞各必
- 422 玉帶 一乞角必
- 469 玉 一
- 471 石 一
- 477 玉石 達馬一
- 使 依石 33 石 一
- 亦石 41 磚 牙及一
- 衣石 194 玉帶 一乞各必
- 336 玉 一
- 338 石 一
- 343 玉石 達馬 一
- 字 依石 33 石 一
- 336 玉 一
- 亦石 41 磚 牙及 一
- 衣食 189 玉帶 一乞各必
- 一実 338 石 一
- 一(マ) 343 玉石 撻馬一
- 信 一 是 34 石 一
- 一 什 39 磚 呀及一
- 衣石 278 玉帶 一乞各必
- 依石 503 玉 一
- 一石 505 石 一
- 509 玉石 撻馬一
- 一深 604 捉七子 一虐古
- 見 伊石 36 石 一
- 亦石 368 石 一
- いしなご (石子)
- 信 一深虐古 604 捉七子 一
- いしや (医者)
- 信 一着 327 医生 一

見 亦殺 164 医生 —
 いす (椅子)
 信 倭 203 椅子 —里那
 見 依 225 椅子 —
 いたし (痛)
 字 一借沙 377 痛 —
 いち (一)
 館 亦止 537 一錢 一買每
 使 亦止 368 壹錢 一買每
 字 一止 357 一錢 一買每
 信 一子 97 十一 之一泥子
 一(マ) 498 錢 一層
 534 一千 一貫
 一止 555 一錢 一買每
 見 亦之 109 十一 藤一泥止
 いちくわん (一貫)
 信 一貫 534 一千 —
 いちせん (一錢)
 信 一層 498 錢 —
 いちにち (一日)
 信 一子泥子 97 十一 之一
 見 亦之泥止 109 十一 藤一
 いちもんめ (一匁)
 館 亦止買每 537 一錢 —
 使 亦止買每 368 壹錢 —
 字 一止買每 357 一錢 —
 信 一止買每 555 一錢 —
 いつ (何時)
 翻 일즈 'it·ca 8 你幾時離了本国
 우라——시마타저기
 10 你幾時到這裏
 우라——고마싱가
 いつか (五日)
 信 一子介 91 初五 之搭之一
 見 一之憂 103 初五 之搭之一

いつつ (五)
 館 亦子子 511 五 —
 亦^(マ)亦子 521 十五 吐—
 531 二十五 達子吐—
 使 亦子^(マ)亦子 352 伍 —
 亦子子 362 拾伍 吐—
 字 一子孜 351 五 —
 信 一子子 517 五 —
 いと (糸)
 字 西花 278 糸 —
 いとま (暇)
 字 畏之謾 251 辭朝 一婦
 信 畏之謾 392 辭朝 一婦
 いとまごひ (暇癢)
 字 畏之謾婦 251 辭朝 —
 信 畏之謾婦 392 辭朝 —
 いぬ (犬)
 翻 이노 'i·no 162 狗 —
 館 亦奴 152 狗 —
 使 亦奴 124 狗 —
 字 亦奴 124 狗 —
 信 因 166 狗 —
 いぬ (寢)
 信 殷帝 350 睡 —
 見 寧帝 185 睡 —
 いふ (言)
 翻 이우 'i·u 3 你的姓甚麼
 우라나와이가——가
 いへ (家)
 館 亦葉 190 房 —
 203 草房 姑撤—
 204 瓦房 嗑哇喇—
 使 亦兼^(マ) 147 房 —
 亦葉 156 瓦房 嗑哇喇—
 字 亦葉 146 房 —

亦葉牙 153 瓦房 嗑喇—

いも (芋)

信 母 483 番薯 番子—

見 母 355 番薯 番子—

いもひと (妹)

信 屋多烏乃 323 妹 —

見 屋毒欣乃 155 妹 —

いる (入)

翻 앗제 'is·cjoi 40 日頭落了
턴다 야스며 —

信 礼耶 210 刀鞘 糸古—

里 242 箱子 科阿—阿哥

見 以礼 258 香炉 柯—

292 香盒 柯—

利 263 水注 梅子—

一利 334 綿衣 哇答—衾

いろ (色)

信 羅 575 黄 綺—

見 魯 375 黄 奇—

いを (魚)

翻 이우 'i·'u 85 魚 —

館 亦窩 156 魚 —

176 釣魚 —独立的

必撒莫只 439 鮮魚 —

使 亦窩 128 魚 —

必沙莫知 311 鮮魚 —

字 游 128 魚 —

309 魚 —

信 一由 489 魚 —

見 亦由 358 魚 —

いん (陰)

見 因 77 陰 —

㊦

う (得)

信 一得 403 拿来 —姑

うさぎ (兔)

翻 우상기 'u·sag·ki 88 兔肉 —
시시

館 烏撒及 144 兔 —

使 吾撒急 116 兔 —

字 吾撒急 116 兔 —

信 兀殺吉 160 兔 —

うし (牛)

翻 우시 'u·si 158 牛 —

館 烏失 143 牛 —

171 牛角 —祖奴

184 犀牛角 —祖奴

245 鉄猫 —加尼

482 犀角 —祖奴

使 吾失 115 牛 —

142 牛角 —祖奴

345 犀角 —祖奴

字 吾失 115 牛 —

141 牛角 —祖奴

信 兀失 159 牛 —

⁽⁷⁷⁾
元 失 182 牛角 —左奴

吾失 511 犀角 —祖奴

うしかね (牛金?)

館 烏失加尼 245 鉄猫 —

うしつの (牛角)

館 烏失祖奴 171 牛角 —

184 犀牛角 —

482 犀角 —

使 吾失祖奴 142 牛角 —

345 犀角 —

字 吾失祖奴 141 牛角 —

信 ⁽⁷⁷⁾
元 失左奴 182 牛角 —

吾失祖奴 511 犀角 —

うしろ (後)

館 烏失祿 51 後 —

- 566 後 —
- 使 吾失祿 49 後 —
- 字 吾失祿 49 後 —
- 信 嚙什的 46 後 —
- 見 窟使 48 後 —
- うた (歌)
- 信 屋韃 606 唱歌 —
- 見 □達 389 歌 —
- うち (中・内)
- 館 烏只 208 朝裏去 — 八藍亦及
- 信 屋之 549 中 —
- うちばら (内原)
- 翻 우지바라 'u · ci · pa · ra 24 請裏
頭喫了 — 왜처아잡비
- 館 烏只八藍 208 朝裏去 — 亦及
- うちに
- 館 烏定尼 136 埃兒茶 —
505 孩兒茶 —
- うつ (打)
- 信 烏兄⁽⁷⁷⁾ 346 打 —
烏韃 605 下碁 古 —
- うへ (上)
- 館 烏乜 54 上 —
209 上御道 — 密集
385 上御路 — 密集
559 上 —
- 使 吾乜 52 上 —
惡牙 276 上御路 — 蜜即約里
- 字 吾乜 52 上 —
惡牙 271 上御路 — 蜜即約里
- 信 威 49 上 —
550 上 —
惡牙 372 上御路 — 蜜即約里
- うへみち (上道)
- 館 烏乜密集 209 上御道 —
- 385 上御路 —
- 使 惡牙蜜即 276 上御路 — 約里
- 字 惡牙密即 271 上御路 — 約里
- 信 惡牙密即 372 上御路 — 約里
- うま (馬)
- 翻 우마 'u · ma 159 馬 —
- 館 烏馬 141 馬 —
246 馬缸 — 奴福尼
270 鞍子 — 奴姑籟
271 鞭子 — 奴不只
472 瑪瑙 — 那達馬
502 瑪瑙 — 那達⁽⁷⁷⁾尼
- 使 吾馬 113 馬 —
339 瑪瑙 — 那達馬
- 字 吾馬 113 馬 —
340 瑪瑙 — 那達馬
- 信 嚙馬 157 馬 —
吾馬 506 瑪瑙 — 那達馬
- うみ (海)
- 館 烏乜 29 海 —
63 海洋 — 民足
177 海虵 — 孫必
499 海虵 — 孫必
- 使 吾乜 28 海 —
- 字 吾乜 28 海 —
- 信 烏米 28 海 —
- 見 勿蜜 31 海 —
- うみすび (海貝) ?
- 館 烏乜孫必 177 海虵 —
499 海虵 —
- うめ (梅)
- 館 烏乜 109 果 —
112 梅 —
432 菓 —
- 使 吾乜 92 果 —

- 101 梅 —
307 菓 —
- 字 吾乜 92 果 —
- 101 梅 —
信 吾乜 122 果 —
唔梅 130 梅花 —
133 木頭 梅—拿乃
梅 133 木頭 —唔梅拿乃
- うら (汝)
翻 우라 'u·ra 1 你是那裏的人 —
즈마피츄
3 你的姓甚麼 —
나와이가이우가
4 你的父親有麼 —
아샤아리
5 你哥哥有麼 —
신자아리
6 你姐姐有麼 —
아리아리
8 你幾時離了本國
— 일즈시마타제기
10 你幾時到這裏 —
일즈고마싱가
12 你初到江口是好麼
— 푸라모도징가
13 一路上喫食如何
— 밀지밀지아리모로랄도
- 館 烏喇 327 你 —哇
569 你 —哇
使 吾喇 228 你 —哇
字 吾喇 227 你 —
信 呀 309 你 —
見 呀 149 你 —
- うら (裏)
館 烏喇 415 表裏 —惡莫的
우리 (瓜)
館 烏立 118 瓜 —
使 吾利 99 瓜 —
字 吾利 99 瓜 —
信 喂 476 菜瓜 —
う리카히 (壳買)
館 烏立高葉 366 買壳 —
590 買壳 —
うる (壳)
館 烏立 337 ^(??)買 —
366 買壳 —高葉
553 ^(??)買 —
590 買壳 —高葉
使 烏利 234 ^(??)買 —
吾利 384 ^(??)買 —
字 屋的 233 壳 —
信 屋的 368 壳 —
見 屋的 197 壳 —
うるふつき (閏月)
館 烏奴烏多及 101 閏月 —
102 今年閏月 个多
失—
103 今年閏三月 个
多失—撒哇的
104 明年閏十月 苗
年—柔哇的
- ㊦
えき (駅)
館 葉及 200 館駅 —
えだ (枝)
信 又打 120 枝 —
えび (蝦)
信 一必 490 蝦 —

- 見 色 359 蝦 —
えり (襟)
- 信 員領 461 門領 —
- ㊦
- お (御)
- 翻 오'오 79 做飯 —바리스레
80 大米飯 코메로—반리
81 小米飯 아와로—반리
- 館 烏 281 王子 敖那一哇
308 子 —哇
323 興 —達的唆亦
344 鞠躬 —孫必
- 倭 282 朝廷 —每奴
- 使 打 127 鶯 —荅嘴
吾 199 王子 敖那一哇
219 子 —哇
224 興 —達里咬亦
- 倭 200 朝廷 —每奴
- 字 倭 197 朝廷 —本奴
吾 246 賞賜 —一加每奴
烏 263 給賞 —圖圖谷古里
- 信 倭 285 朝廷 —每奴
397 勅書 —眉脚都司墨
畏 392 辭朝 —之謾婦
烏 405 給賞 —鶻沒谷古里
嘔 463 飯 —班
- 見 ?捫 234 床 —臧
- おいとまごひ (御暇請)
- 信 畏之謾婦 392 辭朝 —
- おきなは (沖繩)
- 館 倭及奴 298 琉球人 —必周
倭及那 312 琉球人国王 —敖那
313 琉球使臣 —使者
314 琉球大夫 —太福
315 琉球長使 —大思
- 316 琉球人伴 —必周
317 琉球都通事 —度日
318 琉球正使 —申思
319 琉球封国王 —敖那
- 使 倭急拿 212 琉球人 —必周
220 琉球国碇 —敖那
- 字 倭急拿 214 琉球人 —必周
217 琉球国王 —敖那
- 信 倭急拿 337 琉球人 —必周
340 琉球国王 —敖那
- 見 屋其惹 65 琉球地 —
- おく (起)
- 館 烏乞立 345 底頭 —
383 且慢走 —乃
- 使 烏其利 241 底頭 —
274 且慢走 —耐
- 字 屋起里 222 興 —
- 信 屋起堅 362 興 —
- 見 烏機的 186 起来 —
烏機 203 早起 阿撒—
- おく (置)
- 館 烏着刻 371 放下 —
- 使 吾着刻 264 放下 —
- おどの (御殿)
- 字 倭体 197 朝廷 —奴
- おとひと (弟) (年下)
- 館 非都只 306 弟 —
- 使 非都只 217 (マ) —
- 字 屋都 210 弟 —
- 信 屋多 306 弟 —
323 妹 —烏乃
329 叔 —渾局
- 見 屋毒 141 弟 —
155 妹 —烏乃
屋多 157 叔 —渾局

おなじ (同)

信 一奴 540 一樣 一摩奴

おはす (御座)

翻 왜처 'oi · chjo 24 請裏頭^(??)婁子
우지바라 一아솔비

館 外亦立 326 来 一

使 外亦立 227 来 一

おばに (御飯)

翻 오바리 'o · pa · ri <ni> 79 做飯
一스레

옴바리 'om · pa · ri <ni> 78 飯
一

오반리 'o · pan · ri <ni> 80 大米
飯 코메로 一

81 小米飯

아와로 一

館 翁班尼 430 飯 一

438 酒飯 撒及一

441 喫飯 昂乞立一

445 酒飯喫 撒及一昂乞
立

使 翁班尼 305 飯 一

310 酒飯 撒急一

313 喫飯 昂乞利一

字 汪班尼 303 飯 一

312 喫飯 一安急弟

汪班泥 310 酒飯 撒其一

信 咭班 463 飯 一

見 翁班 254 飯碗 一麼喀倚

336 飯 一

おばにまかり (飯碗)

見 翁班麼喀倚 254 飯碗 一

おび (帶)

館 乞角必 228 帶 一

263 金帶 孔加尼一

265 銀帶 南者一

266 花帶 法那一

267 角帶 祖奴一

401 帶 一

418 龜全帶 噓乜一

422 玉帶 亦石一

423 銀帶 南者一

424 金帶 孔加尼一

乞各必 264 玉帶 亦石一

417 玳瑁帶 噓乜奴个一

419 鶴頂帶 它立那姑只
一

426 花帶 法那一

使 文必 175 帶 一

^(??)丈必 289 帶 一

乞各必 194 玉帶 衣石一

字 文帶 172 帶 一

乞各必 189 玉帶 衣食一

信 文筆 265 帶 一

烏必 436 帶 一

乞各必 278 玉帶 衣石一

見 烏比 281 帶 一

293 玉帶 塔麻一

烏必 316 帶 一

おほ (大)

翻 오부 'o · pu 68 大路 一미지

おほき (大)

信 五晦殺 301 大 一

おほし (多)

翻 오부시 'o · pu · si 多酒 一

信 屋火殺 543 多 一

見 烏灰撒 171 大 一

おほみち (大道)

翻 오부미지 'o · pu · mi · ci 68 大路

-
- おみこと (御御言)
- 字 倭眉脚都 256 勅書 一司墨
- 信 倭眉脚都 397 勅書 一司墨
- おもし (重)
- 信 嘔卜殺 542 重 一
- おもて (表)
- 館 惡莫的 415 表裏 烏喇一
- おもて (面) (顔)
- 信 烏木的 343 上人洗面 一阿采
- 見 烏木的 178 上人洗面 一阿来
- おもふ (思)
- 字 □勃人 196 王子 倭奴一誇
- 信 鬱勃人 284 王子 倭奴一誇
- おや (親)
- 翻 오야'o·'ja 164 老鼠 一叫齋
- 館 ? 惡亜 195 御前 一
- 382 御前謝恩 一密温普姑立
- 390 今日御前謝恩 交哇一密温普姑立
- 使 ? 惡牙 273 御前謝恩 一蜜温普谷里
- 字 烏牙 207 父親 一更加一
- 吾牙 208 母親 園男姑一
- ? 惡牙 273 御前饌恩 一密温卜姑里
- 信 烏耶 298 父 会儿嚙一
- 312 母 会南姑一
- ? 惡牙 401 御年謝恩 一密温卜姑里
- 見 屋牙 138 父 烏吉喀奴一
- 屋呀 139 母 園那園奴園呀
- おやくもり (御役守) (親雲上)
- 見 牌金 175 親雲上 一
- おゑかまへ (御賞前?)
- 字 吾一加每 246 賞賜 一奴
- 信 吾加一每 387 賞賜 一奴
- おん (御)
- 翻 음'om 77 飯 一바리
- 館 温 350 謝恩 密一普姑立
- 382 御前謝恩 惡亜密一普姑立
- 390 今日御前謝恩 交哇惡亜密一普姑立
- 翁 430 飯 一班尼
- 438 酒飯 撒及一班尼
- 441 喫飯 昂乞立一班尼
- 445 酒飯喫 撒及一班尼昂乞立
- 使 温 244 謝恩 蜜一普古里
- 273 御前謝恩 惡牙蜜一普谷里
- 翁 305 飯 一班尼
- 310 酒飯 撒急一班尼
- 313 喫飯 昂乞利一班尼
- 字 温 242 謝恩 一卜姑里
- 273 御前謝恩 惡牙密一卜姑里
- 汪 303 飯 一班尼
- 310 酒飯 撒其一班泥
- 312 喫飯 一班尼安急弟
- 信 温 382 謝恩 一卜姑里
- 401 御前謝恩 惡牙密一卜姑里
- 見 翁 254 飯碗 一班麼喀倚
- 336 飯 一班
- おんほこり (御誇?)
- 館 温普姑立 350 謝恩 密一
- 382 御前謝恩 惡牙密

—
 390 今日御前謝恩 交
 哇惡亜密—
 使 温普古里 244 謝恩 蜜—
 温普谷里 273 御前謝恩 惡牙密
 —
 字 温卜姑里 242 謝恩 —
 273 御前謝恩 惡牙密
 —
 信 温卜姑里 382 謝恩 —
 401 御前謝恩 惡牙密
 —

㊦

か(日)

信 介 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94,
 96, 106, 107, 108, 110
 見 憂 100, 101, 103, 104
 喀 102, 105, 106, 107, 108, 112,
 118, 119, 122

か(終助)〈疑問〉

翻 가 ka 3 你的姓甚麼
 우라나와이가이우 —
 10 你幾時到這裏
 우라인즈고마싱 —
 12 你初到江口是好麼
 우라푸라모도징 —
 28 這箇叫甚麼子
 구릭야루욱 —
 기 ki (ka) 8 你幾時離了本国
 우라인즈시마타제 —

かいき (?改機)

館 盖乞 412 改機 —
 使 盖乞 299 改機 —
 字 盖乞 293 改機 —

かいち (獬豸)

館 害宅 166 獬豸—
 使 害宅 138 獬豸—
 字 害宅 137 獬豸—
 信 瞎宅 178 獬豸—

かう(香)

館 稿 120 香 —
 128 木香 南木—
 130 速香 申自密—
 132 沈香 定—
 134 乳香 由—
 239 香炉 一炉
 241 香盒 一法个
 243 香珠 一達馬
 489 沈香 定—
 490 速香 申自密—
 491 木香 南木—
 492 乳香 由—
 493 檀香 別姑且—
 496 香珠 一達馬
 504 奇南香 加那木—

使 稿 103 香 —
 186 香炉 一炉
 字 稿 103 香 —
 183 香炉 一炉
 福 185 香餡 一法各
 信 科 241 香炉 一炉
 242 箱子 一阿里阿哥
 福 276 香盒 一法名⁽²⁷⁷⁾
 見 柯 258 香炉 一以礼
 292 香盒 一以礼

かういれ(香入)

信 科阿里 242 箱子 一阿哥
 見 柯以礼 258 香炉 —
 292 香盒 —

かうだま(香玉)(香珠)

- 館 稿達馬 243 香珠 —
496 香珠 —
- かうばこ (香箱)
館 稿法个 241 香盒 —
- かうばし (香)
見 哈袈殺 382 香 —
- かうべ (頭)
見 科倍 308 頭 —
- かうらい (高麗)
見 柯列 170 高麗人 — 虛毒
- かうろ (香炉)
館 稿炉 239 香炉 —
使 稿炉 186 香炉 —
字 稿炉 183 香炉 —
信 科炉 241 香炉 —
- かがみ (鏡)
信 喀敢泥 247 鏡子 —
見 哈哈密 264 鏡子 —
- かき (垣)
信 搵鷄 135 榆木 —
搵几 190 牆 —
見 哈吉 213 牆 —
- かく (書)
館 開的 232 字 —
使 開的 179 字 —
字 開第 176 字 —
- かく (描)
信 喀之 267 面 夷夷 —
- かく (掛)
館 加及 249 板橙 个尖 —
250 交床 全
- かく (搔)
信 脚鷄 205 牙刷 番咂 — 母魯
- かご (籠)
見 踢依盧 248 竹籠 他吉 —
- かご (駕籠)
見 喀谷 231 轎子 —
- かさ (傘)
信 夾殺 213 傘 —
見 哈撒 233 傘 —
- かさ (笠)
信 搵殺 433 帽 —
由沙 445 笠 —
見 喀殺 327 笠 —
- かささぎ (鶺鴒) ?
館 孔加查思 174 喜雀 —
使 孔加查思 143 喜雀 —
字 孔加查思 142 喜鶺 —
信 孔加噲司 183 喜鶺 —
- がじまる (榕樹)
信 茄子埋大 144 榕 —
- かしら (頭) (頭髮)
翻 가난우 ka · nan (ran) · zu 147
頭 —
카시라 kha · si · ra 152 頭髮 —
- 館 嗑藍子 347 叩頭 —
448 頭 —
加藍 459 髮 —
- 使 嗑藍子 243 叩頭 —
315 頭 —
加藍 326 髮 —
- 字 嗑藍子 314 頭 —
- 信 哈那子 409 髮 — 又喀拉齊
喀拉齊 409 髮 哈那子又 —
他喇子 410 頭 —
- 見 哈喇子 295 頭髮 —
- かしらげ (頭毛)
館 嗑藍子乞 386 再叩頭 馬達 —
使 嗑藍子其 277 再叩頭 麻達 — 馬
字 嗑蘭白之 239 低頭 —

- 嗑籃自之 241 叩頭 —
 嗑籃子其 272 再叩頭 麻達—
 嗑十藍其 325 髮 —
 信 喀籃子其 376 再叩頭 麻達—
 喀爾自之 379 底頭 —
 嗑籃自之 381 叩頭 —
- かすみ (霞)
 見 哈園密 14 霧 —
- かぜ (風)
 翻 칸지 kha·cui 41 風 —
 館 嗑集 4 風 —
 16 起風 —福祿姑
 23 風雹 —科立
 使 監濟 4 風 —
 嗑濟 16 起風 —福祿姑
 23 風雹 —科立
 字 嗑濟 4 風 —
 16 起風 —福祿姑
 23 風雹 —科立
 信 喀買⁽⁷⁷⁾子 5 風 —
 喀買⁽⁷⁷⁾ 19 起風 —福的沾
 見 哈子 5 風 —
 226 風鏞 —魯
 嗑子 19 起風 —弗吉
- かぜろ (風か?)
 見 哈子魯 226 風鏞 —
- かたな (刀)
 翻 카타나 kha·ta·na 129 刀子 —
 字 嗑塔拿 156 刀 —
- かたる (語)
 館 嗑達立 321 說 —
 573 說 —
 582 說話 —
 使 嗑達里 222 說 —
 嗑達力 388 說 —
- 嗑達立 395 說話 —
 字 嗑荅里 220 說 —
- かつ (舵)
 館 看失 224 舵 —
 使 看失 171 舵 —
 字 看息 168 舵 —
 信 看失 262 舵 —
 見 哈帶 277 舵 —
- かつぶ (葛布)
 館 嗑布 411 葛布 —
 使 嗑市 297 葛布 —
 字 嗑布 291 葛布 —
- かつら (桂)
 信 鷄花 146 桂 —
- がてう (鶯鳥)
 信 鳥欲 164 鶯 —
- かなし (加那志)
 字 嗑呐尸 195 国王 倭碓—
 信 嗑那什 292 大老爺 阿几—
- かに (蟹)
 信 夾殺眉 493 蟹 —
 見 喀殺美 360 吃飯 —
- かね (金)
 館 加尼 245 鉄猫 烏失—
 464 銅 嗑加—
 466 錫 失祿—
 嗑尼 465 鉄 姑祿—
 使 加尼 331 銅 嗑加—
 333 錫 失祿—
 嗑尼 332 鉄 谷祿—
 字 嗑尼 331 銅 押里—
 332 鉄 窟碌—
 333 錫 石碌—
 信 加泥 252 酒盃 失六—
 喀賦 497 銀 —

- 499 銅 阿里—
 500 鉄 窟碌—
 501 錫 右碌—
 見 喀泥 364 銅 阿噶—
 365 鉄 窟碌—
- かなんかう (伽南香)
 館 加奴木稿 137 奇南香 —
 加那木稿 504 奇南香 —
- かは (河・川)
 館 噓哇 28 河 —
 193 河 —
 194 御河 —
 使 噓哇 27 河 —
 150 河 —
 字 噓哇 27 河 —
 信 喀哇 27 河 —
 見 哈哇 28 川 —
 30 河 —
- かは (皮)
 翻 才ka 120 靴 피상 —
 館 噓哇 153 皮 —
 172 猿皮 撒祿—
 173 熊皮 姑馬—
 181 海獺皮 喇姑娘—
 使 噓哇 125 皮 —
 字 噓哇 125 皮 —
 信 喀哇 167 皮 —
- かはら (瓦)
 翻 카라kha·ra 136 瓦 —
 館 噓哇喇 42 瓦 —
 204 瓦房 —亦葉
 使 噓哇喇 42 瓦 —
 156 瓦房 —亦葉
 字 噓哇喇 42 瓦 —
 噓喇 153 瓦房 —亦葉牙
- 信 喀哇喇 40 瓦 —
 喀喇 195 瓦房 —亦葉^(マ)牙
 見 哈喇 41 磚 十□—
 217 瓦房 —弗吉牙
 喀辣 42 匱 —
- かはら (河原)
 館 噓喇 35 井 亦—
 192 井 亦—
 使 噓喇 34 井 依—
 149 井 依—
 字 噓喇 34 井 依—
 信 喀喇 35 井 依—
 見 哈阿拉 22 天河 廳—
 哈哇辣 29 江 —
- かはらいへ (瓦家)
 館 噓哇喇亦葉 204 瓦房 —
 使 噓哇喇亦葉 156 瓦房 —
 字 噓喇亦葉牙 153 瓦房 —
 信 喀喇亦葉^(マ)牙 195 瓦房 —
- かはらふきや (瓦葺屋)
 見 哈喇弗吉牙 217 瓦房 —
- かひ (匙)
 翻 카이khai 122 匙 —
- かひ? (櫃)
 翻 카이kha·i 128 櫃子 —
 館 凱 248 箱子 —
 使 凱 190 箱子 —
 字 凱 187 箱子 —
- かひ (貝)
 信 喙 492 螺甸 阿古—
 494 砵渠 阿札—
- かふ (甲)
 館 个 169 玳瑁 噓乜那—
 183 玳瑁 噓乜那—
 417 玳瑁帶 噓乜奴—乞各必

- 481 玳瑁(瑁) 嗑乜那一
 使 各 141 玳瑁 嗑乜那一
 字 各 140 玳瑁 嗑乜那一
 信 各 181 玳瑁 咯也那一^(ㄉㄉ)
- かふ(買)
- 館 高葉 336 壳^(ㄉㄉ) 一
 366 買壳 烏立一
 554 壳^(ㄉㄉ) 一
 590 買壳 烏立一
 使 高葉 235 壳^(ㄉㄉ) 一
 385 壳^(ㄉㄉ) 一
 字 科的 232 買 一
 信 科的 367 買 一
 見 科的 196 買 一
- がふ(合)
- 字 胡 164 瓶 匹^(ㄉㄉ) 一平
 信 胡 259 瓶 四一平
- かぶと(兜)
- 字 嗑塢吐 154 盔 一
 信 噶塢吐 254 盔 一
 見 哈不毒 271 盔 一
- かぶる(被・帽)
- 館 干不立 210 盔 一
 看不立 400 帽 一
 使 不力子^(ㄉㄉ) 157 盔 一
- かべ(壁)
- 館 那別^(ㄉㄉ) 36 牆 一
 186 牆 一
 使 拿別^(ㄉㄉ) 35 牆 一
 字 拿別^(ㄉㄉ) 35 牆 一
- かみ(紙)
- 翻 카미 kha·mi 121 紙 一
 館 嗑乜 234 紙 一
 使 嗑乜 181 紙 一
 字 堪批 178 紙 一
- 信 瞎皮 271 紙 一
 見 哈比 287 紙 一
- かみなり(雷)
- 館 刊每那立 6 雷 一
 使 刊眉 6 雷 一
 字 刊眉 6 雷 一
 信 咯嘔渺一 7 雷 一
 見 堪理 7 雷 一
- かめ(龟)
- 館 嗑乜 160 龟 一
 169 玳瑁 一那个
 170 龟全 一
 183 玳瑁殼 一那个
 259 金龟 孔加尼一
 261 銀龟 南者一
 417 玳瑁帶 一奴个乞各必
 418 龟全帶 一乞角必
 480 龟全 一
 481 玳瑁 一那个
 使 嗑乜 132 龟 一
 141 玳瑁 一那各
 字 嗑乜 132 龟 一
 140 玳瑁 一那各
 信 咯乜 173 龟 一
 咯也^(ㄉㄉ) 181 玳瑁 一那各
- かめ(瓶)
- 信 客免 227 甕 一
 見 哈阿美 239 瓦罐 一
- かや(蚊帳)
- 翻 카야 kha·sja <cja> 117 掛帳
- 信 咯着 449 帳子 一
 見 咯着 320 帳子 一
- かゆし(痒)
- 字 課沙 378 瘧 一

信 課沙 601 癢 —
 からし (辛子)
 翻 카다시 kha · ta · si 92 芥末
 난다리 —
 からし (辛)
 翻 카니사 kha · ni (ra) · sa 106 棘
 信 喀喇殺 572 辣的 —
 からす (烏)
 館 噓喇思 175 老鴉 —
 字 塔哪 120 鵝 —
 かるし (輕)
 信 喀羅殺 541 輕 —
 かんざし (簪)
 信 喀你殺失 250 短簪 —
 彌誇 251 長簪 —
 見 饑花 266 女短簪 因渣 —
 267 女長簪 那咯 —
 ㊦
 き (木)
 館 那及 108 樹 —
 及 111 栢 馬足那 —
 結 133 檀香 別姑旦 —
 使 拿急 91 樹 —
 急 94 栢 馬足那 —
 字 拿急 91 樹 —
 急 94 栢 馬足拿 —
 刻 305 菓 — 納里
 信 那吉 121 樹 —
 吉 124 栢 賀子那 —
 鷄 128 木 —
 136 烏木 哭羅 —
 刻 487 菓 — 納里
 き (黃)
 信 綺 575 黃 — 羅

見 奇 375 黃 — 魯
 き (氣)
 見 其 84 氣 —
 きいろ (黃色)
 信 綺羅 575 黃 —
 見 奇魯 375 黃 —
 きく (聞)
 信 乞介 581 聽得 —
 582 不聽得 — 藍
 きさき (妃)
 館 扎喇 278 王妃 —
 使 札喇 197 王妃 —
 字 倭男札喇 194 王妃 —
 信 倭男札喇 283 王妃 —
 きざはし (階)
 信 乞齊究書 194 塔 — 又咯咿條書
 見 奇栽 216 塔 —
 きし (棋子)
 館 乞是 256 碁子 —
 使 乞是 193 碁子 —
 きせる (煙管)
 信 啓力 234 烟筒 —
 見 奇失札 251 烟筒 —
 きた (北)
 館 乞大 59 北 —
 564 北 —
 使 乞大 57 北 —
 字 乞大 57 北 —
 信 屋金尼失 54 北 —
 見 及答 56 北 —
 きぬ (絹)
 館 及都 404 員領 —
 使 急那 291 員領 —
 字 為子 286 裙 —
 信 亦周 452 紬 —

- 見 亦周 329 綱 —
- きぬ (衣)
- 翻 기루 ki·ru <nu> 133 衣服 —
- 館 及那 405 衣服 —
- 使 急那 292 衣服 —
- 字 遮那 285 衫 —
- 信 乙依 299 衣服 —
- 輕 347 脱衣 — 化子榮
- 衾 432 衣裳 —
- 琴 449 汗衫 阿米—
- 景 450 冬短衣 木綿—
- 451 夏短衣 百索—
- 豈奴 434 衣服 密子滿吉又—
- 密子滿吉 434 衣服 — 又豈奴
- 見 間 66 巴麻 読—
- 巾 328 汗衫 毒—
- きのふ (昨日)
- 翻 키리우 khi·ri <ni> ·'u 557 昨日 —
- 館 乞奴 22 昨日 —
- 87 昨日 —
- 389 昨日賞賜 — 非近的
- 使 乞奴 22 昨日 —
- 字 乞奴 22 昨日 —
- きも (肝) (心)
- 翻 기모 ki·mo 29 心 —
- 30 心 —
- 字 起模 323 心 —
- 信 氣麼 422 心 —
- 見 氣木 307 心 —
- きやく (客)
- 信 喀姑 319 客人 —
- 見 恰谷 167 客人 —
- きやん (喜屋武) (地名)
- 見 腔 70 喜屋武 —
- きよくろく (曲録)
- 館 喬古魯古 251 交椅 —
- きよら (清)
- 見 求喇殺 194 好 —
- きり (霧)
- 館 乞立 10 霧 —
- 使 氣力 12 霧 —
- 字 氣力 12 霧 —
- 信 氣力 14 霧 —
- きりん (麒麟)
- 館 乞麟 163 麟麟 —
- 使 其麟 135 麒麟 —
- 字 麒麟 135 麒麟 —
- 信 其鄰 176 麒麟 —
- きる (切)
- 信 及里 243 面盆 汗你—
- 起 348 殺 枯必—
- きん (金)
- 見 輕 294 金杯 — 撒咯子吉
- きんさかづき (金盃)
- 見 輕撒咯子吉 294 金杯 —
- ㊦
- く (九)
- 館 姑 97 九月 — 哇的
- 545 九錢 — 買每
- 使 谷 84 九月 — 哇的
- 字 谷 84 九月 — 哇的
- 枯 365 九錢 — 買每
- 信 空 83 九月 — 括子
- 苦 105 十九 坐 — 泥子
- 115 二十九 膩徂 — 泥子
- 531 九十 — 徂
- 枯 563 九錢 — 買每
- 見 空 95 九月 — 刮止
- 酷 117 十九 藤 — 泥止

127 二十九 膩蔞—止

く (来)

翻 김제 kit·cjoì 11 我們今年正月初
三日纔到這裏 환구두시샤옹과즈취타지

상 sij <caŋ> 10 你幾時到這裏
우라일즈고마—

장 cij <caŋ> 12 你初到江口是好
우라푸라모도—가

구 ku 19 酒酒来 사기와가디—

館 掲只 356 起来 —

577 起身 —亦及

578 起去 —亦及

579 起来 —

595 明日起身 阿者速多密的一

个 368 拿来 莫只—

使 掲知 250 起来 —

个 261 拿来 莫只—

字 掲知 247 起来 —

囿 257 拿来 嗑子密的一

信 沽 19 起風 咯買福的一

掲之 388 起来 —

姑 403 拿来 一得一

くぐわつ (九月)

館 姑哇的 97 九月 —

使 谷哇的 84 九月 —

字 谷哇的 84 九月 —

信 空括子 83 九月 —

見 空刮止 95 九月 —

くさ (草)

館 姑撒 115 草 —

203 草房 —亦葉

使 谷撒 98 草 —

字 谷撒 98 草 —

信 谷殺 129 草 —

くさいへ (草家)

館 姑撒亦葉 203 草房 —

くさし (臭)

信 哭殺殺 585 臭 —

見 窟殺殺 383 臭 —

くし (櫛)

信 沙八巴 226 木梳 —

見 撒八吉 244 梳 —

くじふ (九十)

信 苦徂 531 九十 —

くじやく (孔雀)

館 公少 164 孔雀 —

使 公少 136 孔雀 —

字 枯雀姑 136 孔雀 —

信 枯雀姑 177 孔雀 —

くち (口)

翻 크지 khw·ci 147 口 —

館 姑只 180 鶴頂 它立那一

419 鶴頂帶 它立那一乞各
必

姑之 452 口 —

使 谷只 144 鶴頂 它立奴一

谷之 319 口 —

字 谷只 143 鶴頂 它立奴一

窟止 318 口 —

信 谷之 184 鶴頂 拖立奴一

濶生 416 口 —

可之 188 戶 耶独—

見 窟止 301 口 —

窟齒 211 戶 花失利—

くち (言語)

館 姑只 376 言語 —

使 谷只 269 言語 —

くつ (靴)

館 姑足 397 靴 —

- 使 谷足 284 靴 —
- くに (国)
- 信 哭泥 282 国王 —華
- くにち (九日)
- 信 苦苦泥子 105 十九 坐—
115 二十九 膩徂—
- 見 酷泥止 117 十九 蔭—
127 二十九 膩蔭—
- くにわう (国王)
- 信 哭泥華 282 国王 —
- くび (首)
- 字 空為 298 員領 —
- 信 枯必 348 殺 一起
科必 423 頭頸 —
- くぶ (貝) ?
- 信 克培 491 蛤蜊 —
- くま (熊)
- 館 姑馬 145 熊 —
173 熊皮 一嗑哇
- 使 谷馬 117 熊 —
- 字 谷馬 117 熊 —
- 信 谷馬 161 熊 —
- くまがは (熊皮)
- 館 姑馬嗑哇 173 熊皮 —
- くめむら (久米村) (地名)
- 見 苦念搭 69 久米 —
- くも (雲)
- 館 姑木 5 雲 —
421 織金雲絹 孔加尼—活
見
- 使 姑木 5 雲 —
- 字 姑木 5 雲 —
- 信 枯木 8 雲 —
- 見 窟木 8 雲 —
- くもる (曇)
- 32 天陰了
- 翻 구모대 ku·mo·tjai 턴—
- 館 姑木的 17 天陰 甸尼奴—
73 陰 —
- 使 姑木的 天陰 甸尼奴—
66 陰 —
- 字 姑木尼 17 天陰 甸泥奴—
66 陰 —
- 信 姑木的 20 天陰 町奴—
65 陰 —
- 見 窟木的 20 天陰 廳—
因 77 陰 —
- くもんめ (九匁)
- 館 姑買每 545 九錢 —
- 使 姑買每 376 玖錢 —
- 字 枯買每 365 九錢 —
- 信 枯買每 563 九錢 —
- くら (鞍)
- 館 姑籟 270 鞍子 烏馬奴—
- くる (暮)
- 館 姑立的 78 晚 約—
- 使 姑里的 71 晚 約—
- 字 姑里的 71 晚 約—
- くるま (車)
- 翻 구루마 ku·ru·ma 137 車子 —
- くろ (黒)
- 館 姑祿 465 鉄 一嗑尼
- 使 谷祿 332 鉄 一嗑尼
- 字 窟碌 332 鉄 一嗑尼
- 信 枯羅 481 黑豆 一馬馬
窟碌 500 鉄 一喀膩
- 見 枯魯 353 黑豆 一馬閔
窟碌 365 鉄 一喀泥
- くろがね (鉄)
- 館 姑祿嗑尼 465 鉄 —
- 使 谷祿嗑尼 332 鉄 —

- 字 窟碌嗑尼 332 鉄 一
 信 窟碌喀膩 500 鉄 一
 見 窟碌喀泥 365 鉄 一
 くろき (黒木)
 信 哭羅鷄 136 烏木 一
 くろし (黒)
 翻 쿠루사 ku·ru·sa 156 黒 一
 見 窟魯殺 380 黒 一
 くろまめ (黑豆)
 信 枯羅馬馬 481 黑豆 一
 見 枯魯馬閔 353 黑豆 一
 くわ (花)
 信 花 146 桂 鷄一
 乖 148 茉莉 木一一
 くわいい (快意)
 字 括其 388 快活 一
 信 括其 596 快活 一
 くわうてい (皇帝)
 館 倭的 277 皇帝 一每
 301 萬歲皇帝 麻柔一每
 烏的 300 大明皇帝 大苗一每
 嗑得 302 使臣 一那使者
 349 朝貢 一那
 嗑的 357 進貢 一那
 使 倭的 196 皇帝 一每
 214 大明帝王 大苗一每
 嗑得 215 朝貢使臣 一那使者
 245 朝貢 一那
 251 進貢 一那
 字 倭的 193 皇帝 一每
 倭都 216 大明帝主 大苗一每
 嗑得 218 朝貢使臣 一那使者
 248 進貢 一那
 信 倭的 281 皇帝 一每
 嗑得 339 朝貢使臣 一那使者
 略得 389 進貢 一那
 くわうていまへ (皇帝前)
 館 倭的每 277 皇帝 一
 301 萬歲皇帝 麻柔一
 烏的每 300 大明皇帝 大苗一
 使 倭的每 196 皇帝 一
 214 大明帝王 大苗一
 字 倭的每 193 皇帝 一
 倭都每 216 大明帝主 大苗一
 信 倭的每 281 皇帝 一
 くわうばん (黄礬)
 館 晃礬 494 黄礬 一
 ぐわつ (月)
 翻 파즈 koa·ca 9 正月 쇼용一
 11 正月 샐용 一
 61 来月 데왕 一
 파즈 koi (koa)·ca 63 拜年
 쇼용 一노파
 館 哇的 89 正月 燒一
 90 二月 寧一
 91, 103 三月 撒一
 92 四月 升一
 93 五月 惡一
 94 六月 祿姑一
 95 七月 是止一
 96 八月 法只一
 97 九月 姑一
 98, 104 十月 柔一
 使 哇的 76 正月 燒一
 77 二月 寧一
 78 三月 撒一
 79 四月 升一
 80 五月 惡一
 81 六月 祿谷一
 82 七月 式的一

83 八月 法只—
 84 九月 谷—
 85 十月 柔—
 字 哇的 76 正月 燒—
 77 二月 寧—
 78 三月 撒—
 79 四月 升—
 80 五月 惡—
 81 六月 祿谷—
 82 七月 式的一—
 83 八月 法只—
 84 九月 谷—
 85 十月 柔—
 信 括子 75 正月 夏—
 76 二月 膩—
 77 三月 三—
 78 四月 式—
 79 五月 吾—
 80 六月 六一—
 81 七月 失之一—
 82 八月 瞎之一—
 83 九月 空—
 84 十月 它—
 85 十一月 躅一之一—
 86 十二月 躅膩—
 見 刮止 87 正月 芍倭—
 88 二月 膩—
 89 三月 三—
 90 四月 失—
 91 五月 共—
 92 六月 六骨—
 93 七月 失止—
 94 八月 瞎知—
 95 九月 空—
 96 十月 蔘—

97 十一月 蔘亦止—
 98 十二月 蔘膩—

くわん (貫)

信 貫 534 一千 ——

くわんしや (官舎)

館 官舎 311 三使臣 ——

㊦

け (毛)

館 乞 386 再叩頭 馬達嗑藍子—

使 其 277 再叩頭 麻達嗑藍子—馬

字 之 239 低頭 嗑蘭自—

241 叩頭 嗑籃自—

其 272 再叩頭 麻達嗑藍子—

325 髮 嗑十藍—

信 其 376 再叩頭 麻達喀籃子—

之 379 底頭 喀蘭自—

381 叩頭 嗑籃自—

けいとう (鶏頭)

信 鶏衆 147 鶏冠 ——

けにん (下人)

見 子人 163 徒弟 波一待

けふ (今日)

翻 ㄎㄨㄛˊ khjo · 'o 56 今日 ——

館 交 15 今日 一哇

85 今日 一哇

390 今日 一哇

㊧

こ (殻?)

館 殻 121 蓮蓬 花孫奴—

182 大海螺 密洋—

こ (子)

館 哇 281 王子 敖那烏—

308 子 烏—

使 哇 199 王子 敖那吾—

219 子 吾—

- 字 枯哇 212 子 一
 信 古 233 鎖 柴心又沙四内一
 誇 284 王子 倭奴鬱勃人一
 括 299 子 一
 300 女兒 会南姑一
 見 寡 142 子 一
 143 女兒 烏那姑一
- こ (粉)
 字 沽 306 粉 由諾一
 307 麵 皿其諾一
 信 姑 488 粉 由諾一
- こ (小) ?
 使 館 155 館駅 一牙
 字 館 152 館駅 一牙
 胡 328 鬚子 一品其
 信 克 202 浴桶 一搭里
- こ (五)
 館 悪 93 五月 一哇的
 使 悪 80 五月 一哇的
 吾 372 伍錢 一買每
 字 悪 80 五月 一哇的
 五 361 五錢 一買每
 信 吾 79 五月 一括子
 559 五錢 一買每
 古 101 十五 坐一泥子
 527 五十 一徂
 姑 111 二十五 膩徂一泥子
 見 共 91 五月 一刮止
 古 113 十五 磨一泥止
 123 二十五 泥磨一泥止
- こ (碁)
 信 古 240 囲碁 一
 碁 280 囲碁 一
 見 古 257 囲碁 一
- こ (御) ?
 見 波 163 徒弟 一子人待
 こがたな (小刀)
 信 糸古 210 刀鞘 一礼耶
 見 糸古 230 刀鞘 一撒耶
 こがたないれ (小刀入)
 信 糸古礼耶 210 刀鞘 一
 こがね (霞?)
 館 个嗑尼 13 霞 一
 使 噶嗑尼 15 霞 一
 字 噶嗑尼 15 霞 一
 信 噶喀泥 16 霞 一
 見 □□泥 16 霞 一
 こがね (黄金, 金)
 館 孔加尼 259 金龟 一嗑也
 262 金鶴 一思禄
 263 金帶 一乞角必
 268 金鍾 一麻加立
 272 金粉盒 一法个
 421 織金雲絹 一姑木活
 見
 424 金帶 一乞角必
 425 織金綵段 一法那恕
 思
 462 金 一
 500 金剛蔡 一
 使 孔加尼 195 金鍾 一麻加里
 329 金 一
 字 孔加尼 192 金鍾 一麻加里
 329 金 一
 信 孔加泥 279 金杯 一麻佳里
 枯軋膩 496 金 一
 見 枯喀泥 361 金 一
 こがねばこ (金箱)
 館 孔加尼法个 272 金粉箱 一
 こがねまかり (金碗)

- 使 鮎加尼麻加里 195 金鍾 一
 字 孔加尼麻加里 192 金鍾 一
 信 孔加泥麻佳里 279 金杯 一
- こぐ (漕)
 見 □兀巳 63 行船 混利一
- こぐわつ (五月)
 館 惡哇的 93 五月 一
 使 惡哇的 80 五月 一
 字 惡哇的 80 五月 一
 信 吾括子 79 五月 一
 見 共刮子 91 五月 一
- ここ (此所)
 翻 고마 ko·ma 10 這裏 一
- ここのか (九日)
 信 哭古魯 95 初九 之搭之一
 見 酷古盧喀 107 初九 之搭之一
- ここのつ (九)
 館 姑姑奴子 515 九 一
 525 十九 吐一
 535 二十九 達子吐一
 使 姑姑奴子 356 玖 一
 姑姑奴子 356 拾玖 吐一
 字 酷骨碌子 355 九 一
 信 科過碌子 521 九 一
- こころ (心)
 翻 기모 ki·mo 29 心 一
 30 心 一
 館 个个罗 457 心 一
 使 各各羅 324 心 一
 字 起模 323 心 一
 信 氣麼 422 心 一
 見 氣木 307 心 一
- ござ (莫蔴) ?
 信 荷作 235 荷包 一
 見 呼作 252 荷包 一
- こし (腰)
 館 个失 249 板橙 一加及
 250 交床 全
 351 平身 一烏奴必約
 使 各失 246 平身 一吾奴必約
 字 曲尸 238 鞠躬 一麻平的
 信 曲尸 378 鞠躬 一麻平的
- こし (輿)
 信 夾介子 211 轎子 一
- こしかけ (腰掛)
 館 个失加及 249 板橙 一
 250 交床 全
- こしき (甌)
 見 烏失吉 261 木盤 一
- ごじふ (五十)
 信 古徂 527 五十 一
- こせう (胡椒)
 翻 丑舍 kho·sju 94 胡椒 一
 館 姑燒 127 胡椒 一
 498 糊椒 一
 使 谷燒 108 糊椒 一
 字 窟受 108 胡椒 一
 信 窟受 152 胡椒 一
- こぞ (去年)
 翻 子丕 ku·co 9 旧年 一
- こだらひ (小盥)
 信 克塔里 202 浴桶 一
- こつ (骨) ?
 字 胡彖 345 犀角 一
- こと (言)
 字 脚都 256 勅書 倭眉一司墨
 信 脚都 397 勅書 倭眉一司墨
- ごどう (梧桐)
 信 谷多 145 梧桐 一
- ことし (今年)

- 翻 구두시 ku·tu·si 11 今年 —
 館 个多失 83 今年 —
 102 今年 —
 103 今年 —
 个多少 380 今年 —
 ことば (言葉)
 見 枯毒八 198 言語 —
 ごにち (五日)
 信 古泥子 101 十五 坐—
 姑泥子 111 二十五 膩徂—
 見 古泥止 113 十五 藤—
 123 二十五 泥藤—
 こねる (捏)
 館 个乜禄 38 泥 —
 使 乜禄 37 泥 —
 字 乜禄 37 泥 —
 この (此)
 翻 고노 ko·no 29 這箇人 —피초
 30 這箇人 —피초
 고로 ko·ro (no) 60 這月 —즈기
 こはく (琥珀)
 字 披末 344 琥珀 —
 見 枯花古 370 琥珀 —
 こひげ (小鬚)
 字 胡品其 328 鬚子 —
 こふ (請)
 字 婦 251 辭朝 畏之謾—
 信 婦 392 辭朝 畏之謾—
 こぶし (拳)
 信 蹄子烘 345 拳頭打 —
 見 蹄子拱 180 拳頭 —
 こほり (永) (雹)
 館 科立 11 雹 —
 23 風雹 嗑集—
 姑亦立 32 永 —
 使 科立 11 雹 —
 23 風雹 嗑濟—
 谷亦里 31 水⁽⁷⁷⁾ —
 字 科立 11 雹 —
 23 風雹 嗑濟—
 谷亦里 31 水 —
 信 科立 17 雹 —
 谷亦里 31 水 —
 見 庫兀利 33 水 —
 こみち (小道)
 翻 구미지 ku·mi·ci 69 小路 —
 こめ (米)
 翻 코메 kho·mjoi 80 大米飯
 ——로오반리
 고미 ko·mwi 83 秖米 —시랑가디
 館 姑米 107 米—
 使 谷米 90 米—
 字 谷米 90 米—
 信 可木 469 米—
 見 窟美 342 米—
 ごもんめ (五匁)
 館 烏買每 541 五錢 —
 使 吾買每 372 伍錢 —
 字 五買每 361 五錢 —
 信 吾買每 559 五錢 —
 こや (小屋) ?
 使 館牙 155 館駅 —
 字 館牙 152 館駅 —
 こゆ (肥)
 信 滑的 375 肥 —
 見 快的 202 肥 —
 これ (此)
 翻 구리 ku·rui 28 這箇叫甚麼子

—아루옥가

ころす (殺)

見 姑魯止 183 殺 —

こんにやく (蒟蒻)

信 坤軋姑 486 芋羹 —

ㄱ

さ (紗)

館 撒 392 紗 —

使 撒 279 紗 —

字 撒 275 紗 —

信 撒 454 紗 —

見 殺 331 紗 —

さ (終助)

館 撒 583 不敢 揚密—

使 撒 396 不敢 揚密—

字 撒 383 不敢 揚密—

信 撒 590 不敢 揚密—

見 撒 385 不敢 揚密—

ざ (座) ?

見 臧 234 床 捫—

さい (菜)

翻 𪛗 소나 so·nai 99 菜蔬 —

館 菜 117 菜 —

433 菜 —

使 菜 100 菜 —

308 菜 —

字 菜 100 菜 —

304 菜 —

信 綏 474 菜 —

見 𪛗 色 347 菜 —

さいふ (才府)

館 才府 310 二使臣 —

ざう (象)

翻 𪛗 자 ca (ca·'u) 167 象 —

館 槽 135 血蝎 — 奴結

146 象 —

168 象牙 — 華

475 象牙 — 華

495 血結 — 那結

使 槽 118 象 —

查查 140 象牙 — 華

字 喳 118 象 —

喳冷 139 象牙 — 其

信 喳 162 象 —

喳冷 180 象牙 — 其

ざうげ (象牙)

字 喳冷其 136 象牙 —

信 喳冷其 180 象牙 —

さうめん (索麵)

信 錯閔 475 索麵 —

見 索閔 348 索麵 —

ざうり (草履)

館 三扒 399 鞋 —使 三扒 386 鞋 —字 ? 木低 282 鞋 —信 殺巴 448 鞋 —見 殺色 326 鞋 —

さかぐるひ (酒狂)

翻 𪛗 사가구리 sa·ka·ku·rui 20 撒
酒風 —

さかづき (盃)

館 撒噓子及 252 酒鍾 —

使 撒噓子急 191 酒鍾 —

字 撒噓子急 190 酒鍾 —

見 殺喀子吉 268 酒杯 —

撒喀子吉 294 金杯 輕—

さかな (肴)

翻 𪛗 사가나 sa·ka·na 16 下飯 —

82 下飯 —

ざくろ (石榴)

信 石古魯 141 石榴花 一

さけ (酒)

翻 사키 sa·kwi 17 酒 一
 18 酒 一
 19 酒 一
 23 酒 一
 70 酒 一
 71 白酒 링마나—
 72 清酒 요가—
 74 酒有 —아리
 75 酒無了 —내
 76 酒醉了 —이우디

館 撒及 427 酒 一
 438 酒飯 一翁班尼
 445 酒飯喫 一翁班尼昂乞
 立

使 撒急 302 酒 一
 310 酒飯 一翁班尼

字 撒其 301 酒 一
 310 酒飯 一汪班泥

信 殺几 464 酒 一

見 撒吉 265 酒壺 一並
 殺機 337 酒 一

さけびん (酒瓶)

見 撒吉並 265 酒壺 一

さつまいも (薩摩芋)

信 番子母 483 番薯 一

見 番子母 355 番薯 一

さと (里)

見 撒毒 60 里 一

さふらふ (候)

館 唆亦 323 興 烏達的一

使 咬亦 224 興 吾達里一

信 小利 351 上人吃 三衣米一

さみせん (三味線)

見 三審 279 絃 一

さむらひ (侍)

信 三波堤 318 公子 一

さや (鞘)

見 撒耶 230 刀鞘 糸古一

さら (皿)

翻 쉬릭 sui·rui 126 砂貼是 一

さる (猿)

館 撒祿 159 猴 一

172 猿皮 一噓哇

使 撒祿 131 猴 一

字 撒祿 131 猴 一

信 殺陸 172 猴 一

さるかは (猿皮)

館 撒祿噓哇 172 猿皮 一

さん (三)

館 撒 91 三月 一哇的

103 三月 一哇的

衫 539 三錢 一買每

使 撒 78 三月 一哇的

衫 370 參錢 一買每

字 撒 78 三月 一哇的

山 359 三錢 一買每

信 三 77 三月 一括子

99 十三 之一泥子

109 二十三 膩徂一泥子

116 三十 一徂泥子

搽 525 三十 一徂

山 557 三錢 一買每

見 三 89 三月 一刮止

111 十三 蓐一泥止

121 二十三 泥蓐一泥止

128 三十 一蓐泥止

- さん (山)
- 翻 사 sa <san> 66 山頂 —노춘지
67 山底 —노시자
- さんぐわつ (三月)
- 館 撒哇的 91, 103 三月 —
使 撒哇的 78 三月 —
字 撒哇的 78 三月 —
信 三括子 77 三月 —
見 三刮止 89 三月 —
- さんじふ (三十)
- 信 三徂 116 三十 —泥子
摻徂 525 三十 —
見 三蔭 128 三十 —泥止
- さんじふにち (三十日)
- 信 三徂泥子 116 三十 —
見 三蔭泥止 128 三十 —
- さんせう (山椒)
- 翻 산시오 san · si · 'o 95 川椒 —
- さんにち (三日)
- 信 三泥子 99 十三 之一
109 二十三 膩徂—
見 三泥子 111 十三 蔭—
121 二十三 泥蔭—
- さんもんめ (三匁)
- 館 衫買每 539 三錢 —
使 衫買每 370 參錢 —
字 山買每 359 三錢 —
信 山買每 557 三錢 —
- ㊦
- し (四)
- 館 升 92 四月 —哇的
深 540 四錢 —買每
使 升 79 四月 —哇的
深 371 肆錢 —買每
字 升 79 四月 —哇的
- 匹⁽⁷⁷⁾ 164 瓶 —胡平
申 360 四錢 —買每
信 式 78 四月 —括子
四 259 瓶 —胡平
細 526 四十 —徂
見 失 90 四月 —刮止
- し (師) ?
- 館 失 288 師父 —農包
使 失 208 師父 —農包
字 失 205 師父 —農褒
信 失 336 師父 —農褒
- じ (字)
- 見 日 284 字 —
- しう (州)
- 見 収 59 州 —
- しうと (舅)
- 館 使多 279 王旧 敖那—
信 色多 335 丈人 —
- しか (鹿)
- 翻 카우 kha · 'u 86 鹿肉 —루시시
館 加目 140 鹿 —
使 加目 112 鹿 —
字 加目 112 鹿 —
信 呵咄失失 156 鹿 —
- しきがはら (敷瓦)
- 見 十□哈囿 41 磚 —
- しきもの (敷物) ?
- 館 是及莫那 258 舖盖 —
是及莫奴 576 什物 —
- しく (敷)
- 館 是及 258 舖盖 —莫那
576 什物 —莫奴
見 十□ 41 磚 —哈囿
識吉 207 坐 —
? 蔭子 222 脚踏棉 —

しぐわつ (四月)

館 升哇的 92 四月 —
 使 升哇的 79 四月 —
 字 升哇的 79 四月 —
 信 式括子 78 四月 —
 見 失刮止 90 四月 —

しし (獅子)

翻 시시 si・si 168 獅 —
 館 失失 142 獅 —
 ⁽⁷⁷⁾
 乞食 165 獅子 —
 使 失失 114 獅 —
 137 獅子 —
 字 失失 114 獅 —
 信 施失 158 獅 —

しし (肉)

翻 시시 si・si 84 肉 —
 86 鹿 카우루—
 87 猪肉 오와—
 88 兔肉 우상기—
 館 失失 428 肉 —
 442 喫肉 昂乞立—
 444 螺螄肉 密洋—
 使 失失 303 肉 —
 314 喫肉 昂乞利—
 字 失失 308 肉 —
 313 喫肉 一安急弟
 信 失失 473 肉 —
 見 失失 346 肉 —

しじふ (四十)

信 細徂 526 四十 —

ししや (使者)

館 使者 302 朝貢使臣 噓得那—
 313 球球使臣 倭及那—
 使 使者 215 朝貢使臣 噓得那—
 字 使者 218 朝貢使臣 噓得那—

信 使者 339 朝貢使臣 噓得那—

ししやう (師匠)

見 食芍 162 師父 一亦云夫子

ししよく (紙燭)

信 式執直 239 燭簽 239 —

ししん (使臣)

館 使臣 285 使者 —
 使 使臣 203 使者 —
 字 使臣 200 使者 —
 信 使臣 288 使者 —

した (下)

翻 시자 si・cja 67 山底 사노—
 信 昔着 50 下 —
 借着 551 下 —

した (舌)

翻 시자 si・cja 150 舌頭 —
 信 失着 415 舌 —
 見 失渣 300 舌 —

しち (七)

館 是止 95 七月 一哇的
 543 七錢 一買每
 使 式的 82 七月 一哇的
 式止 374 柒錢 一買每
 字 式的 82 七月 一哇的
 式止 363 七錢 一買每
 信 失之 81 七月 一括子
 113 二十七 膩徂一泥子
 十七 103 十七 坐一泥子
 錫汁 529 七十 一徂
 式之 561 七錢 一買每
 見 失止 93 七月 一刮止
 125 二十七 膩藤一泥止
 十之 115 十七 藤一泥止

しちぐわつ (七月)

館 是止哇的 95 七月 —

- 使 式的哇的 82 七月 一
 字 式的哇的 82 七月 一
 信 央之括子 81 七月 一
 見 失止刮止 93 七月 一
- しちじふ (七十)
- 信 錫汁徂 529 七十 一
- しちにち (七日)
- 信 十七泥子 103 十七 坐一
 失之泥子 113 二十七 膩徂一
 見 十之泥止 115 十七 藤一
 失止泥止 125 二十七 膩藤一
- しちもんめ (七匁)
- 館 是止買每 543 七錢 一
 使 式止買每 374 柒錢 一
 字 式止買每 363 七錢 一
 信 式之買每 561 七錢 一
- しぬ (死)
- 信 失直 360 死 一
 見 失直 192 死 一
- しはす (十二月)
- 館 失哇思 100 十二月 一
 使 失哇思 87 十二月 一
 字 失哇思 87 十二月 一
- じふ (十)
- 館 柔 98, 104 十月 一哇的
 就 546 一兩 一買每
 547 十兩 必亜姑一每
 使 柔 85 十月 一哇的
 就 377 壹兩 一買每
 378 拾兩 辟牙谷一每
 字 柔 85 十月 一哇的
 就 366 一兩 一買每
 信 躅 84, 85, 86 十~ 一~
 之 97, 98, 99, 100 十~ 一~
 坐 101, 102, 103, 104, 105 十~ 一~
- 徂 109, 110, 111, 112, 113, 114,
 115, 116, 524, 525, 526, 527,
 528, 529, 530, 531 十~ 一~
- 執 564 一兩 一買每
- 見 藤 95, 96, 97, 98, 109, 110, 111,
 112, 113, 114, 115, 116, 117,
 121, 122, 123, 124, 125, 126,
 127, 128 十~ 一~
- 肉 120 二十二 泥一泥泥止
- じふいち (十一)
- 信 躅一之 85 十一月 一括子
 之一子 97 十一 一泥子
 見 藤亦止 97 十一月 一刮止
 藤亦之 109 十一 一泥止
- じふいちぐわつ (十一月)
- 信 躅一之括子 85 十一月 一
 見 藤亦止刮止 97 十一月 一
- じふいちにち (十一日)
- 信 之一子泥子 97 十一 一
 見 藤亦之泥止 109 十一 一
- じふくにち (十九日)
- 信 坐苦苦泥子 105 十九 一
 見 藤酷泥止 117 十九 一
- じふぐわつ (十月)
- 館 柔哇的 98 十月 一
 104 十月 一
 使 柔哇的 85 十月 一
 字 柔哇的 85 十月 一
 信 躅括子 84 十月 一
 見 藤刮止 96 十月 一
- じふごにち (十五日)
- 信 坐古泥子 101 十五 一
 見 藤古泥止 113 十五 一

- じふさんにち (十三日)
 信 之三泥子 99 十三 —
 見 藤三泥止 111 十三 —
- じふしちにち (十七日)
 信 坐十七泥子 103 十七 —
 見 藤十之泥止 115 十七 —
- じふに (十二)
 信 躑臑 86 十二月 —括子
 之泥 98 十二 —泥子
 見 藤臑 98 十二月 —刮止
 110 十二 —泥止
- じふにぐわつ (十二月)
 信 躑臑括子 86 十二月 —
 見 藤臑刮止 98 十二月 —
- じふににち (十二日)
 信 之泥泥子 98 十二 —
 見 藤臑泥止 110 十二 —
- じふはちにち (十八日)
 信 坐瞻之泥子 104 十八 —
 見 藤滑之泥止 116 十八 —
- じふよか (十四日)
 見 藤育喀 112 十四 —
- じふよにち (十四日)
 信 之嗜泥子 100 十四 —
- じふろくにち (十六日)
 信 坐六古泥子 102 十六 —
 見 藤魯古泥止 114 十六 —
- じふもんめ (十匁)
 館 就買每 546 一兩 —
 就每 547 十兩 必垂姑—
 使 就買每 377 壹兩 —
 就每 378 拾兩 辟牙谷—
 字 就買每 366 一兩 —
 信 執買每 564 一兩 —
- しほ (塩)
 翻 마시오 ma·si·'o 90 塩 —
 信 麻蝦 470 塩 —
 見 麻叔 343 塩 —
- しほからし (塩辛)
 翻 시바가나사 si·pa·ka·na (ra)
 sa 105 鹹 —
 信 什布喀殺 573 鹹的 —
 見 什□喀園殺 373 鹹 —
- しま (島) (本国)
 翻 시마 si·ma 8 本国 —
- しも (霜)
 館 失莫 14 霜 —
 使 失母 10 霜 —
 字 失母 10 霜 —
 信 什嚙 11 霜 —
 見 失木 11 霜 —
- しも (下)
 館 失莫 55, 560 下 —
 使 世莫 53 下 —
 字 世莫 53 下 —
 信 昔着 50 下 —
 見 使木 52 下 —
- しもつき (十一月)
 館 失木多及 99 十一月 —
 使 失木都及 86 十一月 —
 字 失木都及 86 十一月 —
- しもべ (僕)
 信 濃殺 316 僕 —
- しもんめ (四匁)
 館 深買每 540 四錢 —
 使 深買每 371 肆錢 —
 字 申買每 360 四錢 —
 信 申買每 558 四錢 —
- じやう (鎖)
 館 撒舍 236 鎖 —

- 379, 593 不曉的 民那一哇
- 使 失只 585 知道 一
- 586 付荅 一
- 587 回賜 一
- 失藍 594 不知道 一子
- 使 失達 270, 397 曉的 一哇
- 271 不曉的 民納一哇
- 失知 398 知道 一
- 399 付荅 一
- 400 回賜 一
- 失監 406 不知道 一子
- 字 識達 266 曉得 一哇
- 識之 382 知道 一
- 失監 268 不曉得 一
- 失藍 390 不知道 一子
- 信 識達 398 曉得 一哇
- 識之 588 知道 一
- 失藍 399 不曉得 一
- 失藍 589 不知道 一子
- 見 失之 204 曉得 一
- 失藍 205 不曉得 一
- しろ (城)
- 館 遶 37, 185 城 一
- 姑速姑 199 皇城 一
- 使 遶 36 城 一
- 谷僧谷 154 皇城 一
- 字 遶 36 城 一
- 窟宿孤 151 皇城 一
- しろ (白)
- 館 失祿 466 錫 一加尼
- 使 失祿 333 錫 一加尼
- 字 石碌 333 錫 一嗑尼
- 信 失六 252 酒盃 一加泥
- ⁽⁷²⁾ 右碌 501 錫 一咯膩
- しろがね (錫)
- 館 失祿加尼 466 錫 一
- 使 失祿加尼 333 錫 一
- 字 石碌嗑尼 333 錫 一
- 信 失六加泥 252 酒盃 一
- ⁽⁷²⁾ 右碌咯膩 501 錫 一
- しろし (白)
- 翻 시루사 si·ru·sa 27 面白 卒라
- 루 一
- 信 稀羅殺 578 白 一
- 見 失魯殺 378 白 一
- しんか (臣下)
- 信 沈噶 294 大臣 一
- 見 声咯 136 臣子 一
- しんし (真使?)
- 館 申思 287 正使 一
- 318 琉球正使 倭及那一
- 使 申司 205 正使 一
- 字 申司 202 正使 一
- 信 申司 290 正使 一
- しんせき (親戚)
- 信 喂街 317 親戚 一
- 見 喂街 153 親戚 一
- しんちゆう (真鑰)
- 見 井口 363 錢 一
- ㊦
- す (巢)
- 翻 𠂇sa 112 弓袋 이우미누一
- 113 箭袋 이야누一
- す (酢)
- 翻 𠂇우sa·'u 92 醋 一
- す (為)
- 翻 𠂇레sa·rjoi 79 做飯 오바리一
- 館 是 322 拜 排一
- 失 388, 581 請來 子蓋一

是立 372 作揖 撒哇立—
 使 是 223 拜 排—
 失 237 請來 子蓋—
 是札 265 作揖 撒哇利—
 字 失之 221 拜 𠵼—
 235 請來 子蓋—
 十之 261 作揖 利—
 之 389 辛苦 南及—
 信 吸之 383 朝貢 密加妳—
 失之 408 請來 子—

す〈助動〉〈使役〉

翻 𠵼sa 21 不要饋他喫 아리 로마—
 라
 세sjoi 22 小饋他喫 예제나구
 로마—

字 舍 387 說慌 由沽辣—
 信 舍 593 說謊 由沽辣—

ず〈助動〉〈打消〉

翻 란ran 16 無甚麼好下飯 사가나
 무아라비—루모

館 子 594 不知道 失藍—
 子 406 不知道 失監—
 使 監 268 不曉得 失—
 蘭 385 不見 迷—
 子 390 不知道 失藍—
 信 籃 399 不曉得 失—
 藍 582 不曉得 乞介—
 蘭 595 不見 迷—
 子 589 不知道 失藍—
 見 藍 205 不曉得 失—

すいくわ (西瓜)

見 西刮 350 西瓜 —

すいし (酸) ?

翻 쉬샤 sui·sja 103 酸 —
 信 閱爽殺 571 酸的 —

見 西殺 372 酸 —

すぎ (杉)

信 思鷄 134 杉木 —

すくなし (少)

翻 예제나구 joi·kjoi·na <ra> ·ku
 22 小饋他喫 —로미세

信 一革拉殺 544 少 一又速都
 速都 544 少 一革拉殺又—

すず (錫)

見 息子 366 錫 —

すずし (涼)

翻 손다사 san·ta·sa 50 涼快 —

すずめ (雀)

館 思孫乜 161 雀 —

使 孫思乜 133 雀 —

字 由門都里 133 雀 —

信 由門多里 174 雀 —

すずり (硯)

翻 𠵼즈리 sa·ca·ri 107 硯 —

館 孫思立 235 硯 —

孫司立 274 硯瓦盒 —法个

使 孫思利 182 硯 —

字 孫司利 179 硯 —

信 思子里 272 硯 —

見 息子利 288 硯 —

すずりばこ (硯箱)

館 孫司立法个 274 硯瓦盒 —

すな (砂)

館 是那 39 沙 —

使 是那 38 沙 —

字 是那 38 沙 —

信 是擲 37 沙 —

見 息拉 39 沙 —

すほう (蘇芳)

館 思哇 129, 497 蘇木 —

思合 506 蘇合藥 一約
 使 司哇 109 蘇木 一
 字 司哇 109 蘇木 一
 信 司哇 153 蘇木 一
 すほうやく (蘇芳葉) ?
 館 思合約 506 蘇合藥 一
 すみ (墨)
 翻 𠂔𠂔 sa・mi 108 墨 一
 館 思墨 233 墨 一
 使 思墨 180 墨 一
 字 司默 177 墨 一
 信 細米 270 墨 一
 司墨 397 勅書 倭眉脚都一
 見 思密 286 墨 一
 すみ (学問) (墨)
 信 西米 579 念書 一那那容
 見 西米 381 念書 一那喇的
 すみ (炭)
 翻 𠂔𠂔 sa・mi 139 炭 一
 すむ (濟) ?
 館 密 436 飽了 哇那一撒
 すもも (李)
 信 色莫莫 138 杏 一
 ㊦
 せき (咳)
 信 失几 361 傷風 哈那一
 見 失機 193 傷風 哈那一
 せち (節)
 見 失子 86 節 一
 せちく (節句)
 館 些姑 82 節 一尼集
 使 些谷 75 節 一尼即
 字 些谷 75 節 一尼即
 信 些谷 74 節 一尼即
 せちくにち (節句日)

館 些姑尼集 82 節 一
 使 些谷尼即 75 節 一
 字 些谷尼即 75 節 一
 信 些谷尼即 74 節 一

せに (錢)

館 熟尼 467 錢 一
 支尼 468 鈔 一
 使 熟尼 334 錢 一
 支尼 335 鈔 一
 字 惹尼 334 錢 一
 支尼 335 鈔 一
 信 支膩 502 鈔 一

せばし (狹)

信 一伯殺 548 狹 一

せん (千)

館 森 549 一千个 一那
 551 千歳 一那
 使 森 380 壹千箇 一那
 382 千歳 一那
 字 森 370 千歳 一那
 信 先 533 千 一
 森 568 千歳 一那

せん (錢)

信 層 498 錢 一一
 537 錢 一

せんだう (船頭) (勢頭)

館 先度 309 大使臣 一

せんべつ (餞別)

字 司眉日尸 254 下程 一
 信 司眉日尸 395 下程 一

㊦

そてつ (蘇鉄)

信 靴底子 149 鳳尾蕉 一

そふぼ (祖父母)

信 五虎之 296 祖 一

そろばん (算盤)

信 山姆盤 224 算盤 一
見 述奴班 242 算盤 一

因

た (助動) (過去)

館 達 206, 340 入朝 大立葉密一
378, 584 曉的 失一哇
379, 593 不曉的 民那失一哇
使 達 239 入朝 大立葉密一
270, 397 曉的 失一哇
271 不曉的 民納失一哇
字 達 237 入朝 大立葉密一
266 曉得 識一哇
信 達 377 入朝 大立葉密一
398 曉得 識一哇

だい (台)

翻 대tai 138 卓子 타기一
館 代 217 卓 一
使 代 164 卓 一
字 代 161 卓 一
信 苔 249 燭簽 乱思古一

だい (大)

館 大 289 唐人 一^(マ)力那必周
296 大唐人 一^(マ)力那必周
297 大明人 一苗必周
300 大明皇帝 一苗烏的每
303 大唐大人 一刀那安周
342 大明一苗
使 大 207 大唐人一刀那必周
214 大明帝王 一苗倭的每
字 大 204 唐人 一刀那必周
216 大明帝主 一苗倭都每

たいし (大使)

館 大使 284 長史 一
315 琉球長使 倭及那一

たいふ (太夫)

館 太福 283 大夫 一
314 琉球大夫 倭及那一
使 大福 201 大夫 一
字 太福 198 大夫 一
信 大福 286 大夫 一
見 帖夫 131 大夫 一

だいら (内裏)

館 大立 205, 341 見朝 一葉亦及
206, 340 入朝 一葉密達
使 大立 238 見朝 一葉亦急
239 入朝 一葉密達
字 大立 236 見朝 一葉亦急
237 入朝 一葉密達
信 大立 377 入朝 一葉密達

たう (唐)

館 ^(マ)力 289 唐人 大—那必周
296 大唐人 大—那必周
刀 303 大唐大人 大—那安周
使 刀 207 唐人 大—那必周
字 刀 204 唐人 大—那必周
信 叨 321 唐人 一濃周
見 馱 130 唐人 一樓周虚毒

たか (鷹)

館 達嗑 148 鷺 一
達个 155 鷺 一
178 鴻鷹 一
使 荅嗑 120 鷺 一
荅嗑 127 鷺 打一
字 荅嗑 127 鷺 打一
信 荅嗑 169 鷺 打一

たか (高)

翻 타기tha·ki <ka> 138 卓子 一叫
館 塔嗑 191 樓 一^(マ)惡
使 塔嗑 148 樓 一牙

字 塔噓 147 樓 一牙
 たかだい (高台)
 翻 타기대 *tha·ki* 〈ka〉·tai 138 卓
 子 一
 たかや (高屋)
 館 塔噓⁽⁴⁷⁾ 191 樓 一
 使 塔噓牙 148 樓 一
 字 塔噓牙 147 樓 一
 たけ (竹)
 館 達及 113 筍 一
 114 竹 一
 408 竹布 一木綿
 使 達急 95 竹 一
 96 筍 一
 296 竹布 一木綿
 字 達急 95 竹 一
 96 筍 一
 290 紵布 一木綿
 信 托几 125 竹 一
 打吉 126 筍 一
 見 他吉 248 竹籠 一踢依盧
 たけかご (竹籠)
 信 古衣八古 231 竹籠 一
 見 他吉踢依盧 248 竹籠 一
 たけもめん (竹木綿)
 館 達及木綿 408 竹布 一
 使 達急木綿 296 竹布 一
 字 達急木綿 290 紵布 一
 たち (太刀)
 館 達只 212 刀 一
 484 倭刀 一
 使 荅知 159 刀 一
 346 倭刀 一
 たち (達)
 見 待 163 徒弟 波子人 一

たつ (龍)

翻 타즈 *tha·ca* 166 龍 一
 館 達多 138 龍 一
 使 達多 110 龍 一
 字 達多 110 龍 一
 信 達都 154 龍 一

たつ (發) (立)

翻 타제 *tha·cjo* 8 你幾時離了本国
 우라인즈시마—기
 탈제 *that·cjo* 9 我旧年正月起身
 환구조쇼용과즈—
 館 達的 323 興 烏一唆亦
 達只 348 立住 一外立
 使 達里 224 興 吾一唆亦
 荅只 242 立住 一歪立
 榻知 391 起身 一亦急
 392 起去 一亦急
 393 起来 一
 407 明早起身 阿者速多蜜
 的 一
 字 荅止 240 立住 一歪立
 榻支 391 起身 一
 信 荅止 380 立住 一歪立
 榻支 602 起身 一
 見 塔低 256 燻簽 羅一

たね (種)

翻 다리 *ta·ri* 〈ni〉 93 芥末
 난—카다시

たばこ (煙草)

信 塔八孤 465 煙 一
 見 塔八孤 338 煙 一

たび (足袋)

館 都姑⁽⁴⁷⁾ 398 襪 一
 使 都谷⁽⁴⁷⁾ 285 襪 一
 字 ?木多 281 襪 一

- 信 塔弼 443 襪 一
見 塔必 324 襪 一
たふば (塔婆)
館 塔把 187 塔 一
たま (玉・珠)
館 達馬 243, 496 香珠 稿一
470 珠 一
472 瑪瑙 烏馬那一
473 珊瑚 亞馬那一
474 珍珠 一
476 水晶 民足一
477 玉石 一亦石
479 囉子 一
503 珊瑚珠 亞馬那一
達^(マ)尼 502 瑪瑙珠 烏馬那一
使 達馬 337 珠 一
339 瑪瑙 吾馬那一
340 珊瑚 牙馬那一
341 珍珠 一
342 水晶 民足一
343 玉石 一衣石
字 撻馬 337 珠 一
339 珍珠 一
342 水晶 血子一
343 玉石 一^(マ)
達馬 340 瑪瑙 吾馬那一
341 珊瑚 牙馬那一
信 撻馬 504 珠 一
509 玉石 一石
達馬 506 瑪瑙 吾馬那一
507 珊瑚 牙馬那一
508 水晶 血子一
見 塔麻 293 玉帶 一烏比
撻馬 367 玉 一
たまいし (玉石)
館 達馬亦石 477 玉石 一
使 撻馬衣石 343 玉石 一
字 撻馬一 343 玉石 一
信 撻馬一石 509 玉石 一
たまおび (玉帶)
見 塔麻烏比 293 玉帶 一
たむけ (手向)
館 林斤 364 下程 一
使 林斤 258 下程 一
信 拾奴吉之 355 採花 一
たらひ (盥)
館 大籟 219 盒 一
254 食羅 一
257 木盆 一
269 水筒 民足一
使 大籟 166 盆 一
字 大籟 163 盆 一
信 塔里 202 浴桶 克一
他里 217 面桶 他古又一
他阿喇 230 湯盆 一
大籟 258 盆 一
汗你及里 243 面盆 一
見 塔阿來 236 面桶 此喇一
大籟 274 盆 一
たんぜい (丹青)
翻 탄경 than・chjong 157 青 一
㊦
ち (地)
翻 지ci 64 地 一
65 地平正 一마송고
館 只 25 地 一尼
使 只 24 地 一尼
字 只 24 地 一尼
信 池 24 地 一
見 齒 25 地 一

ち(血)?

館 結 135 血蝎 糟奴—
495 血結 糟那—

信 着 353 痛 阿格—

ち(乳)

信 齊 425 奶 —

見 耻 309 奶 —

ちう(紬)

館 柔 395 紬 —

使 柔 281 紬 —

字 柔 277 紬 —

ちかし(近)

館 集加撒 47, 558 近 —

60 路近 密集奴—

使 即加撒 45 近 —

字 即加撒 45 近 —

見 恥喀撒 44 近 —

ちち(父)

翻 아사 'a · sja 4 你的父親有麼 우
라—아리

館 阿舍 294 父親 —多

使 阿舍 210 父親 —都

使 一更加烏牙 207 父親 —

信 会儿噶烏耶 298 父 —

靴羅買 331 爹 —

見 烏吉喀奴屋牙 138 父 —

ちひさし(小)

信 枯殺 302 小 —

見 枯撒 172 小 —

ちや(茶)

翻 차 chja 100 燒茶 —와가시

館 札 105, 429 茶 —

365 筵宴 —半失

440 喫茶 昂乞立—

447 喫筵宴 昂乞立—半失

使 札 88, 304 茶 —

259 筵宴 —半失

312 喫茶 昂乞利—

字 札 88, 302 茶 —

255 筵宴 —半失

311 喫茶 —安急弟

茶 191 茶鍾 —麻加里

信 札 117, 472 茶 —

396 筵宴 —半失

茶 236 茶鐘 —碗

見 茶 253 茶鍾 —碗

345 茶 —

ちやうし(長史)

使 丈思 202 長史 —

字 丈司 199 長史 —

信 丈史 287 長史 —

見 芍匙 134 匣圈 —

ちやうじ(丁香)

館 ⁽⁷⁷⁾胡失 131 丁香 —

朝失 488 丁香 —

ちやうらう(長老)

館 朝老 293 長老 —

ちやばんじ(茶飯事)

館 札半失 365, 447 筵宴 —

使 札半失 259 筵宴 —

字 札半失 255 筵宴 —

信 札半失 396 筵宴 —

ちやまかり(茶碗)

字 茶麻加里 191 茶鍾 —

ちやわん(茶碗)

信 茶碗 236 茶鍾 —

見 茶碗 253 茶鍾 —

ちよくし(勅使)

見 察姑事 132 長史 —

ちよくしよ(勅書)

- 館 着姑少 367 勅書 —
 使 着谷少 260 勅書 —
- ぢよらう (女郎)
 信 俗里 311 妓 —
- ぢんかう (沈香)
 館 定稿 132, 489 沈香 —
 ちんずみかう (沈水香)
 館 申自密稿 130, 490 速香 —
- ㊦
- ついたち (湖)
 翻 취타지 chui · tha · ci 11 初三日
 —
 信 之搭之 87 初一 —
 89, 90, 91, 92, 93, 94,
 95, 96 初~ —~
 痘 107 二十一 瞎子介 —
 見 之搭之 99 初一 —
 101, 102, 103, 104, 105,
 106, 107, 108 初~ —
 ~
- ついたちいつか (初五日)
 信 之搭之一子介 91 初五 —
 見 之搭之一之憂 103 初五 —
- ついたちこのか (初九日)
 信 之搭之哭古魯 95 初九 —
 見 之搭之酷古盧喀 107 初九 —
- ついたちとをか (初十日)
 信 之搭之士介 96 初十 —
 見 之搭之突喀 108 初十 —
- ついたちなのか (初七日)
 信 之搭之挪介 93 初七 —
 見 之搭之南喀 105 初七 —
- ついたちみか (初三日)
 信 之搭之密介 89 初三 —
 見 之搭之密憂 101 初三 —
 ついたちむいか (初六日)
 信 之搭之美介 92 初六 —
 見 之搭之美憂 104 初六 —
 ついたちやうか (初八日)
 信 之搭之鴉介 94 初八 —
 見 之搭之約喀 106 初八 —
 ついたちよか (初四日)
 信 之搭之咱介 90
 見 之搭之咱喀 102 初四 —
- つうじ (通事)
 館 度日 286 通事 —
 304, 317 都通事 —
 使 度日 204 通事 使
 字 通資 201 通事 —
 信 通資 289 通事 —
 見 吐㊦ 133 通事 —
- つかふ (遺)
 館 子蓋 338, 581 請来 一失
 使 子蓋 237 請来 一失
 字 子蓋 235 請来 一失之
 信 子⁽⁷⁷⁾ 408 請来 一失之
- つかむ (摺)
 字 嗑子密的 257 拿来 一枯
 信 子烘 345 拳頭打 蹄—
 見 子拱 180 拳頭 蹄—
- つき (月)
 翻 ㄹ기 ca · ki 60 這月 高月—
 館 都及 3 月 —
 多及 99 十一月 失木—
 101, 102 閏月 烏奴烏—
 103, 104 閏~ 烏奴烏—~
 使 都急 3 月 —
 都及 86 十一月 失木—
 字 都急 3 月 —

都及 86 十一月 失木—
 信 子急 3 月 —
 見 此吉 3 月 —
 つぐ (注)
 信 之既 225 油蓋 雖—
 磁之 246 水注 関子—
 見 子吉 243 油蓋^(ママ) 思—
 つくる (造)
 館 茲孤立 276 討修缸隻 福尼—
 つじ (頂)
 翻 춘지chan・ci 66 山頂 사노—
 つじ (辻)
 見 失汁 68 辻 —
 つち (土)
 館 是只 26 土 —
 使 足只 25 土 —
 字 足只 25 土 —
 信 足池 25 土 —
 見 齒至 26 土 —
 つと (夙)
 館 速多 77 早 —
 使 速多 70 早 —
 字 速多 70 早 —
 つとめて (夙) (早朝)
 翻 스토미다sto・mui・ti 43 清早 —
 館 速多密的 88, 363, 381, 447 早
 起 —
 595 明日起身 阿者—
 揚只
 使 速多密的 257 早起 —
 407 明早起身 阿者—
 榻知
 字 速都密的 253 早起 —
 速囑圖 391 明早起身 阿者—
 榻支

信 速都密的 394 早起 —
 速囑拖枚 602 明早起身 阿者—
 榻支
 つな (綱)
 信 争拿 228 索 —
 見 此那 245 索 —
 つの (角)
 館 祖奴 171 牛角 烏失—
 184 犀牛角 烏失—
 267 角帶 一乞角必
 482 犀角 烏失—
 使 祖奴 142 牛角 吾失—
 345 犀角 吾失—
 字 祖奴 141 牛角 吾失—
 信 左奴 182 牛角^(ママ) 元 失—
 祖奴 511 犀角 吾失—
 つばめ (燕)
 館 麻達喇哀茲 179 紫鴈 —
 つぼ (壺)
 信 之叺 220 瓦罐 —
 つま (妻) (刀自)
 館 眠多木 307 妻 —
 使 眠多木 218 妻 —
 字 同之 211 妻 —
 信 拖厨 304 妻 —
 見 吐止 145 妻 —
 つゆ (露)
 館 秃有 24 露 —
 使 秃有 13 露 —
 字 秃有 13 露 —
 信 秃有 15 露 —
 見 七欲 15 露 —
 つら (面) (顔)
 翻 즈라ca・ra 26 面紅 一루아개사
 27 面白 一루시루사

차라 chA·ra 142 面 —

信 思答 344 下人洗面 —阿来来

見 此辣 179 下人洗面 —阿来

此喇 236 面桶 —塔阿来

つる (鶴)

館 思禄 167 仙鶴 —

260 銀鶴 南者—

262 金鶴 孔加尼—

使 司禄 139 仙鶴 —

字 司禄 138 仙鶴 —

信 司禄 179 仙鶴 —

つる (弦)

翻 조누 co·nu <ru> 114 弓弦 이우 미누—

館 秃奴 215 弦 —

使 秃奴 162 弦 —

字 子奴 159 弦 —

信 子奴 256 弦 —

見 子魯 272 弦 —

つる (釣)

館 独立的 176 釣魚 亦窩—

て (手)

翻 티 thi 148 手 —

館 帖 455 手 —

使 帖 322 手 —

字 剃 321 手 —

信 蹄 345 拳頭打 —子烘

419 手 —

見 蹄 180 拳頭 —子拱

304 手 —

て (接助)

翻 디 ti 23 尽了 미나란—

37 雪住了 유키퍼린—

데 tjoì 32 天陰了 턴구모—

33 天晴了 턴파리—

34 下雨 아미플—

35 雨晴了 아미파린—

39 日頭上了 턴다양간—

제 cjoì 11 纔到這裏 길—

40 日頭落了 턴다야스며잇

—
쳐 chjo 24 請裏頭要^(ママ)子 우지바라왜
—아슴비

館 的 17, 73 陰 姑木—

18 晴, 74 陽 法立—

78 晚 約姑立—

176 釣魚 亦窩獨立—

232 字 開—

339, 389, 435 醉了 由—

358, 359 進~ 阿結—

369 好看 約達撒密—

只 356, 577, 578, 595 起~
揭—

574, 588 看 密—

585 知道, 586 付荅, 587
回賜 失—

使 的 17, 66 陰 姑木—

18 晴, 67 陽 法立—

71 晚 約姑里—

179 字 開—

252, 253 進~ 阿傑—

知 250 起来 揭—

391, 392, 393, 407 起~ 榻
—

398 知道, 399 付荅, 400
回賜 失—

只 389 看 蜜—

字 的 18 晴 法工^(ママ)—

67 陽 法立—

- 71 晚 約姑里—
 232 買 科—
 233 壳 屋—
 238 鞠躬 曲尸麻平—
 249 進表 漂那阿傑—
 257 拿来 嚙子密—枯
 374 笑 瓦喇—
 376 叫 院—
 第 176 字 開—
 弟 311, 312, 313 喫~ 安急—
 之 221 拌 排失—
 235 請來 子盖失—
 261 作揖 利十—
 226 來 吃—
 382 知道 識—
 只 372 看 密—
 知 247 起來 揭—
 支 391 起身 榻—
 信 的 12, 13 下~ 福—
 19 起風 喀買福—沾
 20, 65 陰 姑木—
 21 晴, 66 陽 法力—
 352 疼 呀—
 354 洗東西 阿約—
 358 病 牙—
 367 買 科—
 368 壳 屋—
 374 瘦 捱—
 375 肥 滑—
 378 鞠躬 曲尸麻平—
 390 進表 漂那阿傑—
 598 笑 瓦喇—
 600 叫 院—
 帝 349 大醉 威—
 350 睡 殷—
 得 403 拿来 一一姑
 執 214 竹 兀—
 兄^(??) 346 打 烏—
 之 355 採花 拾奴吉—
 356 行路 阿—
 357 等待 末—
 359 生 一吉—
 383 朝貢 密加妹吸—
 408 請來 子失—
 388 起來 揭—
 552 滿 抵子密—
 588 知道 識—
 直 360 死 失—
 支 602 起身 榻—
 見 的 12, 13 下~ 福—
 20 陰 窟木—
 21 晴 花力—
 177 洗浴 阿美—
 182 脫衣 輕花子—
 186 起來 烏機—
 187 疼 呀—
 190 病 呀—
 196 買 科—
 197 壳 屋—
 201 瘦 挨—
 202 肥 快—
 381 念書 西米那喇—
 387 笑 瓦喇—
 蒂 184 醉 威—
 185 睡 寧—
 已 62 圍水 蜜子哇答—
 64 渡 混利哇搭—
 63 行船 混利□兀已
 之 188 行路 阿—
 189 等待 麻—

- 191 生 亦吉—
204 曉得 失—
止 183 殺 枯魯—
直 192 死 失—
- てい (亭)
信 堤 192 亭 —
320 主人 —就
見 梯 168 主人 —述
提 214 亭 —
- ていし (梯子)
信 條書 194 措 乞齊窰書又咯咂—
- ていしゆ (亭主)
信 堤就 320 主人 —
見 梯述 168 主人 —
- てぬぐひ (手拭)
見 梯殺子 318 手巾 —
- てん (天)
翻 ṭhjon 31, 32, 33 天 —
館 甸尼 1, 17, 18 天 —
使 甸尼 1, 17, 18 天 —
字 甸尼 1 天 —
甸泥 17, 18 天 —
信 町 1, 20, 21 天 —
廳 208 天平 —馬蒼白
見 廳 1, 20, 21, 22 天 —
- てんがはら (天河)
見 廳哈阿拉 22 天河 —
- てんびん (天秤)
信 廳馬蒼白 208 天平 —
見 廳平 228 天平 —
- ㊦
- と (戸)
信 耶独可之 188 戸 —
見 花失利窟齒 211 戸 —
- と (門)
翻 ṭzjo 116 門 —
館 勤 188, 201, 202 門 —那
使 勤 145 門 —那
字 郁 144 門 —
信 濁 187 門 —
見 濁 210 門 —
- と〈格助〉?
館 多 294 父親 阿舍—
使 都 210 父親 阿舍—
- どう (胴) (身体)
翻 ㄊㄡˊ to·'u 141 身子 —
館 度 458 身 —
使 度 325 身 —
字 度 243, 324 身 —
信 度 384 平身 —漫思吾
搯 421 身 —
見 魯 306 身体 —
- どうかつき (茶器箱)?
館 溲嗑子及 253 茶鍾 —
使 溲嗑子急 192 茶鍾 —
- どうぎぬ (胴衣)
見 読間 66 巴麻 —
毒巾 328 汗衫 —
- とうぐわ (冬瓜)
信 失布衣 479 冬瓜 —
見 失布衣 351 冬瓜 —
- とうふ (豆腐)
信 托福 471 豆腐 —
見 拖福 344 豆腐 —
- とうろう (灯笼)
信 禿羅 216 灯 —
見 吐盧 235 灯 —
- とき (時)
館 吐及 79 時 —
使 吐急 72 時 —

字 吐急 72 時 —

信 吐吉 71 時 —

見 土吉 83 時 —

とくり (德利)

信 虧 248 酒壺 —奴

とこ (床)

館 墮个 221 床 —

使 墮各 168 床 —

字 墜各 165 床 —

どこ (何所)

翻 조마 ca · ma 1 你是那裏的人 우
라—피츄

とし (年)

翻 두시 tu · si 11 今年 子—

館 多失 81, 83, 102, 103 年 —

多少 380 年 —

吐失 550 一萬 麻柔—

552 萬萬歲 麻柔—

使 多失 74 年 —

吐失 381 壹萬箇 麻柔—

383 萬萬歲 麻油—

字 多失 74 年 —

吐失 369 一萬個 麻就—

371 萬萬歲 麻由—

信 多式 73 年 —

吐失 567 一萬個 麻孰—

569 萬萬歲 麻由—

見 土失 85 年 —

とづ (閉)

館 大葉罗 202 関門 勒那—

信 抵子密之 552 満 —

との (殿)

字 本 197 朝廷 倭—奴

とのうち (殿内)

信 全止 191 垣 —

とほし (遠)

館 它加撒 46, 61, 557 遠 —

使 它加撒 44 遠 —

字 它加撒 44 遠 —

信 土殺 41 遠 —迷

土古 42 近 —尼迷

見 徒撒 43 遠 —

とまり (泊)

見 土馬爺 67 泊 —

とも (友)

信 独需 308 朋友 —

見 慮失 148 朋友 —

とも (供)

信 土母 315 Y頭 —

見 塗末 165 僕 —

ども (接助)

翻 루모 ru 〈tu〉 · mo 16 無甚麼好

下飯 사카나무야라비란—

とら (虎)

翻 도라 to · ra 169 虎 —

館 它喇 139, 420 虎 —

478 琥珀 —

使 它喇 111 虎 —

344 琥珀 —

字 它喇 111 虎 —

信 土拉 155 虎 —

它喇 510 琥珀 —

とり (鳥) (鶏)

翻 투리 thu · ri 161 鶏 —

館 它立 147 鶏 —

180, 419 鶴頂 —那姑只

使 它立 119 鶏 —

144 鶴頂 —奴谷只

字 土地 119 鶏 —

它立 143 鶴頂 一奴谷只
 信 推 163 鷄 一
 拖立 184 鶴頂 一奴谷之
 どろ (泥)
 見 毒露 38 泥 一
 とを (十)
 館 吐 516, 517, 518, 519, 520, 521,
 522, 523, 524, 525, 526, 527,
 528, 529, 530, 531, 532, 533,
 534, 535 十~ 一~
 使 吐 357, 358, 359, 360, 361, 362,
 363, 364, 365, 366, 367 拾
 ~ 一~
 字 吐 356 十 一
 信 土 96 初十 之搭之一介
 拖 522 十 一子
 523 十一 一抵子
 見 突 108 初十 之搭之一喀
 とをいつつ (十五)
 館 吐亦^(マ)亦子 521 十五 一
 使 吐亦子子 362 拾伍 一
 とをか (十日)
 信 土介 96 初十 之搭之一
 見 突喀 108 初十 之搭之一
 とをここのつ (十九)
 館 吐姑姑奴子 525 十九 一
 とをななつ (十七)
 館 吐那那子 523 十七 一
 とをひとつ (十一)
 館 吐的^(マ)子 517 十一 一
 とをふたつ (十二)
 館 吐達子 518 十二 一
 とをみつ (十三)
 館 吐密子 519 十三 一
 とをむつ (十六)

館 吐木子 522 十六 一
 とをやつ (十八)
 館 吐甲子 524 十八 一
 とをよつ (十四)
 館 吐由子 520 十四 一
 どんす (緞子)
 信 動子 453 緞 一
 見 動子 330 緞 一
 な (名)
 翻 나na 3 姓 一
 な (菜)
 翻 난nan 93 芥末 一다리카다시
 な (終助) (禁止)
 翻 라ra (na) 21 不要他喫 아리 로마
 一
 な (終助) (勧誘)
 翻 나na 15 好下飯 오사가라一
 ない (助動) (打消)
 館 乃 383 且慢走 烏乞立一
 使 耐 274 且慢走 烏其利一
 信 尼 42 近 土古一迷
 ながかんざし (長簪)
 見 那喀^(マ)饑花 267 女長簪 一
 ながし (長)
 館 那噓失 48 長 一
 使 拿噓失 46 長 一
 字 拿噓失 46 長 一
 信 拿夾殺 43 長 一
 那夾殺 545 長 一
 見 那喀撒 45 長 一
 那喀 267 女長簪 一饑花
 なかば (半)
 信 納加那 539 一半 一
 なぎなた (長刀)

- 館 那及那達 244 滾刀 一
なく (泣)
字 那其 375 啼 一
信 那其 599 啼 一
見 那及 388 啼 一
なく (難)
館 那及 244 滾刀 一那達
なし (無)
館 乃 328, 572 無 一
及⁽⁷⁷⁾ 591 有無 阿立一
使 乃 231 無 一
404 有無 阿力一
字 妳 230 無 一
奈 386 不閑 漫畵一
信 你嬾 584 無 一
なた (鈞)
館 那達 244 滾刀 那及一
なだね (菜種)
翻 난다리 nan・ta・ri 〈ni〉 93 芥末
—카다시
なたねからし (菜種辛子)
翻 난다리카다시 nan・ta・ri 〈ni〉・
kha・ta 〈ra〉・si 93 芥末
—
なつ (夏)
翻 날즈 nat・ca 53 夏 一
館 那都 66 夏 一
那多 409 夏布 一木綿
使 拿都 59, 295 夏 一
字 拿都 59, 289 夏 一
信 約之 58 夏 一
見 那即 72 夏 一
なつめ (棗)
館 那多也 116 棗 一
使 那都也 97 棗 一
字 那都也 97 棗 一
信 那多也 127 棗 一
なつもめん (夏木綿)
館 那多木綿 409 夏布 一
使 拿都木綿 295 夏布 一
字 拿都木綿 289 夏布 一
ななつ (七)
館 那那子 513, 523, 533 七 一
使 拿拿子 354, 364 七 一
字 拿納子 353 七 一
信 納納子 519 七 一
なに (何)
翻 루옥 ru 〈nu〉・'uk 28 這箇叫甚
麼子 구릭야—가
なにと (如何)?
翻 란도 rat 〈nan〉・to 13 如何 一
なのか (七日)
信 挪介 93 初七 之搭之一
見 南喀 105 初七 之搭之一
なべ (鍋)
翻 나비 na・pwi 130 鍋兒 一
信 那脾 218 鍋 一
見 那倍 237, 238 鍋 一
なべふた (鍋蓋)
見 那倍弗答 238 鍋蓋 一
なま (生)
信 那没 480 生薑 一燒介
ならふ (習)
信 那那容 579 念書 西米一
見 那喇的 381 念書 西米一
ならぶ (並)
館 那喇別 346 擺着 一
なり (也)
字 押里 373 閑 漫畵一
信 押里 592 閑 漫畵一

なる (成)

翻 란 더 rat <nat> · ti 23 酒尽了
사기미나—

なんぎ (難儀)

字 南及 389 辛苦 一之

信 南及 597 辛苦 一之

なんじゃ (銀) (南鐐)

館 南者 260, 261, 265, 273, 423,
463 銀—

使 南者 330 銀 —

字 南者 330 銀 —

見 南夾 362 銀 —

なんじゃばこ (銀箱) (南鐐箱)

館 南者法个 273 銀粉盒 —

㊦

に (二)

館 寧 90 二月 一哇的

尼 538 二錢 一買每

使 寧 77 二月 一哇的

尼 369 貳錢 一買每

字 寧 77 二月 一哇的

尼 358 二錢 一買每

信 膩 76, 109, 110, 111, 112, 113,
114, 115 二~ ——

泥 98, 108 二~ ——

尼 556 二錢 一買每

見 膩 88, 110, 125, 126, 127 二~
——

泥 120, 121, 122, 123, 124 二
~ ——

に (荷)

見 列 223 棹 —

に (格助)?

館 尼 25 地 只—

使 尼 24 地 只—

字 尼 24 地 只—

にがし (苦)

翻 리가사 ri <ni> · ka <kja> · sa
102 苦 —

にくわつ (二月)

館 寧哇的 90 二月 —

使 寧哇的 77 二月 —

字 寧哇的 77 二月 —

信 膩括子 76 二月 —

見 膩刮止 88 二月 —

にがりざけ (濁酒)

翻 링마나사기 rig <nig> · ka · na <ri> ·
sa · kui 71 白酒 —

にごる (濁)

翻 링마나 rig <nig> · ku · na <ri> 71
白酒 —사기

にし (西)

館 尼失 57, 330, 416, 562, 592 西
—

使 尼失 55, 301, 405 西 —

字 尼失 55, 300 西 —

信 尼失 52, 591 西 —

見 逆失 54 西 —

にし (螺)

信 子善拉 495 海獅 —

にじふ (二十)

信 膩徂 109, 110, 111, 112, 113, 114,
115, 542 二十~ ——

見 泥肉 120 二十~ ——

泥蓐 121, 122, 123, 124 二十~
—— 膩蓐 125, 126, 127,
二十~ ——

にじふくにち (二十九日)

信 膩徂苦苦泥子 115 二十九 —

見 膩蓐酷泥止 127 二十九 —

- にじふごにち (二十五日) 125, 126, 127, 128 ~—
- 信 膩祖姑泥子 111 二十五 —
- 見 泥藤古泥止 123 二十五 —
- にじふさんにち (二十三日)
- 信 膩祖三泥子 109 二十三 —
- 見 泥藤三泥止 121 二十三 —
- にじふしちにち (二十七日)
- 信 膩祖失之泥子 113 二十七 —
- 見 膩藤失止泥止 125 二十七 —
- にじふににち (二十二日)
- 見 泥肉泥泥止 120 二十二 —
- にじふはちにち (二十八日)
- 信 膩祖瞎之泥子 114 二十八 —
- 見 膩藤滑止泥止 126 二十八 —
- にじふよか (二十四日)
- 信 膩祖哨介 110 二十四 —
- 見 泥藤^(ア) 喀 122 二十四 —
- にじふろくにち (二十六日)
- 信 膩祖六姑泥子 112 二十六 —
- 見 泥藤魯古泥止 124 二十六 —
- にしもめん (西木綿)
- 館 尼失木綿 416 西洋布 —
- 使 尼失木綿 301 西洋布 —
- 字 尼失木綿 300 西洋布 —
- にち (日)
- 館 尼集 82 節 些姑—
- 使 尼即 75 節 些谷—
- 字 尼即 75 節 些谷—
- 信 尼即 74 節 些谷—
- 泥子 97, 98, 99, 100, 101, 102, 103, 104, 105, 108, 109, 111, 112, 113, 114, 115, 116 ~—
- 見 泥止 109, 110, 111, 113, 114, 115, 116, 117, 120, 121, 123, 124,
- ににち (二日)
- 信 泥泥子 98, 108 二 —
- 見 膩泥止 110 十二 藤—
- 泥泥止 120 二十二 泥肉—
- にな (蝻)
- 館 密洋 182 大海螺 一殼
- 444 螺蝨肉 一失失
- には (庭)
- 信 膩滑 193 園—
- 見 逆哇 215 園—
- にもんめ (二匁)
- 館 尼買每 538 二錢—
- 使 尼買每 369 貳錢—
- 字 尼買每 358 二錢—
- 信 尼買每 556 二錢—
- にゆうかう (乳香)
- 館 由稿 492 乳香—
- にら (韭)
- 翻 비나 pi·na <ra> 97. 葱 葱—
- ぬ (ぬ)
- ぬぐ (脱)
- 信 化子榮 347 脱衣 輕—
- 見 花子的 182 脱衣 輕—
- ぬくし (温)
- 翻 룡사ruk <nuk> · sa 48 暖和—
- ぬくむ (温)
- 翻 루구미ru <nu> · ku · mi 51
- 向火 火—
- ぬし (主)
- 館 奴失 377 聖旨 由奴—
- 使 奴失 272 聖旨 由奴—
- 字 奴失 267 聖旨 由奴—
- 信 奴失 400 聖旨 由奴—
- ぬの (布)

館 奴々 406 綿布 一木綿
 使 奴奴 294 綿布 木綿
 字 奴奴 288 綿布 一木綿
 信 奴奴 457 布 一
 458 綿衣 一木綿
 見 奴奴 333 布 一

ぬのもめん (布木綿)

館 奴々木綿 406 綿布 一
 使 奴奴木綿 294 綿布 一
 字 奴奴木綿 288 綿布 一
 信 奴奴木綿 458 綿衣 一

ぬるし (温)

館 奴禄撒 72 暑 一
 使 奴禄撒 65 暑 一
 字 奴禄撒 65 暑 一
 信 奴羅殺 64 暑 一

㊦

ね (鼠)

翻 비주 pi·cju 164 老鼠 오야—
 館 聶 154 鼠—
 使 聶 126 鼠—
 字 聶 126 鼠—
 信 聶 168 鼠—

ねぎ (葱)

翻 김비나 kig·pi·na (ra) 97 葱 一

ねどこ (寢床) ?

信 閑札古 215 床 一

ねぶる (眠)

館 眠不立 334 睡 一
 使 眠不里 236 睡 一
 字 眠不里 234 睡 一

ねる (粘)

館 以立 431 麵 一蒙乞
 使 以利 306 麵 一蒙已

ねん (年)

翻 년 njon 62 開年 마우—

館 年 84, 104 明年 苗—

㊦

の (格助) (主格)

翻 루 ru (nu) 26 面紅 즈라—아개사
 27 面白 즈라—시루사
 로 ro (no) 29, 30 心腸~기모—~

館 那 12 電 波得—
 188, 201, 202 ~門 勒—~

奴 17, 18 天~ 甸尼—~

60, 61 路~ 密集—~

使 那 14 電 波得—

奴 17, 18 天~ 甸尼—~

字 那 14 電 波得—~

奴 17, 18 天~ 甸尼—~

信 奴 20, 21 天~ 町—~

の (格助) (属格)

翻 노 no 63 拜年 소옹과즈—파

66 山頂 사—춘지

67 山底 사—시자

로 ro (no) 80 大米飯 코메—오반리

81 小米飯 아와—오반리

루 ru (nu) 86 鹿肉 카우—시시

누 (nu) 112 弓倍 이우미—스

113 箭倍 이야—스

114 弓弦 이우미—조누

館 ① 奴 30, 62 厓馬—/121, 122,
 123 花孫—/135 槽—/181

喇姑—/246, 270, 271 烏馬—

/299 厓馬—/377 由—/417

噓—

那 108 一及/111 馬足—/169,

183, 481 噓也—/180 它立—

279, 280, 281, 312, 319 敖

—/289, 296 大^(ㄴ)力—/303

大刀—/302, 349 噓得—/357
 噓的—/419 它立—/472, 502
 烏馬—/473, 503 亞馬—/495
 糟—/549, 551 森—
 農 288 失—
 使 奴 29 牙馬—/104 花孫—/144
 它立—/200 倭每—/213 亞馬
 —/272 由—
 那 94 馬足—/141 噓也—/198,
 199, 220 敖—/207 大刀—
 /215, 245, 251 噓得—/293
 法拿—/339 吾馬—/340 牙馬
 —/380, 382 森—
 拿 91 一急
 農 208 失—
 字 奴 29 牙馬—/143 它立—/196
 倭—/197 倭本—/246 吾一加
 每—/267 由—
 那 140 噓—/204 大刀—/217
 敖—/218, 248 噓得—/340
 吾馬—/341 牙馬—/370 森—
 拿 91 一急/94 馬足—
 農 205 失—
 諾 306 由—/307 皿其—
 信 奴 184 拖立—/248 虧—/284 倭
 —/285 倭每—/324 平素—
 /325 喂既—/387 吾加—每—
 /400 由—
 那 121 一吉/124 賀子—/181
 喀也⁽⁷⁷⁾—/203 倭里—/339 噓
 得—/389 喀得—/340 敖—
 /506 吾馬—/507 牙馬—/568
 森—
 拿 133 嘔梅—/137 莫莫—

內 233 沙四—
 見 奴 138 烏吉喀—/139 圖那圖—
 樓 130 馱—

のぎ (鯁)

字 諾其 319 牙 —
 信 諾其 426 牙 —

のぶ (伸)

館 奴必約 351 平身 个失烏—
 使 奴必約 246 平身 各失吾—

のむ (飲)

翻 로마 ro <no> · ma 21 不要饋他喫
 아리—스라
 로마 ro <no> · mi <ma> 22 小饋
 他喫 예제나구—세
 누미 nu · mi 73 飲酒 —

ㄹ

하 (齒) (牙)

翻 파 pha 153 牙齒 —
 館 華 168, 475 象牙 糟—
 453 牙 —
 使 華 140 象牙 查查—
 320 牙 —
 字 扒 327 齒 —
 其 139 象牙 噓冷—
 信 番 205 牙刷 一嘔脚鷄母魯
 夸 417 齒 —
 見 滑 302 齒 —

하 (葉)

館 尼 119 葉 —
 使 尼 102 葉 —
 字 尼 102 葉 —
 信 豁 119 葉 —

하 (副助)

翻 와 oa 3 你的姓甚麼 우라나—이갸이우가
 야 ja 28 這箇叫甚麼子 구릭—루육가

- 館 哇 15, 85 今日 交—
 390 今日御前謝恩 交—惡亞
 密温普姑立
 327, 569 你 烏喇—
 329, 570 我 昂—
 387 我醉了 昂—由的
 374 方物 木那—
 378, 584 曉的 失達—
 379, 593 不曉的 民那失達—
- 使 哇 228 你 吾喇—
 229 我 昂—
 267 方物 木那—
 270, 397 曉的 失達—
 271 不曉的 民納失達—
- 字 哇 262 方物 木那—
 266 曉得 識達—
- 信 哇 398 曉得 識達—
 406 方物 木那—
- はい (拝)
- 翻 拜 phai 63 拜年 쇼용과스노—
 館 排 322 拜 —是
 使 排 223 拜 —是
 字 冊 221 拜 —失之
- ばう (坊) ?
- 館 包 288 師父 失農—
 使 包 208 師父 失農—
 字 褒 205 師父 失農—
 信 褒 336 師父 失農—
- ばう (棒)
- 信 琿 201 棹 —
- はうき (箒)
- 翻 掃帚 pho·'o·ki 131 箒 —
 信 火氣 222 掃箒 —
 見 和吉 240 掃箒 —
- ばうず (坊主)
- 館 包子 292 和尚 —
 使 飽子 209 和尚 —
 字 褒子 206 和尚 —
 信 巴子 326 和尚 —
- はうちやう (庖丁)
- 信 和着 209 刀 —
 見 和竹 229 刀 —
- はうめい (報名)
- 館 包名 360 報名 —
 使 包名 254 報名 —
 字 包名 250 報名 —
 信 包名 391 報名 —
- はかま (袴)
- 翻 袴 pho·ka·ma 134 袴兒 —
 信 哈加馬 435 褲子 —
 哈加 444 衫子 —
 見 花喀馬 317 褲子 —
- はかり (秤)
- 信 法介依 207 戥子 —
 見 花喀依 227 戥子 —
- はこ (箱)
- 館 法个 241, 272, 273, 274 ~ 盒
 ~ —
- 使 法各 188 香盒 福—
 字 法各 185 香盒 福—
 信 阿哥 242 箱 科阿里—
 哥八 245 匣 —
 法名^(???) 276 香盒 福—
 見 滑谷 259 箱子 —
 262 匣 —
- はし (橋)
- 館 扒只 41 橋 —
 197 御橋 —
 使 松^(???)只 40 橋 —
 扒只 153 御橋 —

- 字 扒只 40 橋 —
 150 御橋 —
- 見 花失 61 橋 —
- はし (箸)
- 翻 피지phi <pha> · si 123 筋 —
 館 扒只 227 筋 —
 使 扒只 174 筋 —
 字 麥匙 171 筋 —
 信 壳生 232 筋 —又皮爬尖
 見 花失 249 筋 —
- はしご (梯子)
- 信 咯咂 194 階 乞齊究書又一條書
- はしら (柱)
- 翻 斗나pha · nja <rja> 140 柱 —
 館 花時 223 桅 —
 使 花時 170 樟 —
 字 花時 167 樟—
 信 花時 261 桅 —
 見 花失辣 276 桅 —
- はす (蓮)
- 館 花孫 121, 122, 123 蓮~ —~
 使 花孫 104 蓮花 —奴法拿
 字 花孫 104 蓮花 —法拿
 信 臨 131 蓮花 —
- ばせう (芭蕉)
- 信 巴拉 140 芭蕉 —
 百索 451 夏短衣 —景
 巴殺 482 蕉寔 —那
 見 巴殺 354 蕉寔 —那衣
- ばせうぎぬ (芭蕉衣)
- 信 百索景 451 夏短衣 —
- はち (八)
- 館 法只 96, 544 八~ —~
 使 法只 83, 375 八~ —~
 字 法只 83 八月 —哇的
- 法止 364 八錢 —買每
- 信 賭之 82, 104, 114 八~ —~
 河汁 530 八十 —租
 法之 562 八錢 —買每
- 見 賭知 94 八月 —刮止
 滑之 116 十八 蓐—泥止
 滑止 126 二十八 膩蓐 —泥止
- はち (鉢)
- 翻 파지pha · ci 127 木貼是 —
 팔지phat · ci 132 火盆 斗—
 館 扒只 218 盤 —
 使 扒只 165 盤 —
 字 扒只 162 盤 —一名桶盤
 桶盤 162 盤 扒只一名—
 見 花止 260 磁盤 —
- はちぐわつ (八月)
- 館 法只哇的 96 八月 —
 使 法只哇的 83 八月 —
 字 法只哇的 83 八月 —
 信 賭之括子 82 八月 —
 見 賭知刮止 94 八月 —
- はちじふ (八十)
- 信 河汁租 530 八十 —
- はちにち (八日)
- 信 賭之泥子 104 十八 坐—
 114 二十八 膩租—
- はちもんめ (八匁)
- 館 法只買每 544 八錢 —
 使 法只買每 375 捌錢 —
 字 法止買每 364 八錢 —
 信 法之買每 562 八錢 —
- はつか (二十日)
- 信 賭子介 106, 107, 108, 二十 —
 見 賭子咯 118, 119 二十 —
- はつかつたち (二十一日)

- 信 瞎子介痘 107 二十一 —
見 瞎子略止 119 二十一 —
はつかににち (二十二日)
信 瞎子介泥泥子 108 二十二 —
はな (花)
翻 파라 pha·ra <na> 154 花 —
館 法那 106, 123, 240, 266, 407, 426,
花 —
425 織金綵段 孔加尼—恕
思
使 法拿 89, 104, 187 花 —
293 彩段 —那恕司
字 法拿 89, 104 花 —
拋拿 184 花瓶 —
292 綵段 —^(??)畚受里
信 豁那 118, 143 花 —
拋拿 275 花瓶 —
見 花那 291 花瓶 —炳
はな (鼻)
翻 파나 pha·na 144 鼻 —
館 花那 454 鼻 —
使 花那 321 鼻 —
字 拋拿 320 鼻 —
信 豁納 414 鼻 —
哈那 361 傷風 —失儿
見 花納 299 鼻 —
哈那 193 傷風 —失機
はなかせ (鼻風邪)
信 哈那失儿 361 傷風 —
見 哈那失機 193 傷風 —
はなしゆす (花繻子)
館 法那恕思 407 彩段 —
使 法拿那恕司 293 彩段 —
字 拋拿^(??)畚受里 292 綵段 —
はなつ (放)
字 旧六戸 260 放下 —
信 由六戸 404 放下 —
はなびん (花瓶)
館 法那飄 240 花瓶 —
使 法拿飄 187 花瓶 —
見 花那炳 291 花瓶 —
はは (母)
館 阿^(??)七 295 母親 —
使 阿^(??)七 211 母親 —
字 囃男姑吾牙 208 母親 —
信 会南姑烏耶 312 母 —
阿姆買 332 娘 —
見 囃那囃奴囃呀 139 母 —
はひ (灰)
見 懷 40 灰 —
はべり (侍)
翻 라빅란 rja·pui·ran 16 無甚麼好
下飯 사가나무아—루모
はやし (早・速)
館 七^(??)姑 324 走 —亦及
排姑 384 上緊走 亦及
使 七^(??)姑 335 走 —
排姑 275 上緊走 —亦急
字 迫姑 223 走 —其
排姑 270 上緊走 —亦急
信 迫姑 363 走 —^(??)甚
排姑 371 上緊走 —亦急
見 准姑 199 上緊走 —亦急
はる (春)
翻 파루 pha·ru 52 春 —
館 法祿 65 春 —
使 法祿 58 春 —
字 法 58 春 —
信 哈羅 57 春 —
見 花魯 71 春 —

はる (晴)

翻 파리데 pha·ri·tjoi 33 天晴了 턴—
파릴데 pha·rit·tjoi 35 雨晴了 아의

피릴디 phi (pha)·rit·ti 37 雪住了
유기—

館 法立的 18 天晴 甸尼奴—
74 陽 —

使 法立的 18 天晴 甸尼奴—
67 陽 —

字 法⁽⁷⁷⁾工的 18 天晴 甸泥奴—
法立的 67 陽 —

信 法力的 21 天晴 町奴—
66 陽 —

見 花力的 21 天晴 廳—
藥 78 陽 —

はる (原) (畑)

信 巴羅 36 泥 —

はん (半)

信 汗你 243 面盆 —及里

㊦

ひ (日) (陽)

翻 턴다 thjon·ta 38, 39, 40 日頭

信 飛 2 日 —

見 虛 2 日 —

ひ (火)

翻 피 phi 132 火盆 —판지

信 皮 232 筋 壳生又—爬失

ひ (緋)

字 畵 274 段 —受⁽⁷⁷⁾里
292 綵段 拋拿—受⁽⁷⁷⁾里

ひえし (寒) ?

館 必垂撒 69 冷 —

使 辟牙撒 62 冷 —

字 辟牙撒 62 冷 —

信 晦殺 61 冷 —

見 灰撒 75 冷 —

ひがし (東)

館 加尼 56, 333, 561, 592 東 —

使 加失 54 東 —

加尼 405 東西 —尼失

字 加失 54 東 —

加尼 384 東西 —尼失

信 窟之 51 東 —

加尼 591 東西 —尼失

見 熏喀失 53 東 —

ひきで (引出)

館 非近的 355, 389 賞賜 —
373 給賞 —

使 非進的 249 賞賜 —

非近的 266 給賞 —

ひげ (髭)

館 品乞 461 胡子 —

使 品其 328 鬍子 —

字 品其 326 鬚 —

328 鬍子 胡—

信 非凡 418 鬚 —

見 虛及 303 鬍 —

ひさく (柄杓)

信 你波 199 木杓 —

弥坵 221 瓢 —

見 你不 221 木杓 —

ひざまづく (跪)

館 非撒慢多及 320 跪 —

使 非撒慢都急 221 跪 —

字 匹舍蛮資 219 跪 —

ひしゆす (緋縐子)

字 畵⁽⁷⁷⁾受里 274 段 —

292 綵段 團拿—

- ひじゆるし (冷) ?
- 館 必角禄撒 71 寒 —
 使 辟角禄撒 64 寒 —
 字 辟角禄撒 64 寒 —
 信 辟角羅殺 63 寒 —
- ひたひ (額)
- 信 失脚衣 427 額 —
 見 虚渣衣 310 額 —
- ひだり (左)
- 館 分達立 52, 567 左 —
 使 分達里 50 左 —
 字 分達里 50 左 —
 信 分搭里 47 左 —
 見 團團團 49 左 —
- ひだるし (飢)
- 館 垂撒 437 飢了 —
- ひぢ (肘)
- 信 非之 430 臂 —
- ひつじ (羊)
- 翻 비자자 pi·ca·cja 163 羊 —
 館 非多只 157 羊 —
 使 非都知 129 羊 —
 字 匹牝嗑 129 羊 —
 信 皮着 170 羊 —
- ひと (人)
- 翻 피츄 phi·chju 1, 2 人 —
 피초 phi·cjo 29, 30 人 —
 館 必周 289, 296, 297, 298, 299,
 316 人 —
 使 必周 207, 212, 213 人 —
 字 必周 204, 215 人 —
 信 周 321, 324, 325 人 —
 必周 337, 338 人 —
 見 虚毒 129, 130, 169, 170 人 —
- ひとつ (一)
- 翻 부데즈 pu·tjoi·ca 17 請一鍾酒
 사과—아과라
 館 的子 507, 517, 527 — —
 使 的子 348, 358 壹 —
 字 的子 347 — —
 信 抵子 513, 523 — —
- ひばし (火箸)
- 信 皮爬失 232 筋 壳生又一
- ひばち (火鉢)
- 翻 피판지 phi·phat·ci 132 火盆 —
- ひま (暇)
- 字 漫畺 373 閑 —押里
 386 不閑 —奈
 信 謾囟 592 閑 —押里
- ひも (紐)
- 字 為那 284 帶 —
- びようぶ (屏風)
- 館 飄布 238 屏風 —
 使 飄布 185 屏峯 —
 字 飄布 182 屏風 —
 信 飄布 274 屏風 —
 見 妙不 290 屏風 —
- ひやく (百)
- 館 必垂姑 547 十兩 —就每
 548 一百兩 —
 使 辟牙谷 378 拾兩 —就每
 辟牙姑 379 壹百兩 —
 字 撒姑 367 十兩 —每
 撒牙姑 368 一百兩 —每
 信 夏古 532 一百 —
 撒姑 565 十兩 —每
 撒牙姑 566 一百兩 —
- ひやくじふ (百十)
- 館 必垂姑就 547 十兩 —每
 使 辟牙谷就 378 拾兩 —每

ひやくじふもんめ (百十匁)

館 必重姑就每 547 十兩 一
使 辟牙谷就每 378 拾兩 一

びやくだん (白檀)

館 別姑旦 133, 493 壇 一

びやくだんかう (白檀香)

館 別姑旦稿 493 檀香 一

ひやくもんめ (百匁)

字 撒姑每 367 十兩 一
撒牙姑每 368 一百兩 一
信 撒姑每 565 十兩 一

ひようへん (永片)

館 兵卞 486 片腦 一

ひる (昼)

翻 피루phi·ru 47 向日 一
信 皮羅 67 昼 一
見 虛魯 79 昼 一

ひる (蒜)

翻 피루pui·ru 98 蒜 一
信 非徒 477 蒜 一
見 灰魯 349 蒜 一

ひるま (昼間)

翻 필마phir·ma 44 晌午 一

ひろし (広)

信 非羅殺 547 潤 一

びん (瓶)

館 飄 220, 240 瓶 一
使 飄 167, 187 瓶 一
字 平 164 瓶 ^(??) 匹胡一
信 平 259 瓶 四胡一
見 並 265 酒壺 撒吉一
炳 275, 291 瓶 一



ぶ (分)

信 風 538 分 一

ふうし (夫子)

見 夫子 162 師父 食芍亦云一
ふく (吹)

館 福祿姑 16 起風 噓集一

使 福祿姑 16 起風 噓濟一

字 福祿沾 16 起風 噓濟一

信 福的 19 起風 咯買一

見 弗吉 19 起風 噓子一

ふく (葺)

見 弗吉 217 瓦房 哈喇一牙

ふくし (副使) ?

館 付思 290 副使 一

使 付司 206 副使 一

字 付司 203 副使 一

信 付司 291 副使 一

見 呼匙 135 副使 一

ふた (蓋)

信 福大 219 鍋蓋 一

見 弗答 238 鍋蓋 那倍一

ふた (豚)

翻 오와o·'oa 87 猪肉 一시시

우와u·'oa 160 猪 一

館 烏哇 149 猪, 150 驢, 151 騾

使 吾哇 121 猪, 122 驢, 123 騾

字 哇 121 猪, 122 驢, 123 騾

信 呀媽失失 165 猪 一

ふたつ (二)

館 達子 508, 518, 526, 528, 529, 530,
531, 532, 533, 534, 535

使 荅子 349, 359, 367 貳 一

字 荅子 348 二 一

- 信 打子 514 二 —
- ふたつとを (二十)
- 館 達子吐 526 二十 —
- ふたつとをいつつ (二十五)
- 館 達子吐亦^(マ)亦子 531 二十五 —
- ふたつとをここのつ (二十九)
- 館 達子吐姑姑奴子 535 二十九 —
- ふたつとをななつ (二十七)
- 館 達子吐那那子 533 二十七 —
- ふたつとをひとつ (二十一)
- 館 達子吐的^(マ)子 527 二十一 —
- ふたつとをふたつ (二十二)
- 館 達子吐達子 528 二十二 —
- ふたつとをみつ (二十三)
- 館 達子吐密子 529 二十三 —
- ふたつとをむつ (二十六)
- 館 達子吐木子 532 二十六 —
- ふたつとをやつ (二十八)
- 館 達子吐甲子 534 二十八 —
- ふたつとをよつ (二十四)
- 館 達子吐由子 530 二十四 —
- ふつか (二日)
- 信 福子介 88 初二 —
- 見 福子憂 100 初二 —
- ふで (筆)
- 翻 폰디^(マ)phun · ti 109 筆 —
- 館 分帖 231 筆 —
- 使 分帖 178 筆 —
- 字 忿嚏 175 筆 —
- 信 夫的 269 筆 —
- 見 弗的 285 筆 —
- ふとん (蒲団)
- 信 福冬 442 褥子 —
- 烏独 438 被 —
- 見 福冬 323 褥子 —
- 烏独 319 被 —
- ふね (船)
- 翻 푸라^(マ)phu · ra <na> 12 江口 —도도
- 館 福尼 222, 246, 247, 276 舡 —
- 使 福尼 169 船 —
- 字 莆尼 166 船 —
- 信 胡你 223 船 —
- 莆泥 260 船 —
- 見 混利 63 行船 —□兀巳
- 64 渡 —哇搭巳
- 弗你 241 舡 —
- ふばこ (文箱)
- 使 福法各 188 香盒 —
- 字 福法各 185 香盒 —
- 信 福法^(マ)名 276 香盒 —
- ふみ (文)
- 館 福密 230 書 —
- 使 福蜜 177 書 —
- 字 佐詩 174 書 —
- ふゆ (冬)
- 翻 푸유^(マ)phu · ju 55 冬 —
- 館 由福 68 冬 —
- 使 由福 61 冬 —
- 字 由福 61 冬 —
- 信 灰嗜 60 冬 —
- 見 弗欲 74 冬 —
- ふる (降)
- 翻 폰데^(マ)phut · tjo 34 下雨 아미—
- 푸리^(マ)phu · ri 36 下雪 유기—
- 館 福禄 19 下雨 噓也—
- 20 下雪 由乞—
- 使 福禄 19 下雨 噓也—
- 20 下雪 由其—
- 字 福禄 19 下雨 噓也—
- 20 下雪 由旗—

信 福的 12 下雨 阿梅—
 13 下雪 又急—
 見 福的 12 下雨 阿霞—
 13 下雪 欲吉—

ふるひ (篩)

翻 孚引phu·rui 124 篩 —



へ (格助) (方向)

館 葉 205, 341 見朝 大立—亦及
 206, 340 入朝 大立—密達

使 葉 238 見朝 大立—亦急
 239 入朝 大立—密達

字 葉 236 見朝 大立—亦急
 237 入朝 大立—密達

信 葉 377 入朝 大立—密達

へう (表)

館 漂 354 表章 —那
 358 進表 —那阿結的

使 彪 248 表章 —烏
 漂 252 進表 —那阿傑的

字 彪 245 表章 —烏
 園 249 進表 —那阿傑的

信 彪 386 表章 —烏
 漂 390 進表 —那阿傑的



ほ (帆)

館 賀 226 ^(マ)蓬 —

使 賀 173 篷 —

字 賀 170 篷 —

信 賀 264 篷 —

見 呼 280 篷 —

ほう (帽)

使 帽 287 帽 —

ほうし (帽子)

字 園東 283 帽 —

信 毛疽 446 纓 —

見 膜子 315 帽 —

ほうわう (鳳凰)

館 夫窩 162 鳳凰 —

使 ^(マ)失窩 134 鳳凰 —

字 呼窩 134 鳳凰 —

信 呼窩 175 鳳凰 —

ほこらし (誇)

字 福古喇殺 386 喜歛 —

ほこり (埃)

館 活个立 40 灰 —

使 活各力 39 灰 —

字 活各力 39 灰 —

信 活各力 38 灰 —

ほこり (誇) ?

館 普姑立 350, 382, 390 謝恩 密
 温—

使 普古里 244, 273 謝恩 密温—

字 卜姑里 242, 273 謝恩 温—

園古里 263 給賞 烏園園—

信 卜姑里 382, 401 謝恩 密温—

谷古里 405 給賞 烏鵲没—

ほさつ (菩薩)

信 菩薩 143 扶桑花 —豁那

ほさつばな (菩薩花)

信 菩薩豁那 143 扶桑花 —

ほし (星)

館 波失 9 星 —

使 波世 9 星 —

字 波世 9 星 —

信 夫矢 4 星 —

見 弗失 4 星 —

ほぞ (臍)

信 哭素 428 臍 —

見 呼述 311 臍 —

- ほつけん (北絹)
- 館 活見 394, 420, 421 絹 —
410 官絹 —
414 倭絹 —
- 使 活見 282 絹 —
298 官絹 —
300 倭絹 —
- 字 ^(マ)舌見 279 絹 —
活見 294 官絹 —
295 倭絹 —
- 信 活見 456 絹 —
- ほでり (電)
- 館 波得 12 電 —那
使 波得 14 電 —那
字 波得 14 電 —那
信 賀的 10 電 —
見 福札 10 電 —
- ほん (本)
- 館 盆 359 進本 —那阿結的
使 盆 253 進本 —那阿傑的
- ほん (盆)
- 字 盤 162 盤 扒只一名桶 —
- ㊦
- ま (真)
- 翻 마 ma 90 塩 —시오
信 麻 470 塩 —蝦
見 麻 343 塩 —叔
- ま (?)
- 使 馬 277 再叩頭 麻達嗑藍子其一
- まう (既)
- 館 那 436 飽了 哇—密撤
- まうきん (網巾)
- 館 網巾 402 網巾 —
使 ^(マ)網巾 290 ^(マ)網巾 —
字 ^(マ)君望 297 網巾 —
- 信 網巾 460 網巾 —
- まかり (碗)
- 翻 마가리 ma·ka·ri 125 梳子 —
- 館 麻加立 237 碗 —
268 金鍾 孔加尼—
- 使 麻佳里 184 碗 —
麻加里 195 金鍾 孔加尼—
- 字 ^(マ)麻雀里 181 碗 —
麻加里 191 茶鍾 茶—
192 金鍾 孔加尼—
- 信 麦介衣 237 飯碗 —
麻佳里 279 金杯 孔加泥—
- 見 麼喀倚 254 飯碗 翁班—
- まぎり (間切)
- 信 間切 55 府 —
見 圃吉歴 57 府 —
- まく (幕)
- 翻 마구 ma·ku 118 帳 —
- まく (曲)
- 字 麻平的 238 鞠躬 曲戸—
信 麻平的 378 鞠躬 曲戸—
- まくら (枕)
- 信 媽括 441 枕 —
見 媽寡 322 枕 —
- まご (孫)
- 信 姆馬嘴 297 孫子 —
見 烏麻喀 147 孫 —
- ますく (真直)
- 翻 마송고 ma·saŋ·ko 65 地平正 지—
字 漫思吾 243 平身 度—
馬訟沽 379 実話 —夷
信 漫思吾 384 平身 度—
馬訟沽 594 実話 —夷
- また (又) ?
- 館 馬達 386 再叩頭 一嗑藍子乞

- 使 麻達 277 再叩頭 一嗑藍子其馬
 字 麻達 272 再叩頭 一嗑藍子其
 信 麻達 376 再叩頭 一喀籃子其
- まつ (松)
- 館 馬足 110 松 一
 111 栢 一那及
 使 馬足 93 松 一
 94 栢 一那急
 字 馬足 93 松 一
 94 栢 一拿急
 信 質子 123 松 一
 124 栢 一那吉
- まつ (待)
- 字 慢的 269 且慢走 一
 信 末之 357 等待 一
 見 麻之 189 等待 一
- まづし (貧)
- 信 平素 324 貧 一奴周
 見 薰述 173 貧 一
- まつり (茉莉)
- 信 木一 148 茉莉 一乖
- まつりくわ (茉莉花)
- 信 木一乖 148 茉莉 一
- まど (窓)
- 翻 투오리 tho·'o·ri 115 窓 一
 館 慢多 189 窓 一
 使 慢多 146 窓 一
 字 牙 145 窓 一
 信 馬都 189 窓 一
 見 麻毒喀 212 窓 一
- まへ (前)
- 館 馬也 50 前 一
 馬也 565 前 一
 每 277 皇帝 倭的一
 282 朝廷 倭一奴
- 300 大明皇帝 大苗鳥的一
 301 萬歲皇帝 麻柔倭的一
- 使 馬也 48 前 一
 每 196 皇帝 倭的一
 200 朝廷 倭一奴
 214 大明帝王 大苗倭的一
- 字 馬也 48 前 一
 每 193 皇帝 倭的一
- 信 媽也 45 前 一
 每 281 皇帝 倭的一
 285 朝廷 倭一奴
 387 賞賜 吾加一奴
- 見 麦 47 前 一
- まめ (豆)
- 信 馬馬 481 黑豆 枯羅一
 見 馬閔 353 黑豆 枯魯一
- まめな (豆菜) ?
- 信 馬米那 484 豆牙菜 一
 見 馬米那 356 豆芽菜 一
- まゆ (眉)
- 館 馬由 450 眉 一
 使 馬由 317 眉 一
 字 馬由 316 眉 一
 信 壳由 411 眉 一
 見 麻由 296 眉 一
- まゆげ (眉毛)
- 館 不潔 460 眉毛 一
 使 不潔 327 眉毛 一
- まり (鞠)
- 信 馬一 603 拋球 一
- まん (万)
- 館 麻 301 萬歲皇帝 一柔倭的每
 550 一萬 一柔吐失
 552 萬萬歲 一柔吐失
 使 麻 381 壹萬箇 一柔吐失

383 萬萬歲 一油吐失
 字 麻 369 一萬個 一就吐失
 371 萬萬歲 一由吐失
 信 漫 535 萬 一
 麻 567 一萬個 一孰吐失^(マツ)
 569 萬萬歲 一由吐失

まんじゆ (万寿) ?

館 麻柔 301 萬歲皇帝 一倭の毎
 550 一萬 一吐失
 552 萬萬歲 一吐失
 使 麻柔 381 壹萬箇 一吐失
 麻油 383 萬萬歲 一吐失
 字 麻就 369 一萬個 一吐失
 麻由 371 萬萬歲 一吐失
 信 麻孰^(マツ) 567 一萬個 一吐失
 麻由 569 萬萬歲 一吐失

㊦

み (実)

館 米 121 蓮蓬 花孫奴一
 字 納里 305 菓 刻一
 信 乃 133 木頭 梅咄梅拿一
 137 桃 莫莫拿一
 那 482 蕉寔 巴殺一
 納里 487 菓 刻一
 見 那衣 354 蕉寔 巴殺一

み (蛇)

翻 파우^{pha}·mu 165 蛇 一
 館 密密 158 蛇 一
 使 密密 130 蛇 一
 字 密密 130 蛇 一
 信 密密 171 蛇 一

み (御)

館 密 350, 382, 390 謝恩 一温普
 姑立
 使 蜜 244 謝恩 一温普古里

273 謝恩 一温普谷里
 247 慶賀 一由歪利
 字 密 244 慶賀 一由烏牙
 273 謝恩 一温卜姑里
 眉 256 勅書 倭一脚都司墨
 信 密 385 慶賀 一由烏牙
 401 謝恩 一温卜姑里
 眉 397 勅書 倭一脚都司墨

みおんほこり (御御誇)

館 密温普姑立 350, 382, 390 謝恩
 一
 使 密温普古里 244 謝恩 一
 密温普谷里 273 謝恩 一
 字 密温卜姑里 273 謝恩 一
 信 密温卜姑里 401 謝恩 一

みか (三日)

信 密介 89 初三 之搭之一
 見 密夔 101 初三 之搭之一

みぎ (右)

館 民及立 53, 568 右 一
 使 民急里 51 右 一
 字 民急里 51 右 一
 信 名急里 48 右 一
 見 蜜吉歴 50 右 一

みじかかんざし (短簪)

見 因渣饑花 266 女短簪 一

みじかし (短)

館 密失^(マツ)那失 49 短 一
 使 密失^(マツ)拿失 47 短 一
 字 密失^(マツ)拿失 47 短 一
 信 陰夾殺 44, 546 短 一
 見 因夾撒 46 短 一
 因渣 266 女短簪 一饑花

みそ (味噌)

翻 叫^{mi}·sjo 91 醬 一

- 信 弥沙 467 醬 —
見 弥述 340 醬 —
みた (肘当?)
館 密達 275 鎖扶板 —
みち (道)
翻 미지 mi·ci 68 大路 오부—
69 小路 구—
館 密集 33, 60, 61, 64 路 —
196, 385 御路 —
198 母堀 —
209 御道 —
使 密集 32 路 —
151 御路 —
152 冊堀 —
蜜即 276 御路 —
字 密集 32 路 —
148 御路 —
149 丹堀 —
密即 271 御路 —
信 密之 32 路 —
密即 372 御路 —
見 蜜至 34 路 —
みちみち (道々)
翻 밀지밀지 mit·ci·mit·ci 13
一路上喫食如何 우라—아기모로란도
みつ (三)
館 密子 509, 519, 529, 536 三 —
使 蜜子 350, 360 参 —
字 彌子 349 三 —
信 乜子 515 三 —
みづ (水)
館 民足 31, 62, 64, 269, 434, 476
水 —
63 海洋 烏乜—
使 民足 30, 309, 342 水 —
字 民足 30 水 —
血子 342 水晶 —捷馬
信 関子 30, 246 水 —
血子 508 水晶 —達馬
見 媚吉 32 水 —
蜜子 62 水 —
梅子 263 水注 —利
みづいれ (水入)
見 梅子利 263 水注 —
みつき (貢)
信 密加姝 383 朝貢 —吸之
みづたま (水晶)
館 民足達馬 476 水晶 —
使 民足達馬 342 水晶 —
字 血子捷馬 342 水晶 —
信 血子達馬 508 水晶 —
みづたらひ (水盥)
館 民足大籟 269 水筒 —
みづつぎ (水注)
信 関子磁之 246 水注 —
みつとを (三十)
館 密子吐 536 三十 —
みづみち (水道)
館 民足密集 64 水路 —
みづをけ (水桶)
信 他古 217 面桶 —又他里
他喇古 244 盤 —
見 塔阿谷 220 担筩 —
224 浴桶 阿美—
みな (皆)
翻 미나 mi·na 23 酒尽了 사기—란다
館 民那 379, 593 不曉的 —失達哇
使 民納 271 不曉的 —失達哇
みなと (港)
翻 푸라모도 phu·ra <na>·mo·to 12

- 你初到江口是好麼 우라-징가
- 館 密乃度 27 江 一
- 使 密乃度 26 江 一
- 字 密乃度 26 江 一
- 信 密乃度 26 江 一
- みなみ (南)
- 館 米南米 58, 563 南 一
- 使 米南米 56 南 一
- 字 米南米 56 南 一
- 信 灰 53 南 一
- 見 閩那蜜 55 南 一
- みななる (尽)
- 翻 미나랄디 mi·na·rat (nat)·ti 23 酒
尽了 사과 一
- みね (嶺)
- 館 密乜 45 嶺 一
- みみ (耳)
- 翻 미 mi·(mi) 146 耳 一
- 館 眉 449 耳 一
- 使 眉 316 耳 一
- 字 米米 315 耳 一
- 信 你米 413 耳 一
- 見 密密 298 耳 一
- みや (宮)
- 信 迷耶 185 宮 一
- 見 密牙 208 宮 一
- みやうねん (明年)
- 翻 마우년 mja·'u·njon 62 開年 一
- 館 苗年 84, 104 明年 一
- みゆ (見)
- 字 迷蘭 385 不見 一
- 信 迷蘭 595 不見 一
- みゆわひ (御祝)
- 館 密由外立 352 慶賀 一
- 使 蜜由歪利 247 慶賀 一
- 字 密由烏牙 244 慶賀 一
- 信 密由烏牙 385 慶賀 一
- みる (見)
- 館 密達 206, 340 入朝 大立葉一
- 密只 388 不好看^(??) 吐 祿撒一
- 使 密達 239 入朝 大立葉一
- 蜜只 389 看 一
- 字 密達 237 入朝 大立葉一
- 密只 372 看 一
- 信 密達 377 入朝 大立葉一
- 妙母 580 看 一
- みん (明)
- 館 苗 297, 300, 342 大明 大一
- 使 苗 214 大明 大一
- 字 苗 216 大明 大一
- ㊦
- むいか (六日)
- 信 美介 92 初六 之搭之一
- 見 美憂 104 初六 之搭之一
- むぎ (麦)
- 館 蒙乞 431 麵 以立一
- 使 蒙巳 306 麵 以利一
- 字 皿其 307 麵 一諾沽
- むこ (婿)
- 信 母姑 295 女婿 一
- 見 慕穀 161 婿 一
- むしろ (蓆)
- 翻 모시루 mo·si·ru 119 蓆子 一
- むち (鞭)
- 館 不只 271 鞭子 烏馬奴一
- むつ (六)
- 館 木子 512, 522, 532 六 一
- 使 木子 353, 363 陸 一
- 字 畝子 352 六 一
- 信 姆子 518 六 一
- むつき (襠褲) ?

信 波着子 200 脚踏棉 —
むね (胸)

信 咄尼 424 胸 —
むら (村)

信 母喇 56 村 —

見 母拉 58 村 —

むらさき (紫)

見 木喇殺吉 379 (紫) —

㊦

め (目)

翻 뫼 mui 143 眼 —

館 乜 451 目 —

使 乜 318 目 —

字 乜 317 目 —

信 美 412 眼 —

見 美 297 眼 —

めす (召)

翻 오사카라 'o · sa · ka · ra 15 好下飯
— 나

信 三衣米 351 上人吃 — 小利

めん (麵)

館 以立蒙乞 431 麵 —

使 以利蒙已 306 麵 —

字 皿其諾沾 307 麵 —

㊦

も (裳)

翻 카마모 kha · ma · mo 135 裙兒 —

信 哇甲眉 462 裙 —

見 哇哇密 335 裙 —

もうせん (毛氈)

信 木心 440 氈單 —

見 木身 321 氈 —

もくかう (木香)

館 南木稿 128, 491 木香 —

もち (餅)

信 木之 485 餅 —

見 木之 357 餅 —

もつ (持)

館 莫只 368 拿来 一个

使 莫只 261 拿来 一个

もと (元)

翻 모도 mo · to 12 江口 平라—

もどる (戻)

館 慢多罗 207, 361 辞朝 —

362, 580 回去 —

使 慢多羅 255 辞朝 —

256, 394 回去 —

字 悶都里 252 回去 — 其

信 悶都里 393 回去 — 其

見 木毒利 206 回去 —

もの (物)

翻 모로 mo · ro <no> 13 喫食如何
아기—란도

館 莫那 258 舖盖 是及—

木那 374 方物 一哇

使 木那 267 方物 一哇

字 木那 262 方物 一哇

信 母魯 205 牙刷 205 番咄脚鷄—

木那 406 方物 一哇

摩奴 540 一樣 一奴—

見 ? 蒙羅 181 打架 —

ものがたり (物語)

字 麼奴嗑答里 265 言語 —

麼奴嗑達里 380 說話 —

信 麼奴喀答里 370 言語 —

麼奴喀達里 587 說話 —

見 木奴喀達里 384 說話 —

もめん (木綿)

館 木綿 396, 406, 408, 409, 416
布 —

- 使 木綿 283, 294, 295, 296, 301
布 —
- 字 ^(マ)木 280 布 —
木綿 288, 289, 290, 300 布 —
- 信 木綿 450 冬短衣 一景
- もめんぎぬ (木綿衣)
- 信 木綿景 450 冬短衣 一
- もも (桃)
- 信 莫莫 137 桃 一拿乃
- もも (腿)
- 信 膜膜 431 腿 一
- 見 木木 313 腿 一
- もめん (匁)
- 館 買每 537, 538, 539, 540, 541, 542,
543, 544, 545 錢 一
546 一兩 就一
每 547 十兩 必亜姑就一
- 使 買每 368, 369, 370, 371, 372, 373,
374, 375, 376 錢 一
377 壹兩 就 一
每 378 拾兩 辟牙谷就一
- 字 買每 357, 358, 359, 360, 361, 362,
363, 364, 365 錢 一
366 一兩 就一
每 367 十兩 撒姑一
368 一百兩 撒牙姑一
- 信 買每 555, 556, 557, 558, 559, 560,
561, 562, 563 錢 一
564 一兩 執一
每 565 十兩 撒姑一
- や
- や (矢)
- 翻 이야·i·ja 111, 113 箭 一
- 館 亜 213 箭 一
- 使 牙 160 箭 一
- 字 牙 157 箭 一
- 信 一牙 197 箭 一
- 見 依牙 219 箭 一
- や (家·屋)
- 館 ^(マ)惡 191 樓 塔噓一
- 使 牙 148 樓 塔噓一
- 字 牙 147 樓 塔噓一
152 館 館 一
- 信 耶 186 屋 一
牙 195 瓦房 哇喇亦 ^(マ)棄 一
- 見 牙 209 屋 一
217 瓦房 哈喇弗吉一
- やう (陽)
- 見 藥 78 陽 一
- やうか (八日)
- 信 鴉介 94 初九 之搭之一
- 見 約哇 106 初九 之搭之一
- やきいし (燒石)
- 館 亜及亦石 42 磚 一
- 使 牙及亦石 41 磚 一
- 字 牙及亦石 41 磚 一
- 信 呀及一什 39 磚 一
- やく (藥)
- 館 約 506 蘇合藥 思合一
- やく (燒)
- 館 亜及 42 磚 一亦石
- 使 牙及 41 磚 一亦石
- 字 牙及 41 磚 一亦石
- 信 呀及 39 磚 一—什
- やくわん (藥罐)
- 信 約慣 238 銅罐 一
- 見 壓光 255 銅罐 一
- やす (瘦)
- 信 捱的 374 瘦 一
- 見 挨的 201 瘦 一

やすむ (休)

翻 야스며 'ja · sa · mjɔ 40 日頭落了
턴다——잇제

字 由沾辨 387 · 說慌 一舍

信 由沾辨 593 說謊 一舍

やつ (八)

館 甲子 514, 524, 534 八 一

使 甲子 355, 356 捌 一

字 鴉子 354 八 一

信 呀子 520 八 一

やど (宿)

信 耶独 188 戶 一可之

やなぎ (柳)

信 現其 139 柳 一

야마 (山)

翻 사노 sa · no 66 山頂 一춘지

67 山底 一사자

館 亞馬 30 山 一奴

62 山水 一奴民足

473, 503 珊瑚 一那達馬

使 牙馬 29 山 一奴

349 珊瑚 一那達馬

字 牙馬 29 山 一奴

341 珊瑚 一那達馬

信 呀麻 29 山 一問字亦謔同麻音

牙馬 507 珊瑚 一那達馬

見 牙嗎 27 山 一

야まと (大和)

翻 야마도 'ja · ma · to 2 日本国的人 一
피츄

字 亞馬吐 215 日本人 一必周

信 亞馬吐 338 日本人 一必周

見 亞馬吐 169 日本人 一虛毒

야む (病) (痛)

信 呀的 352 疼 一

358 病 一

見 呀的 187 疼 一

190 病 一

야む (止)

館 揚密 583 不敢 一撒

使 楊蜜 396 不敢 一撒

字 揚密 383 不敢 一撒

信 揚密 590 不敢 一撒

見 揚密 385 不敢 一撒

야리 (槍)

館 亞立 216 鎗 一

使 牙立 163 鎗 一

字 牙立 160 鎗 一

信 牙立 257 鎗 一

見 挨 273 鎗 一

㉞

ゆ (湯)

字 由 306 粉 一諾沾

信 由 488 粉 一諾姑

ゆ (油)

信 雖 225 油蓋 一之既

見 思 243 油蓋 一子吉

ゆき (雪) ((靱))

翻 유기 ju · ki 36, 37 雪 一

館 由乞 8, 20 雪 一

使 由其 8, 20 雪 一

字 由旗 8, 20 雪 一

信 又急 9, 13 雪 一

見 欲吉 9, 13 雪 一

ゆく (行)

館 亦及 205, 341, 見朝 大立葉一
208, 325, 556, 578 去 一

324 走 乜姑一

384 上緊走 排姑一

577 起身 揭只一

- 使 亦急 226, 387, 392 去 —
 238 見朝 大立葉—
 275 上緊走 排姑—
 391 起身 榻知—
- 字 一其 223 走 迫姑—
 252 回去 悶都里—
 亦急 225 去 —
 270 上緊走 排姑—
- 信 一甚⁽⁷⁷⁾ 363 走 迫姑—
 一其 393 回去 悶都里—
 亦急 371 上緊走 排姑—
- 見 亦急 199 上緊走 准姑—
- ゆたか (豊)
- 信 喂既 325 富 一奴周
 見 喂格 174 富 —
- ゆつぎ (油注)
- 信 雖之既 225 油盞 —
 見 思⁽⁷⁷⁾子吉 243 油盞 —
- ゆのこ (湯子)
- 字 由諾沾 306 粉 —
 信 由諾姑 488 粉 —
- ゆび (指)
- 翻 오리키 'oi · pui 151 手指頭 —
 信 威彼 429 指頭 —
 見 威倍 312 指頭 —
- ゆふべ (夕)
- 翻 요삼비 'jo · sam · pui 45 晚夕
 —
- 信 有殺嘸的 70 晚 —
 見 邦 82 晚 —
- ゆみ (弓)
- 翻 이우미 i · 'u · mi 110, 112, 114
 弓 —
- 館 由密 214 弓 —
 使 由迷 161 弓 —
- 字 由也 158 弓 —
 信 憂米 196 弓 —
 見 欲密 218 弓 —
- ゆめ (夢)
- 信 一梅 373 夢 —
 見 亦梅 200 夢 —
- ゆわう (硫黄)
- 館 魚敖 485 硫黄 —
 使 魚敖 347 硫黄 —
 字 収末 346 硫黄 —
 信 油哇 512 硫黄 —
 見 由哇 369 硫黄 —
- ゆわふ (祝)
- 館 由外立 352, 380 慶賀 密—
 使 由歪利 247 慶賀 密—
 字 由烏牙 244 慶賀 密—
 信 由烏牙 385 慶賀 密—
- ㊦
- よ (夜)
- 館 約 78 晚 一姑立的
 使 約 71 晚 一姑里的
 字 約 71 晚 一姑里的
- よ (世)
- 館 由 377 聖旨 一奴々失
 使 由 272 聖旨 一奴々失
 字 由 267 聖旨 一奴々失
 信 由 400 聖旨 一奴々失
- よ (終助) (命令)
- 館 約 351 平身 个失烏奴必—
 使 約 246 平身 各失吾奴必—
 252 進表 漂那阿傑—
- よか (四日)
- 信 郁加 23 大後日 —
 哨介 90, 110 四 —
 見 欲哈 24 大後日 一阿撒的

嗜喀 102 初四 之搭之一

育喀 112 十四 蕨一

蕨喀 122 二十四 泥蕨一

よかさけ (良酒) (清酒)

翻 요가사기 jo·ka·sa·kui 72 清酒 一

よき (斧)

信 霞爽 229 斧頭 一

見 由吉 246 斧頭 一

よし (良)

翻 요다샤 jo·ta·sja 29 好 一

요가 jo·ka 72 清酒 一 사기

館 約達撒 335, 369, 588 好 一

使 約達撒 232, 262, 401 好 一

字 丘達撒 258 好看 一

信 優答殺 365 好 一

よつ (四)

館 由子 510, 520, 530 四 一

使 由子 351, 361 肆 一

字 由子 350 四 一

信 天子 516 四 一

よにち (四日)

信 嗜泥子 100 十四 之一

よぶ (呼)

字 院的 376 叫 一

信 柯北音 369 打更 一

院的 600 叫 一

よめ (嫁)

信 嗜美 303 弟婦 一

見 嗜美 146 婦 一

よる (夜)

翻 이우루 i·u·ru 46 黑夜 一

館 由禄 76 夜 一

使 由禄 69 夜 一

字 由禄 69 夜 一

信 嗜羅 68 夜 一

見 攸陸 80 夜 一

よる (寄) ?

使 約里 276 上御路 惡牙蜜即一

字 約里 271 上御路 惡牙蜜即一

信 約里 372 上御路 惡牙蜜即一

よる (作) ?

翻 요라리 jo·ra·ri 82 做下飯 사가나一

よろひ (鎧)

館 約罗亦 211 甲 一

使 約羅衣 158 甲 一

字 幼羅衣 155 甲 一

信 幼羅衣 255 甲 一

見 欲魯依 270 甲 一

㊦

ら (羅)

館 罗 393 羅 一

使 羅 280 羅 一

字 羅 276 羅 一

信 羅 455 羅 一

見 羅 332 羅 一

らいぐわつ (来月)

翻 네왕과즈 tjo·'oap·koa·ca 61

来月 一

らつこ (獵虎)

館 喇姑 181 海獺皮 一奴嚙哇

らふ (蠟)

信 乱 249 燭簽 一思古苔

見 羅 256 燭簽 一塔低

らふそく (蠟燭)

信 乱思古 249 燭簽 一苔

らふたて (蠟立)

見 羅塔低 256 燭簽 一

㊦

り (里)

信 利 554 里 一

りやう (兩)

信 聊茶切 536 兩 一

りゆうがん (龍眼)

館 隆暗 124 龍眼 一

使 龍暗 105 龍眼 一

字 龍暗 105 龍眼 一

信 客梗 132 龍眼 一

㊦

る (助動) (可能)

館 立 383 且慢走 烏乞一乃

使 利 274 且慢走 烏其一耐

信 藍 582 不聽得 乞介一

㊧

れい (礼)

字 利 261 作揖 一十之

れいぎ (礼儀)

信 礼及 341 作揖 一

見 礼及 176 作揖 一

れいし (荔枝)

館 立是 125 荔枝 一

使 利是 106 荔枝 一

字 利是 106 荔枝 一

信 利市 150 荔枝 一

れんこん (蓮根)

信 菱公 142 藕 一

㊨

ろ (槽)

館 罗 225 槽 一

使 羅 172 槽 一

字 羅 169 槽 一

信 羅 263 槽 一

見 爐 278 槽 一

ろ (炉)

館 炉 239 香炉 稿一

使 炉 186 香炉 稿一

字 炉 183 香炉 稿一

信 魯 204 風炉 一

炉 241 香炉 科一

見 魯 226 風爐 哈子一

ろく (六)

館 禄姑 94, 542 六 一

使 禄谷 81 六 一

373 陸 一

字 禄谷 81 六月 一哇的

六谷 362 六錢 一買每

信 六姑 80, 112, 560 六 一

六古 102, 528 六 一

見 六骨 92 六 一

魯古 114, 124 六 一

ろくぐわつ (六月)

館 禄姑哇的 94 六月 一

使 禄谷哇的 81 六月 一

字 禄谷哇的 81 六月 一

信 六姑括子 80 六月 一

見 六骨刮止 92 六月 一

ろくもんめ (六匁)

館 禄姑買每 542 六錢 一

使 禄谷買每 373 陸錢 一

字 六谷買每 362 六錢 一

信 六姑買每 560 六錢 一

㊩

わう (王)

館 敖 279, 280, 281, 312, 319 王
一那

使 敖 198, 199, 220, 王 一那

字 倭王 195 国王 一 嗑呐尸

倭 196 王子 一 奴鬱勃人誇

敖 217 王 一那

信 華 282 国王 哭泥一

倭 284 王子 一 奴鬱勃人誇

- 敖 340 王 一那
 わうがなし (王加那志)
 字 倭王噓呐尸 195 国王 一
 わかす (沸)
 翻 와가시 'oa · ka · si 18 湯酒 사기—
 100 燒茶 차—
 わく (分)
 翻 와가디 'oa · ka (ki) · ti 19 酒酒來
 사기—子
 わた (綿)
 見 哇答 334 綿衣 一利衾
 わたいれ (綿入)
 見 哇答一利 334 綿衣 一衾
 わたす (渡)
 見 哇答已 62 圖水 蜜子—
 哇搭已 64 渡 混利—
 わらふ (笑)
 字 瓦喇的 374 笑 一
 信 瓦喇的 598 笑 一
 見 瓦喇的 387 笑 一
 わらべ (童)
 信 歪拉培 334 小孩子 一
 見 哇辣比 159 小孩子 一
 哇辣倍 166 Y頭 烏那姑—
 われ (我)
 翻 𠵼 woan 2, 9, 11 我 一
 館 昂 329, 387, 570 我 一哇
 ? 哇 436 飽了 一那密撒
 使 昂 229 我 一哇
 字 尾奴 228 我 一
 信 穹 310 我 一嘔
 見 往 150 我 一
 わろし (惡)
 翻 요왈사 'jo · 'oar · sa 30 心腸互
 기모로—
 館 哇祿撒 332 互 一
 370, 589 不好 一
 吐祿撒 388 不好看 一密只
 使 哇祿撒 233 互 一
 263, 402 不好 一
 字 哇祿撒 231 互 一
 259 不好 一
 信 兇殺 366 不好 一
 見 控殺 195 不好 一
 わん (碗·椀)
 信 碗 236 茶鍾 茶—
 見 碗 253 茶鍾 茶—
 ㊦
 む (井)
 館 亦 35, 192 井 一噓喇
 使 依 34, 149 井 一噓喇
 字 依 34 井 一噓喇
 信 依 35 井 一喀喇
 見 喀 37 井 一
 むがはら (井河原)
 館 亦噓喇 35, 192 井 一
 使 依噓喇 34, 149 井 一
 字 依噓喇 34 井 一
 信 依喀喇 35 井 一
 むる (座)
 翻 유에리 'ju · 'oai · ri 25 平坐 마송고—
 信 ?兀執 214 竹片 一
 ㊦
 𠵼 (繪)
 館 葉 229 画 一
 使 葉 176 画 一
 字 葉 173 画 一
 信 夷夷 267 画 一喀之
 見 椅 283 画 一
 𠵼か (賞?)
 字 一加 · 246 賞賜 吾—每奴

信 加⁽¹⁷⁷⁾ 387 賞賜 吾一每奴

ゑかき (絵描)

信 夷夷喀之 267 画 一

ゑしやく (会釈)

館 撒哇立 372 作揖 一是立

使 撒哇利 265 作揖 是礼

ゑふ (酔)

翻 이우디 'i·'u·ti 76 酒醉了 사그一

館 由的 339, 435 醉了 一

387 我醉了 昂哇一

信 威帝 349 大醉 一

見 威蒂 184 醉 一

〔卷〕

を (夫)

信 戸多 305 夫 一

見 烏毒 144 夫 一

を〈格助〉〈目的〉

館 烏 351 平身 个失一奴必約

那 354 表章 漂一

358 進表 漂一阿結的

359 進本 盆一阿結的

使 吾 246 平身 各失一奴必約

烏 248 表章 彪一

那 252 進表 漂一阿傑約

253 進本 盆一阿傑的

字 烏 245 表章 彪一

那 249 進表 鬪一阿傑的

信 咭 205 牙刷 番一脚鷄母魯

310 我 窰一

烏 386 表章 彪一

那 390 進表 漂一阿傑的

をか (陸)

館 倭噓 44 岸 一

使 倭噓 43 岸 一

字 倭噓 43 岸 一

信 倭喀 33 岸 一

見 倭喀 35 岸 一

をぎ (甘蔗) (荻)

館 翁及 126 甘蔗 一

使 翁急 107 甘蔗 一

字 翁急 107 甘蔗 一

信 翁吉 151 甘蔗 一

をけ (桶)

信 咭格 198 担桶 一

他古 217 面桶 一又他里

他喇古 244 盤 一

見 塔阿谷 220 担桶 一

224 浴桶 阿美一

をぢ (伯父·叔父)

信 渾局 328 伯 洗之一

329 叔 屋多一

見 烏弗首 137 祖 一

渾局 156 伯 洗察一

157 叔 屋多一

をとこ (男)

字 一更加 207 父親 一烏牙

信 会儿噶 298 父 一烏耶

313 男 一

見 烏吉喀 138 父 一奴屋牙

151 男 一

をとこおや (男親)

字 一更加烏牙 207 父親 一

信 会儿噶烏耶 298 父 一

見 烏吉喀奴屋牙 138 父 一

をなご (女)

字 鬪男姑 208 母親 一吾牙

烏男姑 213 女 一

信 会南姑 300 女兒 一括

312 母 一烏耶

314 女 一

- 見 圖那圖 139 母 一奴圖呀
 烏那姑 143, 152 女 一
 166 Y頭 一哇辣倍
 姑 154 姉 西察烏乃
- をなごおや (女親)
- 字 圖男姑吾牙 208 母親 一
 信 會南姑烏耶 312 母 一
 見 圖那圖奴圖呀 139 母 一
- をなごこ (女兒)
- 信 會南姑括 300 女兒 一
 見 烏耶姑寡 143 女兒 一
- をなごわらべ (女童)
- 見 烏耶姑哇辣倍 166 Y頭 一
- をなり (姉妹)
- 翻 오라리 'o·ra<na>·ri7 妹子有麼 一아리
 信 烏乃 322 姉 洗之一
 323 妹 屋多一
 見 烏乃 154 姉 姑西察一
 155 妹 屋毒一
- をば (叔母)
- 信 喂媽 330 姑娘 一
- をひ (甥) (姪)
- 信 威 333 阿姪 一
 見 威 158 姪 一
- をり (居)
- 館 ?窩喇立 343 請行 一
 外立 348 立住 達只一
 使 歪立 242 立住 荅只一
 字 歪立 240 立住 荅只一
 信 歪立 380 立住 荅止一

⑨ 以下の「の」に関し、中国語を省略する。

四、「クリフォード琉球語彙」琉英配列語彙

1、「クリフォード琉球語彙」を、「琉球語」中心に、五十音順に配列しなおしたものである。但し、“PART 1”のみである。

2、英語式綴字を転写した、カタカナ書きの「琉球語」を見出し語とする。転写にあたっては、対応すると考えられる現代語も考慮に入れる。

3、カタカナ見出し語の次に、その「日本語」訳を付す。当然のように、クリフォードによる英語訳と食い違うことがある。その原因については、第三章第一節参照。

「」は音韻的に対応する「日本語」（必ずしも意味が対応しない場合）。「？」は疑問を残す意。

4、見出し語相当の英語式綴字の琉球語、その通し番号、文脈／英語訳の順に示す。「-」は見出し語と同じ意。

(例) ボーヅィ (坊主)

bodsee 39 - or bodzee/bishop at chess
(lit. priest)

bodzee 39 bodsee, or -/bishop at chess
(lit. priest)

576 -/priest(bonzes of China)

5、原文では、頭文字は大文字になっているが、頭文字である以外に意味を見出せないのので、小文字に統一した。

6、アクセント記号も、正確ではないことが判明しているので、省略した。

7、形態素段階まで分析し、見出し語とした。但し、複合語として熟していると認められるものについては、この限りでないことがある。

8、長音は、(前の)母音が続いたと考えて配列する。例えば、「ターグ」は「タアグ」と考え、「タイ」より前にする。

9、用例は、原則として、「出順」で並べる。

10、本文は、『クリフォード琉球語彙』(勉誠社文庫 71)による。

ア

アカ (痛!)

aka 672 -, or chirraring ?/sharp

アカサ (赤さ)

akasa 53 -/blush (lit. red)

606 -/red

akassa 121 - nonoo/cloth red

アカサ (?) (赤さ?)

ack-a-sa 604 -/rat

アカチールー (赤黄色)

aka cheeroo 947 kassa cheeroo, or -
/yellow, dark

アカバナ (赤花)

ackka banna 262 -/flower, a red, the
name of

アガユン (上がる)

agayoong 769 teeda-/sun-rise

- アキウン (開ける)
 akeeoong 510 -/open, to, or unlock
 アキミーグワ (開き盲)
 akee meegua 45 -/blind man
 アキリ (開けよ)
 akirree 511 -/open it
 アクガニ (銅)
 acooganee 137 -/copper
 アクビ (欠伸)
 acoobee 939 -/yawning
 アササ (浅さ)
 asassa 671 -/shallow
 アサッテイ (明後日)
 asattee 157 -/day after to-morrow
 アサティンナーチャ (明明後日)
 asa tinnacha -/day the following
 アサブン (「朝飯」, 昼食)
 assa bung 455 -/meal, 2nd (two
 hours after)
 アジ (鰓)
 ajee 250 -/fish, the gills of a
 アジ (按司)
 ajee 310 -, or paychin/great man
 (chinese tajin)
 アタビツィ (蛙)
 atta beetsee 276 -/frog
 アダニ (阿旦)
 adanee 539 -/pine, the wild
 541 -nay/pine, fruit of the
 アチャ (明日)
 acha 474 -/morrow
 826 -/to-morrow
 アチュ (今日)
 achoo 825 -/to-day
 アチルー (熱いもの)
 atcheeroo 871 atsee meezee, or -/wa-
 ter, hot
 アッカ (垢)
 ackka 530 -ddee/perspiration
 アッカ (痛!)
 akka 83 yaddee, or -/burn, to
 アッチュン (歩く)
 atchoong 876 -/walk, to
 アツイミジ (熱水)
 atsee meezee 871 -, or atcheeroo/
 water, hot
 アテイサ (暑さ)
 atteesa 355 -/hot
 アデイ (あれ)
 addee 803 -/that
 アディクデイ (あれこれ)
 addee-coodee 207 -/every thing
 アトゥ (後)
 atoo 86 -kara/by and by
 169 -karree, or -kara/directly
 (by and by)
 アナ (穴)
 anna 349 -/hole
 350 -hooyoong/hole to make in
 the ground
 アフィー (兄?)
 awhfee 142 -/country
 アフィル (家鴨)
 afeeroo 188 -/duck, a tame
 アマ (向こう)
 ama 291 -ki eechoong, or
 moodoeong/go to, on shore
 395 -ki/land, or shore
 アマサ (甘さ)
 amasa 771 -/sweet

- アマザキ (甘酒)
amazackkee 772 --/sweet wine
922 --, compounded of
amasa and sackkee
- アマン (宿借り)
amang 675 --/shell fish (like a crab)
- アミ (雨)
amee 599 --/rain
600 -- fooyoong/rain, to
- アムシヌ (辛い?, 疲れた?)
amusheenoo 822 --/tired, or fatigued
- アラテイ (洗って)
aratee 884 ching--/washing clothes
- アラユン (洗う)
arayoong 881 --/wash, to
883 ching -- /wash, to,
clothes
- アリ (あれ)
aree 9 --ga aanyoong/answer, to
342 -- (meechay)/him (a third
person)
arree 484 --ga na/name, his
- アル (踵)
a-roo 338 shanna--/heel of the foot
- アン (そう)
aan 9 aree ga--yoong/answer to
ang 644 --/say it, I can
- ㊦
- イ (~に)
yee 910 wang--quirree/will you give
me
- イア (「射矢」, 矢)
eea 11 --/arrow
- イー (椅子)
ee 107 --(chinese)/chair
- イー (絵)
ee 175 --katchoong/draw, to, a
picture
533 kee--, or kackkee--
/picture
- イー (良い)
ee 275 --dooshee/friend
- イーア (<感動詞>)
yeeah 209 --, or chee--oo--oo/ex-
clamation of surprise
- イーイイイ (<感動詞>)
iyi-yi-yi-yi 210 -- /exclamation of
surprise
- イーチ (息)
eechee 696 hooee--/sigh, to
- イーチュ (「良人」(士族?))
eechoo 299 yookachoo, or--/good man
- イーチュ (絹)
eechoo 577 -- cooroom/priest, the
silk dress of a
610 --/ribbon, silk
697 --/silk
- イーチュ (糸)
eechoo 813 --/thread, sewing
- イーチュクルム (絹衣)
eechoo cooroom 577 --/priest, the silk
dress of a
- イーニャ (皆)
eenea 4 --, or ignea (Italian gn)/all
(every one)
ignea 4 eenea, or--(Italian gn)/all (ev-
ery one)
5 -- noodung/all drink, every
one drinks
- イービ (指)

- eebee 235 -/finger
 238 nackka -/finger middle
 818 hooee-/thumb
 827 shanna -(lit. foot finger)
- イービガニ (「指金」, 指輪)
 eebee gannee 593 - sashoong/put,
 to, a ring on the finger
 617 - /ring for the
 finger
 618 - sashoong/ring,
 to put on a
- イービグワ (小指)
 eebeegwaw 237 -/finger, little
- イーヤツイ (八つ)
 eeyatsee 200 kwatchee, or fatchee
 (Loo-Choo):- (Japan)/eight
- イウン (座る)
 eeong 701 -/sit down to
- イオ (魚)
 eeo 244 -/fish
 245 coosa-/fish, a small
 246 tamung - /fish, a small
 blueish
 247 matchee-/fish, a large red
 253 - kakeeoong/fish, to catch
 255 - stitchee/fish spear
- イオーザキ (弱酒)
 eeawzackkee 924 -, or sackkee ya/
 wine, weak
- イオツイ (四つ)
 eeots 272 shee (Loo-Choo); - see, or
 joo (Japan)
- イガ (言うか)
 eega 902 noond - /What do you call
 this?
- イカイ (錨)
 eeki 6 -/anchor
- イキ (行け)
 ickkee 804 -/there
- イキガ (男)
 ickkeega 443 -/man (vir)
 447 -yadong/man, sick
 460 oowhoko-/men, a great
 many
 506 teeshooee-/old man
 692 -yadong/sick man
- イキガウングワ (男の子)
 ickkeega oongua 726 -/son
- イキガワラビ (男童)
 ickkeega warrabee 65 - /boy (lit. a
 man child)
- イキガヲラビ (男童)
 ickkeega worrabee 113 - /child, male
 (literally man-
 child)
- イグスイク (城)
 eegoosecoo 102 -, or gooseecoo/
 castle
- イシ (石)
 ishee 621 see, or weesa-/rock
 751 -stone
 830 cooroo-/tomb-stone
- イシウン (座らせん, 据える)
 isheeoong 585 - /put, to, a thing
 above or upright
- イシビーア (「石火矢」, 大砲)
 ishee-beea 93 -/cannon
- イシャク (一尺)
 eeshackkoo 365 -/inches, ten
- イシヨ (衣装)

- eeshaw 869 —, or hoonta/upper garment
- イシリ (一日?)
- isheeree 156 —/day (in the north of the island)
- イスイン (一寸)
- eeting 364 —/inch, one
- イダ (枝)
- eeda 839 —/tree, branch of a
- イチ (一)
- itchee 491 —yooroo/night one
508 — (Loo-Choo), teetesee, or ta (Japan)
- イチジュウ (「一十」)
- itcheejoo 849 hacoo—/twenty one
- イチ (息)
- eetchee 523 —hoocong/pant, to
524 —/panting
- itchee 74 —shoong/breathe, to
- イチチ (生きて)
- itch-itchee 2 —/alive
- イチチョーン (生きている)
- itch-chawng 3 —/alive, to be
- イチツイチ (一月)
- itchee stitchee 469 —, or gwautsee/ moon, or month one
- イチニン (一年)
- itchee ning 941 —/year one
- イチユマ (<鳥の名>)
- itchooma 891 —/web-footed bird
- イチユン (行く)
- eechoong 96 mootchee —/carry to, or take away
- 284 —/go, to
- 286 timma ki —/go, to, in a boat
- 290 yawna —/go, to, slow
- 291 amaki —, or moodoeong/go, to, on shore
- 680 hoonee — /ship goes away
- 681 moochee—/ship returns
- 878 yawna—/walk, slow
- 913 kassee—/wind to go out
- イチユン (撃つ)
- eechung 377 hotoo—/kill, to, birds
- イチユル (一夜)
- itchee yooroo 491 —/night, one
- イチョーン (座っている)
- eechawng 702 —, or eeree/sit down, in a chair
- イッシャ (医者)
- ishsha 444 —/man, medical
- イッテイ (入れて)
- ittee 589 —/put, to, a thing in
- イティツイ (五つ)
- ittitsee 256 goo (Loo-Choo):—(Japan)/ five
- イディ (座れ)
- eedee 703 eemeeshawdee, or — /sit down, on the ground
- イディクン (入れ込む?)
- iddeecoong 233 —/fill, to
- イトウシャン (良い)
- eetshang 862 —/very well (well done, good)
- イナゴ (女)

- innago 933 -/woman
 934 ootooroosa - /woman,
 plain
 935 teeshooee-/woman, old
 936 choorasa - /woman, hand-
 some
 937 wockka-/woman, young
 954 wockka-/young woman
 イナゴウングワ (娘)
 innago oongua, or ungua 154 -
 /daughter
 イナゴヲラビ (女童)
 innago worabee 114 -/child, female
 (literally woman-
 child)
 イミショーディ (お座り下さい)
 eemeeshawdee 703 -, or eedee/sit
 down, on the ground
 イェン (言う)
 yoong 9 aree ga aan-/answer, to
 イラナ (鎌)
 eeranna 386 - /knife, crooked, for
 cutting grass
 イリ (小使い?)
 eeree 666 toomoo, or -, or sadge-ee/
 servant
 イリ (座れ)
 eeree 702 eechawng, or -/sit down, in
 a chair
 イリイン (入れる)
 irreeing 564 -/pour in, to
 イリチャン (炒めた)
 irreechang 19 -/bake, to
 イル (色)
 eeroo 50 tama--/blue (colour)
 イルイル (色々)
 eeroo eroo 128 -/colours
 イン (犬)
 ing 171 -/dog
 in 172 -/noo nachoong/dog barks
 イン (印)
 ing 411 -sitchoong/letter, to seal a
 651 -, or fang/seal of a watch
 インシュ (火薬)
 eenshoo 186 - fooshooing/dry, to,
 powder
 569 -/powder
 570 - fooshooing/powder, to
 dry or air
 インジャサ (短さ)
 injasa 446 -/man, short
 683 -/short
 インジャシュン (出す)
 injashoong 586 -/put, to, up a thing
 above, high
 インジャチ (出して)
 injatchee 580 -/pull, to, or draw out
 インディタウン (濡れている)
 indeetaoong 901 -/wet, to
 インディトーウン (濡れている)
 indeetawoong 882 - /wash, to, or
 bathe
 インニティ (濡れて)
 inneetee 900 -/wet
 □
 ウ (御)
 oo 470 -stitchee, or maroo/moon full
 ウー (大)
 oo 650 -nammee/sea, high

- 861 - ganjoo/very well (speaking of health)
- ウー (雄)
woo 82 - ooshee/bull
293 - feeja/goat, he
440 - /male
- ウー (芭蕉)
woo 553 - noo fa/plantain, leaf of a
- ウー (はい)
oo 949 - /yes
- ウーウシ (雄牛)
woo ooshee 82 - /bull
- ウージ (甘蔗)
oojee 762 - /sugar-cane
- ウーティ (折って)
ootee 79 -, or chirreetee/broke
- ウーナミ (大波)
oonammee 650 - /sea, high
- ウーフィージャー (雄山羊)
woo feeja 293 - /goat, he
- ウーユン (折る)
ooyoong 70 - /break, to, a stick
- ウーン (斧)
oong 752 - /stone cutter's hammer
- ウィー (上)
wee 1 - /above, or the top of a thing
- ウィージ (泳いで)
weejee 775 - /swimming
- ウィージュン (泳ぐ)
weejoong 774 - /swim, to
- ウーガンジュー (大頑丈)
ooganjoo 861 - /very well (speaking of health)
- ウェサラ (大きい)
wesara 678 hooboonee, or - hoonee/ship, large
- ウカティ (起きて)
oocatee 13 - /awaking
- ウキーン (起きる)
ooking 12 - /awake, to
- ウグスク (御城)
oogoos-coo 380 - /king's palace
- ウシ (牛)
ooshee 110 - noo chee quatee/cheese (literally cow's milk and fat)
143 mee - /cow
187 - noo coosoo/dung, cow, for manure
341 - noo ka/hide of a bullock
353 - noo stinnoo/horn of a bullock
689 - noo ka/skin, of a bullock
- ウシグワー (子牛)
ooshee gua 88 - /calf
- ウシトゥーシ (「押し通し」, 簪)
oosheethushee 537 - /pin, ladle head, do
- ウシモー (<貝の種類>)
oosheemaw 674 - /shell
- ウシャ (嬉しさ)
oosha 559 - /pleased
- ウシュ (潮)
ooshoo 647 - /sea, the, or ocean
- ウタ (歌)
oota 414 Loochoo, or Doochoo - /Loo-Choo song
699 - shoong, or - yooshoong, or ootayoong/sing, to
727 - /song

- ウタユン (歌う)
 ootayoong 699 ootashoong, or
 ootayooshoong, or—/sing, to
 ウチ (内)
 oochee 369 —/inside,
 ウチキーン (置く)
 oocheeking 588 —/put, to, or lay a
 thing down
 ウチュン (打つ)
 ootchoong 30 chibbee —/beat to, with
 the bamboo
 817 —/thresh, to
 ウチュン (「打つ」?, 耕す)
 oochoong 167 —/dig, to, up the
 ground
 ウチュン (「打つ」?, 縄を綯う)
 ootchoong 435 cheena —/make, to, a
 rope
 624 chinna—/rope, to make
 ウチュンギン (投げ捨てる)
 oochung-ging 817 —/throw to, away
 any thing
 ウチル (「落ち度」, 過ち)
 oocheeroo 182 — shoong/drop, to, a
 thing
 ウツイチ (御月)
 oostitchee 470 —, or maroo/moon, full
 ウテイ (「居て」, ~で)
 ootee 748 hoonnee —/stay on board
 ship
 ウテイトウン (落ちている)
 ooteetung 631 seeree ootooshoong, or
 soosootee; —, or coonshoong/
 rub, to, out
 ウデイモ一 (腕無し)
 oodeemaw 783 —/tattoo marks on the
 right arm
 ウデイユン (降りる)
 oodeeyoong 131 —/come, to, down a
 hill
 ウトゥゲー (頤)
 ootooga 116 —/chin
 ウトゥシュン (落とす)
 ootooshung 630 soosooing, or
 soosootee—/rub, to
 ootooshoong 631 seeree —, or
 soosootee; ooteetung, or
 coonshoong/rub, to, out
 ウトゥチュン (落とす)
 ootoochung 432 —/lose, to
 ウトゥバチ (ぶっとばして)
 ootoo batch 348 —/(Letting a thing
 escape)
 ウトゥルサ (怖さ)
 ootooroosa 865 —/ugly
 934 —innago/woman,
 plain
 ウドゥイ (踊り)
 oodooe 152 —, or makatta/dance
 ウナジェラ (王の妻, 奥方)
 oonajerra 596 —/queen, also at chess
 ウニフェ (祈り, 御礼拝)
 oonewhfa 336 ting—/heaven, praying
 to
 568 ting —/praying to
 heaven
 ウヌ (斧)
 oonoo 317 —/hammer of a stonecutter
 ウホーク (多く)
 oohawkoo 141 —oong/count, to

- ウホーコ (多く)
 oowhoko 311 -/great many
 460 - ickkeega/men, a great many
- ウミ (海)
 oomee 648 hama, or -/sea, shore
- ウムテイ (「表」, 船首)
 oomotee 749 -/stem of a boat
- ウユン (折る?)
 ooyoong 733 tooga -/spear to catch fish with
- ウリテイ (降りて)
 ooritee 295 -coo/going down below
- ウル (砂利?)
 ooroo 138 -/coral
- ウルシ (漆)
 ooroo shee 520 -noostang/paint, to
- ウン (言う)
 oong 104 nachoong dee -/cat, to mew as a
 461 nachoong dee -/mew, to, as a cat
- ウン (居る)
 oong 141 oohawko--/count, to
- ウーンバ (いや)
 oongba 496 -, or oomba/no
 oomba 496 oongba, or -/no
- ウングワイナン (<鳥の名>, 鴨?)
 unguainan 150 -/curlew
- ウンドゥレチャ (蜥蜴)
 undlecha 425 -/lizard
- ウンバン (御飯)
 umbang 613 -, or bang, or oombang/ rice, boild
 oombang 613 umbang, or bang, or -
- /rice, boild
- ウンマ (母, 母親)
 umma 475 -/mother
- ㊦
- エー (良い)
 ye 889 -tinsee, or tinchee
- エーテイ (瘦せて)
 yaitee 406 -/lean (not fat)
- エデイ (「病んで」, 痛くて)
 eddee 693 watta-/sick belly
- ㊦
- オーサ (青さ)
 osa 312 -/green
- オージ (扇)
 ojee 220 -/fan
 221 -shoong/fan, to, one's self
 222 -kara/fan, to offer a
- オク (億)
 okoo 810 -/thousand, ten
- オザガディ (召し上がれ)
 ozagadee 502 -/offer, to
 503 -sackkee/offer, to, wine
 504 matta -/offer, to, more, or again
- オスタン (覆った)
 ostang 139 sinna shee -/cover, to, over with sand
- オタユン (「歌う」, 鳴く)
 otayoong 147 -/crow, to
- オチュン (打つ)
 ochoong 29 tanna - (lit, to play on the gong)/beat on the gong
 165 sheego roocoo -/dice, to play with

- 554 choonjee - /play, to, at chess
- 555 sheego roocoo - /play, to, with dice
- オトゥバチ (ぶっとばして, 飛ばしてしまつて)
- otoo batch 413 - /letting go a thing
- オナイ (をなり)
- onigh 700 - /sister
- オビ (帯)
- obee 280 - /girdle
- 352 - /hoop of a cask
- ㊦
- カー (皮)
- ka 341 ooshee noo - /hide of a bullock
- 448 choo-noo - /man, the skin of a
- 513 kooneeboo noo - /orange, the rind of an
- 518 - /outside of bread (lit. skin)
- 607 pow noo - /rind of a shaddock
- 608 kooneeboo noo - /rind of an orange
- 609 - /rind (lit. skin)
- 688 - /skin
- 689 ooshee noo - /skin, of a bullock
- 690 choo noo - /skin of a man
- カーラチャウン (乾いている)
- karachaoong 185 - /dry, to
- カイ (~へ)
- ki 286 timma - eechoong/go, to, in a boat
- 291 ama - eechoong, or moodoeong
- 395 ama - /land, or shore
- カウトウチュン (つかむ?)
- kaotoochung 105 - /catch, to
- カキイー (描き絵)
- kackkee-ee 533 kee-ee, or - /picture
- カキウン (「掛ける」, 釣る)
- akeeoong 253 ee - /fish, to catch
- カキテイ (「掛けて」)
- kakittee 100 teeroo tenaki - /carrying a basket on the arm
- カグ (駕籠)
- kagoo 521 - /palanquin chair
- カゲン (鏡)
- kagung 283 - /glass
- 430 - /looking-glass
- 734 mee - /spectacles (lit. eyeglass)
- 740 toomee - /spy glass
- カサ (笠)
- kassa 324 - /hat, worn by the natives
- カサ (傘)
- kassa 866 shassee - /umbrella
- カシャシユン (嗅う)
- kashashoong 712 kannoong, or - /smell, to
- カジ (陰)
- kajee 668 - /shade, or shady
- カジ (筋)
- kajee 860 - /veins
- カジ (風)
- kazzee 911 kassee, or - /wind
- カスイ (舵)
- kassee 134 karahigh, or - tooe/compass
- カスイ (風)

- kassee 911 —, or kazzee/wind
 912 —noochoong/wind to come
 in
 913 —eechoong/wind to go out
 915 weesa—, or tayehfoo/wind
 great
 カスイグワー (小風)
 kassee gua 914 —/wind, little
 カスイジトーン (妊娠している)
 hassee jeetawng 571 —/pregnant
 カスイトウイ (舵取り)
 kassee tooe 134 karahigh, or —
 /compass
 カスイミウン (終う)
 kasseemeeoong 590 —/put, to, a thing
 under
 カタミウン (担ぐ)
 katammeeoong 99 —/carry to, with a
 bar on the shoulders
 カチ (垣)
 katchee 357 ya, or—/house
 カチ (書き)
 katchee 615 —yanjee/right, in writing
 characters
 カチミーン (摺む)
 katcheeming 669 —/shake, to
 カチミウン (摺む)
 katcheemeeoong 538 —/pinch, to
 カチヤンジ (書き損じ)
 katchee yanjee 615 —/right, in writ-
 ing characters
 カチュン (書く)
 katchoong 412 jee—/letter, to write a
 930 —/write, to
 カク (角)
- kackkoo 741 —/square
 カッサチールー (軽さ黄色)
 kassa cheeroo 947 —, or aka cheeroo/
 yellow, dark
 カツァミウン (摺む)
 katsameeong 346 —hold, to take, of a
 person
 カデジ (潮?)
 kadezee 820 —/tide
 カニ (金)
 kannee 85 hoganee, or—/button
 カヌン (食べる)
 kanoung 198 meeshee kamoong, or —
 /eat, to, boild rice
 カバシャ (香ばしさ)
 kabbasha 713 —/smell
 カビ (紙)
 kabee 525 —/paper of any kind
 カフーシ (ありがとう)
 ka fooshee 802 —/thank you
 カベル (蝶)
 kabaroo 106 — skehdang/catch, to, a
 butterfly
 カマシシ (男用の簪)
 kammashishee 536 —/pin flower head
 worn by men
 カミ (瓶)
 kamee 362 —/jar, a large earthen
 カミウン (頭にのせる, お辞儀する)
 kameeoong 642 —/salute, to, a person
 カミトン (頭にのせている)
 kammeetong 97 teeroo —/carry to, a
 basket on the head
 カムリ (冠) (被り?)
 kamooree 325 —/hat, worn by the

- English
- カムン (食べる)
kamoong 196 -/eat, to
197 moonoo-/eat, I
198 meeshee-, or kanoung/
eat, to, boild rice
- カラ (~から, ~で)
kara 86 atoo-/by and by
169 atookarree, or atoo-/direct-
ly (by and by)
222 ojee-/fan, to offer a
- カラハイ (羅針盤)
karahigh 134 -, or kassee tooe/
compass
885 -/watch
- カラブー (霊?, 妖怪?)
karaboo 634 -/rum, or spirits
- カラマチュン (絡み付く)
karamachoong 917 - /wind, to, a
string round the finger
- カラン (?)
karang 507 -/olives
- カリ (~から)
karree 169 atoo-, or atookara/direct-
ly (by and by)
- カリファー (枯れ葉)
karree wha 405 -/leaf, withered (lit.
a dried leaf)
- カンジ (背鱗?, 鶏冠?)
kanjee 248 -/fish, the back of a
- カンジュン (被る)
kanjoong 587 -/put, to, on the hat
- カンヌン (嗅ぐ)
kannoong 712 -, or kashashoong/
smell to
- カンムディ (冠)
cammoodee 94 -, or mawtsee/cap
㊦
- ガ (~の)
ga 484 arree-na/name, his
- ガ (~が)
ga 9 aree-aanyoong/answer, to
- ガ (~か)
ga 902 noondee - /What do you call
this?
- ガウニ (~金)
gaunnee 742 banjaw - /square, of a
stone mason
- ガク (楽)
gacoo 49 - /blowing (through a
musical instrument)
- ガサ (軽さ)
gasa 417 -/light, not heavy
- ガチ (垣)
gatchee 227 dackkee - /fence of
bamboo
- ガデスイマルキー (ガジマル木)
gadesee maroo kee 840 - /tree,
Banyan
- ガニ (蟹)
gaanee 144 -/crab
- ガニ (金)
gannee 137 acoo-/copper
593 eebee-sashoong/put, to, a
ring on the finger
617 eebee - /ring for the
finger
618 eebee - sashoong/ring, to
put on a
- ガマク (腰)

- gammacoo 343 -/hips
 ガラスィ (鳥)
 garrasee 148 -/crow
 ガン (籠)
 gang 160 sheenoong, or -/dead
 ガンジュー (頑丈)
 ganjoo 861 -/very well (speaking of health)
- ㊦
 キー (木)
 kee 119 matsee - noobooyong/climb, to, a pine-tree
 124 nashi-/cocoa-nut tree
 168 moo noo - sauteeyoong/dig, to, potatoes
 404 -noo wha/leaf, green (lit. the leaf of a tree)
 542 matesee-/pine tree
 838 -/tree
 840 gadesee maroo - /tree, Banyan
 842 dee-ee-go--/tree, with large red flowers, which are called *acka banna*
- キー (手)
 kee 318 -/hand
- キー (毛)
 kee 500 honna-/nostrils
 926 -/wing feathers of a bird
- キーイー (絵)
 kee-ee 533 -, or kackkee-ee/picture
- キーン (蹴る)
 king 374 -/kick, to, with the foot
- キスイイ (「基礎」?, 飛び石)
 keesiee 777 -/a flight of stone steps
- キンスィ (煙)
 kinsee 715 -/smoke
- ㊦
 ギシギシ (<擬声語>)
 gishee gish 797 ha -/teeth, to set on edge
 ギスイギスイ (<擬声語>)
 gissee gissee 313 ha -/grind, to, the teeth
- ㊦
 ク (九)
 coo 492 - (Loo-Choo), koonitsee (Japan)/nine
 クー (籠)
 coo 38 hotoo--/bird-cage
 クー (来い)
 coo 76 mootchee-/bring here
 77 feetootee-/bring fire here
 130 cung-/come here
 133 noobootee -/coming up from below
 295 oorittee -/going down below
 339 -/here
 クー (はかま?)
 coo 843 -, or hackkama/trowsers
 クー (小~)
 coo 422 -feejee/lip, the beard on the lower
 クーガ (卵)
 cooga 199 -/eggs
 クーク (小さく)
 kookoo 602 -fooyoong/rain, lightly
 クーサ (小さい)
 cōosa 245 -eeo/fish, a small

- 711 -/small
 クーサラ (小さい)
 coosara 679 hoonee gua, or - hoonee/
 ship, small
- クージ (漕いで)
 coojee 629 -/rowing in a boat
- クーティ (銜えて, 噛んで)
 cootee 720 haboo-/snake stings
- クーバー (蜘蛛)
 coobaa 735 -/spider
- クーバマン (蜘蛛巣)
 cooba mang 736 -/spider's web
- クーフィジ (小髭)
 coofeejee 422 -/lip, the beard on the
 lower
- クーユン (噛む)
 cooyoong 40 -/bite to, as a dog
- クイウン (「くれる」, 与える)
 queeoong 282 -/give, to
- クウイクチ (「銜え口」)
 quee cootchee 544 -/pipe, the mouth-
 piece of a
- クウイリ (くれ)
 quirree 910 wang yee-/Will you give
 me
- クウイシャク (九百)
 queeshacoo 494 coohacoo, or -/ninety
- クエー (鋏)
 qua 345 -ya/hoe
- クエーティ (肥えて)
 quaittee 223 -/fat
- クサ (草)
 coosa 304 goositchee, or -/grass
 305 -cheeoong/grass, to cut
- クサイ (鎖)
 coosayee 616 -/ring
- クシ (腰)
 cooshee 824 -satchee, or foosa/tobac-
 co pouch
- クジ (釘)
 coojee 479 -/nail to hang things on
- クジュー (九十)
 coojoo 857 hacoo-/twenty nine
- クス (糞)
 coosoo 187 ooshee noo -/dung, cow,
 for manure
- クスイ (後)
 coosee 746 - noochasa/stand back to
 back
- クスイヌチャーセー (背中合せっこ?)
 coosee noochasa 746 -/stand back to
 back
- クタ (肩)
 kutta 684 -/shoulders
- クダミ (踏み台, 踏み石)
 coodamnee 778 -/a single step
- クチ (口)
 coochee 381 - spootee/kiss, to, (lit.
 kissing the mouth)
 892 -(lit. mouth)/web-footed
 bird, beak of a
- cootchee 389 coonja-/knot
 544 quee -/pipe, the mouth-
 piece of a
- クチャ (裏部屋)
 coocha 31 -/bed
- クチュン (「吹く」, 煙草を吸う)
 kootchoong 714 footchoong, or -
 /smoke, to
- クツイ (骨)

- cootsee 58 -/bone
 クデイ (これ)
 coodee 808 -/this
 クトゥー (琴)
 kootoo 477 - feetchoong/musical instrument, to play on a
 556 -feetchoong/play, to, on a musical instrument
 クトゥバ (言葉)
 cootooba 408 -/learning, or studying
 クニツイ (九日)
 koonitsee 492 coo (Loo-Choo), - (Japan)/nine
 クニブ (九年母, みかん類)
 kooneebo 512 -/orange, fruit
 513 - noo ka/orange, the rind of an
 608 - noo ka/rind of an orange
 クハク (九百)
 coohacoo 494 -, or queeshacoo/ninety
 クビ (首)
 coobee 486 -/neck
 487 - nang/neck short (lit. no neck)
 929 tee noo -/wrist (lit, neck of the arm)
 クマ (此所)
 cooma 750 -toomoo/stern of a boat
 クミ (米)
 coomee 612 -/rice
 クミゲン (顛顛)
 koomeegung 800 -/temples, human
 クム (雲)
- koomoo 122 -/clouds
 クラシュン (殺す)
 koorashoong 376 sheemoong, or -/kill, to
 クラジ (髪)
 kurrazzee 315 -/hair
 クラスイン (暗やみ)
 coorasing 153 -/dark
 クラマポー (クラマ棒)
 coora ma baw 259 -/flail
 クラミーン (踏む)
 kooraming 836 -/tread, to
 クル (黒)
 cooroo 830 -ishee/tomb-stone
 クルジ (<木の名>)
 cooroojee 575 -/prickly pear bush
 クルバシュン (転ばす)
 koorobashoong 516 -/overturn, to, or upset
 kooroo bashoong 584 -/push, to, with the hand
 クルマ (車)
 koorooma 46 -/block
 903 -/wheel of a ship
 クルム (衣)
 cooroom 577 eechoo -/priest, the silk dress of a
 578 basha -/priest, the cotton dress of a
 クルユン (震う?, 狂う?)
 koorooyoong 837 -/tremble to, with cold
 クレー (これは)
 coora 466 -wa moong/mine
 955 -ya moong/yours

- クワ (子)
qua 115 -/children
- クワー (子)
quaw 373 -/key
886 sasee noo- /watch key
- クワー (上)
quaw 421 -seeba/lip, upper
- クワースィバ (菓子)
quashee 20 -sookooyoong/bake
bread, to
67 -/bread
87 magia - /cake, a sweet
flowerd
- クワースィバ (上唇)
quaw seeba 421 -/lip, upper
- クワシブン (菓子盆)
quashee boong 68 - /bread-basket,
or tray
- クワダクシャ (?)
quada coosha 531 -/peper pod
- クワチ (八)
kwathee 200 -, or fatchee (Loo-
Choo); eeyatsee (Japan)/eight
- クワチジュウ (八十)
kwathee joo 201 -, or fatchee joo/
eighteen
- クワティ (食って)
quatee 110 oosheeno chee - /cheese
(literally cow's milk and fat)
- クワラ (掛絡)
quara 579 -/priest, the belt of silk of
a
- クワンニン (官人)
quangning 445 paychin, or -
(Chinese)/man, of rank
- クン (此所?)
cung 130 -coo/come here
- クンシュン (壊す)
coonshoong 631 seeree ootooshoong,
or soosootee ooteetung, or
-/rub, to, out
- クンジャクチ (縛り口, 結び目)
coonja cootchee 389 -/knot
- クンジュウ (九十)
coonjoo 493 -/nineteen
- クンジュン (縛る)
coonjoong 390 -/knot, to tie a
819 -/tie to, a knot
- クンスインダダカチ (滑って)
koonsinda dakatchee 439 -/making a
false step
- クンス (壊す)
coonsoo 632 -na/rup, to, not out
- クンダ (腓, 脛)
koonda 89 -/calf, of a leg
- クンムラサチ (紺紫)
coonmoola satchee 394 - /lake, or
light purple
- ㊦
- グー (五)
goo 256 -(Loo-Choo); ittitsee
(Japan)/five
- グールー (独楽?, 丸いもの)
gooroo 135 neenya- /conk shell
- グシャク (五百)
gooshacoo 232 -, or gooyacoo/fiity
- グシュン (?)
gooshung 316 -/hammer
- グスイク (城)
gooseecoo 102 eegoosecoo, or -/castle

- グスイチ (薄)
goositchee 304 -, or coosa/grass
- グハク (五百)
goohacoo 853 hacoo goonjoo, or -
/twenty five
- グヤク (五百)
gooyacoo 232 gooshacoo, or -/fifty
- グワ (子)
gua 154 innago oon -, or un -
/daughter
726 ickkeega oon-/son
- グワー (小~)
gua 88 ooshee-/calf
375 feeja a-/kid (lit. small goat)
679 hoonee-, or coosara hoonee/
ship, small
914 kassee-/wind little
- グワー (小~)
gwaw 237 eebee-/finger, little
- グウツイ (月)
gwautsee 469 itchee stitchee, or -
/moon, or month, one
- グンジュー (五十)
goonjoo 231 -/fifteen
853 hacoo -, or goohacoo/
twenty five
- ㊦
- ケー (匙)
kaa 739 -/spoon
- ケートユン (取ってしまう)
katayoong 721 -/snatch, to
- ケーラ (代えよう)
kayra 208 -/exchange, to, fans
- ㊧
- コウン (国王?)
kowung 379 - (Chinese)/king, or
monarch
- コー (香)
kaw 452 -/match, or fire-stick used
in the temple
- コーイールー (紐?, 紙縫り)
ko-eeroo 757 -/string
- コール (香炉)
kawroo 753 -/stone, carved
- コロサ (黒さ)
korosa 42 -/black
- ㊨
- ゴウシ (踝)
go ooshee 8 shanna-/anhle
- ゴージ (?)
gawjee 458 - hackkiyoong/measure,
to
- ㊩
- サ (~よ)
sa 746 coossee noocha-/stand back to
back
- サージ (手拭)
sajee 844 -/turban worn by the low-
er order of the natives
- サースイ (錠)
sasee 886 -noo quaw/watch key
- サーター (砂糖)
sata 437 -skoyoong/make, to, sugar
761 -/sugar
763 -skoyoong/sugar, to make
- サーユン (触る)
sayoong 833 -, or sitchoong/touch, to
- サカスイチ (盃)
sackka sitchee 920 tamma - /wine
glass

- サガユン (下がる)
sagayoong 767 teeda—/sunset
- サキ (酒)
sackkee 180 — noomoong/drink, to wine
181 — noomang/drink, not to, wine
503 ozagadee — /offer, to, wine
919 —/wine
924 eeawzackke, or — ya/wine, weak
- サキチュー (酒強)
sackkeechoo 759 choozackke, or — /strong wine
923 choozackke, or — /wine, strong
- サキディエ (酒代?)
sackkeedia 423 —, or samtchoo (Chinese)/liquor
- サシュン (差す)
sashoong 593 eebee gannee — /put, to, a ring on the finger
618 eebee gannee — /ring, to put on a
- サジュン (削り取る)
sajoong 653 —/scrape, to
- サチ (差して)
satchee 824 cooshee—, or foosa/tobacco pouch
- サックイー (咳)
sack—quee 140 —/cough, to
- サヅイ (小使い)
sadge—ee 666 toomoo, or eeree, or — /servant
- サバー (草履は?)
sabaugh 682 sabock, or — /shoes, or sandals
- サバク (三百?)
sabacoo 271 speeakoo, or—/forty
- サバニ (サバニ舟)
sabanee 54 timma, or—/boat
- サボック (草履?)
sabock 682 —, or sabaugh/shoes, or sandals
- サムチュ (酒物?)
samtchoo 423 sackkeedia, or— (Chinese)/liquor
- サムリー (侍)
samooree 388 —/knight, at chess
- サラ (皿)
sarra 546 —/pipe, bowl of a
- サル (猿)
saroo 472 —/monkey
- サン (三)
sang 811 —(Loo—Choo); meetesee (Japan)/three
- サンカク (三角)
sang cackkoo 812 — /three sided figure
- サンシン (三味線)
sangshing 323 —/harp
- サンジュー (三十)
sanjoo 806 —/thirteen
851 hacoo—/twenty three
944 —/years, thirty
- サンバク (三百)
sangbacoo 807 —/thirty
- サ (サ)
- ザキ (~酒)

- zackkee 759 choo -, or sackkeechoo/
 strong wine
 772 ama - /sweet wine
 922 ama -, compounded of
 amasa and sackkee/wine, sweet
 923 choo -, or sackkeechoo/
 wine strong
 924 eeaw -, or sackkee ya/
 wine, weak
- ☐
 シ (〜で)
 shee 139 sinna - ostang/cover, to,
 over with sand
 シー (四)
 shee 272 - (Loo-Choo); eeots see, or
 joo (Japan)
 シー (「巢」, ~入れ)
 shee 368 simmee - /inkstand
 シート (パッタ?)
 sheeto 306 -, or sayeh/grasshopper
 シウン (擦る)
 sheeoong 418 - /light, to, a pipe
 シク (机)
 sheekoo 931 - /writing-desk
 シグルク (双六)
 sheego roocoo 164 - /dice
 165 - ochoong/dice, to
 play with
 555 - ochoong/play, to,
 with dice
 シシ (肉)
 shishee 260 - /flesh
 261 - ning/flesh, no
 シジク (至極)
 sheejeekoo 601 - fooyoong/rain,
- heavy
 シツイキウン (押しつける)
 sheetskeoong 572 - /press, to, or
 squeeze
 シドゥカニ (「白金」, 錫)
 sheedookanee 821 - /tin
 シヌン (死ぬ)
 sheenoong 160 -, or gang/dead
 シノウン (死ぬ)
 sheenoung 378 doogaittee - /kill, to, by
 the fire of a gun
 シハク (四百)
 sheehacoo 852 hacoo sheenjoo, or -
 /twenty four
 シビ (篋)
 sheebee 489 - /net, fishing
 シミリ (閉めよ)
 sheemirree 382 - /kiss
 シムツイ (書物, 本)
 sheemootsee 57 - /book
 シムン (死ぬ)
 sheemoong 376 -, or koorashoong/
 kill, to
 シャ (足)
 sha 8 - nna go ooshee/ankkle
 338 - nna - a - roo/heel of the foot
 725 - nna watta/sole of the foot
 (lit. belly of the foot)
 827 - nna eebee (lit. foot finger)/
 toe
 828 - nna thimmee/toe-nail
 894 - /web-footed bird leg
 895 - ndee/web-footed bird two
 legs
 シャ (〜よ)

- sha 770 noonootoo- /swallowing
 シャク (尺)
 shackkoo 365 ee- /inches, ten
 シャシ (~差し)
 shashee 236 choo- /finger, fore
 シャスィカサ (差し傘)
 shassee kassa 866 - /umbrella
 シャンナー (足裏)
 shanna 267 - /foot
 268 - watta (lit. belly of the
 foot)/foot, the sole of the
 726 - watta/sole of the foot
 (lit. belly of the foot)
 シャンナアル (踵)
 shanna-a-roo 338 - /heel of the foot
 シュー (父)
 shoo 224 - /father
 シュン (為る)
 shoong 61 dee- /bow to, to a person
 passing
 74 itchee- /breathe, to
 182 oocheeroo - /drop, to, a
 thing
 221 ojee- /fan, to, one's self
 699 oota -, or ootayoo -, or
 ootayoong/sing, to
 シュンマギチ (足曲げて?)
 shumma gitchee. 385 - /kneeling
 シュンマギチウン (足曲げて座る?)
 shumma gitcheeong 384 - /kneel, to
 シラジ (白髭)
 sheerajee 308 feejee- /greybeard
 シリ (煙管)
 shirree 543 - /pipe
 547 - bookooroo/pipe, case of
 シリブクル (煙管袋)
 shirree bookooroo 547 - /pipe, case
 of a
 シルサ (白さ)
 sheeroosa 908 - /white
 シンジュー (四十)
 sheenjoo 274 - /fourteen
 852 hacoo -, or sheehacoo/
 twenty four
 ☐
 ジー (地)
 jee 194 - /earth
 ジー (字)
 jee 410 - /letter, or character
 412 - katchoong/letter, to write a
 ジーコ (逆艀?)
 jeeco 549 - /pivoton which the scull
 of a boat traverses
 ジーシ (厨子)
 jeeshee 859 - /vase, or urn
 ジーファ (簪)
 jeepha 535 -, or jeewa/pin worn in
 the hair of boys
 ジーワ (簪)
 jeewa 535 jeepha, or - /pin worn in
 the hair of boys
 ジツァ (~注ぎ)
 zitza. 921 dackkee- /wine kettle
 ジュー (十)
 joo 272 shee (Loo-Choo); ceots see, or
 -(Japan)/four
 801 -(Loo-Choo); too (Japan)/ten
 ジューシ (十四)
 joo shee 943 - /years, fourteen

- ジューハチ (十八)
 joo hatchee 942 -/years, eighteen, of
 age
 ジューバク (重箱)
 joobackkoo 864 -/victual, the draw-
 ers in it
 ジリ (ねじ?)
 jirree 656 -/screw
 ジン (銀)
 jing 698 -/silver
 ㊦
 ス (為)
 soo 765 haradatchee-na/sulky, not
 スイッ (為て)
 sit 287 hayee-choong/go, to, fast
 635 hayay-choong/run, to
 879 hayee-choong/walk, quick
 スイー (岩)
 see 621 -, or weesa ishee/rock
 スイー (「巢」, ~入れ)
 cee 788 tacoo -/tea, in an octagon
 bucket
 スイーゴ (小刀)
 seego 730 -/sour
 スイーヌン (潜る?)
 seenoong 170 -/dive, to, under water
 スイカクデー (四角台)
 sicca coodair 273 -/four-sided
 figure
 スイガトン (縊りついている)
 seegatong 877 -/walk, to, or crawl as
 a butterfly
 スイスイ (<擬声語>)
 seese 344 -/hissing
 スイダシャ (涼しさ)
- seedasha 136 -/cool
 スイチ (鋤)
 sitchee 560 -/plough
 スイチ (七)
 sitchee 663 - (Loo-Choo); nannatsee
 (Japan)/seven
 スイチカラン (聞こえない)
 sitcheekarang 333 sitcheerang, or -
 /hear, I cannot (or under-
 stand)
 スイチジュー (七十)
 sitchee joo 664 -/seventeen
 sitcheejoo 855 haccoo-/twenty seven
 スイチハク (七百)
 sitchee haccoo 665 -/seventy
 スイチュン (付く)
 sitchoong 411 ing-/letter, to seal a
 スイチュン (着く)
 sitchoong 833 sayoong, or -/touch, to
 スイチュン (鋤く)
 sitchoong 561 -/plough, to
 スイナ (砂)
 sinna 139 - sheeostang/cover, to,
 over with
 643 -/sand
 スイバ (唇)
 seeba 419 -/lips
 420 stitcha-/lip, lower
 421 quaw-/lip, upper
 スイブル (頭)
 seebooroo 329 - yadong/head-ache
 (lit. sick head)
 スイマトン (住んでいる)
 simmatong 424 -/live, or reside, to
 スイミ (墨)

- simmee 367 -/ink
 368 -shee/inkstand
 スイミシー (墨入れ)
 simmee shee 368 -/iakstand
 スイリ (擦り)
 seeree 631 - ootooshoong, or
 soosootee ooteetung, or coon-
 shoong/rub, to, out
 スイン (千)
 sing 359 -/hundred
 スイン (寸)
 sing 364 ee-/inch, one
 スインペーイ (唾)
 simpayee 738 -/spittle
 スインペーウン (吐く?)
 simpay-oong 737 -/spit, to
 スーティーツイ (蘇鉄)
 sootitsee 685 - /shrub, with leaves
 resembling a palm tree, prob-
 ably sago tree
 スカタ (仕方?, 様子?)
 skata 550 -/place
 スキーラ (面?, 顔?)
 skeera 218 steera, or-/face
 スキクツイ (付け口)
 skeecootshee 909 -/wick of a candle
 スキチュン (聞く)
 skitchoong 331 sitchoong, -/hear, to
 332 moonoo-/hear, I
 スキティ (付けて?)
 skittee 488 hayee-/needle
 スク (燭?)
 soocoo 91 -/candlestick
 スク (底)
 soocoo 101 -/cask
 スクユン (作る)
 sookooyoong 20 quashee-/bake
 bread, to
 438 tacoo -/make, to, a
 tea-pot
 スコユン (作る)
 skoyoong 437 sata-/make, to, sugar
 763 sata-/sugar, to make
 スゴユン (殴る)
 soo-go-yoong 27 -/beat, to
 ススイン (拭く)
 soosooing 630 -, or soosootee
 ootooshung/rub, to
 スステイ (拭いて)
 soosootee 630 soosooing, or -
 ootooshung/rub, to
 631 seeree ootooshoong, or
 -ooteetung, or coonshoong
 ススユン (拭く)
 soosoooyoong 927 -/wipe, to, the face
 スチガニ (鈴金?)
 stchee-gannee 32 -/bell
 スチャ (下)
 stcha 35 -/below, or the bottom of a
 thing
 スチャ (舌)
 stcha 831 -/tongue
 スチャフィジ (下髭) (顎髭)
 stcha feejee 117 -/chin, the beard of
 the (lit. lower beard)
 スティミティムン (「つとめて物」, 朝食)
 stimmee teemoong 454 -/meal, 1st (at
 sun-rise)
 スパチ (?)
 spachee 724 -, or honna tobacco/

- snuff (lit, nose tobacco)
- スピアク (四百)
speekoo 271 -, or sabacoo/forty
- スプカラサ (塩辛さ)
spookarasa 640 -meezee/salt water
641 -/salt to the taste
873 -meezee/water, salt
- スプティ (吸って)
spootee 381 coochee - /kiss, to (lit. kissing the mouth)
- スユン (剃る)
sooyoong 673 -/shave, to
- スルスル (<擬態語>)
sooroo sooroo 625 -/rough
- スンマガ (孫)
soong maga 303 -/grand-children
☒ なし
☒
- セー (飛蝗)
sayeh 306 sheeto, or -/grasshopper
☒ なし
☒
- ソー (竿)
saw 545 -/pipe, wooden part of a
- ソーキ (肋骨) (あばら)
sawkee 611 -/ribs
- ソーティユン (育てる?)
sauteeyoong 168 moo noo kee - /dig, to, potaoes
☒ なし
☒
- タ (二?)
ta 508 itchee (Loo-Choo), teetesee, or - (Japan)
- ターグ (水桶)
tagoo 81 -/bucket
- タークー (茶器箱)
takoo 438 - sookooyoong/make, a tea-pot
787 -/tea pot
788 - cee/tea, in an octagon bucket
789 - mee/tea, the metal pot in the inside of the bucket
790 - whfoota/tea, the cover of a
791 - tee/tea, the handle of a
792 - toodee/tea, the ears of the bucket of a
- タイ (二人)
tay 952 ya (-)/you (a second person)
- タジーン (滾る)
tajeeing 56 -/boil, to
- タチ (太刀)
tatchee 776 -/sword
- タチュン (「炊く」)
tatchoong 436 mashoo-/make, salt
- タチュン (立つ)
tatchoong 619 -/rise, to, from a chair
- タッキー (血統, 血縁)
tackkee 281 -/girl
- タッティ (縦)
tattee 695 -/side, of a thing
- タッティウン (立てる)
tatteeoong 745 -/stand up, to
- タティ (立て)
ta-tee 279 -/get up
- タティイン (立てる)
tateeing 779 -/to stick a thing in the ground

- タテスイ (二つ)
 tatesee 846 nee (Loo-Choo); - (Japan)
 /two
- タニ (種)
 tanee 515 -/orange, the peed of an
- タマ (玉, 珠)
 tamma 24 -/beads
 398 --dooroo/lantern, glass
 920 - sackka sitchee/wine
 glass
 tama 50 --eeroo/blue (colour)
- タマイル (「珠色」, 青)
 tama-eeroo 50 -/blue (colour)
- タマサカスイチ (珠盃)
 tamma sackka sitchee 920/wine glass
- タマドゥール (珠灯籠)
 tamma-dooroo 398 -/lantern, glass
- タミウン (「矯める」, 曲げる)
 tammeong 36 -/bend to, a thing
- タムン (薪)
 tamung 246 - eeo/fish, a small
 blueish
 tamoong 938 -/wood of any kind
- タムンイオ (<魚の名>, 「薪魚」)
 tamung eeo 246 - /fish, a small
 blueish
- タンナ (どら?) (脈?)
 tanna 29 -ochoong (lit. to play on the
 gong)/beat, on the gong
- タンナン (船首錨?)
 tannan 64 -/bower
- ☐
- ダキ (竹)
 dakee 21 -/bamboo-cane
- ダキガチ (竹垣)
 dackkee gatchee 227 - /fence of
 bamboo
- ダキジツァ (酒注ぎ?)
 dackkeezitza 921 -/wine kettle
- ダチュン (抱く)
 dachoong 98 -/carry to, a child in
 the arms
- ☐
- チー (血)
 chee 43 - -hooga-choong/bleed, to,
 (lit. to draw blood)
 47 -/blood
 176 --na hyoong/draw, to, blood
- チー (乳)
 chee 110 oosheenoo - quatee/cheese
 (literally cow's milk and fat)
 463 -/milk
 464 -hayoong/milk, to draw
 495 -/nipples
- チーウウ (<擬声語>)
 chee-oo-oo 209 yeeah, or - /ex-
 clamation of surprise
- チールー (黄色)
 cheeroo 946 -/yellow
 947 kassa -, or aka -/yel-
 low, dark
 948 - dingee/yellow, dirty
 or dingy
- チウン (切る)
 cheecoong 151 -, or feecong, or fee-
 joong/cut, to
 305 coosa-/grass, to cut
- チウン (着る)
 cheecoong 177 ching-/dress, to
 591 ching - /put, to, on

- clothes
- チカルン (聞こえない)
chee karung 161 mimmee - /deaf (literally, ear not to hear)
- チジ (注いで)
cheejee 566 - /pouring
- チジャコ (真鍮)
cheejackko 66 -, or toong/brass
- チジュン (注ぐ)
cheejoong 565 - /pour out, to
- チタ (北)
cheeta 498 - /north
- チチ (槌)
chee-chee 441 - /mallet, wooden
- チナ (網)
cheena 254 - /fish hook and line
435 - ootchoong/make, to, a rope
- chinna 623 - /rope
624 - oochong/rope, to make
- チヌー (昨日)
cheenoo 950 - /yesterday
- チビ (尻)
chibbee 30 - ootchoong/beat to, with the bamboo
- チブス (頭?)
chee-boo-soo 251 - /fish, the head of a
- チャーチ (消して)
cha-che 242 fee - /fire, to put out
chachee 592 fee - /put, to, out fire
- チャーチジン (消し炭)
chacheejing 108 - /charcoal
- チャウン (茶碗)
chawung 785 - /tea cup
- チュ (人)
- choo 15 yawna moon, yawna - /bad man
236 - shashee/finger, fore
299 yooka -, or ee - /good man
442 - /man (homo)
448 - -noo-ka/man, the skin of a
690 - noo ka/skin, of a man
- チュー (強~)
choo 759 - zackkee, or sackkee - /strong wine
923 - zackkee, or sackkee - /wine, strong
- チューサ (強さ)
choosa 758 - /strong
- チューザキ (強酒)
choozackkee 759 -, or sackkeechoo/strong wine
923 -, or sackkeechoo/wine, strong
- チューン (来る)
choong 129 - /come, to
287 hayee sit - /go, to, '1st
635 hayay sit - /run, to
879 hayee sit - /walk, quick
912 kasee noo - /wind to come in
- choo-oong 132 - /come, to, on board
- チューン (刺す?)
choong 744 - /stab, to
- チュイ (一人)
chooe 361 wang (-) /I, or me (a first person)
- チュシャシ (人差し)

- choo shashee 236 -/finger, fore
 チュラサ (清らさ, 美しさ)
 choorasa 298 -/good (proper)
 322 -/handsome
 936 - innago/woman, hand-
 some
- チュン (打つ)
 choong 28 naco- - /beat, as the
 heart
 チュンジー (象棋)
 choonjee 111 -/chessmen
 554 - ochoong/play, to, at
 chess
- チャー (兆)
 chaw 465 -/million
 チャーチン (提燈)
 chawching 397 -/lantern, folding
 チラリン (切られる)
 chirraring 672 aka, or - ? /sharp
 チラルン (切れない, 切られない)
 chirrarung 52 -/blunt
 チリテイ (切れて)
 chirreetee 79 ootee, or - /broke
 チリデー (連台)
 chirreedeh 835 -/tray, or waiter
 チリトーン (切れている)
 cheereetawng 794 -/tear, to a thing
 in pieces
- チル (弦)
 cheeroo 230 -/fiddle strings
- チン (「衣」, 着物)
 ching 120 -/cloth, or clothes
 177 -cheeoong/dress, to
 433 - nawyoong/make, to,
 clothes
- 591 - cheeoong/put, to, on
 clothes
 867 -hajeing/undress, to
 883 - arayoong/wash, to,
 clothes
 884 -aratee/washing clothes
- チン (金)
 ching 296 -/gold
 ㊦ なし
 ㊧
- ツイチ (月)
 stitchee 469 itchee -, or gwautsee/
 moon, or month, one.
 470 oo-, or maroo/moon, full
 ツイチュン (月は)
 stchay 468 -/moon, the
 ツイチャ (下)
 stitcha 420 -seeba/lip, lower
 ツイチャスイバ (下唇)
 stitcha seeba 420 -/lip, lower
 ツイッチ (釣って)
 stitchee 255 eeo-/fish spear
- ツイヌ (角)
 stinnoo 353 ooshee noo -/horn of a
 bullock
 ツイブル (頭)
 tseebooroo 330 -/head, of a bird
 ツイラ (「面」, 顔)
 steera 218 -, or skeera/face
 ツインスイ (膝)
 stinsee 383 -/knee
 ツインスイーブ (墨縄)
 stinseeboo 95 - /carpenter's black
 line box
 ㊨ なし

- ズー (尾)
 dzoo 251 -/fish, the tail of a
 781 -/tail of a bird
- テ (手)
 te 100 teeroo -nakikakittee/carrying a
 basket on the arm
- ティー (手)
 tee 10 -noo/arm
 203 -noo feejee/elbow
 522 -noo watta/palm of the hand
 (lit. belly of the hand)
 791 tacoo -/tea, the metal pot in
 the inside of
 929 -noo coobee/wrist (lit. neck
 of the arm)
- ティーサーズィ (手拭い)
 tee-sadjee 321 -/handkerchief
- ティーダ (太陽)
 teeda 427 -meeing/look, to, at, or see
 the sun
 462 -matchoo/midday, or noon
 766 -/sun
 767 sagayoong/sunset
 768 -tettee/sunshine
 769 -agayoong/sun-rise
- ティースクビ (手首)
 tee noo coobee 929 -/wrist (lit. neck
 of the arm)
- ティーフイーチャー (手繋ぎ)
 teefeecha 880 -/walking hand in
 hand, as the natives
- ティールー (手籠)
 teeroo 23 -/basket
 97 -kammeetong/carry to, a
 basket on the head
 100 -tenakikakittee/carrying
 a basket on the arm
- ティッシュイ (年寄)
 teeshooee 505 -/old
 506 -ickkeega/old man
 935 -innago/woman, old
- ティチュン (聞く)
 titchoong 905 mono-/whisper, to
- ティツイ (鉄)
 titzee 371 -/iron
- ティツイウン (閉じる?)
 teetsheeoong 429 -/look, to, closely
- ティツクン (拳)
 titskoong 595 -/quarrel, to
- ティテスイ (一つ)
 teetesee 508 itchee (Loo-Choo), -, or
 ta (Japan)/one
- ティミ (爪)
 thimnee 240 -/finger nail
 828 shanna-/toe-nail
- ティラ (寺)
 tirra 799 -/temple yard
- ティン (天)
 ting 335 -/heaven
 336 - ooneewhfa/heaven,
 praying to
 568 - ooneewhfa/praying to
 heaven
- ティンスイ (天気)
 tinsee 888 -, or tinchee/weather
 889 ye -, or tinchee/weather
 fine
 890 yanna-, or tinchee/weath-
 er, foul or bad

- ティンチ (天気)
 tinchee 888 tinsee, or -/weather
 889 yetinsee, or -/weather,
 fine
 890 yanna tinsee, or -/weath-
 er, foul or bad
- ティンドゥ (灯笼?)
 tindoo 396 -/lantern
- ティンベ (盾)
 timbayee 676 -/shield
- ティンマ (伝馬舟)
 timma 54 -, or sabanee/boat
 286 -ki eechoong/go, to, in a
 boat
- テーフ (台風)
 tayehfoo 915 weesa kasee, or -
 /wind, great
- テッテイ (照って)
 tettee 768 teeda-/sunshine
 ㊦
- デイ (~と)
 dee 104 nachoong - oong/cat, to mew
 as a
 461 nachoong - oong/mew, to, as a
 cat
 ddee 530 ackka-/perspiration
- ディー (礼)
 dee 61 - shoong/bow to, to a person
 passing
- ディーゴキー (梯梧木)
 dee-eego-kee 842 -/tree, with large
 red flowers, which are
 called *acka banna*
- ディンギー (dingy)
 dingee 948 cheeroo -/yellow, dirty or
 dingy
- デー (~台)
 deh 835 chirree-/tray, or waiter
- デーチョー (辣韭)
 dehchaw 509 -/onions
 ㊦
- トゥイ (鳥)
 tooee 123 -/cock
 225 - noo hannee/feathers of a
 fowl
- トゥイ (~取り)
 tooee 134 karahigh, or kasee -
 /compass
- トゥイチ (時)
 twitchee 356 -/hour
- トゥー (+)
 too 204 -/eleven
 801 joo (Loo-Choo); - (Japan)/ten
- トゥーミカゲン (「遠眼鏡」)
 toomee kagung 740 -/spy glass
- トゥガ (鉈)
 tooga 733 - ooyoong/spear to catch
 fish with
 784 -/tattoo marks on the left
 arm
- トゥクイ (德利)
 tookooee 874 -/watar, a large jar
 containing
- トゥクワ (冬瓜?)
 tooqua 459 -/melon
- トゥテイ (取って)
 tootee 77 fee-coo/bring fire here
- トゥディー (取っ手?)
 toodee 792 tacoo -/tea, the ears of the
 bucket of a

- トウビウン (飛ぶ)
toobeeoong 266 -/fly, to, as a bird
- トウム (伴)
toomoo 528 -/pawns at chess
666 -, or eeree, or sadge-ee/
servant
- トウム (櫓)
toomoo 750 cooma-/stern of a boat
- トゥメートウン (探している)
toomatung 234 -/find, to
- トゥラ (虎)
toora 858 -/tyger
- トゥン (真鍮)
toong 66 cheejackk, or -/brass
- トー (<感動詞>)
taw 211 -/expression of respect, or
salution
- トーシュン (倒す)
tawshoong 219 -, or tawring/fall, to
- トーリーン (倒れる)
tawring 219 tawshoong, or -/fall, to
- トバコ (煙草)
tobacco 716 -fookee/smoking tobacco
724 spachee, or honna -
/snuff (lit. nose tobacco)
823 - (as in England)/to
bacco
- ㊦
- ドゥー (槽)
doo 657 -/scull of a boat
- ドゥーチューウタ (琉球歌)
doochoo oota 414 loochoo, or -/Loo-
Choo song
- ドゥーニー (「胴音」, 呻き)
doonee 314 -/groaning
- ドゥール (〜灯笼)
dooroo 398 tamma--/lantern, glass
- ドゥグーティ (転んで)
doogaitee 378 -sheenoung/kill, to, by
the fire of a gun
- ドゥシ (友)
dooshee 275 ee-/friend
- ドゥル (泥)
dooroo 476 -/mud
- ドー (蠟)
daw 90 -/candle
- ドーセク (蠟燭)
dawsecoo 92 - /candle and stick
together
- ㊦
- ナ (〜の, 〜が)
na 176 chee-hyoong/draw, to, blood
- ナ (〜の)
na 267 shan-/foot
338 shan--a-roo/heel of the foot
526 yama- meetchee/path
725 shan- watta/sole of the foot
(lit. belly of the foot)
827 shan- eebee (lit. foot
finger)/toe
828 shan- thimnee/toe-nail
- ナ (〜な)
na 632 coonsoo-/rub, to, not out
765 harradatchee soo-/sulky, not
- ナー (名)
na 481 -/name
482 wa-/name, my
483 ya-/name, your
484 arree ga-/name, his
- ナーチャ (「の明日」, 翌日)

- nacha 158 asa tin—/day the following
 ナイ (「成り」, 実)
 naee 125 —/cocoa—nuts
 nay 541 adanee—/pine, fruit of the
 nigh 661 —/seed
 ナカイ (～に)
 naki 100 teeroo te—kakittee/carrying
 a basket on the arm
 ナカイービ (中指)
 nackka eebee 238 —/finger, middle
 ナカンマ (船底?)
 nakamma 55 —/boat, the bottom of a
 ナガサ (長さ)
 nagasa 431 —/long, or length
 ナギーン (投げる)
 naging 816 —/throw to, a stone at a
 mark
 ナギウン (投げる)
 nageeoong 409 —/let, to, fall a thing
 ナク (脈)
 nacoo 28 — —choong/beat, as the
 heart
 334 —/heart
 ナゴ (合せ目?)
 nago. 652 —/seam between two planks
 ナシ (～無し)
 nashee 26 feejee—/beardless
 239 nan—/finger ring
 ナシキー (椰子木)
 nashikee 124 —/cocoa—nut tree
 ナジチュン (頷く)
 najeechoong 497 —/nod, to
 ナスイビ (茄子)
 nasibbee 78 — /brinjal (an Indian
 vegetable)
- ナダ (涙)
 nada 795 —/tears
 ナチュン (鳴く)
 nachoong 104 — deeoong/cat, to mew
 as a
 172 innoo—/dog barks
 461 — deeoong/mew, to, as a
 cat
 594 — /quack, to, like a
 duck
 ナチュン (泣く)
 nachoong 149 —/cry, to
 ナツカシャ (懐しさ)
 natskasha 729 —/sorry
 ナディユン (撫でる)
 nadeeyoong 718 —/smooth down, to
 ナナシ (「名無し」, 薬指)
 nanna shee 239 —/finger ring
 ナナツイ (七つ)
 nannatsee 663 sitchee (Loo—Choo); —
 (Japan)
 ナミ (波)
 namee 72 —/breakers
 nammee 646 —/sea
 ナユン (乗る)
 nayoong 614 ma—/ride, to, a horse
 ナラシュン (鳴らす)
 narashoong 243 —/fire, to, a gun
 ナラン (「成らん」, できない)
 narang 645 —/say it, I cannot
 ナンドゥルサ (滑りやすさ, つるつる)
 nandooroosa 717 —/smooth
 ☐
 ニー (二)
 nee 846 —(Loo—Choo); tatesee (Japan)/

- two
- ニーシャ (不味さ)
neesha 14 -/bad
- ニーツァ (妬さ?)
neetsa 7 -/angry
- ニーニャ (<貝の名>)
neenya 135 - gooroo/conk shell
- ニーブイ (眠り, 眠気)
neebooe 217 -/eyes, closing the
- ニン (煮る)
ning 261 shishee-/flesh, no
- ニカー (膠)
neeka 633 -/rubber, Indian
- ニシ (西)
neeshee 899 -/west
- ニシーン (似せる?)
neeshing 228 -/fiddle
- ニジュ (二十)
neejoo 847 -/twelve
850 hacco-/twenty two
- ニジューク (二十五)
neejoo goo 945 -/years, twenty-five
- ニチ (日)
nitchee 155 -/day (at Napakiang)
- ニチョーン (似ている)
neechawng 60 -, or yoonoomoong/
both alike, or all the same
- ニヤーフィン (もっと, さらに)
gnafing 473 -/more
- ニュー (糞?)
new 309 -/great coat (made of straw,
worn also by the Chinese)
- ニン (年)
ning 940 -/year
941 itchee-/year, one
- ニンジュン (寝る)
ninjoong 708 -/sleep, to
- ニンティ (寝て)
nintee 709 -/sleeping
- ニントゥン (寝ている)
nintoong 166 -/die, to
723 -/snore, to
- ㊦
- ヌ (~の)
noo 10 tee-/arm
110 ooshee - chee quatee/cheese
(literally cow's milk and fat)
168 moo - kee sauteeyoong/dig,
to, potatoes
187 ooshee - coosoo/dung, cow,
for manure
191 feejeeree - mimmee/ear, left
192 meejeree - mimmee/ear, right
203 tee - feejee/elbow
225 tooee - hannee/feathers of a
fowl
341 ooshee - ka/hide of a bullock
353 ooshee - stinnoo/horn of a
bullock
404 kee - wha/leaf, green (lit. the
leaf of a tree)
448 choo - -ka/man, the skin of
a
513 kooneeboo - ka/orange, the
rind of an
522 tee - watta/palm of the hand
(lit. belly of the hand)
553 woo - fa/plantain, leaf of a
607 pow - ka/rind of a shaddock
608 kooneeboo - ka/rind of an

- orange
 689 ooshee-ka/skin, of a bullock
 690 choo-ka/skin, of a man
 886 sasee-quaw/watch key
 929 tee-coobee/wrist (lit. neck of the arm)
- ヌ (～の, ～が)
 noo 172 in-nachoong/dog barks
 912 kasse-choong/wind to come in
- ヌー (何)
 noo 902 - ndeega/What do you call this ?
- ヌージ (虹)
 noo-oojee 603 -/rainbow
- ヌーディー (喉)
 noodee 815 -/throat
- ヌジュン (抜く)
 noojoong 581 -/pull, to, out of the ground
- ヌスタン (塗った)
 noostang 520 ooro shee-/paint, to
- ヌチャーセー (寄せ合い)
 noochasa 746 coosee -/stand back to back
- ヌチュン (指す)
 noochoong 562 -/point, to, with the finger
- ヌディ (飲んで)
 noodee 760 -/sucking
- ヌデュン (飲んでいる)
 noodung 5 ignea -/all drink, svery one drinks
- ヌヌトウ (飲む) (飲んだ)
 noonootoo 770 -cha/swallowing
- ヌブテイ (登って)
 noobotee 133 - coo/coming up from below
- ヌブユン (登る)
 noobooyong 119 matsee kee-/climb, to, a pine-tree
 288 - (lit. to climb) /go, to, up a hill
- ヌブラン (登らない)
 nooborang 289 -/go, not to, up a hill
- ヌマン (飲まない)
 noomang 181 sackkee -/drink, not to, wine
- ヌム (飲む)
 noomoo 178 -/drink
- ヌムン (飲む)
 noomoong 179 -/drink, to
 180 sackkee -/drink, to wine
- ヌユン (塗る)
 nooyoong 392 -/lacker, to
- ☒
- ネーラン (～ない)
 narang 301 maco-/good for nothing
- ネーラン (無い)
 narang 326 nang, or-/have not got
 327 meezee -/have not got water
- ネーン (無い)
 nang 326 -, or narang/have not got
 487 coobee-/neck, short (lit. no neck)
- ☑
- ノアユン (縫う)

- no-a-yoong 667 nawyoong, or —
/sew, to
- ノーシュン (直す)
nawshoong 932 — /wrong in writing
characters
- ノーティ (治って) (乗って?)
nautee 728 — /sore from riding
- ノーユン (縫う)
nawyoong 433 ching — /make, to,
clothes
667 —, or no-a-yoong/
sew, to
- ノヌ (布)
nonoo 121 akasa — /cloth, red
㊦
- ハー (齒)
ha 313 — gissee gissee/grind, to, the
teeth
796 — (an aspirate) /teeth
797 — gishee gish/teeth, to set on
edge
- ハーイ (走り)
hayee 287 sitchoong/go, to, fast
597 — /quick
879 — sitchoong/walk, quick
- ハーイ (針)
hayee 488 — skittee/needle
- ハーエー (走り)
hayay 635 — sitchoong/run, to
636 — /running
- ハウン (走る)
haoong 598 yoo — /quick, to be
- ハカ (鷹)
hackka 189 — /eagle
- ハカ (墓)
haka 307 — /grave
829 — /tomb
- ハカク (八角)
hacackoo 501 — /octagon
- ハカマ (袴)
hackkama 843 coo, or — /trousers
- ハキユン (佩く, 掛ける)
hackkiyoong 458 gawjee — /measure,
to
- ハク (百)
hacoo 848 — /twenty
- ハクイチジュウ (百一十)
hacoo itcheejoo 849 twenty one
- ハククジュウ (百九十)
hacoo coojoo 857 — /twenty nine
- ハクグンジュウ (百五十)
hacoo goonjoo 853 —, or goohacoo/
twenty five
- ハクサンジュウ (百三十)
hacoo sanjoo 851 — /twenty three
- ハクシンジュウ (百四十)
hacoo sheenjoo 852 —, or goohacoo/
twenty five
- ハクスイチジュウ (百七十)
hacoo sitcheejoo 855 — /twenty seven
- ハクニジュウ (百二十)
hacoo nijoo 850 — /twenty two
- ハクファチジュウ (百八十)
hacoo fatcheejoo 856 — /twenty eight
- ハクルクジュウ (百六十)
hacoo roocoojoo 854 — /twenty six
- ハシ (橋)
hashee 75 — /bridge
- ハシ (梯子)
hashee 393 — /ladder

- ハシリ (戸) eighty
 hashirree 174 -/door
- ハジイン (脱ぐ)
 hajeeing 867 ching-/undress, to
- ハスイウン (脱ぐ)
 hasseeoong 782 -/take off the hat, to
- ハスイダ (柱)
 hasseeda 450 -/mast of a ship, or
 boat
- ハタ (旗)
 hata 258 -/flag
- ハチマチ (鉢巻)
 hatchee matchee 59 -/bonnet, or
 headdress worn by
 the natives
- ハッバック (八百)
 habback coo 202 hapack coo, or -
 /eighty
- ハディ (行け)
 haddee 285 -/go, to, away
- ハトゥン (蒲団)
 hatung 451 mooshooro, or -/mat
- ハナラチ (離して)
 hanna-ratchee 428 -/look, to, at a
 distance
- ハニ (羽)
 hantee 225 tooee noo -/feathers of a
 fowl
- ハネー (羽は)
 hannay 249 -/fish, the fin of a
 925 -/wing of a bird
- ハバ (幅)
 habba 69 -/breadth
- ハバック (八百)
 hapack coo 202 -, or habback coo/
- ハビクン (響く)
 habbeecoong 434 -/make, to, a noise
- ハブ (ハブ, 蛇)
 haboo 719 -/snake
 720 -cootee/snake stings
- ハベール (蝶)
 habaroo 84 -/butterfly
- ハマ (浜)
 hama 648 -, or oomee/sea, shore
- ハユン (流れる)
 hyoong 176 chee na-/draw, to blood
- hayoong 464 chee-/milk, to draw
- ハラカ (裸)
 harraka 480 -/naked
- ハラガー (側)
 harraga 694 -/side, of a person
- ハラシュン (注ぐ)
 harashoong 205 -/empty, to, or pour
 to
- ハラシュン (走らす)
 harashoong 638 -/sail, to, in a boat
- ハラダチ (腹立ち)
 haradatchee 764 -/sulky
 765 -soona/sulky, not
- ハンショー (笛)
 hanshaw 264 -/flute, to play on the
 557 -/play, to, on the flute
- ハンブン (半分)
 hamboong 278 -/full, half
- ☒
- バシャー (芭蕉)
 basha 578 - cooroom/priest, the cot-
 ton dress of a
- バシャークルマ (芭蕉衣)

- basha cooroom 578 -/priest, the cotton dress of a
 バティ (奪って?)
 batee 467 -/mixed
 バン (飯)
 bang 613 um -, or -, or oom -/rice, boiled
 バンジョーガウニ (番匠金)
 banjaw gaunnee 742 -/square, of a stone mason
 ㊦ なし
 ㊧
 ヒル (昼)
 heeroo 159 -/daylight
 416 feeroo, or - /light, not dark (daylight)
 ㊨
 ピンタ (鬚)
 binta 904 -/whiskers
 ㊩
 ピントー (弁当)
 pintaw 863 -/victual or dinner box
 ㊪
 フ (大~)
 hoo 696 -ee eechee/sigh, to
 ファー (葉)
 wha 403 -/leaf (of a tree)
 404 kee noo -/leaf, green (lit. the leaf of a tree)
 540 -/pine, leaves of the
 fa 553 woo noo -/plantain, leaf of a
 ファシェー (箸は)
 fashay 118 -, or mayashung/chopsticks
 ファチ (ハ)
- fatchee 200 kwatchee, or - (Loo-Choo); eeyatsee (Japan)/eight
 ファチジュー (八十)
 fatchee joo 201 kwatchee joo, or - /eighteen
 fatcheejoo 856 haccoo -/twenty eight
 ファナ (花)
 fanna 263 -/flower of a plant
 ファナ (鼻)
 fanna 550 -/plank of a boat
 ファン (判)
 fang 651 ing, or -/seal of a watch
 フィー (火)
 fee 77 -tootee coo/bring fire here
 241 -/fire
 242 -cha-chee/fire, to put out
 592 -chachee/put, to, out fire
 フィーサ (寒さ) (冷さ)
 feesa 126 -/cold
 フィーサミジ (冷水)
 feesa meezee 872 -, or feezeeroo meezee/water, cold
 フィージャー (山羊)
 feeja 292 -/goat
 293 woo -/goat, he
 294 mee -/goat, she
 フィージャアグワー (子山羊)
 feeja agua 375 -/kid (lit. small goat)
 フィーフィー (口笛)
 feefee 906 -/whistling
 フィーラ (篋)
 feera 548 -/pitchfork
 フィウン (削る?)
 feeoong 151 cheeoong, or -, or feejoong/cut, to

- フィウン (引く)
 feeoong 193 mimmee-, or feetchoong/
 ears, to pull the
- フィウン (ひる)
 feeoong 722 honna-/sneeze, to
- フィクサ (低さ)
 feeoosa 449 -/man, small
- フィシャ (足)
 fisha 269 -/foot, of a bird
- フィジ (肘)
 feejee 203 teenoo-/elbow
- フィジ (髭)
 feejee 25 -/beard
 117 stcha -/chin, the beard of
 the (lit. lower beard)
 308 -sheerajee/greybeard
 478 wa-/mustachios
- フィジナシ (髭無し)
 feejee nashee 26 -/beardless
- フィジュン (「へぐ」, 削る)
 feejoong 151 cheeoong, or feeoong, or
 -/cut, to
- フィジリ (左)
 feejeeree 191 -noo mimmee/ear, left
 320 -/hand, left
- フィジルミジ (冷水)
 feejeeroo meezee 127 -/cold water
 872 feesa meezee, or
 -/water, cold
- フィチャー (額)
 fitchayeh 270 -/forehead
- フィチュン (引く)
 feetchoong 193 mimmee feeoong, or -
 /ears, to pull the
 582 -, or fitchoong/pull,
- to, a person
 63 yoomee - /bow, to pull
 a
- fitchoong 582 feetchoong, or - /pull,
 to, a person
- フィチュン (弾く)
 feetchoong 229 - (lit. to pull) /fiddle,
 to play on the
 477 kootoo - /musical in-
 strument, to play on a
 556 kootoo-/play, to, on a
 musical instrument
 558 - /play, to, on the
 violin
- フィノユン (捻る)
 feenoyoong 916 - /wind, to, up a
 watch
- フィラムムン (昼間物, 昼食)
 feera moomoong 456 -/meal, 3rd (at
 noon)
- フィル (昼)
 feeroo 416 -, or heeroo/light, not
 dark (daylight)
- フィンガスイ (東)
 fingassee 195 -/east
- フィーチ (大息) (溜息)
 hooee ecchee 696 -/sigh, to
- フィービ (大指) (親指)
 hooee eebee 818 -/thumb
- フー (頬)
 hoo 109 -/cheeks
- フー (帆)
 foo 637 -/sail of a ship or boat
- フェー (南)
 whfa 731 -or fa/south

- fa 731 whfa or—/south
 フェーサ (早さ)
 wfasa 173 —/don't stir (said to a person rising to depart)
 フォーキ (桶)
 whokee 875 meez-of — (cont. of meezee and ofoowookeè) /water tub
 フカ (外)
 fooca 517 —/outside
 フカサ (深さ)
 fookassa 162 —/deep
 フガシュン (穴をあける)
 hoogashoong 573 —/prick, to, with a knife
 フガチュン (流す?)
 hooga-choong 43 chee— —/bleed, to, (lit. to draw blood)
 フキ (「吹け」, 煙草吸え)
 fokee 716 tobacco—/smoking tobacco
 フサ (房)
 foosa 824 cooshee satchee, or—/tobacco pouch
 フサ (口笛?)
 hoosa 997 —/whisting, as a bird
 フシ (節)
 fooshee 391 —/knuckles
 フシ (星)
 fooshee 747 —/stars
 フシュン (乾す)
 fooshoong 186 eenshoo — /dry, to, powder
 570 eenshoo —/powder, to dry or air
 フジテイ (閉じて?)
 hoojittee 351 mee — /hole in the jeeshee, or urn
 フス (臍)
 whoosoo 485 —/navel
 フタ (蓋)
 hoota 363 —/jar, its top or cover
 whfoota 790 tacoo—/tea, the cover of a
 フチュン (吹く)
 foo-tchoong 48 — /blow up, to, or light a fire
 フチュン (「吹く」, 煙草吸う)
 footchoong 714 — , or kootchoong/ smoke, to
 フディ (筆)
 hoodee 529 —/pencil
 フトゥチュン (解く)
 hootoochoong 868 —/untie, to, a knot
 フニ (船)
 hoonee 677 —/ship
 678 hooboonee, or wesara — /ship, large
 679 — gua, or coosara —/ship, small
 680 — eechoong/ship goes away
 748 — ootee/stay on board ship
 フニ (羽)
 honnee 897 —/web-footed bird wing
 フニグワー (小舟)
 hoonee gua 679 — , or coosara hoonee/ship, small
 フブニ (大船)
 hooboonee 678 — , or wesara hoonee/

- ship, large
- フユー (芙蓉)
hooyoo 841 - /tree, with red and white flowers
- フユン (掘る)
hooyoong 350 anna- /hole to make in the ground
- フユン (降る)
fooyoong 600 amee- /rain, to
601 sheejeekoo - /rain, heavy
602 kookoo- /rain, lightly
- フラチュン (開く, 開ける)
hoora choong 216 mee- /eyes, to open the
- フンタ (外套)
hoonta 869 eeshaw, or - /upper garment
- ㊦
- ブーサー (菩薩)
boosa 163 - /deity (the Indian God Boudha)
567 -, or bosa mee whfa/ praying to Deity
- ブクル (～袋)
bookooroo 547 shirree- /pipe, case of a
- ブサ (重さ)
boosa 337 - /heavy
- ブスイ (「武士」, 達人?)
boosee 328 - /head, human
- ブタ (豚)
boota 534 - /pig
- ブチ (鞭)
boochee 22 - /bamboo (instrument of
- punishment)
- ブニ (～船)
boonee 678 hoo-, or wesara hoonee/ ship, large
- ㊦ なし
- ㊦
- ヘー (蠅)
hayeh 265 - /fly
- ㊦ なし
- ㊦
- ペーチン (親雲上)
paychin 310 ajee, or - /great man (chinese Taijin)
- ㊦
- ホー (<感動詞>)
how 212 - /expression of thanks in returning any thing
- ホートゥ (鳩)
hotoo 37 - /bird
377 -eechung/kill, to, birds
- ホートウケー (鳩籠)
hotoo-coo 38 - /bird-cage
- ホーユン (這う)
hoyoong 145 - /crab, to crawl as a
hawyoong 146 - /creep, to
- ホガニ (綱)
hoganee 85 -, or kannee/button
- ホナ (鼻)
honna 499 - /nose
722 -feeoong/sneeze, to
724 spachee, or - tobacco/ snuff (lit. nose tobacco)
- ホナキー (鼻毛)
honnakee 500 - /nostrils
- ホナトバコ (鼻煙草)

- honna to bacco 724 spachee, or —
/snuff (lit. nose
tobacco)
- 困
- ポー (棒)
baw 259 coora ma—/flail
951 — /yoke, across the shoul-
ders of porters
- ボーズイ (坊主)
bōdsee 39 —, or bodzee/bishop at
chess (lit. priest)
bōdzee 39 bodsee, or — /bishop at
chess (lit. priest)
576 —/priest (bonzes of china)
- ポーサーミーフェー (菩薩御拝)
bosa meewhfa 567 boosa, or —
/praying to Diety
- 困
- ポー (ザボン?)
pow 607 — noo ka/rind of a shad
dock
- マ (馬)
ma 354 — (Chinese) /horse
614 —nayoong/ride, to, a horse
- マーコー (美味しくは)
maco 301 —narang/good for nothing
- マーサ (美味しさ)
masa 297 —/good (for eating)
- マーシュ (塩)
mashoo 436 —tatchoong/make, to, salt
639 —/salt
- マーシュヤー (塩屋)
mashoo ja 358 —/house where salt is
- made
- マイオー (眉は)
mai—oh 214 —/eyebrows
- マカラジ (頭毛?) (此所 髪?)
makarajjee 893 — /web-footed bird
head
- マギチ (曲げて)
ma gitchee 385 shum—/kneeling
- マギチウン (曲げて座る)
ma gitcheeoong 384 shum—/kneel, to
マギヤクワーシ (大きい菓子?) (曲がっ
た形をした菓子?)
magia quashee 87 — /cake, a sweet
flowered
- マゲサ (大きさ)
magesa 34 watta—/belly, big
- マジュー (尾) (此所 尾?)
majoo 896 —/web-footed bird tail
- マタ (又)
matta 504 — ozagadee/offer, to, more,
or again
- マチ (「巻」?)
matchee 247 —eeo/fish, a large red
- マチイオ (<魚の名>)
matchee eeo 247 —/fish, a large red
- マチュー (真頂)
matchoo 462 teeda—/midday, or noon
- マツイキー (松木)
matsee kee 119 — noobooyoong/climb,
to, a pine—tree
- マツイツイ (睫毛)
matsidjee 215 —/eyelashes
- マテイ (待て)
matee 754 —/stop
- マテスイ (松)

- matesee 542 -kee/pine tree
 マテスイキー (松木)
 matesee kee 542 -/pine tree
 マドゥイ (丸椅子?)
 madooe 780 -/table, round
 マルー (丸)
 maroo 470 oostitchee, or -/moon, full
 マルイ (丸い)
 marooee 628 -/round, all round
 マルデー (丸台?)
 maroodair 627 -/round, a circle
 マン (巢?)
 mang 736 cooba-/spider's web
 マン (万)
 mang 809 -/thousand
 ㊦
 ミア (猫)
 mia 103 -, or mya (Chinese) /cat
 ミアットゥ (都?)
 meeattoo 834 -, or metto/town
 ミー (目)
 mee 213 -/eye
 216 -hoora choong/eyes, to open
 the
 ミー (女, 雌)
 mee 143 -ooshee/cow
 226 -/female
 294 -feeja/goat, she
 ミー (穴)
 mee 351 - hoojittee/hole in the
 jeeshee, or urn
 ミー (身)
 mee 370 -/inside, or soft of bread
 789 tacoo-/tea, the metal pot in
 the inside of the bucket
 ミー (実)
 mee 514 -/orange, divisions
 ミーア (「宮」)
 meea 798 - (Chinese) /temple
 ミーイン (見える)
 meeing 426 meeoong, or - /look, or
 see, to
 427 teeda-/look, to, at or see
 the sun
 ミーウシ (雌牛)
 mee ooshee 143 -/cow
 ミーウチ (瞬き)
 mee coochee 918 -/winking
 ミーウン (見える)
 meeoong 426 - or, meeing/look, or
 see, to
 659 -/see to, or look, (lit. to
 eye)
 ミーカゲン (「目鏡」, 遠眼鏡)
 mee kagung 734 - /spectacles (lit.
 eyeglass)
 ミーグワ (盲)
 meegua 44 -/blind
 45 akee-/blind man
 ミーフィージャー (雌山羊)
 mee feeja 294 -/goat, she
 ミーブシャ (<植物の名>?)
 mee boosha 552 -/plant
 ミーラン (見えない)
 meerang 340 -/hide, to, or cover (lit.
 cannot see)
 660 -/see, I cannot
 ミグラシェン (「巡らす」, 回す)
 meegoorashoong 655 -/screw, to
 658 - /scull, to, a

- boat
 ミゴユン (「巡る」, 回る)
 meegoyoong 845 -/turn round to
- ミシ (飯)
 meeshee 198 - kamoong, or kanoung/
 eat, to, boiled rice
- ミジ (水)
 meezee 327 - narang/have not got
 water
 640 spookarasa-/salt water
 870 -, or meesee/water
 871 atsee -, or atcheeroo/wa-
 ter, hot
 872 feesa -, or feezeeroo -
 /water, cold
 873 spookoorasa-/water, salt
- ミジイル (水色, 青)
 meez-eeroo 51 -/blue (light colour)
- ミジェリ (右)
 meejeree 192 -noo mimmee/ear, right
- ミジカー (井戸)
 meezee ka 898 - /well (lit. water's
 skin)
- ミジカニ (「水金」, 鉛)
 meejee kannee 402 -/lead (metal)
- ミジョーキ (水桶)
 meez-ofwhokee 875 - (cont. of
 meezee and
 ofoowookeè)/ water tub
- ミショーディ (~なさい)
 meeshawdee 703 ee-, or eedee/sit
 down. on the ground
- ミジリ (右)
 meejeeree 319 -/hand, right
- ミスィ (水)
 meesee 870 meezee, or -/water
- ミチ (道)
 meetchee 526 yamana-/path
 meechee 620 -/road
- ミチウン (閉める)
 meecheeong 686 -/shut, to
- ミチテイ (満たして, 一杯にして)
 meetchittee 277 -/full
- ミチャイ (三人)
 meechay 342 aree (-) /him (a third
 person)
- ミチョーリ (見ておれ?)
 meechwree 347 -/holding a thing (a
 butterfly)
- ミミ (耳)
 mimmee 161 - chee karung/deaf
 (literally, ear not to hear)
 190 -/ear
 191 feejeeree noo-/ear, left
 192 meejeree noo-/ear, right
 193 -feeoong, or feetchoong/
 ears, to pull the
- ミミジュン (揉む)
 mimmeejoong 743 -/squeeze, to
- ミヤ (猫)
 mya 103 mia, or - (Chinese) /cat
- ㊦
- ム (芋)
 moo 168 - noo kee sauteeyoong/
 dig, to, potatoes
 563 -, or -ndee/potatoes, sweet
 773 -, or -ndee/sweet potatoes
- ムー (藻)
 moo 649 -/sea weed
- ムーツィ (六つ)

- mootsee 705 roocoo (Loo-Choo);—
(Japan) /six
- ムシユル (筵)
mooshooroo 451 —, or hatung/mat
- ムシユン (ラシャ?)
mooshung 18 —/baize, red
- ムチ (持って)
mootchee 76 —coo/bring here
96 —eechoong/carry to, or
take away
- moochee 681 —eechoong/ship returns
- ムチュン (持つ)
moochoong 415 —/lift, to, a thing
532 —/pick up any thing,
to
- ムドイオン (戻る)
moodoecong 291 amaki eechoong, or —
/go, to, on shore
- ムニ (胸)
moonee 73 —/breast
- ムヌ (もの)
moonoo 197 —kamoong/eat, I
332 —sitchoong/hear, I
732 —yoong/speak, to
- ムム (腿)
moomoo 805 —/thigh
- ムラサチ (紫)
moola satchee 394 coon— /lake, or
light purple
583 —/purple
- ムン (もの)
moon 15 yawna—, or yanna choo/bad
man
- ムン (もの)
moong 466 coora wa—/mine
- 955 coora ya—/yours
60 neechawng, or yoonoo —
/both alike, or all the same
- ㊦
- メーカタ (舞方?, 舞)
makatta 152 oodooee/ or—/dance
- メーシュ (箸)
mayshu 118 fashay, or —ng/
chopsticks
- メカスイチ (三日月)
mecasitchee 471 —/moon, half
- メチリ (閉めよ)
mechirree 687 —/shut it
- メット (都?)
metto 834 meeattoo, or—/town
- ㊧
- モー (〜無し)
maw 783 oodee—/tattoo marks on the
right arm
- モーツイ (帽子)
mawtsee 94 cammoodee, or—/cap
- モーユン (踊る) (跳ぶ)
moyoong 372 —/jump, to
- モノ (もの)
mono 905 —titchoong/whisper, to
- モルサ (丸さ)
morroosa 626 —/round
- ㊨
- ヤ (〜は)
ya 345 qua—/hoe
924 eeawzackkee, or sackkee —
/wine, weak
- ヤ (君)
ya 483 —na/name, yours
952 — (tay) /you (a second person)

- ヤー (屋, 家)
 ya 16 wasa—/bad building
 357 —, or katchee/house
 ヤー (~屋)
 ya 358 mashoo—/house where salt is
 made
 ヤーサ (ひもじさ, 空腹)
 yasa 360 —/hungry
 ヤテイ (破って?)
 yatee 574 —/pricking
 ヤデイ (「病んで」, 痛くて)
 yaddee 83 —, or akka/burn, to
 ヤデイトゥン (破れている)
 yaddee tung 832 —/torn, part of any
 thing
 ヤドン (「病んどる」, 痛い, 病んでいる)
 yadong 329 seebooroo —/head-ache
 (lit. sick head)
 447 ickkeega—/man, sick
 691 —/sick
 692 ickkeega—/sick man
 ヤナ (いやな, 悪い)
 yanna 15 yawna moon, or —choo/bad
 man
 890 —tinsee, or tinchee/weath-
 er, foul or bad
 ヤマ (山)
 yama 526 —na meetchee/path
 ヤユン (破る)
 yayoong 793 —/tear, to
 ヤンジ (「破り」, ~損じ)
 yanjee 615 katchee—/right, in writing
 characters
 ☐
 ユー (良く)
 yoo 598 —haoong/quick, to be
 699 ootashoong, or oota—shoong,
 or ootayoong
 ユートゥイ (漁取り?)
 yoo—tooe 17 —/bailer of canoe
 ユーナ (ゆっくり)
 yoonaa 710 —, or yawna/slow
 ユーブン (夕飯)
 yoo bung 457 —/meal, 4th (at
 sunset)
 ユカカトゥン (寄り掛かっている)
 yookakatoong 407 —/lean, to, against
 a thing
 ユカチュ (「良か人」, 士族?)
 yookachoo 299 —, or eechoo/good
 man
 ユク (横)
 yookoo 206 —/ends of a thing
 ユクテイ (休んで)
 yoochootee 704 —/sit down, or be
 seated
 ユタイ (四人)
 yootay 887 —/we, or a fourth person
 ユトゥユトゥ (ゆさゆさ?)
 yootoo yootoo 670 —/shaking a thing
 ユヌムン (同じ)
 yoonoomoong 60 neechawng, or —
 /both alike, or all the
 same
 ユヌン (読む)
 yoono—oong 605 yoomoong, or —
 /read, to
 ユミ (弓)
 yoomee 62 —/bow
 63 —feetchoong/bow, to pull

- ユムン (読む)
 yoomoong 605 —, or yoono-oong/
 read, to
- ユル (夜)
 yooroo 490 —/night
 491 itchee—/night, one
- ユン (言う)
 yoong 732 moonoo—/speak, to
- ☐
 ヨーナ (いやな, 悪い)
 yawna 15 —moon, or yanna choo/bad
 man
- ヨーナ (ゆっくり)
 yawna 290 —eechoong/go, to, slow
 710 yoono, or—/slow
 878 —eechoong/walk, slow
- ☐ なし
 ☐ なし
 ☐
- ルーチューウタ (琉球歌)
 loochoo-oota 414 loochoo, or doochoo
 oota/Loo-Choo song
- ルカク (六角)
 roo-ka-coo 257 —/fivesided figure
- ルク (六)
 roocoo 705 — (Loo-Choo); mootsee
 (Japan) /six
- ルクジュー (六十)
 roocoojoo 706 —/sixteen
 854 hacoo—/twenty six
- ルッパック (六百)
 rookpackcoo 707 —/sixty
- ☐
 レジケン (拳)
- rejeecoong 756 —/strike, to
- ☐ なし
 ☐
- ワ (上)
 wa 478 —feejee/mustachios
- ワー (我, 我が)
 wa 466 coora—moong/mine
 482 —na/name, my
- ワサ (悪さ)
 wasa 16 —ya/bad building
- ワタ (腹)
 watta 33 —/bell
 34 —magesa/belly, big
 268 shanna — (lit. belly of the
 foot) /foot, the sole of the
 552 tee noo—/palm of the hand
 (lit. belly of the hand)
 693 —eddee/sick belly
 725 shanna — /sole of the foot
 (lit. belly of the foot)
- ワフィジ (上髭)
 wa feejee 478 —/mustachios
- ワヤク (權?)
 wayacoo 519 —/paddle of a canoe
- ワユン (割る)
 wyoong 71 —/break, to, a tea-cup
 786 —/tea cup, to break a
- ワラ (藁)
 warra 755 —/straw
- ワラティ (笑って)
 warratee 401 —/laughing
- ワラビ (童)
 warrabee 65 ickkeega — /boy (lit. a
 man child)
- ワラユン (笑う)

- warrayoong 400 -/laugh, to
 ワン (我)
 wang 361 - (chooe) /I, or me (a first person)
 453 -/me, or I
 910 -yee quirree/Will you give me
 ワンシューイー (「饅頭瓜」, パパイヤ)
 wangshooee 527 -/paupaw apple
 田
 キー (根?, 柄?)
 wee-ee 622 -/root (bulb)
 キーウン (酔う)
 weeoong 184 -/drunk, to get
 キーゴサ (痒さ)
 weegosa 654 -/scratching
 キーサ (大きさ)
 weesa 399 -/large
 621 see, or -ishee/rock
 915 - kasee, or tayehfoo/wind, great
 キーテイ (酔って)
 weetee 183 -/drunk
 キーキ (あけり)
 weekee 80 -/brother
 田 なし
 田
 ヲカ (若)
 wockka 937 -innago/woman, young
 954 -innago/young woman
 ヲカー (若者)
 wockka 953 -/young
 ヲカイナゴ (若女)
 wockka innago 937 -/woman, young
 954 -/young woman
 ヲカテイ (別れて)
 wockkatee 300 - /good bye (taking leave)
 ヲカユン (別れる)
 wockkayoong 662 -/separate, to
 928 -/wish, to, or bid good bye
 ヲラビ (童)
 worabee 112 -/child (infant)
 113 ickkeega -/child, male (literally man-child)
 114 innago -/child, female (literally woman-child)
 366 -/infant
 ヲルサ (悪さ)
 worroosa 302 -/good, not
 田
 ン (～も)
 ng 118 fashay, or mayshu-/chopsticks
 ン (～の)
 n 158 asati-nacha/day the following
 ンジャサ (苦さ)
 injassa 41 -/bitter
 ンディ (～と)
 ndee 563 moo, or moo - /potatoes, sweet
 773 moo, or moo - /sweet potatoes
 895 sha -/web-footed bird two legs
 902 noo - ga/What do you call this?
 ンナ (～の)
 nna 338 sha--a-roo/heel of the foot

五、『漂海録』「言語」「琉球」語索引

「言語」の翻字(転写)

検索の際の便宜を考えて、各項目に通し番号を付す。漢語項目「1~112」,「琉球」語項目「(1)~(81)」,「呂宋」語項目「①~⑤4」。

ハングル部分に準アルファベットの翻字(転写)を添える。

翻字一覧

ㄱ k	ㄱㄱ kk	ㅋ kh	ㄴ n	ㄷ t	ㄷㄷ tt
ㅌ th	ㄹ r	ㅁ m	ㅂ p	ㅃ pp	ㅍ ph
ㅅ s	ㅈ z	ㅇ ' (母音の前)		ㅆ c	ㅈㄷ cc
ㅊ ch	ㅎ h	ㅇ (音節末)			
ㅏ a	ㅑ ja	ㅓ ai	ㅕ ʌ	ㅗ o	ㅛ jo
ㅜ ui	ㅠ jui	ㅡ o	ㅜ jo	ㅜㅑ oa	ㅜㅑ u
ㅠ ju	ㅠ uo	ㅡ u	ㅜㅑ ui	ㅣ i	ㅑ oi
ㅣ i					

言 語

琉 球

呂 宋

- | | | |
|-------|---------------|-------------|
| 1. 人 | (1) ㅈ | |
| | scjo | |
| 2. 男 | (2) 우씨가 | |
| | 'u ski ka | |
| 3. 女 | (3) 우나귀 | ① 신교 |
| | 'u na kui | sin kjo |
| 4. 國王 | (4) ㅇ | |
| | 'o | |
| 5. 丞相 | (5) 우슈 | |
| | 'u sju | |
| 6. 大官 | (6) 대상광 | ② 아리가 |
| | tai sjaŋ koaŋ | 'a ri ka |
| 7. 小官 | (7) 쇼광 | ③ 기세단 |
| | sjo koaŋ | kʌi spi tan |

- | | | |
|---|----------------------------|-------------------------|
| 8. 通事 | (8) 두즈
tu cū | |
| 9. 美 _風 官 _○ 我國 _之 屬 _屬 | (9) 비사
pi sa | |
| 10. 修道人 | | ④ 섯리
spa rui |
| 11. 土人 _{所奉大神} | | ⑤ 쥘다마리
cuin ta ma ri |
| 12. 富人 | (10) 후썩인
hu skui 'in | |
| 13. 童兒 | (11) 가마두
ka ma tu | |
| 14. 無姓人 | (12) 미쥬부
mi cju pu | |
| 15. 彼人 | | ⑥ 곶섯리
kom spa rui |
| 16. 口 | (13) 구지
ku ci | |
| 17. 耳 | (14) 미미
mi mi | |
| 18. 鼻 | (15) 파이
phi 'i | |
| 19. 陽莖 | (16) 딘이
tin 'ai | |
| 20. 婦人私妯 | (17) 마리
ma rui | |
| 21. 坐 | (18) 맨소오리
main so 'o ri | ⑦ 썩인다
ssui 'in ta |

22. 喫	(19) 우사가리 'u sa ka ri	
23. 唯	(20) 우 'u	⑧ 여얼 'jo 'or
24. 諾	(21) 오오닷 'o 'o tso	
25. 眠	(22) 이낙씨 'i nai tsi	⑨ 돌노비 tor no pi
26. 死	(23) 싯웅 sin 'juŋ	⑩ 물니다라 mur ni ta ra
27. 歌	(24) 가재 ka cai	
28. 舞	(25) 우두이리 'u tu 'i ri	
29. 謝罪	(26) 군에햐 kun 'oi hja	⑪ 싯이오라 sin 'i 'o ra
30. 辱人	(27) 와식라문 'oa skΛ ra muŋ	⑫ ㄱ리후 kΛ ri hu
31. 不知		⑬ 미아싸비 mi 'a ssa pi
32. 可憐		⑭ 보불에 po pur 'oi
33. 福	(28) 후 hu	
34. 風	(29) 간의 kan 'wi	
35. 月	(30) 과치 koa chi	⑮ 즈의 cu mwi

- | | | |
|---------|------------------------------|------------------|
| 36. 正月 | (31) 쇼과치
sjo koa chi | |
| 37. 二月 | (32) 임과치
'im koa chi | |
| 38. 三月 | (33) 산과치
san koa chi | |
| 39. 四月 | (34) 스과치
suu koa chi | |
| 40. 五月 | (35) 우과치
'u koa chi | |
| 41. 六月 | (36) 숙구과치
sjuk ku koa chi | |
| 42. 七月 | (37) 치시과치
chi si koa chi | |
| 43. 八月 | (38) 화치과치
hoa chi koa chi | |
| 44. 九月 | (39) 궁과치
kug koa chi | |
| 45. 十月 | (40) 시과치
si koa chi | |
| 46. 十一月 | (41) 시모지지
si mo ci ci | |
| 47. 十二月 | (42) 시와시
si 'oa si | |
| 48. 毎日 | (43) 미니치
mai ni chi | |
| 49. 水 | (44) 미리
mi cwi | ⑩ 산놈
stan nom |

50. 山	(45) 산실이 san sir 'i	
51. 馬	(46) 마 ma	⑰ 가마 ka ma
52. 牛	(47) 우시 'u si	⑱ 마삭오 ma skΛ 'o
53. 豕	(48) 시시 si si	⑲ 마부 ma pu
54. 鷄	(49) 두리 tu ri	⑳ 만속 man sok
55. 米	(50) 구미 ku mi	㉑ 마가시 ma ka si
56. 橘	(51) 군희부 kun hwi pu	
57. 甘藷	(52) 한우슈 han 'u sju	
58. 甘蔗 ^{沙糖} 草	(53) 옥이 'uk 'i	
59. 烟草	(54) 다박귀 ta pak kui	㉒ 다박귀 ta pak kui
60. 雨傘	(55) 가사 ka sa	
61. 箸	(56) 하시 ha si	
62. 烟臺	(57) 시리 si ri	
63. 草履	(58) 사바 sa pa	

64. 繩

㉓ 노빌

no pir

65. 露酒

(59) 쇼주

sjo cu

66. 豆腐

(60) 두후

tu hu

67. 油

(61) 안다

'an ta

68. 福建

㉔ 의무

'ui mu

69. 北京

㉕ 마다리

ma ta ri

70. 朝鮮

㉖ 약방

'jak pag

71. 澳門

㉗ 마싸외

ma ska 'oi

72. 一啱囉

㉘ 일노스크

'ir no sko

73. 西南馬宜

㉙ 셔람마기

sjo ram ma ki

74. 王都

㉚ 방아시나

pag 'a si na

75. 福建人所居

㉛ 말니라

mar ni ra

76. 日本

㉜ 합분

hap pun

77. 白村

(62) 두마

tu ma

- | | | |
|------------------------------------|----------|------------------------------|
| 78. 大 | | ⑬ ㄱ란뒤 |
| | | ka ran tui |
| 79. 小 | | ⑭ 아다 |
| | | 'a ta |
| 80. 一 | (63) 씨잇 | ⑮ 매스 |
| | stui 'is | mai sa |
| 81. 二 | (64) 셋 | ⑯ 노이 |
| | stas | no 'i |
| 82. 三 | | ⑰ 달노 |
| | | tar no |
| 83. 一錢 | | ⑱ 매스쇼아리사 |
| | | mai sa sko 'a ri sa |
| 84. 大銀錢 <small>直銅錢
八十文</small> | | ⑲ 비슈 |
| | | pi sju |
| 85. 中銀錢 <small>直四
十</small> | | ⑳ 살노박 |
| | | sar no psa |
| 86. 小銀 <small>直二
十</small> | | ㉑ 멩텅 |
| | | mjoig thoŋ |
| 87. 小小銀錢 <small>直
十</small> | | ㉒ 식가빏 |
| | | sik ka pas |
| 88. 最小銀錢 <small>直
五</small> | | ㉓ 식가월노 |
| | | sui ka 'uor no |
| 89. 錢 | (65) 칸의 | ㉔ 부악 |
| | khan 'wi | pu 'ak |
| 90. 價幾何 | | ㉕ 쓱싸리관도예시 |
| | | skom spa rui koan to 'joi si |
| 91. 交易 | (66) 케라 | |
| | khoi ra | |

92. 家舍		④⑥ 가산
		ka san
93. 船	(67) 후늬	④⑦ 삼반
	hu nui	sam pan
94. 文字	(68) 시미	
	si mi	
95. 筆	(69) 후퇴	
	hu tui	
96. 紙	(70) 가빌	
	ka pir	
97. 囊	(71) 밋싱	
	mis scig	
98. 簪	(72) 이화	
	'i hoa	
99. 扇	(73) 오지	
	'o ci	
100. 有		④⑧ 아다
		'a ta
101. 無	(74) 비부랑	④⑨ 아완
	pi pu rag	'a 'oan
102. 好	(75) 주라사	⑤⑩ 뉘노
	cu ra sa	moi no
103. 大好	(76) 주주라사	
	cu cu ra sa	
104. 出入		⑤⑪ 훌루비
		hur ru pi
105. 平安乎	(77) 간쥬야	⑤⑫ 아리우시
	kan cju 'ja	'a ri 'u si

106. 那裏去乎

㉓ 곰바리먼디바시야

kom spa rwi mon tui pa si 'ja

107. 何処在乎

(78) 망카리야

mag kha rui 'ja

108. 白村在

(79) 두마카리

tu ma kha rui

109. 彼處

(80) 아마샤라

'a ma ska ra

110. 此處

111. 取來

(81) 무씬지스

mu scin ci sko

112. 未去

㉔ 문시못바시야

mun si mos pa si 'ja

『漂海録』「言語」「琉球」語索引

五十音順に配列する。それぞれに対応する（と考えられる）日本古語を見出し語とする。活用語は「終止形」を見出し語とする。

あ

あふぎ [扇]

오지 99扇 (73)―

あぶら [油]

안다 67油 (61)―

あま [彼処]

아마 109彼処 (80)―사라

あやまる [謝]

군에 29謝罪 (26)―하

い

いく [行]

썬지 111取来 (81)무―소

いづく [何処]

망 107何処在乎 (78)―카리야

いぬ [寝]

이년 25眠 (25)―더

う

う [応]

우 23唯 (20)―

うし [牛]

우시 52牛 (47)―

うま [馬]

마 51馬 (46)―

え ナシ

お

お [応]

오오 24諾 (21)―드

おしゆ [御主]

우슈 5丞相 (5)―

おはす [御座]

맨소오리 21坐 (18)―

か

かさ [傘、笠]

가사 60雨傘 (55)―

かぜ [風]

간의 34風 (29)―

かね [金、錢]

칸의 89錢 (65)―

かへる [代、替、換、変]

케라 91交易 (66)―

かまど [カマド (人名)]

가마두 13童兒 (11)―

かみ [紙]

가빌 96紙 (70)―

かみさし [簪]

이화 98簪 (72)―

―から <格助詞>

사라 109彼処 (80)아마―

―かり <格助詞>

카리 107何処在乎 (78)망―야

108白村在 (79)두마―

かんじよ [甘藷]

한우슈 57甘藷 (52)―

がんじよう [岩乗]

간쥬 105平安乎 (77)야

44九月 (39)궁-

き

45十月 (40)시-

키せる (khsier)

け ナシ

시리 62烟台 (57)-

こ

키よらさ [清、美]

주라사 102好 (75)-

ごぐわつ [五月]

103大好 (76)주-

우과치 40五月 (35)-

く

こめ [米]

구미 55米 (50)-

く [来]

さ

소 III取来 (81)무썬지-

くぐわつ [九月]

ざうり [草履]

궁과치 44九月 (39)-

사바 63草履 (58)-

くち [口]

さん [山]

구치 16口 (13)-

산 50山 (45)설이

くねんぼ [九月母]

さんぐわつ [三月]

군회부 56橘 (51)-

산과치 38三月 (33)-

くば

し

구바 木葉^{俗呼}_木

しぐわつ [四月]

(二十二頁 6行目)

스과치 39四月 (34)-

琉球有九波一木

しし [猪]

(二十八頁 2行目)

시시 53豕 (48)-

-ぐわつ [月]

しちぐわつ [七月]

과치 35月 (30)-

치시과치 42七月 (37)-

36正月 (31)쇼-

しぬ [死]

37二月 (32)임-

신용 26死 (23)-

38三月 (33)산-

しはす [師走、十二月]

39四月 (34)스-

시와시 47十二月 (42)-

40五月 (35)우-

じふぐわつ [十月]

41六月 (36)숙구-

시과치 45十月 (40)-

42七月 (37)치시-

しもつき [霜月]

43八月 (38)화치-

시모지지 46十一月 (41)―

しやうぐわつ [正月]

쇼과치 36正月 (31)―

しやうくわん [将官] (?)

상광 6大官 (6)대―

しり [尻] (?)

실이 50山 (45)산―

す

すみ [墨] [文字]

시미 94文字 (68)―

せ

せうくわん [小官]

쇼광 7小官 (7)―

せうちう [烧酎]

쇼주 65露酒 (59)―

そ ナシ

た

だいしやうくわん [大将官] (?)

대상광 6大官 (6)―

たうふ [豆腐]

두후 6豆腐 (60)―

たね [種] [陰莖、男根]

던인 19陽莖 (16)―

たばこ [煙草]

다박귀 59烟草 (54)―

ち ナシ

つ

つうじ [通事]

두즈 8通事 (8)―

つき [月]

지지 46十一月 (41)시모―

つよきよらさ [強清、大美] (?)

주주라사 103大好 (76)―

て

―て <接続助詞>

때 25眠 (22)이너―

선 111取来 (81)무―지쇼

지 111取来 무선―쇼

と

とまり [泊] <地名> (?)

두마 77白村 (62)―

108白村在 (79)―카릭

とり [鳥]

두리 54鷄 (49)―

な ナシ

に

にくわつ [二月]

임과치 37二月 (32)―

にち [日]

니치 48毎日 (43)미―

ぬ

一ぬ 〈打消〉
 랑 101無 (74)비부— (?)

ね ナシ

の ナシ

は

はし [箸]

하시 61箸 (56)一

ばせう [芭蕉]

마사 磨沙—草名

(二十八頁5行目)

はちぐわつ [八月]

화치과치 43八月 (38)一

ひ

ひと [人]

하 1人 (1)一

ひと (つ) [一]

석잇 80一 (63)一

ふ

ふく [福]

후 33福 (28)一

ふた (つ) [二]

셋 81二 (64)一

ふで [筆]

후되 95筆 (69)一

ふね [船]

후늬 93船 (67)一

へ

へ [屁] (?)

피 18鼻 (15)一

ほ

ほと [女陰]

마리 20婦人私処 (17)一

ま

まいにち [毎日]

미니치 48毎日 (43)一

み

みづ [水]

미지 49水 (44)一

みみ [耳]

미미 17耳 (14)一

む ナシ

め

めさる [召]

우사가리 22喫 (19)一

も

もつ [持]

무썸 111取来 (81)一 지쇼

や

一や 〈終助詞〉

하 29謝罪 (26)군에一

야 105平安乎 (77)간쥬一

107何処在乎 (78)망카릭—

ゆ ナシ

よ ナシ

ら ナシ

り ナシ

る ナシ

れ ナシ

ろ

ろくぐわつ [六月]

육구과치 41六月 (36)—

わ

わう [王] 오 4国王 (4)—

を

をぎ [荻] [甘蔗]

옥이 58 甘蔗^{沙糖} (53)—

をとこ [男]

우씨가 2男 (2)—

をどる [舞] <踊>

우두이리 28舞 (25)—

をんな [女] (をなご)

우나귀 3女 (3)—

【未詳語】

(9)비사 9 美^{面官}○我國^{風惡之屬}

(10)후쉬인 12富人

(12)미쥬부 14無姓人

(15)피이 18鼻

(24)가재 27歌

(27)와식라믄 30辱人

(71)밋성 97囊

(74)비부랑 101無